

⑧群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第172集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第25集

白倉下原・天引向原遺跡II

—甘楽パーキングエリア地内遺跡の調査—

縄文時代編

1 9 9 4

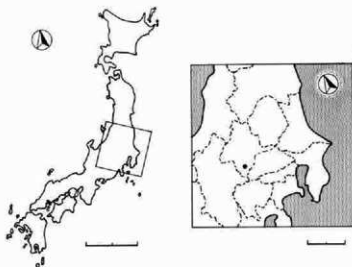
群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第172集
関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書第25集

白倉下原・天引向原遺跡II

—甘楽パーキングエリア地内遺跡の調査—

縄文時代編



1994

群馬県教育委員会
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
日本道路公団



黒川流域を中心とした群馬県の地形（南から）（飯塚聡氏沼田女子高校教諭提供）



遺跡を南から望む



遺跡地の現況と周辺の地形（北から）



白倉B区26号住居



白倉C区76号住居



白倉B区6号土坑



天引C区118号住居出土土器

白倉A区97号住居出土土器



特殊小形石器

序

上信越自動車道（事業名関越道上越線）は群馬、長野両県の期待のなかで平成5年3月開通致しました。これにより首都圏と長野県の時間的距離は短くなり、その経済的効果は計り知れないものがあります。そして、この高速道路建設に伴う埋蔵文化財の調査をおしまして、県民の期待に答えられました事は当事業団といたしましても多くの喜びとするところでございます。

原西遺跡（事業名）は甘楽パーキングエリアに在り、面積は広く、各時代にわたり多くの遺構が出現しました。発掘調査は平成元年度から平成3年度半ばに及び、先の2年間は調査班2班を投入して事業を進めました。そのため、整理事業も平成4年度よりのべ約10年という長い期間が設定されました。

今回の報告では縄文時代の遺構・遺物が対象となっております。原西遺跡は鍋川に向かって緩やかに傾斜する台地上にあり、この時代の典型的な立地をなしています。また、遺構量、遺物量ともに豊富であることからこの地域の指標となり得る貴重な遺跡であるといえましょう。

本報告書が県民各位・研究者・各教育機関等で広く活用され、この地域の歴史を解明していく一助となることを期待しております。

また、発掘調査・整理事業を行うにあたり、日本道路公団・群馬県教育委員会・甘楽町教育委員会をはじめ多くの方々からいただきました御指導・御援助に対しまして厚くお礼申し上げます。

平成6年3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之

例 言

- 1 本書は関越自動車道（上越線）建設工事に伴い事前調査された「しろくしもはら白倉下原・あまひらのがけ天引向原遺跡」（事業名称原西Ⅰ、原西Ⅱ、原西）の発掘調査報告書である。
本書は白倉下原・天引向原遺跡の縄文時代編である。
- 2 白倉下原地区は群馬県甘楽郡甘楽町大字白倉字下原地内、天引向原地区は同大字天引字向原地内に所在し、遺跡名は大字名と小字名を採用している。
- 3 本遺跡の発掘調査は、日本道路公団の委託を受けた群馬県教育委員会が財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団に委託して実施されたものである。
- 4 実際の発掘調査及び整理事業は、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団内に上越線地域埋蔵文化財調査を目的に設置された、関越自動車道上越線調査事務所（多野郡吉井町南陽台に所在）が担当した。
- 5 調査期間及び担当者（職名はその年度における職名を示し、必要に応じて現職を記した。）

(1) 発掘調査

調査期間 平成元年4月1日～平成3年8月20日

調査担当者 右島和夫（平成元・2年度 専門員）

藤巻幸男（# 元年度 主任調査研究員）

飯田陽一（# 2・3年度 主任調査研究員）

内木真琴（# 元年度 調査研究員、現群馬県高崎北高等学校教諭）

小島達夫（# 元・2年度 調査研究員、現茨城県立茨川中学校教諭）

小林裕二（# 2年度調査研究員）

木村 收（# 2年度 調査研究員）

亀山幸弘（# 3年度 調査研究員、現伊勢崎市立北小学校教諭）

櫻井美枝（# 3年度 調査研究員）

関口博幸（# 元年度 調査研究員）

飯塚初子（# 元・2年度 調査研究員、現群馬県教育委員会事務局）

嘱託員 外山政子（# 元・2・3年度 現高崎市教育委員会事務局）

(2) 整理調査

整理期間 平成4年4月1日～平成6年3月31日

整理担当者 木村 收

(3) 事 務

常務理事 邊見長雄（平成元～4年度）、中村英一（平成5年度）

事務局長 松元浩一（平成元～3年度）、近藤 功（平成4・5年度）

管理部長 田口紀雄（平成元・2年度）、佐藤 勉（平成3～5年度）

調査研究部長 神保脩史（平成元～5年度）

関越自動車道上越線調査事務所所長 高橋一夫（平成元・2年）

阿部千明（平成3年4月～11月 故人）

松本浩一（平成3年12月～平成4年3月）

吉田 肇（平成4・5年度）

総括次長 片桐光一（平成元年度）、大澤友治（平成2・3年度）

次 長 徳江 紀 (平成元・2年度)
庶務調査課長 依田治雄 (平成4・5年度)
課 長 鬼形芳夫 (平成元・2年度)、依田治雄 (平成3年度)
庶 務 課 係長代理 宮川初太郎(平成元・2年度)、主任 国定 均(平成元年度)、
主任 笠原秀樹 (平成2・3年度)、主任 吉田有光 (平成4・5年度)、
臨時職員 山崎郁夫、神戸市四郎、町田康子、本城美樹、田中智恵美、
松井留男、秋山友衛、後閑令子、吉田登志子、高田千恵、高橋あゆみ

6 報告書作成関係者

編 集 木村 収
本文執筆 依田治雄 (I-1)、木村 収 (上記以外)
遺構写真 発掘担当者
遺物観察 木村 収
保存処理 関 邦一 (当事業団技師)
整理補助 小林幸子、宇田川千恵、金田とも、中村順子、久保順子、山本ちえ子、小幡由美子

7 委託関係

遺構図全体測量 榑三陽測量 (一部)、榑シン技術コンサル
全体図素図 榑シン技術コンサル
実測用土器写真と石器実測の一部 榑シン技術コンサル
航空写真 榑青高館、榑シン技術コンサル、たつみ写真スタジオ
遺物写真 たつみ写真スタジオ
トレース 榑測研
出土種子の年代測定と同定 榑パレオ・ラボ

8 石材鑑定は飯島静男氏 (群馬地質研究会) にお願ひした。

9 出土した遺物や図面に関しては、群馬県埋蔵文化財調査センターに一括して保管してある。

- 10 発掘調査及び報告書作成にあたり、下記の諸機関・諸氏に御教示・御協力をいただいた。記して謝意を表する次第である。(敬称略、五十音順)





甘楽町教育委員会、甘楽町農業協同組合、甘楽町白倉地区と天引地区の地権者、新井 仁、飯田陽一、石坂 茂、小野和之、黒尾和久、渋谷芳浩、鈴木徳雄、関口博幸、関根慎二、外山政子、土井義夫、中沢 悟、藤巻幸男、右島和夫、山口逸弘

11 発掘調査従事者

飯塚弘美、牛込かね代、浦辺重代、小柏きみ子、小山田光代、加藤あい子、加辺幸子、黒沢とき、斎藤吉江、鈴木みや、関口治郎、関口とみ子、久保みち子、高木とり、谷川あさ子、長岡裕治、布瀬川はつ子、布瀬川まさ子、堀口文内、松井昭子、宮前美恵子、森田たか子、山崎章子、山崎和子、山崎丈輝、山田けさ、横山フサ、太田順子、小沢清次、小野秀雄、金田エミ子、金田和子、金子子之吉、久保初江、桜井康弘、神保賢治、関口嘉一、関口エイ、高木基三郎、布瀬川千代松、堀越みな子、松井みよ子、向井まさ江、山田長治、吉井秀雄、堀口 巖、秋山いね子、高田ウタ子、鈴木いせ、山田文子、吉田さく、吉田徳重、吉田をとの、落合和子、山崎甲子郎、設楽とめ、大河原初枝、吉田ナツ、黒沢清子、森平幸子、長岡三郎、設楽う志、安藤ハツエ、高橋弘、設楽まつ江、田中洋子、鈴木日出

子、小川美佐子、己斐智子、高田文子、小沢剛、浅川啓子、井上慎也（以上、原西Ⅰ遺跡班）
岸今朝義、寺尾久吉、福田一男、折茂七郎、神保利政、仲沢一郎、三木伴次郎、吉田一二三、神保光
明、塚越 進、黒沢章一郎、古館 明、田中和満、木村利雄、古館繁男、堀越伴吾、山崎 明、古口
三郎、山崎常夫、浦辺保司、神保君江、千代延八重子、黒沢千代子、春山米子、加部まき江、真加部
鈴枝、酒井とし子、福田とみ、黒沢フジミ、堀越美恵子、神保和子、峰岸百合子、関口いちゑ、加藤
秀子、箭原慶子、白井さ津き、加部恵美子、堀越智子、田中みつ江、須田シゲ子、滝上光代、春山ふ
さ江、安藤さく、小林美枝子、小林きん、斎藤淑江、浦辺ふさの、神保京子、堀越よし、金田あい子、
新井すみ子、清水直美、林 かつ、柿田久枝、折茂すい、関口伸江、寺尾フジ江、田村ハツ子、芝塚
なみ、西みよ子、高橋時枝、富田房三郎（以上、原西Ⅱ遺跡班）

凡 例

1. 挿図中に使用した方位は国家座標の北を表す。また、遺構の方位については必要と判断した遺構にのみ記載し、その方位は長軸線の方位を採用した。
2. 竪穴住居の面積は、1/20の平面図上で住居のうわば線上をプランメーターで2回計測した平均値を使用した。
3. 各遺構の長さ（計測値）は、遺構のうわばを計測している。
4. 遺構及び遺構図面の縮尺は各図中に表示してある。遺物で図中の縮尺が複数にわたる場合は、遺物番号の後に（ ）で縮尺を表示した。
5. 遺物実測図中における表示は次のことを意味する。
 土器の胎土に繊維を含む。磨石・凹み石・石皿の摩耗部分
 黒色の塗彩（うるし）  赤色の塗彩（うるし）
6. 遺構図面中における表示は、図にことわりがないかぎり次のことをあらわす。
 焼土 • 土器類 ▲ 石器類
7. 計測値について
(1) ()内の計測値は、推定値を示す。
(2) <>内の計測値は、残存値を示す。
8. 遺物観察表の記載方法は次のとおりである。
(1) 石器類の重量は全て残存値を示す。
(2) 胎土中の砂粒の大きさは、>2mm＝礫、2～0.02mm＝砂、とした。
(3) 色調については、農林省水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色標監修の新版標準土色帖に基づいている。
(4) 備考欄に覆土中と記入してある遺物は、その遺構内の出土位置が不明なものである。
9. 本文中の第3図に使用した地図は、国土地理院発行25,000分の1地形図の「上野吉井」「富岡」である。
10. 個別遺構図において、該当する遺構を切る遺構については、うわば線のみを表現し、したば線については表現しなかった。

目 次

例 言	
凡 例	
目 次	
挿 図 目 次	
図 版 目 次	
表 目 次	
抄 録	

I 発掘調査の経過.....3

- 1 発掘調査に至る経過
- 2 発掘調査の方法と経過
 - (1) グリットの設定
 - (2) 発掘調査の方法
 - (3) 調査経過
 - (4) 整理計画と経過

II 地理的・歴史的環境と発掘区の概要.....6

- 1 地理的環境
- 2 歴史的環境と周辺遺跡
- 3 発掘調査区の概要
 - (1) 旧石器時代
 - (2) 縄文時代
 - (3) 弥生時代
 - (4) 古墳時代
 - (5) 奈良・平安時代
 - (6) 中近世以降

III 縄文時代の遺構と遺物21

1 遺構と遺物の概要

- (1) 遺構について
- (2) 遺物について

2 住居址

3 埋 壑

4 土 坑

5 遺構外出土遺物

- (1) 土 器
- (2) 石 器

IV 成果と問題点 452

1 遺構間の遺物接合について

2 縄文時代の土地利用について

抄 録

付 篇 出土種実の放射性炭素年代測定と同定

挿 図 目 次

第 1 図	飛騨区と周辺地形	7
第 2 図	銅川流域の地質図	8
第 3 図	周辺の道路	10
第 4 図	基本順序	18
第 5 図	遺構全体図	19・20
第 6 図	白倉 A 区縄文時代遺構全体図	22
第 7 図	白倉 B 区縄文時代遺構全体図	23
第 8 図	白倉 C 区縄文時代遺構全体図	24
第 9 図	天引 C 区縄文時代遺構全体図	25
第 10 図	縄文時代住居址全体図	31・32
第 11 図	白倉 A 区 21 号住居	33
第 12 図	白倉 A 区 21 号住居遺物接合図	34
第 13 図	白倉 A 区 21 号住居遺物出土状態と出土遺物 1)	35
第 14 図	白倉 A 区 21 号住居出土遺物 2)	36
第 15 図	白倉 A 区 21 号住居出土遺物 3)	37
第 16 図	白倉 A 区 37 号住居と出土遺物 1)	38
第 17 図	白倉 A 区 37 号住居出土遺物 2)	39
第 18 図	白倉 A 区 78 号住居	40
第 19 図	白倉 A 区 78 号住居出土遺物 1)	41
第 20 図	白倉 A 区 78 号住居出土遺物 2)	42
第 21 図	白倉 A 区 96 号住居	43
第 22 図	白倉 A 区 96 号住居出土遺物 1)	44
第 23 図	白倉 A 区 96 号住居出土遺物 2)	45
第 24 図	白倉 A 区 97 号住居と出土遺物 1)	46
第 25 図	白倉 A 区 97 号住居出土遺物 2)	47
第 26 図	白倉 A 区 111 号住居	48
第 27 図	白倉 A 区 111 号住居出土遺物	49
第 28 図	白倉 A 区 110 号住居と出土遺物	50
第 29 図	白倉 B 区 25 号住居黒曜石出土状態	54
第 30 図	白倉 B 区 25 号住居	55
第 31 図	白倉 B 区 25 号住居東側黒曜石集積地点	56
第 32 図	白倉 B 区 25 号住居出土遺物 1)	57
第 33 図	白倉 B 区 25 号住居出土遺物 2)	58
第 34 図	白倉 B 区 25 号住居出土遺物 3)	59
第 35 図	白倉 B 区 26 号住居 1)	61
第 36 図	白倉 B 区 26 号住居 2)	62
第 37 図	白倉 B 区 26 号住居埋蔵・炉・右側 1) 遺構	63
第 38 図	白倉 B 区 26 号住居出土遺物 1)	64
第 39 図	白倉 B 区 26 号住居出土遺物 2)	65
第 40 図	白倉 B 区 26 号住居出土遺物 3)	66
第 41 図	白倉 B 区 26 号住居出土遺物 4)	67
第 42 図	白倉 B 区 26 号住居出土遺物 5)	68
第 43 図	白倉 B 区 27 号住居	69
第 44 図	白倉 B 区 27 号住居炉・遺物出土状態	70
第 45 図	白倉 B 区 27 号住居遺物接合図と出土遺物 1)	71
第 46 図	白倉 B 区 27 号住居出土遺物 2)	72
第 47 図	白倉 B 区 27 号住居出土遺物 3)	73
第 48 図	白倉 B 区 27 号住居出土遺物 4)	74
第 49 図	白倉 B 区 27 号住居出土遺物 5)	75
第 50 図	白倉 B 区 27 号住居出土遺物 6)	76
第 51 図	白倉 B 区 42 号住居	77
第 52 図	白倉 B 区 42 号住居遺物接合図	78
第 53 図	白倉 B 区 42 号住居出土遺物 1)	79
第 54 図	白倉 B 区 42 号住居出土遺物 2)	80
第 55 図	白倉 B 区 43 号住居	81
第 56 図	白倉 B 区 43 号住居出土遺物 1)	82
第 57 図	白倉 B 区 43 号住居出土遺物 2)	83
第 58 図	白倉 B 区 49 号住居	84
第 59 図	白倉 B 区 49 号住居出土遺物 1)	85
第 60 図	白倉 B 区 49 号住居出土遺物 2)	86
第 61 図	白倉 B 区 71 号住居	87
第 62 図	白倉 B 区 71 号住居遺物接合図と出土遺物 1)	88
第 63 図	白倉 B 区 71 号住居出土遺物 2)	89
第 64 図	白倉 B 区 71 号住居出土遺物 3)	90
第 65 図	白倉 B 区 71 号住居出土遺物 4)	91
第 66 図	白倉 B 区 74 号住居と出土遺物	92
第 67 図	白倉 B 区 86 号住居遺物出土状態	93
第 68 図	白倉 B 区 86 号住居	94
第 69 図	白倉 B 区 86 号住居出土遺物 1)	95
第 70 図	白倉 B 区 86 号住居出土遺物 2)	96
第 71 図	白倉 B 区 86 号住居出土遺物 3)	97
第 72 図	白倉 B 区 86 号住居出土遺物 4)	98
第 73 図	白倉 B 区 87 号住居と出土遺物 1)	99
第 74 図	白倉 B 区 87 号住居出土遺物 2)	100
第 75 図	白倉 B 区 88 号住居	100
第 76 図	白倉 B 区 88 号住居出土遺物 1)	101
第 77 図	白倉 B 区 88 号住居出土遺物 2)	102
第 78 図	白倉 B 区 89 号住居	103
第 79 図	白倉 B 区 89 号住居と出土遺物 1)	104
第 80 図	白倉 B 区 89 号住居出土遺物 2)	105
第 81 図	白倉 B 区 91 号住居と出土遺物	106
第 82 図	白倉 B 区 93 号住居	107
第 83 図	白倉 B 区 93 号住居出土遺物 1)	108
第 84 図	白倉 B 区 93 号住居出土遺物 2)	109
第 85 図	白倉 C 区 76 号住居	121
第 86 図	白倉 C 区 76 号住居遺物出土状態	122
第 87 図	白倉 C 区 76 号住居出土遺物 1)	123
第 88 図	白倉 C 区 76 号住居出土遺物 2)	124
第 89 図	白倉 C 区 76 号住居出土遺物 3)	125
第 90 図	白倉 C 区 77 号住居	126
第 91 図	白倉 C 区 77 号住居出土遺物	127
第 92 図	白倉 C 区 78 号住居	128
第 93 図	白倉 C 区 78 号住居出土遺物 1)	129
第 94 図	白倉 C 区 78 号住居出土遺物 2)	130
第 95 図	白倉 C 区 80 号住居	131
第 96 図	白倉 C 区 80 号住居出土遺物 1)	132
第 97 図	白倉 C 区 80 号住居出土遺物 2)	133
第 98 図	白倉 C 区 81 号住居	134
第 99 図	白倉 C 区 81 号住居と出土遺物 1)	135
第 100 図	白倉 C 区 81 号住居出土遺物 2)	136
第 101 図	白倉 C 区 81 号住居出土遺物 3)	137
第 102 図	白倉 C 区 82 号住居遺物出土状態	138
第 103 図	白倉 C 区 82 号住居と出土遺物 1)	139
第 104 図	白倉 C 区 82 号住居出土遺物 2)	140
第 105 図	白倉 C 区 82 号住居出土遺物 3)	141
第 106 図	白倉 C 区 84 号住居	142
第 107 図	白倉 C 区 84 号住居出土遺物	143
第 108 図	白倉 C 区 85 号住居遺物出土状態	144
第 109 図	白倉 C 区 85 号住居	145
第 110 図	白倉 C 区 85 号住居出土遺物 1)	146
第 111 図	白倉 C 区 85 号住居出土遺物 2)	147
第 112 図	白倉 C 区 86 号住居	148
第 113 図	白倉 C 区 86 号住居出土遺物	149
第 114 図	天引 C 区 59 号住居と出土遺物 1)	157
第 115 図	天引 C 区 59 号住居出土遺物 2)	158
第 116 図	天引 C 区 78 号住居と出土遺物	159

第117區	天引C區101号住居	160	第179區	白倉B區128号土坑と出土遺物	238
第118區	天引C區101号住居遺物出土状態	161	第180區	白倉B區148号土坑と出土遺物	239
第119區	天引C區101号住居出土遺物(1)	162	第181區	白倉B區150号土坑	239
第120區	天引C區101号住居出土遺物(2)	163	第182區	白倉B區150号土坑出土遺物	240
第121區	天引C區101号住居出土遺物(3)	164	第183區	白倉B區165号土坑と出土遺物(1)	240
第122區	天引C區101号住居出土遺物(4)	165	第184區	白倉B區165号土坑出土遺物(2)	241
第123區	天引C區101号住居出土遺物(5)	166	第185區	白倉B區166号土坑と出土遺物	241
第124區	天引C區103号住居	167	第186區	白倉B區171号土坑と出土遺物	242
第125區	天引C區103号住居遺物出土状態	168	第187區	白倉B區172号土坑	242
第126區	天引C區103号住居遺物綜合図	169	第188區	白倉B區172号土坑出土遺物	243
第127區	天引C區103号住居出土遺物(1)	170	第189區	白倉B區173号土坑と出土遺物(1)	243
第128區	天引C區103号住居出土遺物(2)	171	第190區	白倉B區173号土坑出土遺物(2)	244
第129區	天引C區103号住居出土遺物(3)	172	第191區	白倉B區181号土坑と出土遺物	245
第130區	天引C區103号住居出土遺物(4)	173	第192區	白倉B區187号土坑と出土遺物(1)	246
第131區	天引C區104号住居と出土遺物	174	第193區	白倉B區187号土坑出土遺物(2)	247
第132區	天引C區118号住居	175	第194區	白倉B區189号土坑と出土遺物	248
第133區	天引C區118号住居埋藏と出土遺物(1)	176	第195區	白倉B區191号土坑と出土遺物	249
第134區	天引C區118号住居出土遺物(2)	177	第196區	白倉B區192号土坑と出土遺物	249
第135區	天引C區118号住居出土遺物(3)	178	第197區	白倉B區193号土坑と出土遺物	250
第136區	天引C區125号住居と出土遺物(1)	179	第198區	白倉B區200号土坑と出土遺物	250
第137區	天引C區125号住居出土遺物(2)	180	第199區	白倉B區205号土坑と出土遺物	251
第138區	天引C區127号住居	181	第200區	白倉B區217号土坑と出土遺物	252
第139區	天引C區127号住居出土遺物	182	第201區	白倉B區226号土坑	252
第140區	天引C區129号住居と出土遺物	183	第202區	白倉B區226号土坑出土遺物	253
第141區	天引C區134号住居と出土遺物	184	第203區	白倉B區235号土坑と出土遺物	253
第142區	天引C區138号住居	185	第204區	白倉B區238号土坑と出土遺物	254
第143區	天引C區138号住居出土遺物(1)	186	第205區	白倉B區242号土坑	254
第144區	天引C區138号住居出土遺物(2)	187	第206區	白倉B區242号土坑出土遺物	255
第145區	天引C區144号住居	188	第207區	白倉B區244号土坑と出土遺物(1)	256
第146區	天引C區144号住居と出土遺物(1)	189	第208區	白倉B區244号土坑出土遺物(2)	257
第147區	天引C區144号住居出土遺物(2)	190	第209區	白倉B區246号土坑	257
第148區	天引C區144号住居出土遺物(3)	191	第210區	白倉B區246号土坑出土遺物(1)	258
第149區	天引C區147号住居と出土遺物	192	第211區	白倉B區246号土坑出土遺物(2)	259
第150區	天引C區150号住居と出土遺物	193	第212區	白倉B區248号土坑と出土遺物	259
第151區	白倉B區214号土坑(埋藏)	201	第213區	白倉B區255号土坑と出土遺物	260
第152區	白倉B區214号土坑(埋藏)出土遺物	204	第214區	白倉B區257号土坑	260
第153區	白倉B區237号土坑(埋藏)と出土遺物	205	第215區	白倉B區257号土坑出土遺物	261
第154區	白倉B區281・282号土坑(埋藏)と出土遺物	206	第216區	白倉B區259号土坑と出土遺物(1)	261
第155區	白倉B區290号土坑(埋藏)と出土遺物	207	第217區	白倉B區259号土坑出土遺物(2)	262
第156區	白倉B區305号土坑(埋藏)と出土遺物	208	第218區	白倉B區273号土坑と出土遺物	262
第157區	白倉C區14号土坑(埋藏)と出土遺物	208	第219區	白倉B區277号土坑と出土遺物	263
第158區	白倉C區128号土坑(埋藏)と出土遺物	209	第220區	白倉B區277号土坑と出土遺物(1)	263
第159區	白倉C區128号土坑(埋藏)と出土遺物	210	第221區	白倉B區277号土坑出土遺物(2)	264
第160區	白倉C區235号土坑(埋藏)と出土遺物	210	第222區	白倉B區280号土坑と出土遺物	264
第161區	天引C區99号土坑(埋藏)と出土遺物	211	第223區	白倉B區283号土坑と出土遺物	265
第162區	天引C區145号土坑(埋藏)	211	第224區	白倉B區288号土坑	265
第163區	天引C區145号土坑(埋藏)出土遺物	212	第225區	白倉B區288号土坑出土遺物	266
第164區	土坑断面形成模式図	213	第226區	白倉B區291号土坑と出土遺物(1)	266
第165區	縄文時代土坑全体図	215・216	第227區	白倉B區291号土坑出土遺物(2)	267
第166區	白倉A區70号土坑	229	第228區	白倉B區299号土坑と出土遺物	267
第167區	白倉B區6号土坑	229	第229區	白倉B區32・11・18・36・49号土坑	268
第168區	白倉B區6号土坑出土遺物	230	第230區	白倉B區13・15号土坑	269
第169區	白倉B區10号土坑と出土遺物	230	第231區	白倉B區34・50・53・55号土坑	270
第170區	白倉B區57号土坑と出土遺物	231	第232區	白倉B區34・59・65・69・82・84号土坑	271
第171區	白倉B區58号土坑と出土遺物	232	第233區	白倉B區85・86・87・89号土坑	272
第172區	白倉B區63号土坑と出土遺物	233	第234區	白倉B區90・96・99・102・108号土坑	273
第173區	白倉B區66号土坑と出土遺物	233	第235區	白倉B區115・126・129・124号土坑	274
第174區	白倉B區89号土坑と出土遺物	234	第236區	白倉B區126・129・130・131・134・139号土坑	275
第175區	白倉B區94号土坑と出土遺物	235	第237區	白倉B區141・143・144・164・174・175号土坑	276
第176區	白倉B區100号土坑と出土遺物	236	第238區	白倉B區176・182・185・188号土坑	277
第177區	白倉B區116号土坑と出土遺物	237	第239區	白倉B區195・196・199・202・204・211号土坑	278
第178區	白倉B區121号土坑と出土遺物	237	第240區	白倉B區212・215・223・225・227号土坑	279

第241回	白倉B区228・230・234・243・247号土坑	280
第242回	白倉B区226・241号土坑	281
第243回	白倉B区249・250・256・258・267号土坑	282
第244回	白倉B区264・270・272・278号土坑	283
第245回	白倉B区279・281・282・285・286・295・296号土坑	284
第246回	白倉B区287・298・300号土坑	285
第247回	白倉B区2・11・13・15・36・41・49・53・65・86号土坑出土遺物	286
第248回	白倉B区50・82・87号土坑出土遺物	287
第249回	白倉B区99・102・115・122・123・126・139・141号土坑出土遺物	288
第250回	白倉B区143・144・164・167・168・169・174号土坑出土遺物	289
第251回	白倉B区175・176・182・184・185・188号土坑出土遺物	290
第252回	白倉B区195・199・202・204・211・212・230号土坑出土遺物	291
第253回	白倉B区223・227・234・236・243号土坑出土遺物	292
第254回	白倉B区241・250・256・258・264号土坑出土遺物	293
第255回	白倉B区272・279号土坑出土遺物	294
第256回	白倉B区278・282・287・298・300号土坑出土遺物	295
第257回	白倉C区44号土坑出土遺物	296
第258回	白倉C区45号土坑出土遺物(1)	297
第259回	白倉C区45号土坑出土遺物(2)	298
第260回	白倉C区46号土坑出土遺物	298
第261回	白倉C区51号土坑出土遺物	299
第262回	白倉C区58号土坑出土遺物	300
第263回	白倉C区59号土坑	300
第264回	白倉C区59号土坑出土遺物	301
第265回	白倉C区99号土坑出土遺物	301
第266回	白倉C区96号土坑出土遺物	302
第267回	白倉C区103号土坑出土遺物(1)	302
第268回	白倉C区103号土坑出土遺物(2)	303
第269回	白倉C区109号土坑	303
第270回	白倉C区109号土坑出土遺物	304
第271回	白倉C区116号土坑出土遺物	304
第272回	白倉C区138号土坑出土遺物	305
第273回	白倉C区151号土坑出土遺物	306
第274回	白倉C区157号土坑出土遺物	306
第275回	白倉C区162号土坑出土遺物	307
第276回	白倉C区164号土坑	307
第277回	白倉C区164号土坑出土遺物	308
第278回	白倉C区170号土坑	308
第279回	白倉C区170号土坑出土遺物	309
第280回	白倉C区185号土坑出土遺物(1)	309
第281回	白倉C区185号土坑出土遺物(2)	310
第282回	白倉C区194号土坑出土遺物	310
第283回	白倉C区196号土坑出土遺物	311
第284回	白倉C区221号土坑出土遺物	311
第285回	白倉C区223号土坑	312
第286回	白倉C区226号土坑出土遺物	312
第287回	白倉C区233号土坑出土遺物(1)	313
第288回	白倉C区233号土坑出土遺物(2)	314
第289回	白倉C区246号土坑出土遺物	314
第290回	白倉C区13・18・40・42号土坑	315
第291回	白倉C区41・47・49・50・55号土坑	316
第292回	白倉C区52・56・64・67号土坑	317
第293回	白倉C区82・85・86・89・90・91・94・96号土坑	318

第294回	白倉C区97・99・100・101・104・114号土坑	319
第295回	白倉C区102・117号土坑	320
第296回	白倉C区118・120・122・123・131・132・133号土坑	321
第297回	白倉C区135・137・140・143・144・145号土坑	322
第298回	白倉C区146・147・148・149・153・154・158・159号土坑	323
第299回	白倉C区160・165・166・167・169・172・174・177号土坑	324
第300回	白倉C区178・179・182・183・184・189・191・197号土坑	325
第301回	白倉C区200・201・202・205・207・213・214・215号土坑	326
第302回	白倉C区217・224・225・229・234・241号土坑	327
第303回	白倉C区244・245・247・249・252・254号土坑	328
第304回	白倉C区13・18・40・42・49・50号土坑出土遺物	329
第305回	白倉C区47・52・55・56・64・67・70号土坑出土遺物	330
第306回	白倉C区82・85・86・89・91号土坑出土遺物	331
第307回	白倉C区94・97・98・99・101・102号土坑出土遺物	332
第308回	白倉C区114・117・118・122・132・133・135号土坑出土遺物	333
第309回	白倉C区131・140・143・144・145・147・148・153号土坑出土遺物	334
第310回	白倉C区146・166・174・179・183号土坑出土遺物	335
第311回	白倉C区182・189・191・202・207・213・214号土坑出土遺物	336
第312回	白倉C区215・241・244・245・254号土坑出土遺物	337
第313回	天引C区61号土坑出土遺物	338
第314回	天引C区94号土坑出土遺物	339
第315回	天引C区103号土坑出土遺物	340
第316回	天引C区106号土坑出土遺物	340
第317回	天引C区138号土坑出土遺物	341
第318回	天引C区139号土坑	341
第319回	天引C区139号土坑出土遺物	342
第320回	天引C区168号土坑出土遺物	342
第321回	天引C区167号土坑出土遺物	343
第322回	天引C区170号土坑出土遺物	343
第323回	天引C区53・60・72・80・82・83・85・86・93号土坑	344
第324回	天引C区98・102・108・110・111・112・119・124・127号土坑	345
第325回	天引C区129・130・135・136・140・147・154号土坑	346
第326回	天引C区148・153・156・161・164・165・166・169・173号土坑	347
第327回	天引C区60・85・96・102・110・111号土坑出土遺物	348
第328回	天引C区119・140・161・166・169・173号土坑出土遺物	349
第329回	遺構外出土石器器種別石材組成	390
第330回	住居出土石器器種別石材組成	391
第331回	遺構外出土の土器(1)	392
第332回	遺構外出土の土器(2)	393
第333回	遺構外出土の土器(3)	394
第334回	遺構外出土の土器(4)	395
第335回	遺構外出土の土器(5)	396
第336回	遺構外出土の土器(6)	397
第337回	遺構外出土の土器(7)	398

第338図	石繪・石鏝①	403
第339図	石鏝②	404
第340図	石鏝③	405
第341図	石鏝④	406
第342図	石鏝⑤	407
第343図	石鏝⑥	408
第344図	ピエスエスキュー	408
第345図	石鏝	409
第346図	石彫①	410
第347図	石彫②	411
第348図	打製石斧①	410
第349図	打製石斧②	412
第350図	打製石斧③	413
第351図	打製石斧④	414
第352図	打製石斧⑤	415
第353図	打製石斧⑥	416
第354図	使用痕や加工痕のある石鏝①	417
第355図	使用痕や加工痕のある石鏝②	418
第356図	使用痕や加工痕のある石鏝③	419
第357図	使用痕や加工痕のある石鏝④	420
第358図	使用痕や加工痕のある石鏝⑤	421
第359図	使用痕や加工痕のある石鏝⑥	422
第360図	块状耳飾	423
第361図	特殊石器	423
第362図	石鏝①	424
第363図	石鏝②	425
第364図	石鏝③	426
第365図	石鏝④	427
第366図	磨製石斧①	427
第367図	磨製石斧②	428
第368図	磨製石斧③	429
第369図	磨製石斧④	430

第370図	磨製石斧⑤	431
第371図	磨石・凹み石①	431
第372図	磨石・凹み石②	432
第373図	磨石・凹み石③	433
第374図	磨石・凹み石④	434
第375図	磨石・凹み石⑤	435
第376図	多孔石①	436
第377図	多孔石②	437
第378図	多孔石③	438
第379図	多孔石④	439
第380図	多孔石⑤	440
第381図	多孔石⑥	441
第382図	多孔石⑦	442
第383図	石皿	443
第384図	白倉A区110号住居と70号土坑の遺物接合	453
第385図	白倉B区43号・71号住居間の遺物接合	455
第386図	白倉B区25号住居と66号土坑の遺物接合	457
第387図	白倉C区85号住居と185・233号土坑の遺物接合	459
第388図	天引C区59号・129号住居間の遺物接合	461
第389図	天引C区101号・103号・144号住居間の遺物接合	462
第390図	白倉B区土坑間の遺物接合	464
第391図	白倉C区土坑間の遺物接合	465
第392図	黒浜式期の遺構分布	469・470
第393図	諸磯式期の遺構分布	473・474
第394図	勝坂Ⅱ式期の遺構分布	475・476
第395図	勝坂式終末期の遺構分布	479・480
第396図	加曾利E 3式期の遺構分布	481・482
第397図	加曾利E 4式期の遺構分布	485・486
第398図	称名寺Ⅰ式期の遺構分布	487・488
第399図	称名寺Ⅱ式期の遺構分布	489・490
第400図	堀之内Ⅰ式期の遺構分布	493・494
第401図	堀之内Ⅱ式期の遺構分布	495・496

図版目次

P.L. 1	航空写真 現況と周辺地形 全景
P.L. 2	航空写真 美郷区合成写真
P.L. 3	航空写真 白倉B区全景 白倉C区全景
P.L. 4	白倉A区21号住居
P.L. 5	白倉A区37号住居
P.L. 6	白倉A区78号・96号住居
P.L. 7	白倉A区96号住居
P.L. 8	白倉A区97号住居
P.L. 9	白倉A区111号住居
P.L. 10	白倉B区25号・29号住居
P.L. 11	白倉B区26号住居
P.L. 12	白倉B区27号住居
P.L. 13	白倉B区42号・43号住居
P.L. 14	白倉B区49号・71号住居
P.L. 15	白倉B区71号・74号住居
P.L. 16	白倉B区86号住居
P.L. 17	白倉B区86号・87号・88号住居
P.L. 18	白倉B区89号住居
P.L. 19	白倉B区89号・91号・93号住居
P.L. 20	白倉C区76号住居
P.L. 21	白倉C区77号・78号住居
P.L. 22	白倉C区80号・81号・82号住居
P.L. 23	白倉C区84号・85号・86号住居
P.L. 24	天引C区59号・78号・101号住居
P.L. 25	天引C区101号住居

P.L. 26	天引C区103号・104号住居
P.L. 27	天引C区118号住居
P.L. 28	天引C区125号・127号住居
P.L. 29	天引C区129号・134号住居
P.L. 30	天引C区138号住居
P.L. 31	天引C区144号住居
P.L. 32	天引C区147号・150号住居
P.L. 33	天引C区150号住居
P.L. 34	白倉A区70号土坑・白倉B区2・6号土坑
P.L. 35	白倉B区10・13・15・18・36・41・49号土坑
P.L. 36	白倉B区50・54・55・57・58・59号土坑
P.L. 37	白倉B区63・65・66・69号土坑
P.L. 38	白倉B区80・82・84・85・86・87・89号土坑
P.L. 39	白倉B区90・94・96・99・100号土坑
P.L. 40	白倉B区102・108・115・116号土坑 121・122・123号土坑
P.L. 41	白倉B区124・126・128・130号土坑 131・134・139・143号土坑
P.L. 42	白倉B区144・148・150・164・165号土坑
P.L. 43	白倉B区166・171・172・173号土坑 175・181・182号土坑
P.L. 44	白倉B区185・187・189・191号土坑 192・193・195号土坑
P.L. 45	白倉B区196・199・202・204号土坑 205・212・214号土坑

- P.L. 46 白倉B区217・225・228・234号土坑
235・237・238号土坑
- P.L. 47 白倉B区242・243・244・246・248・250号土坑
- P.L. 48 白倉B区255・257・259・261・262・272号土坑
- P.L. 49 白倉B区273・274・277・278・279・280号土坑
- P.L. 50 白倉B区281・282・283・285号土坑
286・287・288・290号土坑
- P.L. 51 白倉B区290・291・295・296号土坑
298・299・300・305号土坑
- P.L. 52 白倉C区13・14・41・44・45・51・56号土坑
- P.L. 53 白倉C区58・59・82・85号土坑
90・91・95・96・97号土坑
- P.L. 54 白倉C区98・99・100・101号土坑
104・109・116・118号土坑
- P.L. 55 白倉C区120・122・126・128号土坑
131・135・138・140号土坑
- P.L. 56 白倉C区143・147・148・151号土坑
153・157・158・159号土坑
- P.L. 57 白倉C区164・165・166・167・169号土坑
170・172・177・178・182・183号土坑
- P.L. 58 白倉C区183・184・185・194号土坑
196・211・214・223号土坑
- P.L. 59 白倉C区224・225・229・233号土坑
235・244・254号土坑
- P.L. 60 天引C区60・61・72・80号土坑
82・83・85・86号土坑
- P.L. 61 天引C区93・94・98・99号土坑
102・103・106・110号土坑
- P.L. 62 天引C区110・111・112・119号土坑
127・129・130号土坑
- P.L. 63 天引C区135・136・138・139号土坑
145・148・153・154・156号土坑
- P.L. 64 天引C区161・164・165・166号土坑
168・170・173号土坑
- P.L. 65 白倉A区21号住居出土遺物
- P.L. 66 白倉A区37・78・86号住居出土遺物
- P.L. 67 白倉A区97・110・111号住居出土遺物
- P.L. 68 白倉B区25・26号住居出土遺物
- P.L. 69 白倉B区26・27号住居出土遺物
- P.L. 70 白倉B区27号住居出土遺物
- P.L. 71 白倉B区42・43号住居出土遺物
- P.L. 72 白倉B区49・71号住居出土遺物
- P.L. 73 白倉B区71・74・86号住居出土遺物
- P.L. 74 白倉B区86号住居出土遺物
- P.L. 75 白倉B区87・88・89号住居出土遺物
- P.L. 76 白倉B区89・91・93号住居出土遺物
- P.L. 77 白倉C区76号住居出土遺物
- P.L. 78 白倉C区77・78・80号住居出土遺物
- P.L. 79 白倉C区80・81・82号住居出土遺物
- P.L. 80 白倉C区82・84・85号住居出土遺物
- P.L. 81 白倉C区85・86号住居出土遺物
- P.L. 82 天引C区59・78・101号住居出土遺物
- P.L. 83 天引C区101号住居出土遺物
- P.L. 84 天引C区101・103号住居出土遺物
- P.L. 85 天引C区103・104・118号住居出土遺物
- P.L. 86 天引C区118・125・129号住居出土遺物
- P.L. 87 天引C区138・144号住居出土遺物
- P.L. 88 天引C区127・134・144号住居出土遺物
147・150号住居出土遺物
- P.L. 89 白倉B区6・13・36号土坑出土遺物
53・57・58号土坑出土遺物
- P.L. 90 白倉B区59・63・65・80号土坑出土遺物
- 82・87・94号土坑出土遺物
- P.L. 91 白倉B区99・100・122号土坑出土遺物
128・148・150号土坑出土遺物
- P.L. 92 白倉B区156・164・165・166号土坑出土遺物
168・169・172号土坑出土遺物
- P.L. 93 白倉B区171・173・175号土坑出土遺物
181・182・184号土坑出土遺物
- P.L. 94 白倉B区185・187号土坑出土遺物
- P.L. 95 白倉B区188・189・191・192号土坑出土遺物
193・195・199号土坑出土遺物
- P.L. 96 白倉B区200・204・205号土坑出土遺物
212・226号土坑出土遺物
- P.L. 97 白倉B区214号土坑(埋藏)出土遺物
238・243号土坑出土遺物
- P.L. 98 白倉B区242・244号土坑出土遺物
- P.L. 99 白倉B区246・248号土坑出土遺物
- P.L.100 白倉B区256・257号土坑出土遺物
258・259号土坑出土遺物
- P.L.101 白倉B区261号土坑(埋藏)・262号土坑(埋藏)
264・272・277号土坑出土遺物
- P.L.102 白倉B区282・283・288号土坑出土遺物
290号土坑(埋藏)出土遺物
291・298号土坑出土遺物
- P.L.103 白倉B区299・300号土坑出土遺物
白倉C区14号土坑(埋藏)出土遺物
白倉C区18・42・44号土坑出土遺物
白倉C区47・49・50号土坑出土遺物
- P.L.104 白倉C区45・49・51・52号土坑出土遺物
55・56・58号土坑出土遺物
- P.L.105 白倉C区59・67・70・85号土坑出土遺物
86・91・94・96号土坑出土遺物
- P.L.106 白倉C区95・101・102号土坑出土遺物
103・109・114号土坑出土遺物
116・117・122号土坑出土遺物
- P.L.107 白倉C区125号土坑(埋藏)・128号土坑(埋藏)
131・132・138号土坑出土遺物
140・144・145号土坑出土遺物
147・148・182号土坑出土遺物
- P.L.108 白倉C区153・157・162・164号土坑出土遺物
166・170・174・183号土坑出土遺物
- P.L.109 白倉C区185・189・191号土坑出土遺物
194・196・207号土坑出土遺物
213・214・215号土坑出土遺物
235号土坑(埋藏)出土遺物
- P.L.110 白倉C区226・233・241号土坑出土遺物
244・246号土坑出土遺物
- P.L.111 天引C区61・106・119・139号土坑出土遺物
145号土坑(埋藏)出土遺物
- P.L.112 天引C区118号住居出土遺物
白倉B区10・11・59・86号土坑出土遺物
白倉B区116・217・223・235号土坑出土遺物
- P.L.113 白倉B区236号土坑・237号土坑(埋藏)
273号土坑・277号土坑出土遺物
白倉C区94号土坑出土遺物
天引C区99号土坑(埋藏)・161号土坑
- P.L.114 道橋外出土石器(1)
- P.L.115 道橋外出土石器(2)
- P.L.116 道橋外出土石器(3)
- P.L.117 道橋外出土石器(4)
- P.L.118 道橋外出土石器(5)
- P.L.119 道橋外出土石器(1)
石鏡・石鏃(1)

P.L.120	遺構外出土石器② 石鏃②
P.L.121	遺構外出土石器③ 石鏃・ピエスエキース・石匙
P.L.122	遺構外出土石器④ 打製石斧①・②
P.L.123	遺構外出土石器⑤ 打製石斧③・④
P.L.124	遺構外出土石器⑥ 打製石斧⑤・使用痕や加工痕のある石鏃①
P.L.125	遺構外出土石器⑦ 使用痕や加工痕のある石鏃②・③
P.L.126	遺構外出土石器⑧ 特殊石鏃・块状耳飾・石鏃①

P.L.127	遺構外出土石器⑨ 石鏃②・磨製石斧①
P.L.128	遺構外出土石器⑩ 磨製石斧②・磨製石斧③
P.L.129	遺構外出土石器⑪ 磨石・凹石①・②
P.L.130	遺構外出土石器⑫ 磨石・凹石③・多孔石①①
P.L.131	遺構外出土石器⑬ 多孔石②・③
P.L.132	遺構外出土石器⑭ 多孔石④・⑤
P.L.133	遺構外出土石器⑮ 多孔石・石皿

表 目 次

第1表	周辺の遺跡	11
第2表	住居出土土器一覧表	28
第3表	住居出土石器時期別一覧表	29・30
第4表	埋壘一覧表	203
第5表	土坑時期別形状比率	214
第6表	白倉A区土坑一覧表	217
第7表	白倉B区土坑一覧表	217~219

第8表	白倉C区土坑一覧表	220~222
第9表	天引C区土坑一覧表	222
第10表	土坑時期別数量	222
第11表	白倉A区土坑出土遺物一覧表	223
第12表	白倉B区土坑出土遺物一覧表	223~225
第13表	白倉C区土坑出土遺物一覧表	225~227
第14表	天引C区土坑出土遺物一覧表	228

遺物観察表目次

白倉A区	21号住居・37号住居	51
	37号住居・78号住居・96号住居	52
	96号住居・97号住居・110号住居・111号住居	53
白倉B区	25号住居・26号住居	110
	26号住居	111
	26号住居・27号住居	112
	27号住居・42号住居	113
	42号住居・43号住居	114
	49号住居・71号住居	115
	71号住居・74号住居・86号住居	116
	86号住居	117
	87号住居・88号住居・89号住居	118
	89号住居・91号住居・93号住居	119
	93号住居	120
白倉C区	76号住居・77号住居	150
	77号住居・78号住居・80号住居	151
	80号住居・81号住居	152
	81号住居・82号住居	153
	82号住居・84号住居	154
	84号住居・85号住居	155
	85号住居・86号住居	156
天引C区	59号住居・78号住居・101号住居	194
	101号住居	195
	101号住居・103号住居	196
	103号住居	197
	103号住居・104号住居・118号住居	198
	118号住居・125号住居・127号住居	199
	127号住居・129号住居・134号住居・138号住居	200
	138号住居・144号住居	201
	147号住居・150号住居	202

埋 壘	白倉B区214号土坑	204
	白倉B区237号土坑	205
	白倉B区261・262号土坑・290号土坑	207
	白倉B区305号土坑・白倉C区14号土坑	208
	白倉C区126号土坑	209
	白倉C区128号土坑	210
	白倉C区235号土坑・天引C区99号土坑	211
	天引C区145号土坑	212
白倉B区	2・6・10・11・13・15号土坑	350
	36・41・49・53・57・58号土坑	351
	58・59・63・65・66・80号土坑	352
	80・82・86・87・94・99・100号土坑	353
	102・115・116・121・122・123・126・128号土坑	354
	128・139・141・143・144・148号土坑	355
	150・164・165・166・167号土坑	356
	168・169・171・172・173号土坑	357
	173・174・175・176・181・182号土坑	358
	184・185・187・188号土坑	359
	188・189・191・192・193・195号土坑	360
	199・200・202・204・205号土坑	361
	205・211・212・217・223・226号土坑	362
	227・230・234・235・236号土坑	363
	241・242・243・244号土坑	364
	244・246・248・250・255号土坑	365
	256・257・258・259号土坑	366
	264・272・273・274・277号土坑	367
	277・278・279・280・282・283号土坑	368
	287・288・291・298号土坑	369
	299・300号土坑	370
白倉C区	13・18・40号土坑	370

42 · 44 · 45 · 46号土坑	371	166 · 170 · 174 · 179 · 182 · 183 · 185号土坑	381
47 · 49 · 50 · 51 · 52号土坑	372	185 · 189 · 191 · 194 · 196 · 202号土坑	382
55 · 56 · 58 · 59 · 64号土坑	373	207 · 213 · 214 · 215 · 221 · 226 · 233号土坑	383
67 · 70 · 82 · 85 · 86 · 89号土坑	374	233 · 241 · 244 · 245 · 246 · 254号土坑	384
91 · 94 · 96 · 98 · 97 · 98号土坑	375	天引C区 60号土坑	384
99 · 101 · 102 · 103 · 109号土坑	376	61 · 85 · 94 · 98 · 102 · 103号土坑	385
114 · 116 · 117 · 118 · 122号土坑	377	106 · 110 · 111 · 119 · 138~140 · 161号土坑	386
131 · 132 · 133 · 135 · 138 · 140号土坑	378	166 · 167 · 168 · 169 · 170 · 173号土坑	387
143 · 144 · 145 · 146 · 147 · 148 · 151号土坑	379	遗横外出土玉器	399~402
153 · 157 · 162 · 164 · 166号土坑	380	遗横外出土石器	444~451

抄 録

1 発掘調査区の概略

今回の発掘調査区は、群馬県甘楽郡甘楽町大字白倉・天引に所在する。発掘調査は、1989年4月1日から開始され、1991年8月20日をもって終了した。発掘調査区は県西部地域を東流する鍋川によって形成された河岸段丘面に立地する。この地域は、群馬県下でも各時代の土地利用痕跡が密集する地帯として名高い。本発掘調査区に隣接する地域にも、各時代にわたる様々な土地利用痕跡が重層的に検出されており、その内容は徐々に明らかになってきている。

発掘調査区においては、旧石器、縄文、弥生、古墳、奈良、平安、中近世以降の土地利用痕跡と遺物が重層的に検出されている。本書では、このうち縄文時代の土地利用痕跡と遺物について所収し、縄文時代編として報告した。

2 遺構数量（縄文時代に帰属するものに限る）

住居址43軒 竪穴状遺構1基 埋壘12基 土坑290基

遺構時期別内訳

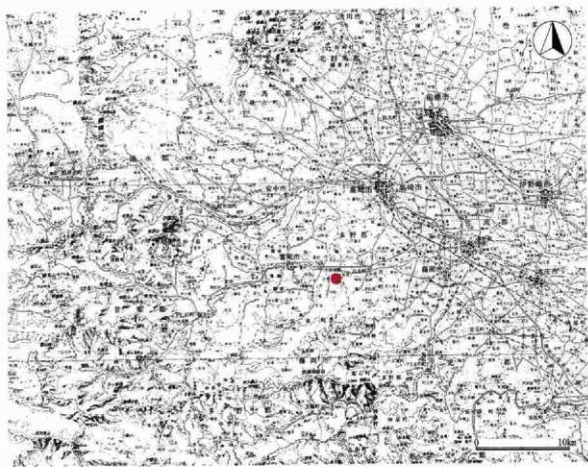
	黒式 浜期	諸式 磯期	勝坂Ⅱ 式 終末期	勝坂Ⅲ 式 終末期	加曾利 Ⅲ式	加曾利 Ⅳ式	称名寺 Ⅰ式期	称名寺 Ⅱ式期	掘之内 Ⅰ式期	掘之内 Ⅱ式期
住居址	3	5	4	14	7	2	2	2	4	0
竪穴状遺構	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
埋壘	2	0	0	3	2	3	0	1	0	1
土坑	66	3	6	31	7	28	11	8	7	13

遺物については、遺構に該当する時期の土器及び石器が多数出土している。

まとめ

発掘調査区においては、上記の遺構が、時期別に集中する地区をたがえて検出されている興味深い集落遺跡である。また、従来資料的に希薄であった時期の土器も多数含まれていることから今後の土器編年研究に寄与するであろう資料も多く含まれている。

白倉下原・天引向原遺跡II



白倉下原・天引向原遺跡の位置

I 発掘調査の経過

1 発掘調査に至る経過

関越自動車道土越線（上信越自動車道）は首都圏と上信越地方を結ぶ高速自動車国道として、日本道路公団によって建設される。起点を東京都練馬として新潟県上越市まで総延長280km（内練馬～藤岡間は関越自動車道新潟線と併用）である。平成5年3月27日開通した藤岡インター～佐久インター間は約69kmで、群馬県藤岡市（5.6km）、吉井町（6.3km）、甘楽町（4.3km）、富岡市（11.6km）、妙義町（2.5km）、松井田町（19.5km）、下仁田町（5.3km）、長野県佐久市（11.9km）の各市町を通過する。

群馬県藤岡市～長野県佐久市間の基本計画は昭和47年に策定され、同54年建設大臣により日本道路公団が施行命令を受けている。同56年群馬県藤岡市・吉井町・甘楽町・富岡市・下仁田町（東部）・松井田町（東部）、同57年松井田町（西部）・下仁田町（西部）・長野県佐久市までの路線が発表された。関越自動車道土越線全体にかかる埋蔵文化財の取り扱い及び調査経過は次のとおりである。

昭和49年度 藤岡市～下仁田町間に存在する埋蔵文化財について、群馬県教育委員会は県企画部幹線交通課に対し文化財保護法の遵守、国・県・市町村の指定文化財をさげ、文化財に関係する事項は県教委文化財保護課と協議すること等の考え方を示した。

昭和55年度 県教委文化財保護課は路線通過地周辺の埋蔵文化財包蔵地の調査を行い、その結果は同年3月藤岡～松井田間、同年11月松井田～下仁田間について、「関越自動車道土越線関連公共事業調査報告書」として群馬県（企画部交通対策課）より報告された。

昭和59年度 建設工事の具体化に伴い、路線内の埋蔵文化財についてより具体的な調査の依頼が道路公団より県教育委員会にあり、県教委文化財保護課は包蔵地の詳細分布調査を行った。

昭和60年度 県教育委員会は分布調査の結果、包蔵地を濃い分布地・淡い分布地・試掘調査を必要とする地域に区分し、発掘調査必要面積を約100万㎡と想定し、55遺跡を認定した。（後の試掘により52遺跡に変更）そして、埋蔵文化財発掘調査にかかる基本方針を次のように策定した。

- ① 発掘調査終了年度を昭和65年度末（平成2年度末）とする。
- ② 群馬県埋蔵文化財調査事業団を中核機関とし、対応できない部分に調査会方式を導入、関係市町村には進捗状況を考慮しながら協力を求める。
- ③ 事業団の出張所（土越線調査事務所）を開設し、整理作業も併せ行う。
- ④ 機関別対応面積は次のとおりとする。

埋蔵事業団 約76万㎡ 富岡市以東を受け持つ。
面積は変動の可能性あり。

調査会 約22万㎡ 妙義町・下仁田町・松井田町。面積は変動の可能性あり。

なお、調査実施方法は次のとおりである。

日本道路公団東京第二建設局は群馬県教育委員会に調査の依頼を行い、年度毎に委託契約を締結する。県教育委員会はそれを受け、群馬県埋蔵文化財調査事業団及び、各遺跡調査会等に再委託のかたちで委託契約を締結し、調査を実施する。

昭和61年度 4月、埋蔵事業団土越線調査事務所を吉井町南陽台3-15-8に設置し、4班15人体制で発足。調査を開始する。以後、6班22人体制（昭62）、9班36人体制（昭63）、12班45人体制（平元）、12班45人体制（平2）。平成2年度までに一部を残し発掘調査は終了した。

整理事業は昭和63年度より併行して実施していたが、平成3年度からは本部においても整理事業が始まり、現在2か所11人体制で実施している。調査事務所は今年度で事業を終了し、以後本部のみで実施され、平成8年度全事業終了予定である。

2 発掘調査の方法と経過

(1) グリッドの設定

白倉下原・天引向原遺跡の発掘調査部分は甘楽パーキングエリアと西方の本線部分よりなる。建設工事用測量杭の STA-153~158が、ほぼ発掘調査範囲に該当する。この範囲内を覆うことができるように、白倉下原地区と天引向原地区で異なった国家座標を原点としてグリッドを設定した。具体的には、調査区北東端の国家座標 $X=26,950$ 、 $Y=-79,320$ を白倉下原地区の座標原点とし、 $X=26,950$ 、 $Y=-79,100$ を天引向原地区の座標原点とし、5m四方のグリッドを設定した。グリッドは北東コーナーの杭を基準にして、南方向及び西方向に1、2、3、、、と両者共に算用数字で呼称した。

前述したように、白倉下原地区と天引向原地区では国家座標原点が異なるため、同じグリッド番号が両方の地区に存在することになった。グリッド番号をもとに遺構の位置などを検索したりする場合などには、必ず地区を確かめて欲しい。

(2) 発掘調査の方法

発掘調査対象地は、高速道路の本線部分にあたる東西に長い西側部分と、甘楽パーキング予定地にあたる広大な東側部分からなっている。前者は甘楽町大字白倉下原の一部であることから「白倉下原遺跡」とし、後者は甘楽町大字天引向原の一部であることから「天引向原遺跡」と呼称して調査を進めてきた。しかしながら、この2つの遺跡名称をあたるほどには各時代における土地利用痕跡が異なっているわけではなく、時代によって2つの地区の土地利用は似ていたり、異なっていたりするものが実態であった。本来土地は時代によって様々な利用がなされてきたわけであろうし、発掘調査とは重層的な土地利用痕跡を対象とするのでであろうから、今回の事例が例外というわけではない。また、各時代の土地利用も、けて発掘調査区内に収まるわけでもなく、例えばある時代の集落遺跡の範囲が、異なった時代の集落遺跡の範囲とは異なっていると考えたほ

うが自然であろうし、溝や道などを考えた場合、遺跡名称に反映される範囲がどこまでかも不明となってしまう。今回の報告では、以上のことを念頭において、発掘調査区を「白倉下原・天引向原遺跡」と呼称することにした。そして、発掘調査区の西寄りを「白倉下原地区」、東寄りを「天引向原地区」として理解して戴きたい。白倉下原地区は、発掘調査区内をちょうど3等分するように2本の町道が南北に通っていた。そこで地区内を東から順に「白倉A区」、「白倉B区」、「白倉C区」と小区分した。遺構名称は各区分ごとの通し番号として、「白倉A区21号住居」、「白倉B区8号土坑」といった具合に呼称することとした。一方、天引向原地区は、舌状台地や谷地などの地形をもとにA~F6つの小区分を行なった。遺構名称については、住居については「天引向原地区」全体の通し番号とし、土坑などの他の遺構については各区分ごとの通し番号として、「天引C区59号住居」、「天引A区6号土坑」といった具合に呼称することにした。ただ、縄文時代の遺構が検出されたのは中央の広い舌状台地（天引C区）だけであったことから、基本的に今回の報告では、天引向原地区は天引C区しか登場しない。

いささか前置きが長くなってしまったが、以下に調査方法について述べていきたい。

発掘調査は、最初にバックフォーによって表土を除去したのちに、杭打ち、遺構確認、個別遺構調査といった流れですすめられた。調査期間との関係で重機を使用したわけだが、多くの情報が表土中に含まれていたであろうことを考えると、残念でならない。個別遺構調査にあたっては、遺構確認の段階で弥生時代以降と想定された遺構から調査を行い、一定範囲において弥生時代以降の調査が終了した段階で、縄文時代の遺構調査を行った。遺構内の遺物取り上げについては、これも調査期間との関係で完形に近い土器や大形の遺物については出土位置を記録したが、他の遺物については任意となってしまったものが多い。遺構図は原則的に1/20の図面を作成し、必要に応じて1/10の図面を作成した。

(3) 調査経過

発掘調査は1989年4月1日から、1991年8月20日まで行われた。ここでは、縄文時代に拘わる調査経過について各年度ごとに記載していくことにする。

1989年度 原西Ⅰ・Ⅱ班の2班が調査を行なった。

原西Ⅰ班は、4月初より白倉A区の調査に取り掛かった。縄文時代では37号住居と78号住居の調査がこの年度に行われている。途中、中高瀬観音山遺跡の応援を行ったため（1989年10月～1990年2月）実質調査期間は7カ月であった。また、他の縄文時代の遺構については、確認はできていたが調査は次年度へ繰り越された。

原西Ⅱ班は、5月1日から白倉C区の調査を開始した。この地区では、東側に白倉B区にまたがって埋没谷が確認され、多くの遺物が出土した。ほぼ年内には白倉C区の調査は終了し、東側の地区にあたる白倉B区の調査に入っていた。

年度の後半に入り、道路公団から調査区の北側に工用道路を敷設したいとの申し出があったため、調査計画を発掘区の北側を優先させる調査行程をとった。そのため、原西Ⅰ班は白倉A区北側の旧石器の試掘と、天引向原地区の北側谷地部分の調査に着手し、原西Ⅱ班は白倉B区をほぼ南北に2分して、北側部分を先行させていった。

1990年度 この年度も、昨年度に引き続いて2班体制で発掘調査が行われた。

原西Ⅰ班は、年度当初より先年度からの懸案である北側工用道路部分の調査を先行させ、白倉A区から天引向原地区にわたる長い発掘区の調査を行っていった。この間、2カ所で旧石器の環状ブロック群が確認されたために、調査は遅れがちであった。工用道路部分の調査を終了させ、引き続き白倉A区の南側部分の調査を行い、確認済であった白倉A区の縄文時代の遺構調査を行った。また、道路公団側から天引向原地区に先行して白倉下原地区を引き渡して欲しいとの申し出があったことから、白倉A区の調査を終了した段階で、原西Ⅱ班を応援する形で白倉B区南側の調査を行った。白倉B区86～89号

住居はその際に調査したものである。

原西Ⅱ班は、先年度に引き続き白倉B区北側の調査を先行させ、随時南側の調査に移っていった。

白倉下原地区の調査を終了して、原西Ⅰ班と原西Ⅱ班が合同して、道路公団から要請があった天引向原地区北側の調査に入ったのは10月になってからである。天引C区59・78・101・103・104号住居は、その際に調査された。この年度は、多比良班・矢田班・内匠班・井出班の応援があった。

1991年度 1班体制で、8月20日まで発掘調査が行われた。先年度において、天引向原地区北側部分の調査がほぼ終了したことから、この年度は天引向原地区南側（天引C区）の調査が主体となった。古墳時代後期の粘土探掘坑の調査は、主にこの時期に調査されている。

(4) 整理計画と経過

白倉下原・天引向原遺跡では、発掘調査終了時点で出土遺物量から約10年の整理期間が算定された。その後、発掘調査担当者の協議によって、報告書は時代別の編集方針をとることで合意し、それを受けて本報告書は、関越道上越線調査事務所において2年間をかけて縄文時代編として作成された。同じ時期、同事務所では弥生時代～古墳時代中期の報告書が作成され、00群馬県埋蔵文化財調査事業団本部においては旧石器時代の報告書が作成された。今後、1996年度まで整理作業が行われ、古墳時代後期を中心とした報告書と、奈良時代以降を取り扱う報告書の合計2冊が刊行される予定である。

さて、本報告書は縄文時代編として当該時期の土地利用痕跡や遺物を取り扱ったわけだが、全ての遺物に目を通すことができなかった。それは、主に弥生時代以降の遺構から出土した縄文時代の遺物について取り扱うことが殆どできなかったからである。今後の整理作業の中で、これらの遺物について、ぜひとも取り扱っていきたいと考える。発掘調査区内における細分土器式期の様相を考えるうえでも、この情報はきわめて重要であると考えられるからにほかならない。

II 地理的・歴史的環境と発掘区の概要

1 地理的環境

白倉下原・天引向原遺跡の発掘調査区は、群馬県南西部に位置する富岡市街地東方、甘楽郡甘楽町大字白倉・天引両地内に所在する。発掘調査区は鍋川によって形成された上位と下位の二つの河岸段丘面のうち、高位の段丘面である上位段丘面に立地している。

鍋川は群馬・長野県境の八風山麓に源を発し、途中下仁田町本宿付近で、同じく群馬・長野県境の荒船山麓に源を発する市野置川と合流した後、富岡市、甘楽町、吉井町、藤岡市の群馬県南西部地域を東に流れ下り、その後高崎市阿久津町付近で利根川の一支流である烏川へと合流する。鍋川を上流に遡っていくと、内山峠を越えて長野県佐久市へと抜けることができ、古くから中部地方と関東地方とを結ぶ交通の要衝的機能を持った地域である。

鍋川右岸（南岸）一帯には上位段丘面と下位段丘面の二段の河岸段丘が形成されているが、特に富岡市東部から藤岡市にかけての中下流域では、上位段丘面の発達が著しい。逆に、左岸（北岸）では上位・下位とも河岸段丘の発達はほとんど見られない。こうした経緯については、右岸地域の地盤の隆起によって、鍋川の流路が次第に南から北へと移動したことに起因していると言われる。つまり、鍋川は最初に南側から上位段丘面を形成させ、その後下位段丘を形成させながら、流路を北へと次第に移動させた結果であると捉えられている。この流路移動自体は自然史的なタイムスケールのなかで現在でも進行中であり、今では下位段丘面を10m程侵食した河床を鍋川は流れている。

上位段丘面には、北西約40kmのところに見える浅間山を給源とした、浅間室田軽石層（As-MP）をはじめとする複数の軽石層群と風化ローム層とが互層となって、2m程の厚さで堆積している。さらに、

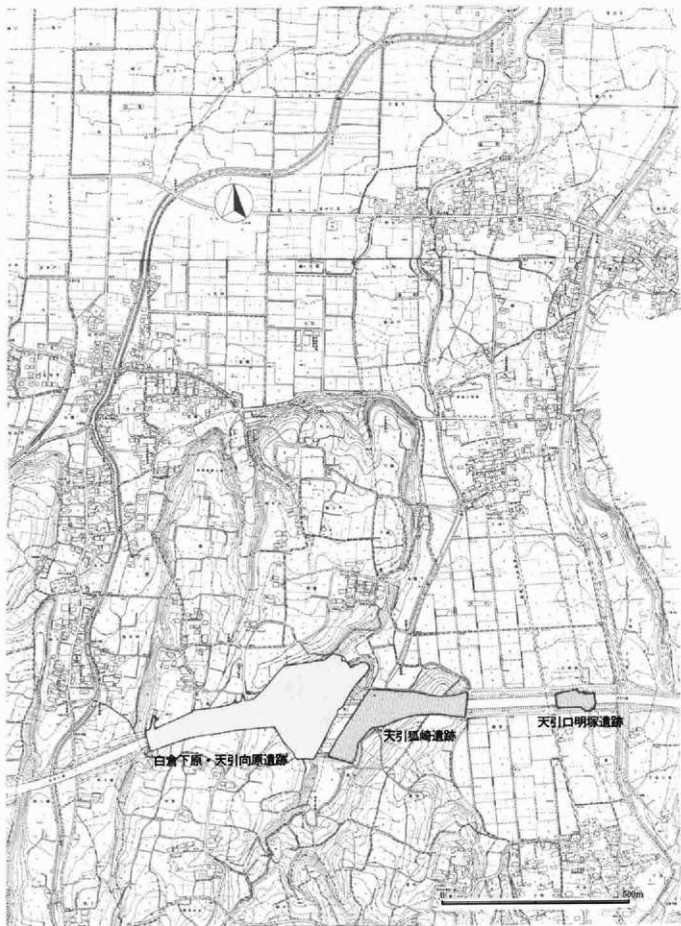
ローム層の下層には風化した暗褐色粘土層が堆積し、この上部には鹿兒島湾を給源とする始良 Tn 火山灰（AT）が1～2cmの厚さで純層ないしブロック状に堆積していることから、遅くとも22,000年前頃には上位段丘面の形成が終了したことは確実で、さらに白倉下原・天引向原遺跡の旧石器時代の石器群がAT下層から出土していることを考え併せれば、この年代をさらに遡ることは間違いないであろう。

これに対して、下位段丘面にはほとんどの地域でローム層の堆積が見られないことから、上位段丘にローム層が堆積している頃には、この面の何れかを鍋川が流れていたことが推測される。

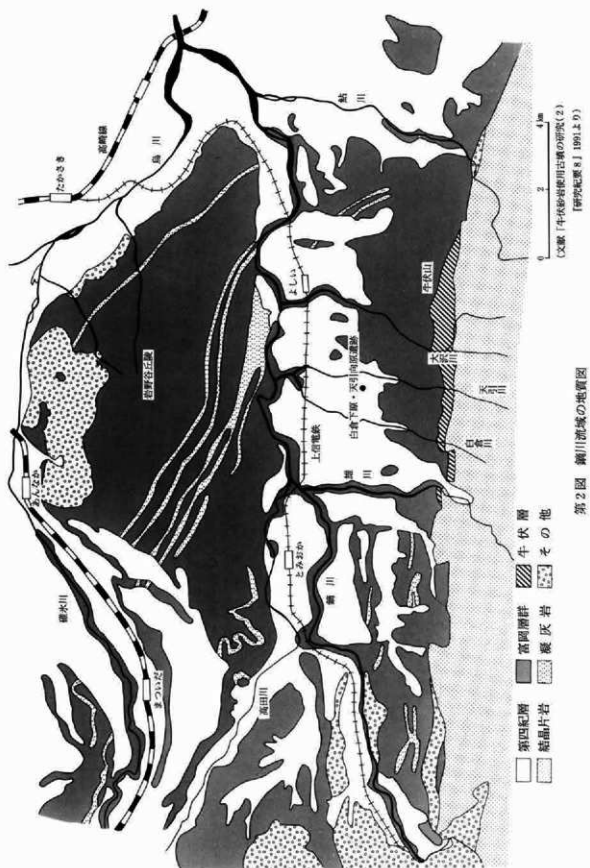
白倉下原・天引向原遺跡の発掘調査区が立地するのは上位段丘面で、南側地形は丘陵地帯が続いたのち、稲倉山や牛伏山をはじめとする標高1,200～1,500m程の山地が東西に連なってひかえている。この山地に源を発する雄川、白倉川、天引川、大沢川、矢田川、土合川などの中小河川が段丘面を開析しながら北流し、鍋川に直交するように合流している。さらに、これらの中小河川に注ぐ支谷が樹枝状に発達して、上位段丘面を東西に分断し、いくつもの舌状に延びる台地を形成している。

発掘調査区は、大きく見ると東側を天引川、西側を白倉川の中小河川によって大きく開析された上位段丘面に立地する。白倉下原地区は、東を天引向原地区の間を流れる小支谷に、西を白倉川によって画される。調査区は大部分がローム台地であるが、白倉B区の西側には谷津が検出されており、この谷津は北側に向かって台地を開析する小支谷となる。天引向原地区は東を三途川、西を小支谷によって画された台地上が主たる調査区である。西の小支谷以外にも谷津が検出されており、この2つの谷は北東部分で合わさって三途川へと連なっている。

発掘調査区の北側約650mには上位と下位の段丘面を画する比高20m程の崖線が東西に走っている。



II 地理的・歴史的環境究掘区の概要



2 歴史的環境と周辺の遺跡

歴史的環境

鍋川流域は、従来より群馬県でも有数の遺跡濃密地帯として著名である。なかでも、上位と下位の二つの河岸段丘が形成されている鍋川右岸には、各時代にわたる多くの土地利用痕跡が残されている。その著名なものを挙げれば、縄文時代では大規模な環状列石が検出された田篠中原遺跡、弥生時代後期を中心に住居址が多数重複して検出された中高瀬観音山遺跡などがある。古墳時代については、三角縁神獣鏡が出土した高岡市北山茶臼山古墳や同北山茶臼山西古墳などの前期古墳、藤岡市七興山古墳や白石稲荷山古墳、甘楽町笹森稲荷古墳などの大型前方後円墳、吉井町安坪古墳群や同神保古墳群、同多胡古墳群などの群集墳がある。また、奈良時代、和銅4年の「多胡郡」の建郡を記念して建立された、日本三古碑の一つである「多胡碑」も吉井町に存在する。このような遺跡濃密地帯をちょうど東西に貫くように関越自動車道上越線は通過することとなり、当然の結果多くの地区において、各時代にわたる重層的な土地利用痕跡が発掘調査されることとなった。

周辺の遺跡

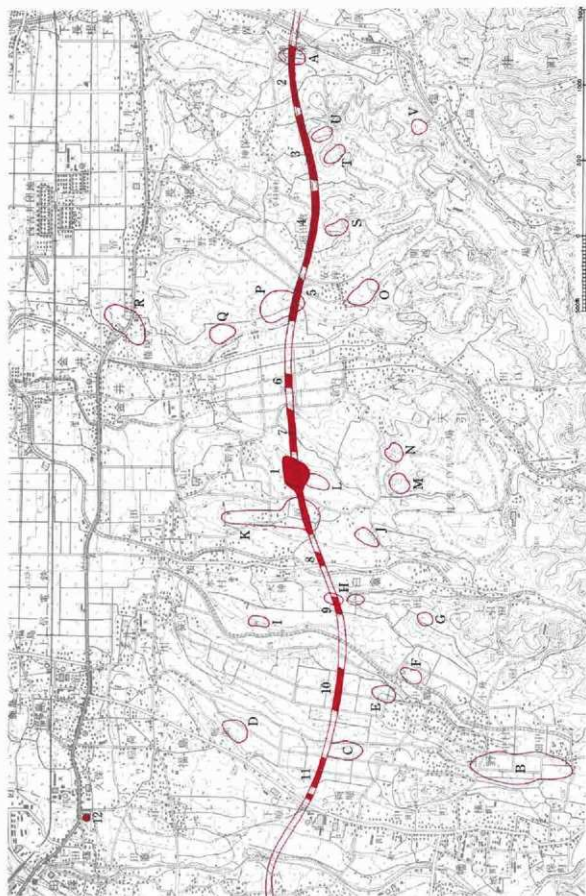
ここでは、本報告書が縄文時代編であることを考慮して、発掘調査によって明らかになった周辺の縄文時代における土地利用について、主に述べることにする。第3図は周辺の遺跡地図である。この中で黒塗りで表現した部分(1~12)が、発掘調査が行われた地点である。大部分で、縄文時代における何らかの土地利用痕跡が確認されている。この地図からも明らかのように、発掘調査の大部分は関越自動車道越線の上越線の開発に伴うものである。また、線で囲んだ部分(A~V)は、鬼形芳夫が分布調査によって縄文時代の遺物を表面採集した部分で遺物散布地である(鬼形・内木1988)。

これらの地図上に記した部分を眺めると、大部分が鍋川の上位段丘面上であることに気付く。これ

は、この部分に高速道路の開発が集中したこと、上位段丘面が伝統的な農作地帯であったことと密接に拘わっているものと思われる。本報告の調査区もこの面に立地している。この面では、本報告の調査区以外では、神保植松(2)、神保富士塚(3)、長根羽田倉(4)、長根安坪(5)、天引狐崎(7)、白倉南水塚(9)、上野松葉(10)、上野寺場(11)、遺物散布地(R以外の全て)において縄文時代の土地利用がなされている。神保植松(2)では、前期後半~中期後半の住居14軒、土坑40基、埋壘6基と、当該期の遺物が多量に出土した埋没谷が調査されている。神保富士塚(3)では、諸磯式期の住居3軒と、土坑10基が検出されている。土坑の中には、勝飯式終末期のものが含まれる。長根羽田倉(4)では、陥し穴状土坑1基と前期~晩期の土器片が僅かに出土している。長根安坪(5)は、中期前半の住居9軒と土坑約60基、加曾利E3式期の住居3軒と土坑10数基及び配石遺構3基が検出されている。天引狐崎(7)では、黒浜式・諸磯a~b式・加曾利E3~4式・後期の遺物が出土している。白倉南水塚(9)では、住居2軒と加曾利E4式~称名寺式期の袋状土坑が検出されている。上野松葉(10)では草創期の有舌尖頭器が出土している。他には、陥し穴状土坑3基と早期後半~中期末葉の遺物が僅かに出土している。上野寺場(11)では、遺物包含層が1カ所調査されている。

一方、鍋川の下位段丘面や、上位段丘面を開析する小支谷に面した部分でも、僅かではあるが縄文時代の土地利用が確認されている。白倉東八幡(8)や坂詰(12)、遺物散布地(R)などがこれにあたる。白倉東八幡(8)では、関山式期と称名寺式期の住居が2軒検出され、坂詰(12)では、堀之内2式期の土坑が検出され完形の注口土器が出土している。この面では、位置を記すことができなかった田篠中原遺跡(第池1990)が調査されている。ここでは、加曾利E3~4式期の住居(敷石住居を含む)や環状列石が検出されている。鍋川下位段丘面での調査が少ないために確かなことは言いえないが、中期後半以降、積極的に下位段丘面を利用していったのかも知れない。

II 地理的・歴史的環境発掘区の概要



第3図 周辺の遺跡

第1表 周辺の遺跡

周辺の発掘調査された遺跡

番号	名称	発掘調査によって明らかになった内容など	参考文献
1	白倉下原・天引向原	本報告書にて縄文時代に関する記載を行う。A T直下の縄状ブロッグ群・弥生時代後期～平安時代の住居多数が検出。古墳時代後期の粘土埴輪坑や平安時代の寺院址も調査。	右島・藤巻他 1991 小林・木村 1991 飯田他 1992
2	神保塚松	縄文時代・弥生時代後期～平安時代の住居59軒が検出。中世城郭跡松城の主要部分が、ほぼ調査され、溝・土塼・多数の掘立建物群を検出した。他に、古墳時代の方形周溝墓など	藤巻・谷藤・小島・外山 1990
3	神保富士塚	奈良～平安時代の住居が144軒調査された。他に、縄文時代前期の住居3軒と土坑、弥生時代中期の土坑、古墳時代の住居、江戸時代の竪穴状遺構などが調査された。	小野編 1993
4	長根別田倉	古墳時代後期の系紀遺構及び多量の滑石製模造品が目玉される。古墳時代～平安時代の住居がまとまって検出されている。	鹿沼編 1990
5	長根安坪	縄文時代中期の住居12軒と土坑及び配石遺構を調査。他に弥生時代後期の住居も、まとまって検出されている。古墳時代初期の方形周溝墓14基と後期古墳15基を調査している。	綿貫・菊池・山口・亀山 1990
6	天引口明塚	6世紀後半の小型円墳2基と、中世の竪穴状遺構1基が調査された。土地改良が既に行なわれた地区であることから、遺構の残存状態も悪く、他の時代の遺構・遺物はなかった。	右島編 1992所収
7	天引狐崎	台地部分と三途川の旧河道を調査。A T直下の石蔵群や、縄文前期～後期の遺物、弥生時代の住居約40軒、6世紀後半の古墳2基を調査。旧河道からは、古墳時代中心の本製品。	坂井・木村・山口1991
8	白倉東八幡	舌状台地に挟まれた沖積地の調査。縄文時代開山式期と称名寺式期の住居が各1軒検出された。他に、古墳時代後期の住居が6軒調査された。	小村 1991b
9	白倉南水塚	住居20軒・土坑46基・溝2条が検出された。縄文時代の住居2軒以外は古墳時代の住居である。その中で2軒の住居からは小鍬治の痕跡が確認されている。	伊藤 1992
10	上野松葉	弥生時代終末期～奈良時代の住居が82軒と、平安時代の住居が1軒調査されている。縄文時代では陥穴状土坑3基と、土器・石器が検出され、有舌尖頭器の出土が特筆されるよう。	荒井 1991・1992
11	上野寺場	古墳時代初期～中期の住居7軒と奈良・平安時代の住居23軒を調査。他に、土坑55基・掘立分布地点4ヶ所・掘立建物2棟・溝3条・中世の塚1基・縄文時代包含層1ヶ所。	小村 1991a
12	新井・坂詰	越川東岸の段丘上を調査。後期古墳2基を調査。堀之内2式期の土坑を調査している。	井上 1990

周辺の遺物散布地

	関山式	黒浜式	滑磯a式	滑磯b式	滑磯c式	五箇ヶ台式	勝板式 阿玉台式	加曾利 E式	後期	備考
A	○	○	○	○	○		○	○		
B		○	○	○	○		○	○	○	中村遺跡 森田編1972
C								○		石蔵片が多数
D							○			
E								○		
F										
G		○	○	○			○			
H								○		
I							○	○		
J							○	○		
K							○	○		
L								○		
M		○	○							遺跡すでになし
N		○	○	○	○					遺跡すでになし
O								○		
P								○		
Q										
R								○	○	
S		○	○				○			
T		○	○							
U		○	○							
V			○							

(鬼形・内木1988に一部加筆して転載)

3 発掘調査区の概要

はじめに

今回の発掘調査では、旧石器時代から、つい最近の土地利用に至るまでの、さまざまな土地利用痕跡が検出された。本報告書では、縄文時代の土地利用痕跡と関連する遺物を抜き出して取り扱うこととなっている。しかしながら、発掘調査区内において縄文時代の遺構は、後続する弥生時代以降の土地利用によって少なからず破壊を受けている。遺跡というものが、その場所における累々たる土地利用痕跡の総体であるという認識にたてば、ある時代の土地利用痕跡は、後続する時代の土地利用の頻度と内容によって規定される部分が大いなのであろうから、今回の調査区内における縄文時代の土地利用痕跡も、けて例外ではなかったということであろう。そのような意味からも後続する時期の具体的な内容が明らかにならないと調査区内における縄文時代の土地利用が理解できないと思われる。それゆえに、本報告書とともに刊行される「白倉下原・天引向原遺跡Ⅰ」（旧石器時代編）と「白倉下原・天引向原遺跡Ⅲ」（弥生時代～古墳時代中期編）、さらに今後刊行される予定の古墳時代後期以降の報告書をぜひ参照して欲しい。

ここでは、現段階で知り得た情報から、各時代の概略について、簡単に述べていきたい。なお、全体図は繁雑になるため遺構名を付していないが第5図を参照して戴きたい。

(1) 旧石器時代

旧石器時代の具体的な内容は、本報告書と同時に刊行される「白倉下原・天引向原遺跡Ⅰ」（関口1994）に拠りたい。ここでは、前述した刊行予定報告書の草稿をもとに、簡単にその内容を紹介したい。旧石器時代の調査は、縄文時代以降の調査が終了した段階で、ローム層が確認されている部分に対して行われた。基本的には調査区ごとに2×4mの試掘坑を設定し、文化層が確認された場合には本調査を

行った。結果的には、表土下約2mの部分に堆積するAT層直下から文化層が確認され、白倉A区・白倉B区・白倉C区で各1カ所・天引地区で2カ所の合計5カ所で本調査を行った。

白倉A区では、舌状台地から6カ所のブロックが環状ブロック群を構成して検出されている。403点の石器類が出土し、ナイフ形石器・台形椀石器・局部磨製石斧などが出土している。

白倉B区では、平坦な台地上から4カ所のブロックが環状ブロック群を構成して検出されている。120点の石器類が出土し、出土石器は白倉Aとほぼ同じ器種が出土している。

白倉C区では、谷頭部から40m程奥に入った台地上から、台形椀石器などが3点出土している。

天引地区では、舌状台地の先端部（天引A区）と台地の奥部分（天引C区）を調査した。舌状台地の先端部では、13カ所のブロックが環状ブロック群を構成して検出されている。268点の石器類が出土し、ナイフ形石器・台形椀石器・楔形石器などが出土している。台地の奥部分では、小規模なブロック1カ所から、台形椀石器など10点が出土している。

整理作業によって、石器群の母岩と多数の接合資料が確認され、石器製作技術を考察するための基礎的なデータと集落研究を行う上での基礎的なデータを呈示することができた。



白倉A区旧石器遺物出土状態

(2) 縄文時代

前期中葉黒浜式期から後期前半堀之内2式期までの遺構と遺物が主体を占めている。検出された遺構の内訳は、住居址43軒、竪穴状遺構1基、埋甕12基、土坑290基である。以下に、時期ごとの様相について概述していきたい。

前期 黒浜式期の住居3軒と諸磯式期の住居5軒が検出されている。黒浜式期では、有尾式系土器も多く出土しており、白倉C区を中心に70基近くの土坑が検出されている。諸磯式期は、ほとんどが諸磯b(新)式期に帰属し、前後の時期の遺物は極めて少ない。また、遺構の分布は、黒浜式期のそれとは異なり、調査区全体に遺構が散在する状況が見受けられる。

中期 勝坂II式期の住居4軒、勝坂式終末期の住居14軒、加曾利E3式期の住居7軒、加曾利E4式期の住居2軒が検出されている。この中で、勝坂式終末期の土器群は、今後の当該期の編年研究に寄与す

るであろう良好な資料である。勝坂式期の遺構は、白倉A区と天引C区に別れて検出されているが、加曾利E式期の遺構は、白倉B区を中心に検出される傾向をもつ。加曾利E4式期の住居中、1軒は柄鏡形状を呈するものと思われる。

後期 称名寺式期の住居4軒と堀之内1式期の住居4軒が検出されている。遺構の残存状態が悪いものもあるが、敷石住居及びその系譜をひくものが多いのが特色であろう。傾向として、称名寺式期の敷石住居は、全面に配石が施されるのに対して、堀之内式期に入ると、竪部を中心とした部分的な配石に変わるようである。この時期は、白倉B区に遺構が多く分布する傾向が見受けられた。堀之内2式期は、住居は検出されなかったものの、13基の土坑が白倉B区を中心に調査された。とりわけ、白倉B区6号土坑からは、トチノキの炭化種子がまとまって出土している。年代測定も併せて行い、土器の年代観に近い測定値を得ている。



白倉B区26号住居(敷石住居)址

II 地理的・歴史的環境発掘区の概要

(3) 弥生時代

弥生時代の具体的な内容は、本報告書と同時に刊行される『白倉下原・天引|向原遺跡III』（右島1994）に掲載されている。ここでは、前述した刊行予定報告書の草稿をもとに、簡単にその内容を紹介したい。

弥生時代の遺構と遺物は、中期前半を主体とする時期と後期～古墳時代初頭を主体とする時期に別れて検出されている。

中期前半においては、竪穴住居址は検出されなかったが土坑が白倉B区で13基、白倉C区で15基検出されている。土坑は各地区において一定の範囲内にまとまって検出されているのが特徴である。また、いずれの土坑も平面形状は円形を基調としており、埋没土が黒褐色土であることや、完形土器が殆どなく大半が土器片を含むことから自然埋没した貯蔵穴の可能性が高い。また、土坑群が検出された地区では、他の時代の遺構内からも中期前半の土器片が少なからず検出されていることから、何らかの居住施設があったのかも知れない。

中期後半～後期式期の遺構及び遺物は検出されて

いない。

後期～古墳時代初頭は、樽1～3式及びいわゆる赤井戸式土器を伴う段階までの遺構及び遺物が検出された。遺構の主体は竪穴住居址で、総数58軒が調査されている。本集落遺跡の特徴は、時期別に竪穴住居址の検出される地区が異なる点にある。以下、細分型式期別に概観してみたい。

樽1式段階では、竪穴住居址の分布は白倉C区に限られている。各住居址からは土器とともに磨製石器及び未製品・フレイク・チップ等と砥石が出土している。

樽2式段階では、白倉A～C区及び天引地区で竪穴住居址が検出されているが、検出住居数はそれほど多くはない。

樽3式～赤井戸式を伴う段階は、天引地区で竪穴住居址が検出されている。また、白倉C区で2基、天引地区で2基の方形周溝墓が調査された。方形周溝墓は、いずれも赤井戸式を伴う古墳時代初頭に位置付けられよう。なお、赤井戸式を伴う段階の土器群と石田川式土器は共伴していない。



天引C区弥生時代住居址

(4) 古墳時代

古墳時代前期から古墳時代後期にかけて、竪穴住居址（前期23軒・中期8軒・後期154軒）・粘土探掘坑・土坑が検出された。ほぼ全時期にわたって竪穴住居址は検出されているが5世紀後半の住居は検出されていない。この中で、前期～中期の遺構及び遺物の具体的な内容は、本報告書と同時に刊行される『白倉下原・天引向原遺跡Ⅲ』（右島1994）に拠りたい。古墳時代後期については、発掘調査終了時のデータを基本としているために、今後の整理作業によって部分的に帰属時期が新しくなる可能性もある。以下に地区別の棟相について述べていきたい。

白倉A区では後期の竪穴住居址79軒が検出された。調査区台地部分のほぼ全域に分布し、半数近くの竪穴住居址が焼失住居と判断された。遺物についてはカマド周辺に土器が遺棄されたと判断されるものが多かった。

白倉B区では、中期の竪穴住居址1軒と後期の竪

穴住居址43軒が検出されている。後期の住居址の中では、15,000点を越す滑石の製品・未製品・チップ等を出土した住居址などが特筆されよう。

白倉C区では、後期の竪穴住居址30軒が検出されている。また、住居址床面上から完形の土鈴が出土した。

天引地区では、竪穴住居址が前期23軒・中期7軒・後期11軒検出されている。この地区は、前期及び中期の竪穴住居址が比較的多く検出されていることが特筆されよう。弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての竪穴住居址もこの地区で多く検出されているが、住居址の分布域は若干異なっている点に注意されよう。稀少性のある遺物として、前期の竪穴住居址から小型仿製珠文鏡が出土している。

後期では約70基の粘土探掘坑が台地の東斜面で多数重複して見つかっている。遺物としては、6～7世紀の土器のほか、木製品が多数出土し、中でも曲物とハシゴは注目されよう。



白倉B区古墳時代後期住居址

II 地理的・歴史的環境発掘区の概要

(5) 奈良・平安時代

調査終了時点で、奈良・平安時代の遺構と認定されたものに、竪穴住居址（奈良時代46軒・平安時代104軒）・土坑・井戸・寺院址などがある。以下に地区別の様相について述べるが、今後の整理作業によって部分的に帰属時期が変更する可能性もある。

白倉A区では、奈良時代の竪穴住居址17軒と平安時代の竪穴住居址13軒が検出された。稀少性が強い遺物として、奈良時代の焼失住居から葦を簾状に組んだもの（60×60cm）が出土している。

白倉B区では、奈良時代の竪穴住居址15軒と平安時代の竪穴住居址20軒が検出されている。住居址の埋没土中から出土した稀少性が強い遺物として、先端が鉤の手状に曲がり歯が交互に反っている鋸や「新井」「田殿」「道」「午」「牛」等の墨書及び刻書土器などがある。他に、特異な遺構として埋没谷で円形の石組遺構が検出されている。土鍾が多数出土していることや、形状から池址と思われる。

白倉C区では、奈良時代の竪穴住居址5軒と平安

時代の竪穴住居址28軒が検出されている。8世紀～11世紀に帰属する遺構及び遺物が検出されており、ほぼ土器型式の連続が調査区内で確認できる。

天引地区では、奈良時代の竪穴住居址9軒と平安時代の竪穴住居址43軒が検出されている。さらに、住居址以外に寺院址と思われる遺構が検出されている。この遺構は東側の舌状台地上で検出され、東側の三途川をのぞむ場所に立地している。南北10m、東西40mの区域を削って平坦面をつくり、その上に長辺10m、短辺5mの雨落溝をコの字状に巡らせている。建物は、雨落溝の内側にあったと想定されるが、残念なことに柱位置を示す痕跡は検出されなかった。また、削平面から南へ約10m離れた10世紀の竪穴住居址の埋没土から、「福天寺」と内面に墨書された須恵器坏と上野国分寺意匠の軒丸瓦が出土している。また、谷地を狭んだ西側の舌状台地では、住居址の埋没土中や周辺からも瓦が出土している。



天引地区平安時代寺院址の削平面と溝

(6) 中近世以降

中世に関連する遺構としては、道状遺構がある。道状遺構は3条検出されているが、いずれも両脇に溝が付随していた。道状遺構のうち、2条は白倉B区内で検出されている。この場合、道幅は約5～6mで調査区を南北に分断するように全長約70m部分が検出されている。また残る1条は白倉A区の南東から白倉B区の北東部にかけて検出されており、調査区を東西に横切るようにして検出されている。道幅は約5～6mで、前述した道状遺構に近似しており、全長約110m部分が検出されている。道状遺構は互いに交わってはいないが、発掘調査区外に延長した場合ほぼ直行することになる。今後の整理作業の中で出土遺物の年代と地籍図などを対照することによって、これらの有機的な関連や存続期間などの興味深い問題が検討されるであろう。他に、中世に関連する遺構としては、白倉C区から火葬に用いられたと思われる土坑から少量の骨片が出土し、白倉B区からは常滑製の陶器を伴った方形の土坑が検出されている。生産地としては、白倉A区と天引C区間の谷津及び天引C区の中央に入る谷津から浅間B軽石によって部分的に覆われた畠が検出されている。

近世に関する遺構は農業生産に拘わるものが多

かった。天引地区では台地の斜面部において3ヶ所から浅間A軽石の灰掻き山が検出された。さらに、その下からそれぞれ畠が検出されている。他の部分では、明瞭な近世の畠の痕跡は検出されていないが、灰掻き山の存在から少なくとも天引地区の台地上においては、浅間A軽石降下時にはかなりの範囲で畠作が行われていたものと思われる。また、天引地区北側の谷津では、浅間A軽石で覆われた水田を調査した。また、白倉A区と天引地区で各1基、農業生産に関連すると思われる桶埋設土坑(木質は残存していなかった)が検出されている。他に、近世に関する遺構としては、墓塚が複数検出されている。その中の1基は、頭部に摺体を被せた状態で検出された。

近代以降は、台地上については大部分が畠地として利用されたようである。今回の調査においても、時期を特定できなかった表土と同じ土壌の耕作溝を多数検出している。また、イモ穴と称される「イモ穴状土坑」もおそらくは近代以降の土地利用痕跡であろう。また、白倉B区を中心にして、きわめて新しい一辺2m程度の方形土坑が多数検出されたが、これは「昭和20年代にリンゴの苗木を植えるために掘った穴である。」と、かつての土地所有者の方からお話を伺った。



天引地区浅間A軽石の灰掻き山と直下の畠址

4 基本層序

白倉下原・天引原遺跡は錦川右岸の上位段丘面に立地している。上位段丘面では基本的に表土層(耕作土)、ローム層、粘土層、礫層の堆積が認められる。表土層中には、1783年(天明3年)に噴出した浅間A軽石(As-A)、1198年(天仁元年)に噴出した浅間B軽石(As-B)を含んでいる。しかし、純層での堆積は確認できなかった。

第I層 黒褐色土層(表土層) 耕作土である。攪拌された浅間A軽石を多く含んでいる。浅間A軽石は純層では認められないが、灰掻き山直下で検出された畠社の畝間では純層で堆積している。浅間B軽石は台地部では認められなかったが、谷部では堆積している部分もある。また、浅間C軽石の堆積はいずれの部分でも認められなかった。

第II層 暗褐色土層 漸移層で、白倉B区とC区の遺構確認面である。縄文時代の遺物包含層でもある。なお、第II層は、白倉B区とC区では存在するが他の地区では、その後の土地利用によって大半が消失していた。

第III層 明黄褐色ローム層 白倉A区及び天引地区の遺構確認面である。堅く締まるローム層で、浅間板鼻黄褐色軽石(As-YP)を多く含む。

第IV層 黄褐色ローム層 III層に比較してやや軟質で、粘性を持つ。浅間白糸軽石(As-SP)の可能性のある白色の軽石を含む。

第V層 黄褐色ローム層 浅間板鼻褐色軽石(As-BP)をブロック状に含む。

第VI層 明黄褐色軽石層 明黄褐色を呈する浅間板鼻軽石(As-BP)の純層で、堅く締まる。

第VII層 灰褐色軽石層 灰褐色を呈するAs-BPの純層で、堅く締まる。

第VIII層 暗褐色ローム層 粘性のあるローム層で下半部ではAs-MPを少量含んでいる。

第IX層 明赤褐色軽石層 明赤褐色を呈する浅間室田軽石(As-MP)の純層である。

第X層 灰白色軽石層 XIと同じAs-MPの純層であるが、粒子は細かい。水成作用によって色調が変化し、下半部では一部粘土化している。

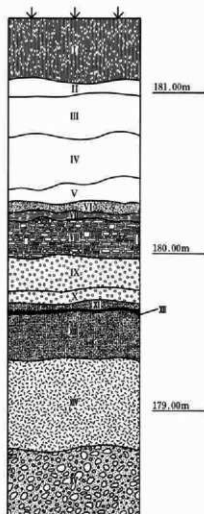
第XI層 暗褐色粘土層 堅く締まる粘土層。

第XII層 乳白色火山灰層 始良 Tn火山灰(AT)の純層である。非常にきめ細かいガラス質の粒子である。

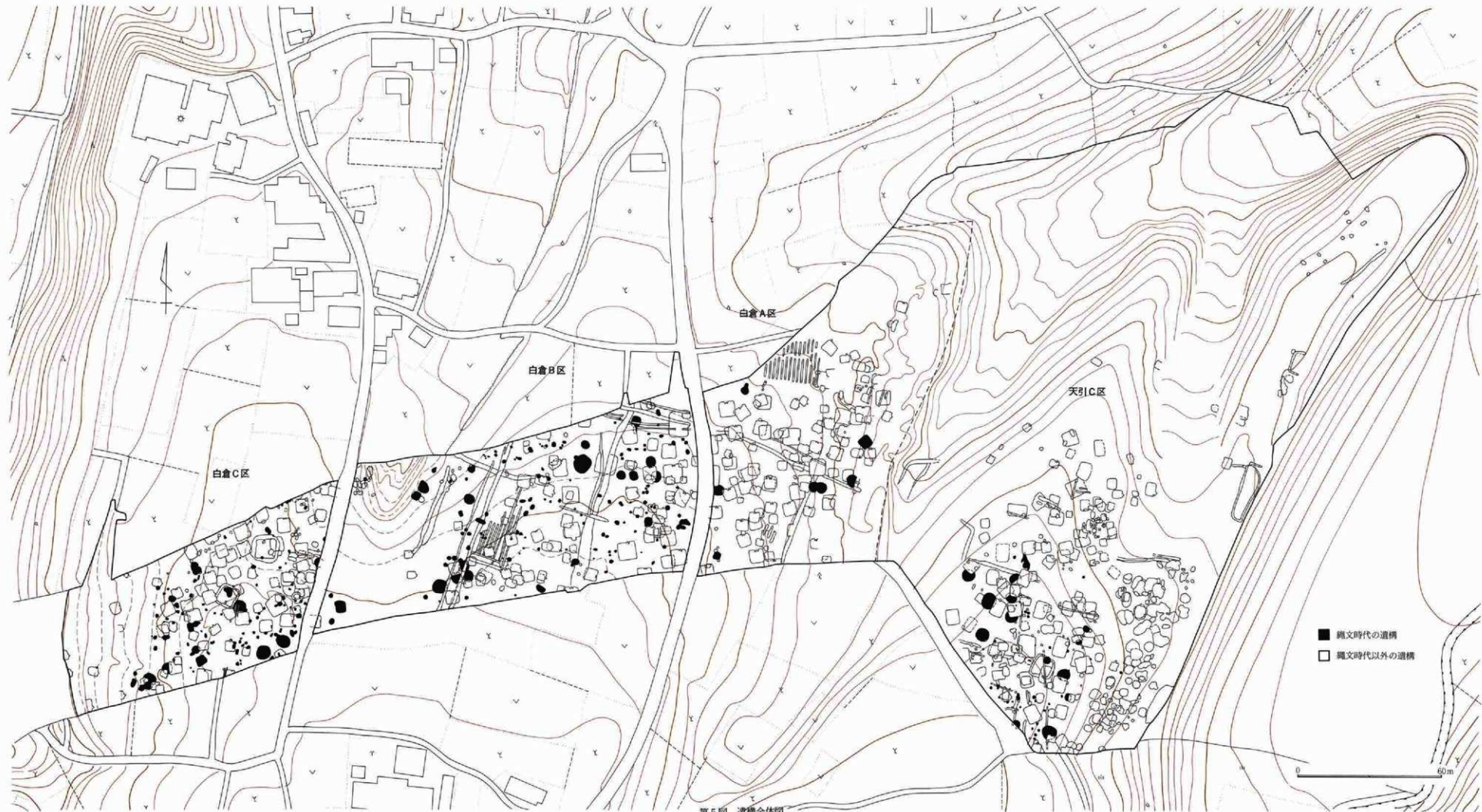
第XIII層 暗褐色粘土層 堅く締まる粘土層で、石器包含層である。平均2cm程の小礫を多く含む。

第XIV層 青灰色粘土層 きめ細かい粒子で構成される。

第XV層 礫層 礫は比較的小型のものを主体とし、礫層は結晶片岩とチャートを主体とする。



第4図 基本層序



第5図 遺構全体図

III 縄文時代の遺構と遺物

1 遺構と遺物の概要

はじめに

今回の調査では、多くの縄文時代に帰属する遺構や遺物が検出された。発掘調査によって検出できた遺構の多くは、掘り込みが確認できたために比較的容易に検出できた土地利用痕跡であった。それでは、今回検出できた遺構だけが縄文人の土地利用痕跡であったのかというと、必ずしもそうとはいききれない。その理由の一つとして、縄文時代の遺構のいくつかは弥生時代以降の土地利用によって消滅してしまったり想定されるからである。そのような目で遺構全体図（第5図）を眺めると、よくも縄文時代の遺構が破壊されずに残ったと思うような場所さえ存在する。また、もう一つの理由として、掘り込みをもたない（あるいは確認しづらい）居住痕跡が果して存在しなかったのかという疑問を拭きることができないことがある。このような、発掘調査中においてはわからない、いわば目に見えない土地利用痕跡の存在を知る手掛かりとして、どのような情報があるのだろうか。その一つに、各時代（細分型式期）において、どれだけの遺物がどこから出土しているのかという情報があるだろう。今回の報告も、このようなことを念頭において整理作業に取り掛かったのではあるが、現実には弥生時代以降の遺構から出土した縄文時代の遺物については時間的な制約から手をつけることができなかった。怠慢の筋りを免れないものと思っている。そこで、少なくとも縄文時代の遺構出土遺物については、どのような土器がどれだけ出土したのかを表などを用いて明示することにした。

なお、各細分型式期における遺構のありかについては、ここでは概略を記すにとどめ、具体的には図も含めて別項（IV-2 縄文時代の土地利用について）の中で触れていくことにする。また集落遺跡

の様相を具体的に明らかにするための方法の一つとして、遺構間での遺物接合を行った。接合の事実はいずれの遺構の記載によられたいが、別項（IV-1 遺構間の遺物接合について）でまとめて掲載したので併せて参照して欲しい。

また、全体図については検出された遺構全てを掲載したもの（第5図）、縄文時代の住居のみを掲載したもの（第10図）、縄文時代の土坑と埋壙のみを掲載したもの（第165図）を作成した。上記の図にはグリッドを記載できなかったため、他に地区別の縄文時代遺構全体図（第6～9図）も作成した。必要に応じて利用して欲しい。

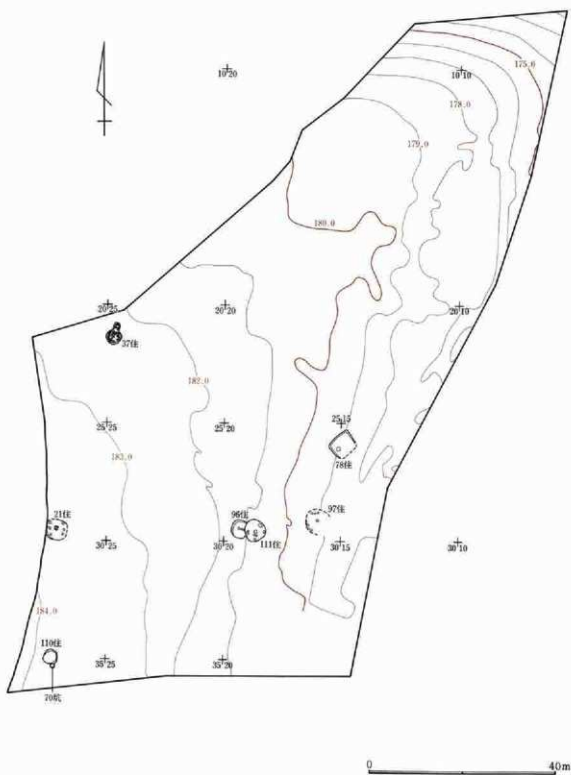
(1) 遺構について

今回検出された遺構の内訳は、住居址43軒、竪穴状遺構1基、埋壙12基、土坑290基である。これら遺構の、時期別の内訳を以下に記載する。

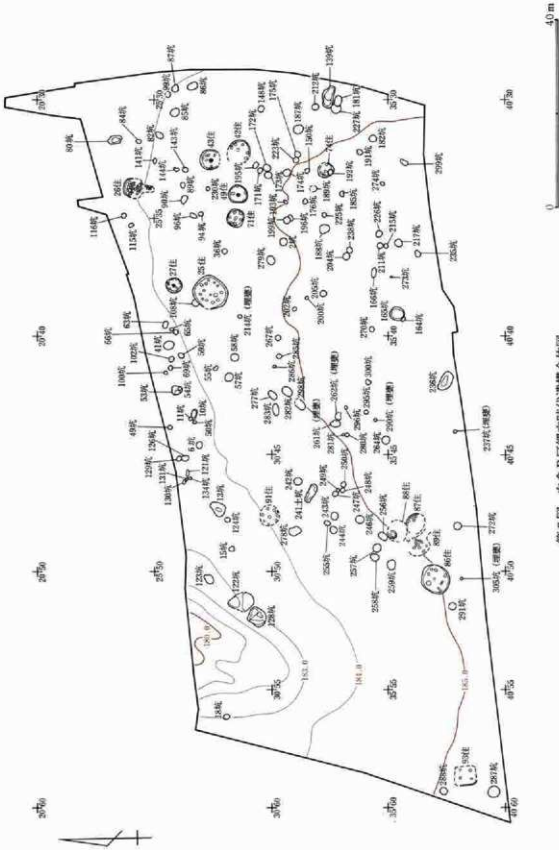
黒浜式期は、住居3軒・埋壙2基・土坑66基である。諸磯式期は諸磯b（新）式を主体として、住居5軒・埋壙0基・土坑3基である。勝坂II式期は、住居4軒・埋壙0基・土坑6基である。勝坂式終末期は、住居14軒・埋壙3基・土坑31基である。加曾利E3式期は、住居7軒・埋壙2基・土坑7基である。加曾利E4式期は、住居2軒・埋壙3基・土坑28基である。称名寺I式期は、住居2軒・竪穴状遺構1基・埋壙0基・土坑11基である。称名寺II式期は、住居2軒・埋壙1基・土坑8基である。堀之内I式期は、住居4軒・埋壙0基・土坑7基である。堀之内2式期は、住居0軒・埋壙1基・土坑13基である。以上、いささか繁雑となったが、上記以外の縄文時代の土坑については、細分型式期が特定できなかった。

このように多くの遺構が重層的に検出されているわけだが、時期別に記載すると実は一時期はそれほど多くないことがわかる。遺構は前期中葉～後期前

III 縄文時代の遺構と遺物



第6図 白倉A区縄文時代遺構全体図



第7図 白倉B区縄文時代遺構全体図

III 縄文時代の遺構と遺物

半のある段階に別れて検出されているのだが、住居検出軒数の多い加曾利E3式期や勝坂式終末期も重複関係などから必ずしも一時期の住居址軒数を示してはいない。

それでは、時期別における遺構分布について簡単に述べておきたい。黒浜式期は白倉C区と隣接する白倉B区の西側に集中的に検出されている。諸磯式期は特定地区に集中することなく、調査区全体に散漫に分布している。勝坂II式期は白倉C区と天引C区に分布する。勝坂式終末期は、勝坂II式期と同様の分布傾向をもつ。加曾利E3式期は白倉B区中心に分布する。加曾利E4式期～堀之内2式期までは、加曾利E3式期と同様の分布傾向をもつ。各時期において遺構の分布地域が異なったり同じであったりすることが興味深い事実といえよう。

(2) 遺物について

今回の報告においては、前述した理由により遺構外出土遺物及び他時期遺構内の縄文時代遺物について積極的に資料化できなかった。縄文時代の遺構内出土遺物については、全ての遺物について調査時に出土位置を記録できればよかったのであるが、残念ながら任意で取り上げてしまっているものも多い。そこで、各個別遺構の事実記載においては、一括して取り上げた土器及び石器類の点数を記載しておいた。また、出土位置を記録したものについては、遺物の図化にかかわらず遺構の平面図及び断面図にドットとして落とした。不十分な記載方法とは思うが、ご寛容戴きたい。

土器 今回の報告にあたって、対象とした縄文土器の数量は、住居出土6,811点(内訳は第2表住居出土土器一覧表を参照)と土坑(埋甕を含む)出土9,503点(内訳は第11～14表土坑出土遺物一覧表を参照)、合計16,300点であった。ここでは、今回の報告に際して使用した土器型式及びその細分について説明しておきたい。なお、出土していない時期については触れない。

前期 黒浜式については細分せずに記載した。もともと、全て一時期というわけではなく、有尾式系土器を含む段階において、ある程度の時間的幅をもっているようである。なお、本文中で黒浜式と使用する場合は、特にことわりがない限り有尾式系土器も含んで使用している。諸磯式については、今村啓爾(今村1982)の編年観によった。

中期 勝坂式については勝坂I式～勝坂III式の記載方法を用い、それぞれおおまかに井戸尻編年の猪沢・新道式、藤内式、井戸尻式に対応させて考えた。なお、阿玉台式については阿玉台II式しか出土しておらず、統計によって数値として表している場合は便宜的に勝坂II式に含めて処理してある。なお、本文中で勝坂式終末期という名称を多用したが、この場合は勝坂III式～加曾利E1式までの年代幅のある時期を指し示す用語として使用した。加曾利E式土器の編年及び記載方法については、群馬県内で積極的にこの段階について発言している石坂・藤巻・桜岡(石坂・藤巻1988、桜岡・藤巻1992など)の編年観によった。なお、曾利式系土器や連瓦文土器については、観察表中にその旨を記載した。

後期 称名寺式については、2細分で称名寺I式、同II式の記載方法を、堀之内式についても2細分で堀之内1式、同2式の記載方法をとった。なお、本文中で加曾利E式系土器という名称を多用しているが、これは石坂・藤巻・桜岡が使用した例(石坂・藤巻・桜岡1991)と同様に、称名寺式の古い段階に伴う加曾利E式土器の系譜を引く土器群として使用した。

石器 今回の報告では、遺構内から出土した石器については原則的に全て図化して記載している。発掘調査終了後、整理作業に至る過程の中で、石器を中心として一部不明となってしまったものがあるが、その旨は各遺構の事実報告の中で触れ、今後の整理の中で資料化していきたいと思っている。なお、本文中で石器類という用語を多用しているが、この場合には石器の他にフレイク・チップ・礫を含めた

意味で用いている。さて、ここでは、凡例について記載しなかった石器の表現と記載方法について若干の説明をしておきたい。

まず、凹み石及び多孔石に見られる凹み穴についてであるが、堅果類の粉碎によって結果的についたと思われる穴と、穿孔を目的としてついたと思われる断面三角の穴については、それぞれ凹み穴A、凹み穴Bと呼称して実測図の表現方法を変えた。

打製石斧に顕著に見られた使用による擦痕については定規によって斜線表現を行った。また、磨製石斧に見られた製作時の擦痕についても同様の表現を行っている。

定形的ではない打製石器については、使用痕のある石器、加工痕のある石器の名称を使用し、その中でスクレイパーについては観察表にその旨を記載した。

自然面については、結晶片岩については節理を表現し、他の石材についてはドットをまばらに散らしてある。敲打痕についてもドットを用いて表現しているため多少まぎらわしいが、敲打痕についてはドットを集中させ、加えて他の不定形な線も加えているので識別が可能と思う。なお、本文中で用いる結晶片岩の名称は、広義の意味で用いており、観察表中に記載した緑色片岩・黒色片岩・雲母石英片岩の総称である。

2 住居址

今回検出された住居址は、43軒である。また、調査時に住居址とした白倉A区110号住居は便宜上この項で取り扱ったが、堅穴状遺構であり、住居址の数には加えていない。これら遺構の、時期別の内訳は、出土土器とともに第2表に掲載したが、黒沢式期3軒、諸磯式期5軒、勝坂II式期4軒、勝坂式終末期14軒、加曾利E3式期7軒、加曾利E4式期2軒、称名寺I式期2軒、称名寺II式期2軒、堀之内1式期4軒である。住居址は、加曾利E4式～堀之内1式期の10軒中8軒が敷石住居の系譜を引くが、

他の住居址は堅穴式住居である。また、他に加曾利E4式期の敷石住居の可能性のある遺構として、白倉B区261・262号土坑(埋壘)がある。参照して欲しい。

出土石器については時期別一覧表として第3表に一括して掲載した。また、全体図については、住居址全体図として第10図を、土坑と埋壘を含めた地区別全体図を第6～9図として作成したので併せて参照して欲しい。

さて、以下に個別住居址の報告にあたって留意したことについて述べておきたい。なお、個別住居址の記載や各キャプションについては、繁雑さ避けるために「白倉A区21号住居」のように記載する。

事実記載は項目をたてて順次記載していった。その項目は、位置、写真、形状、面積、方位、床面、埋没土、炉、柱穴、埋壘、壁周溝、遺物、重複、備考である。必要に応じて他に、調査に至る経過を追加し、また、他の項目で触れた内容や、検出されていない住居内施設については項目を除いて記載している。

位置については、その住居址が検出されたグリッドの中で一つを代表させて用いた。

遺物の項目では出土遺物数と、土器には時期別の内訳を記載していった。また、極力出土状態の事実を記載するように心掛けたつもりであるが不十分な点も多い。遺構内及び遺構間の接合事例は、整理作業の過程で確認できたものを全てを、住居平面図及び断面図に掲載した。また、時間の関係から図化できなかったものの接合関係が確認できた遺物については、接合資料としてアルファベットの小文字を付けて住居平面図に掲載した。

備考では、住居の時期を記載するようにした。住居の時期といった場合、住居の構築、存続、廃絶、さらに埋没時といったように、いくつかのステージが存在している。今回の報告では、埋没している土器型式から想定される廃絶後の一番新しい段階という意味で使用した。

III 縄文時代の遺構と遺物

第2表 住居出土土器一覧表

	住居 番号	時 期	黒 浜 式	磨 磯 a 式	磨 磯 b (新) 式	磨 磯 c 式	磨 磯 II 式	磨 磯 式 終 末 期	加 曾 利 E 3 式	加 曾 利 E 4 式	称 名 寺 I 式	称 名 寺 II 式	堀 之 内 I 式	堀 之 内 II 式	不 明	土 師 器 類 推 察	計
白倉A区	21	加曾利E3式期	0	0	0	0	0	0	425	0	0	0	0	0	0	0	425
#	37	堀之内1式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	0	0	0	31
#	78	磨磯b(新)~c	0	0	18	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
#	96	堀之内1式期	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	56	0	0	0	57
#	97	称名寺II式期	0	0	7	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	22
#	111	磨磯b(新)式期	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
白倉B区	25	磨磯b(新)式期	2	0	45	0	0	0	3	1	0	1	15	18	9	0	94
#	26	称名寺I式期	0	0	0	0	0	0	1	120	9	0	0	0	0	0	130
#	27	加曾利E3式期	0	0	1	0	0	0	565	0	0	0	1	0	0	0	567
#	42	加曾利E3式期	0	0	0	0	0	0	295	0	0	0	1	0	5	301	
#	43	加曾利E3式期	0	0	0	1	0	396	0	27	0	0	0	0	0	0	424
#	49	加曾利E3式期	1	0	0	0	0	109	0	4	0	1	0	0	0	0	115
#	71	加曾利E3式期	0	0	0	0	0	407	0	0	5	0	2	0	0	0	414
#	74	称名寺I式期	0	0	0	0	0	0	0	140	4	0	0	0	1	145	
#	86	磨磯b(新)式期	75	9	199	0	20	2	0	28	0	0	0	0	0	0	333
#	87	加曾利E3式期	1	0	0	3	0	171	2	0	7	0	0	0	4	188	
#	88	加曾利E4式期	0	0	0	0	2	2	97	0	1	0	0	0	1	103	
#	89	加曾利E4式期	0	0	1	0	0	0	80	0	0	1	0	0	0	0	82
#	91	称名寺II式期	0	0	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0	0	0	10
#	93	黒浜式期	119	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	121
白倉C区	76	堀之内1式期	10	0	0	0	0	12	0	0	0	0	199	0	0	0	221
#	77	堀之内1式期	75	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	0	0	0	108
#	78	黒浜式期	141	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	142
#	80	磨磯式終末期	4	0	0	0	0	164	0	0	0	0	0	0	0	0	168
#	81	磨磯式終末期	40	0	4	0	0	243	0	0	1	0	3	0	0	0	291
#	82	磨磯式終末期	29	0	2	0	0	242	0	0	0	0	0	0	0	0	273
#	84	磨磯式終末期	9	0	2	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	33
#	85	磨磯式終末期	51	0	0	0	1	462	0	0	0	0	0	0	0	0	514
#	86	黒浜式期	83	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	84	
天引C区	59	磨磯II式期	0	0	0	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0	0	51
#	78	磨磯式終末期	0	0	0	0	1	15	0	0	0	0	0	0	0	0	16
#	101	磨磯式終末期	0	0	1	0	0	303	0	0	0	0	0	0	0	0	304
#	103	磨磯式終末期	0	0	2	0	9	647	0	0	0	0	0	0	0	0	658
#	104	磨磯式終末期	0	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	0	18
#	118	磨磯式終末期	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	0	0	22
#	125	磨磯式終末期	0	0	0	0	0	43	0	0	0	0	0	0	0	0	43
#	127	磨磯式終末期	0	0	0	0	2	30	0	0	0	0	0	0	0	0	32
#	129	磨磯II式期	0	0	0	0	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53
#	134	磨磯II式期	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
#	138	磨磯式終末期	0	0	1	0	3	46	0	0	0	0	0	0	0	0	50
#	144	磨磯式終末期	0	0	0	0	1	116	0	0	0	0	0	0	0	0	117
#	147	磨磯II式期	1	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
#	150	磨磯II式期	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
計			641	13	293	2	166	2389	2374	300	183	69	340	22	9	12	6813

第3表 住居出土石器 時期別一覧表

黒浜式期

地 区	住居 番号	石 鏃	打 石	製 斧	スクレ イバー	磨 石 磨 石 西み石	多孔石	垂 飾	その他	合 計
白倉	B区 93	0	0	2	4	1	1	1	9	
白倉	C区 78	1	1	1	1	0	0	1	5	
白倉	C区 86	0	0	0	2	1	0	0	3	
合 計		3	1	1	3	7	2	1	17	

諸磯式期

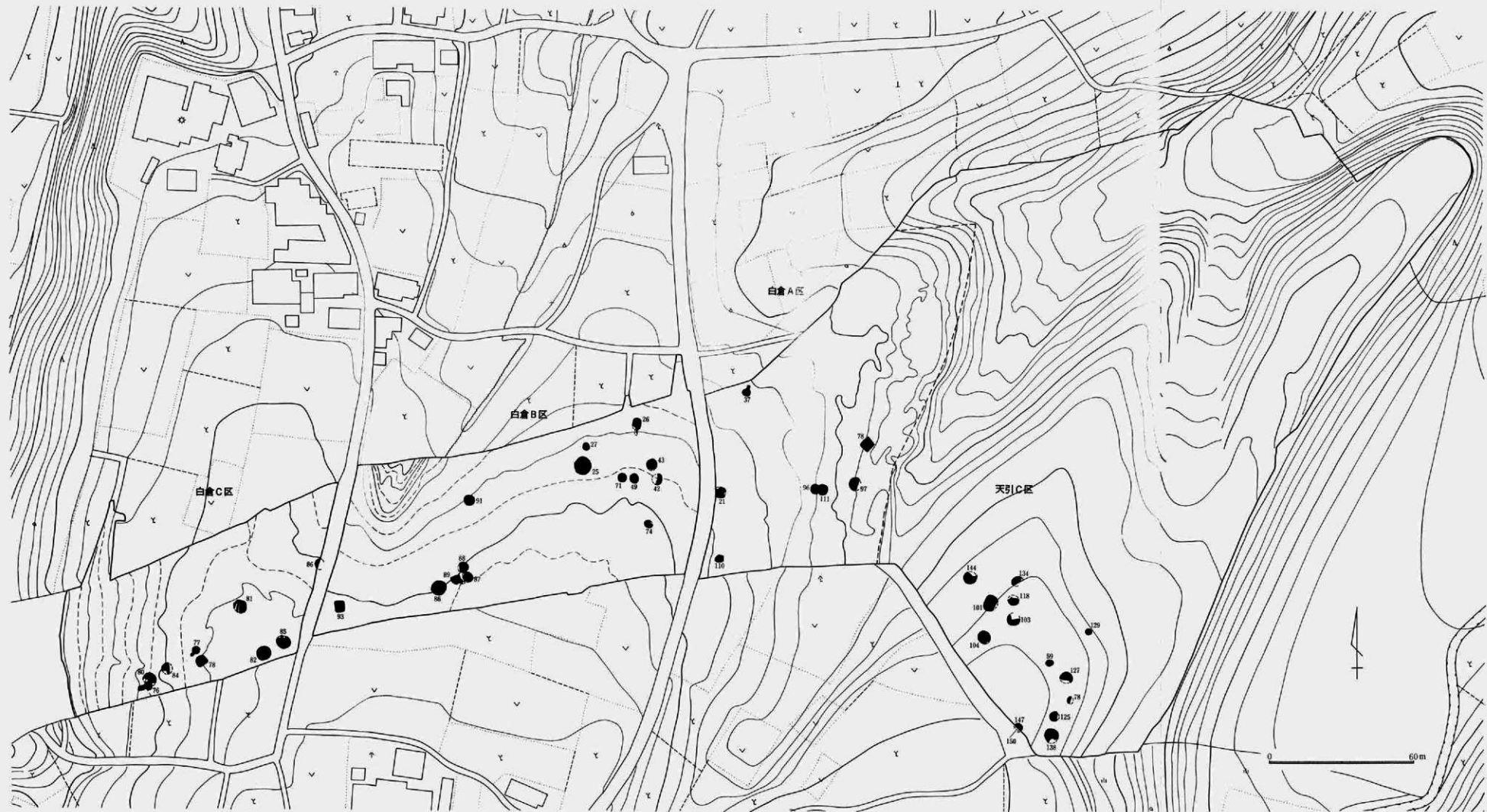
地 区	住居 番号	石 鏃	石 匙	打 石	製 斧	スクレ イバー	磨 石	製 斧	磨 石 西み石	多孔石	石 皿	石 核	瑇 耳	状 態	その他	合 計
白倉	A区 78	0	0	0	4	1	1	0	0	0	0	0	1	0	7	
白倉	A区 111	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	
白倉	B区 25	3	1	2	2	0	1	2	0	1	2	0	1	0	15	
白倉	B区 86	1	2	1	0	0	7	2	1	0	0	0	2	2	16	
天引	C区 134	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合 計		5	4	3	3	6	1	10	4	1	2	1	5	40		

勝坂Ⅱ式期

地 区	住居 番号	石 鏃	打 石	製 斧	スクレ イバー	その他	合 計
天引	C区 59	0	0	2	0	2	2
天引	C区 129	1	2	0	1	4	4
天引	C区 147	0	0	0	0	0	0
天引	C区 150	0	1	0	0	1	1
合 計		4	1	3	2	1	7

勝坂式終末期

地 区	住居 番号	石 鏃	石 匙	打 石	製 斧	スクレ イバー	磨 石	製 斧	磨 石 西み石	多孔石	石 皿	台 石	その他	合 計
白倉	C区 80	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	
白倉	C区 81	0	1	1	3	1	2	5	0	0	0	0	13	
白倉	C区 82	0	1	2	5	0	0	2	1	0	0	0	11	
白倉	C区 84	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	3	
白倉	C区 85	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	4	
天引	C区 78	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	
天引	C区 101	0	0	5	2	1	1	2	1	1	0	1	13	
天引	C区 103	1	1	8	3	0	2	0	0	1	4	20		
天引	C区 104	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2		
天引	C区 118	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3		
天引	C区 125	0	0	1	2	0	0	0	1	0	0	4		
天引	C区 127	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2		
天引	C区 138	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	3		
天引	C区 144	3	1	1	0	0	3	0	0	2	1	11		
合 計		14	5	5	20	21	3	11	13	7	4	5	94	



第10图 魏文时代住居址全体图

白倉A区21号住居

位置 29-27地 写真 PL4・65

形状 住居の壁が南西隅を除いて検出できなかったために、全体の形状は確認できなかったが、南西隅の形状から隅丸方形を呈すると思われる。想定しうる軸長は、P5と南西壁との距離が他の支柱穴においても同様であると仮定すれば長軸(4.40)m、短軸(4.31)mを呈すると思われる。

面積 (16.37)m²を呈すると思われる。

方位 炉の長軸はN-14°-Eで、炉と埋壺の中心を結ぶ方位はN-3°-W、住居長軸の方位はN-8°-Eである。

床面 南西隅ではロームを最大5cm掘り込んで床面としている。遺構確認面から床面までの深さは最大15cmであった。支柱穴の内側では堅固な床面が検出でき凹凸も認められたが、他の部分では堅固な面

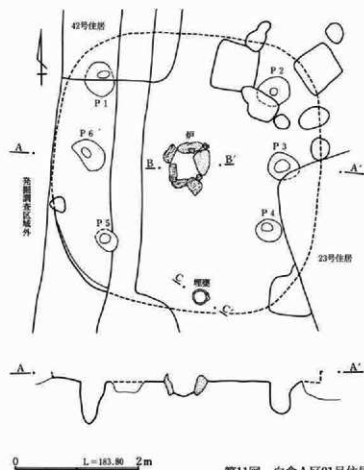
は検出できなかった。

埋没土 暗褐色土を主体としてローム粒子を含む土層である。住居縁辺ほど含まれるローム粒子の量が多い。

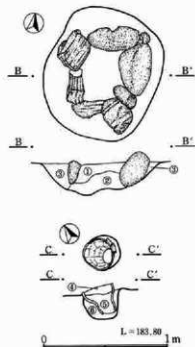
炉 大小8個の砂岩及び結晶片岩を方形に配置する石囲炉である。炉石の内側は熱によって変色しており、ひび割れを生じているものもあった。炉の内側は長辺40cm、短辺31cmで24cmの掘り込みをもつ。掘り方は、ほぼ隅丸長方形を呈し長辺101cm、短辺84cmであった。

柱穴 6本の支柱穴が検出できた。各柱穴の規模：(径)×深さは、P1(54)×(48)×68cm、P2(55)×(45)×73cm、P3(55)×(44)×44cm、P4(40×34)×53cm、P5(36×32)×48cm、P6(58×36)×65cmである。

埋壺 住居南壁(推定)近くの中央部で検出され、



第11図 白倉A区21号住居



- ①暗褐色土 焼土粒子を少し含む。
- ②褐色土 ロームブロックを主体とし、焼土粒子と炭化粒子を含む。
- ③暗褐色土 焼土や炭化物をまったく含まない。炉の掘り方。
- ④暗褐色土 白色粒子を含み堅く締まる。
- ⑤褐色土 ローム粒子を含み堅く締まる。④層よりも締まりは強い。
- ⑥暗褐色土 Y.P粒子を含み締まり強い。

III 縄文時代の遺構と遺物

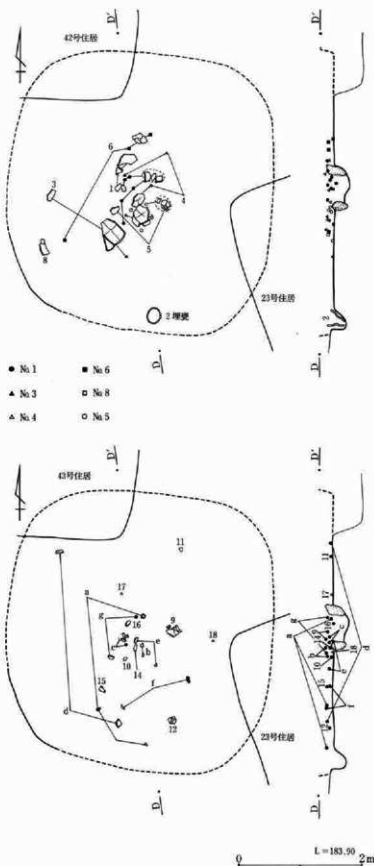
北西方向に少し傾斜する状態で埋設されていた。剩下半部を欠損した土器(2)が使用されている。

遺物 土器は加曾利E3式土器425点が出土した。この中で87点の小片と発掘調査以前の重機及び水道管埋設に伴う攪乱から出土した154点は一括して取り上げた。出土土器の分布は住居中心から北寄りにかけてであるが、比較的広範に接合関係が見られる。また、本住居を切る42号住居出土土器と1・4・6・7が接合する。さらに、

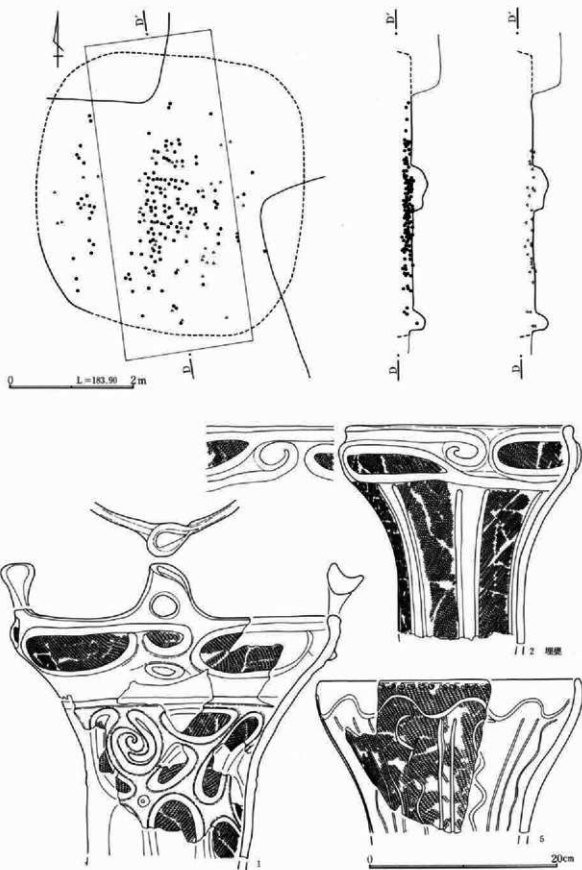
炉の埋設土層と床面直上から出土した土器との接合関係も見受けられる(1・8・h)。接合資料a～gは深鉢で、a・b・eが口縁部片、cが底部片、d・e・fが胴部片であった。以上のような出土状況から住居廃絶後の早い段階(炉が完全に埋設せず、しかも住居縁辺の埋設も進んでいない状況)で石器類も含め大小の土器片が一括して廃棄された状況が想定できよう。石器類は炉石も含め78点が出土した。(遺物観察表:51頁)

重複 古墳時代後期の23・43号住居に切られる。また、南北に水道管埋設による溝が走り、調査前の重機による方形の攪乱が存在する。さらに、浅間A軽石を含む柱穴状のピットが検出されている。

備考 埋壙及び出土土器の様相から加曾利E3式期の竪穴式住居といえる。

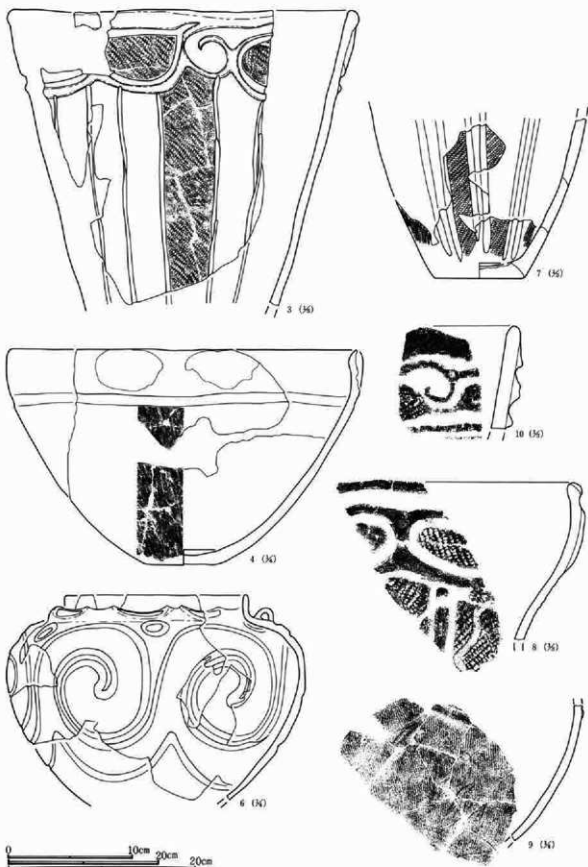


第12図 白倉A区21号住居遺物接合図

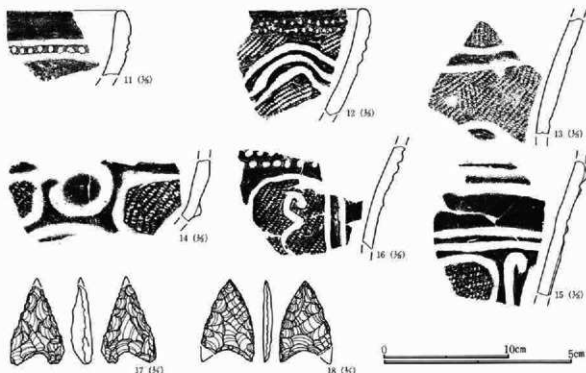


第13図 白倉A区21号住居遺物出土状態と出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第14図 白倉A区21号住居出土遺物(2)



第15図 白倉A区21号住居出土遺物(3)

白倉A区37号住居

位置 21-24他 写真 PL5・66

形状 主体部は各辺が胴張り状にふくらむ隅丸方形で、柄部は隅丸長方形である。長軸4.51m、短軸2.96mと規模の小さい柄鏡形(敷石)住居である。

面積 8.74m² 方位 N-16°-E

床面 地形が南から北に緩やかに傾斜している場所に住居が立地するために、南側ではロームを最大10cm掘り込んで床面とするが、主体部の北側及び柄部の北側と東側では僅かな立ち上がりしか検出できなかった。床面は全体に堅固であり、凹凸も認められる。

配石 141個の石を用いている。傾向として周縁部には大形で厚みのある砂岩を用い、その内側に大形の結晶片岩と円礫及び棒状の礫を配置している様子が看取できる。主体部には、壁から約20~30cmの間には石を配さない区域がある。また、炉を中心として半径約50cmの部分には炉の東側を除けば石を配していない。また、各石の上面が必ずしも平坦とはなっておらず石が検出された高さも床面直上から床上15cmまでと一定していない。柄部では、床面直上から

検出される石が多かった。

埋没土 暗褐色土を主体としてロームブロックを僅かに含んでいた。

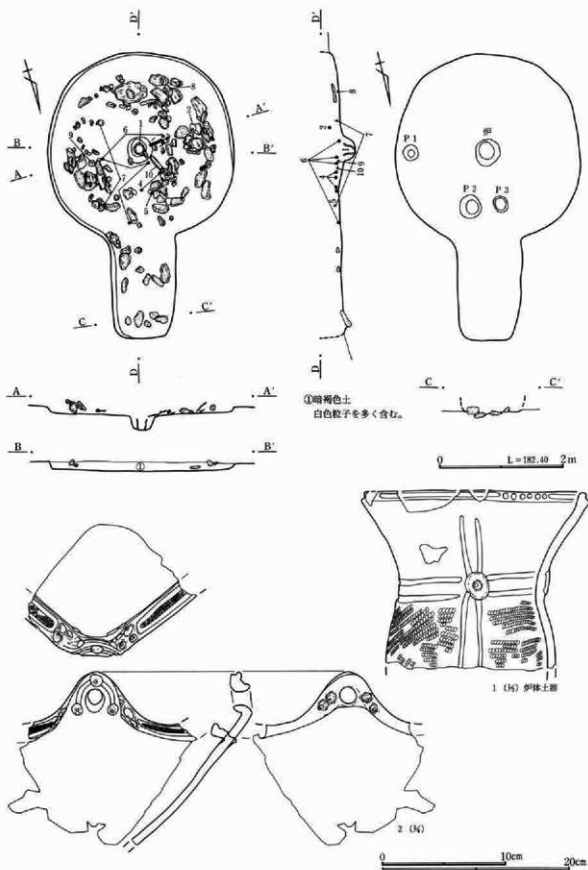
炉 主体部のほぼ中央で検出された。直径40cm、深さ5cmで鍋底状を呈し、その中央に胴下半部が欠損した深鉢(1)が埋設される埋燵炉である。炉の上側では部分的に焼土が確認できた。掘り方は平面形状は同じで深さ22cmであった。

柱 穴 掘り方調査として床面を掘り下げたところ3本検出された。規模：《径》×深さは、P1《25×23》×20cm、P2《35×34》×33cm、P3《26×22》×33cmであった。なお、結果的に掘り方はなかった。

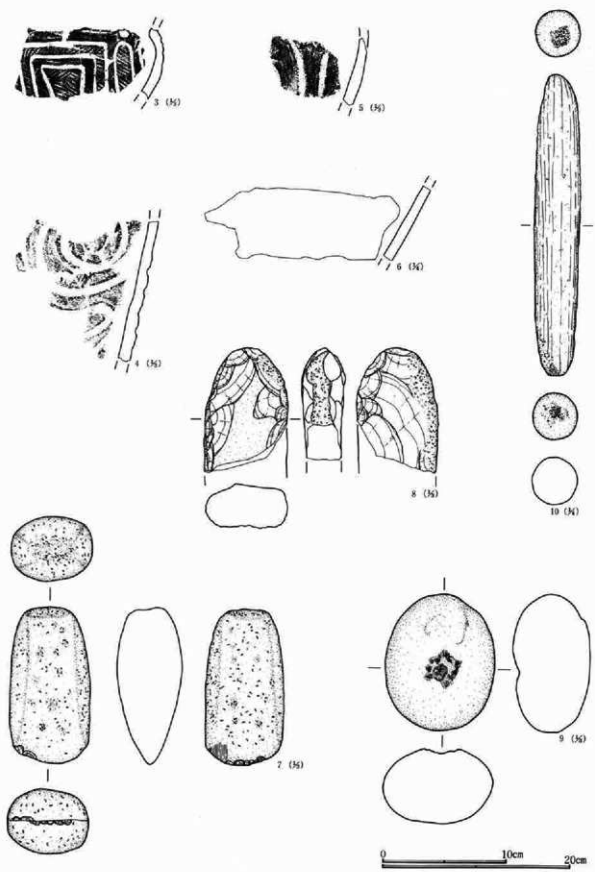
遺物 縄文土器31点が出土し、この中で17点の小片は一括して取り上げた。大半が堀之内1式で一部に称名寺Ⅱ式に遡る可能性があるものも存在する。出土した土器片は配石と一体化しており6の一部は配石下から出土している。石器は図示した4点が出土した。いずれも配石の一部を構成するものと考えられる。(遺物観察表：51・52頁)

備考 炉土器及び埋没土中の土器が堀之内1式であり、当該期の柄鏡形(敷石)住居といえる。

III 縄文時代の遺構と遺物



第16図 白倉A区37号住居と出土遺物(1)



第17图 白倉A区37号住居出土遺物(2)

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉A区78号住居

位置 25-14地 写真 P.L6・66

形状 南東壁を削平により消失するが、隅丸長方形を呈し、長辺は5.16m、短辺は南隅が残存していることから(4.02)mを呈すると思われる。

面積 (19.96)㎡ 方位 N-46°-E

床面 地形が北西から南東に緩やかに傾斜している場所に住居が立地するために、床面も同様の傾斜を示す。ロームを最大22cm掘り込んで床面とするが、前述した傾斜のために住居西隅壁部分と東隅(推定)壁部分の床面では18cmの比高を有する。床面は全体に堅固であり、凹凸も認められる。

埋没土 ③層はローム質の土壌である。

炉 住居中央から北西に約150cm離れた地点で検出された。長軸70cm、短軸66cmでほぼ円形を呈し14cmの掘り込みを有し2つの土器が埋設される埋燬炉

であった。埋没土中からは炭化粒子が僅かに検出された。また、炉体土器の様相から新(1)旧(6)関係が想定されるが土層からは確認できなかった。

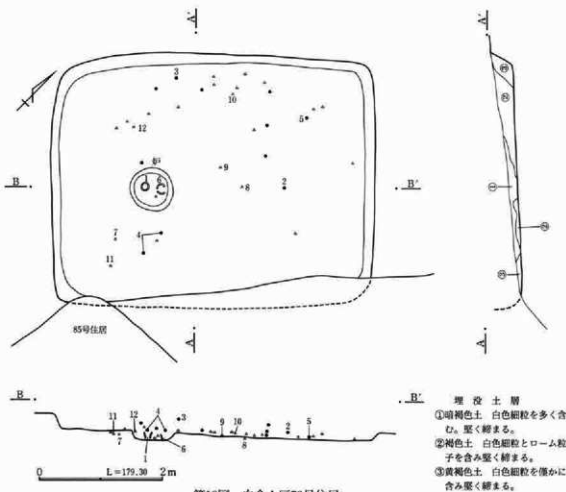
柱穴 5本検出されたが(P.L6参照)記載図面が紛失したために正確な位置と規模は不明である。

遺物 縄文土器20点が出土し、この中で小片7点は一括して取り上げた。大半が諸磯b(新)式であるが一部諸磯c式に含まれる土器(1・3)も出土している。また、貼付文をもつ土器は出土していない。石器類は22点が出土したが、石器は図示したもの以外は出土しておらず、他はフリキと鏝であった。

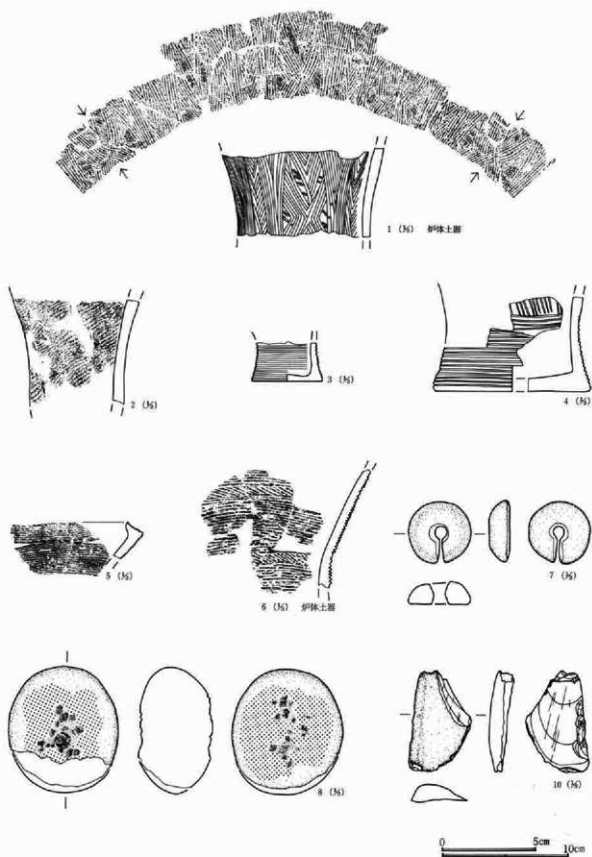
(遺物観察表:52頁)

重複 古墳時代後期の住居である85号住居に切られる。

備考 諸磯b(新)~c式期の竪穴式住居に比定される。

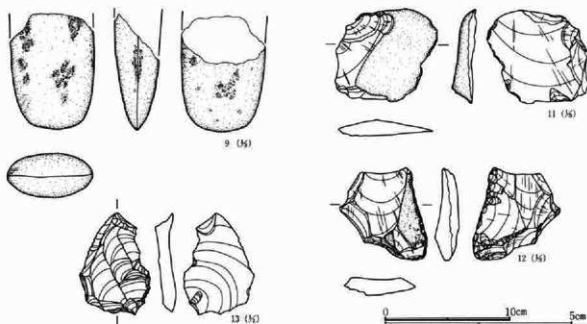


第18図 白倉A区78号住居



第19图 白倉A区78号住居出土遺物1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第20図 白倉A区78号住居出土遺物(2)

白倉A区96号住居

位置 29-19他 写真 P.L.6・7・66

調査に至る経過 表土を除去した段階で数個の礫が確認できたので、配石遺構を想定し石を残しながら調査をすすめたところ、上面に配石遺構が確認でき、さらにその下に新旧2軒の住居が検出された。

配石遺構 新住居の②層上面で検出された。②層が西から東へ傾斜するために、同様の傾斜で石の平坦面を上側にして配置される。25個の被熱した石と2点の堀之内1式土器が出土している。

住居形状 東側が不明であるが、検出された部分から長軸3.96m、短軸(3.30)mの楕円形が考えられるが、柄部の存在も否定できない。また新旧住居の平面形状に差異はなく推定面積は(9.95)m²である。

新住居 西壁でロームを最大42cm掘り込んで床面としている。西壁の周縁においては、礫がまばらながらも床面より浮いた状態で環状に検出された。床面は凹凸があり堅固である。また、床面直上から8点の堀之内1式土器と炭化材2点が出土している。

炉は砂岩及び結晶片岩を各辺内側で約40cmの間隔に配置する方形の石囲炉であったと思われるが、北辺と東辺では地境溝によって破壊されたためか検出されていない。中央に口縁部を欠損する深鉢(1)が埋

設され、その下から深鉢の底部(4)が出土した。炉の方位はN-53°-Wである。また、上面の配石遺構の東側と石囲炉は接した状態で検出されている。

旧住居 新住居の床面から8cm下で凹凸があり堅固な床面が検出された。床面直上から11点の結晶片岩が検出され、さらに同様の高さで5点の堀之内1式土器が出土している。

炉は楕円形の地床炉で長軸122cm、短軸88cmで12cmの掘り込みを有する。数箇所に焼土が観察できた。炉の方位はN-31°-Wである。

柱穴は6本検出できた。規模：〈径〉×深さは、P1〈32×24〉×30cm、P2〈26×24〉×39cm、P3〈24×20〉×32cm、P4〈26×18〉×38cm、P5〈26×26〉×37cm、P6〈22×22〉×55cmである。

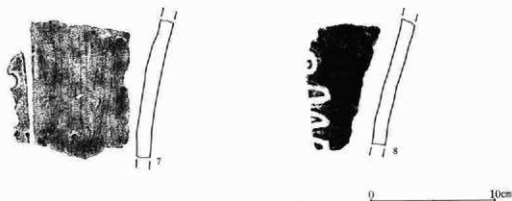
埋没土 全体に炭化粒子の混入が目立つ。

遺物 前述した以外に②③層中から諸磯b(新)式土器1点と堀之内1式土器41点が出土しており一括して取り上げた。なお石器は出土していない。

(遺物観察表：52・53頁)

重複 諸磯b(新)式期の111号住居を切り、古墳時代後期の34号住居に切られる。

備考 配石遺構及び新旧住居のいずれも堀之内1式期に比定されよう。



第23図 白倉A区96号住居出土遺物②

白倉A区97号住居

位置 29-16他 写真 P.L.8・67

調査に至る経過 表土を除去した段階で東側を中心に礫が検出されたことから、遺構と認定して調査を進めた。97号住居の調査に先行して本遺構を切る道路状遺構（1号道）と古墳時代後期の82号住居を調査した。この結果、道路状遺構から97号住居の柱穴（P1とP2）及び炉が検出され、さらに97号住居に使用されたと思われる礫が出土した（P.L.8参照）。同様に82号住居から柱穴（P5とP6）が検出された。さらに、道路状遺構の断面観察から、2枚の床面とそれぞれに対応する炉体土器が確認できたことから、新旧2軒の住居が想定された。以上の所見を基に97号住居の調査を進めた。

形状 検出できた壁は西側の一部だけであるが、柱穴の存在から、直径(4.86)mの円形を呈すると考えられるが、柄部の存在も否定できない。また新旧住居の平面形状に差異はなく推定面積は、直径から(18.54)m²である。方位はN-72°-Wである。

新住居 西壁でロームを最大16cm掘り込んで床面とする。東側では、前述した道路状遺構による破壊があり、さらに地形が西から東に傾斜するために床面を検出できなかった。西壁の周縁では礫がまばらに検出され、中央部では、比較的大きな砂岩や結晶片岩が床面直上及び床面に潜り込むような状態で見つかっている。特に、中央よりやや北側では石の平坦面を上側にして配置されていた。住居に配置された

石は総数42点である。床面は堅固で、中央よりやや南側では焼土化していた。また、検出された床面のほぼ東半分は表土を除去した段階で露出していた。炉は埋壺炉で、4の中に2と3を入子状にして使用している。また、この炉に伴う掘り込みは検出できなかった。新住居からは炉体土器も含め諸磯(b)新式土器7点と称名寺II式土器14点が出土したが、この中で小片15点は一括して取り上げた。なお、柱穴は検出できなかった。①層が新住居覆土。

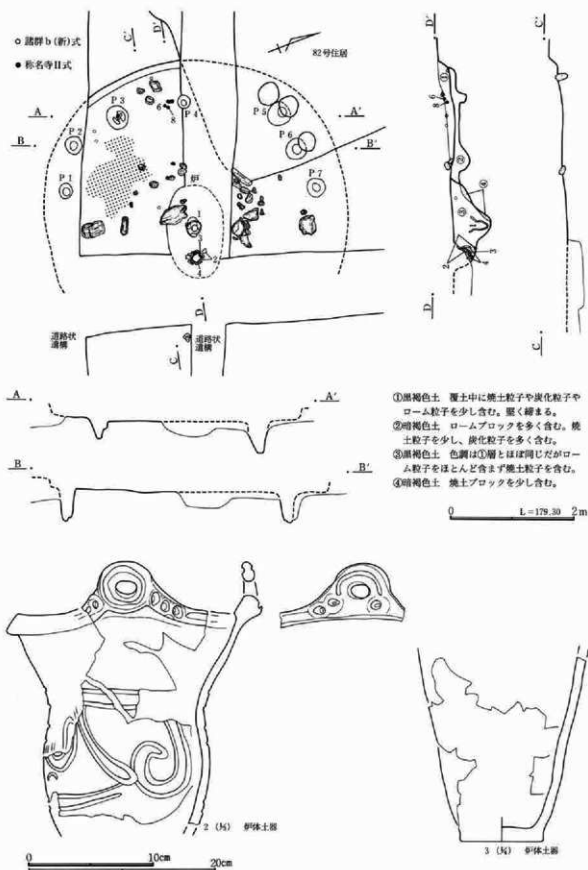
旧住居 新住居の床面下6cmで床面が検出された。覆土中及び床面直上から礫は出土していない。炉は、長軸(148)cm、短軸(90)cm、53cmの掘り込みをもつ埋壺炉で口縁を一部欠損する深鉢(1)が埋設されていた。なお、新住居と旧住居の炉体土器検出面は25cmの比高が認められる。柱穴は7本検出され、規模：〈径〉×深さは、P1(22×21)×(45)cm、P2(28×28)×56cm、P3(38×34)×28cm、P4(21×20)×51cm、P5(36)×34)×(46)cm、P6(32×(32))×(48)cm、P7(30×28)×28cmであった。出土遺物は炉体土器だけである。②～④層が旧住居覆土。

遺物 出土土器については上述した。なお、石器は出土していない。(遺物観察表：53頁)

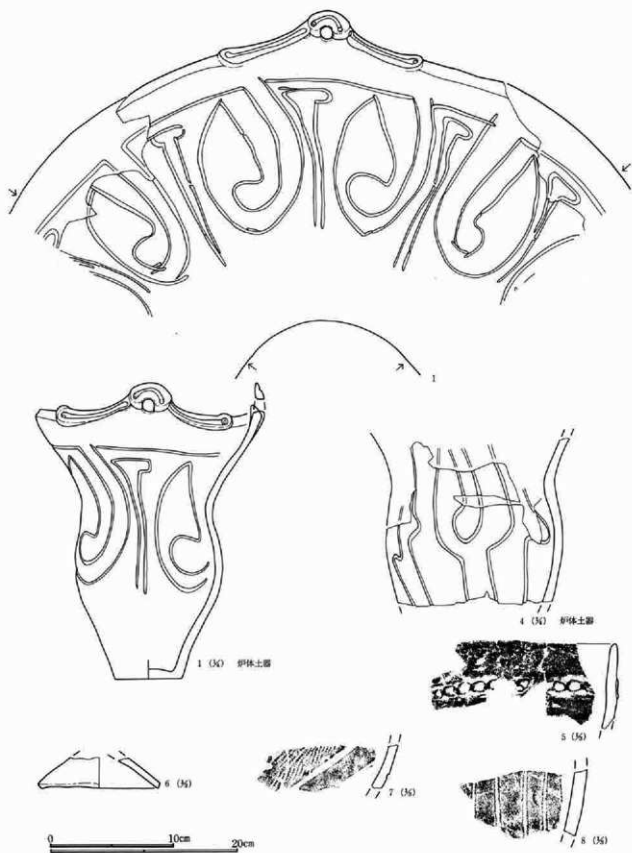
重複 調査に至る経過を参照。

備考 新旧住居ともに炉体土器が称名寺II式であり当該期の壺穴式住居といえる。なお、前述したように、新住居には部分的な敷石が認められた。

III 縄文時代の遺構と遺物



第24図 白倉A区97号住居と出土遺物(1)



第25图 白倉A区97号住居出土遺物(2)

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉A区111号住居

位置 29-18他 写真 P.L.9・67

形状 残存部分の形状から隅丸(長)方形を呈すると思われる。

面積不明 方位 N-56°E

床面 地形が西から東に傾斜している場所に住居が立地するために、西隅ではロームを最大22cm掘り込んで床面とするが、東側では床面の大半を確認できなかった。確認できた部分は堅固で凹凸がある。

埋没土 ローム質の土壌で分層はできなかった。

炉 検出できなかった。

柱穴 8本検出できたが、位置及び形状に規格性を見いだせず、全てが柱穴として機能した可能性は弱いと思われる。規模：(径)×深さは、P1 (66×41)×64cm、P2 (41×36)×47cm、P3 (53×50)×50

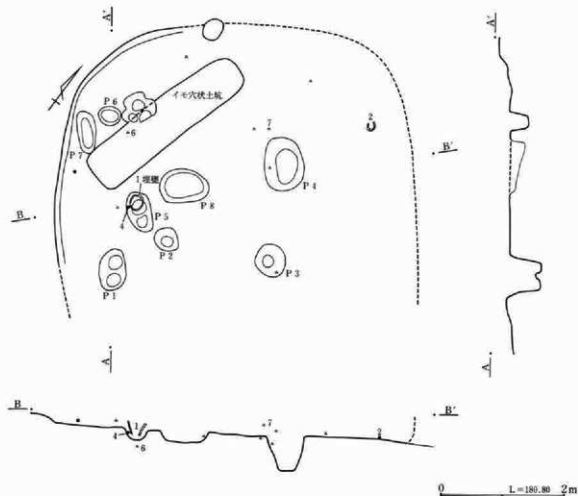
cm、P4 (80×63)×56cm、P5 (35×32)×15cm、P6 (32×28)×18cm、P7 (65×27)×27cm、P8 (79×53)×16cmであった。

遺物 縄文土器は9点が出土したが、この中で5点は一括して取り上げた。文様から諸磯b(新)式と認定できるものが4点で、他は縄文施文と無文の土器であったが、胎土などから同時期と思われる。また、石器類は10点出土したが石器は図示した2点のみである。(遺物観察表：53頁)

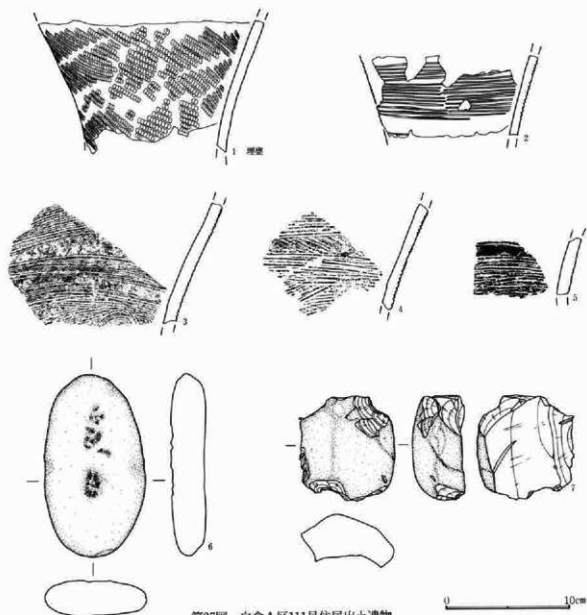
埋 壙 口縁部及び胴部下半を欠損する深鉢(1)が埋設されていた。P5を切り(P.L.9参照)、埋没土には焼土や炭化物を含んではいなかった。

重 複 堀之内1式期の96号住居に切られる。

備 考 埋壙及び埋没土中の土器が諸磯b(新)式であり、当該期の竪穴式住居といえる。



第26図 白倉A区111号住居



第27図 白倉A区111号住居出土遺物

白倉A区110号住居

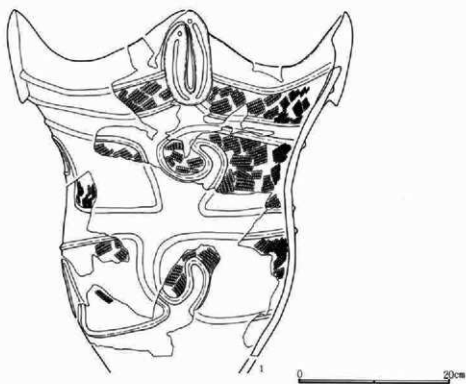
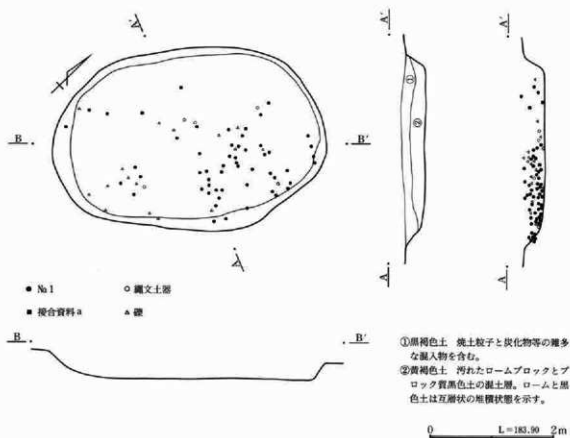
位置 35-27他 写真 PL9・67
 形状 長軸4.32m、短軸2.88mの楕円形を呈する。
 面積 10.13㎡ 方位 N-41°-E
 床面 ロームを最大22cm掘り込んで底面とする。
 埋没土 土層観察の結果から自然堆積とは思われず、人為的な覆土の可能性が高い。
 炉と柱穴 検出できなかった。
 遺物 縄文土器108点が出土し53点は一括して取り上げた。内訳は加曾利E 3式2点、加曾利E 4式～加曾利E式系101点、称名寺II式4点、堀之内1式

1点である。この中で、加曾利E式系53点と70号土坑覆土出土土器3点が接合した(1)。接合資料aは無文の深鉢胴部片である。また石器は出土しなかったが12点の礫が出土した。1の出土状況(接合関係)と埋没土の所見から、土器と土及び礫も含めた短時間の一括廃棄が想定できよう。

(遺物観察表：53頁)

備考 積極的に竪穴式住居とする根拠がなく、出土土器の様相から後期初頭の竪穴状遺構と思われる。

III 縄文時代の遺構と遺物



第28図 白倉A区110号住居と出土遺物

白倉A区21号住居出土遺物(第13~15図, PL 65)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部一部と底部を欠損	①良好 ②鈍い褐色 ③石英と砂を含む	口縁部には、4単位の環状把手を施す。文様の単位は全て4単位で、文様は低い隆帯と凹線によって施され、0段多条の原体R Lの単節斜縄文を充塞する。口径(33.5)。	加曾利E 3式 42号住居と接合
2	口縁~胴部	①良好 ②明褐色 ③雲母粒を多量に含む	口縁部は低い隆帯と凹線によって文様を描出し、胴部には凹線が垂下する。文様の単位は口縁部2単位、胴部8単位。縄文原体はR L Rの複節斜縄文。口径23.5。	加曾利E 3式 埋蔵 内外面の一部灰化物付着
3	口縁~胴部	①良好 ②暗褐色 ③石英を含む	口縁部は低い隆帯及び凹線によって文様を描出した後、縄文を施す。胴部は棒状工具による沈線を下ろさせ、縄文を交互に施す。縄文原体はL Rの単節斜縄文。口径(45.0)。	加曾利E 3式 縄文施文は一部を灰化
4	口縁~底部	①やや不良 ②鈍い黄褐色 ③片岩を多量に含む	口縁部は無文。凹線を巡らした下部に環状工具による条線を施す。口径(37.0)。底径7.8。二次的に被熱して、外面が一部剥落。縄文施文は一部を灰化。	加曾利E 3式 42号住居と接合
5	口縁部一部と胴部残存	①良好 ②鈍い褐色 ③雲母粒を少量含む	口径(27.0)。口縁部には平截竹管状工具による刺突を施す。原体L Rの単節斜縄文の後、棒状工具による沈線と文様を描出し、胴部文様は8単位。	加曾利E 3式
6	口縁~胴部残存	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石英を含む	口径(19.5)。胴部下に環状把手を施す。胴部は棒状工具による沈線と縄文を施す。文様の単位は全て6単位。	加曾利E 3式 42号住居と接合
7	胴部~底部	①良好 ②明褐色 ③片岩を含む	底径7.2。凹線を垂下した後、6段多条の原体R Lの単節斜縄文を施す。内面が一部剥落。42号住居と接合。	加曾利E 3式 覆土
8	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③片岩を少量含む	口縁部は低い隆帯と浅い沈線によって文様を描出し、地文は原体R Lの単節斜縄文。	加曾利E 3式 二次的に被熱
9	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む	低い隆帯に沿って沈線。地文は原体Lの無節斜縄文。	加曾利E 3式
10	口縁部片	①やや不良 ②暗褐色 ③砂を多量に含む	波状口縁。隆帯によって文様を描出したのち、原体L Rの単節斜縄文を充塞。	加曾利E 3式
11	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③雲母粒と片岩を多量含む	棒状工具による浅い沈線と刺突文を口縁部に巡らす。地文に環状工具による縦位の条線。	加曾利E 3式 運弧文系土器か
12	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③雲母粒を多量に含む	口縁部に棒状工具による刺突文。浅い沈線による弧線文。地文は原体R Lの単節斜縄文。	加曾利E 3式 運弧文系土器
13	胴部片	①良好 ②灰黄色 ③砂を多量に含む	棒状工具による浅い沈線ののち、原体L Rの単節斜縄文を充塞。	加曾利E 3式 覆土
14	口縁部片	①良好 ②灰黄色 ③金雲母粒を少、砂を多量含む	隆帯に沿って浅い沈線を描いたのち、原体L Rの単節斜縄文を充塞。	加曾利E 3式
15	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③石英を少量含む	低い隆帯に沿って浅い沈線。原体L R Lの複節斜縄文。	加曾利E 3式
16	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂と砂を多量に含む	原体R Lの単節斜縄文。棒状工具による円形刺突と沈線文。	加曾利E 3式 二次的に被熱

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
17	石鏃	長 < 2.1 幅 1.4 厚 0.6 重 1.3	狭長削片を素材とする。無茎で基部の凹形が強い。先端を欠損する。	黒曜石
18	石鏃	長 < 2.6 幅 < 1.4 厚 0.3 重 0.6	無茎で基部の凹形が強い。縁辺に細かな調整が施される。返しを欠損する。	黒曜石

白倉A区37号住居出土遺物(第16・17図, PL 66)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴部	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を多量に含む	口径16.8。口唇部は沈線を通らし、4単位の刺突文を施す。口縁~胴部は棒状工具による沈線文及び刺突を付した環状の添付文を5単位施す。原体L Rの単節斜縄文を施す。	堀之内1式 炉体土器
2	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を多量に含む	棒状工具による沈線で文様を描出し、わずかな円形隆帯の貼付及び刺突を付す。原体L Rの単節斜縄文を区画内に充塞する。	称名寺日~堀之内1式
3	胴部片	①良好 ②暗赤褐色 ③石英と砂を少量含む	棒状工具による沈線文ののち、原体L Rの単節斜縄文を充塞。	堀之内1式 覆土
4	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③スコリア粒を多量に含む	棒状工具による沈線文。	堀之内1式

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
5	割部片	①良好 ②黄褐色 ③片岩と砂を多量に含む	棒状工具による沈線文。	堀之内1式
6	浅鉢	①良好 ②褐色 ③スコリア粒を含む	無文の浅鉢。	称名寺II-堀之内1式

石器

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
7	磨製石棒	長 12.3 幅 6.4 厚 5.1 重 710.0	ほぼ全面に敲打痕。刃部には磨板及び剥離痕が見受けられる。完成。	珉質頁岩
8	磨製石棒	長 < 9.8> 幅 6.7 厚 3.5 重 390.0	製作途中の欠損品か。縁辺を中心として敲打痕が見受けられる。未製品。	東玄武岩
9	凹み石	長 10.8 幅 8.6 厚 6.1 重 930.0	自然面を多く残す。凹み穴Aが一面にのみ存在する。完成。	細粒安山岩
10	石棒	長 31.8 幅 4.9 厚 5.0 重 1400.0	全面に敲打痕が見受けられ、特に上面及び下面に集中する。完成。二次的に被熱。	緑色片岩

白倉A区78号住居出土遺物(第19・20図、PL. 66)

土器

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	割部片	①良好 ②明褐色 ③砂を含む	原体R.L.の単節斜縄文を施したのち、半載竹管状工具による沈線C式で文様を描出。文様の単位は4単位。二次的に被熱。	沈線C式 粘土土器
2	割部欠残	①良好 ②明褐色 ③片岩を少量含む	0段多条の原体L.R.の単節斜縄文を施す。内面が一部脱落。	沈線b(新)式
3	底部	①良好 ②明黄褐色 ③砂を多量に含む	底径5.6。半載竹管状工具による平行沈線文が施される。	沈線C式
4	割部一底 部欠残	①良好 ②明黄褐色 ③砂を含む	底径(12.2)。半載竹管状工具による沈線文を施す。底部内面に炭化物附着。	沈線b(新)式
5	口縁部片	①良好 ②褐色 ③砂を多量に含む	原体L.L.の単節斜縄文を施したのち、半載竹管状工具による平行沈線。	沈線b(新)式
6	割部片	①良好 ②褐色 ③砂を多量に含む	半載竹管状工具による平行沈線。二次的な被熱により提示した部分のみの提示となったが、本来は一両端状状態で検出された。	沈線b(新)式 粘土土器

石器

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
7	塊状耳飾	長 3.2 幅 3.3 厚 1.2 重 20.0	穿孔は両側よりなされている。磨いて仕上げを行ってあり、厚みがある断面がマボコ状を呈す。完成。	滑石
8	凹み石	長 < 9.8> 幅 8.7 厚 5.7 重 675.0	両面に磨面と凹み穴Aが見受けられる。縁辺に敲打痕は見受けられない。一部を欠損する。	牛伏砂岩
9	磨製石棒	長 < 9.1> 幅 < 6.6> 厚 3.5 重 285.0	敲打痕が一部残存。基部を欠損する。	蛇紋岩 二次的に被熱
10	使用痕のある石器	長 8.0 幅 5.0 厚 1.9 重 52.0	縦長削片を素材とする。両面に使用痕。スクレイパーか。完成。	硬質泥岩
11	使用痕のある石器	長 7.3 幅 8.1 厚 1.7 重 87.5	表面に使用痕。スクレイパーか。完成。	硬質泥岩
12	加工痕のある石器	長 7.2 幅 6.9 厚 2.0 重 74.0	縦長削片を素材とする。スクレイパーか。完成。	硬質泥岩
13	加工痕のある石器	長 2.2 幅 1.9 厚 0.5 重 1.7	縦長削片を素材とする。表面に加工痕。スクレイパーか。完成。	黒曜石

白倉A区96号住居出土遺物(第22・23図、PL. 66)

土器

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部欠	①良好 ②明黄褐色 ③砂を含む	底径5.8。頸部に竹管押捺を付した隆帯を巡らし、胴部に3本垂下する。円形刺突文及び沈線文が施され、文様の単位は3単位。地文は原体L.L.の単節斜縄文。内面に炭化物附着。	堀之内1式 新住居の粘土土器
2	口縁一割 部欠残	①やや不良 ②黄褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	口径(19.5)。文様の単位は2単位か。棒状工具による円形刺突及び沈線文ののち、原体L.R.の単節斜縄文を完成。新住居床面直上出土。	堀之内1式 内面炭化物附着
3	口縁一底 部	①良好 ②明黄褐色 ③砂と砂を多量に含む	口径(7.5)。底径4.3。高さ11.6。胴部に棒状工具による文様が施される。文様の単位は2単位。口縁部及び注口部分及び注口と対になる把手を欠損する。旧住居の床面にもぐり込むような状況で出土。	堀之内1式

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
4	底面	①良好 ②黄褐色 ③砂を含む	底径7.2。無文。外面は縦方向の磨きが施される。	堀之内1式 1の下から出土
5	口縁-胴部片	①良好 ②褐色 ③石英を少量含む	口縁に隆帯を巡らし、棒状工具による刺突を施す。胴部は同一工具による沈線文。旧住居の床面直上から出土。	堀之内1式 7・8と同一個体
6	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線が口縁に高る。	堀之内1式 ②③層から出土
7・8	胴部片	①良好 ②褐色 ③石英を少量含む	棒状工具による沈線文。7は配石遺構中より出土し、8は旧住居の床面直上から出土している。	堀之内1式 5と同一個体

白倉A区97号住居出土遺物(第24・25図、PL 67)

土 器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部写 欠埋	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	口径23.0、底径7.0、高さ31.4。口縁部には一箇所環状の把手を付す。胴部は棒状工具による沈線で4単位文様の地文。胴上平部が二次的に被熱。	称名寺Ⅱ式 炉体土器
2	口縁-胴部片残存	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を少量含む	口径(17.0)、口縁部には環状の把手を付し、円形の貼付文及び刺突、沈線が施される。胴部は沈線文が4単位施されると思われる。	称名寺Ⅱ式 炉体土器
3	胴-底部	①良好 ②鈍い黄褐色 ③スコリア粒を含む	底径17.8。無文。外面縦方向の磨きが施される。内面に反化物付着。	称名寺Ⅱ式 が体土器
4	胴部欠残存	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石英を含む	棒状工具による沈線文。文様の単位は4単位。二次的に被熱。	称名寺Ⅱ式 炉体土器
5	口縁部片	①やや不良 ②淡黄色 ③砂を多量に含む	口縁部下に隆帯を巡らし、その上を押捺。	称名寺Ⅱ式
6	口縁部写 残存	①良好 ②黄褐色 ③砂を多量に含む	口径9.2。内外面共に無文。	称名寺Ⅱ式 二次的に被熱
7	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	棒状工具による沈線文。原形LRの単節斜縄文。	称名寺Ⅱ式
8	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	棒状工具による沈線が重下する。	称名寺Ⅱ式

白倉A区110号住居出土遺物(第28図、PL 67)

土 器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁-胴部	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	口径41.0。口縁は波状を呈し、底部部には、背割り状の沈線及び刺突を付した隆帯を貼付する。口縁-胴部は断面三角の隆帯によって文様を抽出のち、原形LRの単節斜縄文を施す。文様の単位は4単位。	加賀村E式系 70号土坑覆土出土土器と接合

白倉A区111号住居出土遺物(第27図、PL 67)

土 器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③雲母粒を含む	原形LRの単節斜縄文を施す。	諸磯b(新)式 埋蓋
2	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を多量に含む	半截竹管状工具による平行沈線を巡らす。	諸磯b(新)式
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ④片岩を少量含む	半截竹管状工具による平行沈線文。二次的に被熱。	諸磯b(新)式 覆土
4	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	原形LRの単節斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による平行沈線。	諸磯b(新)式
5	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ④片岩を少量含む	半截竹管状工具による平行沈線。	諸磯b(新)式 覆土

石 器

(単位:cm、g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
6	凹み石	長 14.4 幅 8.0 厚 2.7 重 530.0	扁平な自然石を使用・片面にのみ凹み穴が見受けられる。完形。	変変式若 二次的に被熱
7	石核	長 8.2 幅 7.6 厚 4.2 重 315.0	内面に自然面が残る。完形。	硬質泥岩

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区25号住居

位置 27-38地 写真 P L10・68

形状 長軸7.20m、短軸6.36mの隅丸五角形

面積 39.44㎡ 方位 N-37°-E

床面 ロームを最大64cm掘り込んで床面とする。

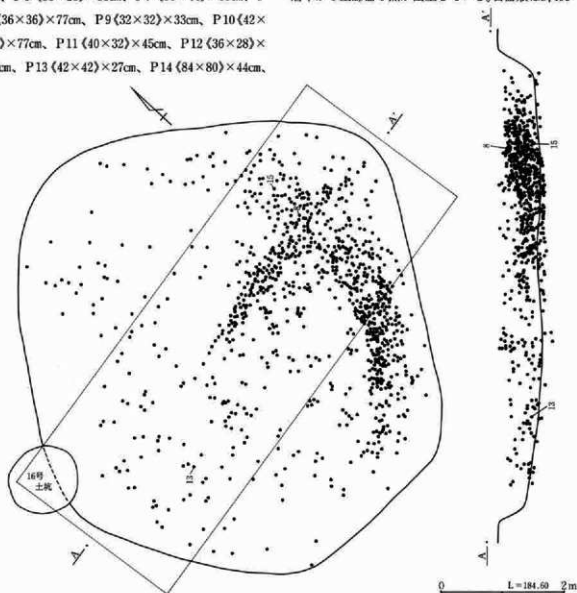
埋没土 土層観察から自然に堆積した可能性が高い。

炉 検出できなかった。

柱穴 15本検出できた。規模：(径)×深さは、P1 (50×44)×73cm、P2 (50×48)×57cm、P3 (42×35)×61cm、P4 (38×36)×42cm、P5 (40×30)×60cm、P6 (36×28)×33cm、P7 (50×44)×68cm、P8 (36×36)×77cm、P9 (32×32)×33cm、P10 (42×42)×77cm、P11 (40×32)×45cm、P12 (36×28)×43cm、P13 (42×42)×27cm、P14 (84×80)×44cm、

P15 (38×38)×58cmである。

遺物 縄文土器92点が出土した。内訳は黒浜式2点、諸磯b(新)式45点、加曾利E3式3点、加曾利E4式1点、称名寺II式1点、堀之内1式15点、堀之内2式18点、時期不明9点である。この中で77点は一括して取り上げた。出土土器の接合関係はあまり見られなかったが、Iが広範な接合関係をもち、北壁近くの床面近くから多く出土していることから住居廃絶後の比較的早い段階の廃棄が想定できる。また、4は25号住居から北東7.5mに位置する66号土坑出土土器と接合している(第173図参照)。また、①層中から土師器6点が出土している。石器類は8,499



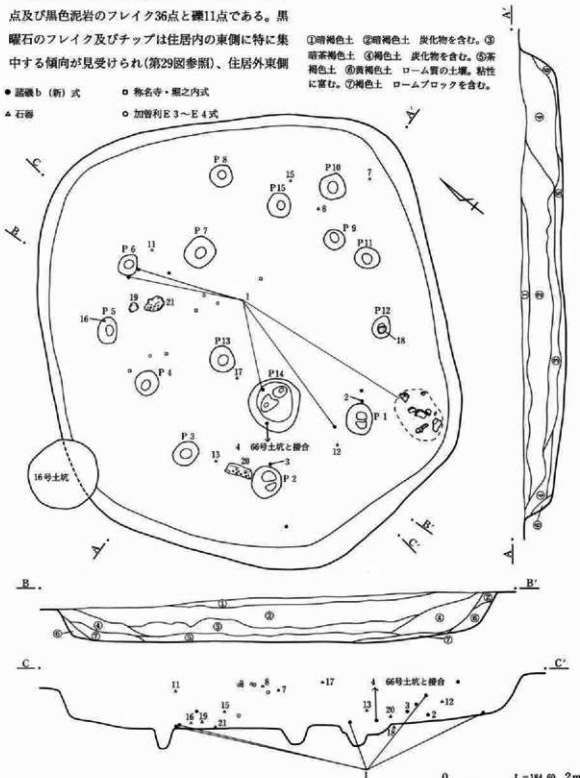
第29図 白倉B区25号住居黒曜石出土状態

点と多量に出土したが、この中で7,471点は一括して取り上げた。また、出土石器類の99.3%にあたる8,435点は黒曜石の石器（5点）及びフリイクやチップで、他は図示した石器16点とチャートのフリイク1点及び黒色泥岩のフリイク36点と礫11点である。黒曜石のフリイク及びチップは住居内の東側に特に集中する傾向が見受けられ(第29図参照)、住居外東側

からの廃棄もしくは流入を示唆するものと思われる。住居外の東側には後述する黒曜石集中地点が検出されており、住居埋没土中の黒曜石とかわるも

- 図説b(新)式
- ▲ 石器
- 称名寺・堀之内式
- 加曾利E3~E4式

- ①暗褐色土
- ②暗褐色土 炭化物を含む。
- ③暗茶褐色土
- ④褐色土 炭化物を含む。
- ⑤茶褐色土
- ⑥黄褐色土 ローム質の土壌。粘性に富む。
- ⑦褐色土 ロームブロックを含む。



第30図 白倉B区25号住居

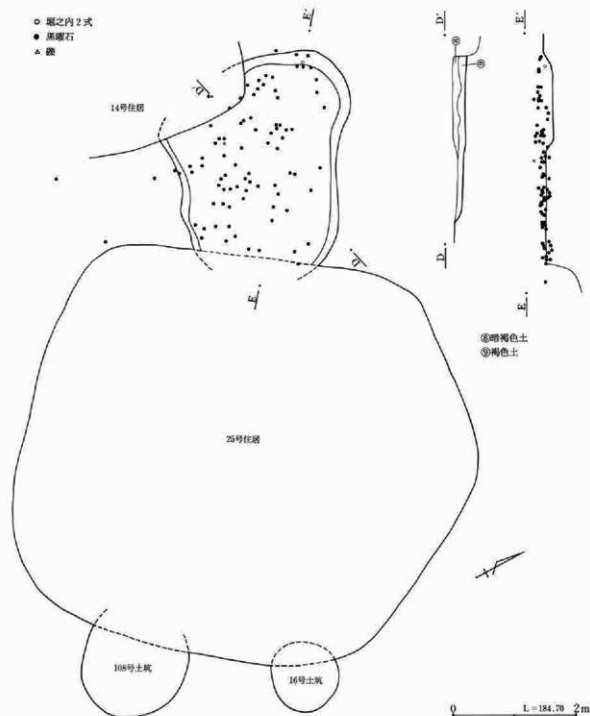
III 縄文時代の遺構と遺物

のと考えられる。(遺物観察表：110頁)
黒曜石集中地点 25号住居の東側で10cm程度の掘り込みをもつ遺構が検出された。東側を古墳時代中期の14号住居に切れ、西側で25号住居と重複し先後関係は不明であるが出土状況から本遺構のほうが新しいと思われる。この遺構から黒曜石のフレイクと

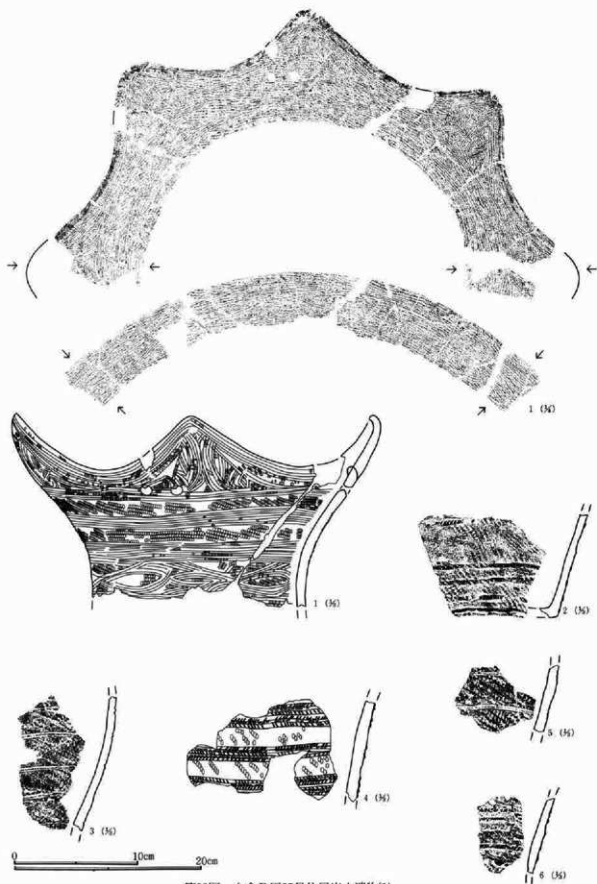
チップが88点出土した。他に堀之内2式土器の底部と礫が各1点出土している。この遺構の底面と25号住居床面では最大68cmの比高がある。

重複 縄文時代後期の108号土坑と弥生時代中期の16号土坑に切れ、黒曜石集中地点と重複する。

備考 諸磯b(新)式期の竪穴式住居と思われる。

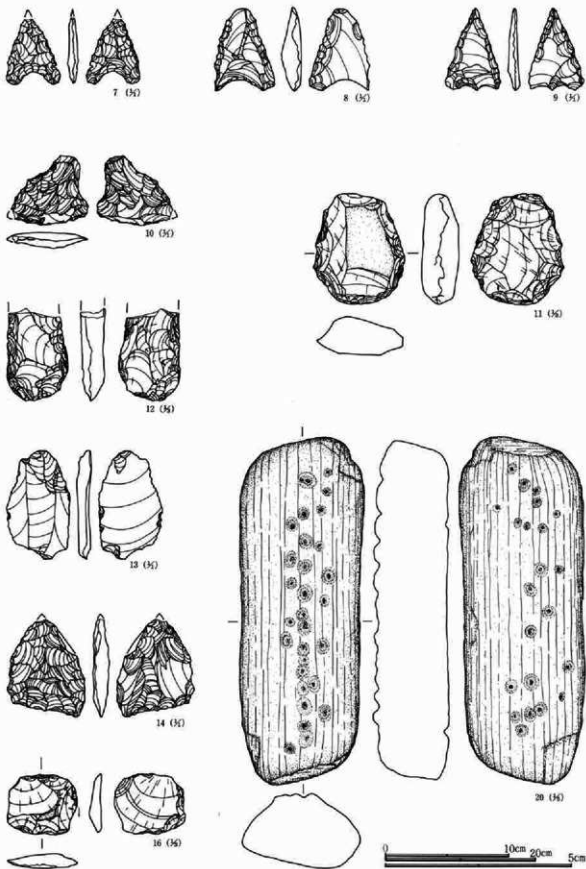


第31図 白倉B区25号住居東側黒曜石集中地点

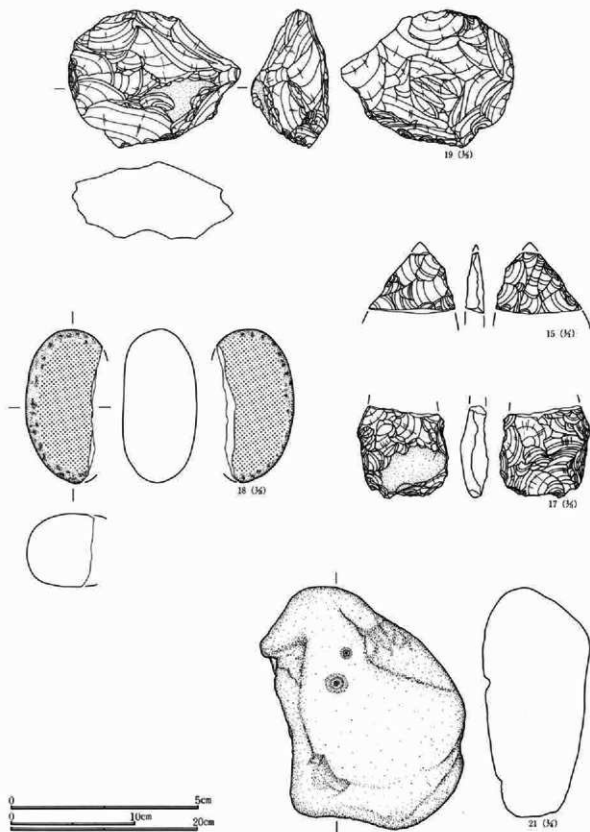


第32图 白倉B区25号住居出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第33図 白倉B区25号住居出土遺物(2)



第34图 白倉B区25号住居出土遺物(3)

白倉B区26号住居

位置 24-33地 写真 P L10-11-68-69

調査に至る経過 弥生時代後期の13号住居と耕作溝2本を調査した段階で、柄部の埋壔や敷石及びその掘り方が壁面で確認できた。以上の所見から柄鏡形(敷石)住居を想定して調査を進めたが、26号住居の確認面は13号住居確認面から6~10cm下がった高さであった。また、時期不明のピットに切られる。

形状 主体部は隅丸方形で、柄部は隅丸長方形の柄鏡形(敷石)住居。長軸6.48m、短軸3.88m。

面積 (16.74)㎡ 方位 N-4'-E

床面 ロームを3~10cm掘り込んで床面とする。

配石 主体部においては、床の大半が配石面である。しかし、後世における破壊によって石が検出されなかった区域を除いても、南辺を除く3辺の壁下から30cm程度内側に入った部分と炉の南側には石を配さない区域がある。配石は床面が平らになるように、中央に結晶片岩を主体とした板状の石を敷き、隙間を小礫で充填している。さらに、配石縁辺においては約10~20cmの幅で帯状に小礫を巡らしており、配石形状は五角形を呈す。板状の石と配石縁辺の小礫が接する部分においては、柱穴に対応する部分で石が抜けた状態になっており、柱と縁辺小礫との相関性を示唆している。主体部南寄りに炉があり、炉の約40cm南側で石囲状遺構が検出された。

柄部の配石は、後世の破壊部分を除くと、連結部近くに石を配さない区域があるが、他の部分は大半が配石面であったと思われる。中央に板状の石を配し、隙間を小礫で充填する手法は主体部の配石と似るが、縁辺の配石が異なっている。側縁(東側)部は細長い礫を南北方向を軸にして積み上げており、主体部で認められた帯状の小礫や配石から壁までの配石しない部分が認められず、側縁配石部分が柄部の東壁となる。柄部の南縁においては南側にゆるやかに立ち上がるように石が配されている。

炉 耕作溝により北辺と西辺の石が検出されなかったが、板状の配石面から21cmの掘り込みをもち、内側の一辺が(38)cm程度の方角を呈する石囲炉と思

われる。南側の炉石は原位置を保っており内側にススが多量に付着し、熱による変色が著しい。東側の炉石は溝掘削によって東側に傾いてしまったようである。この炉石も熱による劣化が著しかった。炉の掘り方は78×75cmのほぼ隅丸方形を呈し、炉の埋没土下6cmが底面であるが中央に柱穴状の落ち込みが検出されている。なお、溝による破壊は掘り方までは達してはいなかった。

柱穴 P10のみ住居中央(炉の北側)で検出されたが、他の柱穴は住居主体部の周縁で見つかった。柱穴の大きさは、配石空白地点の広さより大きなことから、配石を行うまえに柱穴が掘られ、柱が構築されていたと思われる。各柱穴の規模：(径)×深さは、P1 {32×30}×28cm、P2 {46×30}×43cm、P3 {34×32}×29cm、P4 {24×18}×36cm、P5 {32×28}×43cm、P6 {36×26}×48cm、P7 {40×32}×47cm、P8 {16×14}×10cm、P9 {46×39}×40cm、P10 {22×22}×26cmであった。P1とP2は対になる柱穴と思われる。

石囲状遺構 底面に板状の結晶片岩を1枚敷き、四辺を同様の石材で方形に囲む遺構。内側の一辺は17~20cmで石に被熱はない。上記の所見及び検出位置から埋壔と同様の機能が想定される施設である。

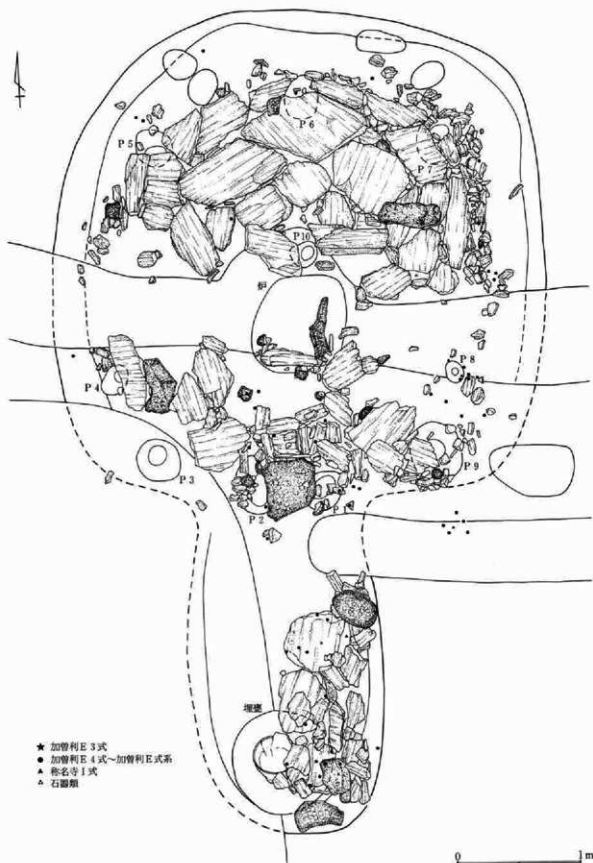
埋壔 柄部の先端で、口縁部と胴部を斜めに欠損する両耳壔(1)が、南側へ斜位に埋設されていた。

掘り方 住居床面から10~20cm下で検出された。主体部では南辺を除く三辺の周縁が掘り窪められ、柄部では、P1とP2の南側が溝状に掘り窪んでいる。

遺物 縄文土器120点が出土している。内訳は加曾利E3式1点、加曾利E4式~加曾利E5式系120点、称名寺I式9点で、83点は一括して取り上げた。出土位置を記録して取り上げた土器の大半は小礫と同様の使われ方をしており、配石の一部を構成する。石器は図示したものが出土した。多くが配石に使用されたものである。(遺物観察表:110~112頁)

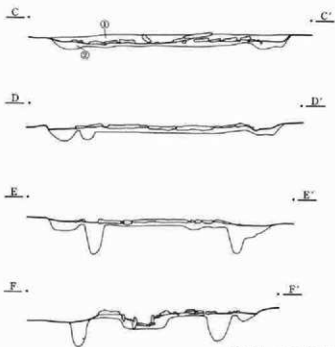
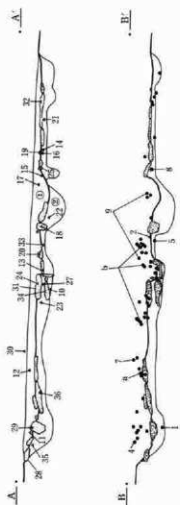
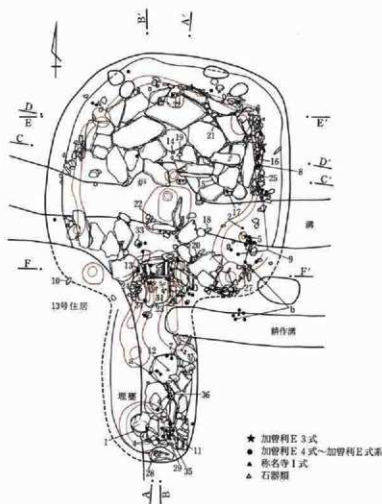
重複 調査に至る経過を参照。

備考 埋壔及び埋没土出土土器の様相から、後期初頭の柄鏡形(敷石)住居といえる。



第35图 白倉B区26号住居(1)

III 縄文時代の遺構と遺物

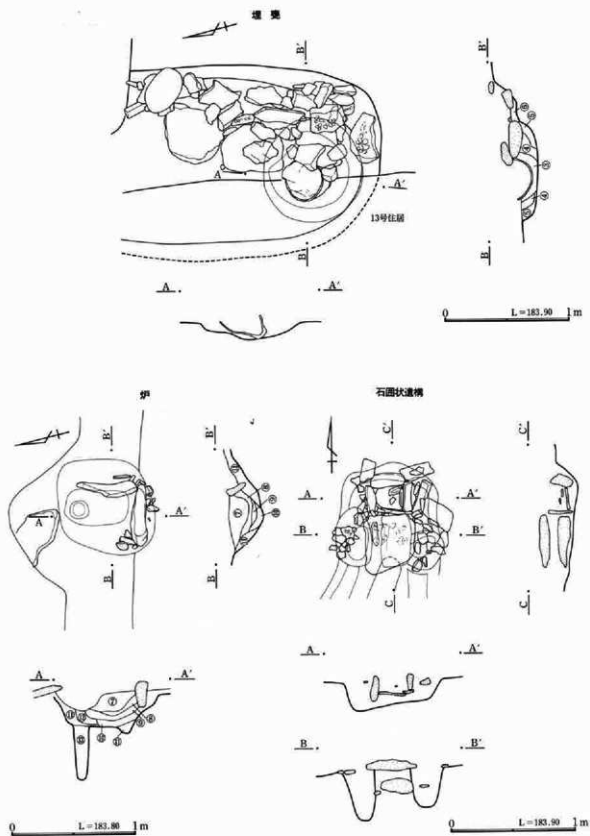


埋設土層

①黒褐色土 締まりあり。粒子細かい。②褐色土 掘り方の土層。ローム質の土層。③褐色土 埋設の掘り方の土層。④褐色土 埋設の掘り方の土層。炭化粒子を僅かに含む。堅く締まる。⑤褐色土 埋設の掘り方の土層。ローム粒子を含む。⑥褐色土 埋設の掘り方の土層。ローム粒子を少し含む。⑦褐色土 砂の埋設土。焼土粒子を僅かに含む。⑧褐色土 砂の埋設土。焼土粒子を多く含む。⑨褐色土 砂の埋設土。焼土粒子を少し含む。⑩褐色土 砂の掘り方の土層。ローム質の土層中に焼土粒子を僅かに含む。⑪褐色土 砂の掘り方の土層。ローム質の土層で焼土粒子や炭化粒子を含まない。⑫暗褐色土 砂の掘り方の土層。焼土粒子や炭化粒子を含まない。⑬褐色土 焼土粒子と炭化粒子を僅かに含む。

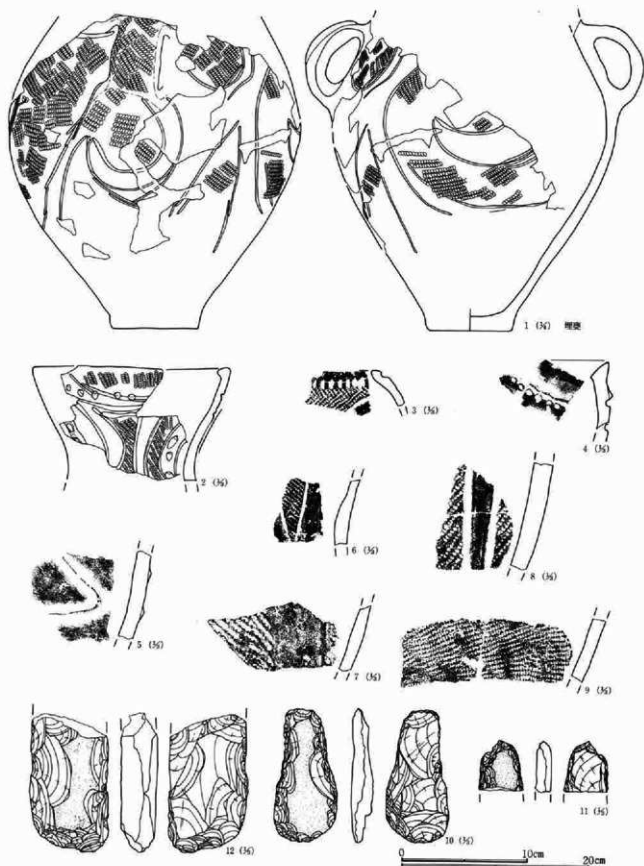
第36図 白倉B区26号住居(2)

0 L=184.10 2m

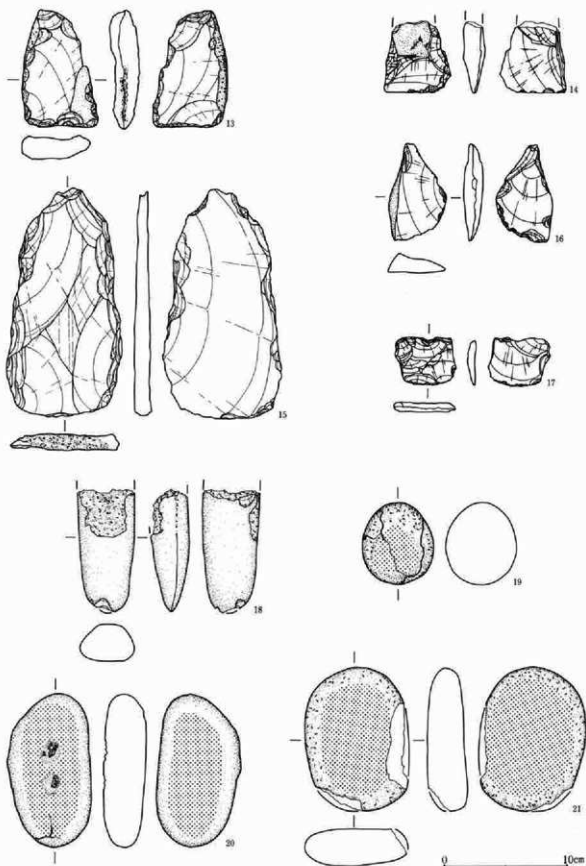


第37图 白倉B区26号住居埋塞・炉・石圓い状遺構

III 縄文時代の遺構と遺物

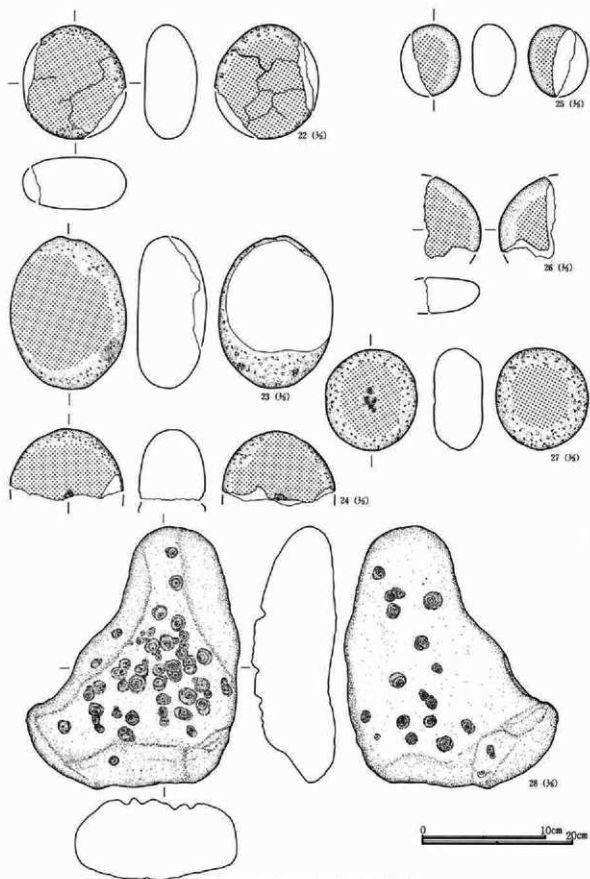


第38図 白倉B区26号住居出土遺物(1)

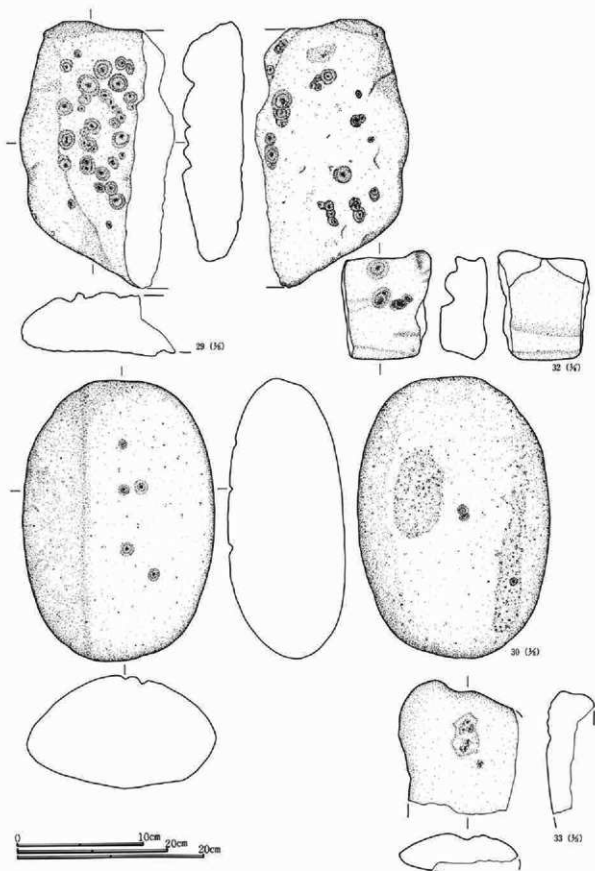


第39图 白倉B区26号住居出土遺物(2)

III 縄文時代の遺構と遺物

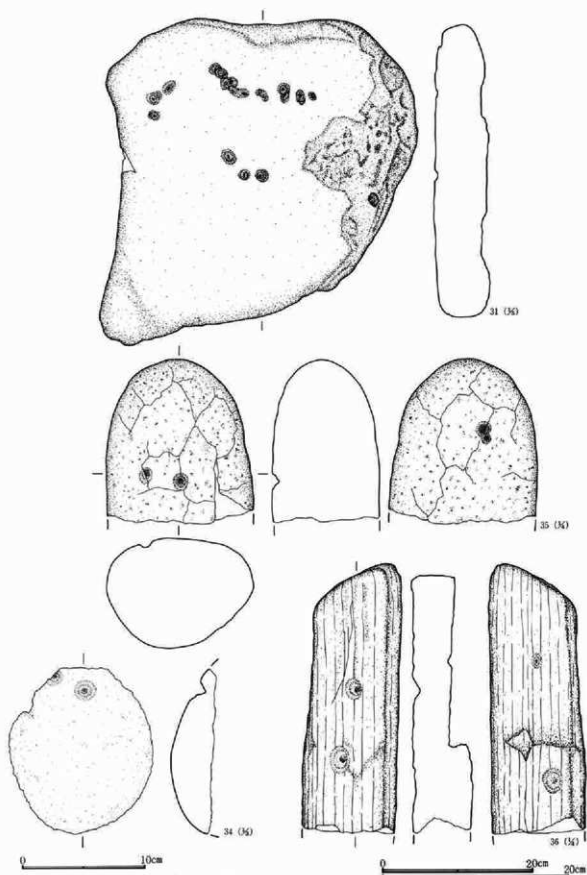


第40図 白倉B区26号住居出土遺物(3)



第41图 白倉B区26号住居出土遺物(4)

III 縄文時代の遺構と遺物



第42図 白倉B区26号住居出土遺物(5)

白倉B区27号住居

位置 25—37地 写真 P L12・69・70

形状 長軸3.28m、短軸3.08mで、ほぼ円形の規模の小さな竪穴式住居である。

面積 8.21㎡ 炉の方 北—21°—東

床面 ロームを最大27cm掘り込んで床面とする。

堅固で凹凸も認められ、壁は緩やかに立ち上がる。

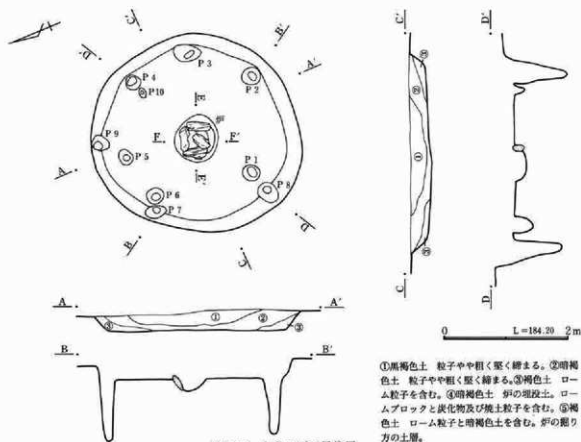
埋没土 土層観察からは自然に堆積した状況が想定される。

炉 砂岩及び結晶片岩を方形に配置する石囲炉と思われる。南辺の炉石に使用されたと思われる石器(39)が炉内から出土している。炉の内側は長辺32cm、短辺28cmで17cmの掘り込みをもつ。掘り方は長軸75cm、短軸69cmの不正円形を呈し、炉の埋没土下8cmが底面である。

柱穴 壁際で6本、やや内側で4本が検出されている。壁際の柱穴は壁を掘り込むようにしており、P3とP9を除けば深く掘られていた。内側の柱穴

4本はいずれも浅く掘られていた。規模：〈径〉×深さは、P1(28×24)×30cm、P2(30×28)×92cm、P3(42×28)×28cm、P4(26×26)×84cm、P5(26×20)×13cm、P6(28×24)×16cm、P7(34×20)×100cm、P8(36×28)×80cm、P9(26×24)×18cm、P10(16×10)×15cmである。

遺物 縄文土器567点が出土し、225点を一括して取り上げた。内訳は、諸磯(b)新式1点、加曾利E3式565点、堀之内2式1点である。諸磯(b)新式1点と堀之内2式1点の出土位置を图中に示すことはできなかったが、それぞれ床面から23cm、35cm上で出土した。接合資料はいずれも加曾利E3式土器で、a、b、eが口縁—胴部片、c、d、f—sとu—xが胴部片、tが胴—底部片である。多くの土器片は①層から②層上面にかけて出土しており、住居中央から南東部にかけて分布している。また、住居の廃絶時期を推定できる壁際の床面直上出土土器は見当たらないが、比較的壁に近い床面直上土器として24



第43図 白倉B区27号住居

①黒褐色土 粒子やや粗く堅く締まる。②暗褐色土 粒子やや粗く堅く締まる。③褐色土 ローム粒子を含む。④暗褐色土 炉の埋没土。ロームブロックと炭化物及び焼土粒子を含む。⑤褐色土 ローム粒子と暗褐色土を含む。炉の掘り方の土層。

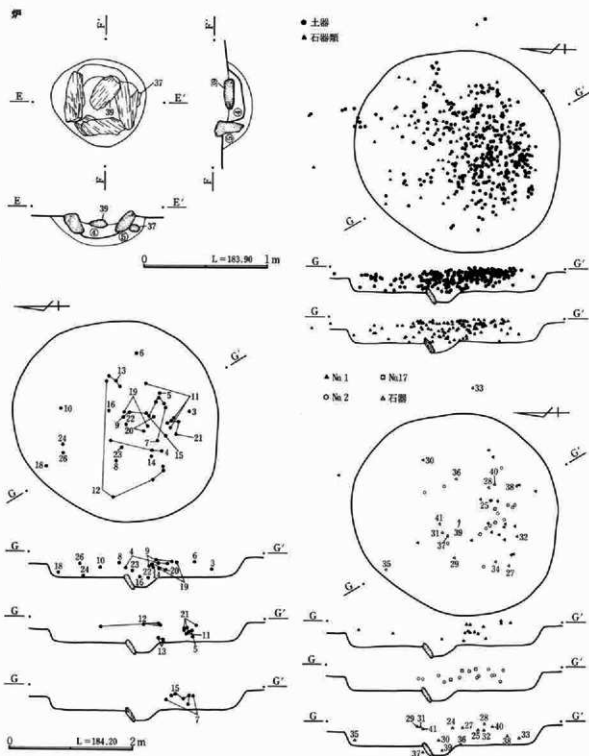
III 縄文時代の遺構と遺物

がある。石器類は炉石も含め144点出土し、20点を一括して取り上げた。これらの出土状況は土器片の出土状況と大差ない。また、石器は図示した12点が出土している。

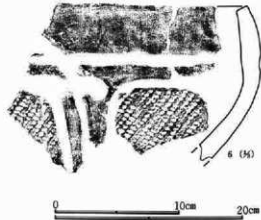
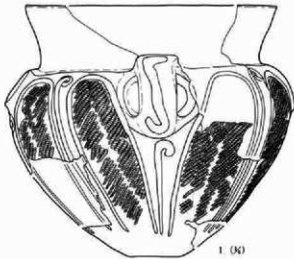
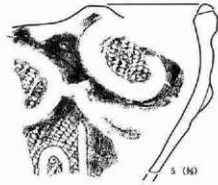
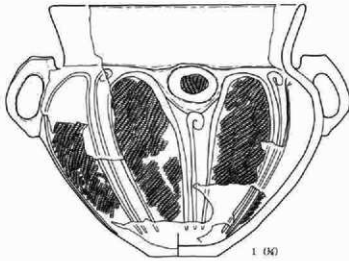
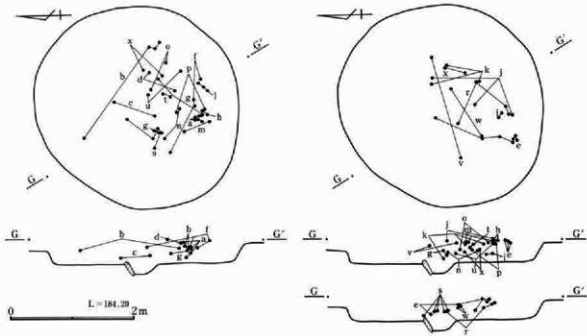
(遺物観察表：112・113頁)

重複なし

備考 出土土器の様相から加曾利E3式期の竪穴式住居に比定される。

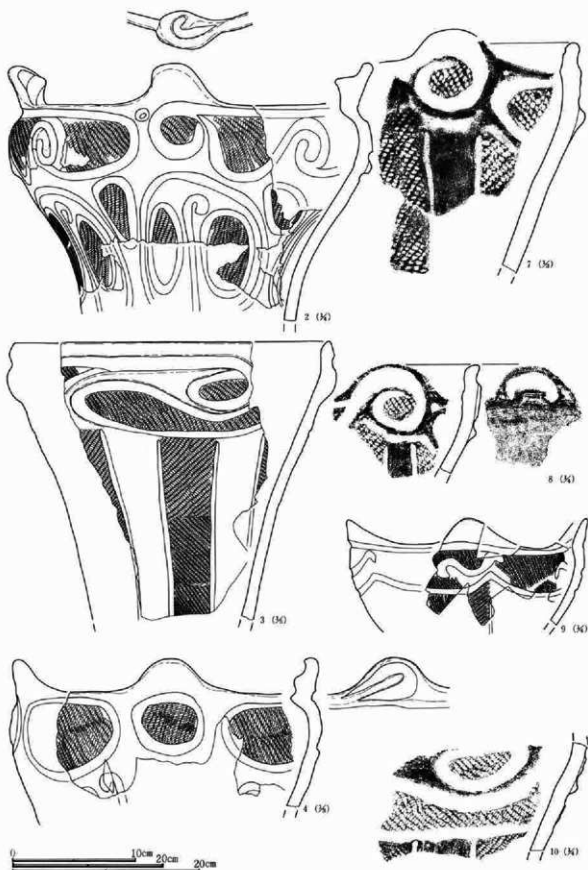


第44図 白倉B区27号住居炉と遺物出土状態

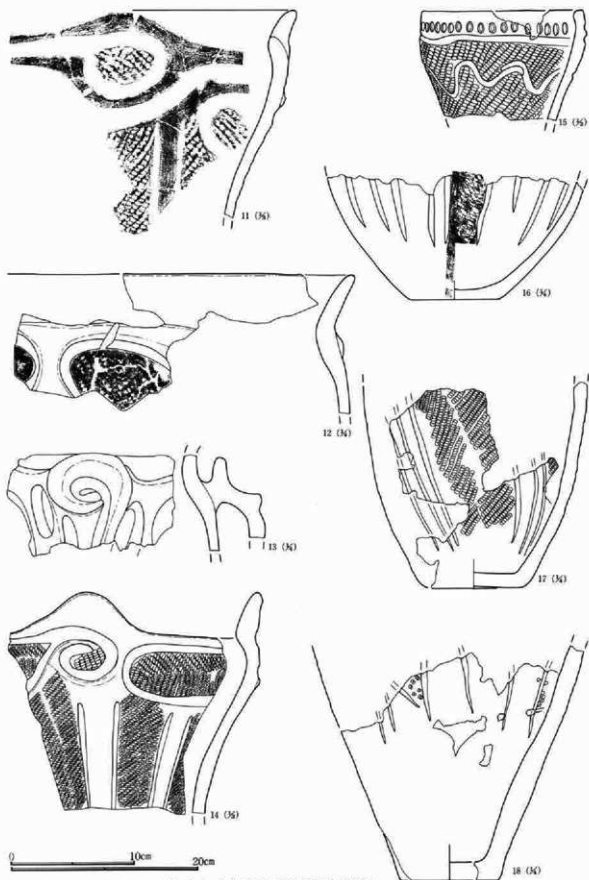


第45圖 白倉B区27号住居遺物接合圖と出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物

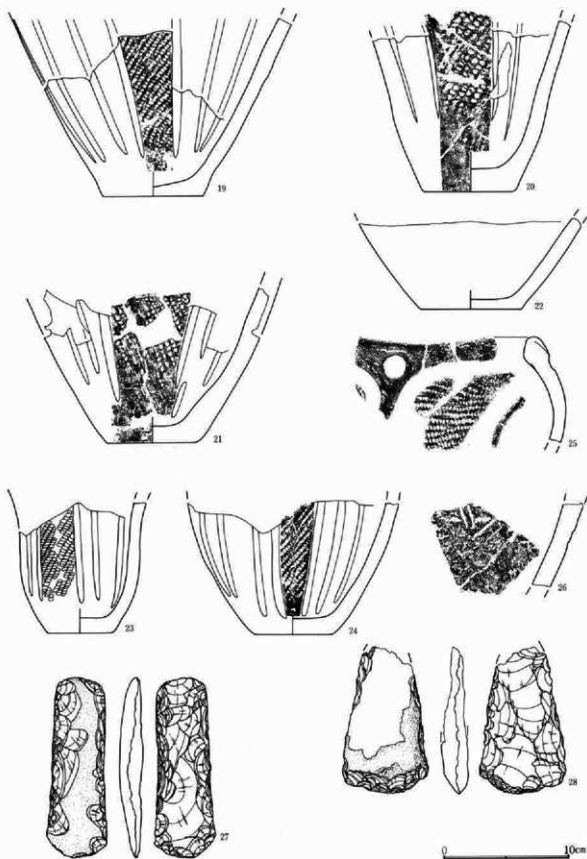


第46図 白倉B区27号住居出土遺物(2)

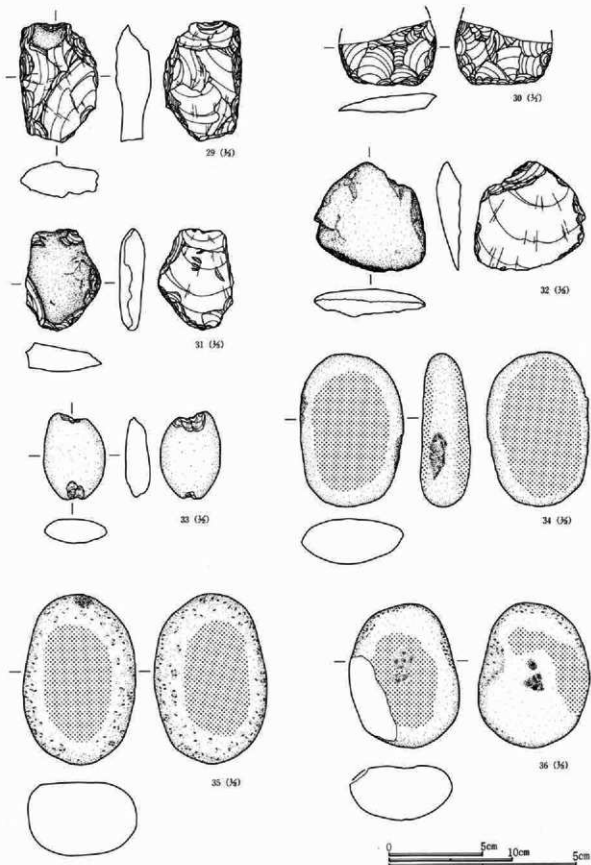


第47图 白倉B区27号住居出土遺物(3)

III 縄文時代の遺構と遺物

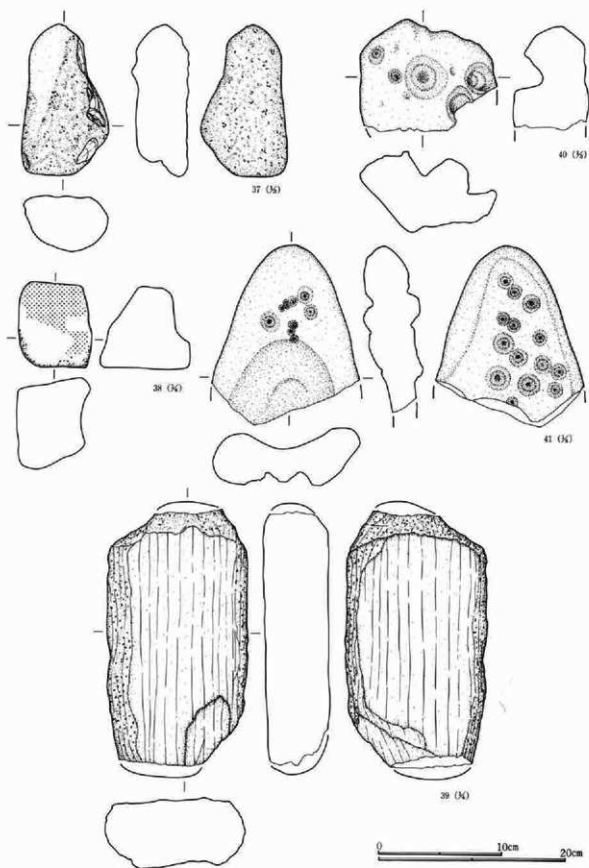


第48図 白倉B区27号住居出土遺物(4)



第49图 白倉B区27号住居出土遺物(5)

III 縄文時代の遺構と遺物

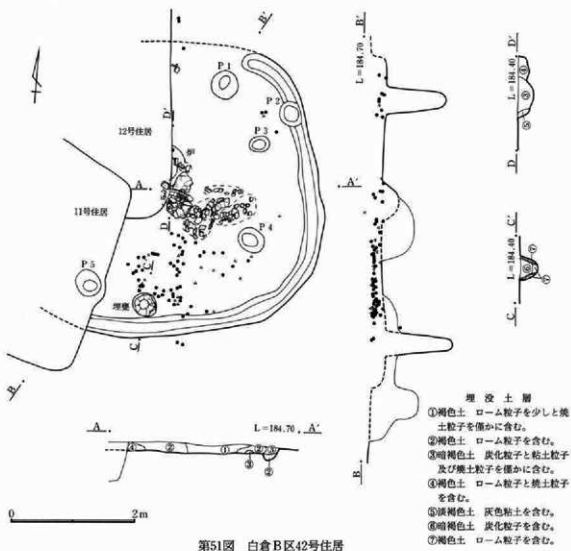


第50図 白倉B区27号住居出土遺物(6)

白倉B区42号住居

位置 28-32地 写真 P L13・71
 形状 一辺(4.62)mの隅丸方形と推定される。
 面積 (21.34)㎡と推定される。
 方位 住居主軸の方位はN-10°-Wで、埋甕の中心と炉の中心を結ぶ方位はN-6°-Eである。
 床面 南辺において、ローム漸移層を最大12cm掘り込んで床面とする。北辺においては、壁の立ち上がりを検出できなかった。
 炉 全容は不明であるが、長軸66cmの楕円形を呈する地床炉である。床面から24cmの掘り込みをもつ。底面には明瞭な焼土面は認められなかった。
 柱穴 6本検出された。P5は11号住居掘り方調査の際に検出された。12号住居内にも本住居の柱穴

が存在したと思われるが検出できなかった。規模：〈径〉×深さは、P1〈44×42〉×96cm、P2〈42×34〉×(102)cm、P3〈32×26〉×25cm、P4〈44×36〉×69cm、P5〈42×38〉×(106)cmであった。
 壁周溝 床面が残存する部分においては、北辺を除いて検出されている。最大幅は38cmで、深さは最大27cmであった。
 埋甕 住居南辺の中央から若干西側において、口縁上部と胴下半部を欠損する加曾利E3式深鉢(3)が埋設されている。
 遺物 296点の縄文土器が出土し、225点を一括して取り上げた。この内1点は堀之内2式であったが、他は加曾利E3式である。住居中央から南側にかけて分布の中心があり、床面から10cm程度上から多く



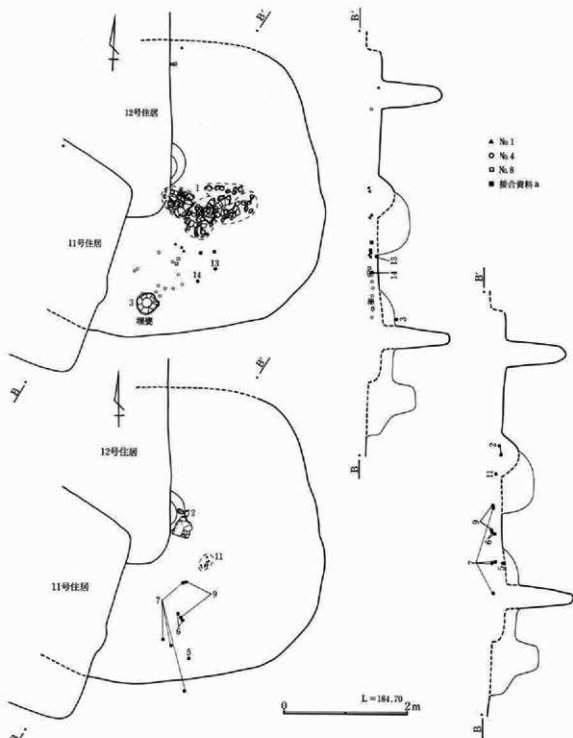
第51図 白倉B区42号住居

III 縄文時代の遺構と遺物

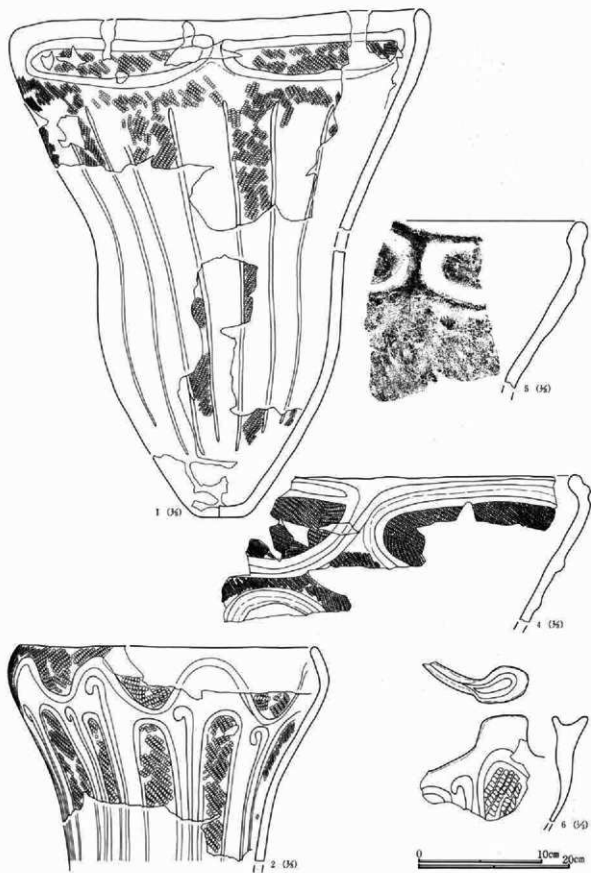
出土している。壁際で床面直上から出土している土器は少なく5のみである。接合資料aは加曾利E3式の深鉢胴部片である。また、土師器3点と須恵器2点が出土している。石器類は22点が出土し、5点を一括して取り上げた。この内、石器は図示した3

点しか出土していない。(遺物観察表：113・114頁)
 重複 古墳時代後期の12号住居と平安時代の11号住居に切られる。

備考 埋塞及び出土土器の様相から加曾利E3期の竪穴式住居といえる。

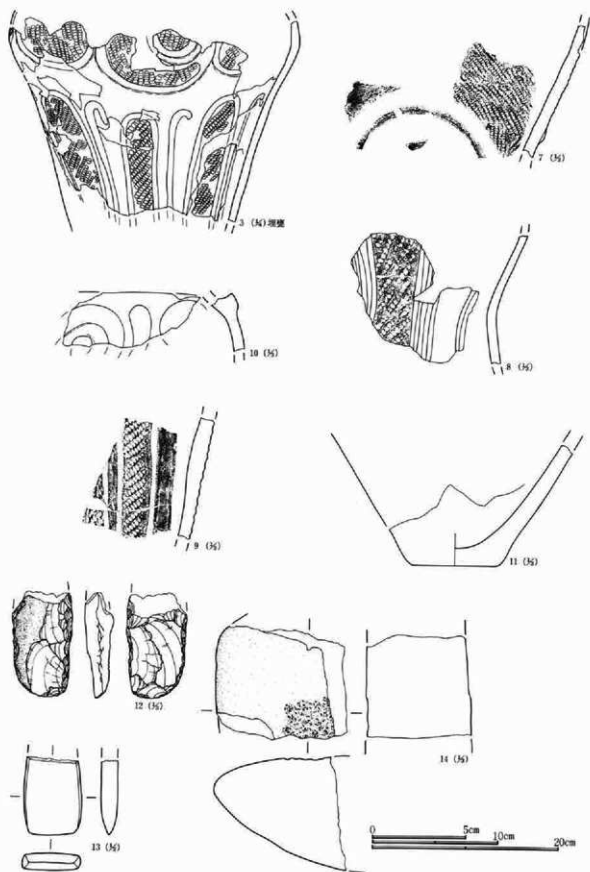


第52図 白倉B区42号住居遺物接合図



第53图 白倉B区42号住居出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第54図 白倉B区42号住居出土遺物(2)

白倉B区43号住居

位置 27-32他 写真 P.L.13・71

形状 長軸4.36m、短軸(4.32)mで、円形に近い形状を呈する。

面積 (15.04)㎡ 炉の方位 N-67°-E

床面 ロームを最大12cm掘り込んで床面とする。

埋没土 土層観察から自然に堆積した可能性が高い。

炉 土器片1点と大小9個の砂岩と結晶片岩などを、ほぼ方形に配置する石囲炉である。炉の内側は長辺28cm、短辺24cmで20cmの掘り込みをもつ。炉石は熱による劣化が著しい。また、5が西隅にある炉石の外側に埋設されており、炉石と同様の使われ方がなされていた。掘り方は直径75cmの不正円形を呈している。

柱穴 9本検出されたがいずれも浅く、配置にも規格性を見いだせない。規模：〈径〉×深さは、P1(24×22)×15cm、P2(32×28)×19cm、P3(34×32)×21cm、P4(36×36)×18cm、P5(32×28)×36

cm、P6(28×22)×18cm、P7(20×16)×8cm、P8(20×18)×15cm、P9(18×14)×11cmである。

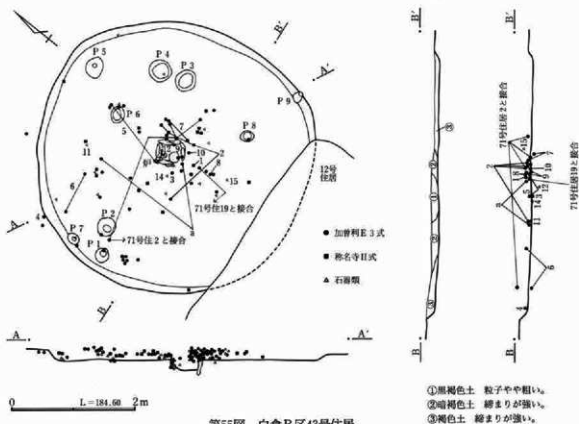
遺物 縄文土器424点が出土し、346点を一括して取り上げた。内訳は、勝坂Ⅱ式1点、加曾利E3式396点、称名寺Ⅱ式27点である。住居中央を中心に分布している。また、加曾利E3式期に比定される71号住居出土土器との間で、同一個体の存在が4例確認できた。4点の土器片と71号住居2が接合し、1点の土器片が71号住居19と接合している。さらに、出土位置不明の1片が71号住居4と接合し、本住居3と71号住居8が同一個体である。また、炉に使用された5はP6北側出土の土器片と接合している。

石器類は炉石も含め40点が出土し、10点を一括して取り上げた。石器は図示した5点が出土しており、12は炉の埋没土中からの出土である。

(遺物観察表：114頁)

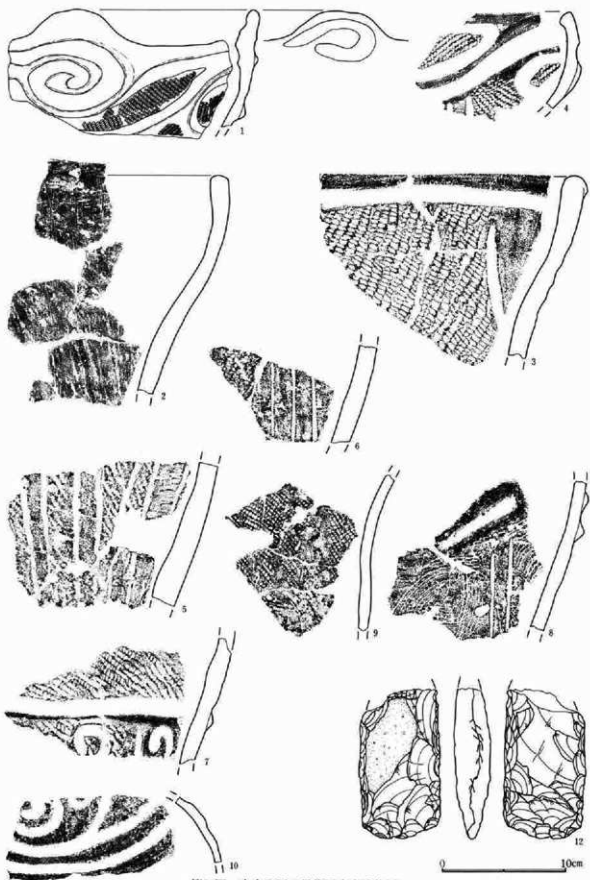
重複 古墳時代後期の12号住居に切られる。

備考 出土土器の様相から、加曾利E3式期の竪穴式住居といえる。

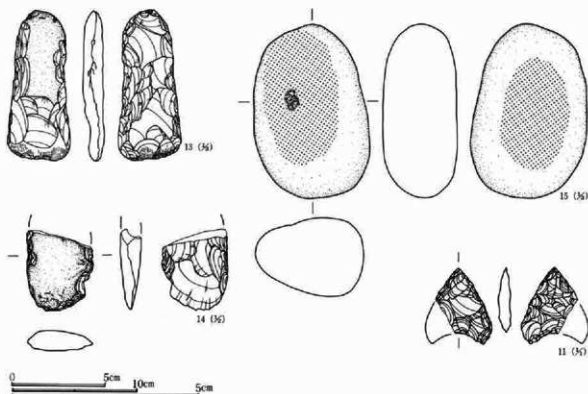


第55図 白倉B区43号住居

III 縄文時代の遺構と遺物



第56図 白倉B区43号住居出土遺物(1)



第57図 白倉B区43号住居出土遺物(2)

白倉B区49号住居

位置 28-33他 写真 P L 14・72

形状 長軸4.06m、短軸3.58mの不正円形を呈する。西側が極端に直線状になっているが、柱穴位置や出土土器の平面分布から考えても不自然であることから、調査時に誤認した可能性がある。

面積 11.70㎡ 炉の方位 N-3°-E

床面 ローム漸移層を最大21cm掘り込んで床面とする。壁は緩やかに立ち上がる。

炉 砂岩及び結晶片岩を四辺に配置する方形の石囲炉である。いずれの炉石も熱による劣化が著しい。炉の内側は長辺26cm、短辺23cmで13cmの掘り込みをもつ。掘り方は一辺53~64cmの隅丸長方形で埋没土から11cm下がった高さが底面である。

柱穴 4本検出された。P2を除くと、いずれの柱穴も浅い。規模：〈径〉×深さは、P1〈48×36〉×18cm、P2〈37×34〉×47cm、P3〈33×31〉×21cm、P4〈27×26〉×26cmである。

遺物 縄文土器115点が出土し、37点を一括して取

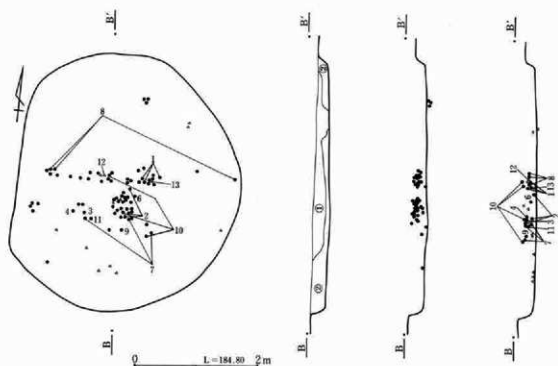
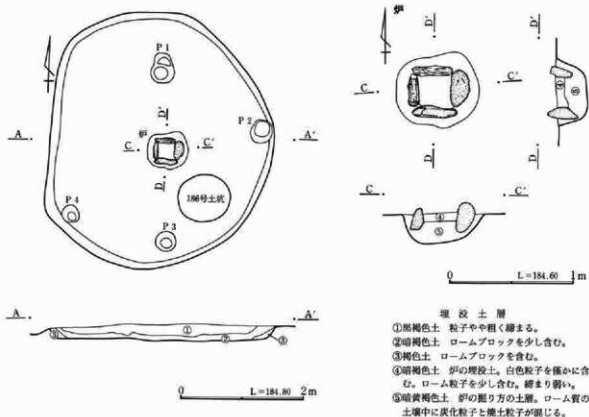
り上げた。その内訳は、黒浜式1点、加曾利E3式109点、称名寺I式4点、堀之内I式1点である。平面分布は炉を中心としており床面から10cm以上離れて出土するものが多い。住居廃絶時期を推定できる壁際の床面直上出土土器は見当たらないが、比較的壁に近いものが4点出土している。その内1点は、南西壁近くのものであるが加曾利E3式である。また、他の3点は北壁近くから出土しているが、加曾利E3式2点と堀之内I式1点であった。また、出土位置不明の土師器5点が出土している。

石器類は伊石も含め19点が出土し、2点を一括して取り上げた。石器は図示した2点以外に磨製石斧1点が床面直上から出土しているが紛失してしまった。また、北壁近くの床面直上から、大形の自然石が4点出土している。(遺物観察表：114・115頁)

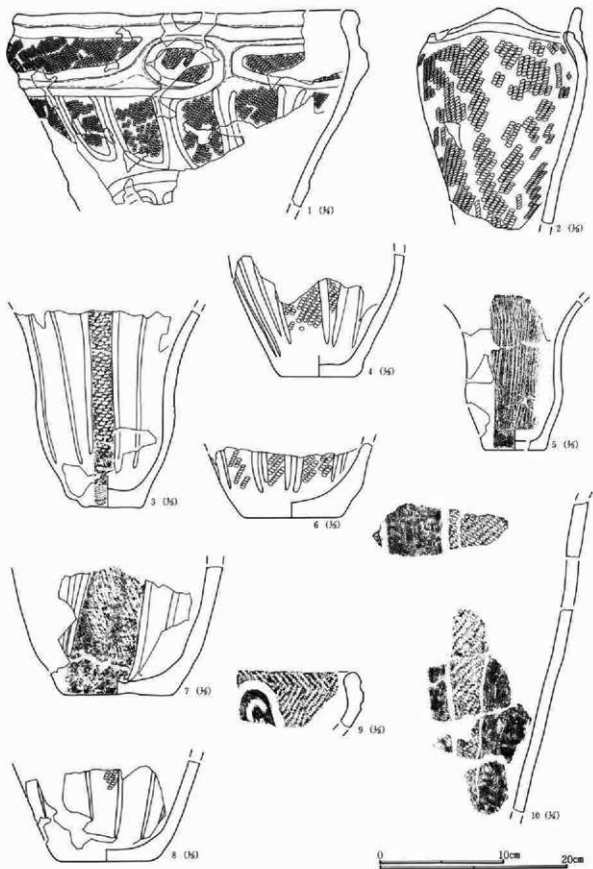
重複 時期不明の186号土坑と重複するが先後関係は不明である。

備考 土器の出土状況から加曾利E3式期の竪穴式住居と推定される。

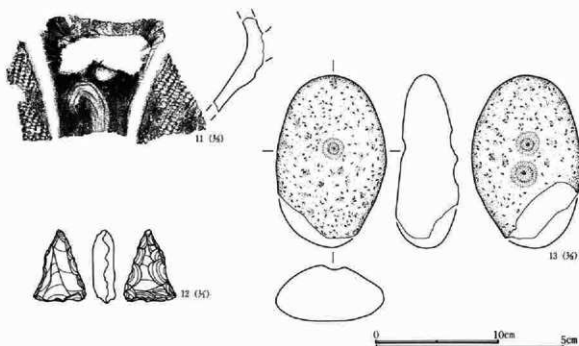
III 縄文時代の遺構と遺物



第58図 白倉B区49号住居



第59图 白倉B区49号住居出土遺物(1)



第60図 白倉B区49号住居出土遺物2)

白倉B区71号住居

位置 28—34他 写真 P L14・15・72・73
形状 長軸3.84m、短軸3.62mの不正円形を呈する。

面積 10.56㎡ 炉の方位 N—52°—W

床面 ロームを最大30cm掘り込んで床面としており、壁は緩やかに立ち上がる。

埋没土 土層観察から自然に堆積した可能性が高い。

炉 長軸118cm、短軸50cmの不定形状を呈し、16cmの掘り込みをもつ床床炉である。

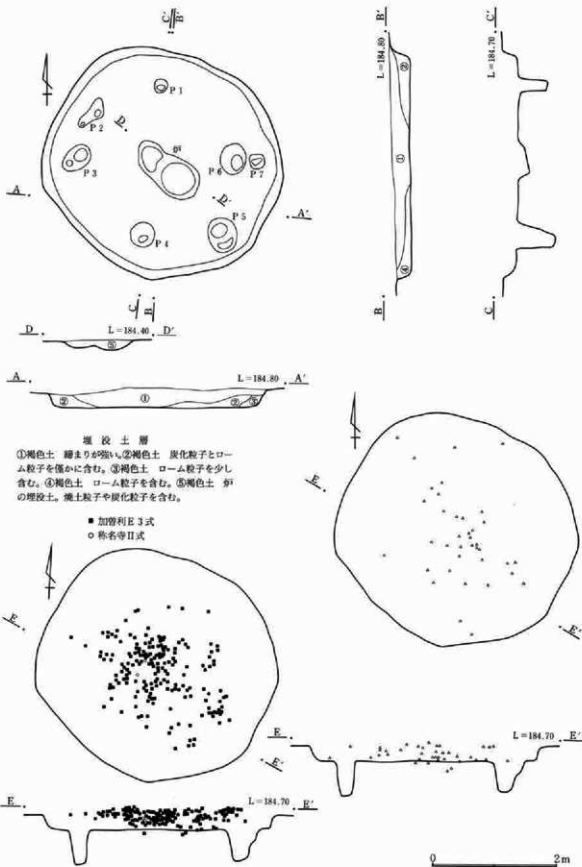
柱穴 7本が検出された。規模：〈径〉×深さは、P1(21×21)×46cm、P2(54×22)×22cm、P3(52×33)×55cm、P4(40×38)×64cm、P5(54×46)×49cm、P6(50×42)×76cm、P7(24×24)×20cmである。P2、P3、P5は重複の可能性が高い。

遺物 縄文土器414点が出土し、228点を一括して取り上げた。内訳は加曾利E3式407点、称名寺II式5点、堀之内2式2点である。住居中央を中心に分布しており、①層からの出土が大半を占める。個体別の接合関係も、多くが①層内でおさまるものが多

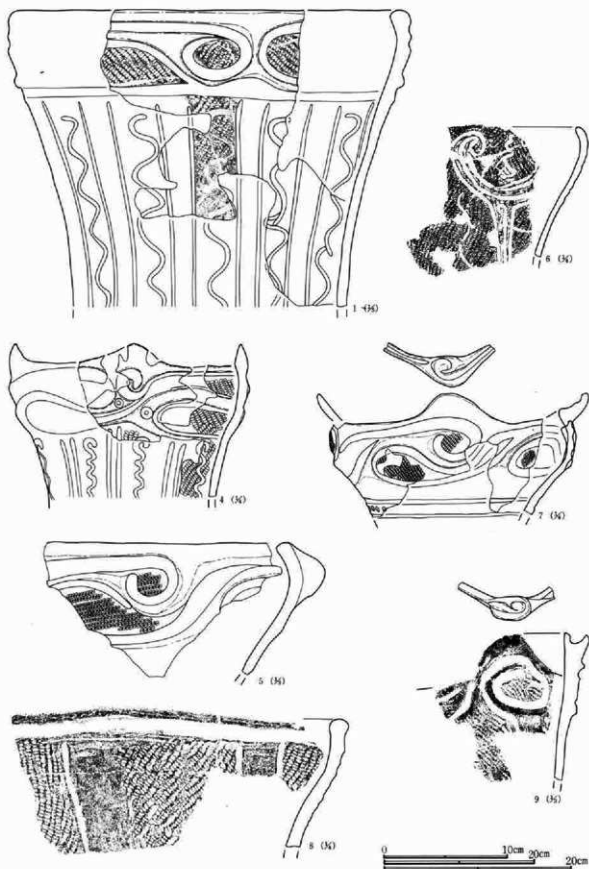
い。10点以上の破片が接合した1や2などの出土状況は住居埋没過程のある段階を反映するかのような出土位置であった。住居の廃絶時期を推定できる比較的壁に近い床面直上土器は全て加曾利E3式であった。なお、接合資料a～gはいずれも加曾利E3式深鉢の胴部である。

また、加曾利E3式期に比定される43号住居出土土器との間で、同一個体の存在が4例確認できた。本住居2、4、19が43号住居出土土器と接合し、さらに、本住居8と43号住居3が同一個体である。この4例の接合個体は、各住居における出土状況が近似することから、43号住居と本住居が廃絶した後、僅かな堆積土が形成された段階で廃棄された可能性を示唆し、両方の住居廃絶時が近接する可能性が高いといえよう。

石器類は68点が出土し、31点を一括して取り上げた。石器は図示した9点が出土しており、多孔石(28)が接合している。(遺物観察表：115・116頁)
備考 土器の出土状況から加曾利E3式期の竪穴式住居と推定される。柱穴及び炉の形状から2回の居住が想定される。

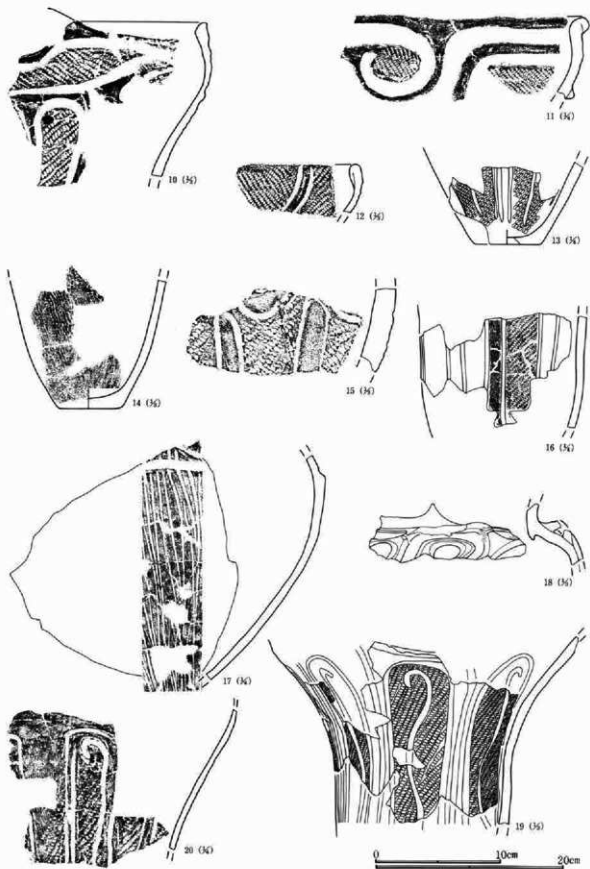


第61図 白倉B区71号住居

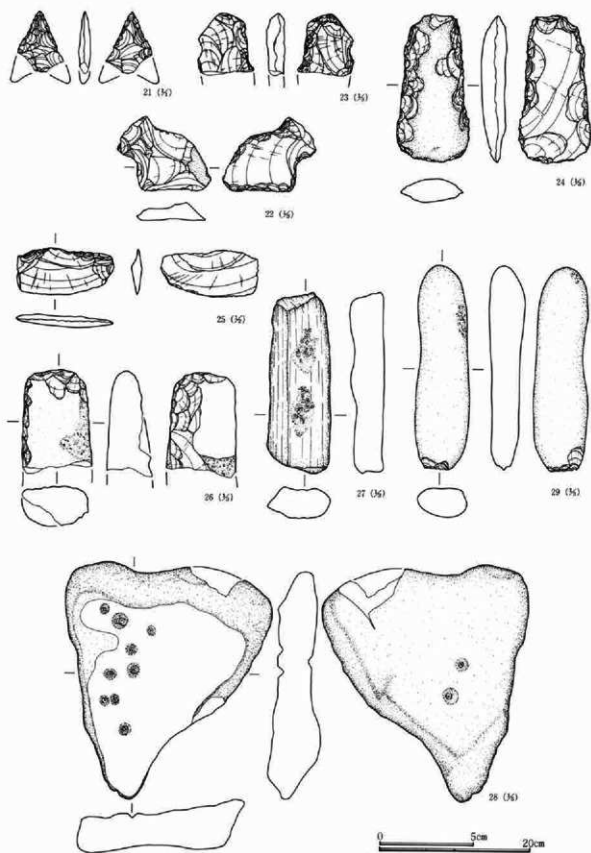


第63图 白倉B区71号住居出土遺物(2)

III 縄文時代の遺構と遺物



第64図 白倉B区71号住居出土遺物(3)



第65图 白倉B区71号住居出土遺物(4)

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区74号住居

位置 32-32他 写真 P L15・73

形状 長軸3.28m、短軸3.10mの円形を呈する。

面積 (7.66)㎡ 方位 不明

床面 ロームを最大34cm掘り込んで床面とする。

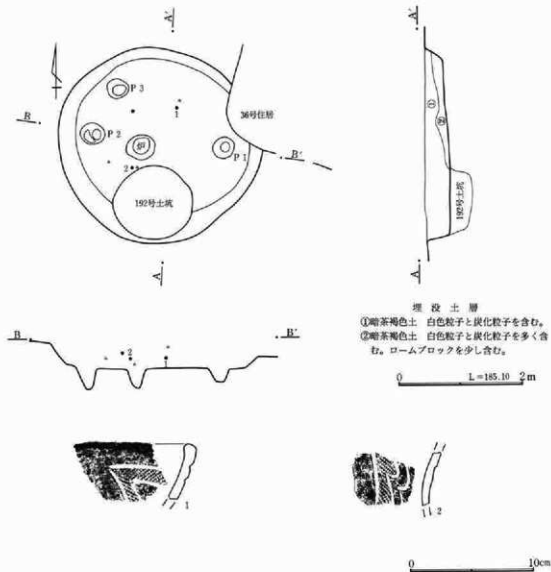
炉 長軸48cm、短軸40cmで29cmの掘り込みをもつ。

柱穴 3本検出された。規模：〈径〉×深さは、P1 (33×32)×23cm、P2 (40×34)×34cm、P3 (36×31)×27cmである。

遺物 192号土坑出土遺物と合わせて149点の縄文土器が出土し140点を一括して取り上げた。内訳は称名寺Ⅱ式4点と他は加曾利E4式～称名寺Ⅰ式の土

器片で、大半が称名寺Ⅰ式期と思われる。称名寺Ⅱ式の4点は同一個体で器面の摩耗が著しかった。石器類は6点が出土しているが、石器は多孔石1点のみである。埋没土中における遺物の出土状況については不明な点が多いが、出土土器の様相から住居埋没中のある段階に、称名寺Ⅰ式期の土器片が廃棄された可能性が強いと思われる。また床上35cmの高さで土師器1点が出土した。(遺物観察表：116頁)
重複 平安時代の36号住居に切られる。また、192号土坑との重複関係は不明である。

備考 称名寺Ⅰ式期の竪穴式住居の可能性が強いと思われる。



第66図 白倉B区74号住居と出土遺物

白倉B区86号住居

位置 37-50地 写真 PL16・17・73-74
 形状 長辺6.16m、短辺5.84mの隅丸方形を呈する。壁は緩やかに立ち上がり、北壁においては僅かな段差が認められる。
 面積 29.66㎡ 方位 N-25°-E
 床面 ロームを最大78cm掘り込んで床面とする。
 埋没土 土層観察から自然に堆積した可能性が高い。

炉 検出できなかった。

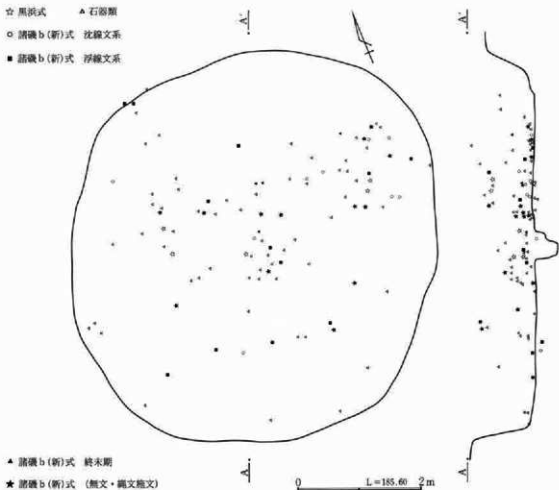
柱穴 8本検出できた。この内、P1・P2・P4・P5については平面及び断面形状から重複の可能性がある。規模：(径)×深さは、P1(56×46)×44cm、P2(60×29)×30cm、P3(45×32)×38cm、P4(81×80)×56cm、P5(69×42)×39cm、P6(34×28)×50

cm、P7(44×35)×48cm、P8(36×31)×20cmである。

埋蔵 住居中央から北に1mほど寄った位置で2個体の深鉢(1・2)が埋設されていた。1は胴上半部を欠損し、2は胴部約3/4しか残存していなかった。2の欠損部分は1が埋設されている側であることと、土器型式の変遷から考えると、2が埋設された後に、2の一部を壊して1が埋設されたとも考えられるが、調査時の土層観察から新旧関係を裏付けることはできなかった。

遺物 縄文土器333点が出土し291点を一括して取り上げた。内訳は黒浜式75点、諸磯a式9点、諸磯b(新)式199点、勝坂II式・阿玉台II式20点、勝坂式終末期2点、後期前半28点である。この中で諸磯b(新)式土器については、浮線文系18点、平行沈線文

- ☆ 黒浜式 ▲ 石器類
- 諸磯b(新)式 沈線文系
- 諸磯b(新)式 浮線文系



- ▲ 諸磯b(新)式 終末期
- ★ 諸磯b(新)式 (無文・縄文施文)

第67図 白倉B区86号住居遺物出土状態

III 縄文時代の遺構と遺物

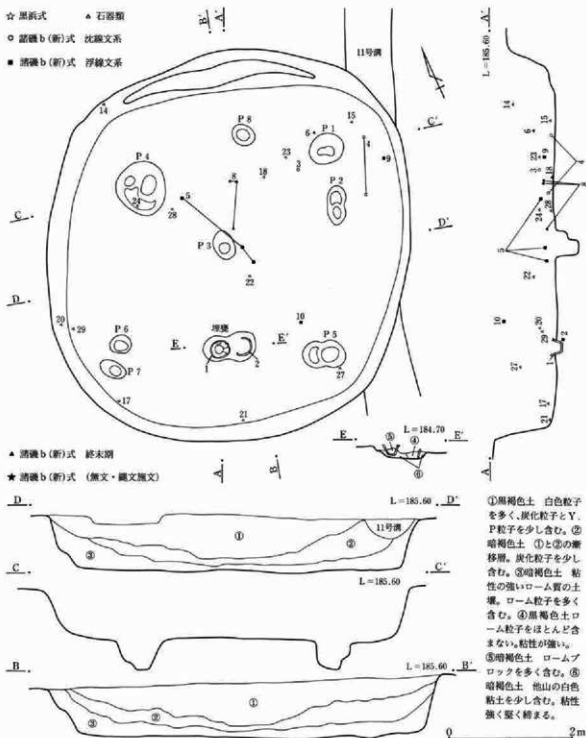
系41点、貼付文をもつ諸磯b(新)式期終末期8点、無文及び縄文施文132点の内訳である。

石器類は87点が出土し28点を一括して取り上げた。この内、石器は図示した16点が出土している。

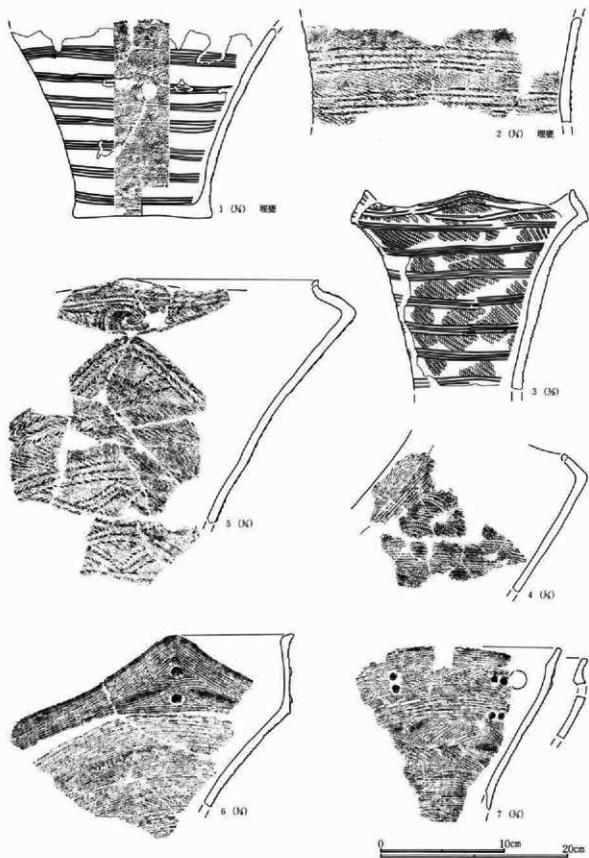
(遺物観察表：116・117頁)

重複 11号溝に切られる。

備考 柱穴や埋壙の重複、さらに北壁の段差から2回の居住が行われた可能性が高い。いずれの居住も、埋壙及び出土土器の様相から諸磯b(新)式期内に行われたものと思われる。

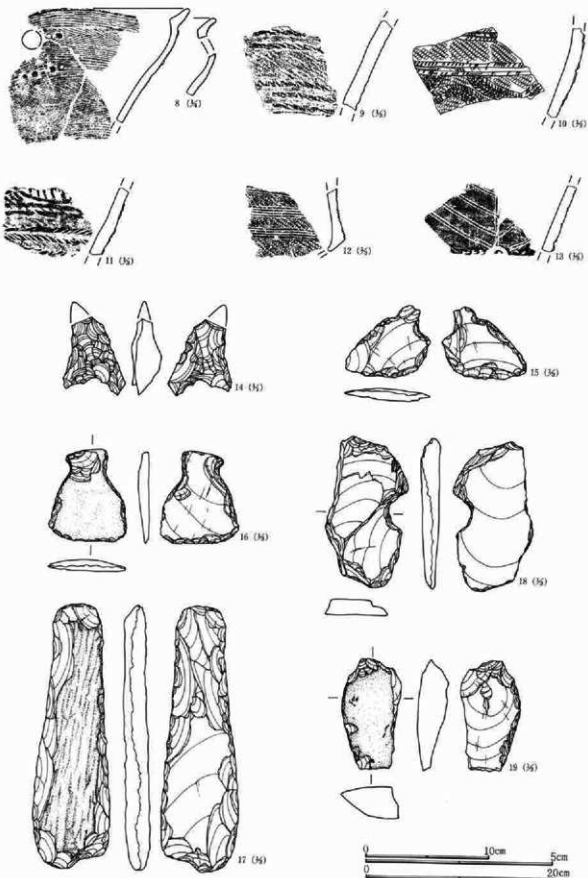


第68図 白倉B区86号住居

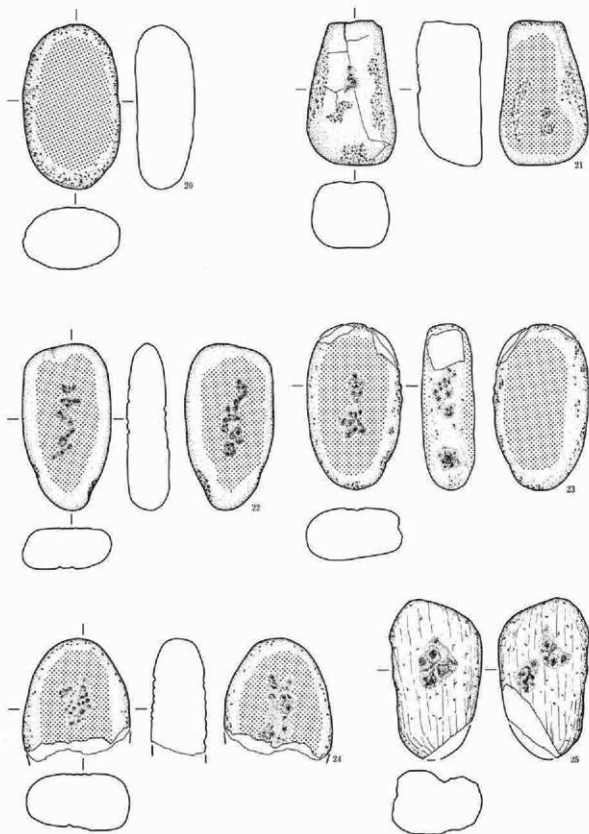


第69图 白倉B区86号住居出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



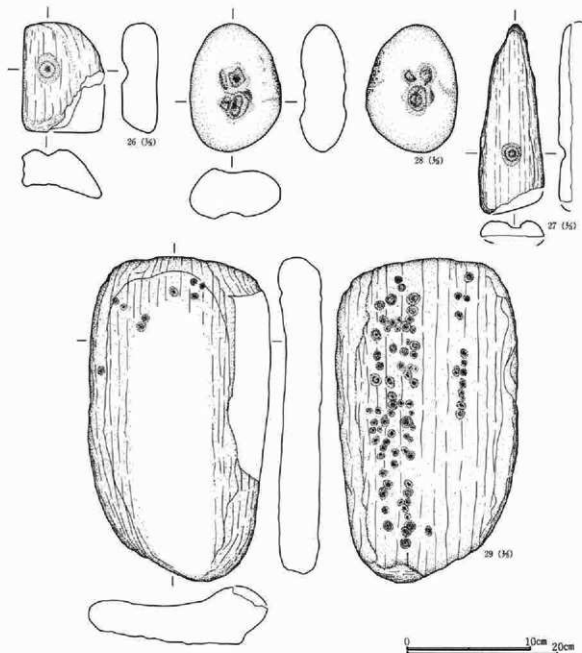
第70図 白倉B区86号住居出土遺物(2)



第71图 白倉B区86号住居出土遺物(3)

0 10cm

III 縄文時代の遺構と遺物



第72図 白倉B区86号住居出土遺物(4)

白倉B区87号住居

位置 36—47他 写真 PL17・75

形状 最大軸長4.20mで不正円形を呈する。

面積 不明 方位 不明

床面 ロームを最大9cm掘り込んで床面とし、凹凸が激しい。

埋没土 僅かにしか検出できなかった。

炉 石囲炉であったと思われるが、後世の破壊が著しく、かろうじて2辺が検出されている。

柱穴 5本検出できた。規模：(径)×深さは、P1 (32×30)×12cm、P2 (34×32)×33cm、P3 (27×25)×14cm、P4 (30×26)×34cm、P5 (35×32)×23cmである。

遺物 縄文土器184点が出土し、169点を一括して取り上げた。内訳は、黒浜式1点、阿玉台Ⅱ式1点、勝坂Ⅱ式2点、加曾利E3式171点、加曾利E4式2点、称名寺Ⅱ式7点である。出土位置の確定できる土器片は全て加曾利E3式で、壁際近くの床面直上

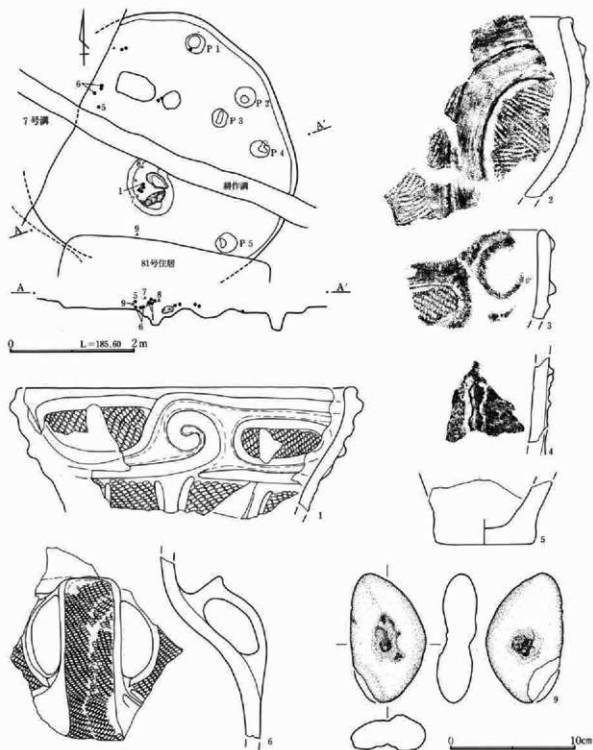
の遺物(6)も同期である。また、羽釜を含む土師器が4点出土している。石器類は炉石も含め10点出土しているが、石器は図示した3点のみであった。

(遺物観察表：117・118頁)

重複 平安時代の81号住居に切られる。また、後

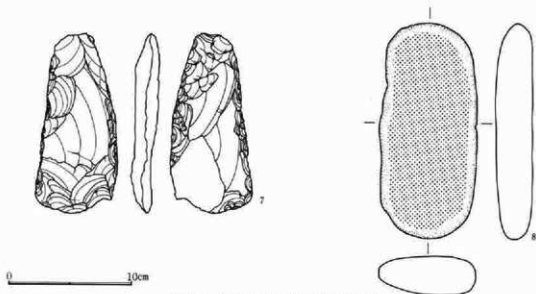
述する柄鏡形を呈する加曾利E4式期の89号住居と、好しか検出できなかった加曾利E4式期の88号住居に極めて近接した位置にある。

備考 加曾利E3式期の竪穴式住居である可能性が強い。



第73図 白倉B区87号住居と出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第74図 白倉B区87号住居出土遺物(2)

白倉B区88号住居

位置 35-49地 写真 PL17・75

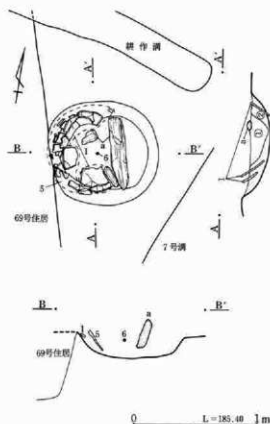
調査経過 炉が検出できたので精査したところ、炉の周辺においては床面が確認できたが他の施設については後世の破壊の影響もあり検出できなかった。

炉 南北方向に結晶片岩を一つ配置し、他の部分に同一個体の土器(1と5)を打ち欠いて2重に埋設している。土器と南北方向の炉石が接する南東部分では棒状の結晶片岩を設置している。掘り方は長辺86cm、短辺83cmの隅丸方形で18cmの掘り込みをもつ。

遺物 炉に使用された土器は同一個体で加曾利E4式である。炉の埋設土上面からは13点の加曾利E4式土器と土師器1点が出土している。また、周辺から藤坂式終末期2点、加曾利E3式2点、加曾利E4式～加曾利E5式系84点、称名寺II式1点が出土しているが、一括して取り上げた。周辺から打製石斧1点が出土している。(遺物観察表:118頁)

重複 古墳時代の69号住居に切られる。また、7号溝及び新作溝によって破壊される。炉を中心に直径4mの住居を想定した場合には、前述した加曾利E3式期の可能性が強い87号住居との距離は40cm、後述する加曾利E4式期の89号住居との距離は90cmとなり、極めて近接する。

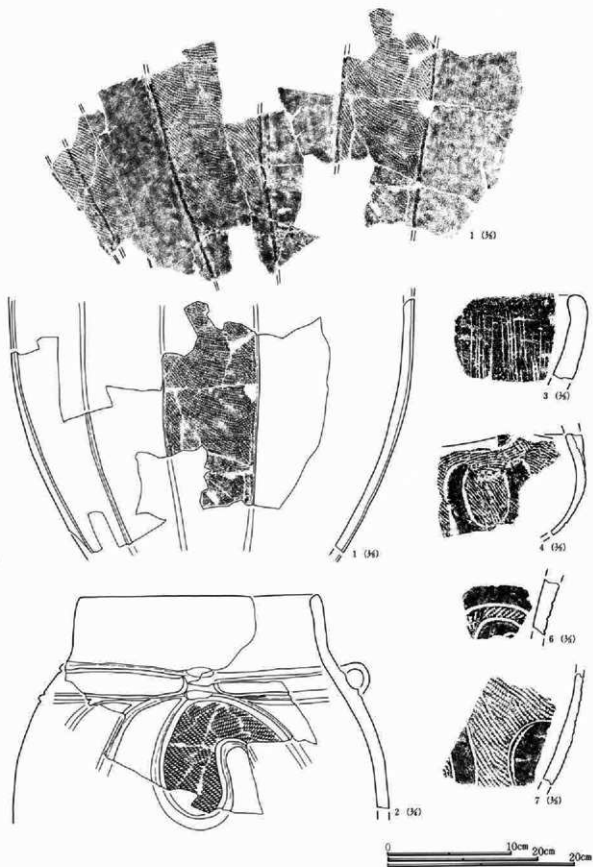
備考 加曾利E4式期の住居。



埋設土層

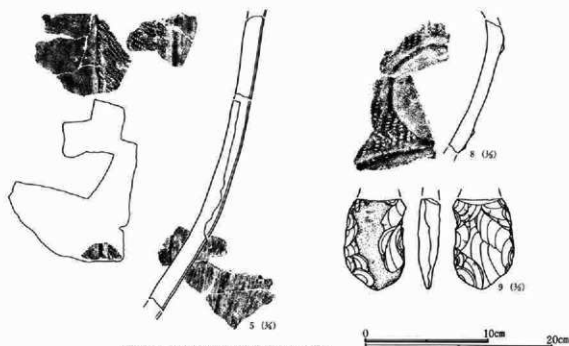
- ①暗褐色土 焼土粒子とローム粒子を少し含む。堅く締まる。
- ②褐色土 ローム質土層中に暗褐色土と焼土粒子を少し含む。

第75図 白倉B区88号住居



第76图 白倉B区88号住居出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第77図 白倉B区88号住居出土遺物(2)

白倉B区89号住居

位置 36—48他 写真 P L18・19・75・76

調査に至る経過 本遺構を切る古墳時代後期の69号住居、平安時代の81号住居、7号溝を調査した段階で配石面や礫が散在することが確認でき柄鏡形(敷石)住居の存在を想定して調査をすすめた。

形状等 柄鏡形を呈すると思われるが、主体部の形状は不明である。柄部は配石や柱穴位置などから140cmの幅をもち2m以上の長さがあったと思われる。斧は長軸68cm、短軸40cmで22cmの掘り込みをもつ地床炉である。なお、方位はN—57°—Wである。

配石 主体部において、33点の結晶片岩を主体とした小礫が床面に相当すると思われる面から検出されている。小礫は主体部の内側に散在しており、明瞭な床面が検出されなかったことなどから後世の破壊が及んだ結果として、礫が散在したのではないかと考えられる。柄部は前後が破壊されてはいるが、19点の礫を用いて配石がなされる。残存部では内側に結晶片岩を主体とする板状の石を敷き、隙間や縁辺に小礫を配する状況が検出できた。

柱穴 10本検出された。規模：〈径〉×深さは、P1〈43×37〉×59cm、P2〈32×32〉×26cm、P3〈37×

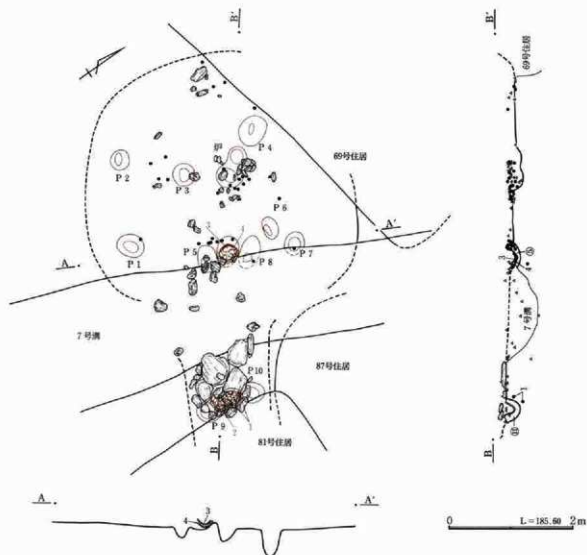
36〉×30cm、P4〈51×42〉×30cm、P5〈(44)×(42)〉×29cm、P6〈36×22〉×22cm、P7〈(48)×43〉×42cm、P8〈(54)×32〉×28cm、P9〈45×36〉×28cm、P10〈38×32〉×22cmである。この内、P5とP8、P9とP10はそれぞれ柱穴間に埋塞が検出されており、対になる柱穴と思われる。

埋塞 連結部で1基検出され、4の内側に3が入子状になっていた。柄部では2基検出された。配石の調査時において、その隙間から2が確認できていたが、配石下の調査時に1が検出できた。1と2の新旧関係は、それぞれ掘り方をもち、さらに1の2に接する側の残存状況が悪いことを考え合わせると1が埋設された後に2が埋設された可能性が高い。

遺物 埋塞も含め82点の縄文土器が出土し、42点を一括して取り上げた。諸磯b(新)式と堀之内1式各1点以外は全て加曾利E4式であるが一部に加曾利E式系に下るものも存在するかもしれない。石器は図示した2点以外に柄部配石内から多孔石1点が出土している。(遺物観察表：118・119頁)

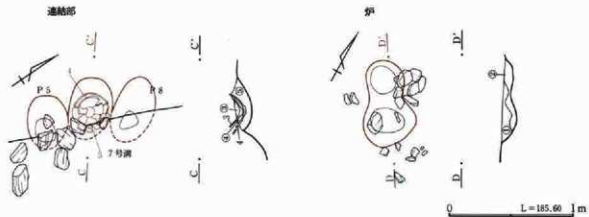
重複 調査に至る経過を参照。

備考 加曾利E4式期の柄鏡形(敷石)住居の可能性が高い。



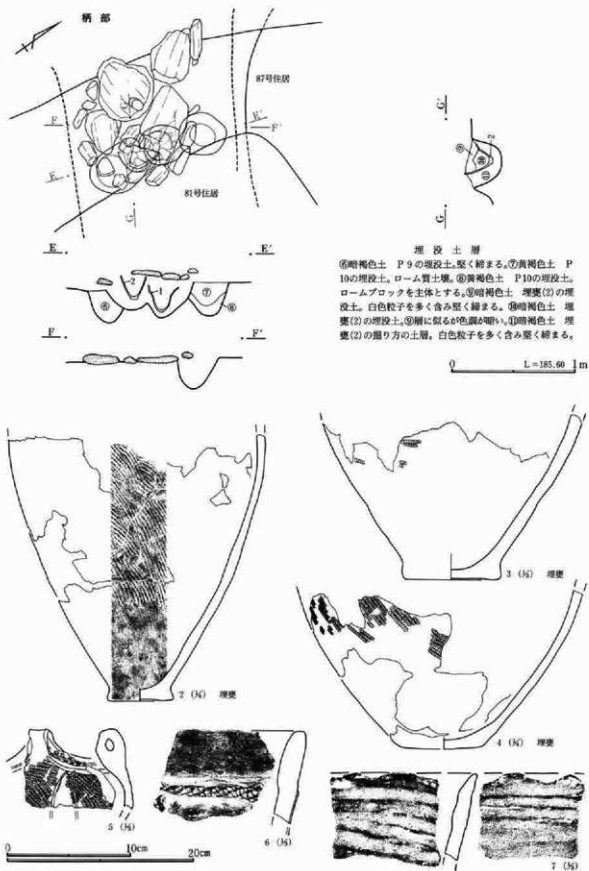
- ①暗褐色土 炉の埋戻土。炭化粒子と焼土粒子を少し含む。堅く締まる。
 ②黄褐色土 炉の埋戻土。ロームブロックを主体としてY.P粒子を少し含む。堅く締まる。
 ③暗褐色土 埋壁(3)の内の土層。白色粒子を多く含む堅く締まる。
 ④黄褐色土 埋壁(3)と埋壁(4)の間の土層。ロームブロックを主体とする。
 ⑤暗褐色土 埋壁(3と4)の掘り方の土層。白色粒子を多く含む堅く締まる。

連絡部

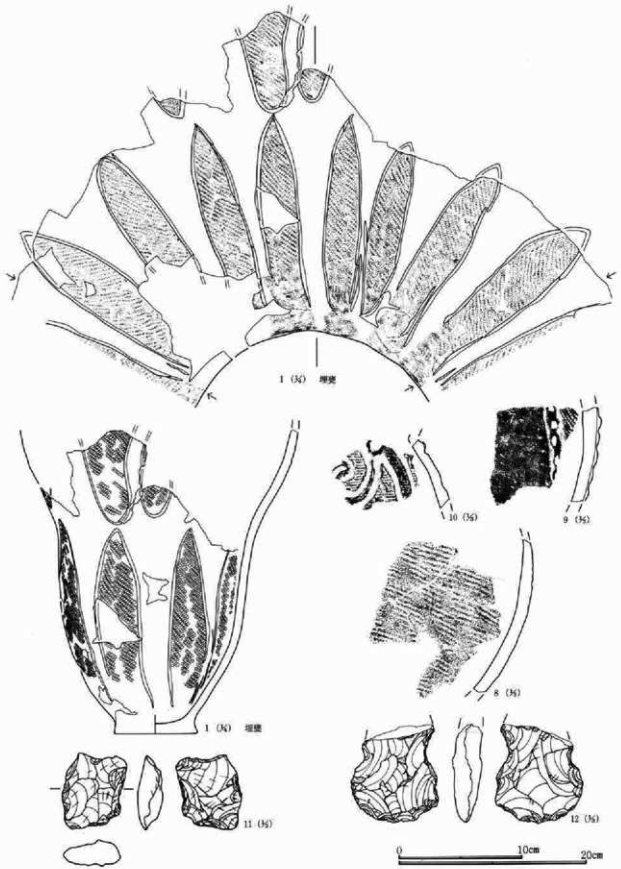


第78図 白倉B区89号住居

III 縄文時代の遺構と遺物



第79図 白倉B区89号住居と出土遺物(1)



第80圖 白倉B区89号住居出土遺物(2)

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区91号住居

位置 29-47他 写真 PL19・96

調査に至る経過 表土を除去し遺構確認をした段階で、炉および炉体土器が検出された。床面及び壁を検出することはできなかったが、炉をほぼ環状に囲むように柱穴が検出できた。

形状 不明ではあるが、柱穴位置から円形を呈していた可能性が強い。

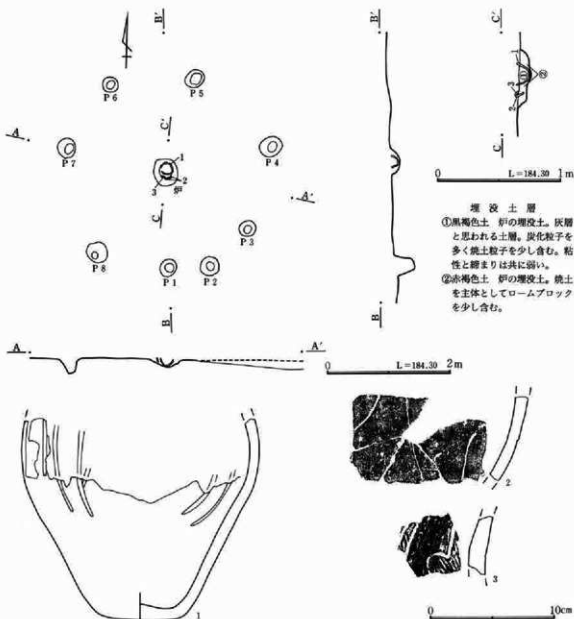
炉 長辺28cm、短辺22cmの隅丸方形の形状をもち18cmの掘り込みをもつ。掘り込み内部に1が埋設さ

れ、その南側に2が埋設してある。

柱穴 8本検出された。規模：〈径〉×深さは、P1 (28×26)×28cm、P2 (30×30)×35cm、P3 (28×25)×30cm、P4 (36×32)×35cm、P5 (32×28)×20cm、P6 (24×23)×19cm、P7 (31×27)×30cm、P8 (34×32)×26cmである。

遺物 図示した土器以外に称名寺Ⅱ式の土器片8点が出土したが一括して取り上げた。なお、石器類は出土していない。(遺物観察表：119頁)

備考 称名寺Ⅱ式の竪穴式住居であろう。



第81図 白倉B区91号住居と出土遺物

白倉B区93号住居

位置 38-58地 写真 P L19・76

形状 地形が北東に傾斜する場所に立地するため、南側及び西側に位置する壁の一部しか検出できなかった。しかしながら、残存部の状況及び遺物の分布から、隅丸長方形を呈すると思われる。

面積不明 方位 N-7°-W

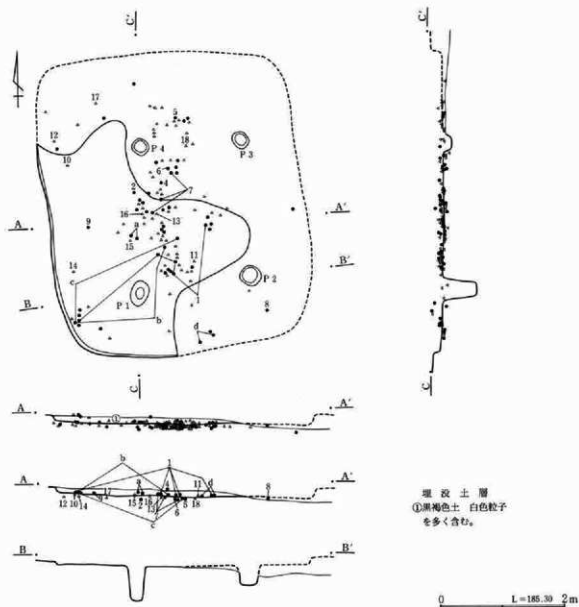
床面 ロームを最大3cm掘り込んで床面とする図示した部分しか確認できなかったが、確認できた部分では堅く締まっていた。

埋没土 僅かに確認できた。

炉 検出できず、焼土及び炭化粒子の分布も確認できなかった。

柱穴 4本検出できた。規模：〈径〉×深さは、P1(40×27)×55cm、P2(35×29)×(32)cm、P3(28×26)×16cm、P4(28×27)×(34)cmである。

遺物 縄文土器221点が出土し、168点を一括して取り上げた。内訳は、勝板Ⅱ式と堀之内Ⅰ式各1点を除けば全て黒浜式であった。また、黒浜式とした土器の内4点は比較的幅広い爪形文がみられ、菱形



埋没土層
①黒褐色土 白色粒子
を多く含む。

第82図 白倉B区93号住居

III 縄文時代の遺構と遺物

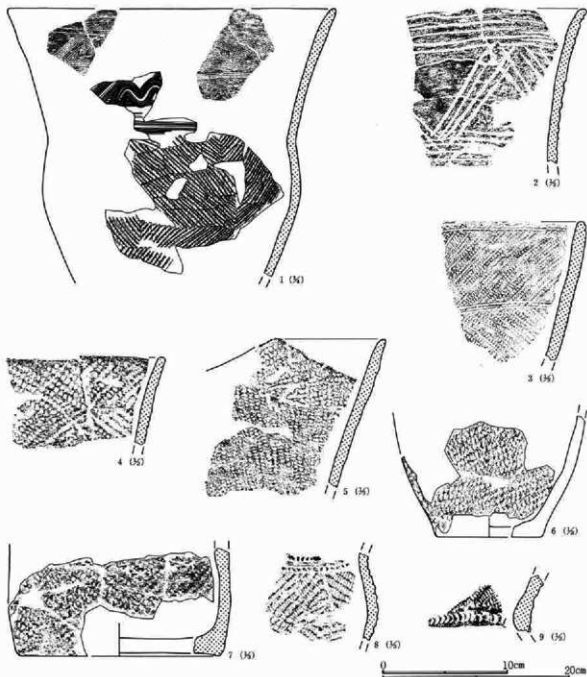
文は確認できなかったが有尾式系かもしれない。接合資料a～dはいずれも縄文施文のみの黒浜式土器の割部片である。

石器類は92点が出土し、16点を一括して取り上げた。図示した石器9点以外には、黒曜石のフレイク4点、チャートのフレイク1点、硬質泥岩を主体とするフレイク19点と結晶片岩の礫が出土している。

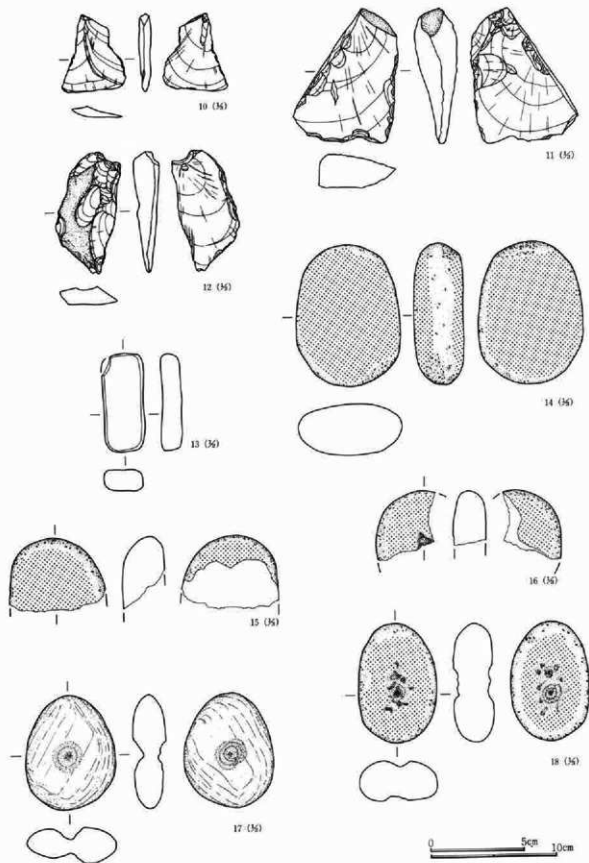
(遺物観察表：119・120頁)

重複なし

備考 灰が検出されなかったことが気になるが、黒浜式期の竪穴式住居と思われる。



第83図 白倉B区93号住居出土遺物(1)



第84图 白倉B区93号住居出土遺物(2)

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区25号住居出土遺物(第32~34図、PL 68)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴部	①良好 ②黒褐色 ③砂を含む	口径29.0、4単位の波状口縁を呈する。原形R.Lの単節斜縄文を施したのち、半縦竹管状工具による平行沈線文。1対の補修孔が残存。口唇部が強く内彎する。	諸磯b(新式) 外面炭化物付着
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む	薄い浮線を通らしたのち、原形R.Lの単節斜縄文及び隆帯の一部に器状工具による刻みを施す。	諸磯b(新式)
3	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を少量含む	原形R.Lの単節斜縄文を施したのち、半縦竹管状工具による平行沈線。	諸磯b(新式)
4	胴部片	①やや不良 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	原形R.Lの単節斜縄文を施したのち、矢羽根状の刻みを付した薄い浮線文を施す。浮線間には刺突が施される。	諸磯b(新式) 6号土坑と接合
5	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を少量含む	原形R.Lの単節斜縄文を施したのち、半縦竹管状工具による平行沈線。	諸磯b(新式) 覆土
6	胴部片	①良好 ②暗灰黄色 ③片岩を多数に含む	胴部に薄い隆帯を通らせたのち、原形R.Lの単節斜縄文及び隆帯の一部に器状工具による刻みを施す。	諸磯b(新式) 覆土

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
7	石鏃	長 < 1.7 幅 1.4 厚 0.3 重 0.6	無茎で基部の凹形が強い。先端を欠損する。	チャート
8	石鏃	長 2.2 幅 1.6 厚 0.5 重 1.3	無茎で凹基。横長削片を素材とする。未製品。	黒曜石
9	石鏃	長 2.2 幅 1.5 厚 0.2 重 0.7	有茎だが、茎部が極端に短い。完形。	P 9 覆土 黒曜石
10	石鏃	長 1.5 幅 < 2.1 厚 0.4 重 1.9	削片形状不明。小形で体部が三角形を呈す。一部を欠損する。ミニチュアか。	P10 覆土 黒曜石
11	加工痕のある石器	長 8.7 幅 7.4 厚 3.0 重 236.0	素材は円盤か。両面に加工痕。完形。	硬質泥岩
12	打製石斧	長 < 7.8 幅 4.9 厚 1.9 重 86.0	短冊形を呈する。刃部が凸刃状。基部を欠損する。	硬質泥岩
13	使用痕のある石器	長 2.9 幅 1.7 厚 0.4 重 1.9	横長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	黒曜石
14	加工痕のある石器	長 < 2.6 幅 2.1 厚 0.5 重 2.0	横長削片を素材とする。両面に丁寧な調整が施される。一部を欠損する。	P 6 覆土 黒曜石
15	加工痕のある石器	長 < 1.6 幅 2.3 厚 0.5 重 1.5	両面に丁寧な調整が施される。一部を欠損する。	黒曜石
16	加工痕のある石器	長 4.8 幅 5.6 厚 1.2 重 31.0	横長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	珪質頁岩
17	打製石斧	長 < 7.2 幅 7.2 厚 2.1 重 131.0	短冊形か。基部を欠損する。	珪質頁岩
18	磨石	長 12.0 幅 < 6.1 厚 5.8 重 577.0	両面に磨面。縁辺に縦打痕。二次的に被蝕。一部を欠損する。	デイサイト
19	石核	長 13.7 幅 13.6 厚 6.1 重 798.0	片面にのみ自然面が残る。完形。	硬質泥岩
20	多孔石	長 45.5 幅 16.6 厚 10.0 重 12400.0	両面に凹み穴目が合計55個穿たれる。完形。	雲母石英片岩
21	多孔石	長 25.6 幅 22.0 厚 11.4 重 5740.0	凹み穴Bを片面に穿つ。完形。	牛伏砂岩

白倉B区26号住居出土遺物(第38~42図、PL 68・69)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	両耳壺	①良好 ②赤褐色 ③泥を含む	口径9.3、棒状工具による沈線で文様を掘出す。文様の単位は2単位か。1つ残存する構状の把手は斜位に貼付される。原形L.Rの単節斜縄文を施す。二次的に被蝕。	加曾利E式系 埋壺
2	口縁~胴部	①良好 ②暗褐色 ③片岩を含む	口径(14.0)。棒状工具による沈線及び刺突文で文様を掘出す。部分的に刺突の隆帯を貼付する。原形L.Rの単節斜縄文を施す。	称名寺1式
3	口縁部片	①良好 ②褐色 ③砂を少量に含む	口縁上部に半縦竹管状工具による刺突。棒状工具による沈線文のち、原形R.Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式 覆土
4	口縁部片	①良好 ②灰黄褐色 ③混入物があまりなし	波状口縁。口縁部に隆帯を2条通らし、隆帯間に棒状工具により2列の刺突を施す。	加曾利E式系

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	彫形・文様の特徴等	備考
5	割部片	①良好 ②明赤褐色 ③片岩を多量に含む	微隆起により文様を露出。外面に炭化物付着。	加曾利E4式～加曾利E5式系
6	割部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による沈線のうち、原体LRの単節斜縄文を充填。	加曾利E4式覆土
7	割部片	①良好 ②淡黄色 ③片岩を少量含む	縦位の無文部分を挟んで、原体RLの単節斜縄文を縦方向に無文。	加曾利E4式～加曾利E5式系
8	割部片	①良好 ②褐色 ③黒炭質粒を多量に含む	棒状工具により沈線を凹下させたのち、原体RLの単節斜縄文を充填。	加曾利E4式
9	割部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石英を少量含む	原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式～加曾利E5式系

石 器

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
10	打製石斧	長 10.4 幅 5.2 厚 1.7 重 89.0	短冊形を呈するが刃部が凸刃で側縁が内側に彎曲する。完形。	粗粒安山岩
11	打製石斧	長 < 4.0 幅 3.5 厚 1.2 重 22.0	短冊形か。刃部を欠損する。	ホルンフェルス
12	打製石斧	長 (10.9) 幅 6.3 厚 3.0 重 270.0	横長割片を素材とする。基部を欠損する。	緑色片岩
13	磨製石斧	長 9.2 幅 6.0 厚 2.3 重 165.0	縁辺に敲打痕が見受けられる。打製石斧としても利用された可能性もある。未製品。	安玄武岩
14	打製石斧	長 < 5.6 幅 5.2 厚 1.8 重 54.0	横長割片を素材とする。接形か。基部を欠損する。	粗粒安山岩
15	加工痕のある石器	長 18.1 幅 9.3 厚 1.4 重 345.0	縁辺を中心に細かな剝離痕が見受けられるが、刃部を形成していない。下面に敲打痕が見受けられる。完形。	費母石英片岩
16	使用痕のある石器	長 7.6 幅 4.5 厚 1.5 重 49.0	縦長割片を素材とする。裏面に使用痕。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩
17	加工痕のある石器	長 3.7 幅 4.9 厚 0.8 重 18.0	横長割片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩 二次的に被熱
18	磨製石斧	長 9.6 幅 4.4 厚 3.0 重 235.0	基部を欠損した磨製石斧に再度敲打を加えている。完形。	安輝緑岩
19	磨石	長 6.5 幅 5.6 厚 5.4 重 270.0	片面に磨面。磨面以外は敲打痕。完形。	粗粒安山岩 二次的に被熱
20	凹み石	長 12.1 幅 6.7 厚 3.3 重 410.0	片面に2つの凹み穴Aが見受けられる。両面が磨面。完形。	流紋岩 二次的に被熱
21	磨石	長 11.3 幅 < 8.2 厚 2.9 重 470.0	両面が磨面。縁辺に敲打痕。一部を欠損する。	粗粒安山岩
22	磨石	長 9.0 幅 < 8.3 厚 4.2 重 385.0	両面が磨面。縁辺に敲打痕が見受けられる。一部を欠損する。	粗粒安山岩 二次的に被熱
23	磨石	長 12.0 幅 9.2 厚 5.0 重 730.0	片面に磨面。縁辺に敲打痕。一部を欠損する。	粗粒安山岩
24	凹み石	長 < 5.6 幅 < 9.0 厚 5.2 重 325.0	凹み穴Aが両面に見受けられる。磨面以外は敲打痕。	デイサイト 二次的に被熱
25	磨石	長 5.6 幅 < 3.8 厚 3.5 重 80.0	両面が磨面。約写を欠損する。	デイサイト 二次的に被熱
26	磨石	長 < 6.5 幅 < 4.4 厚 2.9 重 100.0	両面が磨面。縁辺に敲打痕は見受けられない。約写残存。	粗粒安山岩 覆土
27	凹み石	長 8.0 幅 7.3 厚 3.7 重 395.0	両面に磨面を有し、片面に凹み穴Aが見受けられる。縁辺に敲打痕。完形。	安玄武岩
28	多孔石	長 34.4 幅 28.2 厚 11.3 重 9965.0	両面に凹み穴Bが見受けられる。完形。	牛伏砂岩
29	多孔石	長 (35.2) 幅 (20.5) 厚 8.3 重 6450.0	両面に凹み穴Bが見受けられる。一部を欠損する。	牛伏砂岩 二次的に被熱
30	多孔石	長 36.9 幅 25.4 厚 15.4 重 20100.0	両面に凹み穴Bと粗い敲打痕が見受けられる。裏面にニケ所集する敲打痕が認められる。完形。台石としても使用した可能性がある。	デイサイト
31	多孔石	長 52.8 幅 42.0 厚 7.5 重 5810.0	片面に比較的浅い凹み穴Bが見受けられる。完形。	流紋岩質凝灰岩
32	多孔石	長 11.5 幅 9.5 厚 5.0 重 705.0	凹み穴Bを片面にのみ穿つ。完形。	牛伏砂岩 二次的に被熱

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
33	凹み石	長 10.5 幅 9.4 厚 3.6 重 320.0	凹み穴Aが見受けられる。一部を欠損する。	牛伏砂岩
34	多孔石	長 <13.2 幅 <11.6 厚 3.6 重 530.0	凹み穴Bが2個見受けられる。大部分を欠損する。	デイサイト 二次的に焼熟
35	多孔石	長 <17.4 幅 15.4 厚 11.4 重 4400.0	全面に敲打痕。両面に凹み穴Bが4個穿たれる。大部分を欠損する。	デイサイト 二次的に焼熟
36	多孔石	長 <28.6 幅 10.5 厚 6.7 重 2900.0	両面に凹み穴Bが見受けられる。欠損する。	緑色片岩

白倉B区27号住居出土遺物(第45～50図、PL. 69・70)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部瓦 割部瓦欠損	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂粒を多く含む	口径(27.0)、底径7.5、高さ26.5。口縁部は無文。胴部は低い隆帯による槽凹区画を施し、把手(1つ欠損)を貼付する。棒状工具による逆J字状及び鞭手状の懸垂文ののち、原形R Lの単節斜縄文を充填する。	加曾利E 3式
2	口縁→胴 部瓦残存	①良好 ②黄褐色 ③片岩を含む	口径(32.0)。口縁部には4単位の把手を付す。口縁部は凹線と低い隆帯によって4単位の文様を施す。胴部は凹線で5単位の文様を施す。原形R Lの単節斜縄文。	加曾利E 3式
3	口縁→胴 部瓦残存	①良好 ②褐色 ③片岩を含む	口径(42.0)。口縁部は4単位で低い隆帯と凹線によって文様を描出する。胴部は棒状工具による沈線が垂下。原形は0段多条の原形R Lの単節斜縄文。	加曾利E 3式 二次的に焼熟
4	口縁部瓦 残存	①良好 ②明褐色 ③片岩を含む	口径(23.0)。口縁に舌状の突起が付く。口縁部は凹線で槽凹区画文。原形R Lの単節斜縄文を充填する。口縁部文様は4単位か。胴部には鞭手状の沈線が垂下する。	加曾利E 3式
5	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を少量含む	波状口縁。低い隆帯と幅広い沈線を描出したものち、原形R Lの単節斜縄文を充填する。	加曾利E 3式
6	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③片岩を少量含む	幅広い浅い沈線で文様を描出したものち、原形R Lの単節斜縄文を充填。	加曾利E 3式
7	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	波状口縁。低い隆帯と浅い沈線による文様を描出したものち、原形R L Rの複節斜縄文を充填。	加曾利E 3式
8	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③砂を多量に含む	外面は断面カマココ状の隆帯と棒状工具による文様を描出し、原形R Lの単節斜縄文を充填。内面は浅い凹線により文様を描出。	加曾利E 3式
9	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③片岩を含む	4単位の波状口縁。口縁部文様は凹線によって4単位施される。縄文原形はR Lの単節斜縄文。0段多条か。	加曾利E 3式 二次的に焼熟
10	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を少量含む	隆帯と幅広い凹線で文様を描出したものち、原形R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
11	口縁部片	①良好 ②灰黄色 ④スクリア粒を多量に含む	波状口縁。隆帯と凹線により文様を描出したものち、原形R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
12	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を少量含む	低い隆帯と凹線によって文様を描出。区画内には原形R Lの単節斜縄文を施す。外面が磨耗している。	加曾利E 3式 13と同一個体
13	把手部	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を少量含む	把手上面は凹線によって文様を描出。	加曾利E 3式 12と同一個体
14	口縁→胴 部片	①良好 ②褐色 ③砂を含む	口縁部は低い隆帯と凹線によって文様を描出。胴部は棒状工具による沈線が垂下。0段多条のR L単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
15	口縁→胴 部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を少量含む	口縁直下に押捺及び沈線が施される。0段多条の原形R Lの単節斜縄文を施したのち沈線文。	加曾利E 3式 外面灰化物付着
16	胴→底部	①良好 ②明褐色 ③片岩を多量に含む	底径9.8。棒状工具による沈線を垂下し、原形L Lの縄文を施す。胴部文様は12単位。縄文施文は一部を固化。	加曾利E 3式 内面灰化物付着
17	胴→底部	①良好 ②明褐色 ③片岩を含む	底径(10.0)。棒状工具による沈線が垂下。原形R Lの単節斜縄文を施す。文様の単位は不明。	加曾利E 3式
18	胴→底部 瓦残存	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を含む	底径(10.2)。棒状工具による沈線が垂下。原形L Rの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
19	胴→底部	①良好 ②明褐色 ③砂を少量含む	底径8.0。棒状工具による沈線が垂下。原形R Lの単節斜縄文を施す。胴部文様は8単位。縄文施文は一部を固化。	加曾利E 3式
20	胴→底部	①良好 ②明褐色 ③雲母粒を多量に含む	底径7.0。棒状工具による沈線を垂下させ、原形R Lの単節斜縄文を施す。文様の単位は6単位。縄文施文は一部を固化。	加曾利E 3式 内面灰化物付着
21	胴→底部	①良好 ②明黄褐色 ③石英を含む	底径7.0。棒状工具による沈線が垂下。原形L Rの単節斜縄文を施す。胴部文様は6単位。外面が焼熟により剥落している。	加曾利E 3式 縄文施文は一部固化

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
22	胴～底部	①良好 ②明褐色 ③片岩を含む	底径8.0。無文。外面縦方向、内面横方向の磨きが施される。	加曾利E3式 内面炭化物付着
23	胴～底部	①良好 ②明褐色 ③片岩 と石灰を含む	底径5.0。棒状工具による沈線を下下、原形R Lの単節斜縄文を施す。胴部文様は5単位。縄文施文は一部を凹化。	加曾利E3式
24	胴～底部	①良好 ②鈍い黄褐色 ③炭母粒を多量に含む	底径6.0。棒状工具による沈線を下下。原形R Lの単節斜縄文を施す。胴部文様は10単位。縄文施文は一部を凹化。	加曾利E3式 内面炭化物付着
25	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	隆帯と凹線で文様を描出のち、原形R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式
26	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を少量含む	平截竹管状工具による縞杉文を施す。	曾利式系

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
27	打製石斧	長 14.2 幅 4.9 厚 1.9 重 152.0	短冊形を呈す。刃部が凸月で両側が僅かに内彎する。完形。	珪質頁岩
28	打製石斧	長 (11.5) 幅 7.8 厚 2.1 重 139.0	楔形か。二次的に被熱し剥落する。基部を欠損する。	粗粒安山岩 炭化物付着
29	加工砥のある石鏝	長 9.4 幅 6.2 厚 2.8 重 196.0	両面に加工砥。剥片形状不明。完形。二次的に被熱。	珪質頁岩 炭化物付着
30	加工砥のある石鏝	長 < 1.7) 幅 2.6 厚 0.5 重 2.2	両面に丁寧な調整が施される。スクレイパーか。一部を欠損する。	黒曜石
31	加工砥のある石鏝	長 8.0 幅 6.0 厚 2.0 重 120.0	縦長剥片を素材とする。両面に加工砥。完形。	珪質頁岩
32	使用砥のある石鏝	長 8.6 幅 8.8 厚 2.2 重 134.0	縦長剥片を素材とする。スクレイパーか。完形。	凝灰質砂岩
33	石鏝	長 4.5 幅 3.3 厚 1.4 重 30.0	上・下端に割離痕をもつ。完形。	緑色片岩
34	磨石	長 12.0 幅 8.2 厚 3.5 重 645.0	両面に磨面。両端に集中磨打痕が存在する。完形。	粗粒安山岩
35	磨石	長 13.4 幅 8.8 厚 5.8 重 1120.0	両面に磨面。縁辺に磨打痕。完形。	粗粒安山岩
36	凹み石	長 11.3 幅 8.6 厚 4.2 重 635.0	両面に磨面及び凹み穴Aが見受けられる。縁辺に磨打痕。一部を欠損する。	粗粒安山岩 二次的に被熱
37	磨製石斧	長 12.0 幅 7.0 厚 4.4 重 585.0	一部自然面と割離痕を残して、磨打痕がほぼ全面に見受けられる。未製基。	珪質頁岩
38	砥石か	長 8.9 幅 9.7 厚 7.8 重 1300.0	縁辺に磨打痕が見受けられ、一面にのみ研き面と思われる平坦面をもつ。完形。	凝輝緑岩
39	台石か	長 (27.0) 幅 14.7 厚 7.5 重 6200.0	縁辺及び上面に集中して磨打痕を蓄す。	緑色片岩
40	多孔石	長 < 8.8) 幅 (10.9) 厚 6.1 重 505.0	凹み穴Bを片面にのみ穿つ。欠損する。	牛伏砂岩 二次的に被熱
41	石鏝	長 (19.0) 幅 (15.8) 厚 5.6 重 1600.0	片面に磨面が両面に凹み穴Bが見受けられる。破片。	牛伏砂岩

白倉B区42号住居出土遺物(第53・54図、PL 71)

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部及 胴部欠損	①良好 ②褐色 ③片岩を含む	口径(54.0)。底径5.6。強い隆帯と凹線によって文様を描出。口縁部文様は4単位。胴部文様の単位は不明。原形R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式 二次的に被熱
2	口縁～胴 部欠損	①良好 ②灰黄褐色 ③黒雲母と石灰を含む	口径(39.0)。凹線によって文様を描出。原形R Lの単節斜縄文を施す。口縁部文様は8単位で胴部文様は12単位。	加曾利E3式
3	口縁～胴 部欠損	①良好 ②鈍い黄褐色 ③スコリア粒を含む	強い沈線と隆帯で文様を描出する。原形R Lの単節斜縄文を施す。口縁部文様の単位は不明だが胴部文様は10単位。	加曾利E3式 埋塞
4	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒雲母粒を含む	強い隆帯と凹線によって文様を描出する。縄文原形は8段多乘R L。	加曾利E3式
5	口縁部片	①やや不良 ②黄褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	凹状口縁。浅い沈線を施す。無文。	加曾利E3式
6	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を含む	口縁部把手上面及び外面に凹線による文様を施す。縄文原形はR Lの単節斜縄文。	加曾利E3式

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
7	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を少量含む	低い隆帯の褐色文。地文は原体R Lの単節斜縄文。	加曾利E 3式
8	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③管母殻を多量に含む	棒状工具による沈線を下下し、原体R Lの単節斜縄文を施す。縄文地文は一部を欠化。	加曾利E 3式
9	胴部片	①良好 ②明褐色 ③石英を少量含む	棒状工具による沈線を下下したのち、原体R Lの単節斜縄文を充填。	加曾利E 3式
10	胴部片	①良好 ②明褐色 ③砂を多量に含む	凹線によって文様を描出する。	加曾利E 3式
11	底部	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	底径6.6。無文で縦方向の磨きが施される。	加曾利E 3式

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
12	打製石斧	長 < 8.3> 幅 < 4.8> 厚 4.3 重 109.0	短冊形か。刃部が凸刃状を呈す。基部を欠損する。	褐色片岩 覆土
13	磨製石斧	長 < 4.1> 幅 3.1 厚 0.9 重 23.0	両側の稜が明瞭。基部を欠損する。	変玄武岩
14	敲石か	長 < 8.9> 幅 < 10.7> 厚 8.8 重 1450.0	集中する敲打痕が一部認められる。破片。	変玄武岩

白倉B区43号住居出土遺物(第56・57図、PL 71)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石英を含む	低い隆帯と凹線で文様を描出する。0段多糸R Lの斜縄文を施す。	加曾利E 3式
2	口縁部片	①良好 ②明黄褐色 ③礫を少量含む	樽状工具による条線を施す。	曾利式系か
3	口縁部片	①良好 ②鈍い黄色 ③砂を多量に含む	幅広い凹線ののち、原体R Lの単節斜縄文を施す。二次的に被熱。71号住居8と同一個体。	加曾利E 3式
4	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③混入物あまりなし	幅広い凹線と隆帯で文様を描出したのち、原体L Rの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
5	胴部片	①やや不良 ②黄褐色 ③石英を少し含む	棒状工具による沈線を下下したのち、原体L Rの単節斜縄文を施す。がに使用される。	加曾利E 3式 二次的に被熱
6	胴部片	①良好 ②褐色 ③砂を多量に含む	棒状工具による沈線を下下したのち、原体R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
7	胴部片	①良好 ②褐色 ③砂を多量に含む	低い隆帯と凹線を返らす。胴下半部は沈線を施す。地文は原体R Lの単節斜縄文。	加曾利E 3式
8	胴部片	①良好 ②褐色 ③礫を含む	棒状工具による沈線を下下。地文は樽状工具による条線。胴上部に隆帯を貼付する。	曾利式系か
9	胴部片	①良好 ②明褐色 ③礫を少量含む	原体L Rの単節斜縄文を施す。外面が荒れている。	加曾利E 3式
10	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③砂を多量に含む	凹線で文様を描出。外面に一部炭化物が付着する。	加曾利E 3式

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
11	石磯	長 2.0 幅 < 1.5> 厚 0.4 重 0.7	無茎で、基部の凹形が弱い。返しを欠損する。	黒曜石
12	打製石斧	長 < 11.7> 幅 6.5 厚 1.9 重 275.0	短冊形を呈する。比較的大形。基部を欠損する。	粗粒安山岩 が埋没土中出土
13	打製石斧	長 11.8 幅 4.9 厚 1.6 重 107.0	短冊形を呈し、横やかな凸刃。刃部に使用痕。完形。	粗粒安山岩 覆土
14	使用痕のある石器	長 < 4.2> 幅 3.6 厚 1.2 重 20.0	横長割片を素材とする。スクレイパーか。一部を欠損する。	珪質頁岩
15	凹み石	長 13.1 幅 9.3 厚 6.2 重 1230.0	自然石を使用。両面が磨面。凹み穴Aが片面に見受けられる。完形。	粗粒安山岩

白倉B区49号住居出土遺物(第59・60図、PL. 72)

土 器

(単位: cm)

番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁～胴部 深 鉢	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	口径(36.0)。口縁部は低い隆帯と凹縁で2単位の文様を描出す。胴部は凹縁で渦巻文を描出す。原体R L Rの複節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
2	口縁～胴部 深 鉢	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	口径11.7。口縁部に沈線が巡る。原体R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式 内面炭化物付着
3	胴～底部 深 鉢	①良好 ②明褐色 ③砂を多量に含む	底径5.9。棒状工具による沈線が直下する。原体R Lの単節斜縄文を施す。胴部文様の単位は9単位。地文図化は中央のみ。	加曾利E 3式 内面炭化物付着
4	胴～底部 深 鉢	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を多量に含む	底径5.8。棒状工具による沈線が直下する。原体R Lの単節斜縄文を施す。胴部文様の単位は4単位。地文図化は中央のみ。	加曾利E 3式 内面炭化物付着
5	胴～底部 深 鉢	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒雲母粒を含む	底径(5.9)。棒状工具による沈線を縦位に施す。外面に炭化物が付着する。地文図化は中央部のみ。	加曾利E 3式 覆土
6	胴部 深 鉢	①良好 ②鈍い黄褐色 ③雲母粒を含む	底径7.3。棒状工具による沈線が直下し、原体R Lの単節斜縄文を施す。胴部文様の単位は9単位。	加曾利E 3式 内面炭化物付着
7	胴～底部 深 鉢	①良好 ②褐色 ③片岩の 礫を多量に含む	底径9.0。棒状工具による沈線が直下する。原体L Lの縄文を施す。胴部文様の単位は不明。地文図化は中央部のみ。	加曾利E 3式
8	胴～底部 深 鉢	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を多量に含む	底径7.2。棒状工具による沈線が直下する。原体R Lの単節斜縄文を施す。胴部文様の単位は不明。地文図化は中央のみ。	加曾利E 3式
9	口縁部片 深 鉢	①良好 ②灰黄色 ③砂を含む	棒状工具による沈線文。原体R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
10	胴部片 深 鉢	①やや不良 ②鈍い黄褐色 ③石英を少量含む	棒状工具による沈線を直下し、原体R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式 二次的に被熱
11	耳 取 深 鉢	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒雲母粒を含む	凹縁によって文様を描出す。原体R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式

石 器

(単位: cm, g)

番号	種 類	大きさ・重 量	形 状 ・ 特 徴 等	備 考
12	石 錘	長 1.3 幅 1.4 厚 0.8 重 1.3	無茎で平基か。未製品。	黒曜石
13	多孔石	長 <12.9> 幅 8.8 厚 5.0 重 785.0	凹面に凹み穴目が見受けられる。全面に縦行痕。一部を欠損する。	変玄武岩

白倉B区71号住居出土遺物(第62～65図、PL. 72・73)

土 器

(単位: cm)

番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁～胴部 深 鉢	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒雲母粒を含む	口径(50.0)。口縁部は低い隆帯と凹縁によって文様を描出し、縄文を充塞する。胴部は棒状工具による沈線文を直下させ、交互に縄文を充塞したのち、蛇行沈線を施す。原体R Lで単節斜縄文。縄文施文は一部を凹化。	加曾利E 3式
2	口縁～胴部 深 鉢	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	口径(32.0)。口縁部に凹縁が巡る。胴部は棒状工具による逆U字状及び腕手状の沈線文を施文。原体R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式 43号住居と接合
3	口縁部片 深 鉢	①良好 ②明褐色 ③石英 と黒雲母粒を含む	口径(21.0)。波状口縁を呈する。口縁部は低い隆帯と凹縁で、胴部は凹縁で文様を描出す。原体R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
4	口縁～胴部 深 鉢	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	口径(22.0)。口縁部は4単位の波状口縁を呈する。低い隆帯と棒状工具による沈線で文様を描出す。原体L Rの単節斜縄文を施す。文様の単位は、口縁部4単位、胴部12単位。	加曾利E 3式 43号住居層土と接合
5	口縁部片 深 鉢	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	高い隆帯と凹縁で文様を描出す。原体R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
6	口縁部片 深 鉢	①良好 ②灰黄褐色 ③石英を少量含む	棒状工具による沈線文のち、原体R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
7	口縁～胴部 深 鉢	①良好 ②黄褐色 ③黒雲母粒を含む	口径(28.6)。口縁に舌状の突起を4単位付す。口縁部文様も4単位で低い隆帯と凹縁で文様を描出す。胴部には沈線と刺突が巡る。原体R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
8	口縁部片 深 鉢	①良好 ②鈍い黄色 ③砂を多量に含む	幅広い凹縁のち、原体R Lの単節斜縄文を施す。二次的に被熱。	加曾利E 3式 43号住居と同一個体
9	口縁部片 深 鉢	①良好 ②黄褐色 ③雲母粒を含む	低い隆帯と棒状工具による沈線文。口縁部には舌状の突起を付す。原体R Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
10	口縁部片 深 鉢	①良好 ②灰黄褐色 ③砂を含む	波状口縁。低い隆帯と凹縁によって口縁部の文様を描出す。地文は原体R Lの単節斜縄文。	加曾利E 3式

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
11	口縁部片	①良好 ②灰黄褐色 ③片岩少量、砂を少量含む	隆帯と幅広い凹線を施したのち原体R.Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式
12	口縁部片	①良好 ②灰黄褐色 ③砂を少量含む	棒状工具による比線文。原体R.Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式
13	胴～底部	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	底径(6.9)。棒状工具による比線を垂下させる。原体R.L.Rの複節斜縄文を施す。	加曾利E3式
14	胴～底部	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	底径4.8。棒状工具による6+aを単位とした蛇行する条線が垂下する。	加曾利E3式
15	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による比線ののち、原体R.Lの単節斜縄文。	加曾利E3式
16	胴部片残存	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による比線を垂下させ、原体R.Lの単節斜縄文を施す。胴部文様は8単位か。縄文地文は一部を固化。	加曾利E3式
17	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③スクリア粒を含む	口縁部は凹線及び比線文。胴部は棒状工具による集合比線を垂下させる。	加曾利E3式 内面炭化物付着
18	頸～胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を少量含む	隆帯によって文様を描出する。頸部下に棒状把手を有する。棒状把手の内側に一部黒色の塗彩。胴部内面に一部赤彩が観察できる。	加曾利E3式
19	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	棒状工具による比線文を施す。胴部文様は8単位で原体R.Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式 43号住居と接合
20	口縁～胴部片	①良好 ②灰黄褐色 ③黒雲母粒を少量含む	棒状工具による比線で文様を描出したのち、原体R.Lの単節斜縄文を施し、さらに帯状棒状工具による条線を施す。	加曾利E3式

石器

(単位: cm, 8)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
21	石鏃	長 < 1.6 幅 < 1.3 重 0.6 重 0.2	無茎で凹基と思われる。返しを欠損する。	チャート
22	石匙	長 6.4 幅 9.4 厚 1.4 重 61.0	横長剥片を素材とする。体部が三角形を呈する。完形。	辻貫頁岩 覆土
23	打製石斧	長 < 4.9 幅 < 4.6 厚 1.5 重 36.0	側縁が内湾する。刃部を欠損する。	硬質泥岩 覆土
24	打製石斧	長 11.6 幅 5.7 厚 2.0 重 164.0	縁辺を中心に細かな刻痕が見受けられる。完形。	硬質泥岩
25	使用痕のある石器	長 2.4 幅 5.2 厚 0.6 重 10.0	横長剥片を素材とする。スクレイパーか。完形。	細粒安山岩 覆土
26	磨製石斧	長 < 8.2 幅 5.6 厚 2.6 重 244.0	製作途中の欠損品か。縁辺を中心に敲打痕が見受けられる。未製品。	実は入れい岩
27	凹み石	長 14.2 幅 5.0 厚 2.2 重 318.0	片面に凹み穴Aが見受けられる。完形。	雲母石英片岩
28	多孔石	長 < 31.0 幅 27.2 厚 7.2 重 4900.0	両面に凹み穴Bが見受けられる。片面は剝離ののち、凹み穴Bを施している。焼熱し片面に炭化物が付着している。一部を欠損する。	牛伏砂岩
29	加工痕のある石器	長 16.0 幅 2.8 厚 4.3 重 312.0	先端に加工を施す。縁辺の一部に敲打痕が見受けられる。完形。石器の形状と石材形状がほぼ一致する。	硬質泥岩

白倉B区74号住居出土遺物(第66図、PL. 73)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1・2	口縁～胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂粒を少量含む	棒状工具による比線を施したのち、原体L.Rの単節斜縄文を充順。1・2は同一個体。	称名寺I式

白倉B区86号住居出土遺物(第69～72図、PL. 73・74)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴～底部	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を少量含む	底径14.5。原体L.Rの単節斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による平行比線文を施す。胴下部～底部に炭化物付着。	溝瀆b(新)式 埋藏 地文中央固化
2	胴部片残存	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む	4本1束の薄い浮線文を施したのち、0段多束の原体R.Lの単節斜縄文を施す。二次的に被熱。	溝瀆b(新)式 埋藏
3	口縁～胴部片残存	①良好 ②鈍い褐色 ③雲母粒を含む	口径(16.7)。4単位の波状口縁を呈する。原体R.Lの単節斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による平行比線文を施す。	溝瀆b(新)式

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	形状・文様の特徴等	備考
4	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量、礫を少量含む	波状口縁。原形R Lの単節斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による浅い比線で文様を掘出す。	清縄b(新)式
5	口縁~胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	波状口縁。口縁部は肥先状を呈する。原形R Lの単節斜縄文を施したのち、矢羽根状の刻みを付した薄いつ浮線文で文様を掘出す。	清縄b(新)式
6	口縁~胴部片	①良好 ②黄褐色 ③片岩を含む	波状口縁を呈する。胴部の一部に原形R Lの単節斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による比線で文様を掘出し、口縁部に円形の隆帯を貼付する。	清縄b(新)式終末期
7・8	口縁~胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③片岩を多量に含む	波状口縁を呈し波状部の口縁部が内巻し、径2cmの円孔を有する。半截竹管状工具による平行比線ののち、円形の隆帯を貼付したり、棒状工具による刺突を施す。二次的に被熱の為、内面の一部が剥落。	清縄b(新)式終末期 7は覆土
9	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	薄いつ浮線を巡らしたのち、原形R Lの単節斜縄文を施す。	清縄b(新)式
10	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	原形R Lの単節斜縄文を施したのち、刻みを付した薄いつ浮線を巡らせる。曲線を描く浮線間には半截竹管状工具による刺突が施される。	清縄b(新)式 浮線が一部剥落
11	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を多量に含む	薄いつ浮線を施したのち、原形R Lの単節斜縄文と笈状工具による矢羽根状の刻みを施す。	清縄b(新)式 覆土上層
12	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③砂を含む	原形R Lの単節斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による平行比線を施す。	清縄b(新)式 覆土
13	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③礫を少量含む	竹管による円形刺突及び半截竹管状工具による比線及び刺突を施す。	清縄a式 覆土

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
14	石鏃	長く2.0の 幅 1.7 厚 0.8 重 1.7	無茎で基部の凹形が強い。先端を欠損する。未製品。	黒曜石
15	石匙	長 5.7 幅 6.7 厚 0.9 重 27.0	横長の形状で縦長削片を素材とする。完形。	粗粒安山岩
16	石匙	長 7.3 幅 6.2 厚 0.8 重 45.0	縦長削片を素材とし、体部が三角形状を呈する。完形。	硬質泥岩 覆土
17	打製石斧	長 20.8 幅 6.2 厚 1.9 重 360.0	短冊形を呈するが大形で基部より刃部に向って若干開く。完形。	緑色片岩
18	加工痕のある石器	長 11.8 幅 6.1 厚 1.3 重 130.0	縦長削片を素材とする。完形。	緑色片岩
19	加工痕のある石器	長 8.7 幅 4.8 厚 2.4 重 105.0	縦長削片を素材とする。両刃に加工痕。完形。	硬質泥岩 覆土
20	磨石	長 13.0 幅 7.8 厚 4.9 重 720.0	片面に磨面。縁部に敲打痕が見受けられる。完形。	デイサイト質凝灰岩
21	凹み石	長 11.2 幅 6.3 厚 5.1 重 734.0	台形状に敲打によって整形。片面に凹み穴Aが、両面に磨面が見受けられる。完形。	粗粒安山岩
22	凹み石	長 13.2 幅 7.1 厚 3.3 重 526.0	両面に磨面と凹み穴Aが見受けられる。縁辺の一部に敲打痕。完形。	粗粒安山岩
23	凹み石	長 13.1 幅 7.7 厚 4.2 重 600.0	両面に磨面で縁辺に敲打痕。片面及び両面に凹み穴Aが見受けられる。一部を欠損する。	デイサイト
24	凹み石	長く9.6の 幅く8.6の 厚 4.4 重 510.0	両面に凹み穴Aと磨面が見受けられる。約半を欠損する。	デイサイト質凝灰岩
25	凹み石	長く12.5の 幅 7.3 厚 4.9 重 650.0	両面に凹み穴Aが見受けられる。一部を欠損する。	霞母石英片岩 覆土
26	多孔石	長 8.6 幅く6.4の 厚 2.8 重 228.0	片面に凹み穴Bが1つ見受けられる。一部を欠損する。	霞母石英片岩 上層覆土
27	多孔石	長 12.9 幅 5.2 厚 1.2 重 120.0	凹み穴Bが1つ見受けられる。一部を欠損する。	黒色片岩
28	凹み石	長 10.0 幅 7.3 厚 3.8 重 435.0	両面に凹み穴Aが側縁の一部に敲打痕が見受けられる。完形。	緑色片岩
29	石皿	長 42.5 幅 23.8 厚 7.5 重 10400.0	両面に凹み穴Bが見受けられる。一部を欠損する。	緑色片岩 二次的に被熱

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区87号住居出土遺物(第73・74図、PL 75)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁~胴部片残存	①良好 ②鈍い赤褐色 ③雲母粒を多量に含む	口径(26.0)。口縁部は2単位で低い隆帯及び凹線によって文様を描出。胴部は棒状工具による沈線が垂下する。原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式
2	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を含む	微隆起で文様を描出したのち原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式
3	口縁部片	①やや不良 ②黄褐色 ③ 雲母粒、砂、礫を多量含む	波状口縁。隆帯と棒状工具による沈線で文様を描出したのち、原体LRの単節斜縄文を充満。	加曾利E3式 覆土
4	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③礫を少量含む	隆帯を垂下し、押捺。	加曾利E4式か 覆土
5	底部	①良好 ②鈍い褐色 ③礫を含む	底径7.6。無文。内外面共に縦方向の磨きが認められる。	加曾利E3式
6	把手部	①良好 ②鈍い褐色 ③礫を少量含む	棒状工具による沈線文。原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式か

石 器			(単位: cm, g)	
番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
7	打製石斧	長 14.0 幅 6.5 厚 2.3 重 175.0	楔形に近い形状。一部欠損する。	珪質頁岩
8	磨石	長 17.0 幅 7.8 厚 3.0 重 690.0	片面に磨面が見受けられる。完形。	デイサイト
9	凹み石	長 10.1 幅 6.0 厚 1.8 重 198.0	凹み穴Aが凹面に見受けられる。完形。	牛伏砂岩

白倉B区88号住居出土遺物(第76・77図、PL 75)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴部片残存	①良好 ②明褐色 ③礫を少量含む	断面三角の低い隆帯を垂下させたのち、交互に原体LRの単節斜縄文を充満する。隆帯による縦位区画が主体を占めるが、部分的に沈線が垂下する。胴部文様の単位は不明。が体土器。	加曾利E4式 外面炭化物付着 5と同一個体
2	口縁~胴部片残存	①良好 ②鈍い褐色 ③石英を含む	口径25.0。胴部に棒状把手が痕跡が1ヶ所残存。隆帯及び隆帯に約った沈線で文様を描出したのち、原体LRの単節斜縄文を施す。把手及び胴部文様の単位は不明。	加曾利E4式 覆土 外面炭化物付着
3	口縁部片	①良好 ②淡黄色 ③砂を多量に含む	微隆起で文様を描出したのち、原体LRの無節の斜縄文を施す。	加曾利E4式 覆土
4	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石英を少量含む	波状口縁。棒状工具による文様を描出したのち、原体LRの無節の斜縄文を施す。	加曾利E4式 覆土
5	胴部片	①良好 ②暗褐色 ③黒雲母粒を含む	2本1組の断面三角の隆帯が垂下し、原体LRの単節斜縄文を施す。二次的に磨蝕し、外面が割傷している。が体土器。	加曾利E4式 1と同一個体
6	胴部片	①良好 ②灰黄色 ③砂を少量含む	棒状工具により文様を描出したのち、原体LRの単節斜縄文。	加曾利E4式
7	胴部片	①不良 ②明黄褐色 ③石英を少量含む	棒状工具により文様を描出したのち、原体LRの単節斜縄文。	加曾利E4式 覆土
8	口縁部片	①良好 ②明黄褐色 ③石英を含む	断面三角の微隆起を貼付したのち、原体LRの単節斜縄文を充満する。外面が磨蝕している。	加曾利E5系 覆土

石 器			(単位: cm, g)	
番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
9	打製石斧	長 7.1 幅 4.9 厚 1.7 重 66.0	短冊形か。凸刃を呈する。基部欠損する。	珪質頁岩 覆土

白倉B区89号住居出土遺物(第79・80図、PL 75・76)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴~底部	①良好 ②鈍い褐色 ③石英を含む	底径9.0。棒状工具による沈線で文様を描出したのち、原体LRの単節斜縄文を施す。文様の単位は8単位。	加曾利E4式 埋戻
2	胴~底部	①良好 ②黄褐色 ③礫を少量含む	底径7.0。裏出し底を呈する。原体LRの無節斜縄文を施す。縄文施文は中央部だけを区画化	加曾利E4式か 埋戻

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
3	胴～底部	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	底径8.0、底部は張り出し底を呈する。原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式か埋土
4	胴～底部	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	底径8.3、原体LRの単節斜縄文を施す。二次的に被焼している。	加曾利E4式か埋土
5	口縁部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	波頂部に頸状の把手を付す。棒状工具による刺突及び沈線で文様を描出のち、原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式覆土
6	口縁部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	低い隆帯を巡らし垂下させる。隆帯上には原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式3の中から出土
7	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③礫を少、砂を多量に含む	内外面共に撫でによる微隆起が施される。	加曾利E式系かP4覆土
8	胴部片	①良好 ②灰黄色 ③片岩を少、砂を多量に含む	原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式3の中から出土
9	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	頸状の隆帯を垂下したのち、原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E式系かP3覆土
10	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③礫を少量含む	棒状工具による沈線をしたのち、原体LRの単節斜縄文を施す。	堀之内1式覆土

石器

(単位: cm, g)

番号	種別	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
11	加工痕のある石磨	長 5.9 幅 5.2 厚 2.1 重 60.0	剥片形状不明。両面に加工痕。完形。	硬質泥岩覆土
12	打製石斧	長 < 7.8 幅 < 6.7 厚 2.4 重 117.0	分剝形を呈する。基部を欠損する。	硬質泥岩覆土

白倉B区91号住居出土遺物(第81図、PL 76)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴～底部	①良好 ②赤褐色 ③礫を少量含む	底径6.0、棒状工具による沈線文。文様の単位は2単位か。が体土磨。	称名寺I式式外面炭化物付着
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	棒状工具による沈線を施す。	称名寺I式式
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	棒状工具による沈線をしたのち、原体LRの無節斜縄文を施す。	称名寺I式式

白倉B区93号住居出土遺物(第83・84図、PL 76)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴部片残存	①良好 ②明褐色 ③繊維を含む	口径34.6、口縁部は9本1組の帯歯状工具による浅い沈線を横位に巡らせたのち、波状文を描出する。胴部は原体RとLの無節縄文を、ややくずれた菱形に施文。	黒沢式
2	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を多量に含む	半截竹管状工具による平行沈線で文様を描出する。	黒沢式
3	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③黒雲母と繊維を僅か含む	原体LRとRLの単節斜縄文を羽状に施文したのち、半截竹管状工具による平行沈線を巡らせる。	黒沢式覆土
4	口縁部片	①やや不良 ②褐色 ③礫を少量、繊維を多量含む	原体RLとLRの単節斜縄文を菱形に施文。	黒沢式
5	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③石英と繊維を含む	波状口縁。原体LRの単節斜縄文を菱形に施文する。	黒沢式
6	胴～底部	①良好 ②赤褐色 ③砂を含む	底径8.5、原体LRの単節斜縄文を施す。	黒沢式併行か信州系(?)
7	胴～底部片残存	①良好 ②明赤褐色 ③繊維を含む	底径16.0、底面は上げ底状を呈する。原体不明の縄文を菱形に施文。	黒沢式
8	胴部片	①やや不良 ②褐色 ③片岩と繊維を多量に含む	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。地文は9段多条の原体RLとLRの単節斜縄文を菱形に構成。2本の爪形文の間に縄文は施されていない。	有尾式系
9	胴部片	①やや不良 ②赤褐色 ③繊維を多量に含む	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。地文は9段多条の原体LRの単節斜縄文。	有尾式系

III 縄文時代の遺構と遺物

石 器				(単位: cm, g)		
番号	種 類	大 き さ ・ 重 量		形 状 ・ 特 徴 等		備 考
10	使用痕のある石鏃	長 6.2 厚 10.0	幅 5.1 重 22.0	縦長剣片を素材とする。スクレイパーか。完形。		硬質泥岩
11	使用痕のある石鏃	長 10.6 厚 3.4	幅 8.3 重 225.0	横長剣片を素材とする。完形。		砂岩
12	使用痕のある石鏃	長 9.6 厚 2.1	幅 5.3 重 77.0	縦長剣片を素材とする。スクレイパーか。完形。		硬質泥岩
13	垂磨か	長 5.2 厚 1.1	幅 2.2 重 24.0	垂磨の未製品か。研磨により長軸方向の縁が目立つ。一部を欠損する。		滑石
14	磨石	長 11.3 厚 4.0	幅 8.4 重 597.0	両面に磨面。縁辺及び磨面の一部にも敲打痕が見受けられる。完形。		砂岩
15	磨石	長 < 5.7) 厚 3.3	幅 < 7.7) 重 162.0	両面に磨面が見受けられる。縁辺を中心に敲打痕。大部分を欠損する。		デイサイト
16	凹み石	長 < 5.0) 厚 2.6	幅 < 4.2) 重 90.0	片面に凹み穴Aが、両面に磨面が見受けられる。縁辺を中心に敲打痕。破片。		粗粒安山岩
17	多孔石	長 9.0 厚 2.8	幅 7.1 重 265.0	両面に凹み穴Bが見受けられる。完形。		黄母石葉片岩
18	凹み石	長 9.4 厚 3.2	幅 6.2 重 275.0	両面に凹み穴Aと磨面が見受けられる。縁辺を中心に敲打痕。完形。		粗粒安山岩

白倉C区76号住居

位置 44-74他 写真 P L20・77

形状 柄杓形(敷石)住居である。主体部は円形に近い胴張りの隅丸方形を呈し、軸長は3.12m~3.52mである。柄部は不定形な隅丸長方形で、主体部との連結部において若干くびれ、先端部においてクランク状を呈する。柄部の長軸は最大3.11mで直行する横幅は連結部1.31m、最大2.14mである。また、住居全体の最大軸長は6.23mである。

面積 14.33㎡ 方位 N-77°-E

床面 ロームを最大33cm掘り込んで床面とする。部分的に凹凸があり全体としては東から西にかけて床面が緩やかに傾斜している。壁の立ち上がりは攪乱箇所を除けばしっかりとしていた。

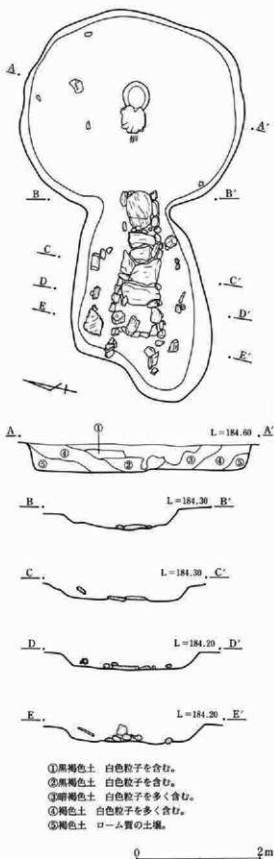
配石 柄部のみにおいて配石が検出されている。主体部においては埋没土中から石器及び礫が55点出土しているが(第86図上、下)、それらの出土状況から判断すると、石器や礫が壁に沿って環状に存在した可能性は弱い。柄部では、上面が平らになるように中央に板状の結晶片岩を敷き、隙間と両脇に小礫を配して結果的にほぼ長方形に配石がなされている。また、配石面としてはとらえられないが、若干の空白部を設けた後、両側において床面から浮いた状態で礫が検出されている。

埋没土 主体部の上層は重複する平安時代の67号住居によって攪乱されているが、他の部分は自然堆積の可能性が高い。

炉 主体部のほぼ中央において長軸48cm、短軸44cmのほぼ円形を呈し、深さ18cmの地底炉が検出されている。埋没土中には焼土粒子が含まれていた。この掘り込みの西側において深鉢の胴部片(1)が検出されており、若干掘り窪めた部分に敷き詰めたような出土状況であることから、この部分も含め炉として使用された可能性が高いと思われる。

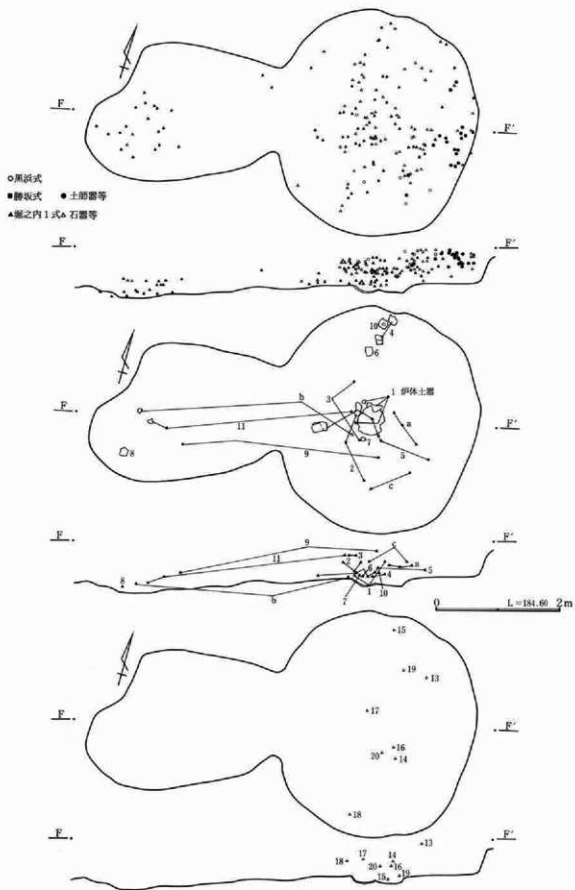
柱穴 検出されなかった。

遺物 縄文土器211点が出土し、125点を一括して取り上げた。内訳は、黒浜式10点、勝坂式終末期12点以外は堀之内1式である。勝坂式終末期の80号住



第85図 白倉C区76号住居

III 縄文時代の遺構と遺物



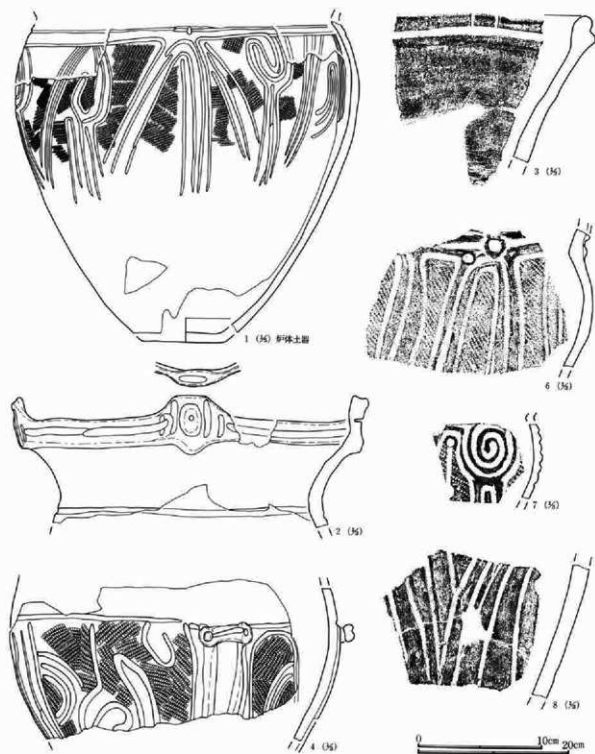
第86図 白倉C区76号住居遺物出土状態

居を切ることから、11点の土器片が80号住居の出土土器と接合している(第95図参照)。また、土師器などが17点出土した。埋没土中から出土し、住居に使用されなかった礫及び石器は74点で、9点を一括して

取り上げている。石器は図示した8点で、配石として利用されていない。(遺物観察表：150頁)

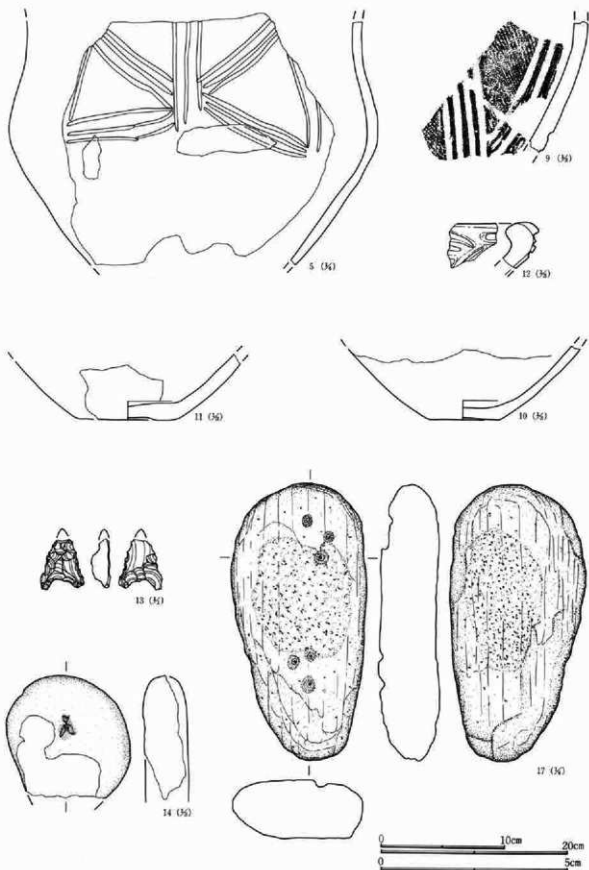
重複 前述した(第95図参照)。

備考 堀之内1式期の柄鏡形(敷石)住居である。

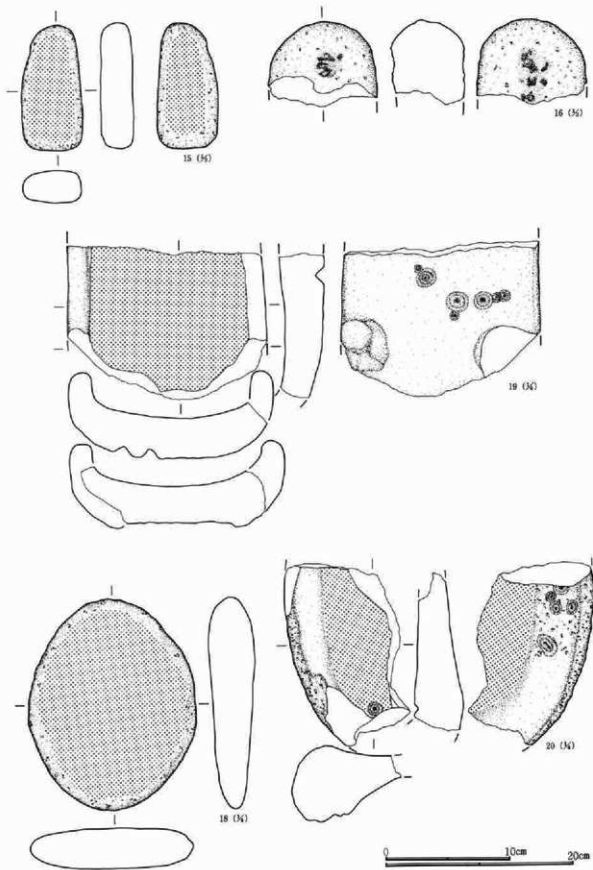


第87図 白倉C区76号住居出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第88図 白倉C区76号住居出土遺物(2)



第89图 白倉C区76号住居出土遺物(3)

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区77号住居

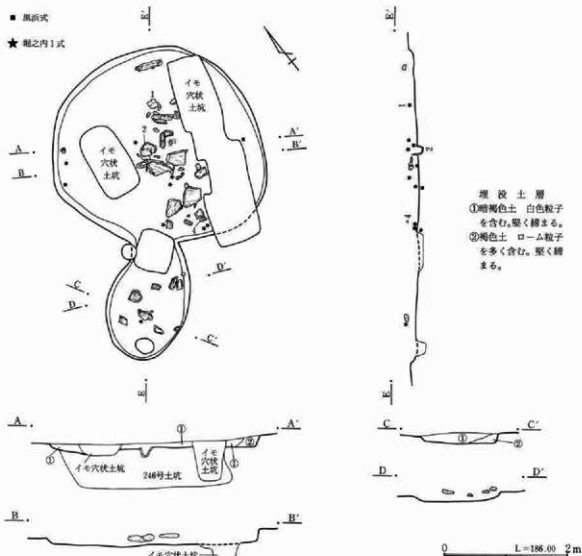
位置 41-70他 写真 P.L21・78

調査経過 表土を除去し遺構確認を行った段階で、礫及び炉体土器が検出できたことから、敷石住居を想定して調査をすすめた。礫が検出された面においては明瞭な床面と想定される硬化面はなく、また壁も検出できなかった。しかしながら、遺構確認作業の段階で、柄鏡形状が確認できたことから、礫を露出させながら掘り下げた。結果的には、掘り下げた部分は柄鏡形（敷石）住居の掘り方であった。よって、以下に述べる計測値は掘り方調査によるものとして理解して欲しい。なお、柱穴は検出されなかった。

形状 柄鏡形（敷石）住居である。主体部は円形に近く、軸長は3.14m～3.47mである。柄部は不定形な楕円形で、主体部との連結部において若干くびれている。柄部の長軸は最大1.85mで直行する横幅は連結部0.78m、最大1.27mである。また、住居全体の最大軸長は4.99mである。

面積 10.32㎡ **方位** N-48°-E

配石 イモ穴状土坑による攪乱や、床面が検出されなかったことを考え合わせると、礫の検出状況を何回かの破壊を受けた結果として理解したい。遺構確認面において板状及び小礫の結晶片岩が散見されることから配石が想定される。さらに、破壊により礫が抜かれたとしても、残存する礫が少ないことが



第90図 白倉C区77号住居

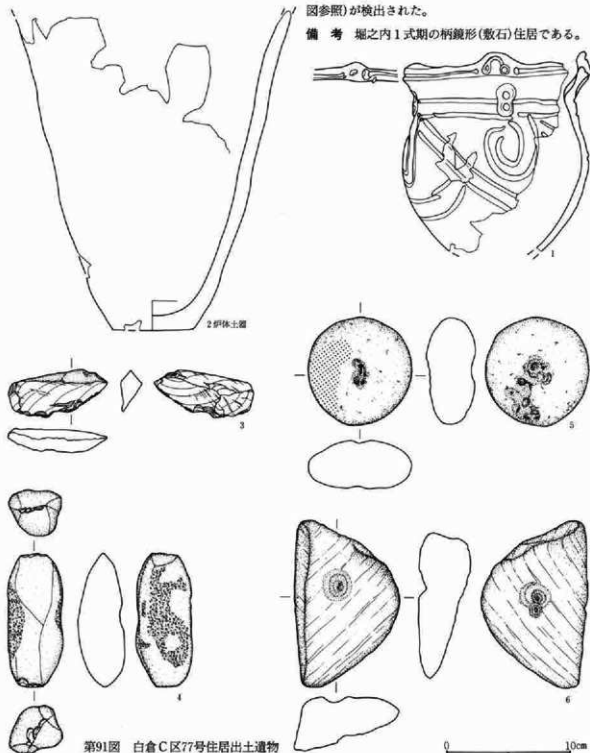
ら部分的な配石の可能性が強いと思われる。

炉 炉体土器を中心にして、南西側と南東側に鉤の手状の配石が確認できることから、石囲理髮炉であったと思われる。炉体土器上面の一部では、後世の破壊によって礫が覆っていた。

遺物 縄文土器108点が出土し、95点を一括して取り上げた。内訳は、黒浜式75点、堀之内1式33点である。石器及び礫は平面図に示したものの以外では6点を一括して取り上げている。石器は出土したものの全てを図化した。

重 複 主体部下には、黒浜式期の246号土坑(第289図参照)が検出された。

備 考 堀之内1式期の柄鏡形(敷石)住居である。



第91図 白倉C区77号住居出土遺物

0 10cm

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区78号住居

位置 42-70他 写真 P L 21・78

形状 長辺4.32m、短辺3.90mの不定形な隅丸方形を呈する。

面積 (15.94)㎡ 方位 N-23°-W

床面 ロームを最大12cm掘り込んで床面とする。

埋没土 住居本来の埋没土はローム質の土壤であるが、上層を中心に浅間A軽石が多く認められる。

炉 検出されなかった。

柱穴 3本検出された。位置及び平面形状に規格性は見られない。規模：〈径〉×深さは、P1〈54×(48)〉×46cm、P2〈38×28〉×46cm、P3〈35×28〉×48cmであった。

壁周溝 一部で検出されている。最大幅は30cmで、深さは最大16cmであった。

遺物 縄文土器142点が出土し、97点を一括して取り上げた。内訳は勝坂II式1点を除けば黒浜式141点

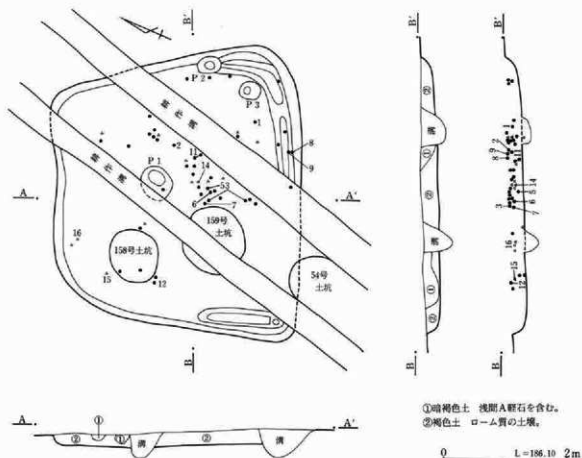
が出土しており、この中には、図示した8・9・10以外にも有尾式系が1点含まれている。また、土師器2点が出土した。

石器類は26点が出土し、10点を一括して取り上げた。石器は図示した6点のみが出土している。また、耕作溝から古墳時代の白玉が出土している。

(遺物観察表：151頁)

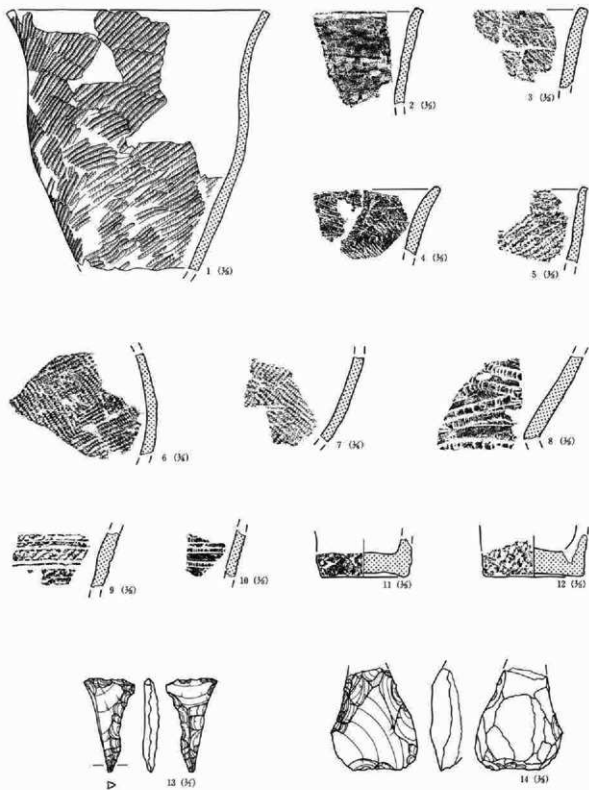
重複 床面精査の段階で158号土坑と159号土坑が確認できた。埋没土を掘り下げている段階では気付かなかったので、この2つの土坑が住居よりも古い可能性が高い。出土土器は2つの土坑ともに黒浜式であった。このほかに、時期不明の159号土坑と重複し、この場合は、調査時の所見から土坑のほうが新しい。また、近現代と思われる耕作溝に切られる。

備考 床面で確認された土坑の存在と埋没土中の土器が黒浜式であることから、黒浜式期の竪穴式住居と思われる。



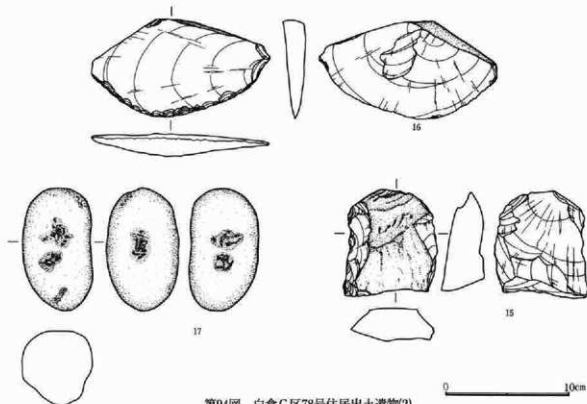
第92図 白倉C区78号住居

2 住居址



第93图 白龕C区78号住居出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第94図 白倉C区78号住居出土遺物(2)

白倉C区80号住居

位置 43-74他 写真 PL22・78・79

形状 残存部の形状から、隅丸長方形か楕円形を呈すると思われる。想定される長軸は(5.28)mである。

面積 不明 方位 不明

床面 ロームを最大9cm掘り込んで床面とする。

埋没土 僅かに確認できた。

炉 検出されなかった。

柱穴 3本検出された。位置に規格性は見られず、比較的浅い。規模：〈径〉×深さは、P1(48×32)×24cm、P2(60×53)×33cm、P3(48×42)×25cmである。

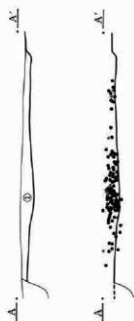
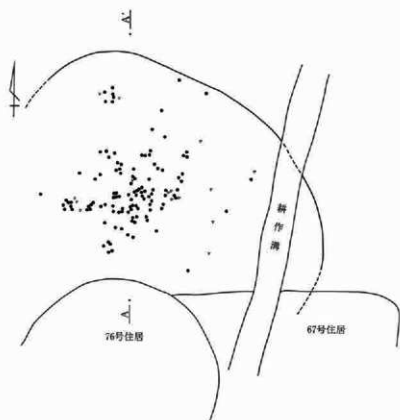
遺物 縄文土器168点が出土し、54点を一括して取り上げた。内訳は、黒浜式4点と勝坂式終末期164点である。住居中央を中心にした接合関係が多いが、15と16及び接合資料jは本住居を切る堀之内1式の76号住居出土土器と接合することから、土器の平面的な分布は本来もう少し広がりをもっていたのかも

知れない。そのように考えた場合、住居廃絶後の早い段階で、これらの土器が住居内に残存していたことになり、住居廃絶時期を土器群の段階に近接した時期として考えることができる。図示しなかったが、本住居と76号住居との接合関係は他にも8例確認できている。接合資料a～fはいずれも勝坂式終末期の土器片でaは口縁部片で他は胴部片である。また、焼町系統や勝坂II式の土器片は出土していない。

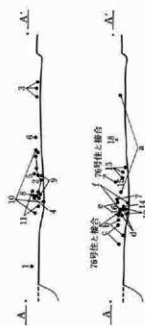
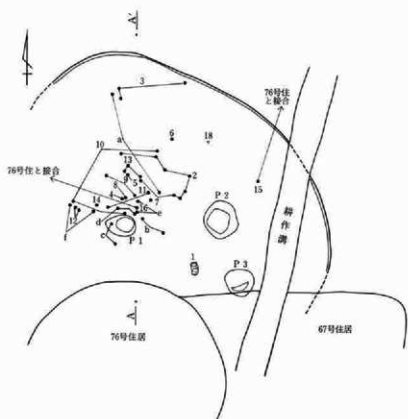
石器類は13点が出土し、この中で石器は図示した2点が出土している。(遺物観察表：151・152頁)

重 複 堀之内1式期の76号住居と古墳時代以降の67号住居に切られる。また、近現代と思われる耕作溝に切られる。

備 考 勝坂式終末期の竪穴式住居である。



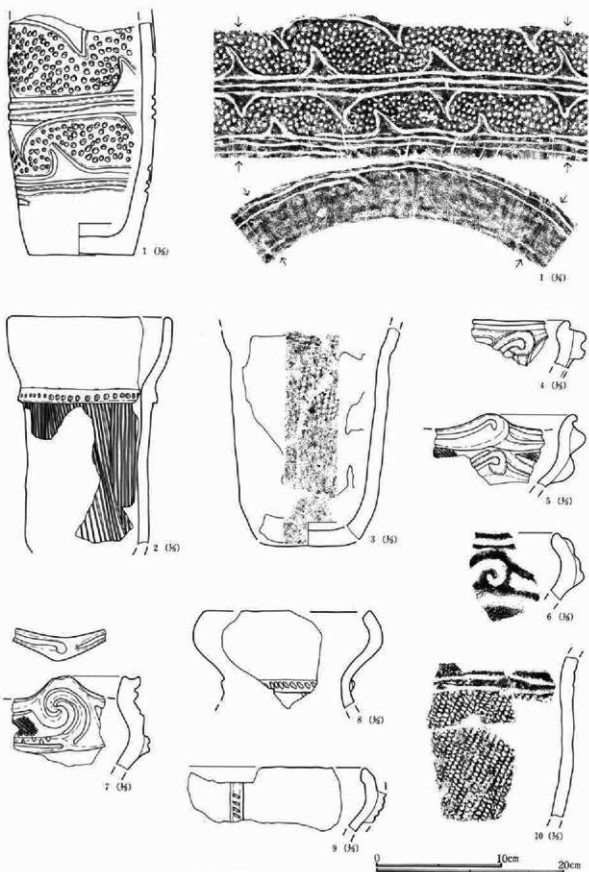
埋没土層
①暗褐色土 白色粒子和ローム粒子を含む。



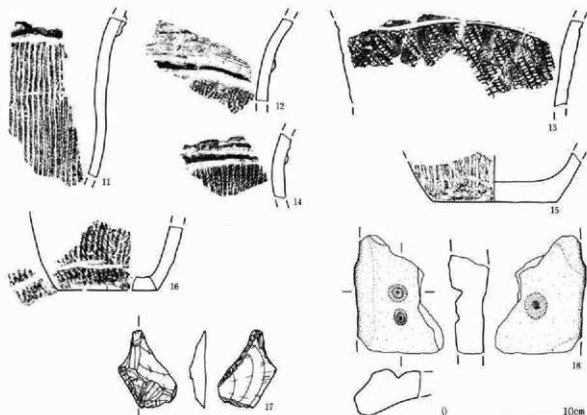
0 L = 184.60 2m

第95図 白倉C区80号住居

III 縄文時代の遺構と遺物



第96図 白倉C区80号住居出土遺物(1)



第97図 白倉C区80号住居出土遺物(2)

白倉C区81号住居

位置 38-66他 写真 P.L.22・79

調査経過 本住居を切る2号方形周溝墓及び古墳時代後期の33号住居の調査によって、本住居の東側において床面に段差が生じていることが確認できた。重複住居と想定して調査をしたところ、段差の存在する内側の壁面がそのまま立ち上がる状況は土層観察からは確認できなかったが、逆に東側の一段浅い床面がそのまま住居全体において認められなかったことから、旧住居＝東側の浅い床面部分、新住居＝旧住居を除く深い床面部分と判断した。新住居は楕円形に近い形状を示し最大24cmの掘り込みを、旧住居はルームを最大10cm掘り込んで床面とする。

埋没土 土層観察からは自然堆積の可能性が高い。

炉 新住居において確認できた。近現代の耕作溝によって中央が破壊されているが、長軸(100)cm、短軸(81)cm、20cmの掘り込みをもつ地床炉である。

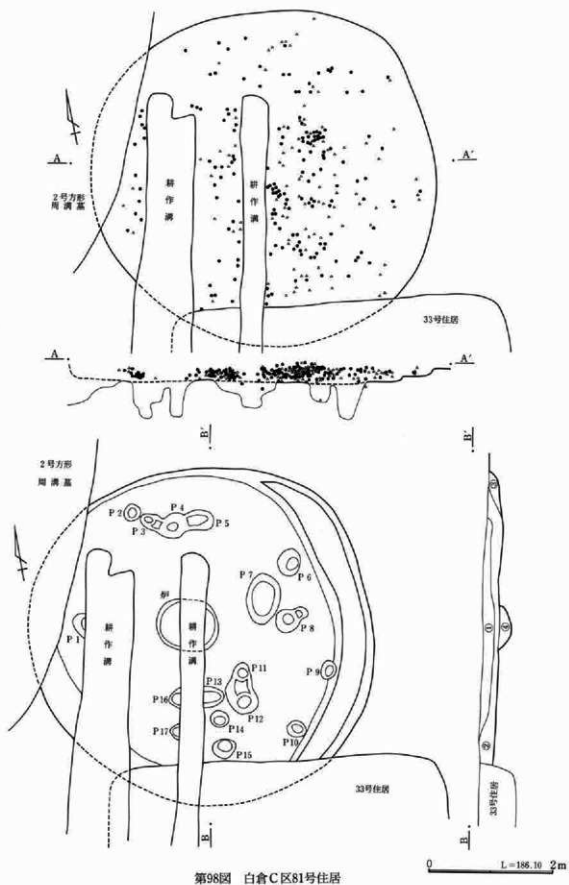
柱穴 部分的に重複する17本が検出された。規模：《径》×深さは、P1《38》×20×49cm、P2《28

×26》×28cm、P3《32》×22×28cm、P4《46》×40×77cm、P5《42》×29×12cm、P6《42×36》×38cm、P7《80×54》×27cm、P8《54×37》×56cm、P9《30×23》×42cm、P10《32×23》×41cm、P11《30》×26×24cm、P12《52》×46×69cm、P13《34》×32×17cm、P14《28×24》×27cm、P15《36×30》×68cm、P16《32×20》×16cm、P17《16》×26×27cmである。

遺物 旧住居では勝板式終末期の土器2点と石器類5点が出土した。新住居では縄文土器387点が出土し、121点を一括して取り上げた。内訳は、黒浜式40点(内4点是有尾式系)、諸磯b(新)式期4点、勝板式終末期241点、称名寺1式1点、掘之内1式3点である。接合資料a～dは勝板式終末期でaは口縁部、他は胴部である。石器類は173点が出土し、出土した石器は図示した。(遺物観察表：152頁)

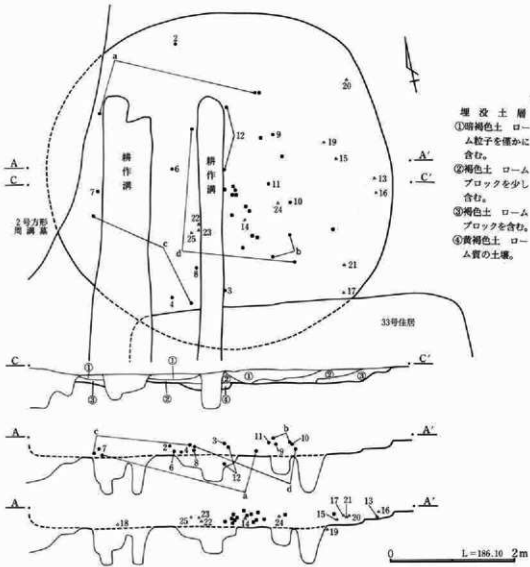
重複 調査経過及び炉の記載を参照。

備考 新旧いずれの住居も、勝板式終末期の竪穴式住居の可能性が高い。

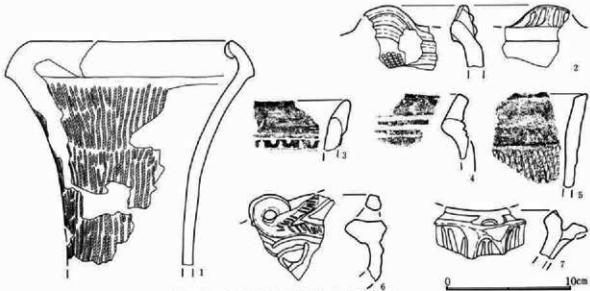


第98図 白倉C区81号住居

- No.1
- 土器
- ▲ 石器類

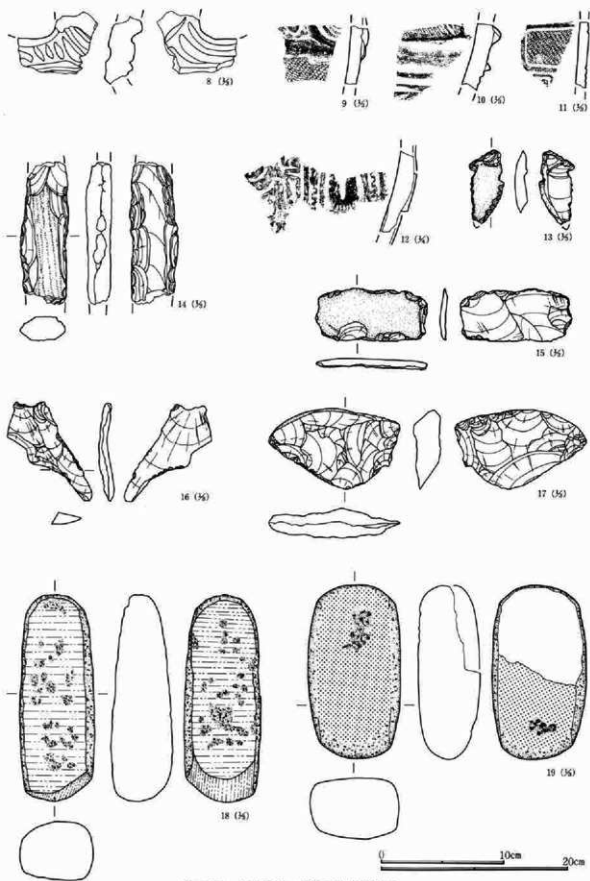


- 埋没土層
- ①暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。
 - ②褐色土 ロームブロックを少し含む。
 - ③褐色土 ロームブロックを含む。
 - ④黄褐色土 ローム質の土壌。

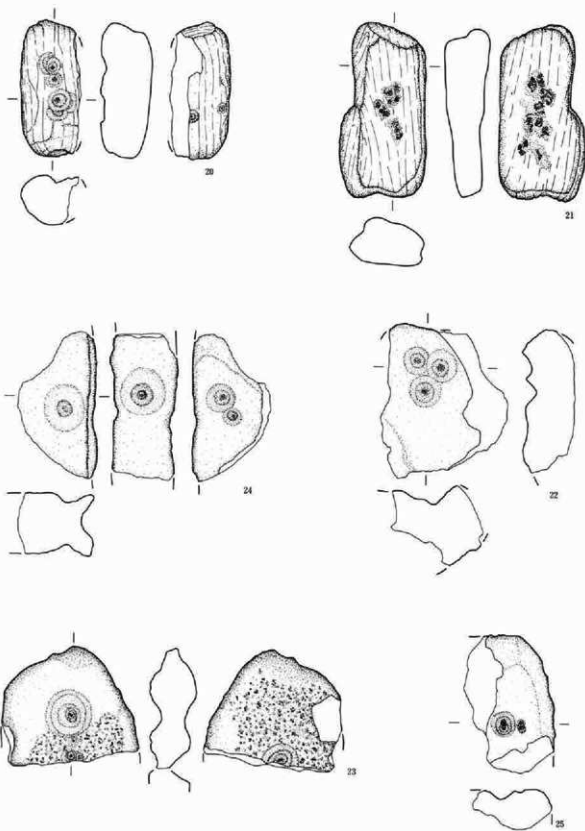


第99図 白倉C区81号住居と出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第100図 白倉C区81号住居出土遺物(2)



第101图 白倉C区81号住居出土遺物(3)

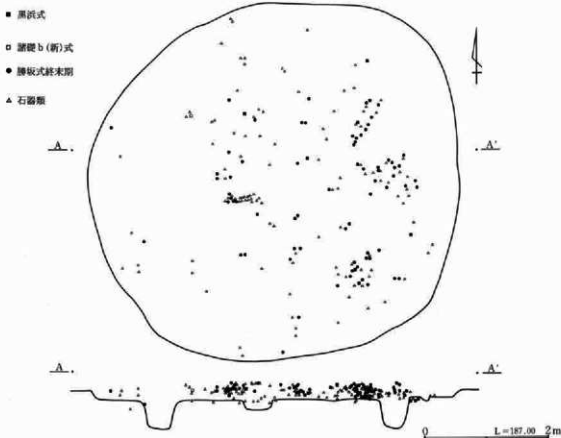
0 10cm

III 縄文時代の遺構と遺物

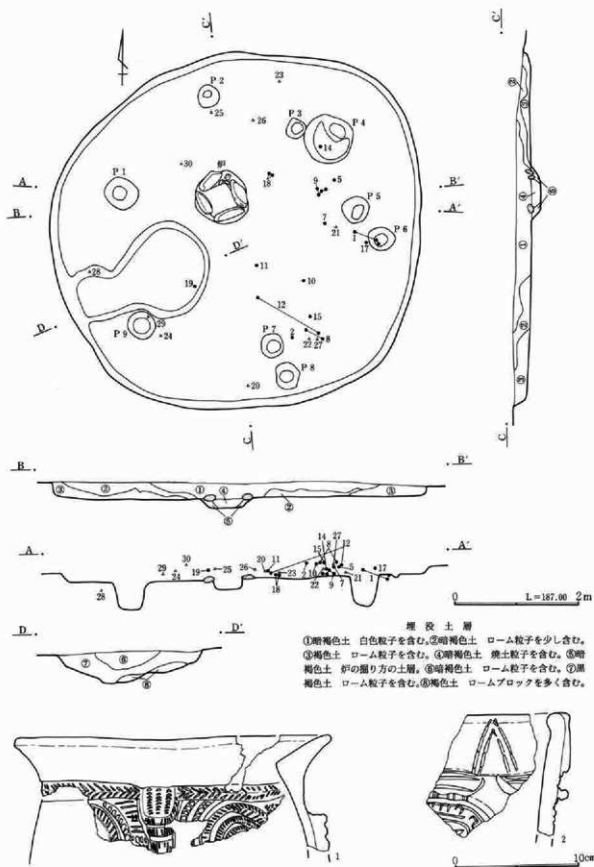
白倉C区82号住居

位置 42-65他 **写真** P.L.22・79・80
形状 長軸5.96m、短軸5.62mの隅丸方形に近い形状を示す。
面積 27.36㎡ **方位** 不明
床面 ロームを最大22cm掘り込んで床面とする。
埋没土 僅かな埋没土ではあるが、土層観察から自然堆積の可能性が強いと思われる。
炉 住居中央から、やや北西側の位置で検出された。各辺に大型の結晶片岩を配した石囲炉である。北辺と東辺の交差する部分には3個の竈が立てられている。炉石内側においては長辺40cm、短辺38cmで14cmの掘り込みをもつ。
柱穴 9本検出された。規模：〈径〉×深さは、P1 (54×46)×42cm、P2 (35×33)×54cm、P3 (30×30)×11cm、P4 (78×76)×59cm、P5 (45×39)×35cm、P6 (42×37)×56cm、P7 (38×36)×45cm、P

8 (42×38)×26cm、P9 (46×44)×38cmである。
土坑 住居南東部において長軸2.32m、深さ0.48mの不定形な土坑が検出された。住居埋没土との切り合い関係がなく、この部分に床面が確認できなかったことから住居内土坑として調査された。
遺物 縄文土器273点が出土し、189点を一括して取り上げた。内訳は、黒浜式29点、諸磯b(新)式2点、勝坂式終末期242点である。あまり広範な接合関係は見受けられず器形を復元できた土器が極めて少ないことから、破片を主体とした廃棄が想定されるのかも知れない。1は住居廃絶後の早い段階で住居内にあったと思われる。また、土師器5点が埋没土の上層で出土している。石器類は160点が出土し、41点を一括して取り上げた。出土した石器は図示した13点である。 (遺物観察表：153・154頁)
重複 なし
備考 勝坂式終末期の竪穴式住居である。

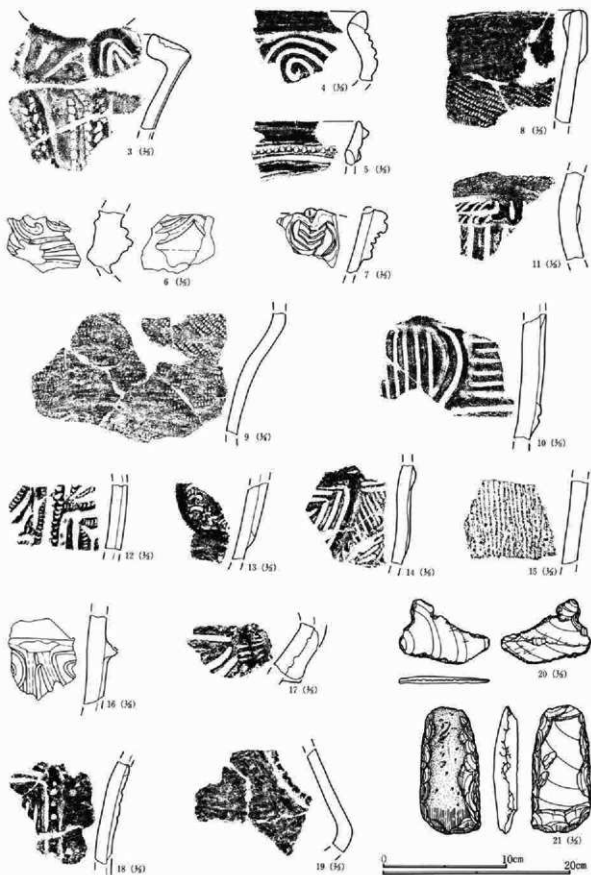


第102図 白倉C区82号住居遺物出土状態

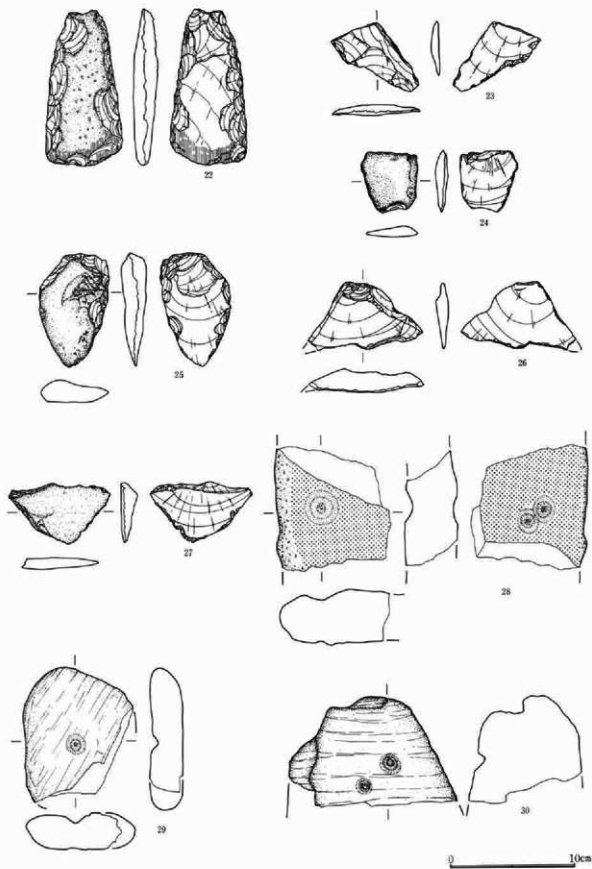


第103図 白倉C区82号住居と出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第104図 白倉C区82号住居出土遺物(2)



第105图 白倉C区82号住居出土遺物(3)

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区84号住居

位置 43-73他 写真 P.L.23・80

形状 平安時代の62号住居と83号住居によって半分以上を破壊されているが、検出できた南北の軸長は4.60mである。残存部分の形状から楕円形を呈していたと思われる。

床面 ロームを最大13cm掘り込んで床面とする。堅く締まっていた。なお、柱穴は検出されなかった。

埋没土 土層観察から自然堆積の可能性が高い。

炉 3点の炉石と胴上半部を欠損する埋設土器が検出されたことから石囲埋設炉である。南側の一部を83号住居によって破壊されることから、本来は石が囲っていたと思われる。炉石の内側は32cmの計測値を示す。

遺物 縄文土器33点が出土し、10点を一括して取り上げた。内訳は、黒浜式9点、諸磯b(新)式2点、勝板式終末期22点である。また、黒浜式9点、諸磯

b(新)式2点が埋没土に既に含まれていたもの(混入)と考えれば、炉体土器を除く勝板式終末期21点は住居の半分以上を破壊されているとはいえ極めて少ない出土点数である。このような事実は、廃絶後の竪穴式住居に積極的な廃棄行為がなされなかった可能性を示唆し、この住居が勝板式終末期の最終段階の居住場所の一つであった可能性を示しているのではなかろうか。出土点数も少なく断定的なことはいえないが、遺物の接合関係があまり見られなかったことも上記の可能性をしめす状況証拠なのかも知れない。

石器類は炉石も含め24点が出土し、6点を一括して取り上げた。出土した石器は図示した3点のみである。(遺物観察表:154・155頁)

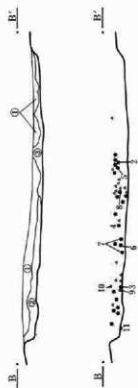
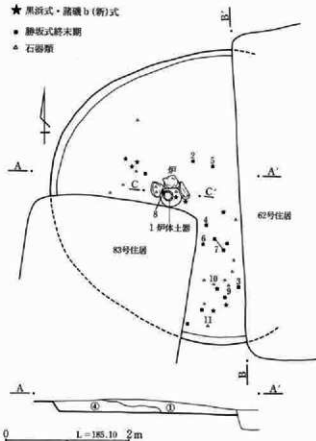
重複 形状の記載を参照。

備考 勝板式終末期の竪穴式住居である。

★ 黒浜式・諸磯b(新)式

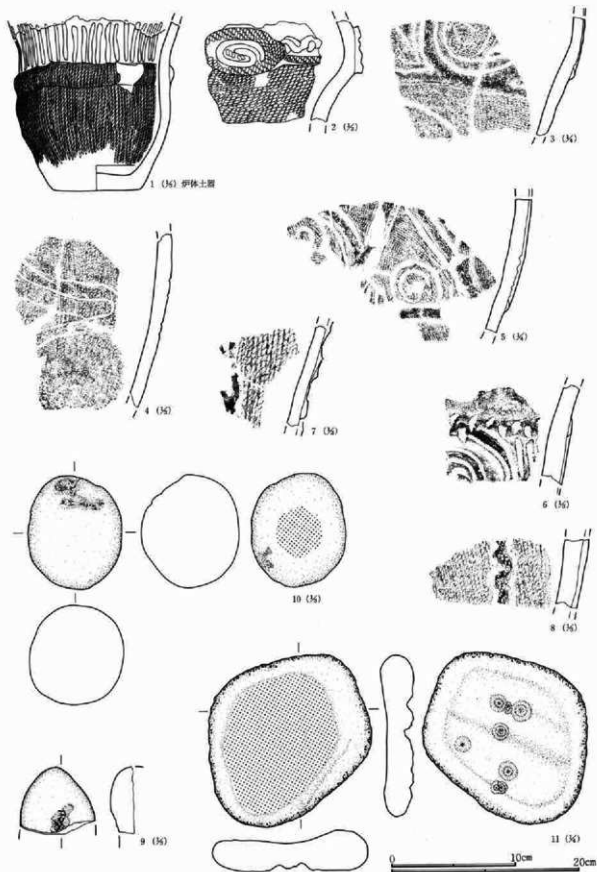
● 勝板式終末期

▲ 石器類



埋没土層
①暗褐色土
②暗褐色土 白色
 粒子を含む。
③茶褐色土 粘性
 の強い土層。
④褐色土 Y.P
 粒子を多く含む。

第106図 白倉C区84号住居



第107图 白舍C区84号住居出土遗物

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区85号住居

位置 41-63他 写真 P.L.23・80・81

形状 長軸5.84m、短軸5.22mの不定形な五角形状を呈する。

面積 (23.90)㎡ 方位 不明

床面 ロームを最大10cm掘り込んで床面とする。

埋没土 僅かながら確認できた。

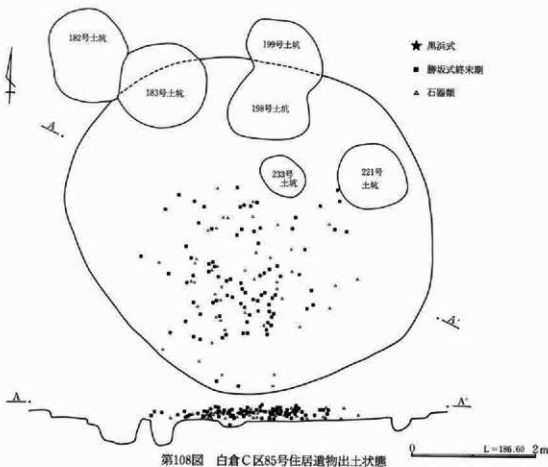
炉 住居のほぼ中央で検出された。6点の結晶片岩をほぼ方形に配した、石囲炉である。北辺並びに西辺はそれぞれ1点の礫を用い、他の辺は各2点の礫を用いている。いずれの礫も二次的な被熱が著しい。礫の内側は長辺24cm、短辺20cmで8cmの掘り込みをもつ。

柱穴 14本検出された。規模：〈径〉×深さは、P1 (30×24)×27cm、P2 (20×18)×13cm、P3 (38×38)×34cm、P4 (32×20)×18cm、P5 (33×31)×31cm、P6 (32×27)×51cm、P7 (78×51)×38cm、P8 (32×29)×33cm、P9 (32×26)×28cm、P10 (37×

36)×34cm、P11(64×52)×38cm、P12(34×〈26〉)×10cm、P13 (54×38)×11cm、P14 (36×32)×10cmである。

遺物 縄文土器514点が出土し、431点を一括して取り上げた。内訳は、黒浜式51点、阿玉台Ⅱ式1点、勝坂式終末期462点である。土坑出土土器との接合関係が4例確認できた。2・3・9はいずれも本住居を切る233号土坑(第287図)との接合関係をもつ。また、1は住居内出土の1点と本住居から南東に2mほど離れた185号土坑出土の8点が接合して復元された個体である。接合資料a～cは勝坂式終末期で、bは口縁部片で他は胴部片である。石器類は72点が出土し、24点を一括して取り上げた。出土石器は図示した4点のみである。(遺物観察表：155頁)

重覆 221号土坑と183号土坑は黒浜式期の可能性が高く住居よりも古い。また、勝坂式終末期58点が出土した233号土坑は、住居床面を検出する以前に多くの土器が検出されたことから(P.L. 59)、住居を

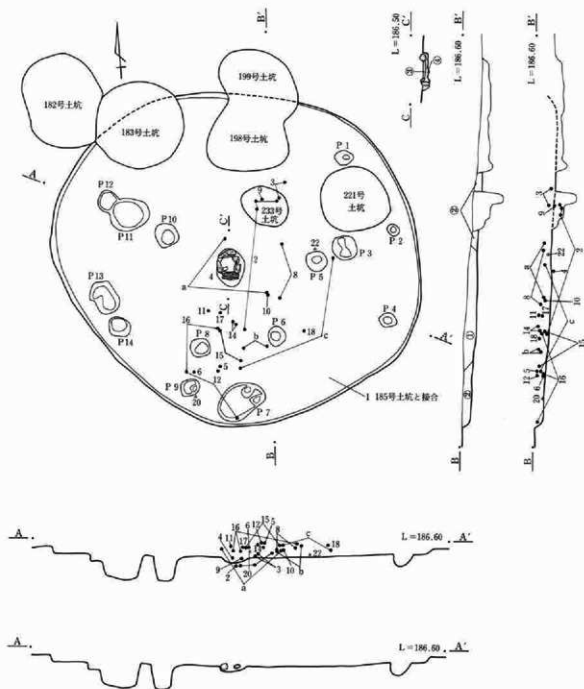


第108図 白倉C区85号住居遺物出土状態

切っていると考えられる。また、198・199号土坑は本住居を切るが、出土遺物はなく時期不明である。

備考 勝坂式終末期の竪穴式住居である。また、

233号土坑と住居出土土器との接合関係及び土坑確認時の土器出土状況から、住居埋没の比較的早い段階での土坑構築が想定される。



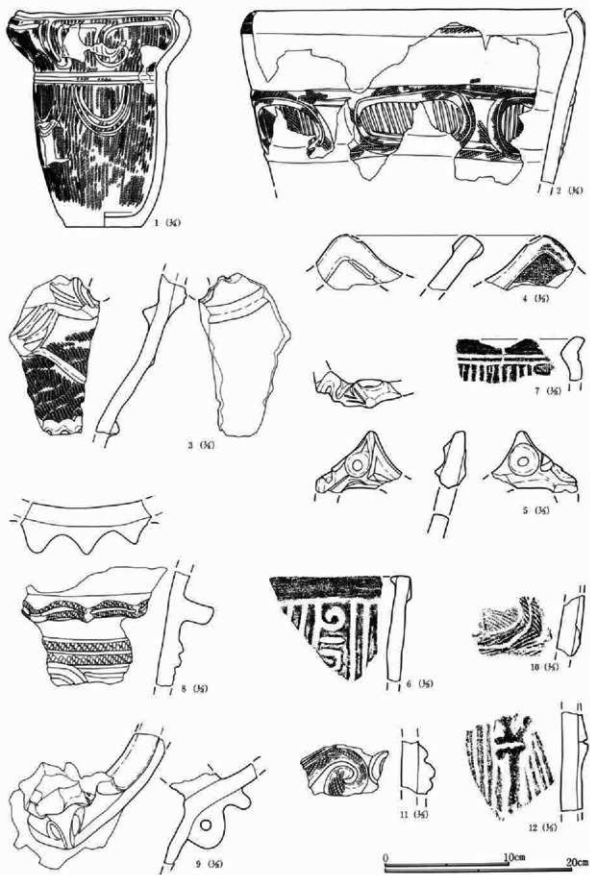
埋 投 土 層

①暗褐色土 白色粒子を多く含む。②褐色土 白色粒子を多く含む。③暗褐色土 伊の埋投土。褐色土中に塵土粒子と炭化粒子を多く含む。④茶褐色土 伊の掘り方の土層。粘性が強い。

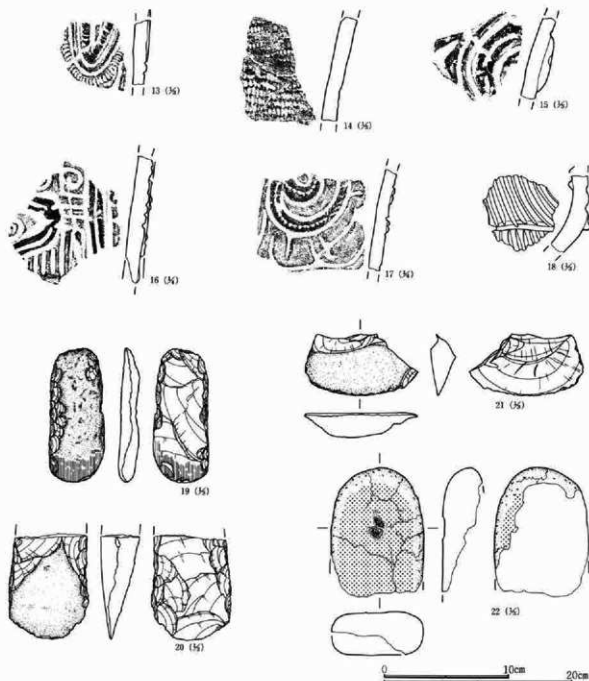
第109図 白倉C区85号住居

0 2m

III 縄文時代の遺構と遺物



第110図 白倉C区85号住居出土遺物(1)



第111図 白倉C区85号住居出土遺物(2)

白倉C区86号住居

位置 35-60他 **写真** PL23・81
形状 住居の半分以上が発掘調査区域外にあるために詳細は不明だが、残存状況から隅丸(長)方形の可能性が高い。
床面 ロームを最大18cm掘り込んで床面としている。壁が検出できなかった部分においても、床面を

検出できたことから住居形状が想定できた。堅く締めまり細かな凹凸も確認できた。

埋没土 土層観察からは、自然堆積の可能性が高い。
炉と柱穴 検出されなかった。

遺物 黒浜式土器83点が出土し、23点を一括して取り上げた。この中で、有尾式系は図示した2・4・6・8～15以外に3点出土し、合計14点出土した。

III 縄文時代の遺構と遺物

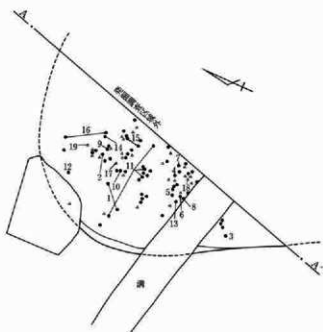
器形を復元しえた個体はなく、破片が主体を占めている。また、埋没土の上層から須恵器1点が出土している。

石器類は22点が出土し、5点を一括して取り上げた。この中で、石器は図示した3点が出土している。また、比較的大きな砂岩が床面直上から2点検出さ

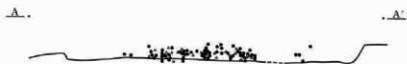
れている。(遺物観察表：156頁)

重複 近現代の耕作溝及び電信柱による擾乱によって一部破壊されている。

備考 比較的壁に近い床面直上の土器が黒浜式期であることから、当該期の竪穴式住居であろう。

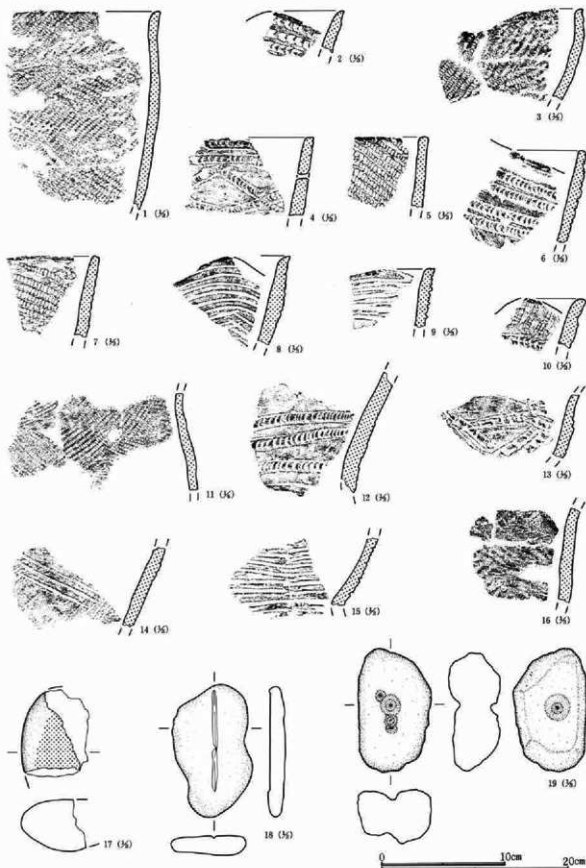


- 埋没土層
- ①褐色土 表土層。粘性や締まりは大家弱く、浅間A軽石を含む。
 - ②暗褐色土 浅間B軽石を含む土層。
 - ③暗褐色土 白色粒子を多く含む。
 - ④褐色土 白色粒子を含む。



0 L=185.70 2m

第112図 白倉C区86号住居



第113図 白倉C区86号住居出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区76号住居出土遺物(第87～89図、PL 76)

土 器		(単位: cm)		
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	胴部と残存	①良好 ②黄褐色 ③片岩を多量に含む	底径(10.0)。棒状工具による沈線で文様を描出のち、原体L Rの単彫斜縄文を施す。二次的に被熱。	堀之内1式 が体土器
2	口縁部と残存	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石英と礫を含む	口径26.2。口縁部文様は4単位で棒状工具による沈線文。	堀之内1式
3	口縁部片	①良好 ②浅黄色 ③石英を多量に含む	肥厚した口唇部に棒状工具による沈線が通る。	堀之内1式
4	胴部と残存	①良好 ②黄褐色 ③石英を含む	棒状工具による沈線で文様を描出する。部分的に断面三角の隆帯が垂下し、円形の刺突を付した構状の把手を貼付する。原体L Rの単彫斜縄文を施す。	堀之内1式
5	胴部と残存	①良好 ②褐色 ③砂を多量に含む	棒状工具による沈線文。単位は不明。	堀之内1式
6	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を多量に含む	竹管による沈線文と刺突が施されたのち、8の字状の貼付文。地文は原体L Rの単彫斜縄文。	堀之内1式 二次的に被熱
7	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒黒母粒を少量含む	竹管による沈線及び円形刺突を施す。地文は原体L Rの単彫斜縄文。	堀之内1式
8	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③礫を含む	棒状工具による沈線で文様を描出する。原体L Rの単彫斜縄文が一部施される。	堀之内1式
9	胴部片	①やや不良 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	棒状工具による沈線文。地文は原体L Rの単彫斜縄文。	堀之内1式 二次的に被熱
10	胴～底部	①良好 ②鈍い黄褐色 ③礫を含む	底径5.6。若干上げ底状を呈する。	堀之内1式
11	胴～底部	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒黒母粒を含む	底部(8.0)。無文。外面は丁寧な磨き。	堀之内1式 内面炭化物付着
12	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③黒黒母粒を含む	隆帯及び棒状工具による沈線で文様を描出する。	堀之内1式 被熱後未磨 覆土

石 器		(単位: cm, g)		
番号	種 類	大きさ・重量	形 状 ・ 特 徴 等	備 考
13	石鏃	長 < 1.3 幅 1.2 厚 0.4 重 0.5	無茎で基部の凹形が強い。先端を欠損する。	黒曜石
14	凹み石	長 < 9.6 幅 9.8 厚 3.1 重 416.0	片面に凹み穴Aが見受けられる。一部を欠損する。	デイサイト 二次的に被熱
15	磨石	長 9.9 幅 4.8 厚 2.6 重 193.0	磨面が両面に見受けられる。完形。	デイサイト
16	凹み石	長 < 6.7 幅 < 8.7 厚 5.7 重 428.0	凹み穴Aが表面に見受けられる。約半を欠損する。	粗粒安山岩 二次的に被熱
17	台石か	長 29.3 幅 14.5 厚 6.5 重 3800.0	両面の中央を中心に、集中する敲打痕が見受けられる。片面に凹み穴Bが見受けられる。完形。	褐色片岩
18	台石	長 22.2 幅 17.9 厚 4.8 重 2600.0	両面の磨面。縁辺に敲打痕。	粗粒安山岩
19	石皿	長 < 16.3 幅 21.3 厚 9.1 重 2530.0	裏面の石皿で、脚部が1つ残存する。裏面に凹み穴Bが見受けられる。破片。	粗粒安山岩
20	石皿	長 < 19.3 幅 < 13.4 厚 8.0 重 1950.0	両面に磨面と凹み穴Bがあり、縁辺を中心に敲打痕が見受けられる。破片。	牛伏砂岩 二次的に被熱

白倉C区77号住居出土遺物(第91図、PL 78)

土 器		(単位: cm)		
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁～胴部と残存	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	口径13.6。口縁部は棒状工具による沈線を通らし、刺突を施す。胴部は8の字状の隆帯を貼付し、沈線を描す。口縁部は3単位、胴部は4単位の文様の構成。	堀之内1式
2	胴～底部	①良好 ②鈍い赤褐色 ③砂を多量に含む	底径6.2。外面は無文で縦方向の磨きが施される。胴上部が二次的に被熱。	堀之内1式 が体土器

石 器		(単位: cm, g)		
番号	種 類	大きさ・重量	形 状 ・ 特 徴 等	備 考
3	使用痕のある石鏃	長 3.7 幅 7.9 厚 1.8 重 41.0	横長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩 覆土

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
4	磨製石斧	長 10.5 幅 4.5 厚 3.7 重 305.0	両先端が刃部か。部分的に敲打痕が見受けられる。未製品。	変玄武岩
5	凹み石	長 8.5 幅 8.2 厚 3.9 重 324.0	両面に凹み穴Aが片面に磨部が見受けられる。縁部に敲打痕。完形。	粗粒安山岩 覆土
6	多孔石	長 13.1 幅 8.4 厚 4.3 重 570.0	両面に凹み穴Bが認められる。完形。	雲母石英片岩 覆土

白倉C区78号住居出土遺物(第93・94図、PL 78)

土器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	形状・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴部	①やや不良 ②鈍い黄褐色 ③織紐を多量含む	口径20.6。口唇部は角頭状を呈する。原体Lの無彫刻文を施す。	黒浜式
2	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③織紐を含む	口唇部が角頭状を呈する。外面は撫でのみ。	黒浜式
3	口縁部片	①やや不良 ②鈍い黄褐色 ③織紐を多量含む	無彫の斜織文を施す。(原体Lのみ)。	黒浜式 外面が荒れている
4	口縁部片	①やや不良 ②鈍い黄褐色 ③織紐を少量含む	原体Rの無彫刻文を施したのち、半截竹管状工具による刺突を施す。	黒浜式
5	口縁部片	①不良 ②暗褐色 ③織紐を多量を含む	0段多条原体L Rの単彫刻文を施す。	黒浜式
6・7	胴部片	①やや不良 ②鈍い黄褐色 ③織紐を多量含む	0段多条原体L RとR Lの単彫刻文を變形に施す。	黒浜式
8	口縁部片	①やや不良 ②鈍い黄褐色 ③織紐を含む	半截竹管状工具による連続爪形文で大形菱形文を描出する。	有尾式系
9	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③織紐を含む	原体Lの無彫刻文を施したのち、半截竹管状工具による平行沈線を施す。	有尾式系
10	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③織紐を含む	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系 覆土
11	底部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③織紐を多量を含む	底径7.0。底部が上げ底状を呈する。原体L Rの単彫刻文を施す。	黒浜式
12	底部片	①やや不良 ②黄褐色 ③織紐と片岩を多量含む	底径8.0。底部は上げ底状を呈する。原体R LとL Rの単彫刻文を變形に施す。	黒浜式

石器

(単位:cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
13	石鏃	長 2.5 幅 0.9 厚 0.4 重 0.9	縦長剣片を素材とする。完形。	硬質泥岩 覆土
14	打製石斧	長 (8.1) 幅 6.9 厚 2.5 重 124.5	楔形を呈すると思われる。基部欠損する。	硬質泥岩
15	加工痕のある石鏃	長 8.4 幅 7.5 厚 3.4 重 280.0	縦長剣片を素材とする。完形。	変玄武岩
16	使用痕のある石鏃	長 7.7 幅 14.2 厚 1.8 重 161.0	横長剣片を素材とする。スレイパーか。完形。	珪質頁岩
17	凹み石	長 9.6 幅 5.5 厚 5.8 重 376.0	両面に凹み穴Aが見受けられる。部分的に敲打痕が見受けられる。完形。	デイサイト 耕作溝から出土

白倉C区80号住居出土遺物(第96・97図、PL 78・79)

土器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	形状・文様の特徴等	備考
1	胴~底部	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を含む	底径9.0。棒状工具による3本1組の沈線を高らせ刺突を充填する。区画内には入組状の三叉文を施し、三叉文内を削り取る。	勝坂式終末期
2	口縁~底部	①良好 ②明赤褐色 ④雲母粒を含む	口径13.0。口縁部は無文。胴部に半截竹管状工具による沈線を彫下したのち、頸部に刺突を付した隆帯を施す。内面に炭化物付着。	勝坂式終末期
3	胴~底部	①良好 ②赤褐色 ⑤黒雲母粒を含む	底径(7.0)。原体Lのより糸を施す。内面に炭化物を付着する。より糸施文は中央部だけを圓化。	勝坂式終末期
4	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を含む	隆帯及び棒状工具による沈線で文様を描出する。	勝坂式終末期
5	口縁部片	①良好 ②褐色 ④黒雲母粒を含む	波状口縁を呈する。棒状工具による隆帯と沈線で文様を描出する。原体R Lの単彫刻文を施す。	勝坂式終末期

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	部位	①構成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
6	口縁部片 深鉢	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒と石英を含む	隆帯及び棒状工具によって文様を描出する。	踏板式終末期
7	口縁部片 深鉢	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	口縁に渦巻状の突起を付す。背割り状の沈線を入した隆帯で文様を描出する。部分的に交互刺突文。原形R Lの単節斜縄文を施す。内面に炭化物が付着する。	踏板式終末期
8	口縁部片 深鉢	①良好 ②暗褐色 ③黒雲母粒を含む	口径(13.0)。口縁部は無文で強く内彎する。頸部には刻みを付した隆帯を巡らせる。外面に炭化物が付着。	踏板式終末期
9	口縁部片 深鉢	①良好 ②暗褐色 ③黒雲母粒を含む	口縁部は無文で刻みを付した隆帯が直下する。	踏板式終末期
10	口縁部片 深鉢	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を少量を含む	原形R Lの単節斜縄文を施したのち、棒状工具による沈線を2本巡らせる。	踏板式終末期
11	胴部片 深鉢	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	網状の隆帯を横位に巡らす。地文は原形Lのより糸。	踏板式終末期
12	胴部片 深鉢	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を少量を含む	前面三角の隆帯を横位に巡らせる。地文は原形R Lの単節斜縄文を施す。	踏板式終末期
13	胴部片 深鉢	①良好 ②褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線を巡らす。原形L Rの単節斜縄文を施す。	踏板式終末期
14	胴部片 深鉢	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を少量を含む	隆帯を横位に巡らせる。地文は原形Lのより糸。	踏板式終末期
15	底部片 深鉢	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	直径10.0。原形Lのより糸を施す。76号住居覆土と接合する。より糸断面は左半分だけを残す。	踏板式終末期
16	底部片 深鉢	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	直径(8.0)。原形Rのより糸を施したのち、横位に棒状工具による沈線を巡らす。76号住居覆土と接合する。	踏板式終末期

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
17	石匙	長 6.1 幅 4.6 厚 1.3 重 28.0	横長剣片を素材とする。体部が短冊状を呈す。完形。	地直貫岩覆土
18	多孔石	長 < 9.2 幅 < 7.2 厚 3.9 重 200.0	両面に凹み穴Bが見受けられる。一部を欠損する。	牛伏砂岩

白倉C区81号住居出土遺物(第99~101図、PL 79)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①構成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴部 片残存含む	①良好 ②暗褐色 ③砂を含む	口径8.0。口唇部が内側に肥厚する。口縁部は無文で胴部には原形Lのより糸を施す。内面に炭化物が付着している。	踏板式終末期
2	口縁部片 深鉢	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を少量を含む	口縁に小突起を付する。原形R L単節斜縄文のち、外面は隆帯によって文様を描出する。口縁突起部の内面には短隆帯を貼付する。	踏板式終末期
3	口縁部片 深鉢	①良好 ②暗赤褐色 ③石英を少量含む	口縁部に隆帯を巡らし、棒状工具による交互刺突文を施す。	踏板式終末期
4	口縁部片 深鉢	①良好 ③黒褐色 ③砂を少量含む	手箆竹管状工具による沈線を口縁部に巡らす。口唇部は強く外反する。	踏板式終末期
5	口縁部片 深鉢	①良好 ②明赤褐色 ③砂を少量含む	口縁部は無文で、胴部に原形Lのより糸を施す。	踏板式終末期 覆土
6	口縁部片 深鉢	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を含む	刻みを付した隆帯及び棒状工具による沈線で文様を描出する。口縁部には環状の肥手を貼付する。	踏板式終末期
7	口縁部片 深鉢	①良好 ②鈍い赤褐色 ③黒雲母粒を含む	口縁に棒状の突起を付す。口縁から胴部に隆帯が直下する。胴部には棒状工具による沈線文。	踏板式終末期
8	口縁部片 深鉢	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	口縁部の突起の部分。2本1組の隆帯で文様を描出し、隆帯に沿って沈線を通したり、短沈線を充満する。	踏板式終末期
9	胴部片 深鉢	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を少量含む	隆帯と棒状工具による沈線で文様を描出したのち、胴下部に原形R Lの単節斜縄文を施す。	踏板式終末期
10	胴部片 深鉢	①良好 ②暗赤褐色 ③黒雲母粒を少量含む	隆帯と手箆竹管状工具及び棒状工具により文様を描出する。	踏板式終末期
11	胴部片 深鉢	①良好 ②明褐色 ③金雲母粒を少量含む	手箆竹管状工具により文様を描出する。地文は原形R Lの単節斜縄文。	踏板式終末期
12	胴部片 深鉢	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による沈線、隆帯で文様を描出する。隆帯上には環状工具による刻みが施される。内外面の割落が著しい。	踏板式終末期

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
13	石器	長 < 5.7> 幅 2.7 厚 1.0 重 13.0	縦長剣片を素材とする。表面に丁寧な押捺刻線を施す。先端を欠損する。	珧質頁岩 旧住居内出土
14	打製石片	長 < 11.2> 幅 3.7 厚 2.1 重 124.0	短冊形か。細長い形状を示す。基部と刃部を欠損する。	雲母石英片岩
15	加工痕のある石器	長 4.2 幅 8.9 厚 0.6 重 29.0	横長剣片を素材とする。スクレイパーか。完形。	珧質頁岩
16	使用痕のある石器	長 7.7 幅 6.8 厚 0.8 重 24.0	縦長剣片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩 旧住居内出土
17	加工痕のある石器	長 6.3 幅 10.5 厚 2.4 重 120.0	横長剣片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩 二次的に被熱
18	磨製石片	長 16.3 幅 5.6 厚 4.8 重 1000.0	全面に敲打を施したのち、各面において一定方向の研磨が施される。未製品。	玄武岩
19	凹み石	長 13.7 幅 6.6 厚 4.7 重 750.0	両面に磨面と凹み穴Aが見受けられる。縁辺を中心に敲打。縁がはつきりとしている。一部を欠損する。	砂岩
20	多孔石	長 10.8 幅 < 4.9> 厚 4.1 重 317.0	両面に凹み穴Bが見受けられる。一部を欠損する。	黒色片岩 旧住居内出土
21	凹み石	長 13.7 幅 6.9 厚 3.6 重 514.0	凹み穴Aが両面に見受けられる。完形。	黒色片岩
22	多孔石	長 < 12.1> 幅 < 10.0> 厚 6.4 重 685.0	片面に凹み穴Bが見受けられる。欠損する。	牛伏砂岩
23	多孔石	長 < 9.5> 幅 < 10.9> 厚 3.4 重 332.0	両面に敲打痕及び凹み穴Bが見受けられる。欠損する。	流紋岩質凝灰岩
24	多孔石	長 < 11.5> 幅 < 6.1> 厚 5.7 重 420.0	三面に凹み穴Bが見受けられる。欠損する。	牛伏砂岩
25	多孔石	長 < 10.8> 幅 < 7.4> 厚 3.2 重 7.4	片面に凹み穴Bが見受けられる。破片。	牛伏砂岩

白倉C区82号住居出土遺物(第103~105図、PL 79・80)

土 器

(単位: cm)

番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁部瓦残存	①良好 ②褐色 ③砂を含む	口径25.3。口縁部は無文で外反する。頸部には中央に横を有する沈線を通らせ矢羽根状の刻みを付す。胴部は刻みを付した隆帯を貼付。	勝飯式終末期
2	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③黒雲母粒を含む	半軟竹管状工具による平行沈線及び隆帯で文様を描出する。胴部は横円区画の隆帯文。	勝飯式終末期
3	口縁部片	①良好 ③褐色 ④黒雲母粒とスコリアを含む	口縁上部は強く内折し、隆帯及び棒状工具による沈線文。口縁下部は矢羽根状の刻みを付した隆帯で連続刺突が重なる。	勝飯式終末期 覆土
4	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③雲母粒を多く含む	棒状工具による沈線で文様を描出する。	勝飯式終末期 覆土
5	口縁部片	①良好 ②褐色 ③砂を少量含む	隆帯と棒状工具による沈線及び刺突を施す。	勝飯式終末期
6	口縁部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	2本1組の隆帯で文様を描出し、隆帯に沿って沈線を施す。	勝飯式終末期 覆土
7	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③雲母粒を含む	曲線によって文様を描出ののち、半軟竹管状工具による平行沈線を施す。	勝飯式終末期
8	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	口縁部は肥厚。胴部は原体LRの単節斜織文。	勝飯式終末期
9	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③砂を多量に含む	原体RLの単節斜織文を乱雑に施す。	勝飯式終末期
10	胴部片	①良好 ②暗褐色 ③砂を少量含む	背割り状の沈線を付した隆帯で区画(横円か)し、棒状工具による沈線を施す。	勝飯式終末期
11	口縁~胴部片	①良好 ②暗褐色 ③石英を含む	屈曲部に低い隆帯を画し、棒状工具による背割り状の沈線を画らせる。隆帯上には凹状工具による刻み。	勝飯式
12	胴部片	①良好 ②褐色 ③石英を少量含む	隆帯と沈線によって文様を描出する。幅広の竹管文や三叉文が施される。	勝飯式
13	胴部片	①良好 ②暗褐色 ③石英を多量に含む	断面三角の隆帯による横円区画。隆帯に沿って区画内に半軟竹管状工具による刺突文を施す。	勝飯式終末期 覆土
14	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③砂を多量に含む	隆帯によって区画。区画内は棒状工具による沈線文。	勝飯式終末期

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	部位	①構成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
15	胴部片	①良好 ②褐色 ③砂を多量に含む	原体Rのより糸を施文。	静寂式終末期
16	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	隆帯を横位に巡らし、2本垂下する。隆帯に沿って沈線を描す。	静寂式終末期 覆土
17	胴部片	①良好 ②明褐色 ③石英を含む	隆帯上には凹状工具による刻み、棒状工具による沈線。	静寂式終末期
18	胴部片	①良好 ②褐色 ③片岩を少量含む	刻みを施した隆帯で区画。区画内には棒状工具による沈線。	静寂式終末期
19	胴一底部片	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	屈折底を呈する。胴部は刻みを施した隆帯が垂下し、隆帯に沿って棒状工具による沈線が施される。	静寂式終末期

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
20	石鏃	長 5.0 幅 7.2 厚 0.6 重 16.0	横長剣片を素材とする。縁辺に丁寧な調整を施す。完形。	細粒安山岩
21	打製石斧	長 10.0 幅 4.9 厚 1.9 重 139.0	縦長剣片を素材とし、刃部両面に使用痕が見受けられる。完形。	安山岩
22	打製石斧	長 12.2 幅 6.1 厚 1.9 重 167.5	縦長剣片を素材とし、刃部両面に使用痕が見受けられる。完形。	粗粒安山岩
23	使用痕のある石鏃	長 5.4 幅 7.0 厚 0.9 重 18.0	縦長剣片を素材とする。スクレイパーか。完形。	珪質頁岩
24	使用痕のある石鏃	長 4.7 幅 4.6 厚 1.0 重 20.1	縦長剣片を素材とする。スクレイパーか。完形。	珪質頁岩
25	加工痕のある石鏃	長 8.9 幅 5.7 厚 2.0 重 93.0	縦長剣片を素材とする。スクレイパーか。完形。	細粒安山岩
26	使用痕のある石鏃	長 5.4 幅 9.2 厚 1.8 重 40.0	横長剣片を素材とする。スクレイパーか。一部を欠損する。	珪質頁岩
27	使用痕のある石鏃	長 4.7 幅 8.2 厚 1.3 重 37.0	横長剣片を素材とする。スクレイパーか。完形。	珪質頁岩
28	石皿か	長 < 9.8> 幅 < 9.0> 厚 4.2 重 430.0	両面に磨面と凹み穴Bが見受けられる。破片。	牛伏砂岩
29	多孔石	長 < 10.6> 幅 < 8.7> 厚 2.9 重 360.0	片面に凹み穴Bが見受けられる。一部を欠損する。	黒色片岩 二次的に被熱
30	多孔石	長 < 8.7> 幅 < 13.1> 厚 9.0 重 1200.0	片面に凹み穴Bが見受けられる。破片。	雲母石英片岩

白倉C区84号住居出土遺物(第107図、PL 80)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①構成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁一胴上部欠損	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を含む	底径6.6。胴部は棒状工具による縦位の短沈線。隆帯を横位に巡らせたのち、原体Lのより糸を施す。胴下半部内面に炭化物付着。	静寂式終末期 付体土器
2	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	隆帯及び棒状工具による沈線と刺突で文様を描出したのち、原体R Lの単節斜縄文を施す。外面に炭化物付着。	静寂式終末期
3	口縁一胴部片	①中や不良 ②黄褐色 ③黒雲母粒を少量含む	原体R Lの単節斜縄文ののち、低い隆帯と棒状工具による沈線を描す。内面に炭化物付着。	静寂式終末期
4	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	棒状工具による強い沈線を描したのち、原体Lのより糸を施し、さらに2本1組の棒状工具による蛇行沈線を描す。	静寂式終末期 二次的に被熱
5	胴部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	隆帯及び隆帯に部分的に沿って沈線を描した後、原体Rのより糸を施文。但し、横位に巡る隆帯上にはより糸を施していない。	静寂式終末期
6	口縁一胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	背割り状の沈線及び交互斜縄文を施した隆帯と棒状工具による沈線で文様を描出す。	静寂式終末期
7	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③砂を含む	網状の隆帯を垂下する。地文は原体Lのより糸。施文順位はより糸の後、隆帯の貼付。二次的に被熱する。	静寂式終末期
8	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	蛇行する隆帯を垂下したのち、原体Lのより糸を施す。	静寂式終末期

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
9	凹み石	長 < 5.3 幅 < 6.0 厚 1.8 重 93.0	片面に凹み穴Aが見受けられる。破片。	緑色片岩
10	磨石	長 9.0 幅 7.5 厚 7.8 重 767.0	片面に凹み穴A、片面に磨面が見受けられる。完形。	粗粒安山岩
11	石皿	長 18.4 幅 17.5 厚 4.2 重 1350.0	表面が石皿使用の用面で表面が磨耗する。裏面には凹み穴Bが見受けられる。完形。	牛伏砂岩

白倉C区85号住居出土遺物(第110・111図、PL 80・81)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部 欠損	①良好 ②赤褐色 ③雲母粒を少量含む	口径16.8、底径8.1、高さ22.9。原体Lのより糸を施したのち、棒状工具による沈線文。口縁部文様は4単位か。胴部文様はU字状の沈線文が3単位施される。住居内出土土器は覆土1点で大部分は185号土坑。	勝版式終末期 233号土坑と接合
2	口縁～胴部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を少量含む	口径33.0。背割り状の沈線文を付した隆帯を口唇部及び口縁部に巡らし、口縁部は同様の隆帯による相同区画文。隆帯上及び区画内に原体R Lの単節斜縄文を施したのち、区画内に沈線を充填する。外面一部剥落。	勝版式終末期 233号土坑と接合 10と同一個体
3	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を含む	原体0段多条のR L単節斜縄文を施したのち、幅広い隆帯によって文様を描出する。	勝版式終末期 233号土坑と接合
4	口縁部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	波状口縁。口縁部に隆帯を貼付する。口唇部上面及び内面に赤彩が施される。伊石に接して出土。	勝版式終末期 二次的に被熱
5	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③黒雲母粒を含む	環状を呈する把手の一部。円形や蛇行する隆帯の貼付文や棒状工具による沈線文を施す。	勝版式終末期
6	口縁部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を少量含む	口唇部が肥厚。棒状工具による沈線文。	勝版式終末期
7	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③砂を少量含む	半截竹管状工具による平行沈線文を施す。	勝版式終末期
8	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	環状の高さのある隆帯を横位に巡らせる。棒状工具による沈線文を施す。隆帯上には、原体R Lの単節斜縄文を施す。	勝版式終末期
9	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③砂を含む	曲線を呈する隆帯で文様を描出する。環状の把手を貼付する。内側に稜を有する。外面に炭化物付着。覆土出土1点が233号土坑と接合。	勝版式終末期
10	胴部片	①やや不良 ②明赤褐色 ③片岩を少量含む	隆帯と棒状工具による沈線で楕円区画ののち、原体R Lの単節斜縄文を施す。隆帯上には背割り状の沈線。	勝版式終末期 2と同一個体
11	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③砂粒を含む	原体R Lの単節斜縄文を付した隆帯による渦巻文。	勝版式終末期
12	胴部片	①良好 ②明褐色 ③石英を少量含む	隆帯と棒状工具による沈線を垂下。隆帯は一部陥凹を呈する。	勝版式終末期
13	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を少量含む	隆帯と半截竹管状工具による平行沈線文を施す。隆帯及び沈線に沿って幅広い竹管文。二次的に被熱。	勝版式終末期 覆土
14	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を少量含む	原体R Lの単節斜縄文を施す。	勝版式終末期
15	胴部片	①良好 ②褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線と背割り状の沈線をもつ隆帯によって文様を描出する。一部に三叉文。二次的に被熱。	勝版式終末期
16	胴部片	①良好 ②褐色 ③砂を少量含む	隆帯と棒状工具による沈線で文様を描出する。隆帯上には背割り状の沈線。	勝版式終末期
17	胴部片	①良好 ②明褐色 ③砂を少量含む	隆帯と棒状工具による沈線で文様を描出する。隆帯上には先端のやや丸いペン先状の刺突文と筒状工具による矢羽根状の刻みが見られる。	勝版式終末期
18	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③雲母粒を少量含む	横位に曲線を描いたのち、半截竹管状工具による太い沈線を充填する。	勝版式終末期

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
19	打製石斧	長 10.5 幅 4.3 厚 1.6 重 100.0	短冊形で刃部は凸角状を呈し両面に使用痕。完形。	実文武岩 覆土
20	打製石斧	長 < 8.2 幅 6.3 厚 3.1 重 168.0	短冊形を呈すると思われる。刃部は凸角。基部欠損する。	実文武岩

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
21	使用痕のある石器	長さ 4.8 幅 9.1 厚 2.0 重 66.0	横長割片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩 覆土
22	凹み石	長さ (10.2) 幅 (7.4) 厚 3.4 重 255.0	両面に磨面が、片面に凹み穴Aが見受けられる。約写を欠損する。	粗粒安山岩 二次的に被熱

白倉C区86号住居出土遺物(第113図、PL 81)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴部片	①やや不良 ②黄褐色 ③繊維を多量、礫を少量含む	R LとL Rの単節斜縄文を羽状に施文。原体はいずれも0段多糸。	黒浜式 二次的に被熱
2	口縁部片	①やや不良 ②暗赤褐色 ③繊維を含む	波状口縁。口唇部は内そぎ状を呈する。半載竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系
3	口縁部片	①やや不良 ②黄褐色 ③繊維を多量、礫を少量含む	波状口縁。0段多糸原体R Lの単節斜縄文を施文。	黒浜式
4	口縁部片	①良好 ②灰黄褐色 ③繊維を含む	半載竹管状工具による連続爪形文を施す。補修孔をもつ。	有尾式系
5	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を少、礫を多量含む	0段多糸原体R Lの単節斜縄文を施す。	黒浜式
6	口縁部片	①やや不良 ②黄褐色 ③繊維を多量に含む	波状口縁。半載竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系 外面が一部剥落
7	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	0段多糸原体L Lの単節斜縄文を施す。	黒浜式
8	深鉢 口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③繊維と片岩を含む	波状口縁。半載竹管状工具による平行沈線で文様を描出する。	有尾式系 外面黄化物付着
9	深鉢 口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③繊維を含む	口縁は緩やかな波状を呈する。半載竹管状工具による沈線文。	有尾式系 15と同一個体
10	深鉢 口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩と繊維を含む	口縁部に櫛歯状工具による刺突文を縦位に施す。その下に半載竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系
11	深鉢 胴部片	①良好 ②灰黄褐色 ③礫を少、繊維を多量含む	0段多糸L R単節斜縄文と0段3糸R L単節斜縄文を菱形に施文。	黒浜式
12	深鉢 胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩と繊維を多量含む	半載竹管状工具による連続爪形文が施される。	有尾式系
13	深鉢 胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	半載竹管状工具による平行沈線及び刺突を施す。	有尾式系
14	深鉢 胴部片	①良好 ②暗灰黄色 ③片岩と繊維を含む	半載竹管状工具による沈線文。	有尾式系
15	深鉢 口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③繊維を含む	半載竹管状工具による沈線文。	有尾式系 9と同一個体
16	深鉢 胴部片	①やや不良 ②黄褐色 ③繊維と片岩を多量含む	原体不明の縄文を菱形に施文か。	黒浜式

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
17	磨石	長さ <6.8> 幅 <5.5> 厚 4.0 重 175.0	片面に磨面が見受けられる。破片。	デイスait
18	砥石か	長さ 10.5 幅 6.0 厚 1.5 重 130.0	中央部に幅0.4の断面V字形の線条痕が見受けられる。完形。	牛伏砂岩 二次的に被熱
19	多孔石	長さ 9.7 幅 5.8 厚 4.2 重 260.0	両面に凹み穴Bが見受けられる。完形。	牛伏砂岩

天上C区59号住居

位置 44-44 写真 PL24・82

形状 西側を耕作溝により破壊されるが、ほぼ円形を呈すると思われる。小型で、残存する長径は2.79mである。

面積 (6.15)㎡ 方位 不明

床面 ロームを最大12cm掘り込んで床面とする。

埋没土 ロームブロックが多量に含まれていた。

炉 検出されなかった。しかしながら、住居中央において床面に潜り込むような状態で検出された深鉢(1)は、二次的な被熱や炭化物の付着が認められたことから炉にかかわる可能性がある。

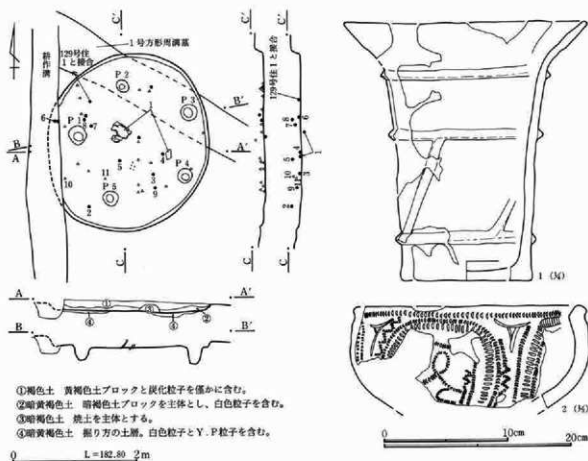
柱穴 壁から8~40cm内側で5本検出された。配置には規則性が看取される。規模：(径)×深さは、P1(30×30)×22cm、P2(21×19)×37cm、P3(25×25)×26cm、P4(24×24)×14cm、P5(24×24)×27cmである。

遺物 縄文土器51点が出土し、37点を一括して取り上げた。内訳は、勝板Ⅱ式36点、阿玉台Ⅱ式25点である。住居内の遺物接合関係は炉体土器の可能性のある1が床面直上の破片と接合した1例のみである。また、接合はしなかったが3と4は同一個体である。住居間における接合関係は本住居の北西17.8mに位置する129号住居との間で、1例確認できた。129号住居から出土した8点の阿玉台式土器(129号住居-1第140図)が本住居出土の1点と接合している。各住居における出土位置を見てみると、本住居では住居北側における床面直上であるのに対して、129号住居の場合は床面から若干浮いた状態で検出されている。石器類は19点出土し、出土した石器は図示した。

(遺物観察表：194頁)

重複 耕作溝以外に1号方形周溝基と重複するが、住居の床面までは破壊されていない。

備考 勝板Ⅱ式期の竪穴式住居である。

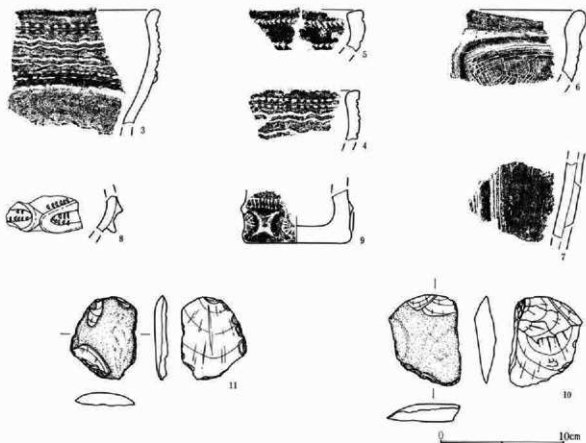


- ①褐色土 黄褐色土ブロックと炭化粒子を僅かに含む。
 ②暗黄褐色土 暗褐色土ブロックを主体とし、白色粒子を含む。
 ③暗褐色土 焼土を主体とする。
 ④暗黄褐色土 掘り方の土層。白色粒子とY・P粒子を含む。

0 L=182.80 2m

第114図 天引C区59号住居と出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第115図 天引C区59号住居出土遺物(2)

天引C区78号住居

位置 47-43他 写真 PL24・82

形状 51号住居に半分以上を破壊されるが、残存部分の形状から、長軸(3.50)m、短軸(3.00)mの楕円形を呈すると思われる。

面積 上記の計測値から(8.51)m²と推定される。

方位 N-18°-E

床面 地形が東から西に傾斜する場所に立地し、西側においてはローンを最大15cm掘り込んで床面とする。残存部分の床面は堅く締まっていた。

埋没土 僅かに観察できた結果からは、自然に堆積した可能性が強いとおもわれる。

炉 検出されなかった。また、床面から焼土や炭化粒子は検出されていない。51号住居によって破壊された部分に存在したのかも知れない。

柱穴 検出されなかった。

遺物 縄文土器16点が出土し、9点を一括して取

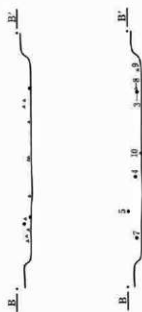
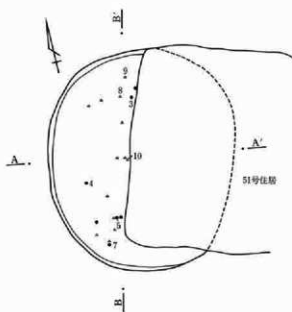
り上げた。内訳は、6が勝板II式で他の15点は勝板式終末期に位置付けられよう。器形を復元できた個体はなく固化できなかった土器片も含め、すべて小破片であった。そのために、土器の接合関係はなかった。また、土器器が1点出土している。

石器類は13点が出土した。図示した3点の石器以外は、礫7点とフレイク3点が出土している。

(遺物観察表：194頁)

重複 古墳時代前期の51号住居に切られる。

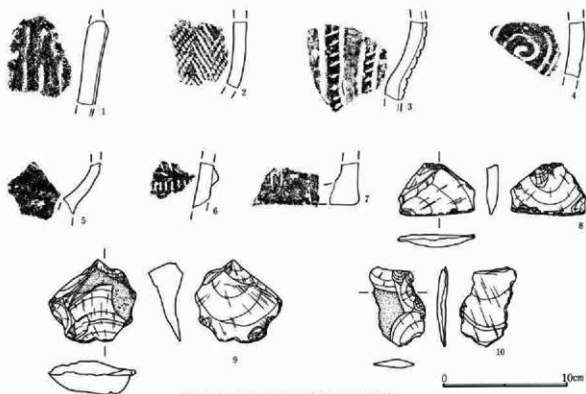
備考 時期は、壁際近くの出土土器が勝板式終末期であり、他の土器も2点を除けば同様の状況であることから当該期の遺構と思われる。また、柱穴や炉が検出できなかったが竪穴式住居の可能性が強いと思われる。



埋設土層

- ① 赤褐色土 白色粒子和炭化粒子を多く含む。
 ② 暗茶褐色土 ロームブロックをやや多く含む。
 ③ 明茶褐色土 ロームブロックを②層より多く含む。

0 L=182.50 2m



第116図 天引C区78号住居と出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

天引C区101号住居

位置 39-49地 写真 P L 24・25・82・84

形状 弥生時代の84号住居と85号住居によって両側が破壊されるが、長軸7.00m、短軸(5.60)mの胴張り状の隅丸長方形を呈する。

面積 (32.49)㎡ 方位 N-26°-E

床面 ロームを最大24cm掘り込んで床面とする。

また、炉とは異なった部分で焼土化が認められた。
埋没土 地形が北西方向に傾斜する地点で遺構が確認されたため、北西は薄く南西は厚く堆積している。

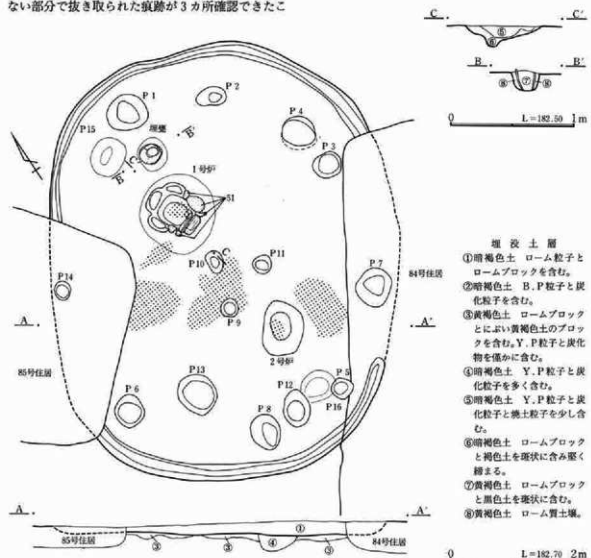
炉 2基検出された。いずれの炉の埋没土上面においても、張り床状の土層は確認できなかった。

1号炉 住居北側で検出された石囲炉である。炉石がない部分で抜き取られた痕跡が3カ所確認できたこ

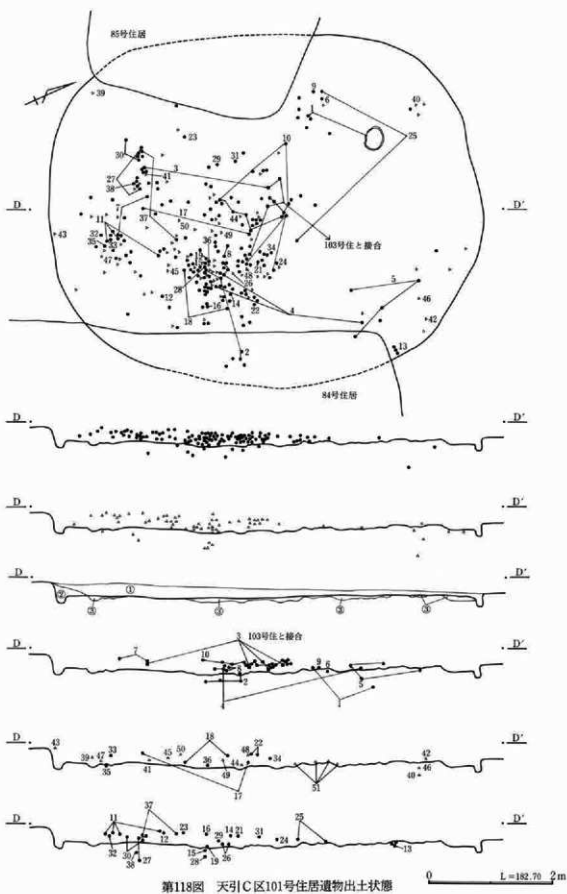
とから、本来は方形に石が配置されていたようである。炉石は砂岩及び結晶片岩で、このうち4点の砂岩は多孔石(51)で接合した。埋没土中から遺物は出土していない。底面の一部が焼土化していた。炉石の内側は残存部分で42cmの長さを持ち、18cmの掘り込みをもつ。また、掘り方は一辺120cm程度の隅丸方形で36cmの掘り込みをもつ。

2号炉 長辺87cm、短辺64cmで25cmの掘り込みをもつ地床炉である。底面の一部が焼土化していた。埋没土中からは、縄文土器3点(2・20・28)と3点の礫が出土した。2はP7出土の土器2点と、20はP9出土の土器1点と接合した。

柱 穴 16本検出した。この中で、P7とP14は他



第117図 天引C区101号住居



第118图 天引C区101号住居遺物出土状態

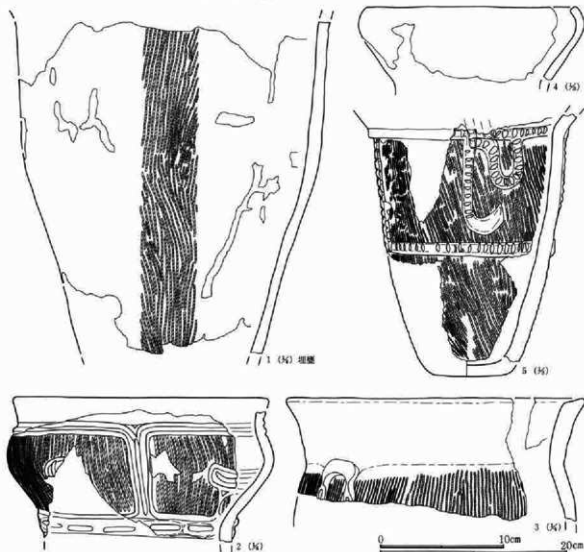
III 縄文時代の遺構と遺物

の住居内で検出されたが、埋没土及び遺物から本住居に帰属する。また、P15とP16は掘り方調査の際に検出した。各柱穴の規模：〈径〉×深さは、P1(66×56)×52cm、P2(49×30)×63cm、P3(46×41)×57cm、P4(53×52)×70cm、P5(36×32)×54cm、P6(52×48)×34cm、P7(64×60)×(62)cm、P8(57×46)×53cm、P9(30×28)×24cm、P10(36×26)×21cm、P11(30×27)×16cm、P12(58×43)×60cm、P13(65×59)×71cm、P14(30×27)×(39)cm、P15(60×54)×41cm、P16(54×52)×34cmである。埋 没 底部及び胴上半部を欠損する深鉢(1)が埋設されていた。床面直上土器と接合関係をもつ。壁周溝 最大幅は30cmで、深さは最大11cmであった。遺 物 縄文土器304点が出土し、小片94点を一括し

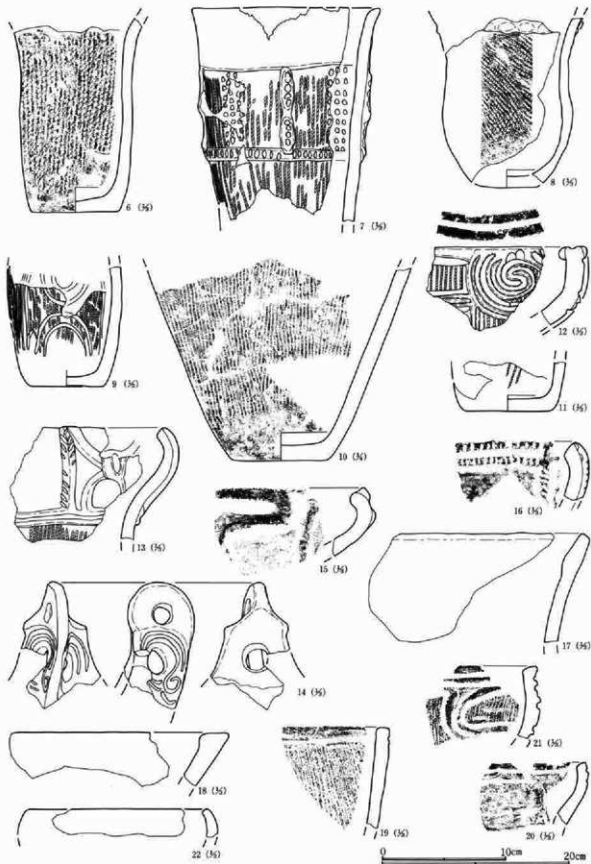
て取り上げた。内訳は、諸磯b(新)式期の小片1点を除けば、他は全て勝坂式終末期である。埋没土の残存状況に対応するように、遺物は南西側に集中し、住居内の遺物接合関係もその広がりは南西部分に多く認められる。住居間での接合関係は1例確認できた。本住居出土の3(5点の土器片■)が103号住居1点と接合している(第126図)。各住居における出土位置が似ることから両住居の鹿絶時の近似性が指摘できよう。石器類は伊石も含め97点が出土し、10点を一括して取り上げた。出土した石器13点は全て図化した。(遺物観察表：195・196頁)

重 複 形状の記載を参照。

備 考 勝坂式終末期の竪穴式住居。

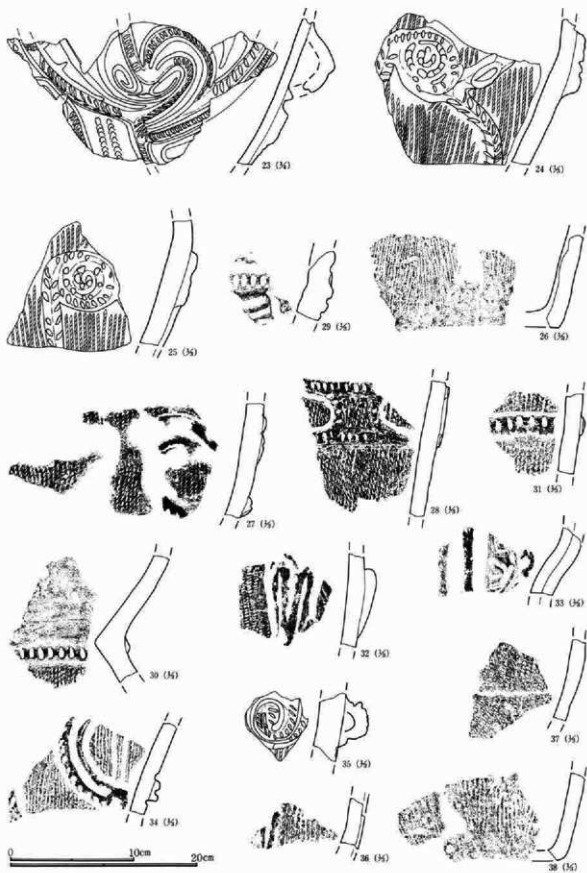


第119図 天引C区101号住居出土遺物(1)

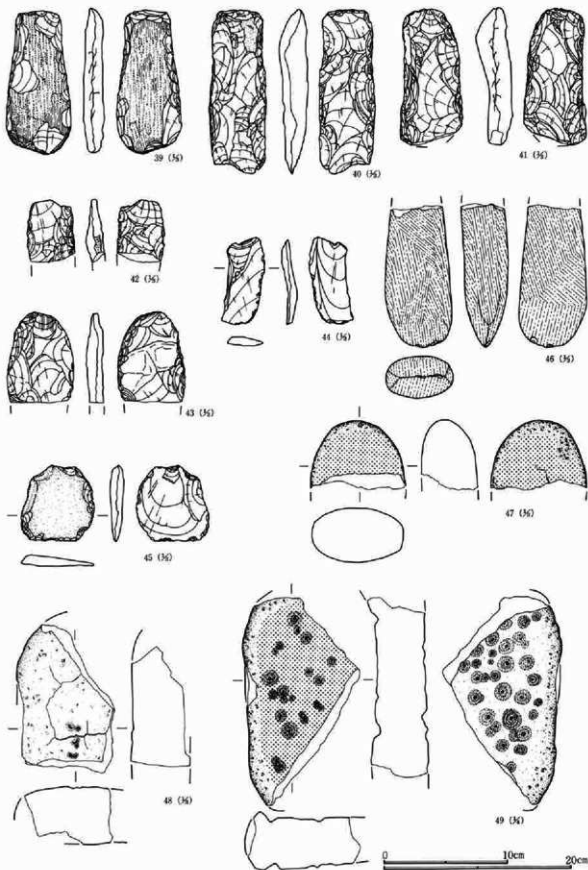


第120图 天引C区101号住居出土遺物(2)

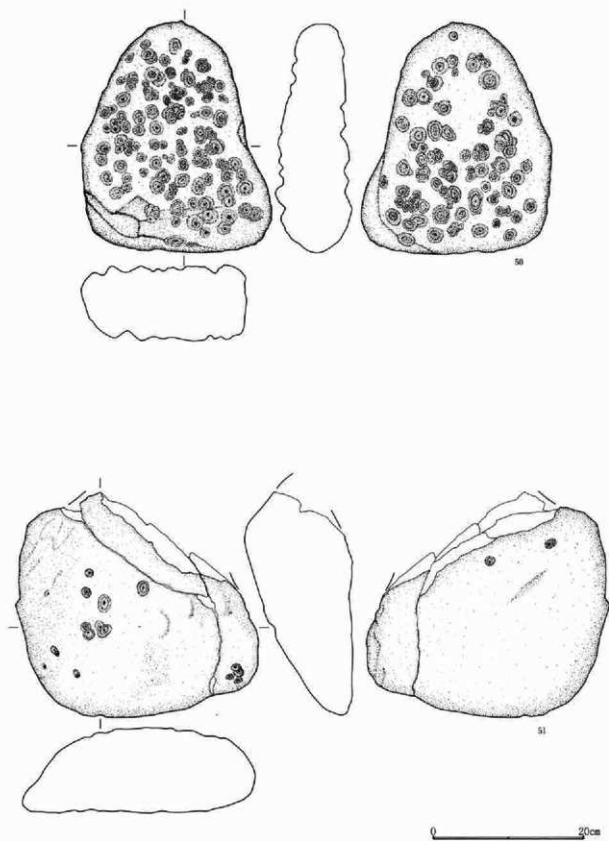
III 縄文時代の遺構と遺物



第121図 天引[C区]101号住居出土遺物(3)



第122图 天引C区101号住居出土遗物(4)



第123図 天引C区101号住居出土遺物(5)

天引C区103号住居

位置 40-47地 写真 P L26・84・85

形状 1/3程度を古墳時代後期の73号住居によって破壊されるために、不明な部分も多いが、残存部分の形状から長軸5.00mの胴張り状の隅丸(長)方形を呈するものと思われる。

床面 ロームを最大25cm掘り込んで床面とする。

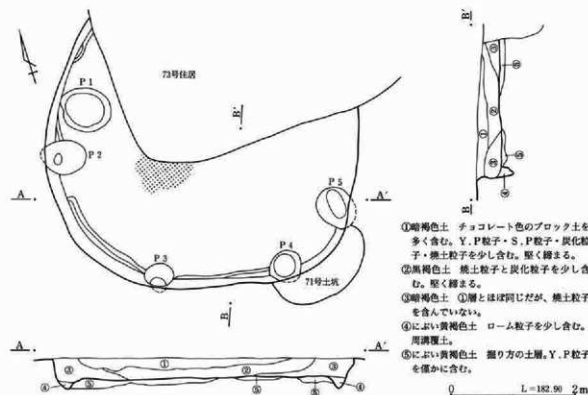
埋没土 土層観察からは自然堆積の可能性が高い。

炉 検出されなかった。破壊された部分に存在したのかもしれないし、住居中央から西側の部分で床面が焼土化した部分か検出されていることから、この部分が炉になるのかもしれない。焼土化した部分では掘り込みはなかった。

柱穴 5本検出されたが、P1については形状及び深さが他の4本と異なることから住居内土坑の可能性もある。また、P2～P5は住居内側から外側に斜めに掘られていた。各柱穴の規模：〈径〉×深さは、P1 〈78×68〉×19cm、P2 〈(72)×54〉×43cm、P3 〈47×(44)〉×37cm、P4 〈54×(50)〉×47cm、P5 〈(70)×(55)〉×34cmである。

壁周溝 部分的に検出されている。最大幅は28cmで、深さは最大20cmであった。

遺物 縄文土器658点が出土し、小片296点を一括して取り上げた。内訳は、諸磯b(新)式2点、勝坂Ⅱ式(■)9点で、他の土器片は全て勝坂式終末期である。勝坂式終末期とした土器群の中で10や18のように加曾利E1式の可能性が高いものは他に2点出土している。土器全体の出土分布の傾向として住居の南側から中央にかけて集中するようである。出土点数が多かったため、住居内において多くの接合関係がみられた。出土の高さに差が多く認められるものは(1・5・e・gなど)、南側の土器が高く中央の土器は低い傾向が見受けられることから、その土器が廃絶された時点での埋没状況を示唆するものと思われる。また、勝坂Ⅱ式(■)は出土状況に一貫性がなく、直接本住居の廃絶時期を示してはいないと思われる。他の住居との接合は、本住居の北西6mに位置する101号住居と、本住居の北西19mに位置する144号住居との間で各1例確認できた。101号住居の3(5点の土器片)が、本住居出土の1点の土

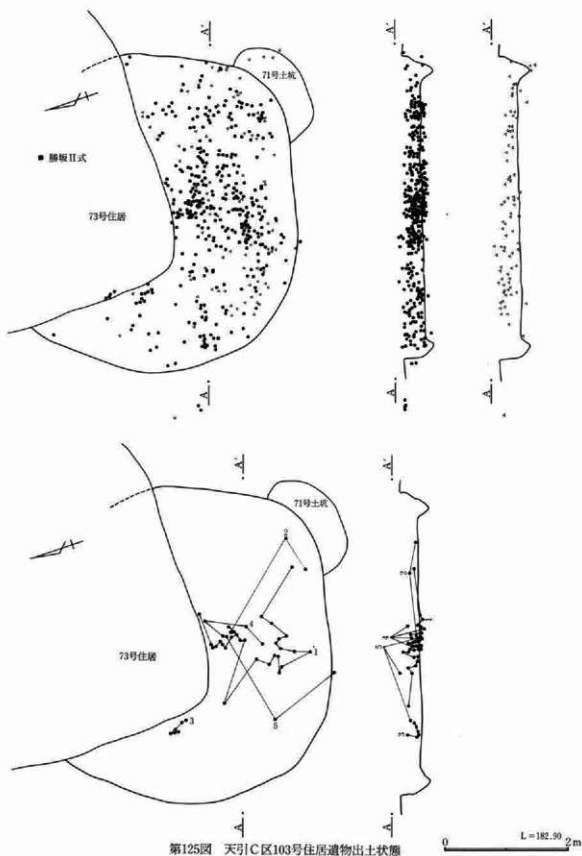


第124図 天引C区103号住居

III 縄文時代の遺構と遺物

器片と接合した(第118図)。また、144号住居出土の
1 (22点の土器片)が本住居出土の1点の土器片と接

合している(第145図)。接合資料a~hの中で、dと
eは浅鉢で他はより糸のみが施される深鉢の胴部片

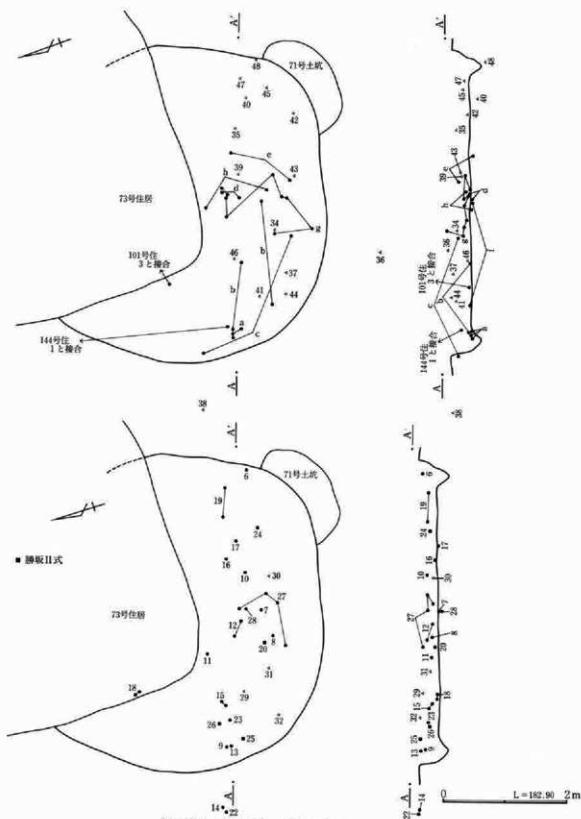


である。石器類は97点が出土し、10点を一括して取り上げた。出土した石器は図示した20点である。

(遺物観察表：196～198頁)

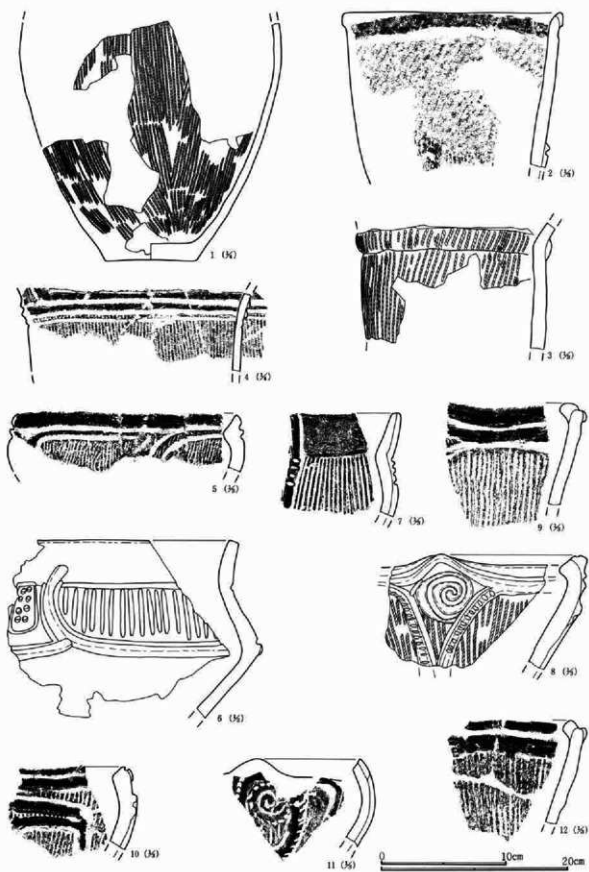
重複 71号土坑を切り、古墳時代後期の73号住居に切られる。

備考 勝板式終末期の竪穴式住居。

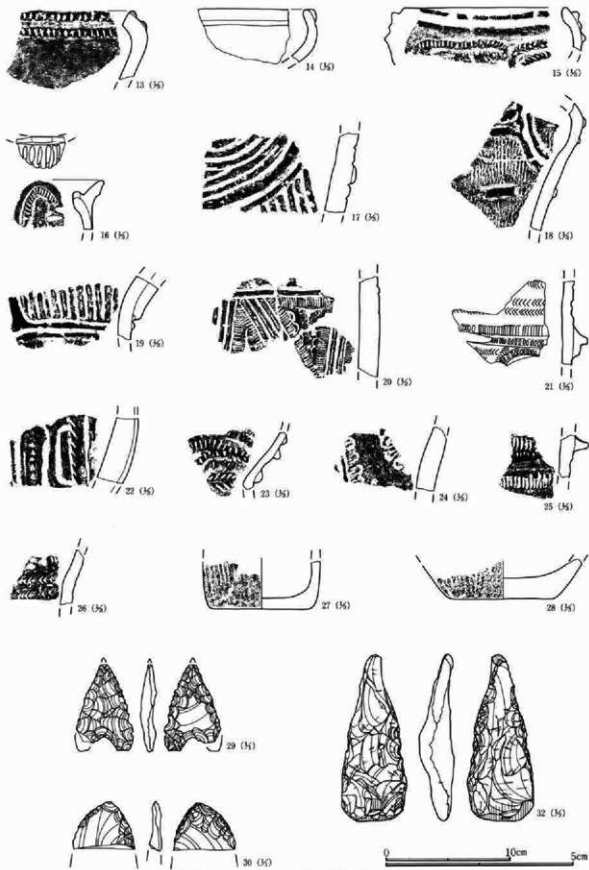


第126図 天引C区103号住居遺物接合図

III 縄文時代の遺構と遺物

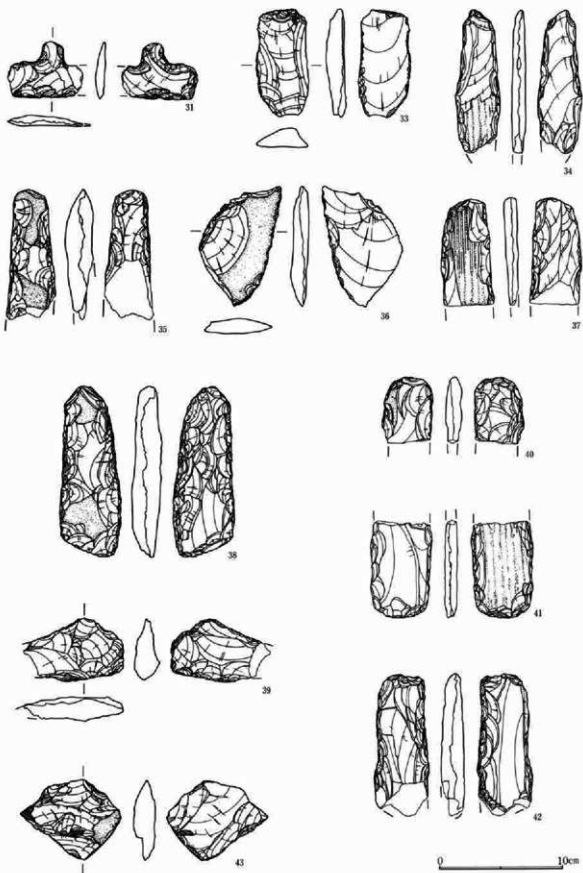


第127図 天引C区103号住居出土遺物(1)

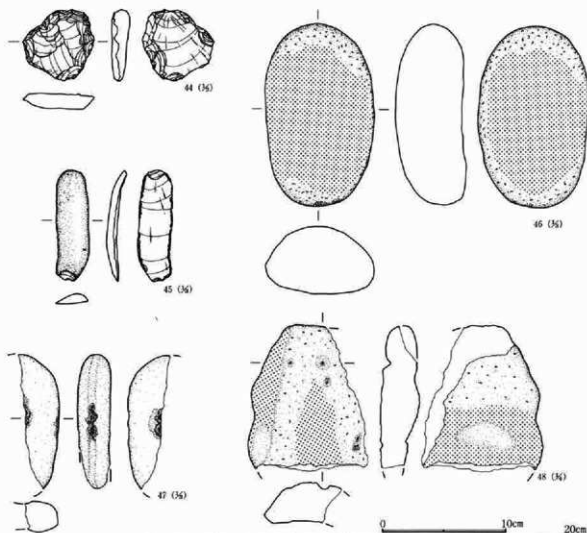


第128图 天引C区103号住居出土遗物(2)

III 縄文時代の遺構と遺物



第129図 天引C区103号住居出土遺物(3)



第130図 天引C区103号住居出土遺物(4)

天引C区104号住居

位置 42—49他 写真 PL26・85

調査に至る経過 表土を除去した段階で、炬が検出されたため竪穴式住居を想定して調査をすすめた。

床面や壁は検出できなかったために形状等不明なことが多い。耕作によって床面や壁が崩き込まれてしまったものと思われる。

炉 方形の石囲炉であったと思われる。調査時において礫が検出されなかった部分が浅く窪んでいたことから、本来はその部分に礫が配されていたものと思われる。残存していた6点の炉石は全て結晶片岩で石皿(7)が転用されていた。

柱穴 6本検出された。住居長軸の長さは最低P1とP2の最大距離である4.68m以上であろう。各

柱穴の規模：《径》×深さは、P1(50×38)×26cm、P2(51×49)×36cm、P3(40×33)×67cm、P4(26×18)×62cm、P5(32×29)×67cm、P6(26×19)×70cmである。

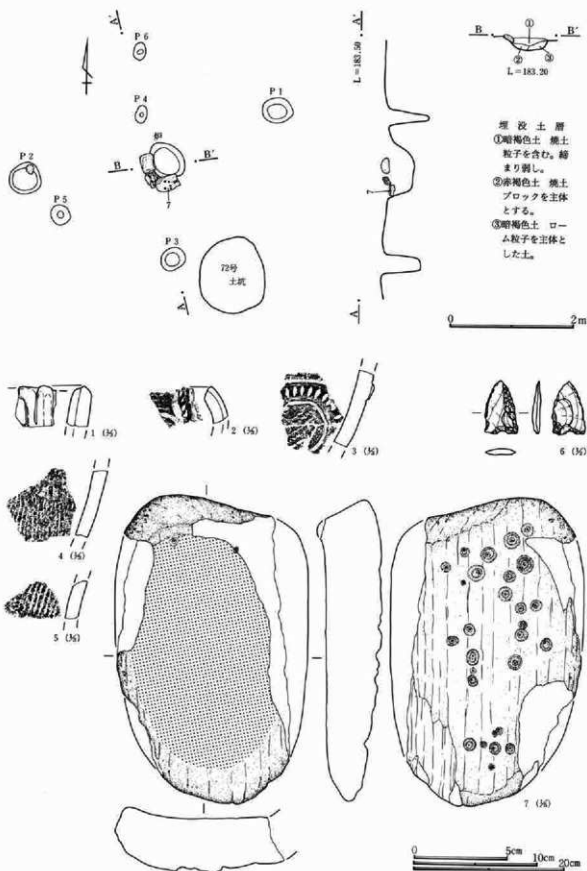
遺物 勝坂式終末期の土器18点が出土し、全て一括して取り上げた。出土土器は全て小片で器形を復元できた個体はない。炉の埋没土中から14点が出土し、P3の埋没土中から2点が出土している。石器類は炉石も含め9点が出土し、石器は炉に転用された石皿の他には、石鎌がP2の埋没土中から出土している。

(遺物観察表：198頁)

重複 位置的に72号土坑と重複する可能性が高いが、新旧関係は不明である。

備考 勝坂式終末期の住居である。

III 縄文時代の遺構と遺物



第131圖 天引C区104号住居と出土遺物

天引C区118号住居

位置 39-47他 写真 P L 27・85・86・112

調査に至る経過 表土を除去した段階で、炉が検出されたため竪穴式住居を想定して調査をすすめた。古墳時代後期の73号住居と平安時代の113号住居及び古墳時代前期の114号住居に切られており、本住居についての所見を得ることができた。73号住居と113号住居は掘り込みが浅く本住居の掘り方が残存していたので、この部分の形状が復元できた。

形状 長軸(4.04)mの円形を呈すると思われる。

面積 (13.10)² 炉の方位 N-8°-W

床面 ロームを最大3cm掘り込み床面とする。他の住居に破壊されていない床面は堅く締まっていた。

埋没土 僅かながら検出された。

炉 方形の石皿炉である。炉石は結晶片岩と砂岩4点が用いられ、多孔石1点(5)と石皿2点(6と7)

が転用されていた。炉の内側で長辺26cm、短辺22cmで19cmの掘り込みをもつ。

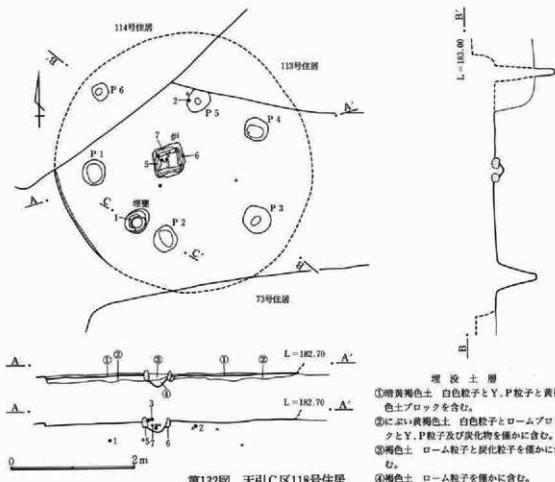
柱穴 6本検出されている。P6は114号住居の掘り方調査の際に検出された。各柱穴の規模：(径)×深さは、P1(40×37)×50cm、P2(41×39)×48cm、P3(45×40)×67cm、P4(38×35)×21cm、P5(34×34)×83cm、P6(25×25)×(93)cmである。

埋 壙 口縁部を僅かに欠損する深鉢(1)が、南東方向に傾いて埋設されていた。

遺物 勝坂式終末期の土器22点が出土し、16点を一括して取り上げた。小片が主体で器形を復元できた個体は埋壙だけである。石器類は10点が出土しているが、この中で石器は前述したように炉に転用されている3点のみであった。(遺物観察表：199頁)

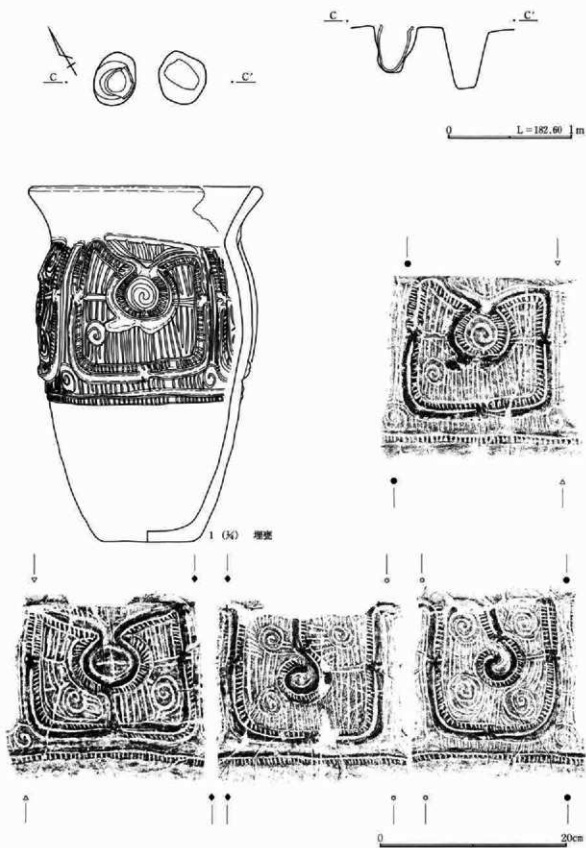
重複 調査に至る経過の記載を参照。

備考 勝坂式終末期の竪穴式住居である。

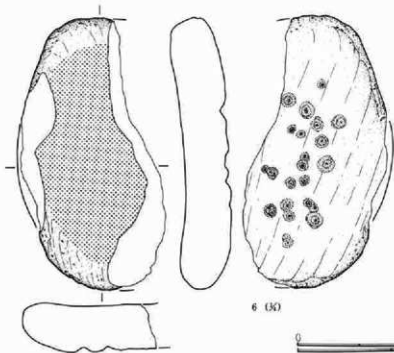
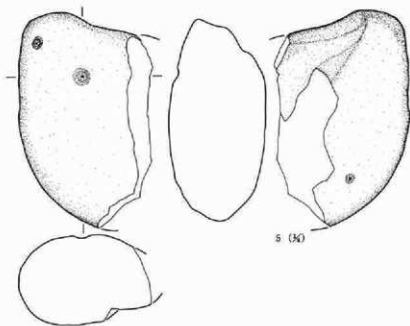
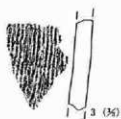


第132図 天引C区118号住居

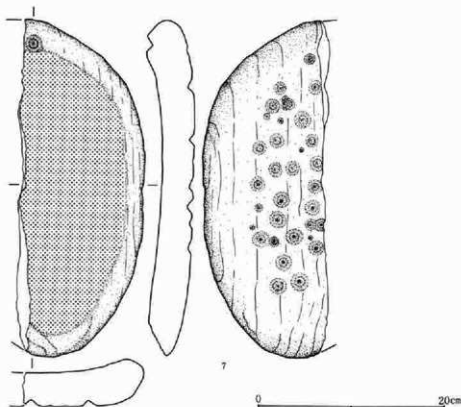
III 縄文時代の遺構と遺物



第133図 天引C区118号住居埋壺と出土遺物(1)



第134图 天引C区118号住居出土遗物(2)



第135図 天引C区118号住居出土遺物(3)

天引C区125号住居

位置 48-44地 写真 PL28・86

形状 東側を弥生時代の42号住居に切られるが、軸長4m前後の円形を呈すると思われる。

面積 (14.01)m² 方位 不明

床面 ロームを最大9cm掘り込んで床面とする。

細かな凹凸が認められるが、堅く締まっていた。

埋没土 僅かに検出された。

炉 7点の結晶片岩を用いた石砌炉である。このうち1点は石皿(10)の転用である。炉の南側は小礫1点しか残存していなかったが、本来の状態かどうかは不明であり、炉の近辺から弥生土器2点が出土していることから、炉の南側が攪乱された可能性が高いのではなかろうか。炉石の内側は長辺44cm、短辺24cmで18cmの掘り込みをもつ。炉石は全て熱を受けていたが、炉の底面や周辺は焼土化しておらず、炭化粒子もあまり見られなかった。

柱穴 11本の柱穴が検出された。各柱穴の規模：〈径〉×深さは、P1 (35×32)×(56)cm、P2 (37×

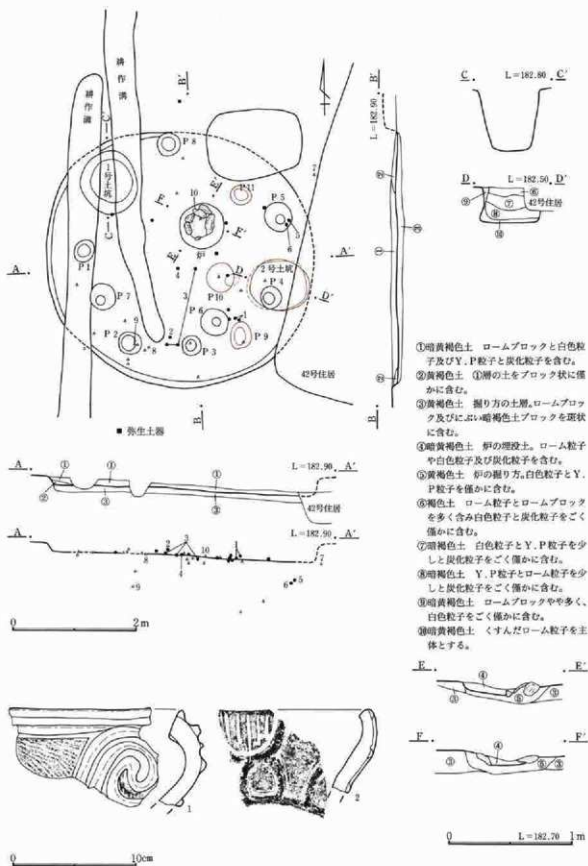
34)×12cm、P3 (31×30)×12cm、P4 (35×34)×54cm、P5 (46×42)×54cm、P6 (44×42)×19cm、P7 (42×42)×20cm、P8 (35×35)×52cm、P9 (42×32)×58cm、P10 (52×46)×51cm、P11 (34×30)×24cmである。

床下土坑 2基の土坑が住居の床面検出時に確認できた。いずれの土坑においても張り床は検出されていないが、本住居に伴う施設であるのかは不明である。1号土坑は長辺98cm、短辺92cmで95cmの掘り込みをもつ。2号土坑はP4に切られており、長辺100cm、短辺82cmで56cmの掘り込みをもつ。

遺物 勝坂式終末期の土器片43点が出土し、27点を一括して取り上げた。いずれも小片である。また、前述したように弥生土器2点が出土している。石器類は34点が出土し、8点を一括して取り上げた。出土した石器は図示した。(遺物観察表：199頁)

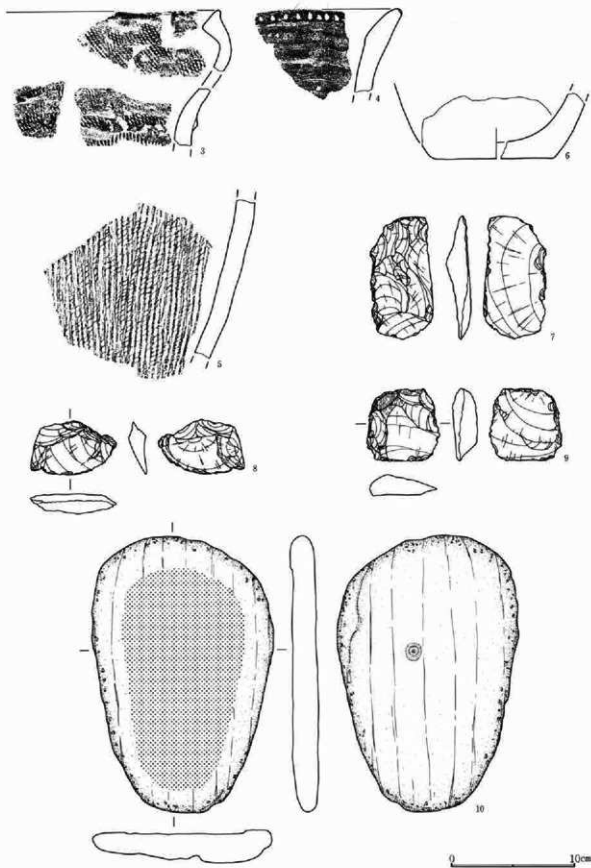
重複 前述した42号住居とイモ穴状土坑及び耕作溝に切られる。

備考 勝坂式終末期の竪穴式住居である。



第136図 天引C区125号住居と出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第137図 天引C区125号住居出土遺物(2)

天引C区127号住居

位置 45-43他 写真 PL28・88

調査に至る経過 表土を除去した段階で、炉石の上
面が検出されたため竪穴式住居を想定して調査をす
すめた。弥生時代の53号住居、時期不明の81号土坑
及び耕作溝やイモ穴状土坑に切られており、さらに
北側では壁が検出できなかったことから形状等不明
なことが多い。

炉の方位 N-13°-W

床 面 ロームを最大6cm掘り込んで床面とする。北
側では炭を検出できなかったが、推定部分までの床
面は確認できた。

埋没土 僅かではあるが確認できた。

炉 西辺が一部突出するが、ほぼ方形を呈する石
囲炉である。検出された6点の炉石は、いずれも結
晶片岩で二次的な加熱による劣化が著しい。炉の底
面は焼土化していた。炉石の内側は、長辺40cm、短

辺32cmで12cmの掘り込みをもつ。

柱 穴 8本検出された。住居の壁際に配置する傾
向が見受けられる。各柱穴の規模：《径》×深さは、
P1《23×20》×19cm、P2《26×26》×6cm、P3《28×
28》×22cm、P4《27×26》×29cm、P5《28×28》×20
cm、P6《29×26》×25cm、P7《40×34》×54cm、
P8《30×30》×13cmである。

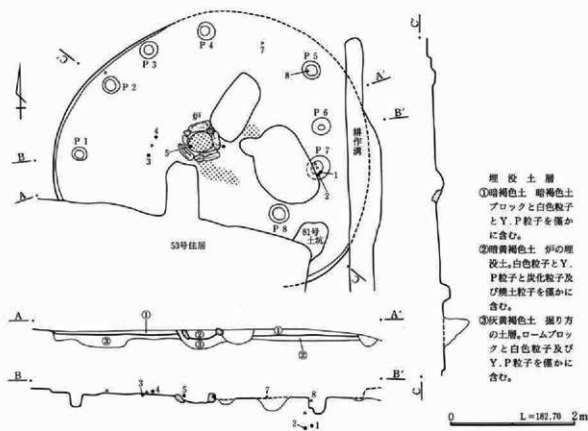
遺 物 縄文土器32点が出土し、26点を一括して取
り上げた。内訳は、勝板Ⅱ式2点以外は全て勝板式
終末期に位置付けられよう。全ての土器片が小片で、
器形を復元できた個体はなく、住居内での接合関係
もみられなかった。

石器類は15点が出土し、2点を一括して取り上げ
た。石器は図示した2点が出土しているにすぎない。

(遺物観察表：199・200頁)

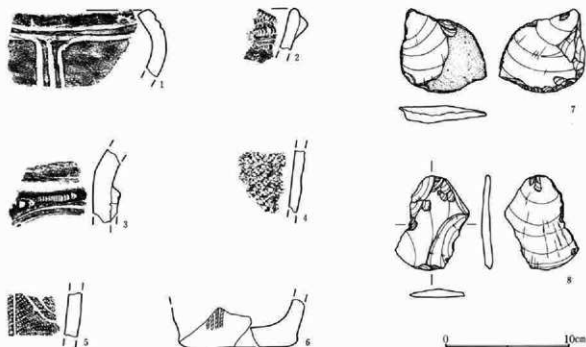
重 複 調査に至る経過の記載を参照。

備 考 勝板式終末期の竪穴式住居である。



第138図 天引C区127号住居

III 縄文時代の遺構と遺物



第139図 天引C区127号住居出土遺物

天引C区129号住居

位置 41-41他 写真 PL29・86

形状 長軸2.50m、短軸2.42mのほぼ円形を呈する竪穴式住居である。弥生時代の108号住居と時期不明の35号土坑に切られるが、この2つの遺構はいずれも掘り込みが浅いために本住居の壁の一部を破壊したにすぎない。

面積 4.75㎡ 方位 不明

床面 ロームを最大26cm掘り込んで床面とする。堅く締まっていた。

埋没土 土層観察からは、自然堆積の可能性が強いと思われる。

炉 検出されなかった。

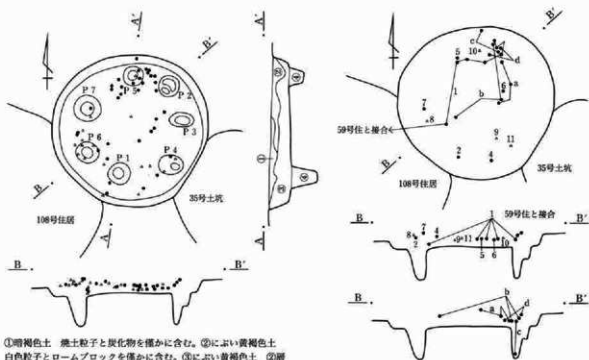
柱穴 壁から少し内側の部分で、環状に7本検出された。各柱穴の規模：〈径〉×深さは、P1〈36×34〉×47cm、P2〈35×33〉×52cm、P3〈40×24〉×19cm、P4〈39×32〉×52cm、P5〈31×30〉×28cm、P6〈37×34〉×51cm、P7〈44×41〉×54cmである。

遺物 縄文土器53点が出土し、18点を一括して取り上げた。内訳は勝坂Ⅱ式25点と阿玉台Ⅱ式28点で

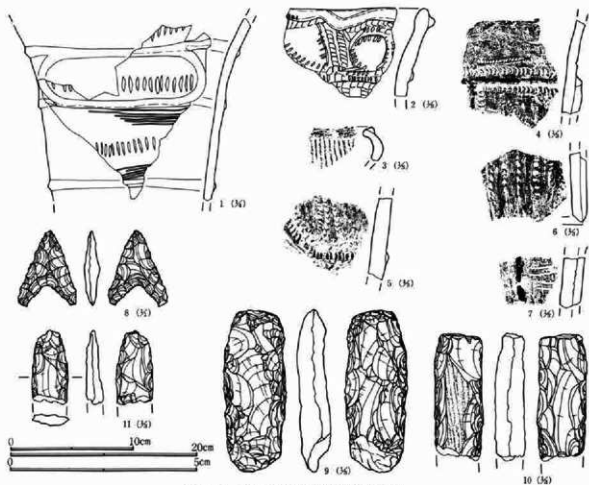
ある。床面直上から出土した土器片はほとんどなかった。接合資料a～dはいずれも阿玉台Ⅱ式の胴部片である。住居間における接合関係は本住居の南東17.8mに位置する59号住居との間で、1例確認できた。本住居から出土した8点の阿玉台式土器(1)が59号住居出土の1点と接合している(第114図)。各住居における出土位置を見てみると、59号住居では住居北側における床面直上であるのに対して、本住居の場合は床面から若干浮いた状態で検出されている。また、床上23cmの高さで弥生土器1点が出土した。

石器類は17点が出土した。石器は図示した4点の他に、黒曜石製の石鏃が1点床上21cmの高さで出土したが図化できなかった。(遺物観察表：200頁)重複調査に至る経過の記載を参照。

備考 勝坂Ⅱ式期の竪穴式住居であろう。



①暗褐色土 微土粒子と炭化物を僅かに含む。②にぶい黄褐色土 白色粒子とロームブロックを僅かに含む。③にぶい黄褐色土 ②層に比べやや黄色味強い。炭化物とY、P粒子及び白色粒子を僅かに含む。④暗黄褐色土 柱穴の埋没土。B、P粒子を僅かに含む。



第140図 天引C区129号住居と出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

天引C区134号住居

位置 37-47他 写真 PL29・88

調査に至る経過 遺構確認をした段階及び本住居を切る弥生時代の112号住居を調査した段階では、落ち込みを確認できなかった。縄文時代以降の調査が終了した区域から、順次旧石器の試掘坑を掘っていったが、本住居が確認されたのは試掘坑の土層観察においてであった。結果的に、住居のかんりの部分を試掘坑によって破壊してしまった。また、残存状態も悪かったため、形状等不明ことが多い。

面積不明 方位不明

床面 ロームを最大29cm掘り込んで床面とする。

立地の条件から北壁の一部は検出できなかった。

埋没土 土層観察からは自然堆積の可能性が高い。

炉 直径20cm、深さ14cmの掘り込み中に、胴上半部を欠損する深鉢(1)が埋設されていた。土器の埋没土中に僅かながら焼土粒子と炭化粒子が確認された

ことから炉と認定した。

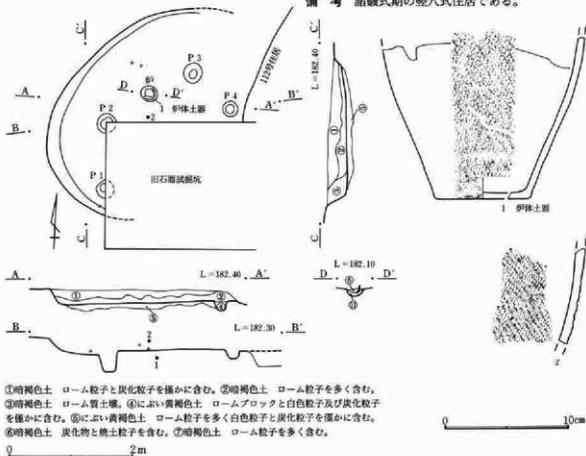
柱穴 4本の柱穴の規模：〈径〉×深さは、P1(28×(28))×28cm、P2(31×(28))×29cm、P3(30×30)×29cm、P4(24×24)×15cmである。

遺物 縄文土器4点が出土し、2点を一括して取り上げた。いずれも諸磯式期の所産と思われるが、全て縄文施文のみの土器であったため、細分型式期を特定できなかった。しかしながら、天引C区において諸磯式土器の出土は僅かにあり、型式がわかるものは全て諸磯b(新)式であることを考えあわせると、当該期に比定されるのかもしれない。石器類は3点が出土した。内訳はフレイク1点、石核1点、礫1点である。なお、本住居を切る旧石器試掘坑からは、縄文時代の遺物は出土していない。埋没土中に含まれる遺物が少なかったことを示唆するものといえよう。

(遺物観察表：200頁)

重複 調査に至る経過の記載を参照。

備考 諸磯式期の竪穴式住居である。



- ①暗褐色土 ローム粒子と炭化粒子を僅かに含む。②暗褐色土 ローム粒子を多く含む。
 ③暗褐色土 ローム質土壌。④にぶい黄褐色土 ロームブロックと白色粒子及び炭化粒子を僅かに含む。
 ⑤にぶい黄褐色土 ローム粒子を多く白色粒子と炭化粒子を僅かに含む。
 ⑥暗褐色土 炭化物と焼土粒子を含む。⑦暗褐色土 ローム粒子を多く含む。

第141図 天引C区134号住居と出土遺物

天引C区138号住居

位置 50-44地 写真 P.L.30・87

形状 南側の一部を奈良時代の133号住居に破壊されるが、残存部分の状況から長軸(5.90)m、短軸5.56mの不正円形を呈すると思われる。

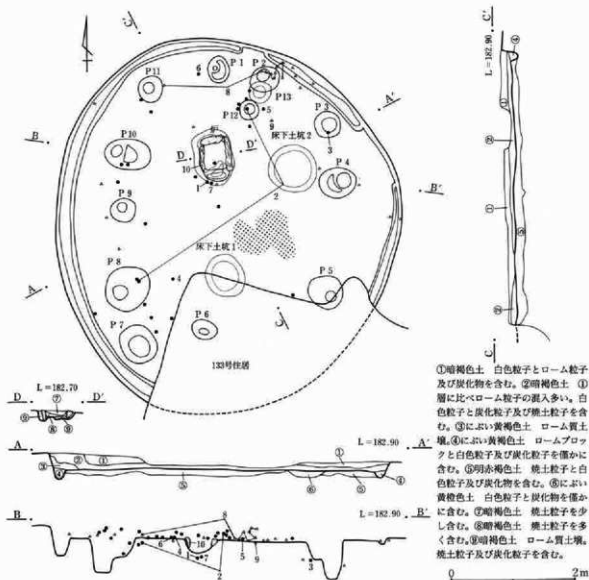
面積 (25.52)㎡ 炉の方位 N-5°-W

床面 地形が西から東に緩やかに傾斜する場所に立地するため、住居の西側ではロームを最大24cm掘り込んで床面とするが、東側では10cmの壁高である。床面は凹凸があり堅く締まる。住居のほぼ中央部において、焼土化した部分が確認された。

埋没土 土層観察から自然堆積の可能性が高い。

炉 住居の中央から、北側の部分で結晶片岩を主体とした石囲炉が検出された。南辺では炉石が検出されなかったが、この部分が浅く窪んでいたことから、本来は方形に4点の礫が配置されていたものと思われる。多孔石(10)が1点用いられていた。炉石の内側は31cmで6cmの掘り込みをもつ。

柱穴 13本検出された。壁から少し内側の部分で検出されたものが多い。P6は133号住居調査時に確認され埋没土の状態から本住居に帰属するものと判断した。P13は掘り方調査の際に検出された。各柱穴の規模：〈径〉×深さは、P1(42×34)×19cm、P2(50×41)×58cm、P3(42×40)×47cm、P4(58×



第142図 天引C区138号住居

III 縄文時代の遺構と遺物

48)×64cm、P5(56×52)×47cm、P6(41×34)×(67)cm、P7(64×54)×58cm、P8(76×68)×57cm、P9(40×38)×53cm、P10(74×49)×49cm、P11(42×38)×57cm、P12(30×28)×45cm、P13(35×25)×20cmである。

壁周溝 ほは壁に沿って検出された。最大幅は32cmで、深さは最大27cmであった。

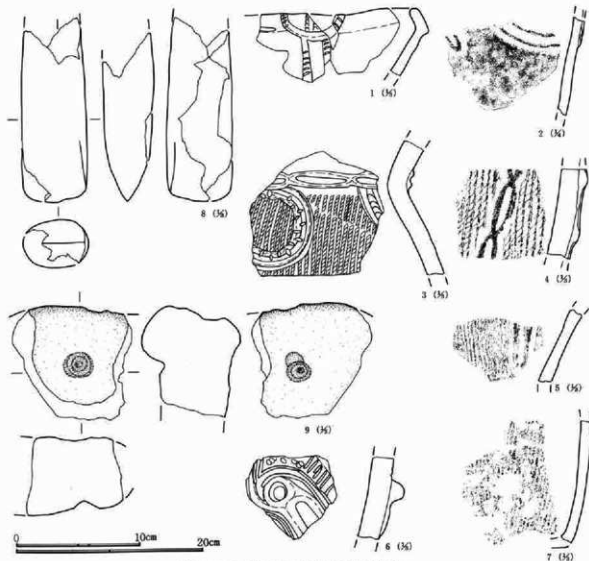
床下土坑 住居の床下から2基の土坑が検出された。いずれの土坑も住居に伴う施設と調査時に判断したが、積極的な根拠はない。1号土坑は埋没土中に焼土粒子及び炭化粒子が含まれていた。長辺70cm、短辺60cmで61cmの掘り込みをもつ。2号土坑は長辺68cm、短辺66cmで23cmの掘り込みをもつ。

遺物 縄文土器50点が出土し、21点を一括して取り上げた。住居の埋没土中から出土した土器は、大半が勝坂式終末期に帰属するが、諸磯b(新式)1点がP10の場所で床上15cmの高さで出土している。また、掘り方調査の際に、阿玉台Ⅱ式の土器片3点が出土したことから、本住居が構築される前に勝坂Ⅱ式期の遺構があったのかもしれない。石器類は炉石も含め27点が出土した。石器は図示した3点が出土している。この中で、被熱によって9つの破片となった同一個体の磨製石斧(8)が検出されている。

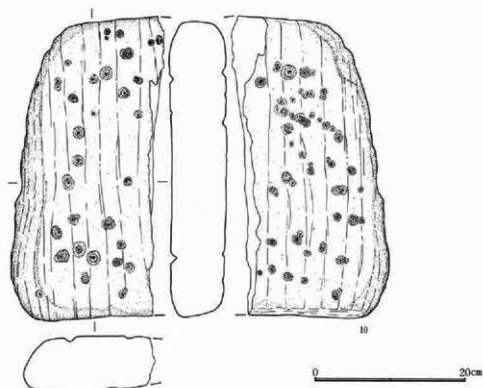
(遺物観察表：200・201頁)

重複 形状の記載を参照。

備考 勝坂式終末期の竪穴式住居である。



第143図 天引C区138号住居出土遺物(1)



第144図 天引C区138号住居出土遺物(2)

天引C区144号住居

位置 37-50地 写真 P.L.31・87・88

形状 古墳時代中期の143号住居やイモ穴状土坑に切られるが、不正円形を呈するものと思われる。

床面 ロームを最大6cm掘り込んで床面とする。

炉 2基検出された。検出状況から同時に存在したと思われる。1号炉は長軸80cm、短軸70cmの楕円形を呈し、24cmの掘り込みをもつ地床炉である。底面が焼土化しており、埋没土中から竈や土器片が多数出土している。2号炉は鉤の手状に被熱した2つの竈が検出されていることから、石閉炉の可能性もある。炉石に台石(20)が転用されていた。長軸42cm、短軸36cmの隅丸方形形状を呈し18cmの掘り込みをもつ。

柱穴 13本検出された。1号炉の下からP10が検出されている。P10-13は掘り方調査の際に検出された。規模：〈径〉×深さは、P1〈35×32〉×39cm、P2〈33×30〉×14cm、P3〈65×50〉×55cm、P4〈42×40〉×44cm、P5〈50×48〉×66cm、P6〈50×44〉×39cm、P7〈43×37〉×(50)cm、P8〈38×38〉×(54)cm、

P9〈58×54〉×(28)cm、P10〈45×33〉×53cm、P11〈70×70〉×13cm、P12〈55×47〉×47cm、P13〈47×41〉×30cmである。

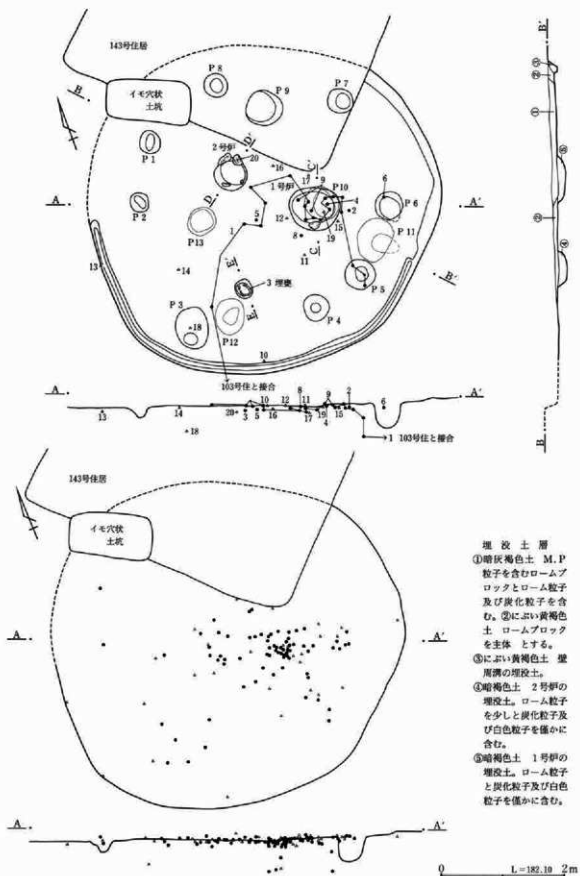
埋 壙 勝板Ⅱ式期の深鉢胴部(3)が埋設されていた。本来は一周分埋設されていたが、被熱による劣化が著しく、全体を復元できなかった。

遺物 縄文土器117点が出土し、45点を一括して取り上げた。埋壙は勝板Ⅱ式であるが、他の土器片は勝板式終末期に比定される。埋没土中の土器片の多くは床面直上のものが主体を占め、壁際からの出土も認められることから、住居廃絶後の早い段階で勝板式終末期の土器片が廃棄された状況が想定される。よって、埋壙の埋設された時期と埋壙の土器型式期が一致しない可能性が強い。また、1か103号住居出土の土器片と接合している。石器類は31点が出土し、出土した石器は図示した。土製耳飾りが1点出土している。(遺物観察表：201・202頁)

重複 形状の記載を参照。

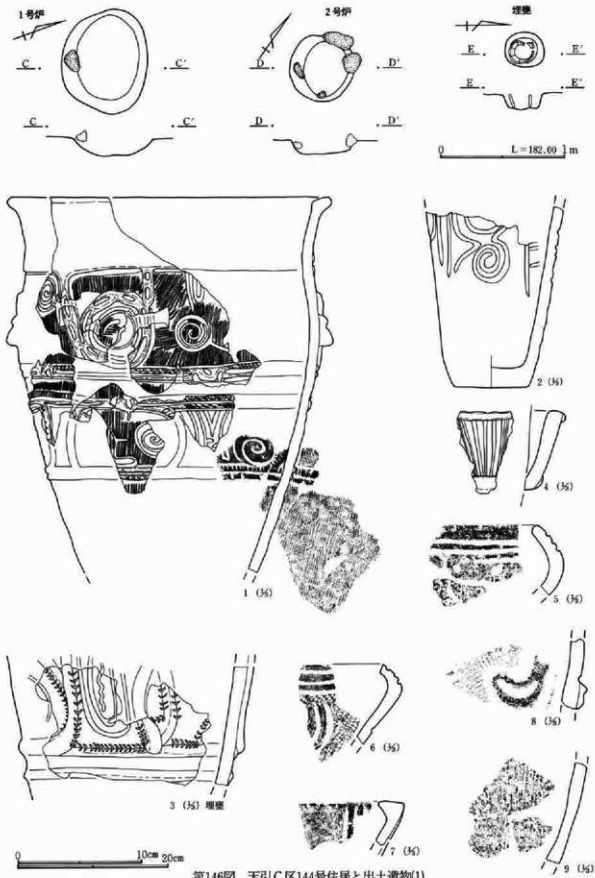
備考 勝板式終末期の竪穴式住居の可能性が強いと思われる。

III 縄文時代の遺構と遺物



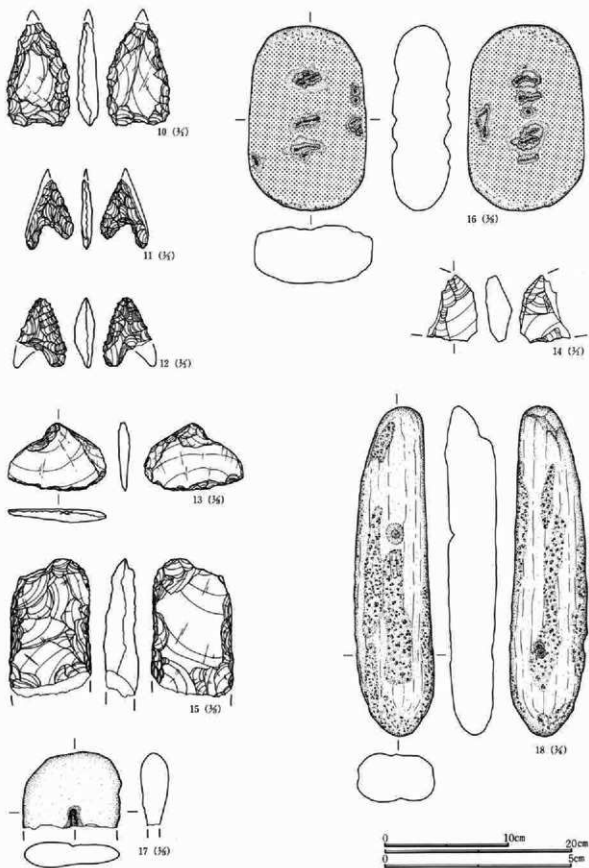
第145図 天引C区144号住居

2 住居址

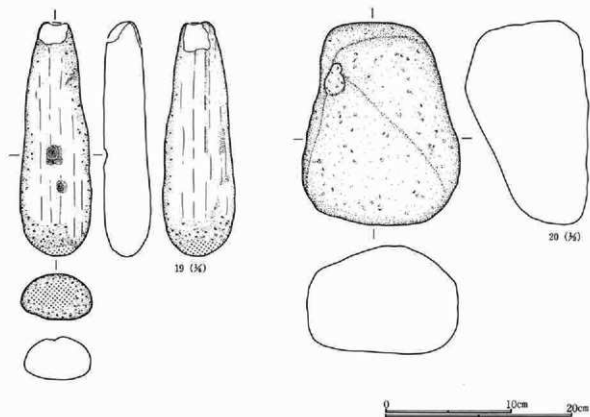


第146图 天引[C区144号住居と出土遺物(1)]

III 縄文時代の遺構と遺物



第147図 天引C区144号住居出土遺物(2)



第148図 天引C区144号住居出土遺物(3)

天引C区147号住居

位置 49-47他 写真 PL32・88

形状 ほぼ半分が発掘調査区域外にあたるために、不明な点が多いが長軸3.64mの円形を呈すると思われる。住居の中央部に天明3年（1783年）以前の攪乱がある。

残存部分の面積 (5.46)㎡ 方位 不明

床面 ロームを最大11cm掘り込んで床面とする。

床面は堅く締まっていた。

埋没土 ⑥層が本住居の埋没土にあたる。白色粒子の他にローム粒子も多く含んでいる。

炉 検出されなかった。

柱穴 4本検出された。いずれの柱穴も比較的浅かった。各柱穴の規模：〈径〉×深さは、P 1 〈35×34〉×23cm、P 2 〈40×40〉×36cm、P 3 〈54×46〉×7cm、P 4 〈42×38〉×29cmである。

遺物 縄文土器8点が出土し、7点を一括して取

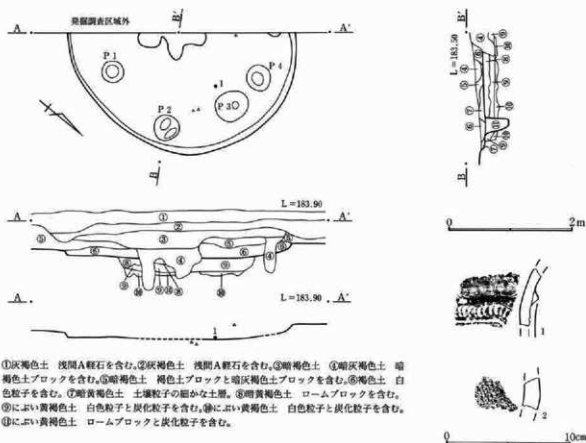
り上げた。内訳は、黒浜式1点と勝坂II式7点である。石器類は打製石斧1点と凹み石2点が出土したが紛失した。なお、黒浜式土器1点は天引向原地区の縄文時代遺構からは唯一の出土であった。

(遺物観察表：202頁)

重複 本住居の直下から勝坂II式期の150号住居が検出されている。土層観察から本住居のほうが新しい。

備考 勝坂II式期の竪穴式住居の可能性が強いと思われる。

III 縄文時代の遺構と遺物



- ①灰褐色土 浅間A軽石を含む。②灰褐色土 浅間A軽石を含む。③暗褐色土 ④暗灰褐色土 暗褐色土ブロックを含む。⑤暗褐色土 褐色土ブロックと暗灰褐色土ブロックを含む。⑥褐色土 白色粒子を含む。⑦暗黄褐色土 土壌粒子の細かな土層。⑧暗黄褐色土 ロームブロックを含む。⑨にぶい黄褐色土 白色粒子と炭化粒子を含む。⑩にぶい黄褐色土 白色粒子と炭化粒子を含む。⑪にぶい黄褐色土 ロームブロックと炭化粒子を含む。

第149図 天引C区147号住居と出土遺物

天引C区150号住居

位置 49-47他 写真 PL32・33・88

形状 ほぼ半分が発掘調査区域外にあたるために、不明な点が多いが残存部分から長軸2.50mの楕円形を呈すると思われる。

残存部分の面積 (3.65)㎡ 方位 不明

床面 ロームを最大6cm掘り込んで床面とする。

堅く締まっていた。

埋没土 ⑨層が本住居の埋没土にあたる。ローム質の土壌であった。

炉 検出されなかった。

柱穴 3本検出された。いずれの柱穴も比較的浅かった。各柱穴の規模：〈径〉×深さは、P1〈22×20〉×24cm、P2〈30×28〉×11cm、P3〈20×18〉×11cmである。

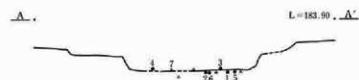
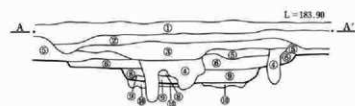
遺物 縄文土器12点が出土し、6点を一括して取り上げた。内訳は、勝坂II式10点と阿玉台II式2点

である。石器類は打製石斧1点と硬質泥岩のフレイク2点と鎌2点が出土している。

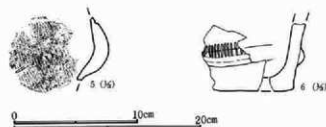
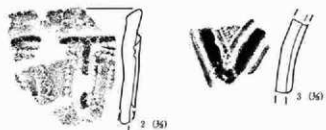
(遺物観察表：202頁)

重複 本住居の上に勝坂II式期と考えられる147号住居が構築されている。

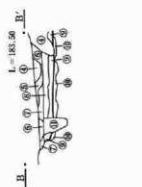
備考 勝坂II式期の竪穴式住居である。



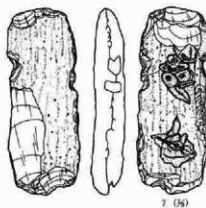
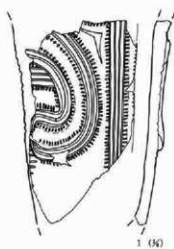
①灰褐色土 浅間A輝石を含む。②灰褐色土 浅間A輝石を含む。③暗褐色土
④暗灰褐色土 暗褐色土ブロックを含む。⑤暗褐色土 褐色土ブロックと暗灰
褐色土ブロックを含む。⑥褐色土 白色粒子を含む。⑦暗黄褐色土 土壌粒子
の細かな土層。⑧暗黄褐色土 ロームブロックを含む。⑨にぶい黄褐色土 白
色粒子と炭化粒子を含む。⑩にぶい黄褐色土 白色粒子と炭化粒子を含む。⑪
にぶい黄褐色土 ロームブロックと炭化粒子を含む。



0 10cm 20cm



0 2m



第150図 天引C区150号住居と出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

天引C区59号住居出土遺物 (第114・115図, PL 82)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~底	①良好 ②褐色 ③黒質母粒を多量に含む	口径(26.0)、底径14.0、高さ27.5。胴部に1本割部に2本断面三角の隆帯を、たが状に巡らす。胴部の横位隆帯を斜位に連絡し、平行四辺形の区画を4単位抽出する。	勝坂Ⅱ式か外面灰化物付着
2	口縁部	①良好 ②鈍い褐色 ③黒質母粒を含む	口径17.0。ペン先状の連続刺突文及び幅広い竹管文を抽出する。文様の単位は4単位。単位の間に三叉文。	勝坂Ⅱ式
3・4	口縁部片	①良好 ②灰赤色 ③金雲母粒を多量に含む	2本1組の結節沈線及び波状沈線を巡らせる。3は二次的に被熱。	阿玉台Ⅱ式 3・4は同一
5	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③砂を多量に含む	外面に一部円形。ペン先状の刺突が走る。	勝坂Ⅱ式
6	口縁部片	①良好 ②褐色 ③金雲母粒を多量に含む	波状口縁。断面三角の隆帯によって区画。区画内は櫛歯状工具による条線。	阿玉台Ⅱ式
7	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む	隆帯を垂下し、隆帯に沿って半截竹管状工具による沈線を施す。	勝坂Ⅱ式
8	胴部片	①良好 ②明褐色 ③黒質母粒を含む	隆帯による区画を行い、区画に沿ってペン先状の連続刺突文を施す。	勝坂Ⅱ式
9	胴~底部	①良好 ②赤褐色 ③黒質母粒を含む	底径8.0、横位に隆帯を巡らせ、横位区画をする。隆帯に沿って幅広い竹管文を施す。	勝坂Ⅱ式

石 器

(単位: cm・g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
10	使用痕のある石器	長 7.1 幅 5.8 厚 1.7 重 66.0	縦長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩
11	使用痕のある石器	長 6.6 幅 5.2 厚 1.0 重 37.0	縦長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	頁岩

天引C区78号住居出土遺物 (第116図, PL 82)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①やや不良 ②淡黄色 ③黒質母粒を多量に含む	低い隆帯を垂下させる。隆帯に沿って棒状工具による浅いナゾリが施される。隆帯は磨耗しているが本来的に低かったものと思われる。	勝坂式終末期覆土
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	原体L Rと原体R Lの単節刺突文を棒状に抽出する。	勝坂式終末期か覆土
3	口縁部片	①良好 ②淡黄褐色 ③黒質母粒を含む	刻みを施した隆帯を垂下する。隆帯に沿って棒状工具による浅い沈線が施される。二次的に被熱。	勝坂式終末期
4	胴部片	①やや不良 ②灰黄褐色 ③砂を多量に含む	棒状工具による渦巻文。沈線は浅く、レリーフ状に文様を抽出する。	勝坂式終末期
5	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒質母粒を含む	一部に沈線が施される。	勝坂式終末期A群
6	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石英を含む	隆帯に沿って幅広い竹管文。	勝坂Ⅱ式覆土
7	底部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む	沈線が2本垂下。	勝坂式終末期

石 器

(単位: cm・g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
8	加工痕のある石器	長 4.1 幅 6.0 厚 1.0 重 25.0	横長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩
9	使用痕のある石器	長 6.5 幅 6.9 厚 2.7 重 72.0	横長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩
10	使用痕のある石器	長 6.3 幅 4.4 厚 0.7 重 16.5	縦長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩

天引C区101号住居出土遺物 (第119~123図, PL 82~84)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部	①良好 ②鈍い褐色 ③黒質母粒を含む	原体Lのより糸を全面に施す。より糸施文は中央部を区画化。	勝坂式終末期埋藏

番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
2	胴部残存	①良好 ②鈍い赤褐色 ③砂粒を含む	口径(26.5)。口縁直下は無文。口縁部は原体Lのより糸を施したのち、棒状工具による区画。区画内に文様を描出する。頸部は鎖状の隆帯を巡らせる。口縁部文様の単位は不明。	静仮式終末期 2号炉とP7から出土
3	口縁部	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒雲母粒を含む	口径(31.6)。口縁部は無文。頸部はくびれ、若干凹む。胴部は原体Lのより糸を施したのち、鎖状の隆帯で貼付する。103号住居間接合	静仮式終末期 住居間接合
4	口縁部残存	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	口径16.6。口唇部内側に溝をもつ。無文。内面に炭化物が付着する。	静仮式終末期
5	胴部残存	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	底径(8.0)。口縁部が強く外反する。胴部は原体Lのより糸を施したのち、幅広い竹管による刻みを付した隆帯を横位に巡らし、区画内に懸垂する。文様の単位は不明。	静仮式終末期 外面炭化物付着
6	胴～底部	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Lのより糸を全面に施す。口縁部に向かって開く器形。	静仮式終末期 外面炭化物付着
7	口縁～胴部残存	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	口径15.0。口縁部は無文。胴部は原体Lのより糸を施したのち、刻みを付した隆帯を横位に巡らせ、刺突を付した鎖状の隆帯を垂下させる。区画内には三列の刺突を施す。胴部文様は4単位。	静仮式終末期 外面が一部剥落
8	胴～底部残存	①良好 ②鈍い褐色 ③砂粒を含む	底径(6.0)。頸部に指頭状の圧痕を施した隆帯を巡らせる。胴部は原体L Rの準絶新絶文を施す。	静仮式終末期
9	胴～底部	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	底径6.0。原体Rのより糸を施したのち、棒状工具による2本1組の沈線で文様を描出する。器面を2本の沈線で4分割し、区画内にU字、逆U字の文様を施す。	静仮式終末期
10	胴～底部	①良好 ②明褐色 ③片岩を含む	底径10.5。原体Lのより糸を全面に施す。	静仮式終末期 内外面が準耗
11	底部残存	①良好 ②鈍い赤褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Lのより糸を施す。	静仮式終末期
12	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Lのより糸を施したのち、背割り状の沈線を付した隆帯によって文様を描出する。隆帯に沿って沈線を描す。	静仮式終末期
13	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	口縁部に刻みを付した隆帯で文様を描出する。頸部は背割り状の沈線を付した隆帯が回り胴部には原体Lのより糸を施す。	静仮式終末期
14	口縁部片	①良好 ②褐色 ③砂粒を含む	鎖状を呈する器形。棒状工具による沈線文を施す。	静仮式終末期
15	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	隆帯によって文様を描出する。	静仮式終末期
16	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③砂粒を含む	口縁部に刻みを付した隆帯を2本巡らし、口唇部から1本垂下。	静仮式終末期
17	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③雲母粒を含む	無文の口縁部片。	静仮式終末期
18	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒雲母粒を含む	口唇部が内側に肥厚する。無文。	静仮式終末期
19	口縁部片	①やや不良 ②鈍い褐色 ③砂を多量に含む	口縁部に棒状工具による沈線が巡る。地文は櫛歯状工具による条線。	静仮式終末期
20	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③スコーア粒を少量含む	棒状工具による沈線文。2号炉の埋没土中とP9の埋没土中から出土した。	静仮式終末期
21	口縁部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Lのより糸を施したのち、沈線及び背割り取りによって文様を描出する。また、沈線間は磨消される。	静仮式終末期
22	口縁部片	①良好 ②褐色 ③砂粒を含む	無文の口縁部。口径(14.2)。	静仮式終末期
23	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	刻みを付した隆帯及び棒状工具による沈線で文様を描出する。中空状の突起を貼付する。空白部には刺突文。	静仮式終末期
24・25	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Lのより糸を施したのち、尖角櫛歯状の刻みを付した隆帯や、鎖状の隆帯で文様を描出する。	静仮式終末期
26	胴～底部	①やや不良 ②明褐色 ③砂を多量に含む	櫛歯状工具による条線を垂下する。内面が剥落する。	静仮式終末期
27	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Lのより糸を施したのち、刻みや背割り状の沈線を付した隆帯による赤褐色文を描出する。外面が一部剥落する。	静仮式終末期
28	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Rのより糸を施した後、刻みを付した隆帯による楕円区画文。楕円区画内は隆帯に沿って沈線を描し、他はナゾリ。	静仮式終末期 2号炉
29	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	幅広い隆帯及び棒状工具による沈線や刺突文。二次的に被熱。	静仮式終末期
30	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Lのより糸を施した後、刻みを付した隆帯を巡らせる。隆帯に沿って棒状工具によるナゾリが施される。	静仮式終末期

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
31	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Lのより糸を施した後、刻みを付した隆帯が走る。隆帯に沿って棒状工具によるナゾリが施される。	静仮式終末期
32	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③黒雲母粒を含む	筒状の隆帯を2つ貼付する。原体R Lの単節斜縄文を施す。	静仮式終末期
33	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③砂を多量に含む	高い隆帯と半截竹管状工具による平行波線文。	静仮式終末期
34	胴部片	①やや不良 ②赤褐色 ③砂を多量に含む	原体Lのより糸を施した後、背割り状の波線を付した隆帯を貼付。隆帯上に刻みを付し、沿ってナゾリ状の波線。内面の一部が剥落する。	静仮式終末期
35	把手の一部	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	背割り状の波線を付した隆帯を巻き上げて中空状の把手を作りあげる。隆帯上には刻みを付す。	静仮式終末期
36	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③砂を含む	原体Lのより糸を施した後、波線の隆帯が垂下する。隆帯に沿ってナゾリが施される。	静仮式終末期
37	胴部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を少量含む	原体R Lの単節斜縄文を施す。	静仮式終末期
38	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③砂を含む	原体不明のより糸を施す。	静仮式終末期 内面が剥落

石 器

(単位: cm・g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
39	打製石斧	長 11.3 幅 5.2 厚 1.7 重 151.0	短冊形を呈すが、刃部が凸刃状を呈し、両側縁が僅かに内彎する。完形。	緑色片岩
40	打製石斧	長 12.9 幅 4.5 厚 2.4 重 146.0	短冊形を呈する。完形。	硬質泥岩
41	打製石斧	長 10.7 幅 5.0 厚 2.8 重 157.0	短冊形を呈する。刃部を欠損する。	硬質泥岩
42	打製石斧	長 < 5.0 幅 3.8 厚 1.3 重 25.0	短冊形を呈すると思われる。基部を欠損する。	珉質頁岩
43	打製石斧	長 < 7.2 幅 5.3 厚 1.3 重 50.5	基部が丸味を持つ。刃部を欠損する。	粗粒安山岩 二次的に被熱
44	使用版のある石礮	長 6.9 幅 3.4 厚 0.8 重 19.5	縦長銅片を素材とする。スクレイパーか。完形。	粗粒安山岩
45	使用版のある石礮	長 6.0 幅 5.9 厚 1.0 重 40.0	両面に使用版。スクレイパーか。完形。	粗粒安山岩
46	磨製石斧	長 < 11.2 幅 5.3 厚 3.5 重 360.0	全面に製作時の擦痕が見受けられる。基部を欠損する。	安玄武岩
47	磨石	長 < 5.3 幅 7.2 厚 4.3 重 223.0	両面に磨面。磨面以外は敲打痕。約1/2を欠損する。	粗粒安山岩 二次的に被熱
48	台石か	長 < 11.7 幅 < 7.7 厚 4.7 重 526.0	凹み穴Aが片面に見受けられる。全面に敲打痕。破片。	粗粒安山岩 二次的に被熱
49	石皿か	長 < 22.1 幅 < 12.6 厚 6.1 重 1750.0	片面に磨面、両面に凹み穴Bが見受けられる。破片。	牛伏砂岩
50	多孔石	長 30.2 幅 25.0 厚 10.2 重 8650.0	両面に凹み穴Bが見受けられる。完形。	牛伏砂岩 二次的に被熱
51	多孔石	長 < 29.6 幅 32.1 厚 14.2 重 11500.0	両面に凹み穴Bが見受けられる。一部を欠損する。二次的に被熱する。	牛伏砂岩 如石に使用

天引C区103号住居出土遺物 (第127~130図, PL. 84・85)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴~底部	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	口径9.6。原体Lのより糸を全面に施す。	静仮式終末期
2	口縁部/残存	①良好 ②赤褐色 ③片岩を含む	口径(17.3)。口唇部は肥厚し、無文で下側に凹線を通らせる。胴上半部は原体R Lの単節斜縄文を施し、下部に幅広い竹管文を施らし、刻みを付した隆帯が垂下する。	静仮式終末期
3	胴部/残存	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒雲母粒を含む	口径(15.4)。頸部に隆帯を通らせたのち、原体Rのより糸を施す。	静仮式終末期
4	胴部/残存	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Rのより糸を施したのち、隆帯及び棒状工具による波線を横位に通らせる。	静仮式終末期
5	口縁部/残存	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	口径18.0。原体Lの細かなより糸を施したのち、棒状工具による波線で文様を描出する。二次的に被熱。	静仮式終末期

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	彫形・文様の特徴等	備考
6	口縁部片	①良好 ②褐色 ③片岩を多量に含む	隆帯によって区画し、棒状工具による沈線文及び刺突文を充満する。	勝飯式終末期
7	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を含む	口縁部が肥厚。口縁～胴部にかけて刻みを付した隆帯を垂下。胴部は半截竹管状工具による沈線が垂下する。	勝飯式終末期 内面灰化物付着
8	口縁部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	原体Lのより糸を施したのち、口縁に隆帯を貼付し、さらに隆帯に沿って棒状工具による沈線を施す。	勝飯式終末期
9	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	口唇部は内折し、沈線が通る。原体Lのより糸文を張す。12と同一個体。	勝飯式終末期
10	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を含む	原体Lのより糸文を施したのち、テラック状の2本1組の隆帯を貼付する。	勝飯式終末期
11	口縁部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	口縁に小突起。口縁部は隆帯によって文様を抽出したのち、棒状工具による沈線文及び刺突文。	勝飯式終末期
12	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を含む	口唇部は内折し、沈線が通る。原体Lのより糸文を張す。9と同一個体。	勝飯式終末期
13	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	隆帯を2本返らせ、筒状工具による刻みを施す。	勝飯式終末期
14	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③雲母粒を含む	口唇部が肥厚し、浅い沈線が通る。内外面に丹彩が一部残存する。	勝飯式終末期
15	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	刻みを付した隆帯で文様を抽出する。二次的に被熱。	勝飯式終末期
16	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を含む	口縁部の突起。棒状工具による沈線文や幅広い竹管文を施す。	勝飯式終末期
17	胴部片	①やや不具 ②鈍い褐色 ③泥を少量含む	隆帯と半截竹管状工具による沈線文。内面が割落。	勝飯式終末期
18	口縁～胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	原体Lのより糸文を施したのち、2本1組の隆帯で口縁部文様を抽出する。内面の一部及び外面の隆帯の一部が割落。	勝飯式終末期
19	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を含む	隆帯と口縁部は半截竹管状工具により文様を抽出。胴部は原体Lのより糸文。	勝飯式終末期
20	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を多量に含む	幅広い半截竹管状工具による平行沈線文及び刺突文が施される。	勝飯Ⅱ式 二次的に被熱
21	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③片岩を含む	刻みを付した隆帯及びベン先状の刺突文及び幅広い竹管文を施す。	勝飯Ⅱ式 覆土
22	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒と砂を多量含む	刻みを施した隆帯と沈線及びベン先状の刺突で文様を抽出する。	勝飯式終末期
23	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	矢羽根状の刻みを付した隆帯が通る。二次的に被熱。	勝飯式終末期
24	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	半截竹管状工具による沈線で区画。区画内は同一工具による竹管文。	勝飯Ⅱ式 二次的に被熱
25	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③片岩を少、雲母粒多量含む	高い隆帯を返らせ、幅広い竹管文を施す。	勝飯Ⅱ式
26	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③石英を含む	ベン先状の刺突文。	勝飯Ⅱ式 内面が割落
27	底部	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を多量に含む	底径R.0。原体Lのより糸を施す。より糸文は左半分を固定。	勝飯式終末期
28	底部	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	底径R.0。原体Lのより糸を施す。より糸文は左半分を固定。	勝飯式終末期

石 器

(単位: cm・g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
29	石鏃	長 < 2.3 幅 < 1.5 厚 0.4 重 0.9	無茎で基部の凹形が強い。先端と返しを欠損する。	黒曜石
30	加工痕のある石礫	長 < 1.3 幅 < 1.6 厚 0.3 重 0.6	両面に加工痕が見受けられる。一部を欠損する。	黒曜石
31	石部	長 4.5 幅 < 6.0 厚 0.9 重 20.5	横長削片を素材とする。体部が横長の短冊形を呈する。一部を欠損する。	珪質片岩
32	打製石斧	長 13.1 幅 5.3 厚 2.8 重 147.5	楔形を呈するが基部が極端に細い。刃部に使用痕。完形。	硬質片岩
33	加工痕のある石礫	長 8.5 幅 4.2 厚 1.5 重 60.0	縦長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質片岩 覆土
34	打製石斧	長 < 11.3 幅 3.6 厚 1.1 重 56.0	短冊形と思われるが幅が細い。基部を欠損する。	雲母石英片岩

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
35	打製石斧	長 <10.1> 幅 <3.9> 厚 2.3 重 87.0	基部から刃部に向って開く形状。刃部を欠損する。	硬質泥岩
36	使用痕のある石鏃	長 9.5 幅 6.6 厚 1.4 重 75.0	縦長剣片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩
37	打製石斧	長 <8.4> 幅 4.2 厚 1.1 重 53.0	短冊形を呈すると思われる。刃部を欠損する。	緑色片岩
38	打製石斧	長 13.4 幅 4.9 厚 2.4 重 171.0	全面に丁寧な調整が施される。完形。	硬質泥岩
39	加工痕のある石鏃	長 5.0 幅 <7.9> 厚 1.9 重 65.0	両面に加工痕が見受けられる。一部を欠損する。	硬質泥岩
40	打製石斧	長 <5.2> 幅 4.0 厚 1.3 重 31.0	短冊形を呈すると思われる。刃部を欠損する。	硬質泥岩
41	打製石斧	長 <7.6> 幅 4.9 厚 1.0 重 59.0	短冊形を呈すると思われる。基部を欠損する。	緑色片岩
42	打製石斧	長 <11.1> 幅 4.3 厚 1.8 重 116.0	短冊形を呈すると思われる。刃部を欠損する。	雲母石英片岩
43	加工痕のある石鏃	長 6.3 幅 8.0 厚 1.7 重 79.0	両面に加工痕が見受けられる。完形。	珪質頁岩
44	加工痕のある石鏃	長 5.6 幅 5.7 厚 1.4 重 50.5	両面に加工痕が見受けられる。完形。	硬質泥岩
45	使用痕のある石鏃	長 8.8 幅 2.6 厚 0.8 重 23.0	縦長剣片を素材とする。スクレイパーか。完形。	珪質頁岩
46	磨石	長 14.4 幅 8.7 厚 5.3 重 1100.0	両面に磨面で縁辺を中心に敲打痕が見受けられる。完形。	粗粒安山岩
47	凹み石	長 <10.5> 幅 <2.6> 厚 2.5 重 120.6	両面及び側面に凹み穴Aが見受けられる。破片。	緑色片岩
48	台石か	長 <15.5> 幅 <12.9> 厚 4.4 重 1500.0	片面に凹み穴Bが見受けられ、両面に磨面と敲打痕がある。破片。	粗粒安山岩

天引C区104号住居出土遺物 (第131図、PL. 85)

土器		(単位: cm)		
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③黒砂を含む	口縁に縦位の隆帯を貼付する。部分的に半截竹管状工具による沈線を施す。	勝飯式終末期 覆土
2	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を少量含む	波状口縁。波頂部から刻みを施した隆帯が垂下。	勝飯式終末期 が覆土
3	胴部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を少量含む	刻みを施した隆帯及び沈線。地文は原形R Lの単節的縄文。	勝飯式終末期 が覆土
4	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を少量含む	原形不明のより糸文を施す。	勝飯式終末期 二次的に被熱
5	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③黒雲母粒を少量含む	原形Lのより糸文を施す。	勝飯式終末期 が覆土

石器		(単位: cm・g)		
番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
6	石鏃	長 2.8 幅 1.5 厚 0.4 重 2.2	縁辺を中心に細かな刻線を施す。完形。	頁岩 P 2の覆土
7	石皿	長 40.5 幅 <22.9> 厚 8.3 重 11850.0	片面が磨面。両面に凹み穴Bを有し、縁辺を中心に敲打痕が見受けられる。一部を欠損する。	緑色片岩 が石

天引C区118号住居出土遺物 (第133~135図、PL. 85・86・112)

土器		(単位: cm)		
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部欠損	①良好 ②鈍い赤褐色 ③黒雲母粒を含む	口徑24.9、底徑9.8、高さ37.4、背割り状の沈線と刻みを付した隆帯で主文様を描出する。棒状工具によって短沈線や尚巻文及び三叉文を充満する。文様の単位は4単位。胴部文様の1単位にのみ(実面真正面の単位の裏側にあたる)部分的に原形Lのより糸が残存する。	勝飯式終末期 埋壊
2	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③砂を含む	波状口縁。棒状工具による沈線を施す。波頂部から背割り状の沈線と刻みを施した隆帯を垂下。	勝飯式終末期

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
3 深鉢	胴部片	①良好 ②暗赤褐色 ③石英を少量含む	原体Rのより糸を施す。	静寂式終末期 炭化物付着
4 深鉢	胴部片	①良好 ②褐色 ③砂を含む	矢羽状の刻みを施した條帯を巡らす。條帯に沿って沈線が通る。	静寂式終末期 覆土

石 器

(単位: cm・g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
5	多孔石	長 22.6 幅 41.0 厚 10.4 重 5400.0	両面に凹み穴Aが見受けられる。一部を欠損する。	粗粒安山岩 伊石 二次的に被熱
6	石皿	長 28.7 幅 15.3 厚 5.0 重 4000.0	裏面に凹み穴Bが見受けられる。縁辺に敲打痕。約1/2を欠損する。	緑色片岩 伊石 二次的に被熱
7	石皿	長 35.6 幅 13.5 厚 5.2 重 4100.0	表面に1ヶ所、裏面に多数の凹み穴Bが見受けられる。約1/2を欠損する。	緑色片岩 伊石 二次的に被熱

天引C区125号住居出土遺物 (第136・137図、PL 86)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Rのより糸を施したのち、2本の條帯により文様を編出する。	静寂式終末期
2 深鉢	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を少量含む	條帯によって文様を編出する。区画内を部分的に沈線を施す。	静寂式終末期
3 深鉢	口縁部片	①やや不良 ②暗褐色 ③砂を多量に含む	頸部の屈曲部に低い條帯を巡らせたのち、原体Rのより糸を施す。	静寂式終末期
4 深鉢	口縁部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を少量含む	口唇部に刻みを付す。	静寂式終末期
5 深鉢	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③砂を少量含む	原体Lのより糸を施す。	静寂式終末期
6 深鉢	底部(残存)	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	底径(9.0)。無文の底部片。	静寂式終末期

石 器

(単位: cm・g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
7	打製石斧	長 9.6 幅 5.0 厚 1.9 重 70.0	短冊形か。刃部が凸刃状を呈する。完形。	硬質泥岩
8	使用痕のある石器	長 4.2 幅 6.8 厚 1.7 重 39.0	横長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	珪質頁岩
9	加工痕のある石器	長 5.7 幅 5.8 厚 2.0 重 60.0	縦長削片を素材とし、方形を呈する。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩
10	石皿	長 21.9 幅 14.3 厚 2.5 重 1900.0	裏面に凹み穴Bが見受けられる。縁辺を中心に敲打痕。完形。	緑色片岩

天引C区127号住居出土遺物 (第139図、PL 88)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を少量含む	棒状工具による沈線文。	静寂式終末期 二次的に被熱
2 深鉢	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③片岩を含む	條帯に沿って幅広い竹管文を施す。	静寂式
3 深鉢	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ④雲母粒を多量に含む	幅広い竹管文を施した條帯が巡り垂下する。條帯下側には平行竹管状工具による沈線が沿う。	静寂式終末期
4 深鉢	胴部片	①良好 ②褐色 ③砂を少量含む	原体R L Rの複節斜縄文。	静寂式終末期 二次的に被熱
5 深鉢	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を少量含む	原体R Lの単節斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による沈線を施す。	静寂式終末期
6 深鉢	底部(残存)	①良好 ②褐色 ④黒雲母粒を含む	底径(8.0)。原体Lのより糸を施す。	静寂式終末期 覆土

III 縄文時代の遺構と遺物

石 器

(単位: cm・g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
7	使用板のある石器	長 6.6 幅 6.9 厚 1.4 重 50.5	両面に使用痕。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩
8	使用板のある石器	長 7.4 幅 6.0 厚 0.7 重 31.0	縦長剥片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩

天引C区129号住居出土遺物 (第140回, PL 86)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	剥部片	①良好 ②褐色 ③金雲母粒を含む	断面三角の隆帯を横位に廻らしたのち、楕円区画文を提出する。幅広の刻みと、棒歯状工具による条線を横位に廻らす。	阿玉台日式50号住と接合
2	口縁部片	①良好 ②褐色 ③雲母粒を含む	口縁及び剥部に隆帯を廻らせる。幅広の竹管文を施す。	勝版II式
3	剥部片	①良好 ②赤褐色 ③砂を含む	半載竹管状工具による縦位の深い沈線が施される。	勝版II式覆土
4	剥部片	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	隆帯に沿って半載竹管状工具による刺突文。区画内はベン先状の刺突文。	勝版II式
5	剥部片	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を少量含む	隆帯によって区画され、隆帯上及び隆帯に沿って幅広の竹管文が施される。区画内にはベン先状の刺突文と幅広の竹管文。	勝版II式
6	剥部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を少量含む	断面三角の隆帯が3本重下する。隆帯に沿ってベン先状の刺突文や半載竹管状工具による爪形文が施される。	勝版II式
7	剥部片	①良好 ②褐色 ③礫を少量含む	断面三角の隆帯が重下する。半載竹管状工具による沈線が横位に施される。	勝版II式

石 器

(単位: cm・g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
8	石鏃	長 2.0 幅 1.5 厚 0.4 重 0.7	無茎で基部の凹形が強い。完形。	黒曜石
9	打製石斧	長 12.3 幅 5.0 厚 2.7 重 192.5	短冊形を呈する。刃部が凸刃状。完形。	硬質泥岩
10	打製石斧	長 <10.0 幅 4.0 厚 2.5 重 126.0	短冊形を呈すると思われる。刃部を欠損する。	黒色片岩
11	加工板のある石器	長 <5.8 幅 2.9 厚 1.3 重 25.0	両面に加工痕が見受けられる。一部を欠損する。	緑色片岩

天引C区134号住居出土遺物 (第141回, PL 88)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	剥～底部	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	底径(7.6)。原形R Lの単脚刺縄文を施す。	諸橋式 伊体土器
2	剥部片	①良好 ②鈍い黄色 ③礫を少量含む	底径0段多条R Lの単脚刺縄文を施す。	諸橋式

天引C区138号住居出土遺物 (第143・144回, PL 87)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂粒を含む	刻みを付した隆帯を貼付する。区画内の一部に竹管文。	勝版式終末期
2	剥部片	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を少量含む	低い隆帯で文様を提出する。	勝版式終末期
3	頸部片	①良好 ②褐色 ③雲母粒を含む	頸部に鎖状の隆帯を廻らせる。剥部は原形Lのより糸を施したのち、背割り状沈線及び刺突文を付した隆帯を貼付する。	勝版式終末期
4	剥部片	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を少量含む	原形Lのより糸を施したのち、鎖状の隆帯を斜めに系下。	勝版式終末期 二次的に被熱
5	頸部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線文。地文は原形Lのより糸。	勝版式終末期
6	剥部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	環状の隆帯を貼付する。隆帯に沿って半載竹管状工具による沈線文。原形不明の縄文を施す。	勝版式終末期
7	剥～底部片	①やや不良 ②赤褐色 ③石灰と黒雲母粒少量含む	原形Lのより糸を施す。外面割落。	勝版式終末期 内面炭化物付着

石器

(単位: cm・g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
8	磨製石斧	長 (14.5) 幅 5.2 厚 4.1 重 435.0	丁寧な研磨がなされている。一部を欠損する。	変玄武岩 二次的に被熱
9	多孔石	長 (8.9) 幅 (9.0) 厚 5.3 重 658.0	両面に凹み穴目が見受けられる。破片。	牛伏砂岩 二次的に被熱
10	多孔石	長 39.7 幅 (20.5) 厚 7.6 重 11000.0	両面に凹み穴目が見受けられる。一部を欠損する。	雲母石英片岩

天引C区144号住居出土遺物 (第146・148図、PL 87・88)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁→胴部 残存	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	口径(42.0)。刻みを付した隆帯や鎖状の隆帯で文様を描出する。区画内は棒状工具による沈線で文様を描出する。地文は原体Lのより糸。	勝飯式終末期 103径と接合
2	胴→底部	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	底径6.0。棒状工具による沈線で文様を描出する。文様の単位は不明。外面が摩耗する。	勝飯式終末期
3	胴部(残存)	①良好 ②明褐色 ③砂粒を含む	隆帯によって主の文様を描出する。隆帯に沿って細目の竹管文を施し区画内には棒状工具による沈線文を描出する。	勝飯Ⅱ式埋蔵
4	把手	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	把手の一部。棒状工具による沈線を施す。	勝飯式終末期
5	口縁部片	①やや不良 ②赤褐色 ③黒雲母粒を少量含む	棒状工具による沈線が3本返る。地文はより糸文。二次的に被熱。	勝飯式終末期
6	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による沈線文。地文は原体R Lの単色斜縄文。	勝飯式終末期
7	口縁部片	①良好 ②褐色 ③砂を含む	隆帯が2本返下。隆帯に沈線が沿う。	勝飯式終末期 P 4覆土
8	胴部片	①やや不良 ②褐色 ③黒雲母粒を少量含む	隆帯が直下。地文はLのより糸文。	勝飯式終末期
9	胴部片	①やや不良 ②赤褐色 ③片岩と黒雲母粒少量含む	原体Lのより糸文。	勝飯式終末期 外面が剥落

石器

(単位: cm・g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
10	石鏃	長 (2.2) 幅 1.7 厚 0.6 重 2.5	無茎で平基に近く比較的大形。先端を欠損する。	速貫頁岩
11	石鏃	長 (1.8) 幅 (1.3) 厚 0.3 重 0.4	無茎で基部の凸形が狭く、返しは長さが左右で異なる。先端を欠損する。	チャート
12	石鏃	長 (1.8) 幅 (1.3) 厚 0.6 重 0.7	無茎で基部の凸形が強い。返しを欠損する。	黒曜石
13	石鏃か	長 5.3 幅 7.8 厚 1.0 重 37.0	横長割片を素材とする。つまみ部の調整が粗い。完形。	珪質頁岩
14	加工痕のある石器	長 (1.8) 幅 (1.3) 厚 0.7 重 1.4	両面に加工痕が見受けられる。大半を欠損する。	黒曜石
15	打製石斧	長 (10.8) 幅 6.5 厚 2.8 重 231.0	短冊形を呈すると思われる。刃部を欠損する。	粗粒安山岩
16	凹み石	長 14.5 幅 9.3 厚 4.4 重 1100.0	両面に磨面と凹みAが見受けられる。磨面以外は敲打痕。完形。	粗粒安山岩
17	凹み石	長 (6.1) 幅 7.9 厚 2.2 重 143.0	片面に凹み穴Aが見受けられる。約1/2を欠損する。	牛伏砂岩 二次的に被熱
18	台石か	長 34.7 幅 8.3 厚 5.2 重 2900.0	縁辺及び中央部に敲打痕。凹み穴目が見受けられる。完形。	緑色片岩
19	磨石か	長 (24.7) 幅 7.6 厚 4.3 重 1310.0	片面に凹み穴目が見受けられる。底面に磨面。縁辺を中心に敲打痕。ほぼ完形。	雲母石英片岩
20	台石か	長 16.0 幅 12.6 厚 9.5 重 2950.0	敲打痕が見受けられる。完形。	粗粒安山岩

III 縄文時代の遺構と遺物

天引C区147号住居出土遺物 (第149図、PL. 88)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	隆帯が通り区画。区画内は幅広い竹管文と棒状工具による沈線。	勝坂Ⅱ式
2	胴部片	①良好 ②褐色 ③礫を少量含む	単部斜縄文を施す。原形不明。	勝坂Ⅱ式 覆土

天引C区150号住居出土遺物 (第150図、PL. 88)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を含む	竹管文を四端に付した幅広い隆帯が2本懸垂する。さらに棒状工具による沈線文や、竹管文を充塞する。	勝坂Ⅱ式 外面炭化物付着
2	口縁部片	①やや不良 ②鈍い褐色 ③礫を少量含む	隆帯による区画ののち、区画内にペン先状工具による刺突文を施す。	勝坂Ⅱ式 二次的に被熱
3	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を含む	幅広い隆帯による区画分。隆帯に沿って半軟竹管状工具による平行沈線及び幅広い竹管文が施される。	勝坂Ⅱ式
4	底部	①良好 ②明褐色 ③金雲母粒を多量に含む	底径13.0。無文の浅鉢。	阿玉台Ⅱ式
5	突起の一部	①良好 ②褐色 ③石英を含む	深鉢の突起の一部か。原形R.Lの単部斜縄文を施したのち、棒状工具による沈線を施す。	勝坂Ⅱ式
6	底部	①良好 ②褐色 ③砂粒を含む	隆帯を貼付したのち、幅広い竹管文を施す。	勝坂Ⅱ式

石 器

(単位: cm・g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
7	打製石斧	長 14.7 幅 5.7 厚 2.8 重 308.0	矩形形を呈し、石器とはほぼ同じ大きさを有する礫を使用。凹み穴が見受けられる。完形。	緑色片岩 二次的に被熱

3 埋 壙

埋壙については、調査時においては全て土坑として扱ったため、整理時に埋壙として認定したものを土坑から選んで掲載した。そのために、個々の埋壙には新たな番号は付けずに、調査時の土坑番号をそのまま踏襲して末尾に(埋壙)と記載している。これは、各全体図においても同様である。

調査区内においては12基の埋壙が検出されている。時期別の内訳は、黒浜式期2基、勝板式終末期3基、加曾利E3式期2基、加曾利E4式期3基、称名寺II式期1基、堀之内2式期1基で、白倉A区を除く地区で検出されている。埋壙が検出された地点は、埋壙と同土器型式期の住居や土坑が近接して検出されている例が多く、このような場合、一連の

居住活動の中に、埋壙を位置付けることができるのではなかろうか。一方、加曾利E3式期の白倉C区126号土坑(埋壙)は近接して同土器型式期の遺構が検出されておらず興味深い。また、住居が検出されていない堀之内2式期において、同期の埋壙(白倉B区305号土坑)と土坑が近接して検出されている点も興味深いあらわれかたといえよう。

土器の検出状況および遺存状態に注目すると、完形にちかい状況で検出されたものは1基(白倉B区290号土坑)のみで、多くが口縁部あるいは底部を欠損している。また、入子状に2個体の土器が検出された例(白倉B区214号土坑)や、土器の開口部に大形の礫を配した例(白倉B区261・262号土坑)などがあつた。

第4表 埋壙一覧表

(単位: m)

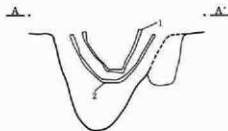
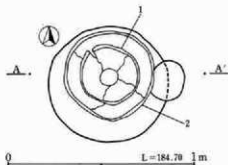
地 区	土坑(埋壙)番号	時 期	長軸 × 短軸 × 深さ	グリッド
白倉B区	214号土坑(埋壙)	加曾利E4式期	0.61 × 0.60 × 0.50	28-39
白倉B区	237号土坑(埋壙)	称名寺II式期	0.45 × 0.42 × 0.27	38-44
白倉B区	261号土坑(埋壙)	加曾利E4式期	2.23 × 1.45 × 0.40	32-43
白倉B区	262号土坑(埋壙)	加曾利E4式期	1.50 × 1.30 × 0.48	32-43
白倉B区	290号土坑(埋壙)	加曾利E3式期	0.66 × 0.51 × 0.38	34-43
白倉B区	305号土坑(埋壙)	堀之内2式期	0.41 × 0.41 × 0.22	38-50
白倉C区	14号土坑(埋壙)	黒浜式期	0.73 × 0.59 × 0.15	35-72
白倉C区	126号土坑(埋壙)	加曾利E3式期	0.62 × 0.61 × 0.25	36-63
白倉C区	128号土坑(埋壙)	勝板式終末期	0.92 × 0.86 × 0.24	35-63
白倉C区	230号土坑(埋壙)	黒浜式期	0.36 × 0.35 × 0.02	32-63
天引C区	99号土坑(埋壙)	勝板式終末期	0.38 × <0.15> × 0.08	44-41
天引C区	145号土坑(埋壙)	勝板式終末期	0.50 × 0.45 × 0.29	47-47

白倉B区214号土坑(埋壙)

位置 28-39 写真 PL45・97

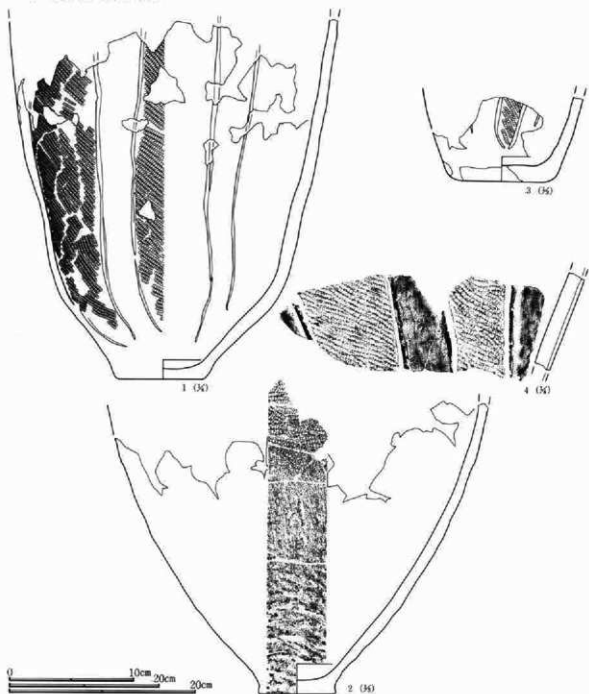
口縁部~胴上半部を欠損する加曾利E4式の浅鉢(2)と深鉢(1)が入子状で検出された。2の内側に1

が同心円状に埋設されており、1の中から3と4が出土している。埋没土はローム質の土壌で、掘り方は平面においては2の一回り大きな円形を呈しているが、深さは2の倍近くであった。東側を後世の柱穴状の攪乱(時期不明)によって一部破壊される。



第151図 白倉B区214号土坑(埋壙)

III 縄文時代の遺構と遺物



第152図 白倉B区214号土坑(埋壘)出土遺物

白倉B区214号土坑(埋壘)出土遺物観察表(PL 97)

(単位: cm)

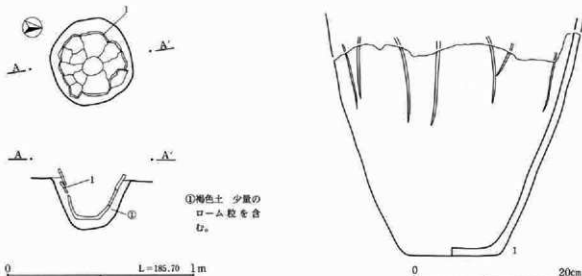
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴~底部	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による沈線を下下させ、原体LRの単節斜縄文を交互に充塞する。底径9.0。外面に凹凸物付着	加曾利E 4式 地文は左半分を固化
2	胴~底部	①良好 ②褐色 ③片岩を多量に含む	胴上部に原体LRの単節斜縄文を施したのち、胴下部に櫛歯状工具による染線を通す。底径9.8。外面に凹凸物付着	加曾利E 4式 地文は中央部を固化
3	胴~底部	①良好 ②褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線が痛下したのち、原体LRの単節斜縄文を施す。底径(7.0)	加曾利E 4式 覆土
4	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を少量含む	障帯と棒状工具による沈線を下下、原体LRの単節斜縄文。	加曾利E 4式 覆土

白倉B区237号土坑(埋壙)

位置 38-44 写真 P L 46・113

口縁部へ胴上半部を欠損する称名寺Ⅱ式の深鉢が埋設されていた。埋壙内部及び掘り方部分からは他の遺物は出土していない。埋壙内部の埋設土は暗褐色

色土で、特別な混入物は確認されていない。埋壙の掘り方は深鉢より一回り大きい程度である。本遺構から南々西に約40m離れた地点で同時期の住居(91号住居)が検出されている。



第153図 白倉B区237号土坑(埋壙)と出土遺物

白倉B区237号土坑(埋壙)出土遺物観察表(PL. 113)

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴～底部 深鉢	①良好 ②赤褐色 ③雜を少し含む	棒状工具による梳織文を無す。文様の単位は不明。 底径12.6。	称名寺Ⅱ式

白倉B区261・262号土坑(埋壙)

位置 32-43 写真 P L 48・101

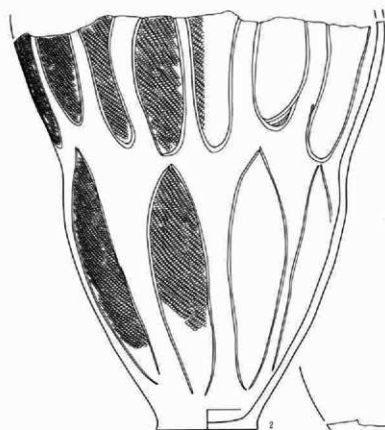
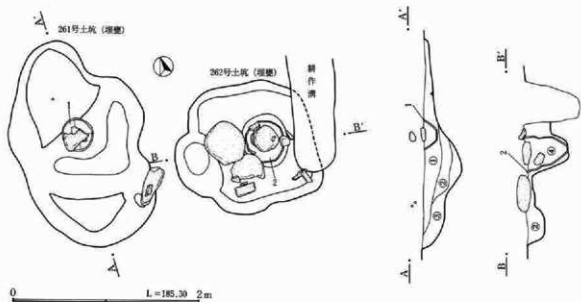
この2つの埋壙は別遺構として調査したが、互いに接するように検出されていることや、さらに後述するように多くの共通点が見られることから2つの遺構を併せて記述することにした。

261号土坑(埋壙)は、262号土坑の26cm東側で検出された。遺構の平面形状及び断面形状は不定形である。埋壙(1)は、胴上半部を欠損する加曾利E4式の深鉢で、遺構のほぼ中心で検出された。埋壙を覆うように比較的大形の結晶片岩が2点検出されている。また、遺構の南東部分においても板状の結晶片岩が検出されている。他の出土遺物としては、埋壙確認面で須恵器の破片が1点出土している。また、埋壙に伴う掘り込みは確認できなかった。

262号土坑(埋壙)は261号土坑(埋壙)の東側で検出された。遺構の平面形状は東側を耕作溝によって破壊されるものの、ほぼ隅丸方形を呈するが、断面形状は不定形である。埋壙(2)は口縁部を欠損する加曾利E4式の深鉢で、遺構のほぼ中心で検出され、独立した掘り込みが断面形状から確認できる。261号土坑と同様に、埋壙を覆うように配置され、埋壙を中心に複数の砂岩や結晶片岩が配されている。

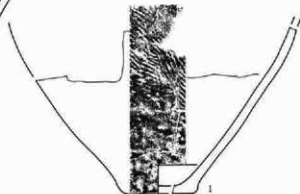
以上2つの土坑(埋壙)について述べてきたが、埋壙及び平面的に配された溝が存在することなどから、本来は一つの配石遺構であった可能性が強く、不定形な土坑は、深さが浅く敷石住居の掘り方に近似する。以上の所見から須恵器に代表される後世に破壊された、敷石住居である可能性が指摘できよう。2つの埋壙を結ぶ方位はN-70°-Wである。

III 縄文時代の遺構と遺物



- 埋 設 土 層
- ①褐色土 白色粒子とローム粒子を少し含む。
 - ②褐色土 ローム粒子は①層より多い。ロームブロックを少し含む。
 - ③褐色土 ロームブロックは②層よりかなり多い。黒色土のブロックを少し含む。
 - ④暗茶褐色土 白色粒子とローム粒子を少し含む。

0 20cm



第154図 白倉B区261・262号土坑(埋塞)と出土遺物

白倉B区261号・262号土坑(埋壙)出土遺物観察表(PL 101)

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴~底部	①良好 ②黄褐色	底径7.6、原形Lの無筋斜縄文を施す。	加曾利E 4式
深鉢		③片岩を含む	縄文施文は中央部を固化。	261号土坑
2	口縁部欠	①良好 ②鈍い褐色	底径10.8、棒状工具による沈線でU字、逆U字を抽出し、原形LRの半筋斜縄文を施す。胴上半部は16単位、胴下半部は9単位の文様構成。縄文施文は左半分を固化。	加曾利E 4式
深鉢	割	③片岩を含む		262号土坑

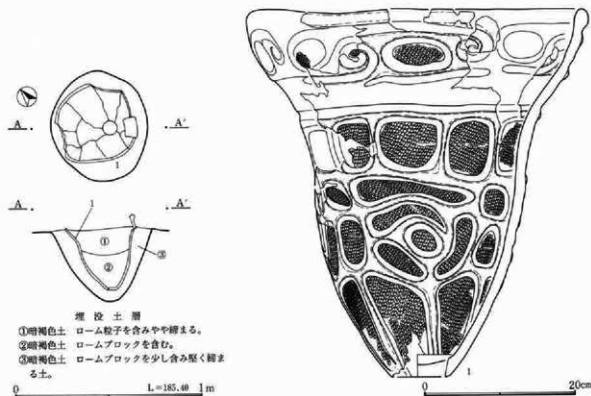
白倉B区290号土坑(埋壙)

位置 34-43 写真 PL50・51・102

口縁の一部を欠損する加曾利E 3式の深鉢(1)がほぼ正位で埋設されていた。土器は北側に僅かに傾けて埋設されており、そのために後世の破壊によって口縁の一部が欠損したと思われる。しかしながら、土器の遺存状態が悪く、検出時の状態のようには復元できなかった。

埋壙中の埋没土は、暗褐色土を主体としてローム粒子及びロームブロックの混入が観察できたが、他に特徴的なものは観察されず、埋壙の中から遺物も出土していない。

掘り方は、埋壙よりも一回り大きく掘られている。平面形状は、長軸0.56m、短軸0.51mのほぼ円形を呈し、深さは0.38mであった。



第155図 白倉B区290号土坑(埋壙)と出土遺物

白倉B区290号土坑(埋壙)出土遺物観察表(PL 102)

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴	①良好 ②鈍い褐色	口径44.0、底径(8.0)、高さ48.7。低い股帯及び隆帯に沿った凹線によって文様を抽出のち、原形LRの複筋斜縄文を施す。	加曾利E 3式
深鉢	胴欠欠割	③片岩を含む	文様の単位は4単位。	外面炭化物付着

III 縄文時代の遺構と遺物

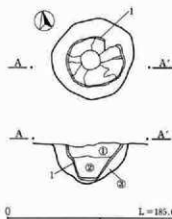
白倉B区305号土坑(埋壔)

位置 38-50 写真 P L 51・102

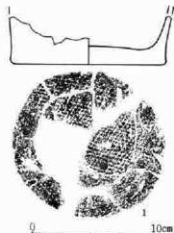
胴上半部を欠損する壔之内2式の深鉢(1)がほぼ正位で埋設されていた。しかしながら、土器の遺存状態が悪く、検出時の状態のようには復元できず、特に胴部については殆ど形をなまなかった。埋壔以

外では、掘り方からフレイクが1点出土しただけであった。

掘り方は、埋壔よりも一回り大きく掘られており、平面形状は、直径0.41mのほぼ円形を呈し、深さは0.22mであった。



- 埋壔土層
 ①暗褐色土 白色粒子と炭化粒子を多く含む。
 ②褐色土 ローム粒子を多く炭化粒子を少し含む。
 ③暗褐色土 白色粒子と炭化粒子を多く含む。



第156図 白倉B区305号土坑(埋壔)と出土遺物

白倉B区305号土坑(埋壔)出土遺物観察表

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	深鉢	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	底径12.0、底面の一部に網代紋。	壔之内2式

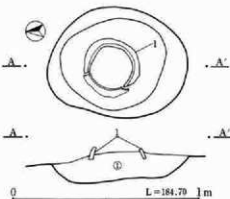
白倉C区14号土坑(埋壔)

位置 35-72 写真 P L 52・103

口縁部及び胴下半部を欠損する黒浜式の深鉢(1)

が埋設されていた。土器の遺存状態が悪く、検出時の状態のようには復元できなかった。埋壔以外の遺物は出土していない。

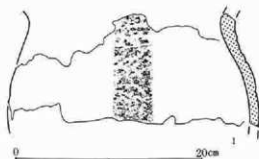
掘り方の平面形状は、長軸0.73m、短軸0.59mのほぼ円形を呈し、深さは0.15mであった。



埋壔土層

①淡褐色土 B.P.粒子を含む。粘性が強い。

第157図 白倉C区14号土坑(埋壔)と出土遺物



白倉C区14号土坑(埋壔)出土遺物観察表(PL 103)

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	割部片残深鉢	①良好 ②暗褐色 ③繊維を多量に含む	器形不明の単節斜縄文を羽状に撫文。縄文脈文は中央部を脱化。	黒浜式 外面が一部剥落

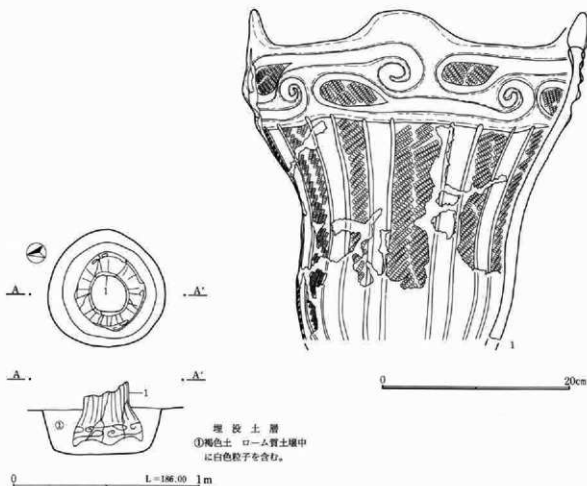
白倉C区126号土坑(埋壺)

位置 36-63 写真 PL.55・107

胴下半部を欠損する加曾利E3式の深鉢(1)が検出された。土器は逆位で僅かに北側に傾いて埋設されていた。埋壺は表土を除去した段階のII層中で確

認できたが、遺構の掘り込みが確認できたのは、埋壺確認面から15cm下がったIII層上面である。出土遺物は埋壺だけであった。

掘り方の平面形状は、長軸0.62m、短軸0.61mのほぼ円形を呈し、深さは0.25mであった。



第158図 白倉C区126号土坑(埋壺)と出土遺物

白倉C区126号土坑(埋壺)出土遺物観察表(PL. 107)

(単位: cm)

番号	部位	①構成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴 深鉢部	①良好 ②明黄褐色 ③片岩を含む	口径35.0。口縁部は低い隆帯と凹線による4単位の文様構成で同数の舌状突起を貼付する。胴部は棒状工具による沈線が垂下し、胴体RLの単節斜織文を交互に施す。胴部文様は10単位。	加曾利E3式

白倉C区128号土坑(埋壺)

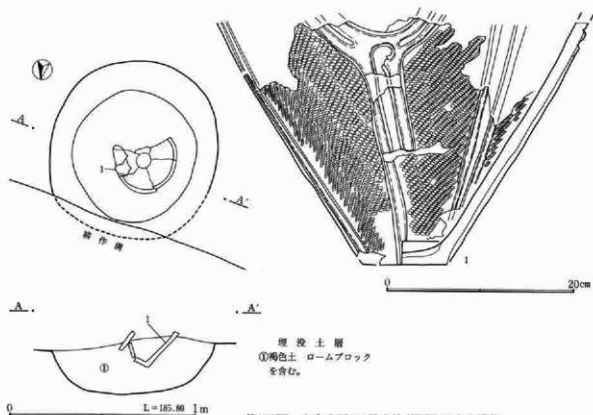
位置 35-63 写真 PL.55・107

胴上半部を欠損する勝坂式終末期の深鉢(1)が検出された。土器は正位で僅かに西側に傾いて埋設されていた。また、土器は胴下半部においても1/4程度を欠損するが、検出時において欠損部分近くの土器

が乱れていたことから、埋壺後に、時期不明ではあるが何らかの破壊を受けた可能性もある。なお、出土遺物は埋壺だけであった。

掘り方の平面形状は、一部を耕作溝によって破壊されるが、長軸(0.92)m、短軸0.86mのほぼ円形を呈し、深さは0.24mであった。

III 縄文時代の遺構と遺物



第159図 白倉C区128号土坑(埋壘)と出土遺物

白倉C区128号土坑(埋壘)出土遺物観察表(PL 107)

		単位: cm				
番号	部位	①焼成	②色調	③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴~底部	①良好	②鈍い褐色		高径9.0、筒唇に沿って文様を描出し、沈積を沿わせる。原形RLの単節斜縄文を施す。	勝式式終末期
	深鉢		③片岩を含む			

白倉C区235号土坑(埋壘)

位置 32-63 写真 PL59・109

口縁部を欠損する黒沢式の深鉢(1)が検出された。土器は逆位で埋設されていたが、本遺構は弥生時代終末の1号方形周溝墓の溝に破壊されているために

南側の土器の残存状況が悪かった。なお、出土遺物は埋壘だけであった。

掘り方の平面形状は、長軸0.36m、短軸0.35mのほぼ円形を呈し、深さは0.02mであった。



第160図 白倉C区235号土坑(埋壘)と出土遺物

白倉C区235号土坑(埋壺)出土遺物観察表(PL 109)

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴~底部	①良好 ②褐色	高径(7.2)。底径0段多条RL及びLR準筋斜織文を施す。	黒浜式
深鉢	瓦残存	③繊維を含む		

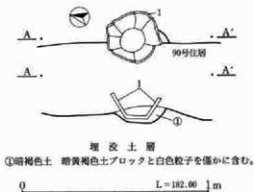
天引C区99号土坑(埋壺)

位置 44-41 写真 PL61・113

胴上半部を欠損する勝板式終末期の深鉢(1)が検出された。土器は正位で埋設されていたが、本遺構

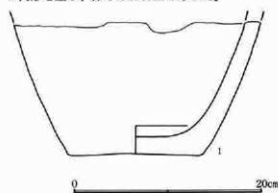
は弥生時代後期の90号住居に破壊されているために西側の土器の残存状況が若干悪かった。なお、出土遺物は埋壺だけであった。

確認できた掘り方の平面形状は、長軸0.38mのほぼ円形を呈し、深さは0.08mであった。



埋設土層

①暗褐色土 暗黄褐色土ブロックと白色粒子を僅かに含む。



第161図 天引C区99号土坑(埋壺)と出土遺物

天引C区99号土坑(埋壺)出土遺物観察表

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴~底部	①良好 ②鈍い褐色	高径14.2。無文。	勝板式終末期 二次的に被熱
深鉢		③片岩を含む		

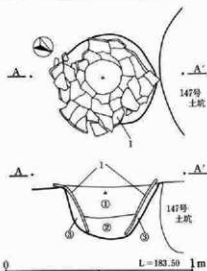
天引C区145号土坑(埋壺)

位置 47-47 写真 PL63・111

口縁部及び胴下半部を欠損する勝板式終末期の深鉢(1)が検出された。土器は正位で埋設されていた。本遺構は同時期の147号土坑に近接して検出されている。なお、出土遺物は埋壺以外には埋設土中からフレイクが1点出土している。

土器は二次的に被熱しており、残存部位の状態からも住居の炉に使用された炉体土器の可能性が指摘できるが、調査時における埋設土及び周囲の観察からは、むしろその可能性は弱いものと考えられる。

確認できた掘り方の平面形状は、長軸0.50m、短軸0.45mのほぼ円形を呈し、深さは0.29mであった。



埋設土層

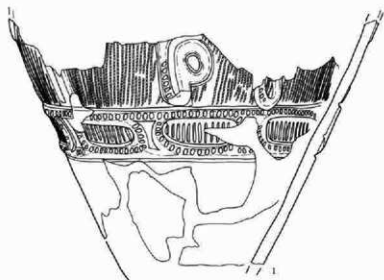
①にぶい黄褐色土 ローム粒子を僅かに含む。

②にぶい黄褐色土 ①層よりやや明るい。ローム粒子を多く含む。

③暗灰黄色土 ローム粒子をごく僅かに含む。

第162図 天引C区145号土坑(埋壺)

III 縄文時代の遺構と遺物



第163図 天引C区145号土坑(埋壺)出土遺物

0 20cm

天引C区145号土坑(埋壺)出土遺物観察表(PL 111)

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1 深鉢	胴部	①良好 ②鈍い赤褐色 ③黒雲母粒を含む	胴部上位は原形Lの燃り糸を施したのち、刻みを付した縞帯で文様を挿入。胴部中位は同様の縞帯による楕円区画文。胴部下位は無文。	腰板式終末期

4 土 坑

(1) はじめに

縄文時代の土坑は、合計290基検出されている。地区別及び時期別の内訳を第10表に示したので参照して欲しい。これらの土坑は、いくつかの空白地域を残しながらも広範囲で検出され、時期・形状・遺物の様相と出土状態はきわめてバラエティーに富んでいる。また、事実記載も全ての土坑について行えればよいのだが、紙面と時間的な制約から一部の土坑についてのみの記載となってしまった。そこで、土坑については原則として全ての遺構図と、土坑から遺物が出土している場合には、できる限り出土遺物を図化していくことにした。そして、調査時において遺物の位置を記録したものについては、遺物の図化にかかわらず遺構図中にその位置を示した。調査時において全遺物出土位置が記録できれば、土坑の廃絶から埋没過程、さらには土坑の用途を考える上で、基礎的な資料を呈示できた部分も多かったであろうと考えと残念でならない。近年、集落遺跡において個々の土坑の基礎的な資料呈示がないにも拘わらず「墓塚」「貯蔵穴」などと安易に解釈される傾向が少なからず見られるが、土坑の用途について論ずる以前にその土坑がどのようにして廃絶し埋没したのか、さらに、どのようなものを藁や貯蔵穴、さらには他の用途を認定していくのかといった議論を進める前提としてどのような資料が必要なのかを、理科学的な分析以前に、個々の土坑に則して資

料論的に考えねばならないと考える。今回の土坑調査は、そのような意味で不十分であったと反省するとともに、今回の報告では、どの土坑から、何が、どれだけ出土したかを、わかる範囲で示すことにした。事実記載のない土坑については、用意した図と表を参考にして欲しい。土坑の分布については第165図土坑全体図を、個々の土坑の位置については各地区別の全体図（第6～9図）を参照して載きたい。土坑形状の類型化は後述するが、各土坑の形状類型・時期・計測値・グリッド・重複及び他の遺構との接合関係は、第6～9表に示した。また、各土坑から出土した遺物については第11～14表を参照して欲しい。出土遺物の観察表は地区別番号順に350～388頁に収録した。

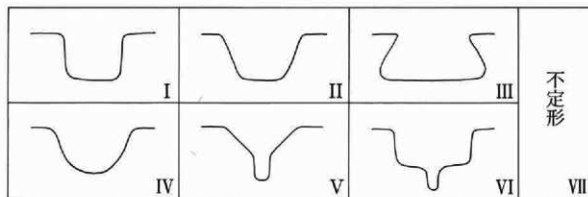
(2) 土坑形状の類型について

平面形状をA～Eの5類型に分類した。

- A 円形（長軸×1.2≤短軸）を呈するもの
- B 楕円形（長軸×1.2>短軸）を呈するもの
- C 隅丸方形を呈するもの
- D 隅丸長方形を呈するもの
- E 上記の分類に属さないもの

断面形状はI～VIIの7類型に分類し、第164図に模式図を示したので参照して欲しい。

上記の平面形状と断面形状を組み合わせると35通りの類型が存在することになるが、実際にはBⅢ・CⅢ・CⅤ・CⅦ・DⅢ・DⅤI・EⅢ・EⅤ類型は検出されていない。また、各類型が時期別にどのような割合で存在するかを第5表に示した。



第164図 土坑断面形状模式図

III 縄文時代の遺構と遺物

第5表 土坑時期別形状比率

黒沢式期 (66基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	32	50.0	I	9	13.7
				10	15.2
				2	3.0
				8	12.1
				3	4.6
B	6	9.3	II	4	6.1
				2	3.0
C	4	6.3	II	2	3.0
				2	3.0
D	2	3.1	I	1	1.5
				1	1.5
E	20	31.3	I	1	1.5
				2	3.0
				3	4.6
				14	21.2
位置不明	2	3.0			

陸磯式期 (3基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	3	100	I	1	33.3
				1	33.3
				1	33.4

陸板II式期 (6基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	4	66.7	I	2	33.3
				1	16.7
				1	16.7
				2	33.3
E	2	33.3			

陸板式終末期 (31基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	20	64.6	I	8	25.8
				3	9.7
				1	3.2
				5	16.2
				3	9.7
B	2	6.4	I	1	3.2
				1	3.2
C	1	3.2	II	1	3.2
D	1	3.2	II	1	3.2
E	7	22.6	I	2	6.5
				1	3.2
				1	3.2
				2	6.5

中期中葉 (7基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	3	42.9	I	2	28.6
				1	14.3
C	1	14.3	I	1	14.3
D	1	14.3	IV	1	14.3
E	2	28.5	V	2	28.5

加曾利E 3式期 (7基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	3	42.9	I	2	28.6
				1	14.3
B	1	14.3	I	1	14.3
D	1	14.3	II	1	14.3
E	2	28.5	V	2	28.5

加曾利E 4式期 (28基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	11	39.3	I	2	7.1
				4	14.3
				4	14.3
				1	3.6
				1	3.6
B	2	7.2	V	1	3.6
				1	3.6
C	1	3.6	V	1	3.6
D	4	14.3	I	2	7.1
				1	3.6
				1	3.6
E	10	35.6	H	1	3.6
				3	10.7
				6	21.3

称名寺I式期 (11基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	5	55.6	I	3	27.3
				1	9.1
				1	9.1
B	2	22.2	V	1	9.1
				1	9.1
C	1	11.1	I	1	9.1
E	1	11.1	V	1	9.1
位置不明	2	18.1			

称名寺II式期 (8基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	5	62.5	I	3	37.5
				1	12.5
				1	12.5
B	1	12.5	IV	1	12.5
D	1	12.5	II	1	12.5
E	1	12.5	V	1	12.5

堀之内1式期 (7基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	5	71.4	I	1	14.3
				1	14.3
				1	14.3
				2	28.5
D	1	14.3	I	1	14.3
E	1	14.3	V	1	14.3

堀之内2式期 (13基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	9	69.2	I	3	23.1
				2	15.3
				3	23.1
				1	7.7
				1	7.7
E	3	23.1	V	3	23.1

堀之内式期 (9基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	4	44.5	II	1	11.1
				3	33.4
				2	22.2
B	3	33.3	V	1	11.1
D	1	11.1	I	1	11.1
E	1	11.1	V	1	11.1

後期前半 (20基)					
平面	数	%	断面	数	%
A	14	73.7	I	4	20.0
				3	15.0
				3	15.0
				2	5.0
				1	5.0
				1	5.0
D	1	5.3	I	1	5.0
E	4	21.0	IV	1	5.0
				3	15.0
位置不明	1	5.0			



第165図 縄文時代土坑全体図

第6表 白倉A区土坑一覧表

(単位: m)

番号	時 期	図	PL	グリッド	長軸 × 短軸 × 深さ	形状	重複及び他の遺構との接合関係等
70	称名寺1式期	166	34	35-27	0.96 × 0.80 × 0.75	C I	110号住居1と接合

第7表 白倉B区土坑一覧表

(単位: m)

番号	時 期	図	PL	グリッド	長軸 × 短軸 × 深さ	形状	重複及び他の遺構との接合関係等
2	不 明	229・247	34	30-36	1.43 × 1.29 × 0.63	A I	
6	堀之内2式期	167・168	34・89	26-44	1.39 × 1.50 × 0.48	A III	7号溝(新)
10	不 明	169	35・112	26-43	(1.96) × 1.44 × 0.25	D II	9号土坑(新)、11号土坑(新)
11	不 明	229・247	35・112	26-43	1.06 × 0.74 × 0.27	E IV	10号土坑(旧)
13	加曾利E4式期	230・247	35・89	27-47	3.69 × 2.41 × 1.33	E V	12号土坑(新)
15	加曾利E4式期	230・247	35	28-49	3.28 × 1.08 × 0.42	E VII	
18	堀之内1式期	229	35	27-56	1.39 × 1.29 × 0.47	A IV	
36	諸磯b(新)式期	229・247	35・89	28-36	1.15 × 1.15 × 0.51	A I	
41	堀之内1式期	231・247	35	25-40	2.10 × (1.67) × 0.11	D I	
49	加曾利E3式期	229・247	35	25-43	0.97 × 0.89 × 0.59	A II	
50	称名寺II式期	231	36	26-43	0.91 × 0.72 × 0.41	B I	
53	堀之内式期	231・247	36・89	25-42	2.01 × 1.34 × 0.43	B V	54号土坑(旧)
54	不 明	232	36	26-42	(1.71) × (1.49) × 0.34	E VII	53号土坑(新)
55	後期前半	231	36	27-41	0.73 × (0.65) × 0.34	A IV	
57	堀之内2式期	170	36・89	28-41	1.65 × 1.67 × 0.50	A III	
58	堀之内2式期	171	36・89	28-40	1.80 × 1.65 × 0.46	A I	21号住居(新)
59	称名寺1式期	232・248	36・90・112	26-40	1.34 × 0.98 × 0.63	B VII	
63	加曾利E4式期	172	37・90	25-39	1.41 × 0.96 × 0.39	D I	
65	加曾利E4式期	232・247	37・90	25-39	0.86 × 0.81 × 0.14	E IV	
66	不 明	173	37	25-39	1.25 × 1.10 × 0.10	A II	25号住居4と接合
69	加曾利E3式期	232	37	25-41	0.97 × ? × 0.35	A I	
80	不 明	174	38・90	23-31	2.50 × 1.78 × 0.36	D II	
82	加曾利E4式期	232・248	38・90	25-31	1.43 × 1.28 × 0.53	E II	
84	加曾利E4式期	232	38	24-31	1.25 × 0.96 × 0.38	E VII	
85	不 明	233	38	25-30	1.85 × 1.80 × 0.20	E V	
86	加曾利E4式期	233・247	38・112	26-29	2.23 × 1.45 × 0.82	D V	
87	不 明	233・248	38・90	25-29	1.70 × 1.58 × 0.32	A II	
89	加曾利E3式期	233	38	26-33	1.09 × 1.02 × 0.58	A I	145号土坑(新)
90	加曾利E3式期	234	39	26-34	1.66 × 1.30 × 0.43	E VII	
94	加曾利E4式期	175	39・90	26-34	1.05 × (1.00) × 0.36	A II	83号土坑(新)
96	不 明	234	39	26-34	1.35 × 1.09 × 0.38	E VII	
99	加曾利E4式期	234・249	39・91	25-29	1.25 × (0.63) × 0.48	E VII	
100	加曾利E4式期	176	39・91	25-41	0.86 × 0.81 × 0.26	A II	
102	加曾利E4式期	234・249	40	25-41	1.22 × 1.15 × 0.35	A II	
108	後期前半	234	40	26-38	1.65 × (1.25) × 0.38	E VII	25号住居(旧)
115	堀之内1式期	235・249	40	24-35	0.98 × 0.96 × 0.90	A I	
116	称名寺1式期	177	40・112	24-34	1.10 × (1.00) × 0.92	A V	117号土坑(新)
121	堀之内2式期	178	40	26-45	1.34 × 0.46 × 0.69	E VII	
122	不 明	235・249	40・91	29-51	4.02 × 2.16 × 0.86	E VII	
123	堀之内2式期	235・249	40	27-50	2.05 × 1.59 × 0.51	E VII	
124	後期前半	235	41	27-47	0.92 × 0.90 × 0.22	A I	
126	後期前半	236・249	41	26-45	1.35 × (1.30) × 0.20	A I	
128	不 明	179	41・91	29-52	3.90 × 3.50 × 0.85	E VII	
129	不 明	236	—	26-45	0.69 × 0.43 × 0.53	E II	
130	後期前半	236	41	25-46	1.22 × 0.65 × 0.57	E VII	
131	後期前半	236	41	26-46	0.83 × 0.58 × 0.35	E VII	
134	後期前半	236	41	26-46	0.60 × (0.50) × 0.65	A VII	
139	堀之内式期	236・249	41	32-29	4.56 × 2.09 × 0.74	E VII	
141	加曾利E4式期	237・249	—	24-32	(1.15) × 0.72 × 0.38	E VII	

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	時 期	図	P.L.	グリッド	長軸 × 短軸 × 深さ	形状	重複及び他の遺構との接合関係等
143	不 明	237・250	41	25-32	1.05 × 0.75 × 0.23	E VI	
144	加曾利 E 4 式期	237・250	42	26-33	1.14 × 1.14 × 0.18	A W	
148	加曾利 E 4 式期	180	42・91	29-30	1.42 × 1.41 × 0.06	A I	
150	堀之内 2 式期	181・182	42・91	31-33	0.95 × 0.93 × 0.15	A II	
164	称名寺 II 式期	237・250	42・92	35-39	1.06 × 1.02 × 0.78	A III	
165	称名寺 II 式期	183・184	42・92	35-38	1.58 × 1.30 × 0.84	D II	
166	堀之内 2 式期	185	43・92	34-37	(2.25) × 1.10 × 0.23	B W	
167	不 明	250	—	—	—	0.42	
168	後期前半	250	92	—	—	0.55	
169	称名寺 I 式期	250	92	—	—	—	
171	称名寺 II 式期	186	43・93	29-32	1.06 × 1.01 × 0.50	A I	
172	不明	187・188	43・92	29-32	1.86 × 2.12 × 0.93	E III	
173	称名寺 I 式期	189・190	43・93	29-33	1.40 × 1.38 × 0.50	A I	
174	堀之内 2 式期	237・250	—	30-33	1.39 × 1.30 × 0.73	A III	
175	後期前半	237・251	43・93	31-32	1.50 × 1.45 × 0.59	A III	
176	加曾利 E 4 式期	238・251	—	31-34	1.15 × 0.95 × 0.30	E W	
181	不 明	191	43・93	32-36	1.98 × 1.42 × 0.23	D II	
182	後期前半	238・251	43・93	34-31	1.72 × 1.64 × 1.05	A V	34号住居 (新)
184	称名寺 I 式期	251	93	—	—	—	
185	加曾利 E 4 式期	238・251	44・94	33-34	1.41 × (0.82) × 0.69	B W	
187	加曾利 E 4 式期	192・193	44・94	31-31	3.64 × 2.95 × 0.64	B V	
188	堀之内 2 式期	238・251	95	32-35	2.19 × 2.04 × 1.26	A V	
189	加曾利 E 4 式期	194	44・96	31-33	(0.76) × (1.26) × 0.29	D V	39号住居 (新)
191	称名寺 II 式期	195	44・95	33-32	1.26 × 1.05 × 0.81	A I	
192	不 明	196	44・95	32-32	1.14 × 1.09 × 0.33	A I	74号住居 (新旧不明)
193	称名寺 I 式期	197	44・95	30-34	0.85 × 0.71 × 0.39	E W	
195	加曾利 E 4 式期	239・252	44・95	29-32	1.50 × 1.15 × 0.35	E W	
196	不 明	239	45	30-34	1.18 × (1.00) × 0.24	D I	199号土坑 (新)
199	称名寺 I 式期	239・252	45・95	30-34	1.27 × 1.26 × 0.37	A II	196号土坑 (旧)
200	堀之内 2 式期	196	96	31-38	0.75 × 0.71 × 0.18	A I	
202	不 明	239・252	45	31-38	0.79 × 0.69 × 0.23	D II	
204	堀之内 2 式期	239・252	45・95	33-36	1.60 × 1.60 × 1.15	A I	
205	加曾利 E 4 式期	199	45・96	32-38	1.54 × 1.33 × 0.52	D I	
211	加曾利 E 4 式期	239・252	—	34-36	1.16 × 1.15 × 0.19	A II	
212	堀之内 2 式期	240・252	45・96	31-30	1.41 × 1.18 × 0.72	B W	
215	後期前半	240	—	35-36	0.85 × 0.74 × 0.48	A II	
217	称名寺 I 式期	200	46・112	35-36	1.37 × 1.32 × 0.85	A I	
223	加曾利 E 4 式期	240・253	112	31-32	0.90 × 0.81 × 0.21	A I	28号住居 (新)
225	堀之内 1 式期	240	46	32-34	1.18 × 1.00 × 0.17	A W	
226	称名寺 II 式期	201・202	96	34-35	1.91 × 1.38 × 0.70	E W	
227	堀之内 2 式期	240・253	—	32-30	2.03 × 1.95 × 0.40	E W	
228	加曾利 E 3 式期	241	46	—	—	0.48	E W
230	堀之内 1 式期	241・252	—	27-33	0.90 × 0.78 × 0.35	A W	
234	堀之内 2 式期	241・253	46	—	1.66 × (1.66) × 0.58	A III	
235	後期前半	203	46・112	36-36	1.42 × 1.01 × 0.28	E V	
236	不 明	242・253	113	37-41	4.11 × 2.45 × 1.10	E W	
238	加曾利 E 4 式期	204	46・97	33-36	1.20 × 1.13 × 0.30	A V	250号土坑 (旧)
241	不 明	242・254	—	31-46	4.02 × 1.50 × 0.90	D II	
242	後期前半	205・206	47・98	31-46	1.62 × 1.57 × 0.64	A III	257号土坑 2 と接合
243	堀之内 1 式期	241・253	47・97	32-47	1.81 × 1.60 × 0.65	A II	
244	堀之内 2 式期	207・208	47・98	32-48	1.48 × 1.46 × 0.45	A III	
246	加曾利 E 4 式期	209~211	47・99	33-47	1.56 × 1.53 × 0.90	A V	7号溝 (新)
247	不 明	241	—	32-46	1.28 × 1.11 × 0.27	A V	
248	加曾利 E 4 式期	212	47・99	33-46	1.01 × 0.98 × 0.62	C W	
249	称名寺 II 式期	243	—	32-46	0.62 × 0.58 × 0.47	A W	
250	不 明	243・254	47	33-36	1.38 × (1.15) × 0.22	A I	238号土坑 (新)
255	後期前半	213	48	32-48	1.23 × 1.17 × 0.48	A II	
256	不 明	243・254	100	34-48	(2.20) × 1.38 × 1.16	D V	69号住居 (不明)
257	不 明	214・215	48・100	34-49	1.86 × 1.78 × 0.65	A III	242号土坑 1 と接合
258	不 明	243・254	100	34-49	2.02 × 1.60 × 1.85	D V	

4 土 坑

(単位: m)

番号	時 期	図	P.L.	グリッド	長軸 × 短軸 × 深さ	形状	重複及び他の遺構との接合関係等
259	加曾利E 4式期	216・217	48・100	35-49	2.03 × 1.90 × 0.20	A W	
264	後期前半	244・254	101	34-44	1.77 × 1.74 × 0.90	A III	
267	堀之内式期	243	—	36-40	1.27 × (1.27) × 0.62	A III	
270	堀之内式期	244	—	34-39	1.04 × 1.02 × 0.37	A II	
272	不 明	244・255	48・101	38-48	1.72 × 1.63 × 0.37	A W	
273	加曾利E 3式期	218	49・113	35-37	0.45 × 0.36 × 0.43	B I	
274	加曾利E 4式期	219	49	35-33	0.75 × 0.70 × 0.10	A W	
277	堀之内式期	220・221	49・101・113	30-42	2.36 × 1.32 × 0.27	D I	
278	不 明	244・256	49	31-48	2.38 × 1.60 × 0.40	D W	
279	後期前半	245・255	49	30-36	1.93 × 1.65 × 0.75	A I	
280	後期前半	222	49	34-44	0.82 × 0.74 × 0.86	D I	
281	不 明	245	50	34-44	0.42 × 0.40 × 0.31	A II	
282	堀之内式期	245・256	50・102	30-42	2.39 × 1.81 × 0.32	B W	282号土坑(新)
283	不 明	223	50・102	30-34	2.29 × 1.21 × 0.34	B W	
285	熊名寺II式期	245	50	30-40	0.98 × 0.98 × 0.20	A I	
286	堀之内2式期	245	50	30-41	0.50 × (0.49) × 0.37	A II	
287	勝板式終末期	246・256	50	39-59	2.53 × 2.42 × 0.17	A II	
288	黒沢式期	224・225	50・102	37-56	1.38 × 1.29 × 0.53	A W	
291	遺構b(新)式期	226・227	51・102	37-51	1.57 × 1.55 × 0.75	A II	
295	後期前半	245	51	34-43	0.96 × 0.95 × 1.02	A II	
296	不 明	245	51	33-43	0.57 × 0.53 × 0.60	A I	
298	不 明	246・256	51・102	31-43	2.25 × 1.84 × 0.43	D II	
299	熊名寺I式期	228	51・103	35-32	1.68 × 1.00 × 0.46	A I	
300	堀之内1式期	246・256	51・103	34-41	1.36 × 1.00 × 0.39	E W	

III 縄文時代の遺構と遺物

第8表 白倉C区土坑一覽表

(単位: m)

番号	時期	図	PL	グリッド	長軸 × 短軸 × 深さ	形状	重複及び他の遺構との接合関係等
13	黒浜式期	290・304	52	36-73	1.32 × 1.24 × 0.24	A II	
18	不明	290・304	103	37-72	2.23 × 1.98 × 0.40	E Ⅴ	
40	不明	290・304	—	43-75	3.74 × 2.06 × 0.22	B VI	
41	不明	291	52	43-75	1.65 × 1.43 × 0.34	D Ⅳ	
42	黒浜式期	290・304	103	42-72	0.93 × 0.90 × 0.40	A II	
44	黒浜式期	257	52・103	39-72	1.02 × 0.96 × 0.26	A Ⅳ	
45	黒浜式期	258・259	52・104	39-72	1.47 × 1.40 × 0.51	A III	
46	黒浜式期	260	—	38-71	1.50 × 1.27 × 0.39	E Ⅳ	162号土坑1と接合
47	不明	291・305	103	38-72	2.06 × 1.47 × 0.40	E Ⅳ	
49	黒浜式期	291・304	103・104	40-70	1.04 × 0.84 × 0.52	B II	
50	不明	291・304	103	40-69	2.56 × 1.50 × 0.90	E Ⅴ	
51	不明	261	52・104	41-69	(2.10) × 1.02 × 0.36	B Ⅳ	
52	黒浜式期	292・305	104	41-69	1.34 × 1.25 × 0.25	E Ⅳ	
55	黒浜式期	291・305	104	41-71	2.03 × 0.83 × 0.20	E Ⅳ	
56	黒浜式期	292・305	52・104	39-71	(3.30) × 2.90 × 0.65	E Ⅳ	30号住居(新)、38号住居(新) 225号土坑(不明)
58	黒浜式期	262	53・104	38-69	(0.85) × 1.03 × 0.26	B II	
59	不明	263・264	53・105	38-69	1.48 × (1.40) × 0.24	A Ⅳ	
64	黒浜式期	292・305	—	37-70	1.25 × 1.13 × 0.42	E Ⅳ	
67	勝坂B式期	292・305	105	36-70	(0.91) × 1.34 × 0.27	E Ⅳ	
70	黒浜式期	305	105	—	—	—	
82	黒浜式期	293・306	53	37-67	1.15 × (0.62) × 0.33	A Ⅳ	
85	不明	293・306	53・105	38-68	1.09 × 1.05 × 0.29	A Ⅳ	
86	黒浜式期	293・306	105	38-68	(0.96) × 0.86 × 0.30	A Ⅳ	39号住居(新)
89	黒浜式期	293・306	—	40-67	1.16 × (0.80) × 0.15	D I	
90	不明	293	53	41-67	(1.20) × 1.09 × 0.20	A II	91号土坑(旧)、92号住居(新)
91	黒浜式期	293・306	53・105	41-67	(1.82) × (1.12) × 0.20	B II	90号土坑(新)、92号住居(新)
94	黒浜式期	293・307	105・113	42-67	(0.95) × (0.87) × 0.19	E Ⅳ	95号土坑(新)
95	黒浜式期	265	53・106	41-67	1.30 × 1.26 × 0.22	C II	94号土坑(新)
96	黒浜式期	266	53・105	41-66	1.22 × (1.12) × 0.23	C II	92号土坑(不明)
97	黒浜式期	294・307	53	41-66	1.60 × (1.52) × 0.36	C Ⅳ	61号住居(新)
98	不明	293・307	54	41-66	1.38 × 1.21 × 0.13	A II	
99	黒浜式期	294・307	54	41-66	1.51 × 0.76 × 0.14	B II	
100	黒浜式期	294	54	40-66	1.47 × 0.96 × 0.15	E Ⅳ	
101	黒浜式期	294・307	54・106	40-66	1.38 × (1.20) × 0.19	A Ⅳ	
102	黒浜式期	295・307	106	33-70	5.13 × 3.80 × 0.23	E Ⅳ	
103	不明	267・268	106	37-67	4.53 × 4.40 × 0.85	E Ⅳ	
104	黒浜式期	294	54	38-67	1.30 × (0.84) × 0.27	E II	
109	黒浜式期	269・270	54・106	36-65	0.74 × 0.69 × 0.10	A II	
114	加曾利E 3式期	294・308	106	35-65	1.46 × 1.35 × 0.63	D II	
116	黒浜式期	271	54・106	43-70	1.08 × 1.07 × 0.55	A I	
117	黒浜式期	295・308	106	37-72	2.98 × 2.21 × 0.59	E Ⅳ	
118	黒浜式期	296・308	54	36-72	1.08 × 1.07 × 0.50	A Ⅳ	
120	黒浜式期	296	55	36-73	(1.77) × 1.90 × 0.35	E Ⅳ	
122	不明	296・308	55・106	42-66	0.99 × 0.92 × 0.29	E Ⅳ	
123	不明	296	—	42-66	(0.58) × 0.55 × 0.18	A Ⅳ	
125	黒浜式期	—	—	—	—	—	
131	黒浜式期	296・309	55・107	33-62	1.04 × 0.89 × 0.28	D Ⅳ	
132	勝坂式終末期	296・308	107	35-61	1.19 × (0.90) × 0.34	E Ⅳ	
133	加曾利E 4式期	296・308	—	38-61	1.31 × 1.20 × 0.65	E Ⅳ	
135	黒浜式期	297・308	55	33-64	1.14 × 1.01 × 0.45	A I	
137	黒浜式期	297	—	32-64	2.91 × 1.80 × 0.75	E Ⅳ	
138	不明	272	55・107	38-63	2.41 × (1.98) × 0.21	E Ⅳ	35号住居(新)、36号住居(新)
140	不明	297・309	55・107	38-62	1.15 × 1.12 × 0.30	A Ⅳ	48号住居(新)
143	不明	297・309	56	36-62	(1.37) × 1.24 × 0.30	B I	74号住居(新)
144	不明	297・309	107	36-62	1.48 × 0.86 × 0.26	B I	
145	不明	297・309	107	39-62	1.36 × 1.14 × 0.39	D I	160号土坑(旧)
146	不明	298・310	—	40-65	1.05 × 1.00 × 0.38	A II	
147	黒浜式期	298・309	56・107	38-66	1.37 × 1.24 × 0.37	B Ⅳ	

4 土 坑

(単位: m)

番号	時 期	区	P.L.	グリッド	長軸	×	短軸	×	深さ	形状	重複及び他の遺構との接合関係等
148	黒浜式前期	298・309	56・107	39-65	1.06	×	0.98	×	0.45	A I	
149	中期中葉	298	—	37-63	(1.50)	×	(1.20)	×	0.34	D V	
151	黒浜式前期	273	56	42-67	1.90	×	1.45	×	0.23	E W	
153	勝坂Ⅱ式前期	298・309	56・108	39-65	1.31	×	1.30	×	0.27	A V	
154	黒浜式前期	298	—	38-65	1.16	×	(1.16)	×	0.18	A II	34号住居(新)
157	勝坂式終末期	274	56・108	38-61	(1.30)	×	1.08	×	0.70	E V	
158	黒浜式前期	298	56	42-70	0.85	×	0.79	×	0.37	A II	28号住居(不明)
159	黒浜式前期	298	56	42-70	1.06	×	0.92	×	0.41	A II	28号住居(不明)
160	中期中葉	299	—	39-61	1.80	×	(1.60)	×	0.43	E W	145号土坑(新)、161号土坑(新)
162	黒浜式前期	275	108	40-62	1.95	×	1.20	×	0.35	E W	66号土坑1と接合
164	黒浜式前期	276・277	57・108	41-72	1.46	×	1.25	×	0.46	A II	170号土坑1と接合
165	黒浜式前期	299	57	41-74	1.81	×	1.65	×	0.47	A W	
166	黒浜式前期	299・310	57・108	40-74	1.68	×	1.61	×	0.31	A W	
167	黒浜式前期	299	57	39-73	0.64	×	0.60	×	0.15	A I	
169	黒浜式前期	299	57	40-72	1.31	×	1.10	×	0.57	E I	170号土坑(新)
170	黒浜式前期	278・279	57・108	40-73	2.53	×	(1.71)	×	0.54	A W	169号土坑(旧)、41号住居(新) 164号土坑1と接合
172	黒浜式前期	299	57	37-73	0.91	×	0.85	×	0.23	A I	
174	黒浜式前期	299・310	108	30-61	1.14	×	1.05	×	0.15	E I	33号土坑(新)
177	不明	299	57	40-63	(0.75)	×	0.78	×	0.23	D II	178号土坑(新)
178	黒浜式前期	300	57	40-63	1.22	×	1.10	×	0.45	A II	177号土坑(旧)
179	不明	300・310	—	41-62	(1.20)	×	(1.16)	×	0.32	A I	
182	不明	300・311	57・107	40-63	1.55	×	1.20	×	0.19	D V	183号土坑(新)
183	黒浜式前期	300・310	57・58・108	40-63	1.38	×	1.38	×	0.50	A W	182号土坑(旧)、85号住居(不明)
184	黒浜式前期	300	58	38-64	0.95	×	0.91	×	0.15	A II	
185	勝坂式終末期	280・281	58・109	41-62	1.74	×	1.20	×	0.38	B W	85号住居1と接合
189	不明	300・311	109	38-63	0.96	×	0.91	×	0.53	C I	
191	黒浜式前期	300・311	109	40-62	3.01	×	1.87	×	0.50	E W	
194	不明	282	58・109	40-64	(1.45)	×	1.32	×	0.38	B W	50号住居(新)、196号土坑1と接合
196	不明	283	58・109	38-62	0.54	×	(0.54)	×	0.12	A W	194号土坑1と接合
197	不明	300	—	38-73	1.58	×	1.35	×	0.21	A I	
200	不明	301	—	40-65	0.85	×	0.84	×	0.24	A II	201号土坑(旧)
201	黒浜式前期	301	—	40-65	0.89	×	(0.80)	×	0.24	A II	200号土坑(新)
202	黒浜式前期	301・311	—	40-65	1.32	×	1.31	×	0.28	A W	
206	不明	301	—	37-62	1.13	×	1.08	×	0.50	A I	54号住居(新)、55号住居(新)
207	黒浜式前期	301・311	109	34-62	0.58	×	0.50	×	0.10	A I	
213	不明	301・311	109	38-63	1.45	×	1.00	×	0.38	E II	
214	不明	301・311	58・109	39-62	1.26	×	1.18	×	0.38	A I	
215	勝坂Ⅱ式前期	301・312	109	42-63	(1.65)	×	1.13	×	0.38	E W	
217	不明	302	—	42-64	(2.27)	×	(1.14)	×	0.50	E W	216号土坑(新)、218号土坑(新)
221	黒浜式前期	284	—	41-63	1.13	×	1.07	×	0.19	C V	85号住居(新)
223	不明	285	58	32-67	0.65	×	0.65	×	0.16	A V	236号土坑1と接合
224	黒浜式前期	302	59	39-70	1.34	×	(1.28)	×	0.16	A I	225号土坑(不明)
225	黒浜式前期	302	59	39-70	(2.70)	×	(2.43)	×	0.14	E W	56号土坑(不明)、38号住居(新) 224号土坑(不明)
226	不明	286	110	32-67	0.94	×	(0.94)	×	0.31	A II	223号土坑1と接合
229	勝坂Ⅱ式前期	302	59	34-66	0.61	×	(0.53)	×	0.71	A I	211号土坑(不明)
233	勝坂式終末期	287・288	59・110	41-63	0.65	×	0.65	×	0.41	E I	85号住居(旧)、85号住居2と接合
234	不明	302	—	32-59	1.73	×	(0.72)	×	0.52	A V	
241	黒浜式前期	302・312	110	40-74	0.69	×	0.55	×	0.41	B V	
244	不明	303・312	59・110	37-72	(1.68)	×	1.50	×	0.38	A III	
245	黒浜式前期	303・312	—	43-71	1.23	×	1.19	×	0.48	A I	
246	不明	289	110	41-70	2.62	×	2.13	×	0.63	D III	77号住居(新)
247	黒浜式前期	303	—	29-62	(0.75)	×	(0.65)	×	0.26	E W	89号住居(新)
249	黒浜式前期	303	—	29-62	1.26	×	(0.82)	×	0.32	A V	
252	黒浜式前期	303	—	30-63	1.24	×	(0.67)	×	0.21	A I	
254	黒浜式前期	303・312	59	31-65	1.81	×	1.47	×	0.54	E W	

III 縄文時代の遺構と遺物

第9表 天引C区土坑一覧表

(単位: m)

番号	時期	図	PL	グリッド	長軸	短軸	深さ	形状	重複及び他の遺構との接合関係等
53	不明	323	—	37-41	0.88 × 0.85 × 0.30	A II			
60	勝坂式終末期	323・327	60	35-47	0.88 × 0.80 × 0.10	A I			
61	勝坂式終末期	313	60・111	36-46	2.78 × 2.70 × 0.67	E W			
72	中期中葉	323	60	42-49	1.18 × 1.11 × 0.36	A I			
80	勝坂式終末期	323	60	46-43	0.89 × 0.87 × 0.47	A III		53号住居(新)	
82	勝坂式終末期	323	60	47-45	0.95 × <0.66> × 0.16	E I		58号住居(新)	
83	勝坂式終末期	323	60	47-45	1.06 × 1.05 × 0.38	A I			
85	勝坂式終末期	323・327	60	48-44	0.95 × 0.89 × 1.02	A I			
86	勝坂式終末期	323	60	48-44	1.00 × 0.96 × 0.18	A I			
93	中期中葉	323	61	44-46	0.64 × 0.55 × 0.41	C I			
94	勝坂式終末期	314	61	44-46	0.66 × 0.61 × 0.36	C II			
98	勝坂式終末期	324・327	61	42-48	1.00 × 0.98 × 0.17	A I		100号住居(新)	
102	勝坂式終末期	324・327	61	49-45	0.85 × 0.72 × 0.30	D W			
103	勝坂式終末期	315	61	50-46	0.26 × 0.26 × 0.05	A II			
106	不明	316	61・111	50-45	1.01 × 0.90 × 0.37	A W			
108	勝坂式終末期	324	—	45-38	0.95 × 0.95 × 0.34	A W			
110	勝坂日式期	324・327	61・62	49-46	0.99 × 0.88 × 0.32	A I			
111	勝坂日式期	324・327	62	49-46	0.83 × 0.79 × 0.12	A II			
112	中期中葉	324	62	49-46	1.05 × 1.00 × 0.29	A W			
119	勝坂式終末期	324・328	62・111	43-42	1.15 × 0.93 × 0.19	B I			
124	中期中葉	324	—	43-44	0.92 × 0.80 × 0.19	A I			
127	勝坂式終末期	324	62	47-43	0.90 × 0.88 × 0.26	A I			
129	不明	325	62	43-42	<2.15> × <1.63> × 0.05	E I			
130	勝坂式終末期	325	62	46-42	0.95 × 0.69 × 0.25	E W			
135	不明	325	63	46-48	(1.10) × 1.05 × 0.15	A I		136号土坑(新)	
136	勝坂式終末期	325	63	46-48	1.32 × 1.25 × 0.45	A W		135号土坑(旧)	
138	勝坂式終末期	317	63	46-49	0.87 × 0.81 × 0.79	A W			
139	清磯b(新)式期	318・319	63・111	49-47	0.88 × 0.80 × 0.60	A III		73号住居(新)	
140	勝坂式終末期	325・328	—	39-46	0.70 × 0.60 × 0.10	E II		73号住居(新)	
147	中期中葉	325	—	47-47	<1.53> × 1.22 × 0.18	E W			
148	勝坂式終末期	326	63	44-49	1.25 × 1.10 × 0.19	A W			
153	勝坂式終末期	326	63	44-49	(1.06) × 0.89 × 0.33	A W		154号土坑(新)	
154	勝坂式終末期	325	63	44-49	0.71 × 0.60 × 0.24	A W		153号土坑(旧)	
156	不明	326	63	44-49	0.71 × 0.64 × 0.23	A I			
161	勝坂式終末期	326・328	64・113	50-46	0.82 × 0.75 × 0.16	A I			
164	後期前半	326	64	46-48	<0.75> × 0.56 × 0.21	A W			
165	不明	326	64	47-48	0.63 × <0.52> × 0.25	B I			
166	称名寺日式期	326・328	64	46-48	1.38 × <0.88> × 0.19	B W			
167	勝坂式終末期	321	—	47-47	0.38 × 0.35 × 0.12	A W			
168	後期前半	320	64	51-45	1.92 × (1.82) × 1.08	A I			
169	勝坂式終末期	326・328	—	46-47	(0.35) × 0.30 × 0.08	A W			
170	勝坂式終末期	322	64	48-47	0.86 × 0.83 × 0.70	A I			
173	勝坂式終末期	326・328	64	48-47	1.35 × 1.20 × 0.33	A II			

第10表 土坑時期別数量

地区	屈折式	清磯b新式	勝坂日式	勝坂式終末期	中期中葉	加智利E3式	加智利E4式	称名寺1式	称名寺日式	堀之内1式	堀之内2式	堀之内3式	後期前半	不明	合計
白倉A区	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
白倉B区	1	2	0	1	0	6	27	10	7	7	13	9	18	32	133
白倉C区	65	0	4	4	2	1	1	0	0	0	0	0	0	36	113
天引C区	0	1	2	26	5	0	0	0	1	0	0	0	2	6	43
合計	66	3	6	31	7	7	28	11	8	7	13	9	20	74	290

第11表 白倉A区土坑出土遺物一覧表

土坑番号	時 期	黒浜式	諸磯b新式	諸磯c式	勝坂II式	勝坂I式終末期	加曾E3式	加曾E4式	称名寺I式	称名寺II式	堀之内I式	堀之内II式	時期不明	縄文時代以降	合計	石器	フレタ等	磚
70	称名寺I式期	0	1	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	12	0	0	0

第12表 白倉B区土坑出土遺物一覧表

土坑番号	時 期	黒浜式	諸磯b新式	諸磯c式	勝坂II式	勝坂I式終末期	加曾E3式	加曾E4式	称名寺I式	称名寺II式	堀之内I式	堀之内II式	時期不明	縄文時代以降	合計	石器	フレタ等	磚	
2	不 明	0	0	0	0	0	0	18	0	0	1	0	0	0	19	0	0	0	
6	堀之内2式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	25	1	0	10	
10	不 明	0	0	0	1	0	0	0	0	0	70	0	0	0	71	0	0	5	
11	不 明	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
13	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	118	0	0	0	0	0	0	118	0	0	4	
15	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	
18	堀之内1式期	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
36	諸磯b(断)式	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
41	堀之内1式期	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
49	加曾利E3式	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	3	
50	称名寺I式期	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	8	0	0	1	
53	堀之内式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	163	0	0	0	163	2	1	4	
54	不 明	0	0	0	0	0	1	0	0	0	7	0	0	0	8	0	1	0	
55	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	0	0	1	
57	堀之内2式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	151	0	0	0	151	2	2	16	
58	堀之内2式期	0	0	0	0	0	1	0	0	0	181	0	1	0	183	0	3	67	
59	称名寺I式期	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9	0	0	1	
63	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3	0	0	0	
65	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	
66	不 明	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	6	0	0	11	
69	加曾利E3式	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	
80	不 明	0	4	0	0	0	1	105	0	0	0	0	0	0	110	1	0	4	
82	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	
84	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	
85	不 明	0	0	0	0	0	1	11	0	0	0	0	0	1	13	0	0	0	
86	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
87	不 明	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0	
89	加曾利E3式	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0	
90	加曾利E3式	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	
94	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	2	0	7	0	0	0	
96	不 明	1	0	0	0	0	0	21	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	
99	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
100	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	
102	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	
108	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	
115	堀之内1式期	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	
116	称名寺I式期	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10	0	0	6	
121	堀之内2式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	86	0	0	0	86	0	0	2	
122	不 明	0	0	0	0	0	0	38	0	0	0	0	0	0	21	59	0	5	
123	堀之内2式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	
124	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	
126	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	6	8	0	2	2
128	不 明	2	0	0	0	0	2	138	0	0	0	0	0	0	140	158	0	4	
129	不 明	2	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	6	8	0	2	0
130	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0	
131	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	
134	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	
139	堀之内式期	0	0	0	0	0	0	3	0	0	751	0	0	0	30	784	0	0	0
141	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	
143	不 明	0	0	0	0	0	6	0	0	1	0	0	24	11	42	0	0	2	
144	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	
148	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	

III 縄文時代の遺構と遺物

土坑番号	時期	屈折式	溝溝b新式	溝溝c式	溝溝d式	溝溝e式	加曾利E3式	加曾利E4式	称名寺1式	称名寺2式	堀之内1式	堀之内2式	時期不明	縄文時代以降	合計	石器	フレイク等	鏃
150	堀之内2式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	29	0	5	1
154	称名寺2式期	1	0	0	0	0	0	0	17	0	0	0	0	0	18	0	0	1
165	称名寺2式期	0	0	0	0	0	0	1	69	1	0	1	0	0	73	0	0	586
166	堀之内2式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
167	不明	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	7	0	11	0	0	0
168	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	75	0	0	0	0	0	75	0	0	0
169	称名寺1式期	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
171	称名寺2式期	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	0	4	2	10	0
172	不明	0	0	0	0	0	0	351	0	0	0	0	0	0	7	358	0	0
173	称名寺1式期	0	0	0	0	0	0	111	0	0	0	0	0	0	112	2	0	14
174	堀之内1式期	0	0	0	0	0	0	3	0	0	234	0	0	0	237	0	0	3
175	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	119	0	0	0	0	2	121	0	0	4
176	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0
181	不明	0	0	0	1	0	1	0	0	66	0	0	0	0	68	0	6	6
182	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	46	0	0	0	0	1	47	0	1	0
184	称名寺1式期	0	0	0	0	0	0	36	0	0	0	4	0	40	0	2	0	0
185	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	44	0	0	1
187	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	446	0	0	0	0	0	0	446	0	0	9
188	堀之内2式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	206	0	0	0	206	0	0	0
189	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0	0	0	35	1	4	0
191	称名寺2式期	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	1	1	38	0
192	不明	0	0	0	0	0	0	137	0	0	0	0	0	0	137	1	0	1
193	称名寺1式期	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
195	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	77	0	0	0	0	0	7	84	0	0	6
196	不明	0	0	0	0	0	0	1	34	0	0	0	0	0	35	0	0	0
199	称名寺1式期	0	0	0	0	0	0	0	19	0	0	0	0	0	19	0	0	0
200	堀之内2式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	0	0	1	0	0	0
202	不明	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	1	9	0	0	0
204	堀之内2式期	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	545	0	10	556	3	0	0
205	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	78	0	0	0	0	0	0	78	4	0	0
211	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1
212	堀之内1式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	69	0	0	0	69	1	0	3
215	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	0	0	0
217	称名寺1式期	0	0	0	0	0	0	74	0	0	0	0	0	0	74	0	0	8
223	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0
225	堀之内1式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	1	0	1
226	称名寺2式期	0	0	0	0	0	0	0	42	0	0	0	0	0	42	1	0	6
227	堀之内2式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	40	0	0	1
228	加曾利E3式	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0
230	堀之内1式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3	0	0	0
234	堀之内1式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	53	0	0	0	53	0	0	0
235	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
236	不明	0	1	0	0	0	1	0	57	0	0	0	0	0	60	0	0	0
238	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	45	0	0	0	0	0	0	45	1	0	2
241	不明	0	0	0	0	0	0	0	106	0	0	0	0	0	106	0	0	0
242	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	0	138	0	0	0	0	138	0	0	8
243	堀之内1式期	0	0	0	0	0	0	3	0	0	93	0	0	0	96	0	0	7
244	堀之内2式期	0	0	0	0	0	0	0	10	0	146	0	0	0	156	0	4	19
246	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	181	0	0	0	0	0	0	181	0	15	0
247	不明	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	0	0	0
248	加曾利E4式	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0	0	0	0	24	0	0	0
249	称名寺2式期	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
250	不明	0	0	0	0	0	0	22	0	0	0	0	0	0	22	1	0	0
255	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
256	不明	0	1	0	0	0	0	0	97	0	0	0	0	7	105	0	0	0
257	不明	0	0	0	0	0	0	0	173	0	0	0	0	0	173	1	3	6
258	不明	0	0	0	0	0	0	0	96	0	0	0	0	0	96	0	3	10
259	加曾利E4式	0	0	0	0	0	1	154	0	0	0	0	0	2	157	2	0	0
264	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	0	0	104	0	0	0	104	0	2	3
267	堀之内1式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	79	0	0	0	79	0	0	0

土坑 番号	時 期	黒浜 式	諸磯 b 新式	諸磯 c 式	勝坂 日式	勝坂 式終 末期	加曾 利E 3式	加曾 利E 4式	称名 寺1 式	称名 寺日 式	堀之 内1 式	堀之 内2 式	時期 不明	縄文 時代 以降	合計	石器	フレ イク 等	礎
270	堀之内式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	102	0	0	0	102	0	0	0
272	不 明	0	0	0	0	2	8	0	8	0	0	0	0	80	4	111	0	6
273	加曾利E 3式	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
274	加曾利E 4式	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
277	堀之内式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	1	0	0	21	0	0	2
278	不 明	1	0	0	0	2	0	34	0	0	0	0	0	0	37	0	0	0
279	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	0
280	後期前半	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	7
281	不 明	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	2
282	堀之内式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	30	0	0	11
283	不 明	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	74	0	4	89	0	11
285	称名寺日式期	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	6	0	0	0
286	堀之内2式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	17	0	0	0
287	勝坂式終末期	0	0	0	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	32	0	0	0
288	黒浜式期	87	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	87	0	0	42
291	諸磯b(新)式	1	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	2	2	2
295	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	2
296	不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
298	不 明	0	0	0	0	0	2	3	0	4	0	28	0	0	37	0	0	2
299	称名寺1式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43	0	0	2
300	堀之内1式期	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	0	0	0	25	0	0	10
合 計		96	52	0	3	37	(62)	(135)	(164)	(155)	(149)	(1394)	118	150	※1 7655	28	50	1008

※1 白倉B区236号土坑から加曾利日式土器1点が出土しており、その数を加えてある。

※2 加曾利E 3式～堀之内2式に概当する土器の点数

第13表 白倉C区土坑出土遺物一覧表

土坑 番号	時 期	黒浜 式	諸磯 b 新式	諸磯 c 式	勝坂 日式	勝坂 式終 末期	加曾 利E 3式	加曾 利E 4式	称名 寺1 式	称名 寺日 式	堀之 内1 式	堀之 内2 式	時期 不明	縄文 時代 以降	合計	石器	フレ イク 等	礎
13	黒浜式期	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	1	1	0
18	不 明	20	0	0	0	65	0	0	0	0	0	0	0	1	87	4	0	4
40	不 明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	1	2
41	不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
42	黒浜式期	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	1	0	0
44	黒浜式期	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	0
45	黒浜式期	72	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72	7	0	138
46	黒浜式期	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	26	1	0	3
47	不 明	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	12	2	0	17
49	黒浜式期	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	3	0
50	不 明	27	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	30	0	0	8
51	不 明	8	0	1	0	0	13	0	0	0	0	0	0	6	28	2	0	4
52	黒浜式期	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	5
55	黒浜式期	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	28	1	2	0
56	黒浜式期	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8	1	0	0
58	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
59	不 明	4	0	0	0	44	0	0	0	0	0	0	0	0	48	0	1	1
64	黒浜式期	29	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	21	0	0	7
67	勝坂日式期	12	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0
70	黒浜式期	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
82	黒浜式期	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0
85	不 明	3	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	1	0	3
86	黒浜式期	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	1	0	0
89	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0
90	不 明	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
91	黒浜式期	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	0	1	0
94	黒浜式期	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	2	3	0
95	黒浜式期	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0
96	黒浜式期	15	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	3
97	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

III 縄文時代の遺構と遺物

土坑 番号	時 期	黒浜式	清瀬 c新式	清瀬 c式	勝坂 II式	勝坂 式終末期	加曾利 E 3式	加曾利 E 4式	称名 寺1式	称名 寺II式	堀之内 I式	堀之内 II式	時期 不明	縄文 時代以降	合計	石器	フレ イク 等	障
98	不明	7	1	0	←2→	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	2	0
99	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
100	黒浜式期	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0
101	黒浜式期	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	3
102	黒浜式期	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	3	0	4
103	不明	37	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	39	1	0	4
104	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
109	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
114	加曾利 E 3式	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	0
116	黒浜式期	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	27	0	0	4
117	黒浜式期	78	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	79	4	0	29
118	黒浜式期	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	0	0	7
120	黒浜式期	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
122	不明	57	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	2	63	0	3	2
123	不明	2	0	0	←3→	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	2
125	黒浜式期	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0	1	0
131	黒浜式期	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0
132	勝坂式終末期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
133	加曾利 E 4式	3	0	0	0	0	18	0	0	0	0	0	0	0	21	0	1	3
135	黒浜式期	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
137	黒浜式期	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	0	2	0
138	不明	6	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	0	5
140	不明	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
143	不明	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0
144	不明	17	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	19	0	0	5
145	不明	4	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0
146	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0
147	黒浜式期	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	2
148	黒浜式期	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	1	0
149	中期中葉	0	0	0	←1→	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0
151	黒浜式期	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	40
153	勝坂II式期	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	1
154	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
157	勝坂式終末期	2	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	3
158	黒浜式期	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	1
159	黒浜式期	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
160	中期中葉	0	0	0	←5→	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
162	黒浜式期	105	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	105	0	3	3
164	黒浜式期	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	1	1	18
165	黒浜式期	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	0	1	0
166	黒浜式期	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	0	1
167	黒浜式期	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1
169	黒浜式期	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	0	1	0
170	黒浜式期	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63	0	0	32
172	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
174	黒浜式期	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	1
177	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
178	黒浜式期	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	0
179	不明	20	0	0	←6→	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26	0	3	9
182	不明	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	9	0	0	2
183	黒浜式期	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9	1	0	24
184	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
185	勝坂式終末期	0	0	0	0	51	0	0	0	0	0	0	0	0	51	2	0	6
189	不明	19	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	21	0	0	4
191	黒浜式期	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	2	0	7
194	不明	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	2	0	1
196	不明	1	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
197	不明	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3	
200	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
201	黒浜式期	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2

4 土 坑

土坑 番号	時 期	黒浜 式	諸磯 b 新式	諸磯 c 式	勝坂 日式	勝坂 式終 末期	加曾 利E 3式	加曾 利E 4式	赤名 寺 I 式	赤名 寺 II 式	堀之 内 I 式	堀之 内 2 式	時期 不明	縄文 時代 以降	合計	石器	フリ ク 等	雜
202	黒浜式期	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0
205	不 明	4	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	6	0	0	0
207	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
213	不 明	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
214	不 明	34	0	0	←2→	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	0	0	6
215	勝坂日式期	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0
217	不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
221	黒浜式期	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1
223	不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
224	黒浜式期	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	3
225	黒浜式期	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	1	6
226	不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0
229	勝坂日式期	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1
233	勝坂式終末期	0	0	0	0	58	0	0	0	0	0	0	0	0	58	1	0	69
234	不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0
241	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
244	不 明	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	11	3	0	3
245	黒浜式期	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	0	0	2
246	不 明	96	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	98	0	0	5
247	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
249	黒浜式期	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
252	黒浜式期	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
254	黒浜式期	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	5
合 計		1252	7	1	(22)	(193)	16	19	(5)	(0)	(0)	(0)	18	32	1642	53	39	535
					※1	279			※2	18								

※1 勝坂日式～勝坂式終末期に概当する土器の点数。

※2 後期前半に概当する土器の点数。

III 縄文時代の遺構と遺物

第14表 天引向原C区土坑出土遺物一覧表

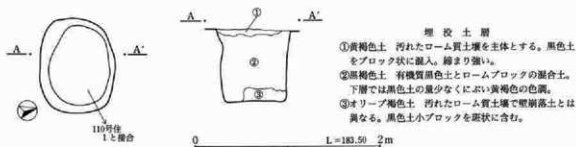
土坑 番号	時 期	高浜 式	沼磯 式	沼磯 C式	勝坂 日式	勝坂 式終 末期	加曾 式3	加曾 式4	称名 寺1 式	称名 寺日 式	堀之 内1 式	堀之 内2 式	時期 不明	縄文 時代 以降	合計	石器	フレ グ等	磚
53	不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
60	勝坂式終末期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
61	勝坂式終末期	0	0	0	6	74	0	0	0	0	0	0	0	1	81	4	0	4
72	中期中葉	0	0	0	←2→	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
80	勝坂式終末期	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	2
82	勝坂式終末期	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	12	0	0	0
83	勝坂式終末期	0	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	30	0	1	0
85	勝坂式終末期	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	1
86	勝坂式終末期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
93	中期中葉	0	0	0	←4→	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	6
94	勝坂式終末期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	7
98	勝坂式終末期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
102	勝坂式終末期	0	0	0	0	34	0	0	0	0	0	0	0	1	35	0	0	0
103	勝坂式終末期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
106	不 明	0	0	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	0	0	2
108	勝坂式終末期	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
110	勝坂日式期	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	3	0
111	勝坂日式期	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
112	中期中葉	0	0	0	←4→	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0
119	勝坂式終末期	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1
124	中期中葉	0	0	0	←1→	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
127	勝坂式終末期	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	1
129	不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0
130	勝坂式終末期	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0
135	不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
136	勝坂式終末期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
138	勝坂式終末期	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	16	2	0	23
139	沼磯B式	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
140	勝坂式終末期	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0	0	0	0	15	0	0	0
147	中期中葉	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
148	勝坂式終末期	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	2	1
153	勝坂式終末期	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
154	勝坂式終末期	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
156	不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0
161	勝坂式終末期	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0
164	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	←2→	0	0	0	0	0	2	0	0	0
165	不 明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	1
166	称名寺日式期	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	0	0	2
167	勝坂式終末期	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
168	後期前半	0	0	0	0	0	0	0	←6→	0	0	0	0	0	6	4	0	2
169	勝坂式終末期	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0
170	勝坂式終末期	0	0	0	0	32	0	0	0	0	0	0	0	0	32	5	0	6
173	勝坂式終末期	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	1	0
合 計		0	2	3	(18)	(277)	0	0	(0)	(3)	(0)	(0)	4	2	368	17	10	64
					396				51									

白倉A区70号土坑

位置 35-27 PL 34

諸磯b(新)式土器1点と加曾利E式系土器11点が出土し、全て一括して取り上げた。この中で、加曾利E式系3点が、近接する110号住居(竪穴状遺構)の53点の土器と接合している。70号土坑の埋没土は黒

色土ブロックとロームブロックを斑状に含む土層が主体をなしており、人為的な埋没土の可能性が高い。一方、同じような埋没土の状況は110号住居(竪穴状遺構)でも観察された。以上の共通点を考えると、110号住居が後期初頭と考えられることから、70号土坑も同時期である可能性が高いと思われる。



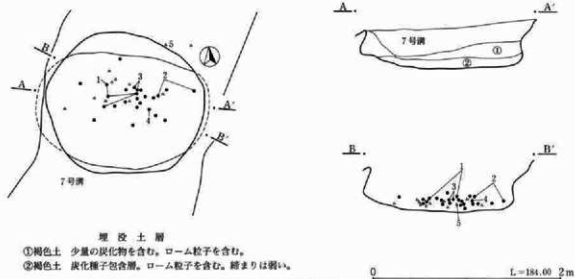
第166図 白倉A区70号土坑

白倉B区6号土坑

位置 26-44 PL 34・89

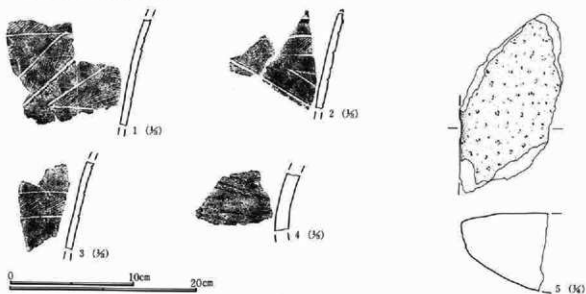
トチノキの炭化種実(以下トチの実)がまとまって検出された土坑である(巻頭写真参照)。本遺構は、長軸方向が断面フラスコ状を呈する円形プランの土坑で、上部を中近世遺構の7号溝によって破壊されている。埋没土は上層については上記の擾乱によって不明であるが、少量の炭化物を含む土層(①層)を介して、坑底部から約10cmの厚さでトチの実が検出

されている(②層)。トチの実については、取り上げたもの全てについて同定を委託し、1点については年代測定を行った。詳細は付録に譲るが、炭化種実が全てトチの実であったことと、その中に果皮が含まれていないことは特筆される。また、年代測定によって2,260.B.Cの結果がでていることも、出土土器の年代線と齟齬を生じない。出土遺物は堀之内2式25点と図示した石器1点と鏝10が①層から②層上面にかけて出土している。(遺物観察表: 350頁)



第167図 白倉B区6号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物



第168図 白倉B区6号土坑出土遺物

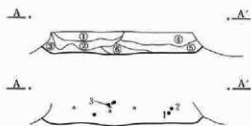
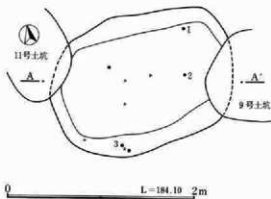
白倉B区10号土坑

位置 26-43 PL 35・112

本土坑は、9号土坑と11号土坑に切られているが、隅丸長方形プランを呈していたと思われる。出土土器は、勝坂Ⅱ式1点と堀之内式土器70点が出土し、

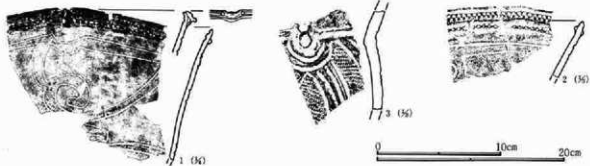
65点を一括して取り上げた。1は大型の破片で、遺構の北東隅から出土している。土器以外では、5点の隙が出土している。

(遺物観察表：350頁)



埋没土層

①暗褐色土 ②褐色土 ③褐色土 ロームブロックを多く含む。④褐色土 炭化物を僅かに含む。⑤褐色土 ロームブロックと炭化物を僅かに含む。⑥褐色土 ローム質土壌。



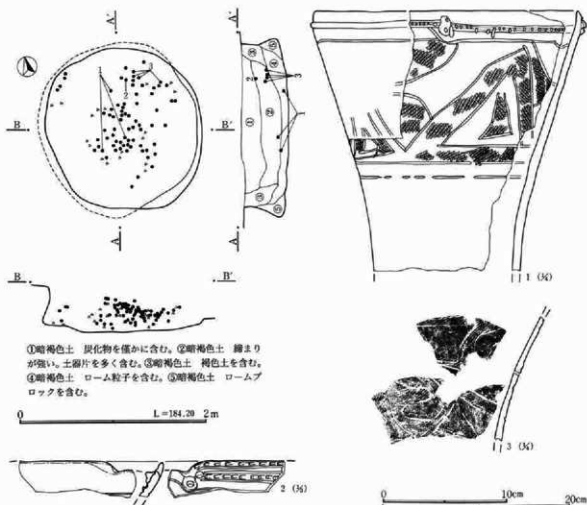
第169図 白倉B区10号土坑と出土遺物

白倉B区57号土坑

位置 28-41 PL 36・89

円形プランで断面がフラスコ状の土坑である。出土土器は堀之内2式157点と土師器6点で、82点を一括して取り上げた。限られた点数しか位置を記録できなかったが、土坑の中央に遺物分布の中心が見受

けられ、埋没土の上～中層にかけて出土する傾向が強い。完形の土器が廃棄されたのではなく破片の状態で廃棄されたようで、破片の数の割りには、接合関係も少なく器形復元ができたのは1だけであった。他に、石錘2点が出土している。フレイクと礫が18点出土している。(遺物観察表：351頁)



第170図 白倉B区57号土坑と出土遺物

白倉B区58号土坑

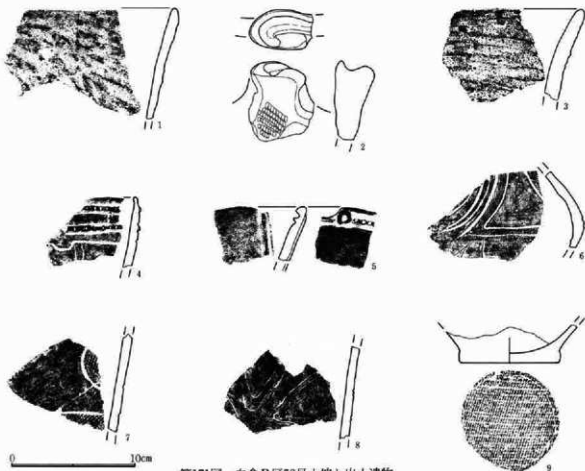
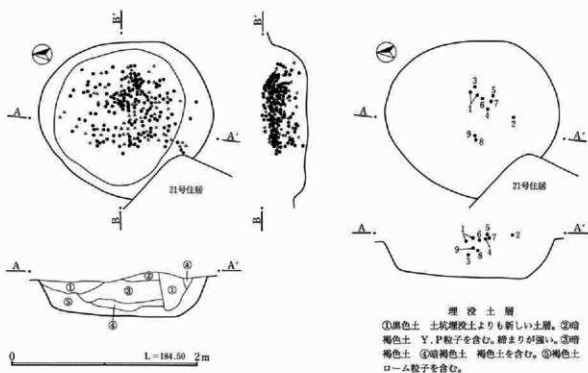
位置 28-40 PL 36・89

一部を奈良時代の21号住居に切られるが、ほぼ円形プランを呈する土坑である。出土土器は、加曾利E3式1点と堀之内2式181点と土師器1点である。このうち、16点を一括して取り上げた。土器の分布は土坑の中心にあり、埋没土の上～中層にかけて検出されている。出土点数が多い割りには接合関係が

あまり見られず、1の1例のみである。土器以外では、石器は出土せずにフレイク2点と礫が67点出土しているが、出土状態は土器の分布とほぼ同じ傾向を示している。以上の状況から、堀之内2式期に④⑤層が堆積したのちに、土器片と礫が大量に廃棄された状況が想定されよう。

(遺物観察表：351頁)

III 縄文時代の遺構と遺物



第171図 白倉B区58号土坑と出土遺物

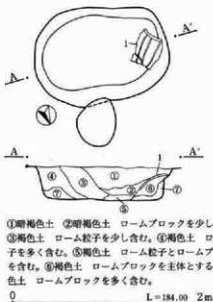
白倉B区63号土坑

位置 25-39 P L 37・90

北側を時期不明の土坑に破壊されるが、隅丸長方形プランを呈する土坑である。出土土器は、加曾利E 4式土器1点と土師器の小破片2点であった。加

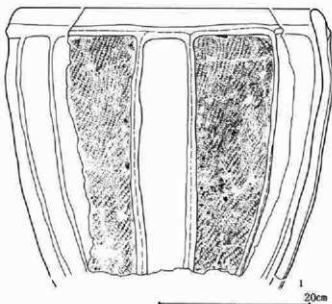
曾利E 4式土器1点は、大型の破片で土坑の東辺に立て掛けるように出土している。土坑長軸の方位はN-74°-Wであった。なお、石器類は出土していない。

(遺物観察表: 352頁)



①暗褐色土 ②暗褐色土 ロームブロックを少し含む。
③褐色土 ローム粒子を少し含む。④褐色土 ローム粒子を多く含む。⑤褐色土 ローム粒子とロームブロックを含む。⑥褐色土 ロームブロックを主体とする。⑦褐色土 ロームブロックを多く含む。

0 L=184.00 2m



第172図 白倉B区63号土坑と出土遺物

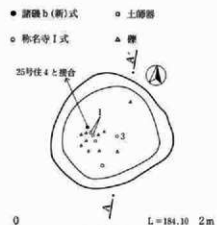
白倉B区66号土坑

位置 25-39 P L 37

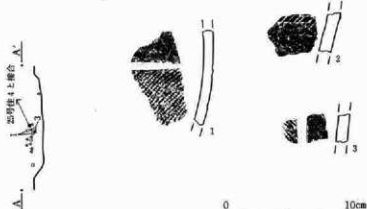
不正円形プランを呈する土坑である。出土土器は諸磯b(新)式土器2点と称名寺1式土器3点と土師器が1点出土している。この中で、諸磯b(新)式土

器1点は、位置を記録せずに取り上げた。なお、出土した1点の諸磯b(新)式土器が、25号住居の4と接合した。石器類は礫が1点出土している。

(遺物観察表: 352頁)



0 L=184.10 2m



第173図 白倉B区66号土坑と出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

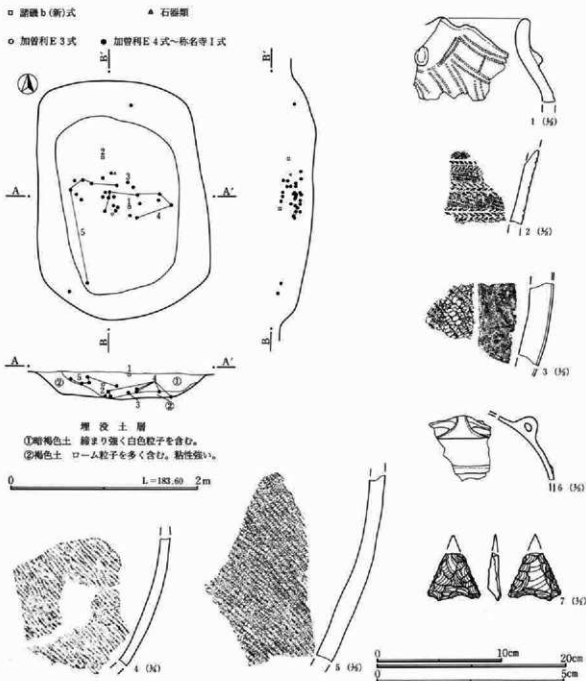
白倉B区80号土坑

位置 23-31 PL 38・90

隅丸長方形プランを呈する土坑である。土坑長軸の方位はN-4°-Wである。出土土器は115点で、85点を一括して取り上げた。内訳は、諸磯b(新)式土器4点と加曾利E3式1点と加曾利E4式~称名寺I式土器105点と土師器5点である。4と5が比較的

広範な接合を見せている。一部しか出土位置を記録しなかったので不明な点も多いが、4や5に代表されるような出土状態が多いとすれば、②層堆積後に遺物の廃棄が主体的に行われたのであろう。石器類は、石鏃1点以外には鏃が4点出土している。

(遺物観察表: 352頁)



第174図 白倉B区80号土坑と出土遺物

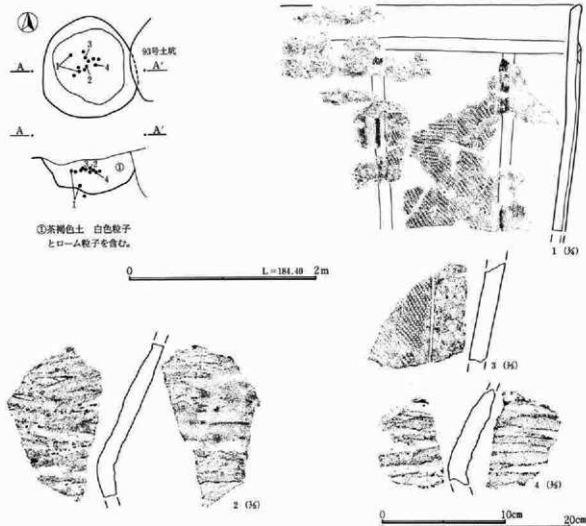
白倉B区94号土坑

位置 26-34 P L 39・90

東側を時期不明の93号土坑に切られるが、不正円形を呈する土坑である。出土土器は14点で、時期不明の2点(2・4)以外は加曾利E4式である。指撫

で状の成形を特色とする2と4は同一個体で、出土状態から考えて加曾利E4式期に帰属するのも知れない。他に、接合関係が見られたのは1だけであった。なお、石器類は出土していない。

(遺物観察表：353頁)



第175図 白倉B区94号土坑と出土遺物

白倉B区100号土坑

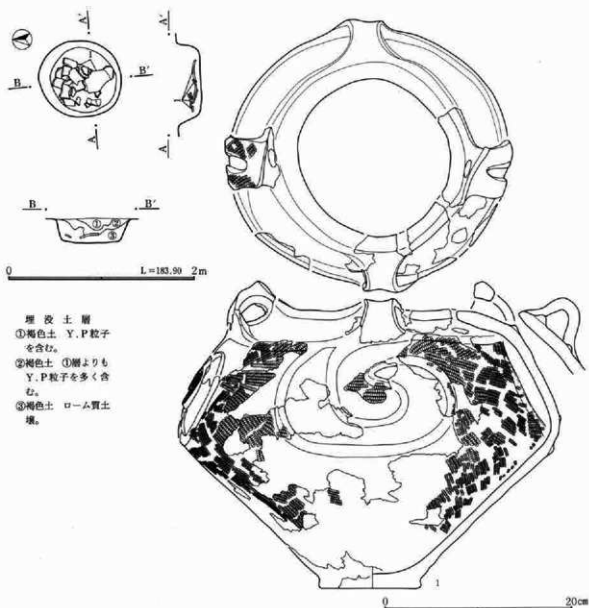
位置 25-41 P L 39・91

円形を呈する土坑である。出土土器は1個体の加曾利E4式土器が出土している。その出土状態は、坑底から4~10cm上の高さで多数の破片となって検出されている。土器は壺形態の浅鉢であるが、検出時において全ての土器片は残存しておらず、胴上部

から口縁部約1/4程度が欠損していた。埋没土の観察から、土器が検出された面で土層が異なっていることが確認されている。なお、他の個体の土器片や石器類は出土していない。

(遺物観察表：354頁)

III 縄文時代の遺構と遺物



- 埋没土層
 ①褐色土 Y、P粒子を含む。
 ②褐色土 ①層よりもY、P粒子を多く含む。
 ③褐色土 ローム質土壌。

第176図 白倉B区100号土坑と出土遺物

白倉B区116号土坑

位置 24-34 PL 40・112

時期不明の117号土坑に破壊されるが、円形を呈する土坑である。出土土器は称名寺I式10点で、6点を一括して取り上げた。石器類は礫が6点出土している。埋没土は褐色土を主体としてローム粒子の混入が観察されている。調査時の所見によると埋没土の上層からは土器の出土がなかった。

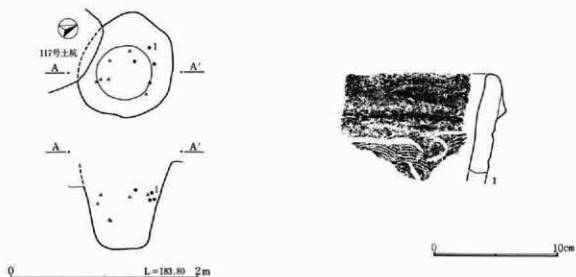
(遺物観察表：354頁)

白倉B区121号土坑

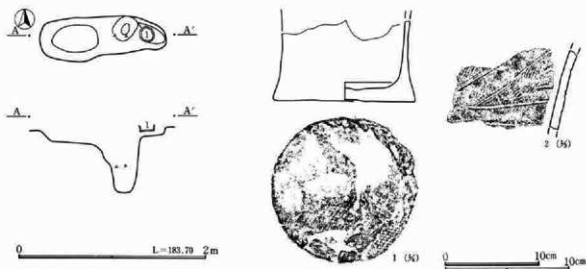
位置 26-45 PL 40

細長い平面形状で断面も一定しない土坑である。出土土器は堀之内2式86点で、図示した1を除く全てを一括して取り上げた。なお、土器の接合関係はまったく見られなかった。中央から、東に寄った位置で柱穴状の落ち込みが検出されているが、そこから礫が2点出土している。

(遺物観察表：354頁)



第177図 白倉B区116号土坑と出土遺物



第178図 白倉B区121号土坑と出土遺物

白倉B区128号土坑

位置 29-52 PL 41・91

平面及び断面形状に、全く規格性がみられない土坑である。土坑が検出された位置は西側に谷地が存在し、谷地からは縄文～平安時代までの遺物が重層的に出土している。土坑からの出土土器は158点で、133点を一括して取り上げた。内訳は、黒浜式2点、加曾利E3式2点、加曾利E4式～堀之内2式138点、土師器と須恵器16点であった。また、濼が4点

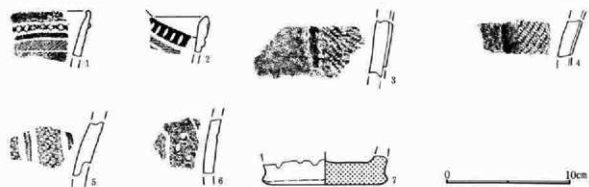
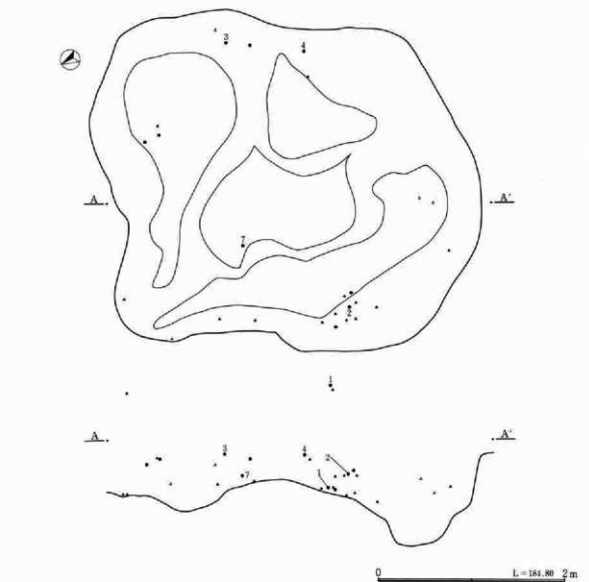
出土している。本遺構を縄文時代の土坑として取り扱ったが、形状から人為的な痕跡である可能性は弱く、仮に遺構としても出土土器の時期が混在し、土師器及び須恵器も多く出土していることから縄文時代に帰属する可能性も弱いのではなかろうか。

(遺物観察表：355頁)

III 縄文時代の遺構と遺物

● 縄文土器 ▲ 礎

▲ 土師器・須恵器



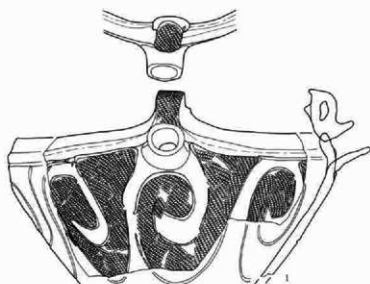
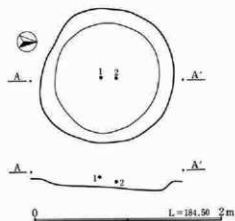
第179図 白倉B区128号土坑と出土遺物

白倉B区148号土坑

位置 29-30 PL 42・91

円形プランを呈する土坑である。確認面からの深さは6cmと大変浅かった。出土土器は加曾利E4式土器が2点出土しただけである。この2点はいずれも大形の破片で、表を上にした状態で検出された。平面図には出土土器を●で表示したために、2つの土器片が離れて検出されたように見えるが、実際には殆ど接するぐらいに近接して検出されている。僅かな埋没土は暗褐色土であった。

(遺物観察表: 356頁)



第180図 白倉B区148号土坑と出土遺物

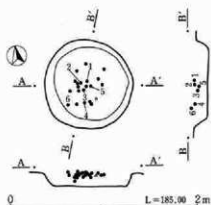


白倉B区150号土坑

位置 31-33 PL 42・91

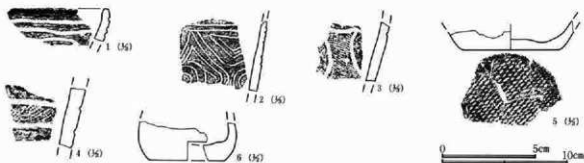
円形プランを呈する土坑である。出土土器は堀之内2式29点で、9点を一括して取り上げた。全ての土器片の出土位置を記録しなかったので確かなことはいえないが、坑底の直上から出土した土器はないようである。土器の接合関係も確認できず、大形の破片もみられなかった。石器類はフレイクが4点と礫が1点出土している。

(遺物観察表: 356頁)



第181図 白倉B区150号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物



第182図 白倉B区150号土坑出土遺物

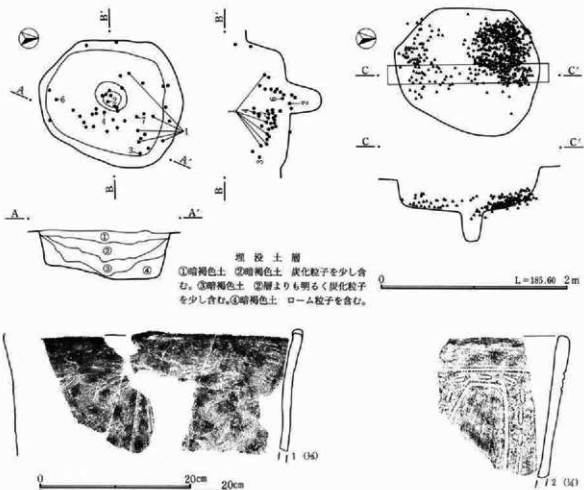
白倉B区165号土坑

位置 35-38 PL 42-92

隅丸長方形に近いプランを呈し、中央に柱穴状のピットを有する土坑である。出土土器は73点で、29点を一括して取り上げた。内訳は、加曾利E4式1点、称名寺I式1点、称名寺II式69点、時期不明1

点である。石器は出土していないが、小礫が586点と大量に出土している。全ての土器の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、大半の土器は礫の上から出土している様子がドットマップから読み取れよう。

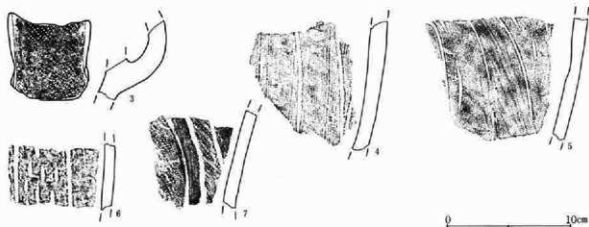
(遺物観察表：356頁)



埋没土層

①暗褐色土 ②暗褐色土 炭化粒子を少し含む。
③暗褐色土 ④層よりも明るく炭化粒子を少し含む。④暗褐色土 ローム粒を含む。

第183図 白倉B区165号土坑と出土遺物(1)



第184図 白倉B区165号土坑出土遺物(2)

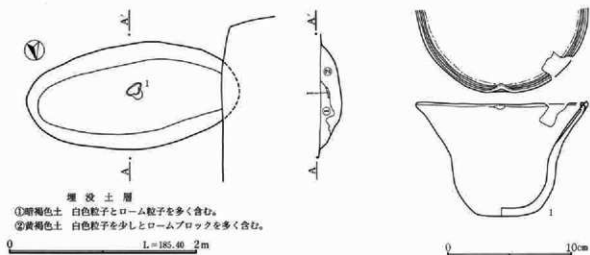
白倉B区166号土坑

位置 34-37 P L 43・92

楕円形プランを呈する土坑である。西側を昭和20年代にリングの苗木を植えるために掘られた穴によって破壊されているが、土坑の残存状態は良好であ

った。出土遺物は図示した堀之内2式土器1点だけである。土器の遺存状態は、口縁部の一部を欠損するがほぼ完形である。出土状態は、土坑のほぼ中央で、坑底から若干浮いて出土している。

(遺物観察表：357頁)



第185図 白倉B区166号土坑と出土遺物

白倉B区171号土坑

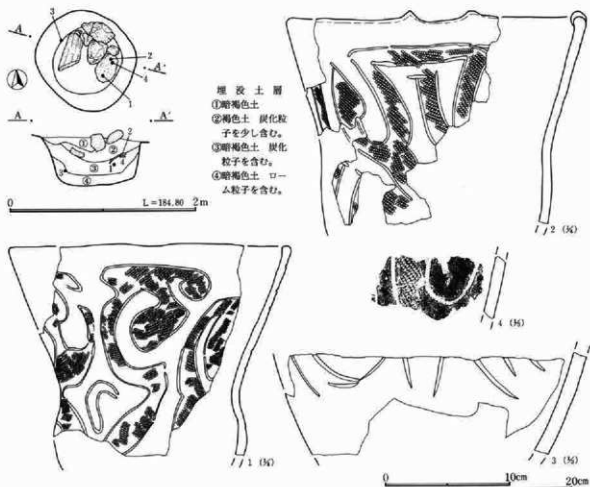
位置 29-32 P L 43・93

円形のプランを呈する土坑である。出土土器は4点で、内訳は称名寺I式3点と称名寺II式1点である。この他に、フレイク2点と礫が10点出土している。土器片は大形で、ほぼ中層からの出土である。

一方、礫は大形の結晶片岩を主体として遺構確認面から上層にかけて出土している。

(遺物観察表：357頁)

III 縄文時代の遺構と遺物



第186図 白倉B区171号土坑と出土遺物

白倉B区172号土坑

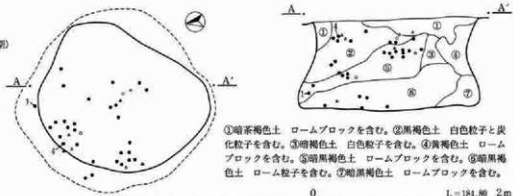
位 置 29-32 P L 43・92

開口部の形状が不正形を呈するが、坑底部の平面形状がほぼ円形を呈する土坑である。断面形状はフラスコ状である。出土土器は358点と多かったが、341

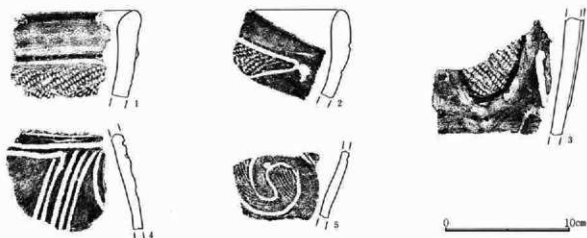
点を一括して取り上げてしまった。内訳は、加曾利E4式～堀之内2式が351点と大半を占め、他に弥生時代中期に帰属するものが7点出土した。石器の出土はなく燧が4点出土している。

(遺物観察表：357頁)

- 縄文土器
- 弥生土器(中期)
- ▲ 土師器
- ▲ 燧



第187図 白倉B区172号土坑



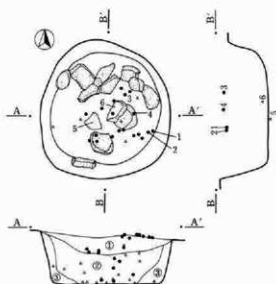
第188図 白倉B区172号土坑出土遺物

白倉B区173号土坑

位置 29-33 PL 43・93

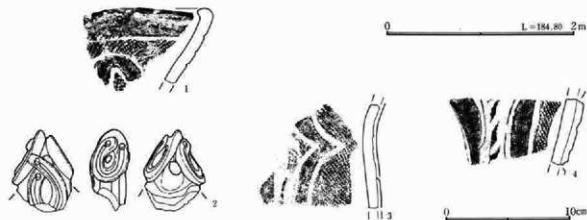
円形プランの土坑である。出土土器は112点と比較的多かったのであるが、95点を一括して取り上げてしまった。内訳は、称名寺I式111点と土師器1点である。また、多孔石が2点と礫が14点出土している。全ての土器の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、大半の土器は石器類の上から出土している傾向がドットマップから読み取れよう。一方、礫は全て大形の結晶片岩で、石器も含めて埋没土の中層～坑底にかけて出土している。

(遺物観察表: 358頁)



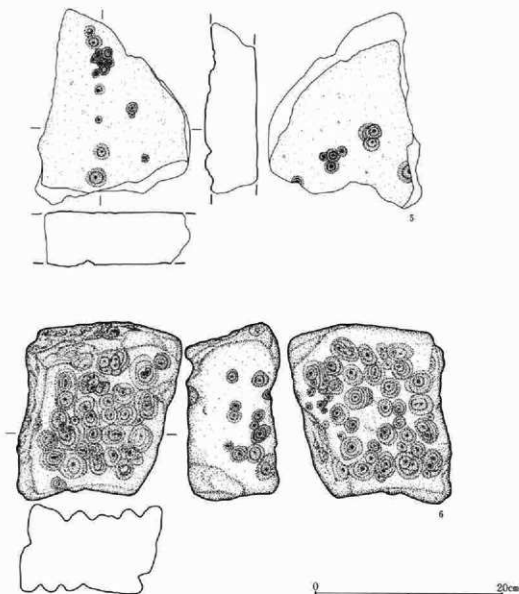
埋没土層

- ①暗褐色土 堅く締まる。
- ②暗褐色土 炭化粒子を含む。
- ③暗褐色土 ローム粒子を含む。



第189図 白倉B区173号土坑と出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第190図 白倉B区173号土坑出土遺物(2)

白倉B区181号土坑

位置 32-30

PL 43・93

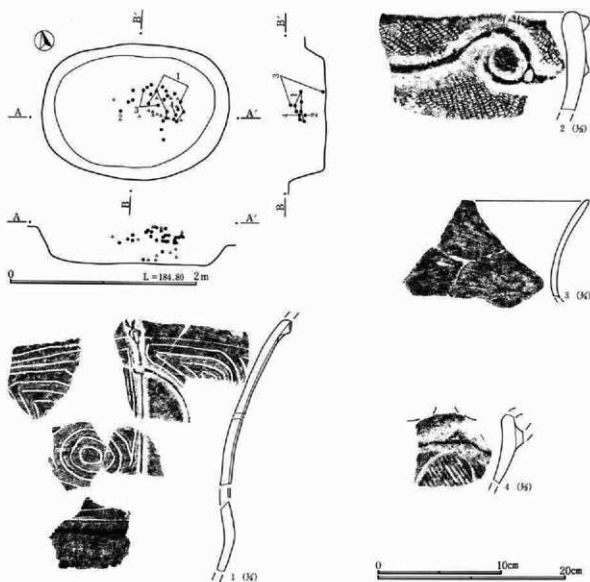
隅丸長方形プランを呈する土坑である。

出土土器は68点で、41点を一括して取り上げてしまった。内訳は、勝坂式終末期1点(2)と加曾利E4式1点(4)以外は全て縄之内2式であった。接合関係は2例確認できている。1は拓影からも明らかなように、全ての破片が接合したのではなく同

一個体と判断できたので接合資料として扱ったが、中央を中心に出土している様子が読み取れよう。一方、3は出土地点が遺構確認面と坑底近くと極めて離れているのが特徴的である。

石器類は6点が出土し、フレイク3点と礫3点の内訳である。

(遺物観察表：358頁)



第191図 白倉B区181号土坑と出土遺物

白倉B区187号土坑

位置 31-31 PL 44・94

楕円形に近い形状の土坑で、長軸が3.64mと大形である。断面の形状は坑底が2段になっているのが特徴的である。

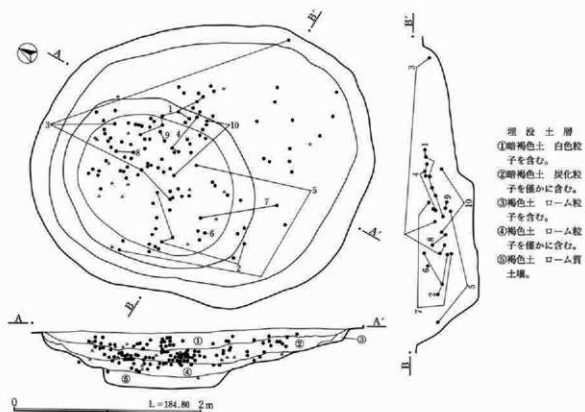
出土土器は加曾利E 4式446点と大変多かったのであるが、316点を一括して取り上げてしまった。接合関係は10例確認できた。器形を復元できたものも、他の土坑に比較すると多い。個々の接合関係をみると、土坑埋没時のある時点での廃棄行為が想定されるのではなかろうか。全ての土器の出土位置を記録

していないので確かなことはいえないが、⑤層内からの土器出土は極端に少ないようである。

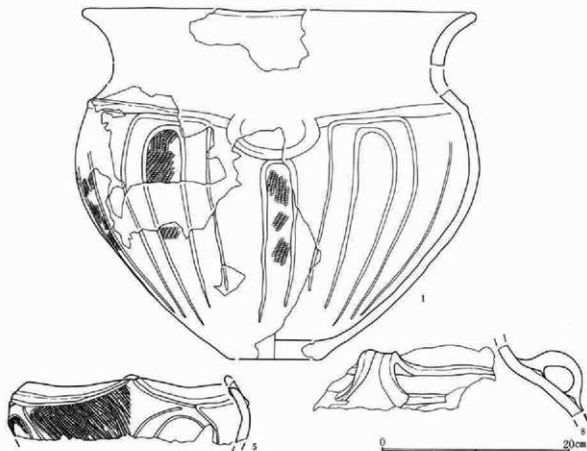
石器類については、石器の出土はなく、礫が9点出土している。

(遺物観察表：359頁)

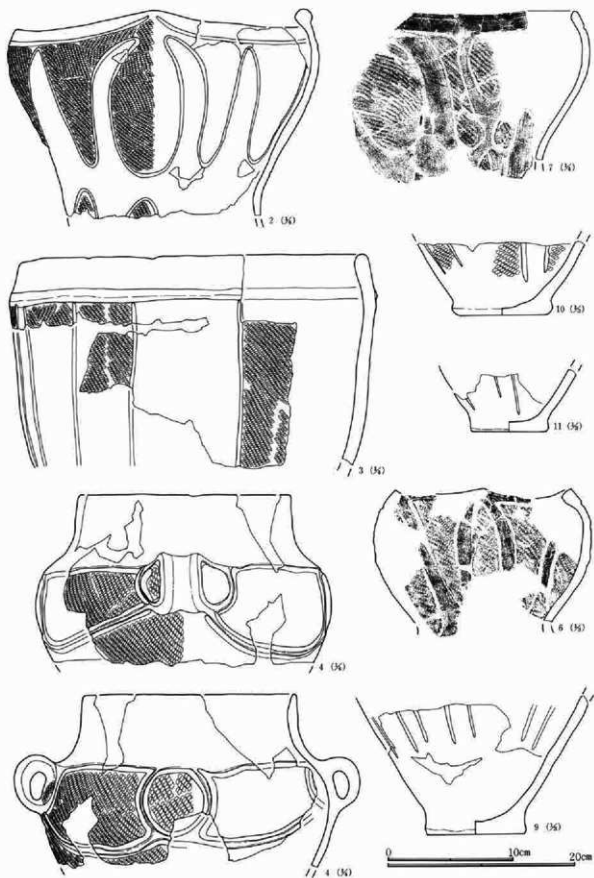
III 縄文時代の遺構と遺物



- 埋設土層
 ①暗褐色土 白色粒子を含む。
 ②暗褐色土 炭化粒子を僅かに含む。
 ③褐色土 ローム粒子を含む。
 ④褐色土 ローム粒子を僅かに含む。
 ⑤褐色土 ローム質土壌。



第192図 白倉B区187号土坑と出土遺物(1)



第193图 白倉B区187号土坑出土遺物(2)

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区189号土坑

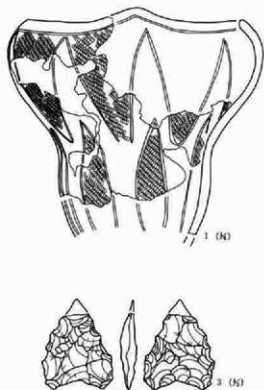
位置 31-33 P L 44・95

奈良時代の39号住居に切られるが、残存部分の形状から隅丸長方形プランを呈すると思われる。

出土土器は加曾利E4式35点で、12点を一括して取り上げてしまった。全ての土器の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、土器は主に②層から出土する傾向が強いようである。土器の接合関係は1と2の2例が確認できている。

出土した石器は3の石鏃だけで、他にフレイクが4点出土している。

(遺物観察表：360頁)



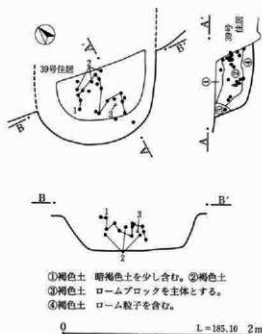
第194図 白倉B区189号土坑と出土遺物

白倉B区191号土坑

位置 33-32 P L 44・95

円形プランを呈する土坑である。

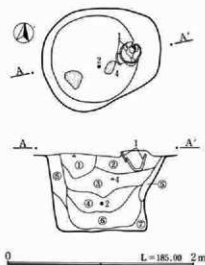
出土土器は称名寺II式3点で、その内1点の位置を記録せずに取り上げてしまった。出土点数も少なかったために、接合関係はない。1は胴上半部を欠



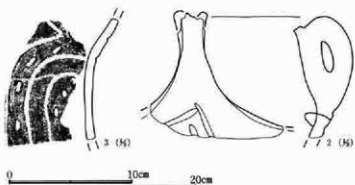
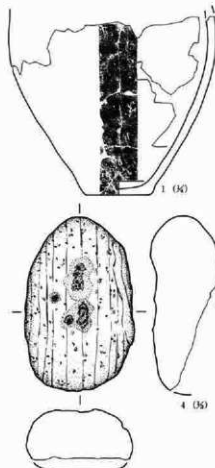
損する深鉢である。1の埋設に伴う掘り込みは検出できなかったが、単独埋壙の可能性もある。

石器類は図示した凹み石以外に、フレイク1点と鏃が38点出土している。

(遺物観察表：360頁)



- ①暗褐色土 焼土粒子と炭化粒子を含む。
 ②明褐色土 ロームブロックとローム粒子を多く含む。
 ③暗茶褐色土 白色粒子とローム粒子を少し含む。
 ④暗茶褐色土 ③層より色調が暗い。
 ⑤暗茶褐色土 ロームブロックを多く含む。
 ⑥明褐色土 ロームブロックを少し含む。
 ⑦褐色土 ローム粒子と炭化粒子を僅かに含む。



第195図 白倉B区191号土坑と出土遺物

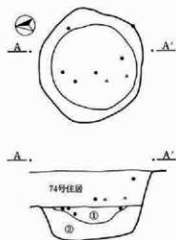
白倉B区192号土坑

位置 32-32 PL 44・95

円形プランを呈する土坑である。74号住居の床面精査の段階で検出されたが、重複関係は不明である。74号住居といっしょに一括して遺物を取り上げてしまったために、本土坑内から出土した遺物を特定するのは困難であるが、図示した3点だけは本土坑の注記がなされていたために図化した。ちなみに、出土土器は149点である。

(遺物観察表:360頁)

- 埋設土層
 ①黄暗茶褐色土 白色粒子を多く含み炭化粒子を少し含む。
 ②黄暗茶褐色土 埋入物少ない。



第196図 白倉B区192号土坑と出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区193号土坑

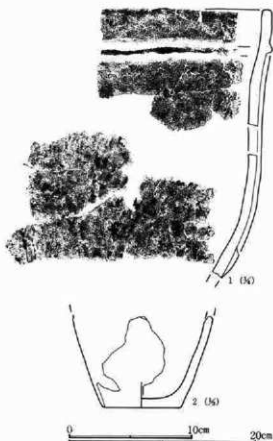
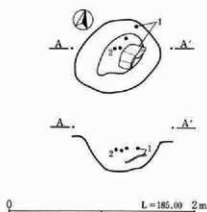
位置 30-34 PL 44・95

平面形状に規格性が見られない土坑である。

出土土器は加曾利E4式～称名寺II式にかけて137点が出土したが、大部分の131点を一括して取り上げてしまった。

石器類は、多孔石1点と鏝が1点出土している。

(遺物観察表：361頁)



第197図 白倉B区193号土坑と出土遺物

白倉B区200号土坑

位置 31-38 PL 96

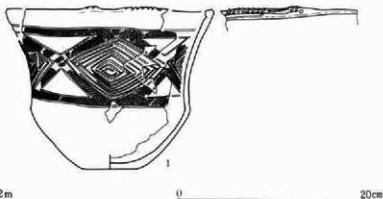
ほぼ円形プランを呈する土坑である。

出土土器は、図示した1のみである。1は堀之内2式の浅鉢で、遺存状態はほぼ半分の大形破片である。

この破片は、一か所で潰れていたのではなく、ほぼ同じ高さで、およそ30cm四方の範囲に散らばって出土している。

なお、石器類は出土していない。

(遺物観察表：361頁)



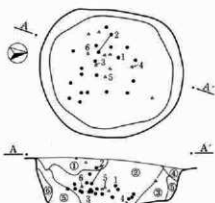
第198図 白倉B区200号土坑と出土遺物

白倉B区205号土坑

位置 32-38 P L 45・96

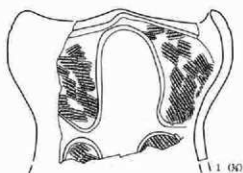
隅丸長方形プランを呈する土坑である。出土土器は加曾利E4式78点であるが、46点を一括して取り上げてしまった。全ての土器の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、土器は主に②層から出土する傾向が強いようである。石器類は図示した石器4点の他に、鏝が5点出土している。

(遺物観察表：362頁)

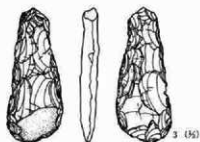


- ①黒褐色土 白色粒子を少し含む。
 ②暗褐色土 ローム粒子を少し含む。
 ③暗茶褐色土 ローム粒子を多く含む。
 ④黒褐色土 ①層よりやや締まりが弱い。
 ⑤明茶褐色土 ロームブロックを多く含む。
 ⑥明茶褐色土 ⑤層よりロームブロックを多く含む。

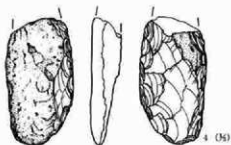
0 L=185.20 2m



2 (56) 11



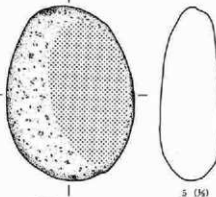
3 (56)



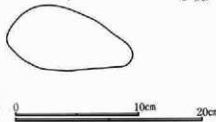
4 (56)



6 (56)



5 (56)



0 10cm 20cm

第199図 白倉B区205号土坑と出土遺物

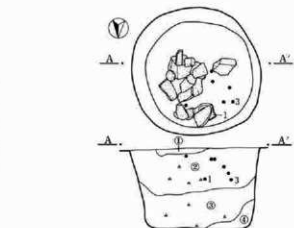
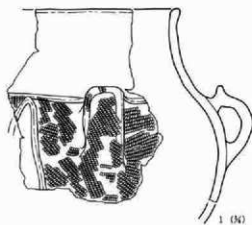
III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区217号土坑

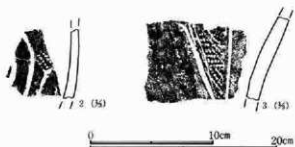
位置 35-36 PL 46・112

円形プランを呈する土坑である。出土土器は加曾利E4式～称名寺I式74点であるが、大部分の67点を一括して取り上げてしまった。僅かな土器の出土位置しか記録していないので確かなことはいえないが、土器は主に②層から出土する傾向が強いようである。石器は出土せず、被熱した礫が8点出土している。

(遺物観察表：362頁)



①暗褐色土 洗間A軽石を少し含む。締まり強い。②暗茶褐色土 白色粒子和ローム粒子及び炭化粒子を少し含む。ロームブロックを多く含む。③暗茶褐色土 ローム粒子を少し含む。④黄褐色土 ローム粒子を多く含む。



第200図 白倉B区217号土坑と出土遺物

白倉B区226号土坑

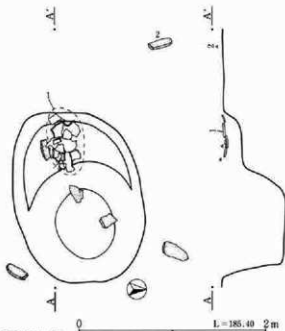
位置 34-35 PL 96

不定形な平面形状の土坑で、断面形状は2段で西側にテラス状の底面をもつ。

出土土器は全て称名寺II式で、図示した1以外の小片41点を一括して取り上げている。1は大形の破片である。

石器は土坑周辺から、石棒の破片が1点出土している。また、周辺も含めて6点の結晶片岩が出土している。

(遺物観察表：363頁)



第201図 白倉B区226号土坑



第202図 白倉B区226号土坑出土遺物

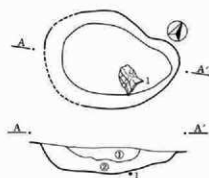
白倉B区235号土坑

位置 36-36 P L 46・112

不定形な平面形状の土坑である。出土土器は後期前半に帰属する図示した1が出土したのみである。

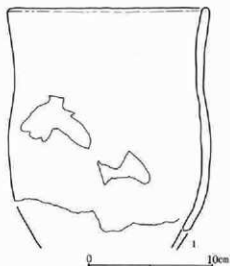
1は深鉢の口縁～胴部の破片で、ほぼ半分が遺存しており、坑底直上から出土している。なお、石器類は出土していない。

(遺物観察表：363頁)



埋没土層
①暗褐色土 堅く締まる。
②褐色土 暗褐色土との混土層。

0 L=185.60 2m



第203図 白倉B区235号土坑と出土遺物

白倉B区238号土坑

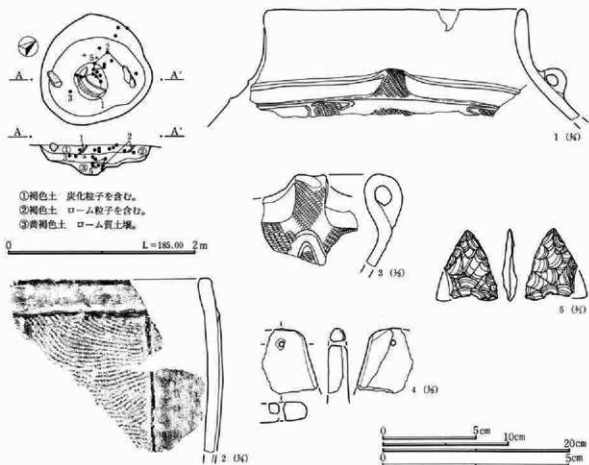
位置 33-36 P L 46・97

円形プランを呈する土坑である。出土土器は加曾利E 4式43点で、23点を一括して取り上げてしまった。全ての土器の出土位置を記録していないので確

かなことはいえないが、土器は層位に関係なく出土しているようである。石器は図示した石鎌以外に磨製石斧が出土している。他に鏃が3点出土している。

(遺物観察表：364頁)

III 縄文時代の遺構と遺物



第204図 白倉B区238号土坑と出土遺物

白倉B区242号土坑

位置 31-46 P L 47・98

円形プランを呈する、断面フラスコ状の土坑である。

出土土器は、全て後期前半に帰属し、138点が出土した。しかしながら、99点を一括して取り上げてし

まった。1と3が広範な接合関係をもち、特に1は南西に約24m離れた257号土坑の出土土器と同一個体であった。

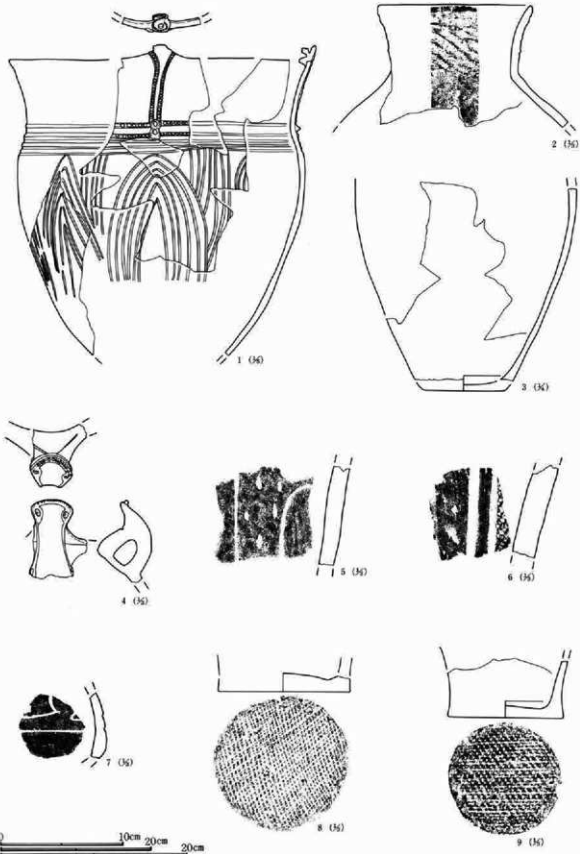
石器類は礫が8点出土した。

(遺物観察表：364頁)



第205図 白倉B区242号土坑





第206图 白倉B区242号土坑出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区244号土坑

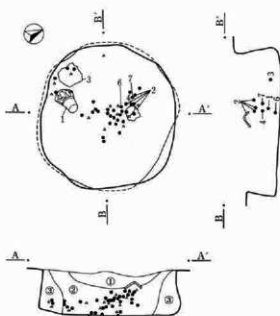
位置 32-48 P L 47・98

円形プランを呈する、断面フラスコ状の土坑である。

出土土器は156点で、大半の121点を一括して取り上げてしまった。内訳は、加曾利E 4式～堀之内1式が10点で、他の土器片は全て堀之内2式である。全ての土器の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、堀之内2式土器片中に他の時期の土器片が混在する様相が僅かなドットマップから想定されよう。器形復元が可能な個体や大形の土器片も出土している。

石器類は、フレイクが4点と鏃が10点出土している。

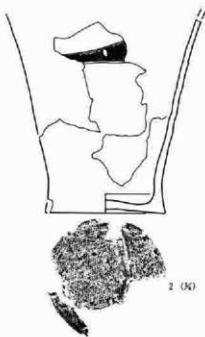
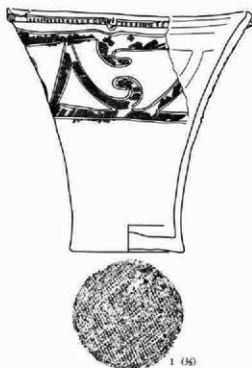
(遺物観察表：365頁)



埋没土層

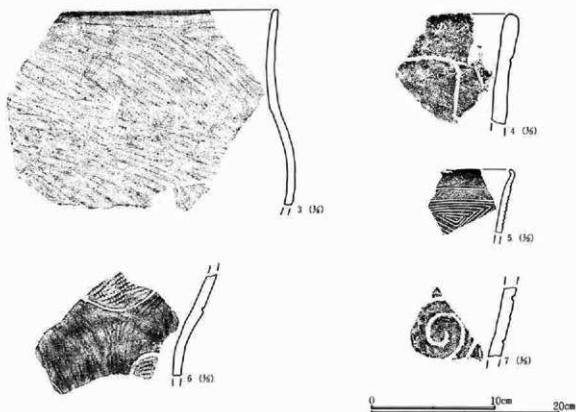
- ①黒褐色土 微量の軽石を含み締まりが強い。
- ②暗褐色土 ローム粒子を含む。
- ③褐色土 ロームブロックを含み締まりが弱い。壁などの崩落土と思われる。

0 L=184.80 2m



0 10cm 20cm

第207図 白倉B区244号土坑と出土遺物(1)



第208図 白倉B区244号土坑出土遺物(2)

白倉B区246号土坑

位置 33-47 PL 47・99

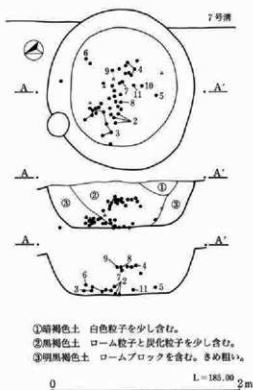
円形プランを呈する土坑である。

出土土器は181点で、大半の145点を一括して取り上げてしまった。土器は、全て加曾利E4式であった。全ての土器の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、埋没土の中～下層からの出土が主体を占めるようである。器形復元が可能な個体や大形の土器片も目立って出土している。土器の接合関係を注目すると広範な接合関係は殆どなく、近接地点同士の接合が多いようである。

石器類は、フレイクが15点出土している。

時期不明のピットに切られる。

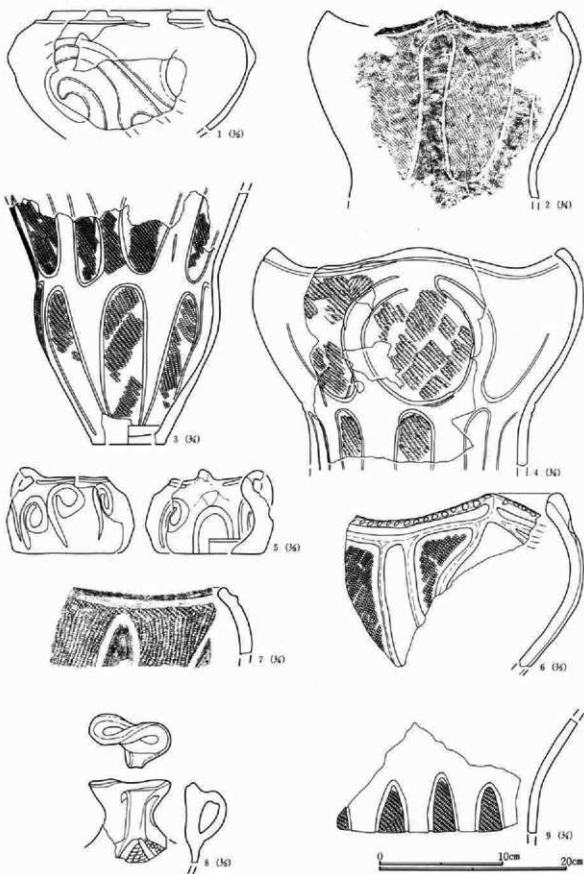
(遺物観察表：365頁)



- ①暗褐色土 白色粒子を少し含む。
 ②黒褐色土 ローム粒子と炭化粒子を少し含む。
 ③明黒褐色土 ロームブロックを含む。きめ粗い。

第209図 白倉B区246号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物



第210図 白倉B区246号土坑出土遺物(1)



第211図 白倉B区246号土坑出土遺物(2)

白倉B区248号土坑

位置 33-46 PL 47・99

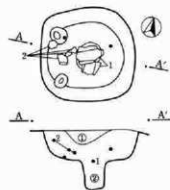
正方形プランを呈する土坑である。

出土土器は24点で、半数の12点を一括して取り上げてしまった。土器は、全て加曾利E4式である。全ての土器の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、2の接合関係からは、埋没途中において、土器片が廃棄された様子が想定できるのではなかろうか。

石器類の出土はなかった。

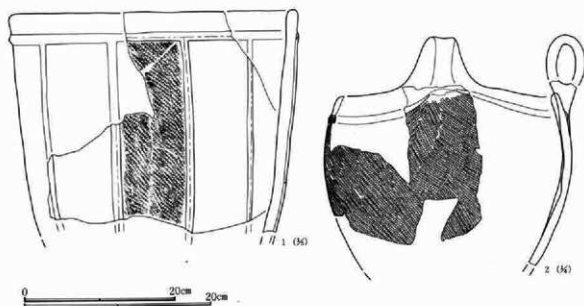
坑底部でピットが三つ検出されている。

(遺物観察表：365頁)



埋没土層

- ①暗茶褐色土 黒色土を多く含む炭化粒子を僅かに含む。
②明茶褐色土 ロームブロックと黒色土のブロックを僅かに含む。



第212図 白倉B区248号土坑と出土遺物

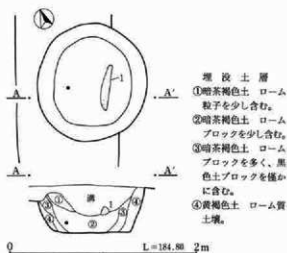
III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区255号土坑

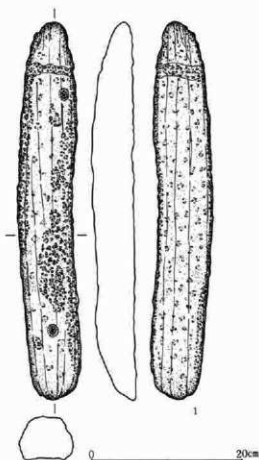
位置 32-48 PL 48

中近世の溝に上部を破壊されるが、円形プランを呈する土坑である。出土土器は後期前半に帰属すると思われる無文の深鉢胴部片が1点出土しただけである。石器類は図示した完形の石棒が1点出土している。

(遺物観察表：366頁)



第213図 白倉B区255号土坑と出土遺物



白倉B区257号土坑

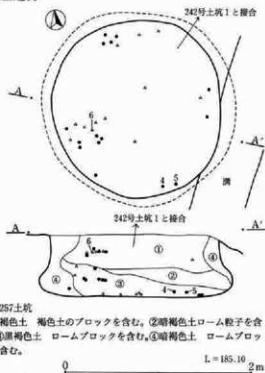
位置 34-49 PL 48・100

円形プランを呈する、断面フラスコ状の土坑である。

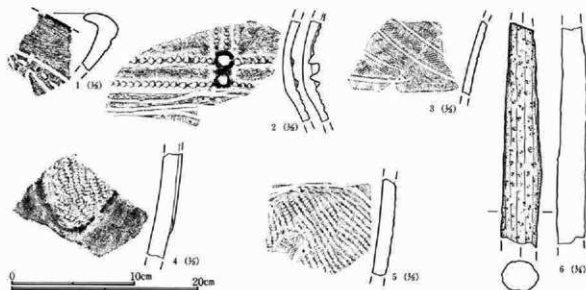
出土土器は173点と多かったのであるが、大半の158点を一括して取り上げてしまった。土器は、加曾利E 4式～堀之内2式に全て帰属する。全ての土器の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、本土坑内同士の接合関係が見られないのは特徴であろう。また、本土坑出土の2(出土位置不明)と北東に約24m離れた242号土坑の1は同一個体である。

石器類は、図示した石棒以外にはフレイクが3点と鎌が6点出土している。

(遺物観察表：366頁)



第214図 白倉B区257号土坑



第215図 白倉B区257号土坑出土遺物

白倉B区259号土坑

位置 35-49 PL 48・100

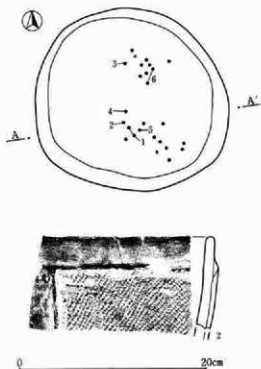
ほぼ円形プランを呈する土坑である。

出土土器は157点で、大半の133点を一括して取り上げてしまった。内訳は、加曾利E 3式1点、加曾

利E 4式157点、土師器2点である。大半の土器の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、土器は坑底近辺からは出土してはいないようである。

石器類は、鏝が1点出土した。

(遺物観察表：367頁)



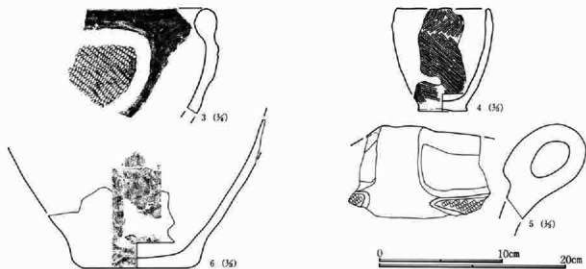
第216図 白倉B区259号土坑と出土遺物(1)



①暗褐色土 ローム粒子と炭化粒子を僅かに含む。やや締まる。

②暗褐色土 ロームブロックを含む。

III 縄文時代の遺構と遺物



第217図 白倉B区259号土坑出土遺物2)

白倉B区273号土坑

位置 35-37 P L 49・113

平面が楕円形プランを呈するピットである。

出土土器は、所謂駒部隆帯文系の加曾利E3式1

個体である。土器の残存状態は口縁～胴上部約1/2

で、多数の破片となってピット内に充填するかのよ
うな出土状態を示している。

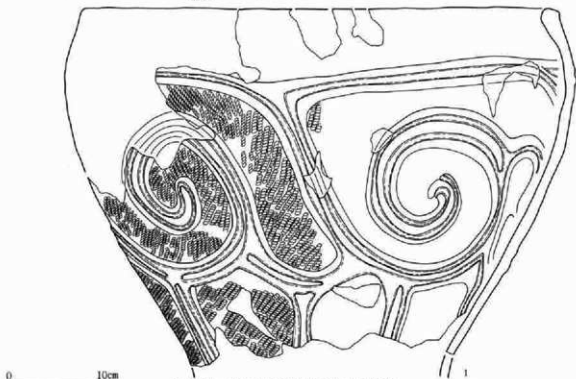
石器類の出土はなかった。

(遺物観察表：368頁)



0 L=185.50 2m

- ①暗褐色土 土器片を多く含む土層、粘性強い。
- ②黒褐色土 黒褐色土を主体としてロームブロックを含む。



第218図 白倉B区273号土坑と出土遺物

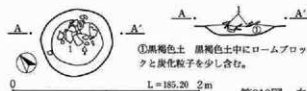
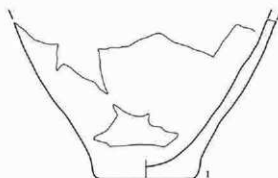
白倉B区274号土坑

位置 35-33 PL 49

平面が円形プランを呈する土坑である。

出土土器は、図示した加背利E4式土器1点だけである。この土器は、確認段階で胴下半部がまとまった状態で散乱しており、その下から底部が出土している。本来は埋甕で、後世の破壊によって上述した出土状況を呈することになったのかも知れない。なお、石器類は出土していない。

(遺物観察表：368頁)



0 10cm

第219図 白倉B区274号土坑と出土遺物

白倉B区277号土坑

位置 30-42 PL 49・101・113

隅丸長方形プランを呈する土坑である。

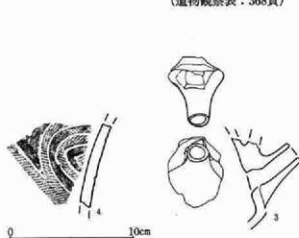
出土土器は21点で、12点を一括して取り上げてしまった。内訳は、堀之内1式20点と堀之内2式1点である。1と2は大形の破片である。また、大半の土器の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、少なくとも遺構内出土土器の接合関係は見られない。

石器類は隙が2点出土している。

(遺物観察表：368頁)

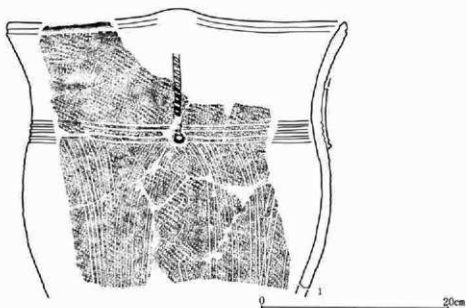


0 L=184.80 2m



第220図 白倉B区277号土坑と出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



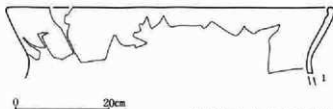
第221図 白倉B区277号土坑出土遺物(2)

白倉B区280号土坑

位置 34-44 P L 49

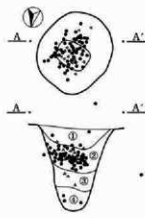
隅丸長方形プランを呈する土坑である。出土土器は竇磯b(新)式2点と後期前半に帰属と思われる土器片61点であった。後期前半に帰属と思われる土器は、図示した1で直径60cm以上の口縁部をもつ深鉢である。この土器が破片となって出土しており、土器が潰れた状態で出土しているのではない。土器片に混じるように礫が12点出土している。

(遺物観察表: 368頁)



● No.1

▲ 礫



①褐色土 ローム粒子とロームブロックを含む。

②褐色土 ロームブロックと灰白色粘土を含む。

③褐色土 ロームブロックを含む。

④褐色土 ローム粒子を含む。

0 L=185.40 2m

第222図 白倉B区280号土坑と出土遺物

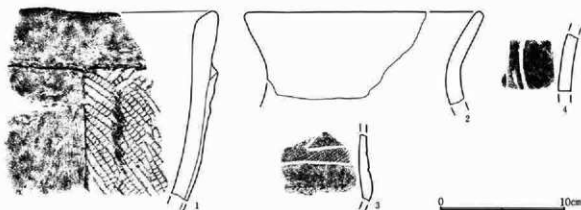
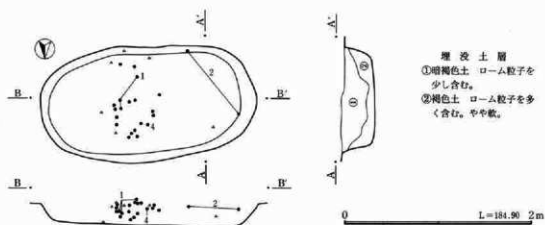
白倉B区283号土坑

位置 30-34 P L 50・102

楕円形プランを呈する土坑である。出土土器は80点で、58点を一括して取り上げた。内訳は、加曾利E4式3点、称名寺II式1点、堀之内2式74点、土師器4点であった。大半の土器の出土位置を記録し

ていないので確かなことはいえないが、少なくとも加曾利E4式3点(1)と称名寺II式1点(4)は埋没土の上層から出土していることから、土器は層位的には出土していない。また他に、フレイク1点と礫が11点出土している。

(遺物観察表: 369頁)



第223図 白倉B区283号土坑と出土遺物

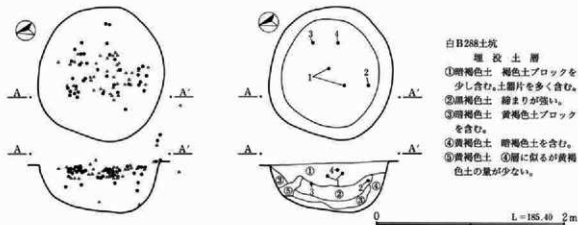
白倉B区288号土坑

位置 37-59 PL 50・102

円形プランを呈する土坑である。出土土器は黒浜式87点で、47点を一括して取り上げた。この中には、多数の有尾式土器も含まれている。また、他に42

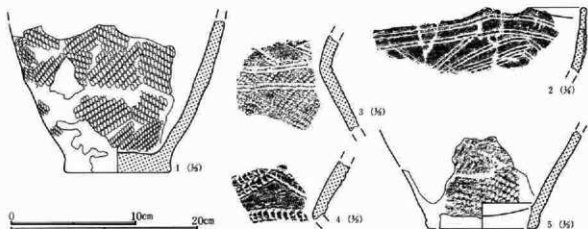
点の小礫が出土している。全ての遺物の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、出土遺物は、①層中に分布の中心があるように見受けられる。

(遺物観察表：369頁)



第224図 白倉B区288号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物



第225図 白倉B区288号土坑出土遺物

白倉B区291号土坑

位置 37-51 PL 51・102

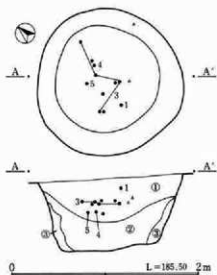
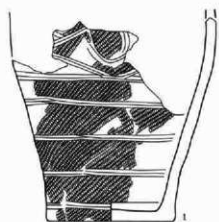
円形プランを呈する土坑である。

出土土器は32点で、21点を一括して取り上げてしまった。内訳は、黒浜式(有尾式系土器)1点以外は全て諸磯b(新)式である。

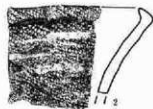
石器類では、図示した石器2点と他に標2点が出土している。

全ての遺物の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、出土遺物は、①層中に分布の中心があるように見受けられる。

(遺物観察表：370頁)

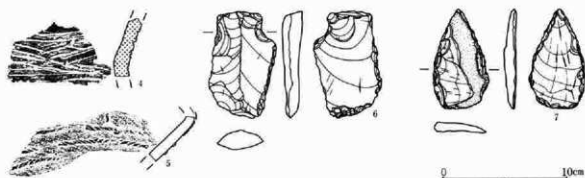


- 埋没土層
- ①暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。
 - ②暗褐色土 ローム粒子を少し含む。
 - ③暗褐色土 ロームブロックを含む。やや軟。



0 10cm

第226図 白倉B区291号土坑と出土遺物(1)



第227図 白倉B区291号土坑出土遺物(2)

白倉B区299号土坑

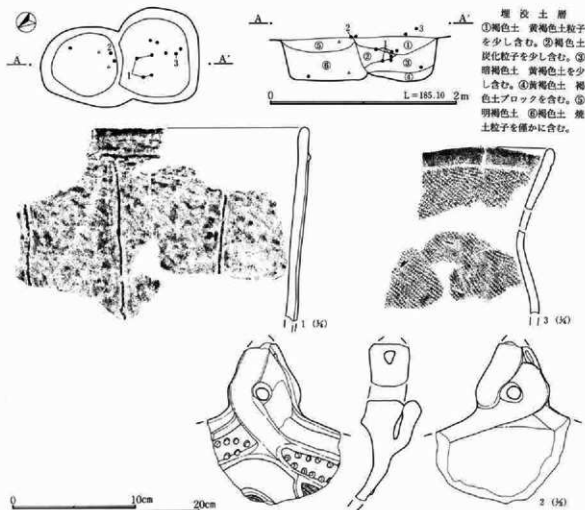
位置 35-32 P L 51・103

一つの土坑として調査されたが、形状や埋没土の観察から、明らかに2基の土坑の重複であろう。2基の土坑は円形プランを呈している。

出土土器は43点で、31点を一括して取り上げてしまった。全て、加曾利E4式～称名寺I式期に帰属し、加曾利E式系土器も含まれる。

石器類は鏃が2点出土している。

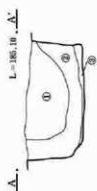
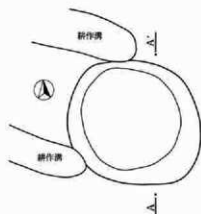
(遺物観察表：370頁)



第228図 白倉B区299号土坑と出土遺物

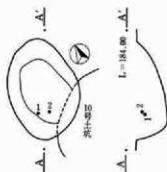
III 縄文時代の遺構と遺物

2号土坑

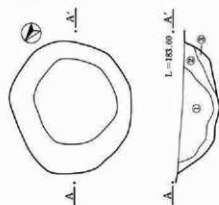


- 埋設土層
- ①褐色土 ロームブロックを多く含む。
 - ②褐色土 ロームブロックを少し含む。
 - ③褐色土 暗褐色土をブロック状に含む。

11号土坑

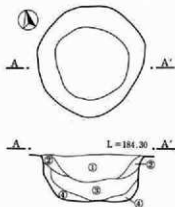


18号土坑



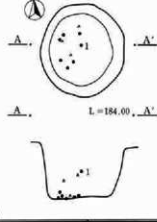
- 埋設土層
- ①暗褐色土 細まりが高い。
 - ②褐色土
 - ③黄褐色土 ローム質土壌。

36号土坑



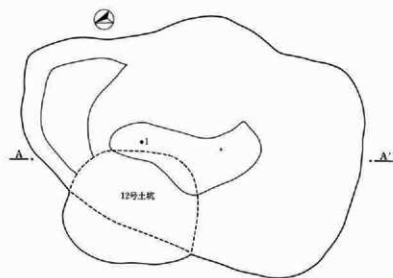
- 白B36土坑
埋設土層
- ①褐色土
 - ②褐色土 ローム粒子を含む。
 - ③暗褐色土 ローム粒子を含む。
 - ④暗褐色土 ローム粒子を含む。

49号土坑



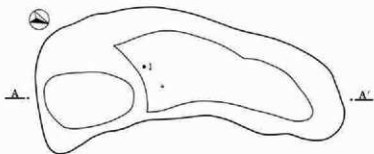
第229図 白倉B区2・11・18・36・49号土坑

13号土坑



- 埋没土層
- ①褐色土
 - ②暗褐色土 土器片を含む。
 - ③暗褐色土 土器片を含む。
 - ④茶褐色土 ローム粒子を含む。
 - ⑤暗黄褐色土 ローム質土層。

15号土坑

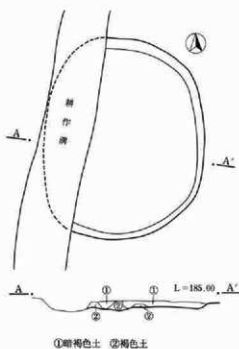


0 ————— 2m

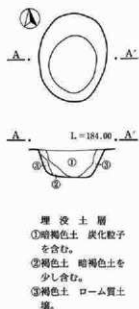
第230图 白倉B区13・15号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物

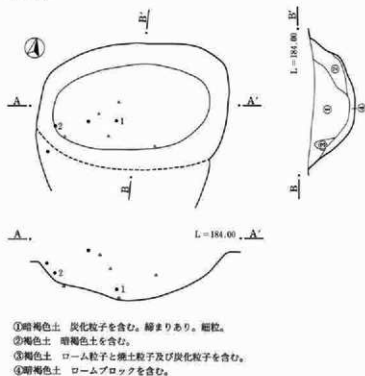
41号土坑



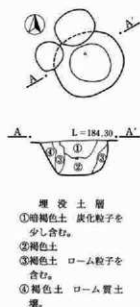
50号土坑



53号土坑



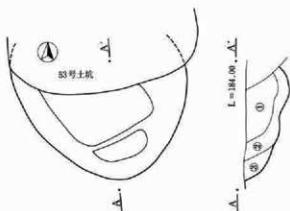
55号土坑



0 2m

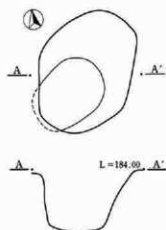
第231図 白倉B区41・50・53・55号土坑

54号土坑

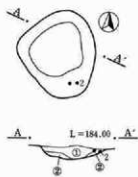


- ①暗褐色土
②暗褐色土
③褐色土 ローム粒子を含む。

59号土坑

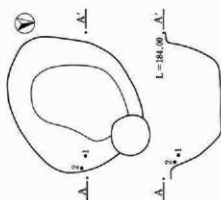


65号土坑

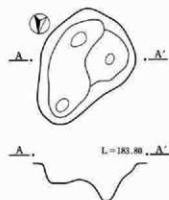


- ①褐色土
ローム粒
子を含む。
②褐色土

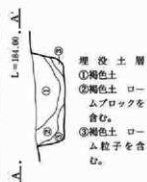
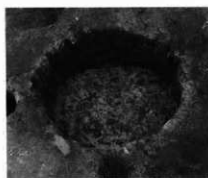
82号土坑



84号土坑



69号土坑

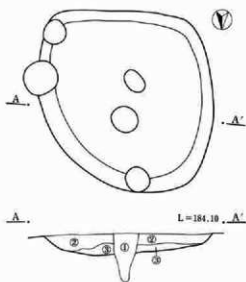


- 埋 没 土 層
①褐色土
②褐色土 ローム
ブロックを
含む。
③褐色土 ローム
粒子を含む。

0 2m

III 縄文時代の遺構と遺物

85号土坑



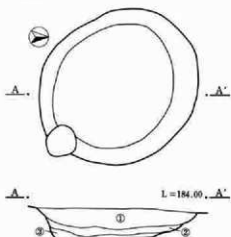
埋 設 土 層

- ①暗褐色土 ロームブロックを多く含む。
- ②黒褐色土 白色粒子和ローム粒子を含む。
- ③褐色土 ロームブロックを多く含む。

86号土坑



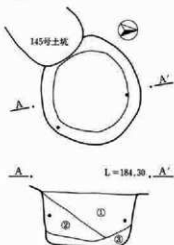
87号土坑



埋 設 土 層

- ①暗褐色土 白色粒子和ローム粒子を含む。
- ②暗褐色土 ロームブロックを含む。
- ③暗褐色土 ②層よりロームブロックを多く含む。

89号土坑



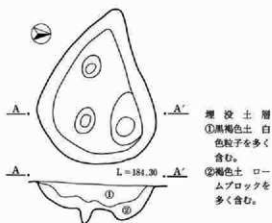
埋 設 土 層

- ①黒褐色土
- ②明黒褐色土
- ③明黒褐色土 ロームブロッ
クを多く含む。

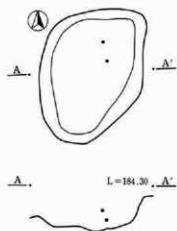
0 2m

第233図 白倉B区85・86・87・89号土坑

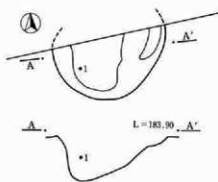
90号土坑



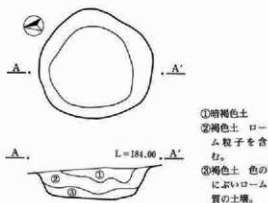
96号土坑



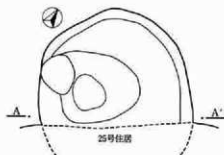
99号土坑



102号土坑



108号土坑

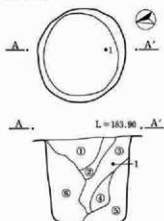


0 2m

第234図 白倉B区90・96・99・102・108号土坑

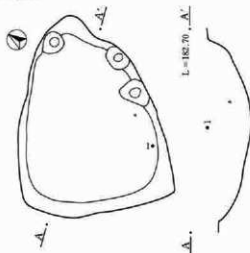
III 縄文時代の遺構と遺物

115号土坑

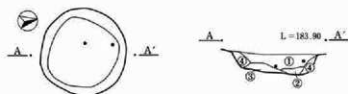


- ①暗褐色土
- ②暗褐色土
褐色土を含む。
- ③褐色土
- ④褐色土
ローム粒子
を少し含む。
- ⑤暗褐色土
- ⑥暗褐色土
ローム
ブロックを含む。

123号土坑

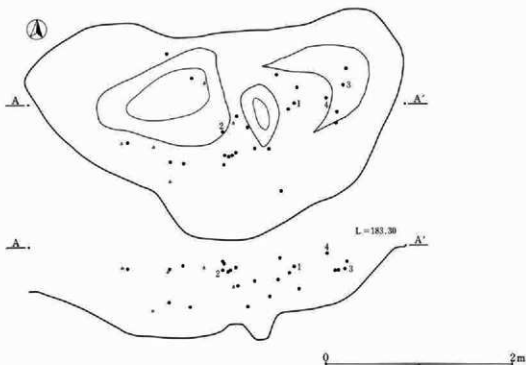


124号土坑



- ①黒褐色土 炭化粒子を含む。
- ②褐色土 わずかに黒色土を含む。
- ③褐色土 黒色土のブロックを含む。
- ④暗茶褐色土

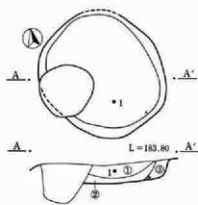
122号土坑



第235図 白倉B区115・122・123・124号土坑

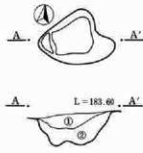
4 土 坑

126号土坑



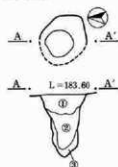
①暗褐色土 ②暗褐色土 褐色土を含む。
③褐色土

131号土坑



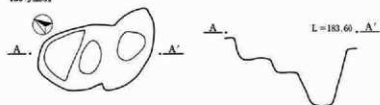
埋 設 土 層
①褐色土 炭化粒子を僅かに含む。
②褐色土 ローム粒子と暗褐色土を少し含む。

134号土坑

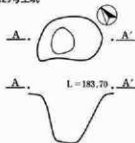


埋 設 土 層
①褐色土 炭化粒子を僅かに含む。②褐色土 ローム粒子を含む。③褐色土 ローム粒子と暗褐色土を少し含む。

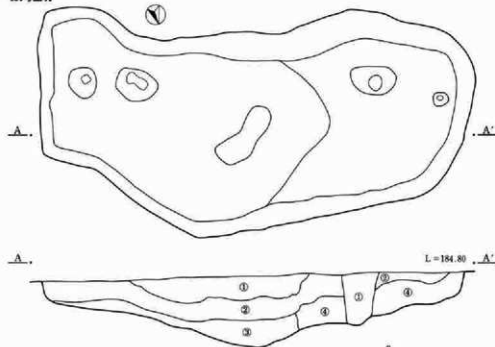
130号土坑



129号土坑



139号土坑



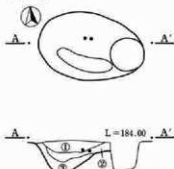
埋 設 土 層
①黒褐色土 白色粒子を少し含む。
②暗褐色土 ロームブロックを僅かに含む。
③暗茶褐色土 ロームブロックを②層より多く含む。
④明茶褐色土 ロームブロックを多く含む。

0 2m

第236図 白倉B区126・129・130・131・134・139号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物

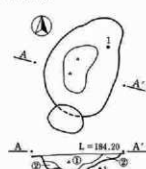
141号土坑



埋設土層

- ①暗褐色土 白色粒子和ローム粒子を含む。
 ②暗褐色土 白色粒子和ロームブロックを含む。
 ③褐色土 ローム粒子を多く含む。

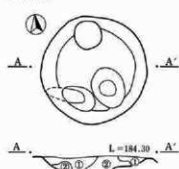
143号土坑



①黒褐色土

- ②暗茶褐色土 白色粒子和ローム粒子を含む。

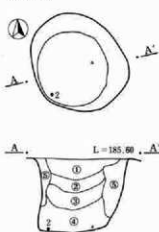
144号土坑



埋設土層

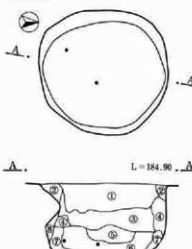
- ①黒褐色土 ローム粒子を含む。
 ②暗茶褐色土 ローム粒子を含む。

164号土坑



- ①褐色土 ②褐色土 ③褐色土 炭化粒子和ローム粒子を少し含む。④暗褐色土 炭化粒子和ローム粒子を少し含む。⑤褐色土 ローム質土壌。

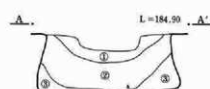
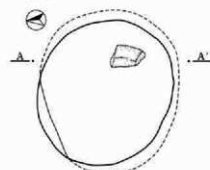
174号土坑



埋設土層

- ①暗褐色土 白色粒子和炭化粒子和ローム粒子を含む。②暗褐色土 ③層に似るがロームブロックを多く含む。③暗茶褐色土 ロームブロックを多く含む。④暗茶褐色土 ⑤層よりロームブロックを少なく含む。⑤暗茶褐色土 ローム粒子を僅かに含む。⑥暗茶褐色土 ⑦暗茶褐色土 ロームブロックを僅かに含む。⑧明茶褐色土 ローム粒子を少し含む。

175号土坑

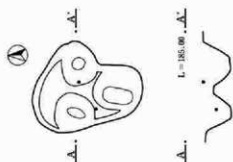


- ①暗褐色土 白色粒子和炭化粒子を含む。
 ②黒褐色土 白色粒子和炭化粒子を含む。
 ③黒褐色土 ①②層に似るがロームブロックを少し含む。

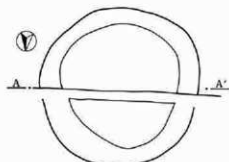
0 2m

第237図 白倉B区141・143・144・164・174・175号土坑

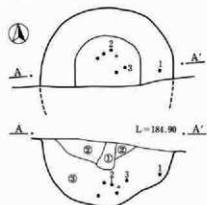
176号土坑



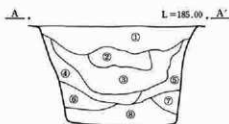
182号土坑



185号土坑

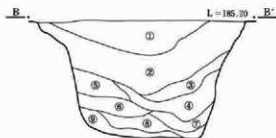
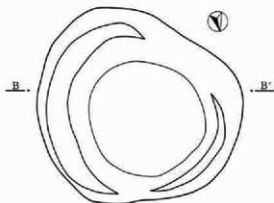


- ①暗褐色土
②褐色土 炭化粒子と焼土粒子を含む。
③茶褐色土



- ①暗褐色土
②暗褐色土
③暗褐色土
④褐色土 ローム粒子を少し含む。
⑤暗褐色土 褐色土を少し含む。
⑥暗褐色土 ロームブロックを含む。
⑦暗褐色土 ローム粒子を少し含む。
⑧暗褐色土

188号土坑



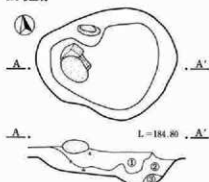
- ①暗褐色土 ②暗褐色土 ①層よりも色調が明るい。③褐色土 ローム粒子を少し含む。④褐色土 ローム粒子を含む。⑤暗褐色土 ローム粒子を含む。⑥暗褐色土 ⑦茶褐色土 ⑧暗褐色土 ローム粒子を含む。⑨暗褐色土 ローム粒子を含む。

0 2m

第238图 白倉B区176・182・185・188号土坑

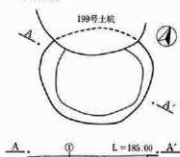
III 縄文時代の遺構と遺物

195号土坑



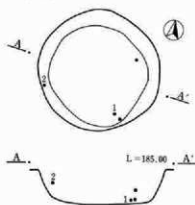
- ①暗褐色土 白色粒子和ローム粒子を含む。
 ②黄褐色土 ロームブロックを多く含む。
 ③暗茶褐色土 粘土質の土壌。

196号土坑



- ①黒褐色土
 ②暗茶褐色土 白色粒子を含む。
 ③黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

199号土坑

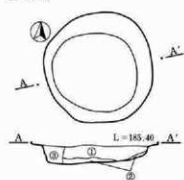


202号土坑



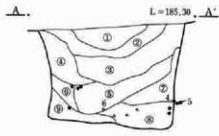
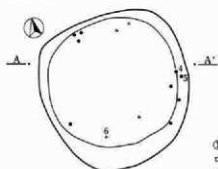
- 縄文土器
 ○ 弥生(中期)土器

211号土坑



- 埋没土層
 ①暗茶褐色土 白色粒子を多く、ロームブロックを少し含む。
 ②暗茶褐色土 ①層よりローム粒子を多く含む。
 ③黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

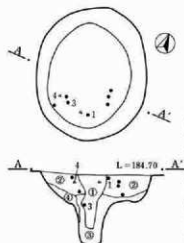
204号土坑



- ①黒褐色土 ローム粒子和白色粒子を含む。②黒褐色土 ローム粒子を含む。③黒褐色土 ロームブロックと炭化粒子を含む。④暗茶褐色土 ロームブロックと白色粒子を含む。⑤暗褐色土 焼土粒子を含む。⑥暗茶褐色土 ローム粒子を含む。⑦暗褐色土 ロームブロックを含む。⑧黒褐色土 ローム粒子を含む。⑨暗茶褐色土 ロームブロックを含む。

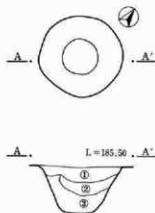
第239図 白倉B区195・196・199・202・204・211号土坑

212号土坑



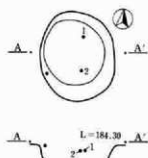
埋 設 土 層
 ①黒褐色土 ②暗
 茶褐色土、白色粒
 子とローム粒子を
 少し含む。③暗茶
 褐色土、ロームブ
 ロックを少し含む。
 ④暗茶褐色土
 ロームブロックを
 少し含む。

215号土坑

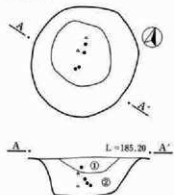


埋 設 土 層
 ①暗茶褐色土、白
 色粒子とローム粒
 子を多く含む。②
 黒褐色土、白色粒
 子を少しとローム
 ブロックを多く含
 む。③暗褐色土
 ロームブロックを
 多く含む。

223号土坑

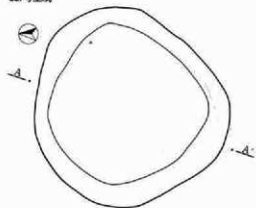


225号土坑



①暗褐色土
 白色粒子と
 ローム粒子を
 多く含む。②
 明茶褐色土
 白色粒子と
 ロームブロッ
 クを多く含
 む。

227号土坑



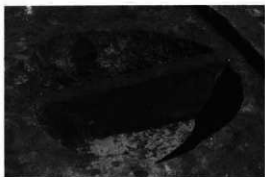
①暗茶褐色土、黒褐色土のブロックとロームブロックを含む。
 ②黄褐色土、ロームブロックを多く黒褐色土のブロックを少
 し含む。

0 2m

第240図 白倉B区212・215・223・225・227号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物

228号土坑



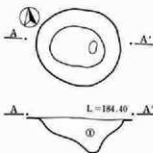
①黒褐色土 褐色土のブロックを含む。②黒褐色土 白色粒子とロームブロックを含む。③暗茶褐色土 ロームブロックと白色粒子及び炭化粒子を含む。④暗茶褐色土 白色粒子と黒色土のブロックを含む。⑤暗茶褐色土 白色粒子を含む。⑥暗茶褐色土 ロームブロックを含む。⑦黄褐色土 ローム粒子を含む。⑧明茶褐色土 ロームブロックを含む。

234号土坑



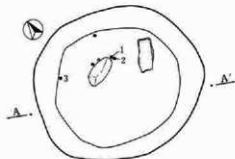
①暗褐色土 ②黒褐色土 ③黒色土 ④暗褐色土 ⑤黒褐色土 ローム粒子を含む。

230号土坑



①暗茶褐色土 白色粒子とローム粒子及びロームブロックを少し含む。

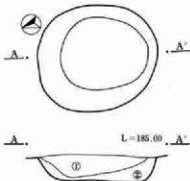
243土坑



埋設土層

①褐色土 ローム粒子を含む。
②暗褐色土 ローム粒子を少し含む。
③黒褐色土 ロームブロックを含み、ややかさつく。上部壁崩落土。

247号土坑

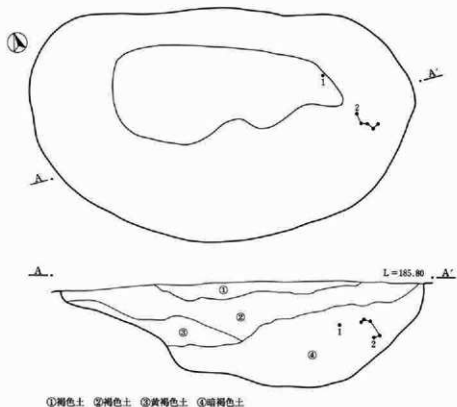


①暗茶褐色土 白色粒子とローム粒子を多く炭化粒子を僅かに含む。
②暗茶褐色土 ロームブロックと黒色土のブロックを含む。

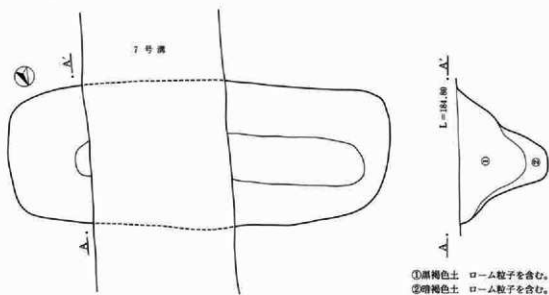
0 2m

第241図 白倉B区228・230・234・243・247号土坑

236号土坑



241号土坑

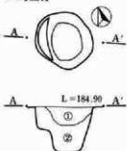


0 2m

第242图 白倉B区236・241号土坑

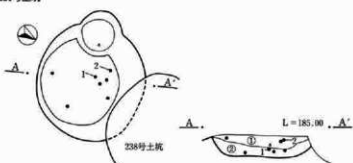
III 縄文時代の遺構と遺物

249号土坑



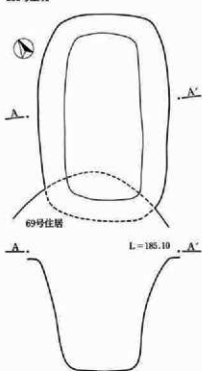
- ①暗茶褐色土 ロームブロックを多く炭化粒子を僅かに含む。
②暗茶褐色土 ロームブロックとローム粒子を少し含む。

250号土坑

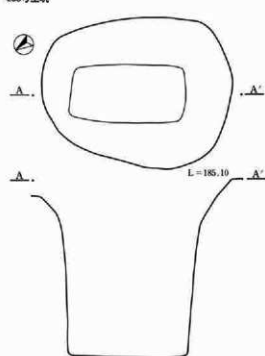


- ①暗茶褐色土 ローム粒子と白色粒子を少し含む。
②暗茶褐色土 ロームブロックを少し含む。

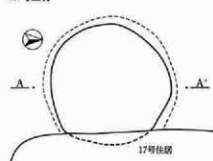
256号土坑



258号土坑



267号土坑

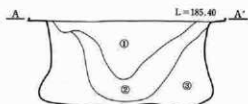
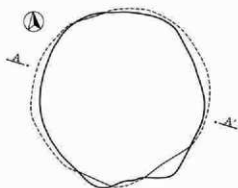


L=185.00 A-A'

0 2m

第243図 白倉B区249・250・256・258・267号土坑

264号土坑



- ①暗褐色土 ローム粒子とロームブロックを多く含む。
 ②暗褐色土 ロームブロックを多く炭化粒子を少し含む。
 ③暗褐色土 ロームブロックを多く含む。

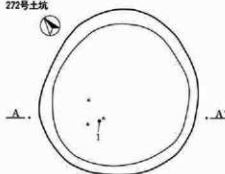
270号土坑



埋設土層

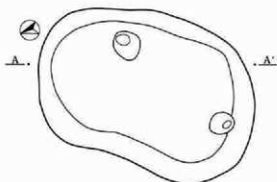
- ①黒褐色土 白色粒子を少し含む。
 ②暗茶褐色土 ローム粒子と白色粒子を少し含む。

272号土坑



- ①黒褐色土 ローム粒子と白色粒子を少し含む。②暗褐色土 粘性の強い土層。
 ③暗褐色土 ②層に似るがロームブロックと炭化粒子を少し含む。

278号土坑



埋設土層

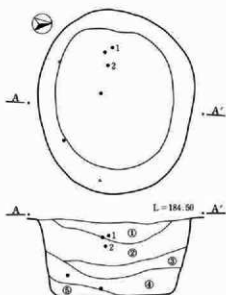
- ①明茶褐色土 黄褐色土のブロックを含む。
 ②暗茶褐色土 ①層よりも小さい黄褐色土のブロックを含む。

0 2m

第244図 白倉B区264・270・272・278号土坑

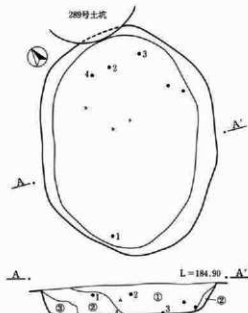
III 縄文時代の遺構と遺物

279号土坑



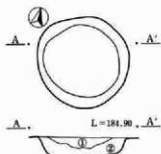
- ①褐色土 粘性の強いローム質の土壌。堅く締まっている。
- ②暗褐色土 Y, P粒子を多く含む。
- ③褐色土 粘性の強いローム質土壌。
- ④暗褐色土 ロームブロックを含む。
- ⑤黒褐色土 粒子の細かな黒褐色土中にロームブロックを少し含む。

282号土坑



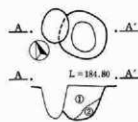
- ①黒褐色土 Y, P粒子とロームブロックを少し含む。
- ②褐色土 ①層と②層の漸移層。
- ③黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

285号土坑



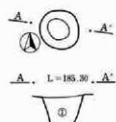
- ①暗褐色土 白色粒子を少し含む。
- ②褐色土 Y, P粒子を少し含む。

286号土坑



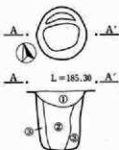
- 埋 設 土 層
- ①暗褐色土 ローム粒子を少し含む。
 - ②黄褐色土 ロームブロックを主体として炭化粒子を少し含む。

281号土坑



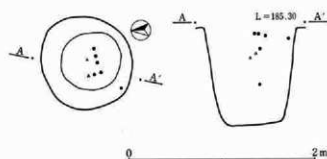
- ①褐色土 ローム粒子を多く含む。

296号土坑



- 埋 設 土 層
- ①暗褐色土 白色粒子とローム粒子を多く含む。
 - ②暗茶褐色土 ロームブロックを多く含む。
 - ③明茶褐色土 ②層よりもロームブロックを多く含む。

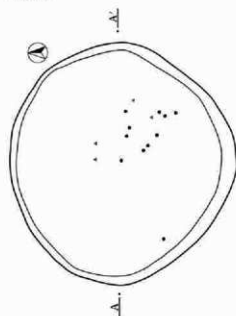
295号土坑



0 2m

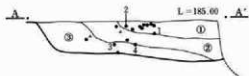
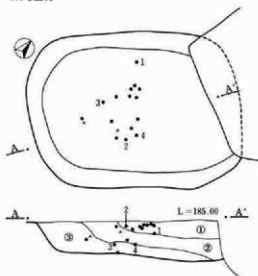
第245図 白倉B区279・281・282・285・286・295・296号土坑

287号土坑



①黒褐色土 ②暗褐色土 ③褐色土

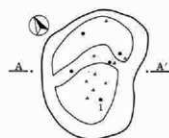
298号土坑



埋 設 土 層

- ①暗褐色土 ローム粒子と白色粒子を多く含む。
 ②暗褐色土 炭化粒子とロームブロックを多く含む。
 ③暗茶褐色土 ロームブロックを多く、黒色土のブロックを少し含む。

300号土坑



- ①暗茶褐色土 ローム粒子を含む。
 ②暗茶褐色土 ローム粒子と白色粒子及び暗褐色土のブロックを少し含む。
 ③明茶褐色土 ロームブロックを多く含む。

0 2m

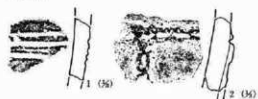
第246図 白倉B区287・298・300号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物

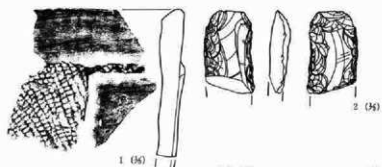
2号土坑



11号土坑



13号土坑



15号土坑



36号土坑



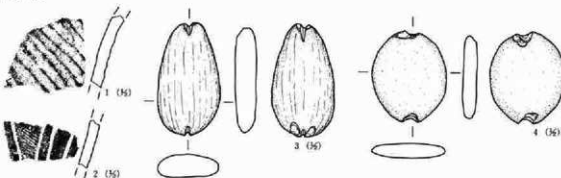
41号土坑



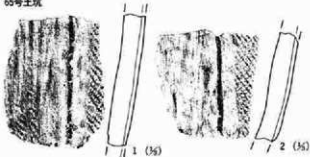
49号土坑



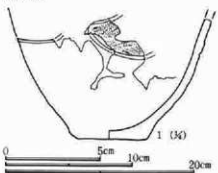
53号土坑



65号土坑

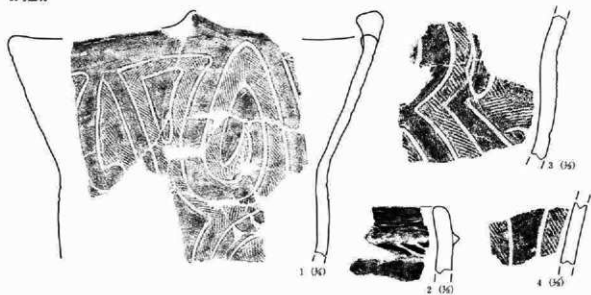


86号土坑

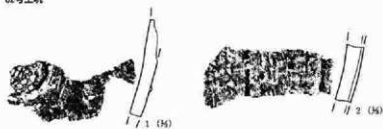


第247图 白倉B区2・11・13・15・36・41・49・53・65・86号土坑出土遺物

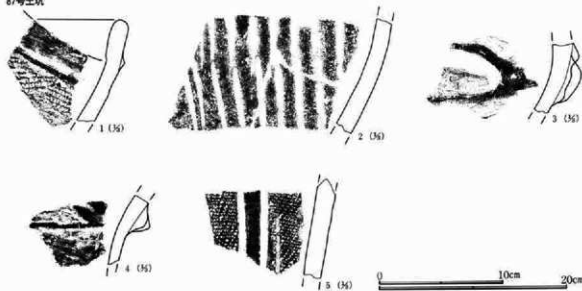
59号土坑



82号土坑



87号土坑



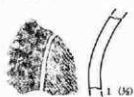
第248图 白倉B区59·82·87号土坑出土遗物

III 縄文時代の遺構と遺物

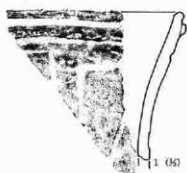
99号土坑



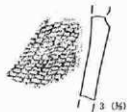
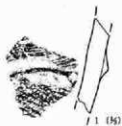
102号土坑



115号土坑



122号土坑



123号土坑



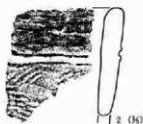
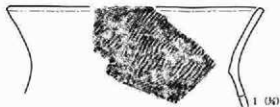
126号土坑



141号土坑



139号土坑

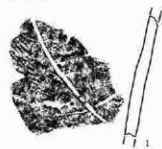


第249図 白倉B区99・102・115・122・123・126・139・141号土坑出土遺物

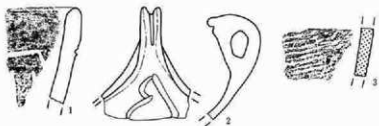
143号土坑



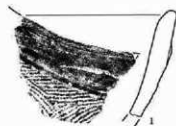
144号土坑



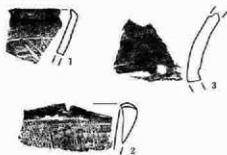
164号土坑



167号土坑



168号土坑



169号土坑



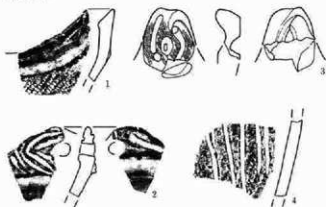
174号土坑



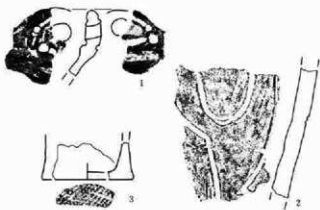
第250图 白倉B区143·144·164·167·168·169·174号土坑出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

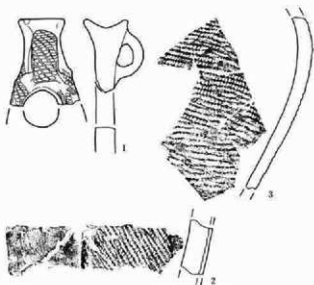
175号土坑



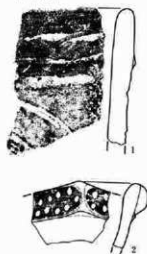
182号土坑



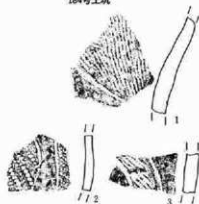
185号土坑



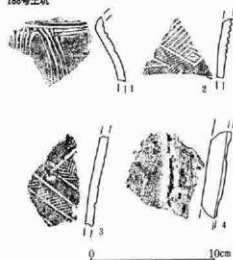
176号土坑



184号土坑



188号土坑

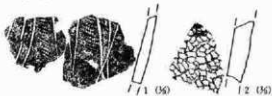


第251図 白倉B区175・176・182・184・185・188号土坑出土遺物

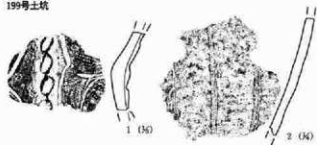
195号土坑



202号土坑



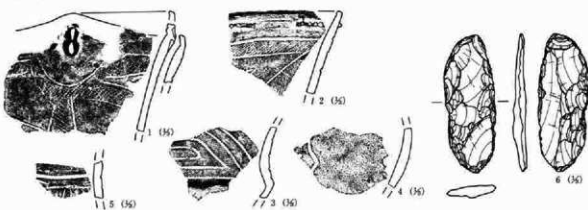
199号土坑



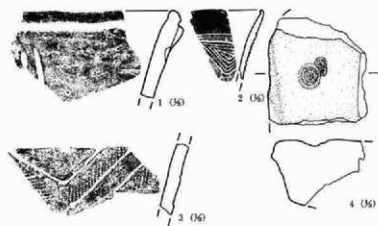
211号土坑



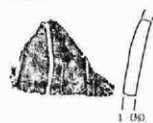
204号土坑



212号土坑



230号土坑

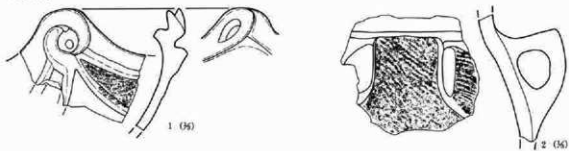


0 10cm 20cm

第252图 白倉B区195・199・202・204・211・212・230号土坑出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

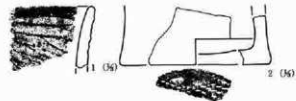
223号土坑



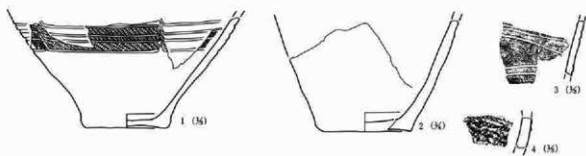
227号土坑



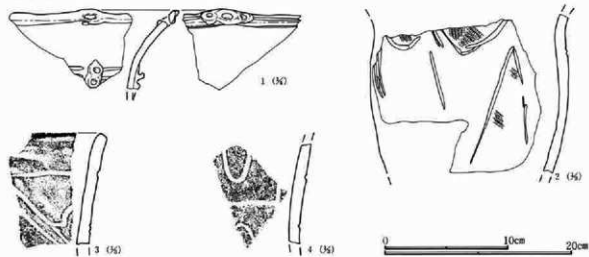
234号土坑



236号土坑

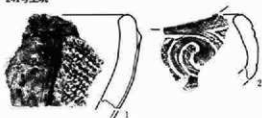


243号土坑

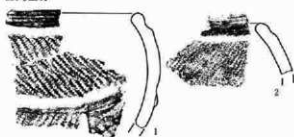


第253図 白倉B区223・227・234・236・243号土坑出土遺物

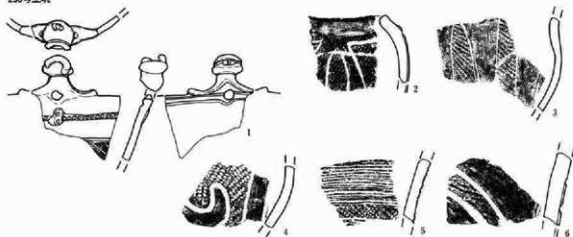
241号土坑



250号土坑



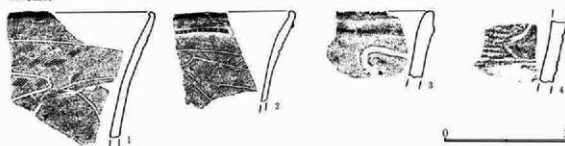
256号土坑



258号土坑



264号土坑

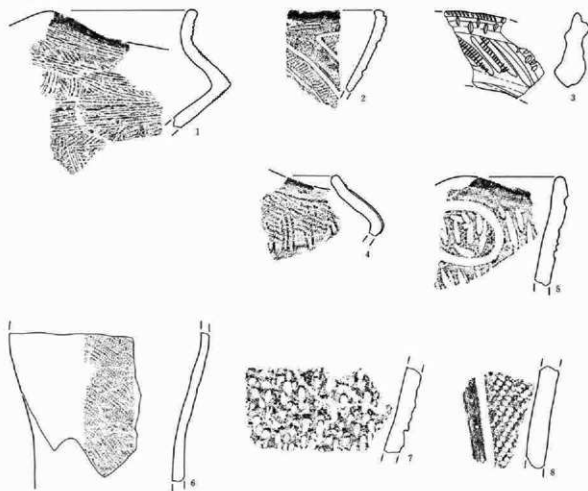


0 10cm

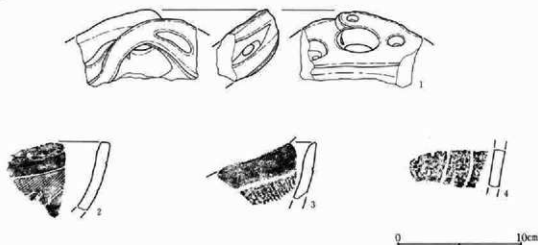
第254图 白倉B区241・250・256・258・264号土坑出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

272号土坑

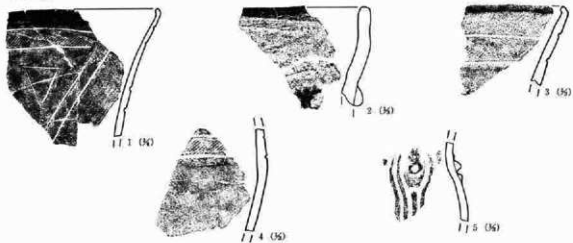


279号土坑

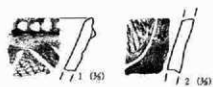


第255図 白倉B区272・279号土坑出土遺物

282号土坑



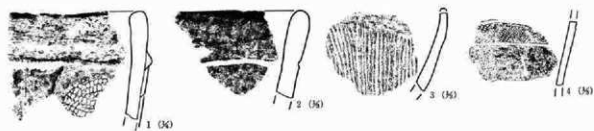
278号土坑



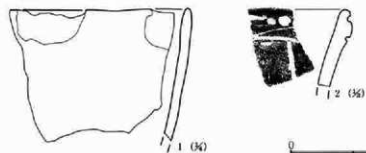
287号土坑



298号土坑



300号土坑



第256图 白倉B区278·282·287·298·300号土坑出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

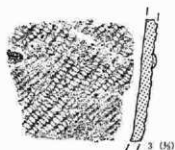
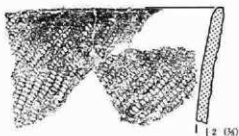
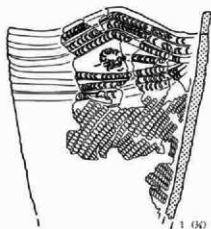
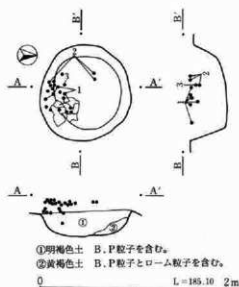
白倉C区44号土坑

位置 39-72 P L 52・103

円形プランを呈する土坑である。

出土土器は黒浜式23点で、この中には1に代表される有尾式系土器も含まれている。土器の接合関係は、1と2の2例が確認できている。この土坑は、表土を除去した段階で遺物が比較的多く出土したことから、遺構プランを精査した。そのために、土器の出土位置(高さ)は、遺構が確認できた高さよりも相対的に高くなっている。なお、石器類は出土していない。

(遺物観察表：371頁)



第257図 白倉C区44号土坑と出土遺物

白倉C区45号土坑

位置 39-72 P L 52・104

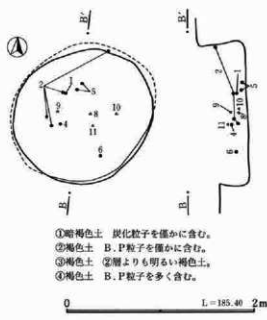
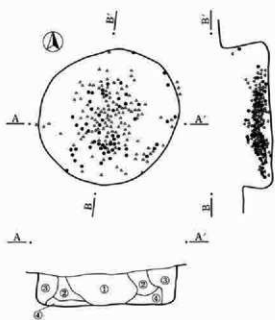
円形プランで、断面フラスコ状を呈する土坑である。

出土土器は黒浜式73点(有尾式系土器を含む)で、18点を一括して取り上げてしまった。土器の接合関係は、1と2の2例が確認できている。このうち、2は比較的広範な接合関係が見られる。

石器類は、石器7点と礫が138点と多量に出土して

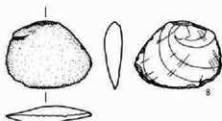
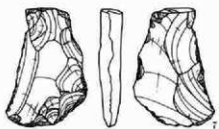
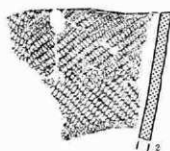
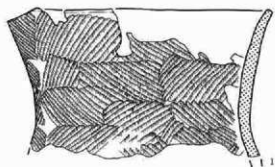
いる。

全ての遺物の出土位置を記録できなかったのが残念なことはいえませんが、土器と石器類の出土位置はほぼ同じであり、埋没土の中層に分布の中心があるように見受けられる。また、坑底直上からの遺物出土は極端に少ないのも特色であろう。このような出土状態から、坑底部に僅かな埋没土が堆積した後に、多くの土器片と石器類と一緒に廃棄された状況が想定されよう。(遺物観察表：371頁)



- ①暗褐色土 炭化粒子を僅かに含む。
 ②褐色土 B. P粒子を僅かに含む。
 ③褐色土 ②層よりも明るい褐色土。
 ④褐色土 B. P粒子を多く含む。

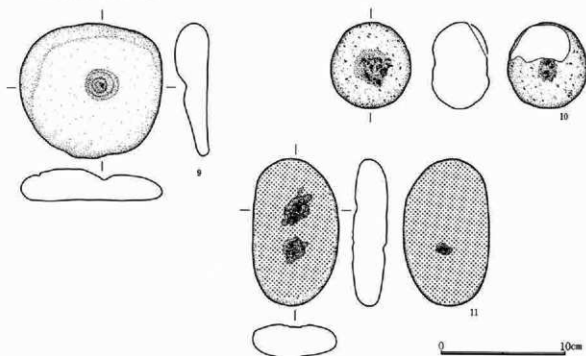
0 L=185.40 2m



0 10cm

第258図 白倉C区45号土坑と出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第259図 白倉C区45号土坑出土遺物(2)

白倉C区46号土坑

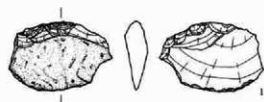
位置 38-71 PL なし

不定形な平面プランを呈する土坑である。

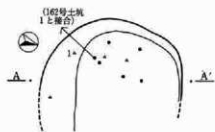
出土土器は26点で、20点を一括して取り上げてしまった。内訳は、黒浜式23点(有尾式系土器を含む)と土師器3点である。遺構内出土土器の接合関係はみられなかったが、埋没土の上層から出土した1点が、南東約46mに位置する162号土坑1と接合している。

図示した石器以外に鏝が3点出土している。

(遺物観察表：372頁)



0 10cm



埋没土層

- ①褐色土 ローム粒子を少し含む。
- ②褐色土 Y.P.粒子を多く含む。
- ③褐色土 ローム粒子を含む。
- ④褐色土 ローム粒子を多く含む。

0 L=185.40 2m

第260図 白倉C区46号土坑と出土遺物

白倉C区51号土坑

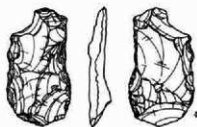
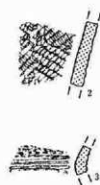
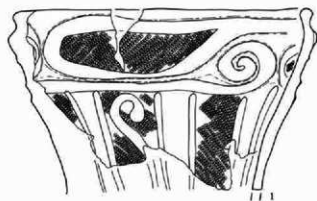
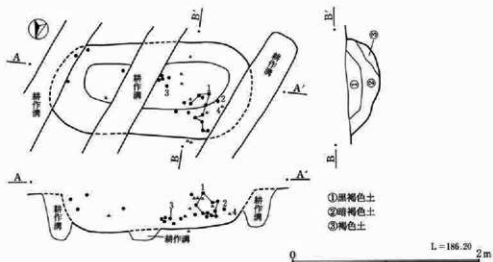
位置 41-69 P L 52・104

現代の耕作溝3本によって破壊されるが、楕円形プランを呈する土坑である。

出土土器は28点で、5点を一括して取り上げてしまった。内訳は、黒浜式8点、諸磯C式1点、加曾

利E3式13点、土師器6点である。全ての土器の出土位置を記録しなかったために不明な事も多いが、土器型式に応じて出土土器が層位的に出土している状況は見受けられないようである。

石器類は、図示した石器2点以外に、鎌が4点出土している。(遺物観察表：373頁)



第261図 白倉C区51号土坑と出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区58号土坑

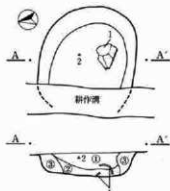
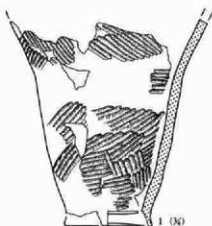
位置 38-69 P L 53・104

現代の耕作溝によって破壊されるが、楕円形プランを呈すると思われる土坑である。

出土土器は図示した黒浜式土器1点だけである。この土器は口縁部と胴部を欠損しており、ほぼ坑底直上から出土している。

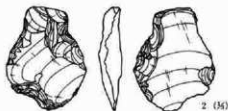
石器類は、図示した石器1点が出土している。

(遺物観察表：373頁)



- ①褐色土 ローム粒子を含む。
- ②褐色土 ローム粒子を含む。
- ③褐色土 ロームブロックを主体とする。

0 L=185.90 2m



0 10cm 20cm

第262図 白倉C区58号土坑と出土遺物

白倉C区59号土坑

位置 38-69 P L 53・105

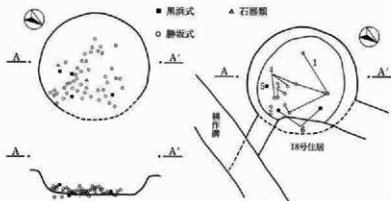
古墳時代後期の18号住居によって破壊されるが、円形プランを呈する土坑である。

出土土器は48点である。内訳は、黒浜式4点と勝

板II式～勝板式終末期44点である。

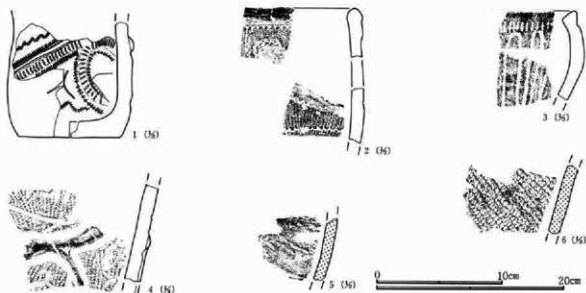
石器類は、フリイク1点と鏃1点が出土した。

出土遺物は、埋設土の下層から集中して出土している。出土土器の状況から、おそらく黒浜式土器は混入した可能性が強い。(遺物観察表：374頁)



0 L=185.90 2m

第263図 白倉C区59号土坑



第264図 白倉C区59号土坑出土遺物

白倉C区95号土坑

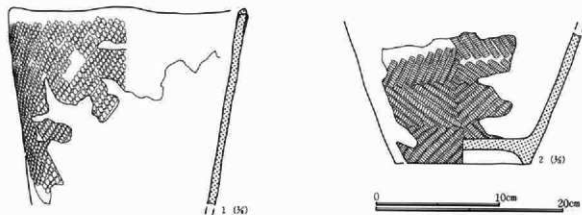
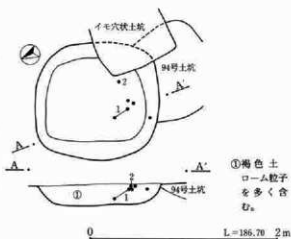
位置 41-67 PL 53・106

イモ穴状土坑によって破壊されるが、隅丸方形プランを呈する土坑である。

出土土器は黒浜式6点で、石器類の出土はなかった。出土点数は少なかったが、器形が復元できる大形の破片が出土している。

本土坑と同じ黒浜式期に帰属する94号土坑と重複しており、本土坑のほうが新しい。

(遺物観察表：376頁)



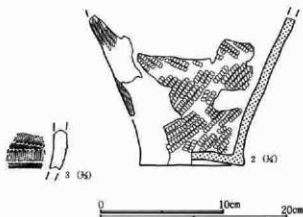
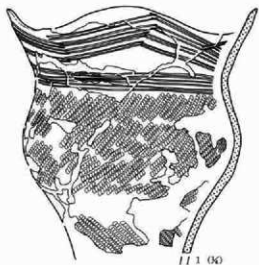
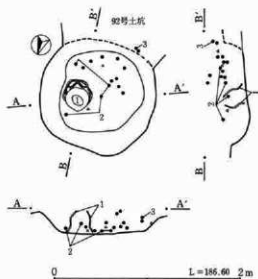
第265図 白倉C区95号土坑と出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区96号土坑

位置 41-66 PL 53・105

隅丸方形プランを呈する土坑である。出土土器は16点で、勝坂Ⅱ式1点以外は黒浜式(有尾式系土器を含む)である。接合関係は4点の破片が接合した2の1例だけであった。1は口縁部の一部と底部を欠損する深鉢で、逆位で北側に僅かに傾いた状態で検出されている。深鉢埋設に伴う掘り込みは調査時に確認されておらず、埋塞の可能性は弱い。他に、礫が3点出土している。(遺物観察表：376頁)



第266図 白倉C区96号土坑と出土遺物

白倉C区103号土坑

位置 37-67 PL 106

きわめて不定形な平面プランの土坑である。

出土土器は39点で、全ての土器を一括して取り上げてしまった。内訳は、黒浜式37点(有尾式系土器

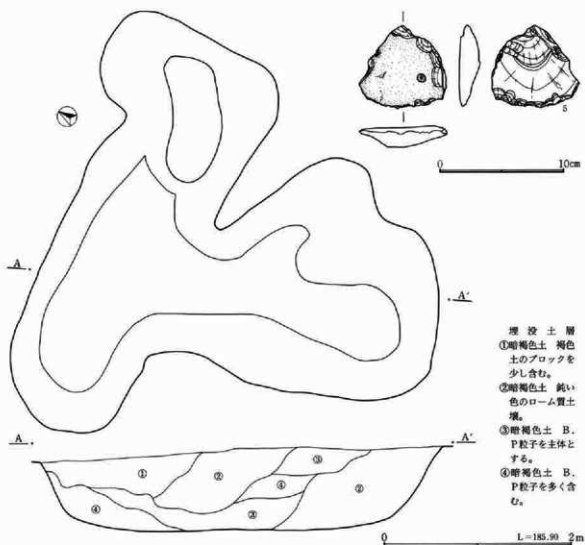
含む)、勝坂式終末期1点、弥生土器1点であった。

石器類は、図示した石器1点の他に礫が4点出土している。

(遺物観察表：377頁)



第267図 白倉C区103号土坑出土遺物(1)



第268図 白倉C区103号土坑と出土遺物(2)

白倉C区109号土坑

位置 36-65 P L 54・106

円形プランを呈する土坑である。

出土土器は、図示した黒浜式土器1点だけであった。この土器は、口縁～胴部の約半分と底部を欠損している。土器の出土状態は、上述した遺存状態の大形破片が潰れた状態で出土している。

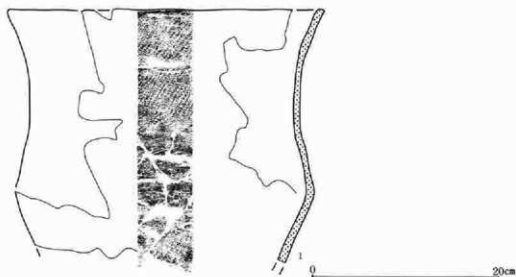
なお、石器類は出土していない。

(遺物観察表：377頁)



第269図 白倉C区109号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物



第270図 白倉C区109号土坑出土遺物

白倉C区116号土坑

位置 43-70 P L 54・106

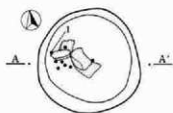
円形プランを呈する土坑である。

出土土器は27点で、19点を一括して取り上げてしまった。内訳は、黒浜式24点(有尾式系土器を含む)と弥生土器2点、土師器1点であった。図化した土器からも理解いただけると思うが、出土した縄文土

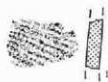
器はいずれも小破片である。僅かな土器しか出土位置を記録しなかったため、確かなことはいえないが、②層からの出土が多い。

石器類は、礫4点が出土している。礫は全て結晶片岩で、まとまった位置からの出土であった。

(遺物観察表：377頁)



- ①暗褐色土
ローム粒子を少し含む。
- ②暗褐色土
ローム粒子を含む。
- ③暗褐色土
ロームブロックを含む。



第271図 白倉C区116号土坑と出土遺物

白倉C区138号土坑

位置 38-63 PL 55・107

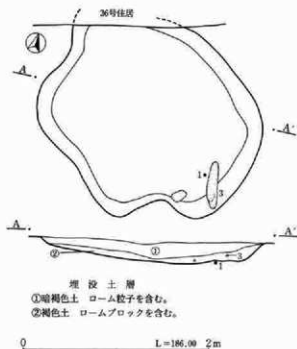
不定形な平面プランの土坑である。

出土土器は8点で、このうち7点を一括して取り上げてしまった。内訳は、黒浜式6点、諸磯b(新)式1点、勝坂式終末期1点である。

石器類は、図示した多孔石1点が壁に接する位置から出土している。他に、礫が5点出土した。

本土坑は、古墳時代後期の36号住居と重複し、この住居に切られている。

(遺物観察表：379頁)



第272図 白倉C区138号土坑と出土遺物

白倉C区151号土坑

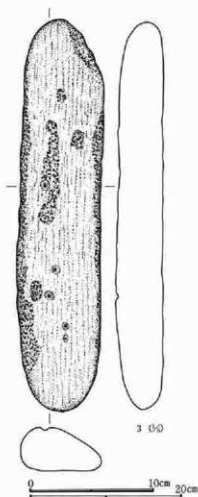
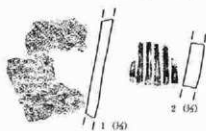
位置 42-67 PL 56

今回の調査で唯一検出された集石土坑である。土坑の平面プランは不定形であった。

出土土器は黒浜式10点で、9点を一括して取り上げてしまった。図示した土器からも理解いただけるように、いずれも小破片である。

礫は40点出土して、5点を一括して取り上げてし

4 土 坑



まった。礫の多くは被熱した結晶片岩である。耕作溝によって中央が破壊されるが、溝の南側からはあまり礫が出土しておらず、このような検出状態から南側は別の土坑である可能性もある。礫は確認面で面的に検出されており、埋没土中からは出土していない。(遺物観察表：380頁)

III 縄文時代の遺構と遺物



白倉C区157号土坑

位置 38—61 P L 56・108

イモ穴状土坑によって南側を破壊されるが、いづれにせよ不定形なプランの土坑である。土坑中央に溝状の掘り込みが検出されている。出土土器は7点

で、3点を一括して取り上げてしまった。内訳は、黒浜式2点と勝板式終末期5点である。石器類は、図示した凹み石1点と他に鏃が3点出土している。

(遺物観察表：381頁)



白倉C区162号土坑

位置 40—62 P L 108

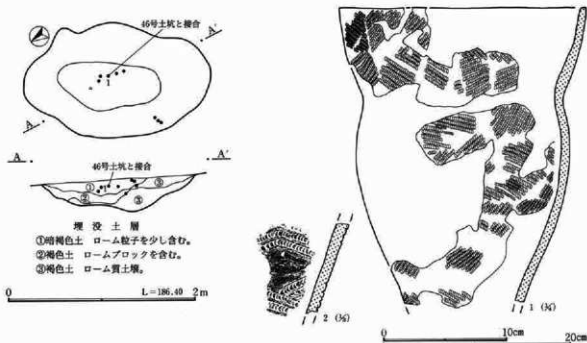
不定形な平面プランの土坑である。

出土土器は黒浜式105点(有尾式系土器を含む)で、大半の97点を一括して取り上げてしまった。埋設土

の上層から出土した1と、北西約46mに位置する46号土坑出土土器が接合した。

石器類は、フレイク3点と鏃3点が出土した。

(遺物観察表：381頁)



第275図 白倉C区162号土坑と出土遺物

白倉C区164号土坑

位置 41-72 PL 57・108

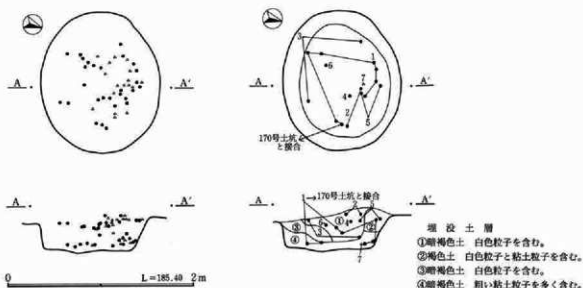
円形に近いプランを呈する土坑である。

出土土器は黒浜式(有尾式系土器を含む)39点で、13点を一括して取り上げてしまった。全ての土器の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、土器は埋没土の上層と下層それぞれに分布の中心が見受けられる。一方、土器の接合関係をみる

と、上層と下層から出土した土器で接合しているものが2例(1と3)確認でき、土器片の廃棄は層位には関係なく一括して行われた可能性が強いのではなからうか。また、1は本土坑の6m北西に位置する170号土坑出土土器と接合している。

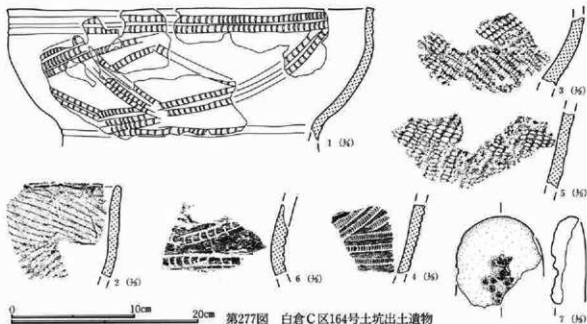
石器類は、図示した凹み石1点の他に、フレイク1点と礫が18点出土している。

(遺物観察表：381頁)



第276図 白倉C区164号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物



第277図 白倉C区164号土坑出土遺物

白倉C区170号土坑

位置 40-73 PL 57・108

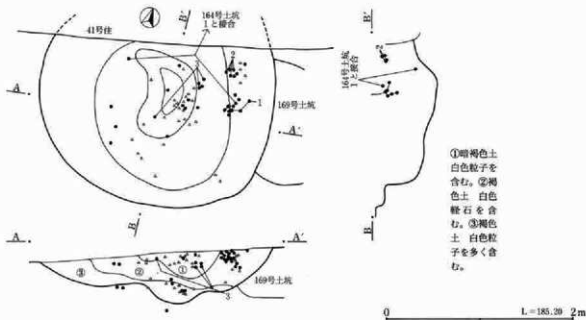
平安時代の41号住居に破壊されるが、おそらく円形に近いプランを呈する土坑であろう。

出土土器は黒浜式63点(有尾式系土器を含む)で、29点を一括して取り上げた。全ての土器の出土位置を記録していないので確かなことはいえないが、土

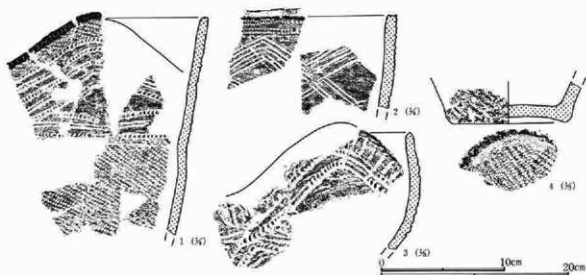
器の接合関係は層位ごとにまとまる傾向があるように見受けられる。また、本土坑出土の2点の土器片が、6m南東に位置する164号土坑の1と接合している。

石器類は、礫が32点出土した。

また、本土坑と同じ黒浜式期に帰属する169号土坑を切っている。(遺物観察表:382頁)



第278図 白倉C区170号土坑



第279図 白倉C区170号土坑出土遺物

白倉C区185号土坑

位置 41-62 PL 58・109

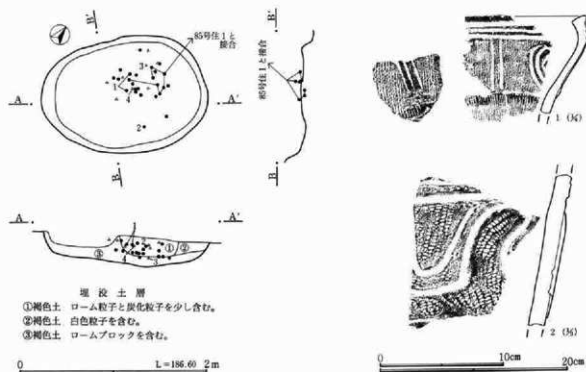
楕円形プランを呈する土坑である。

出土土器は勝坂式終末期51点で、23点を一括して取り上げてしまった。土坑内の接合関係はあまり見られなかったが、住居との接合関係が1例確認でき

た。本土坑出土の8片が北西2mに位置する85号住居出土の1片(85号住居-1)と接合している。

石器類は図示した2点の石器以外に、礫が6点出土している。

(遺物観察表: 382頁)



埋没土層

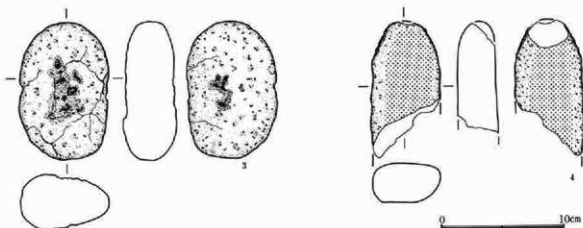
①褐色土。ローム粒子和炭化粒子を少し含む。

②褐色土。白色粒子を含む。

③褐色土。ロームブロックを含む。

第280図 白倉C区185号土坑と出土遺物(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



第281図 白倉C区185号土坑出土遺物(2)

白倉C区194号土坑

位置 40-64 P L 58・109

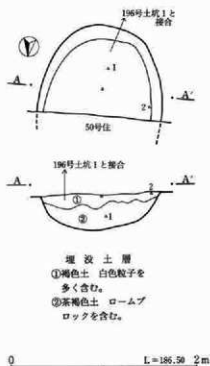
古墳時代後期の50号住居に破壊されるが、おそらく楕円形プランを呈する土坑と思われる。

出土土器は少なく黒浜式2点と時期不明1点で、出土位置を記録せずに取り上げてしまった。この黒浜式1片が、北東14mに位置する196号土坑の1と接

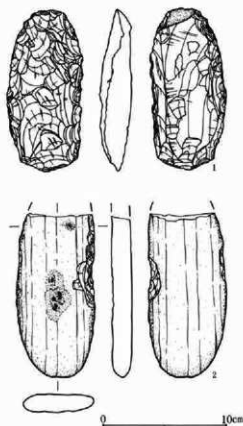
合した。

石器類は、図示した石器2点の他に、礫が1点出土している。

(遺物観察表：383頁)



第282図 白倉C区194号土坑と出土遺物

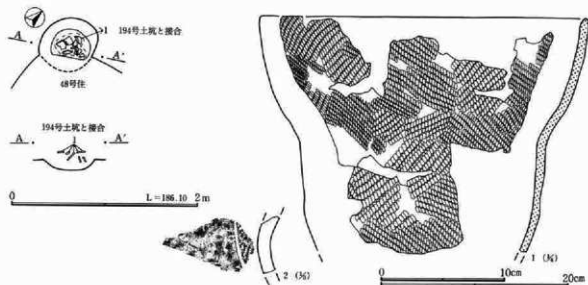


白倉C区196号土坑

位置 38-62 PL 58・109

古墳時代後期の48号住居に破壊されるが、円形プランを呈する土坑である。

出土土器は、図示した黒浜式土器1点と称名寺I式3点で、称名寺式土器については出土した位置を



第283図 白倉C区196号土坑と出土遺物

記録せずに取り上げてしまった。1は大形の破片で南西14mに位置する194号土坑出土の1片と接合している。

なお、石器類は出土していない。

(遺物観察表：383頁)

白倉C区221号土坑

位置 41-63 PL なし

隅丸方形プランを呈する土坑である。

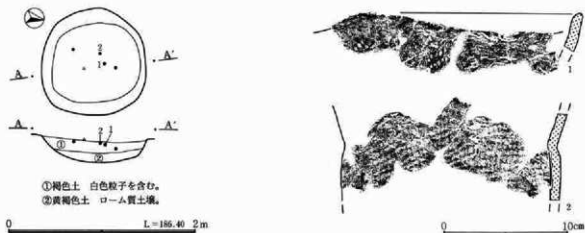
出土土器は4点で、いずれも黒浜式土器である。

1と2は大形の破片で図化した、他の2片は小破

片であった。

石器類は、鎌が1点出土した。

(遺物観察表：384頁)



- ①褐色土 白色粒子を含む。
②黄褐色土 ローソ質土壌。

第284図 白倉C区221号土坑と出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区223号土坑

位置 32-67 PL 58

本土坑は、後述する226号土坑と一体をなしている。そこで、ここでは2つの土坑の調査経過について記載し、他の事項は226号土坑の事実記載で触れることにしたい。調査時に本土坑の南に位置する226号



第285図 白倉C区223号土坑

土坑を先行して発掘した。その時点では226号土坑の北側の表土が除去できておらず、その約3カ月後に表土を除去して226号土坑を確認した。確認時の形状から別の土坑としたが、整理作業の過程で、2つの土坑の出土土器が同一個体で、しかも出土状態も近似することから同じ土坑と判断した。



白倉C区226号土坑

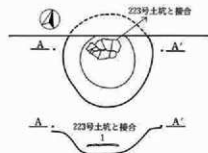
位置 32-67 PL 110

前述した223号土坑の事実記載のとおり、本土坑は223号土坑と一体をなす1つの土坑で、長軸1.30mの楕円形プランを呈すると思われる。

土坑から出土した遺物は、図示した深鉢1点だけである。残念ながらこの土器に類するものが今回の調査で見られなかったために時期を確定することができなかったが、周辺遺物の時期及び土器の特徴から、おそらく黒浜式に併行する時期か勝坂式終末期のどちらかに帰属すると思われる。この個体は、面

的に潰れた状態で出土しており、226号土坑部分では、北側寄りで出土している。その北側には223号土坑部分が連続しており、土器も223号土坑部分では面的に広がって出土している。

(遺物観察表：384頁)



第286図 白倉C区226号土坑と出土遺物



白倉C区233号土坑

位置 41-63 PL 59・110

85号住居内で検出された不定形プランの土坑である。住居よりも本土坑のほうが新しい。

出土土器は勝坂式終末期58点である。また、石器

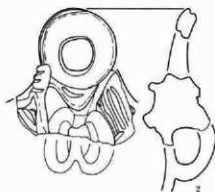
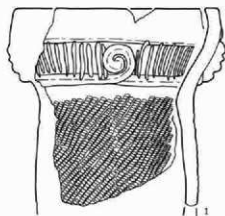
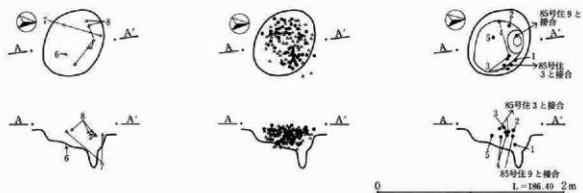
類は図示した多孔石1点以外は礫が69点出土した。

多量の出土遺物が検出されたわけだが、土坑内に充填するかなのような出土状態を示している。そして85号住居の2・3・9と接合関係をもつ。85号住居9は残念ながら、85号住居内の出土位置が不明であ

る。また、7と8は土坑内において、出土し被熱し 観察表と写真を参照して欲しい。

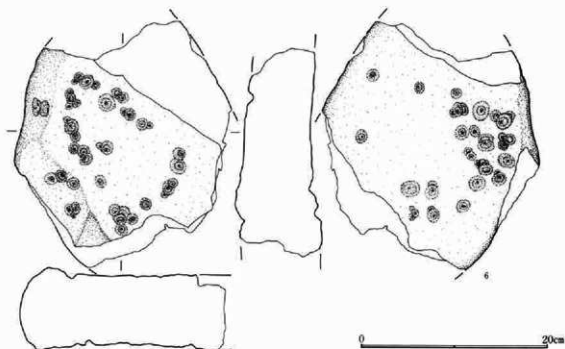
た薄片を接合したものである。図化できなかったが

(遺物観察表：384頁)



0 10cm

第287図 白倉C区233号土坑と出土遺物(1)



第288図 白倉C区233号土坑出土遺物(2)

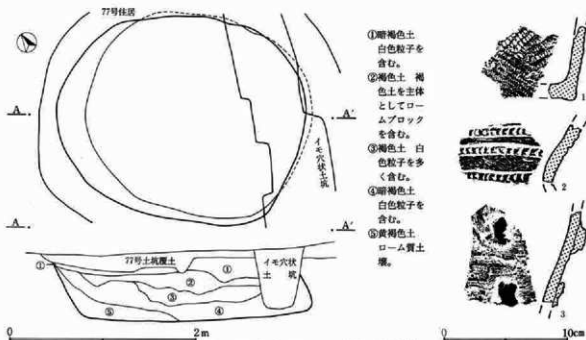
白倉C区246号土坑

位置 41-70 PL 110

堀之内1式の敷石住居である、77号住居主体部の床面下から検出され、77号住居調査に引き続いて掘り下げていった。当初は住居に付帯するものと考えていたが、出土土器が黒浜式(有尾式系土器を含む)

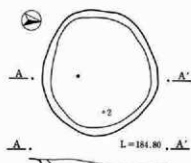
96点、勝板式終末期2点であったことから住居構築以前の土地利用痕跡として認識するに至った。他に礫が5点出土したが、土器も含めて全て出土位置を記録しないで取り上げてしまった。

(遺物観察表：385頁)



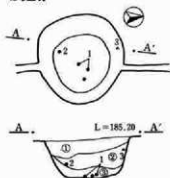
第289図 白倉C区246号土坑と出土遺物

13号土坑



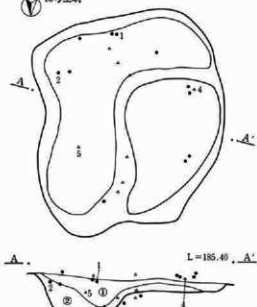
①暗茶褐色土 ローム粒子を含む。
②茶褐色土

42号土坑



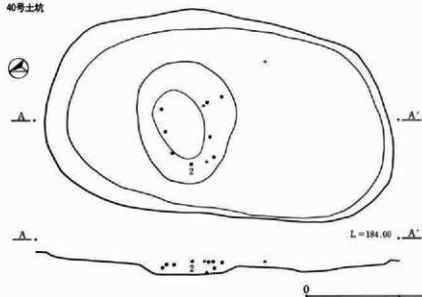
①暗茶褐色土 白色粒子とローム
粒子を含む。
②暗茶褐色土 ①層に似るが、色
調が明るい。
③暗茶褐色土 ローム粒子を含む。

18号土坑



①黒褐色土
②暗褐色土 ロームブロックを塊状に含む。

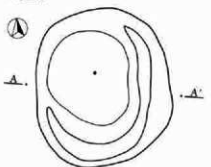
40号土坑



第290図 白倉C区13・18・40・42号土坑

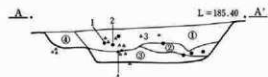
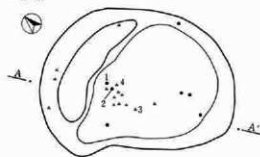
III 縄文時代の遺構と遺物

41号土坑



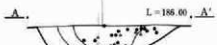
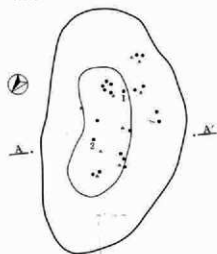
- ①褐色土 ローム粒子を含む。
②明褐色土 ロームブロックを含む。

47号土坑



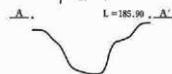
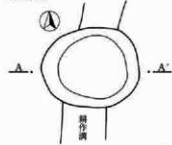
- ①褐色土 炭化粒子を僅かに含む。
②褐色土 ローム粒子を含む。
③褐色土 ローム粒子を含む。
④褐色土

50号土坑



- ①黒褐色土 ②褐色土 ③褐色土
ローム粒子を含む。

49号土坑



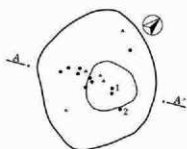
55号土坑



0 2m

第291図 白倉C区41・47・49・50・55号土坑

52号土坑

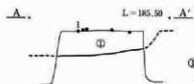
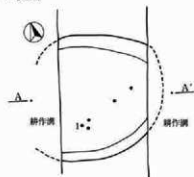


①褐色土
②褐色土 □—A
子を含む。

64号土坑

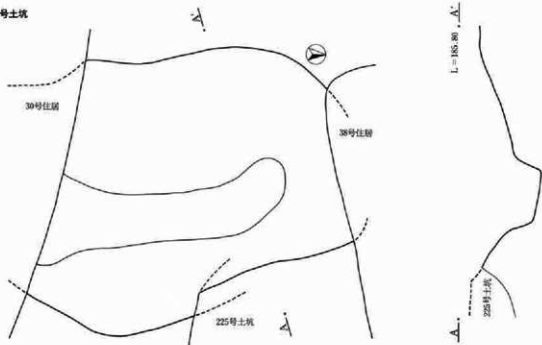


67号土坑



①黑褐色土 □—A
粒子を含む。

56号土坑



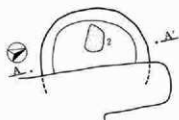
L = 185.80, A-A'

0 2m

第292图 白倉C区52·56·64·67号土坑

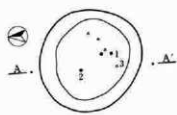
III 縄文時代の遺構と遺物

82号土坑



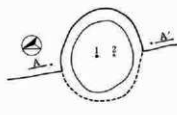
- ①暗褐色土
②褐色土 ローム粒子を少し含む。

85号土坑



- ①黒褐色土 ②暗褐色土
③褐色土

86号土坑



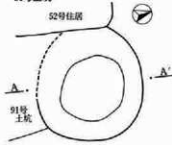
- ①褐色土
②褐色土 ローム粒子を含む。

89号土坑



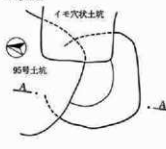
- ①黒褐色土

90号土坑



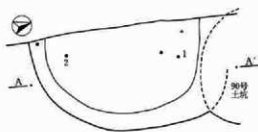
- ①黒褐色土 ローム粒子を含む。
②褐色土 ローム粒子を含む。

94号土坑



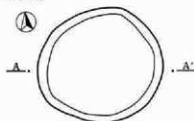
- ①褐色土 ローム粒子を多く含む。

91号土坑



- ①黒褐色土 ローム粒子を含む。
②褐色土 ローム粒子を含む。

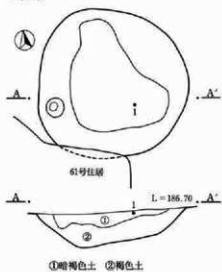
98号土坑



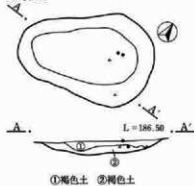
0 2m

第293図 白倉C区82・85・86・89・90・91・94・98号土坑

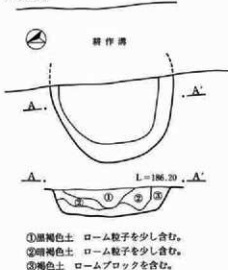
97号土坑



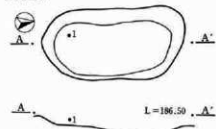
100号土坑



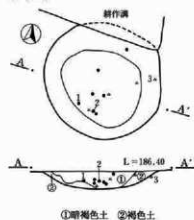
104号土坑



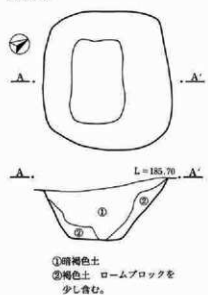
99号土坑



101号土坑



114号土坑

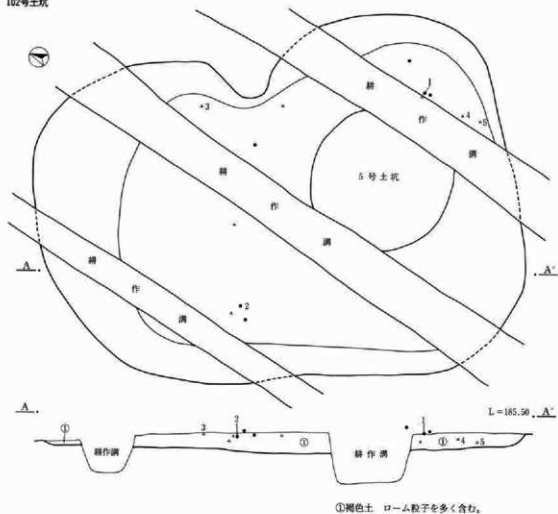


0 2m

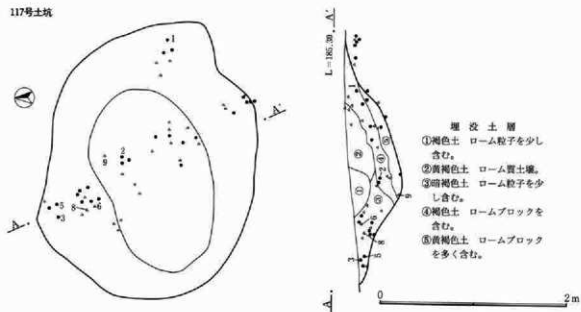
第294図 白倉C区97・99・100・101・104・114号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物

102号土坑

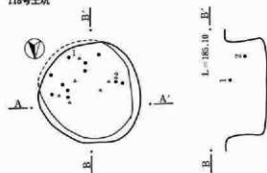


117号土坑



第295図 白倉C区102・117号土坑

118号土坑

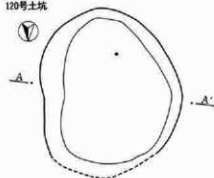


A. L=185.10 A'



- ①褐色土 ローム粒子を
少し含む。
②黄褐色土 ローム質土
層。
③暗褐色土
④褐色土

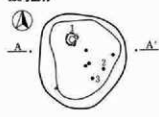
120号土坑



A. L=184.70 A'



122号土坑



A. L=186.80 A'

- ①暗褐色土
②褐色土 ローム粒子を含む。
③褐色土 ローム質土層。

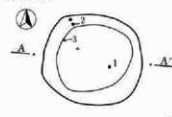
123号土坑



A. L=186.50 A'

- ①褐色土
②褐色土 ロームブロックを含む。

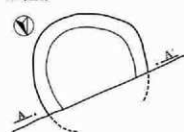
131号土坑



A. L=185.30 A'

- ①暗褐色土
②暗褐色土
③暗褐色土にローム粒子を少し含む。
④褐色土

132号土坑

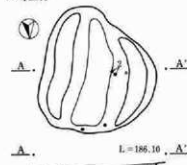


A. L=185.40 A'



- ①暗褐色土
②褐色土 ロームブロックを含む。
③褐色土 ローム質土層。

133号土坑



A. L=186.10 A'



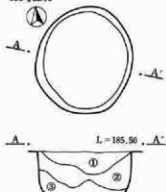
- ①暗褐色土層を含む。
②暗褐色土
③暗褐色土にローム粒子を少し含む。
④暗褐色土
⑤褐色土
⑥褐色土にローム質土層に暗褐色土を少し含む。

0 2m

第296図 白倉C区118・120・122・123・131・132・133号土坑

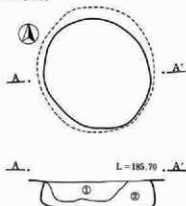
III 縄文時代の遺構と遺物

135号土坑



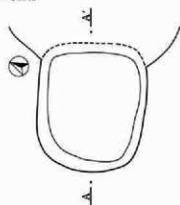
①暗褐色土 ②暗褐色土 ③褐色土

140号土坑



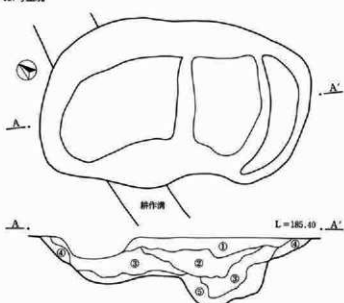
①黒褐色土 白色粒子と炭化粒子を含む。
②暗褐色土 ローム粒子を少し含む。

145号土坑



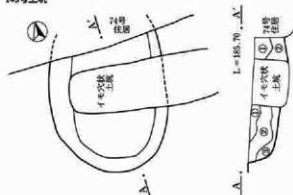
①褐色土 ローム粒子を含む。
②褐色土 ローム質土壌。

137号土坑



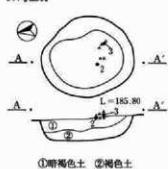
①暗褐色土 ②暗褐色土 ③暗褐色土 ④褐色土 ⑤褐色土 ロームブロックを含む。

143号土坑



①暗褐色土 ②暗褐色土 ③褐色土

144号土坑

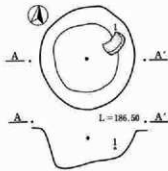


①暗褐色土 ②褐色土

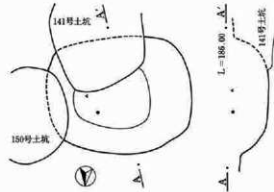
0 2m

第297図 白倉C区135・137・140・143・144・145号土坑

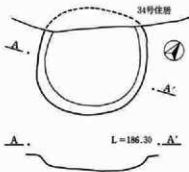
146号土坑



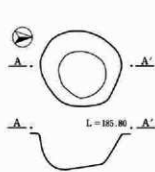
149号土坑



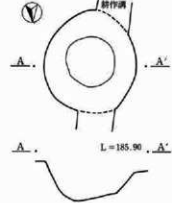
154号土坑



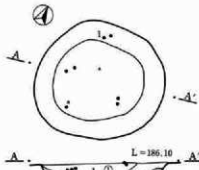
158号土坑



159号土坑

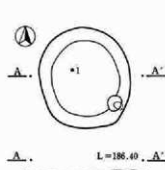


147号土坑



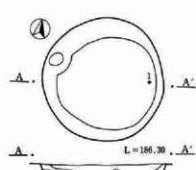
- ①暗褐色土
②暗褐色土 ロームブロックを少し含む。
③褐色土 ローム粒子を少し含む。

148号土坑



- ①暗褐色土
②褐色土 ロームブロックを含む。
③褐色土

153号土坑



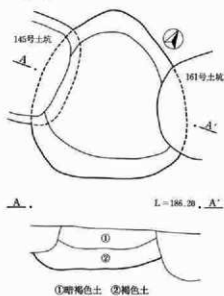
- ①暗褐色土
②褐色土 ロームブロックを含む。
③褐色土

0 2m

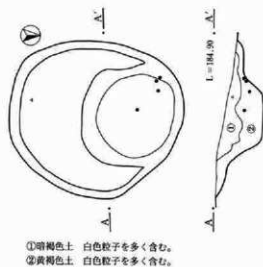
第298図 白倉C区146・147・148・149・153・154・158・159号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物

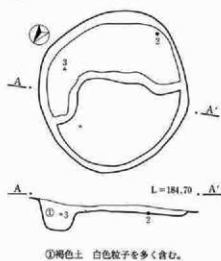
160号土坑



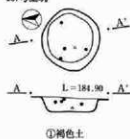
165号土坑



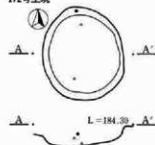
166号土坑



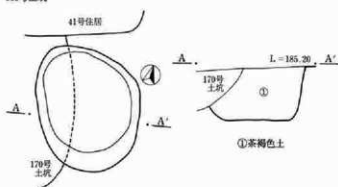
167号土坑



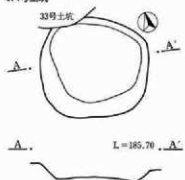
172号土坑



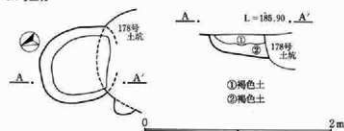
169号土坑



174号土坑

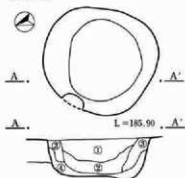


177号土坑



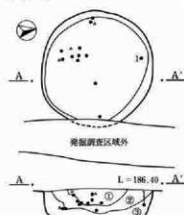
第299図 白倉C区160・165・166・167・169・172・174・177号土坑

178号土坑



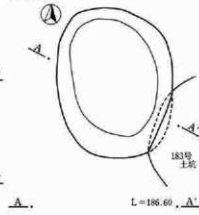
- ①暗褐色土
②褐色土 ローム粒子を少し含む。
③褐色土 ロームブロックを含む。
④褐色土

179号土坑



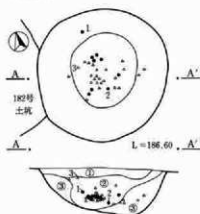
- ①暗褐色土
②褐色土 ローム粒子を少し含む。
③褐色土 ローム粒子を多く含む。

182号土坑



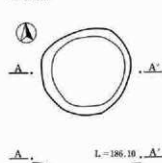
- ①褐色土

183号土坑

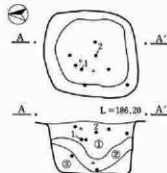


- ①褐色土
②暗褐色土 炭化粒子を少し含む。
③褐色土 ローム粒子を多く含む。

184号土坑

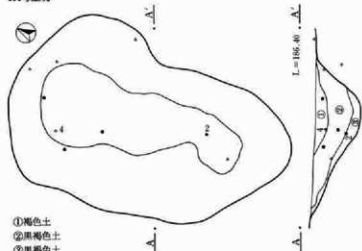


189号土坑



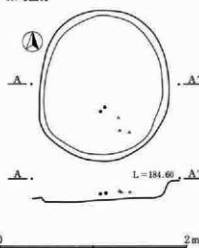
- ①褐色土
②褐色土 ローム粒子を少し含む。
③褐色土 ローム質土壌。

191号土坑



- ①褐色土
②暗褐色土
③黒褐色土

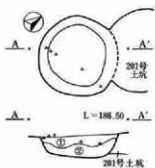
197号土坑



第300図 白倉C区178・179・182・183・184・189・191・197号土坑

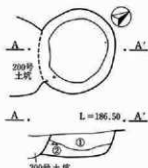
III 縄文時代の遺構と遺物

200号土坑



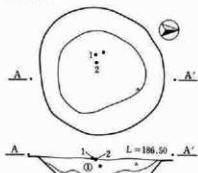
- ①褐色土 ローム粒子を含む。
②褐色土 ローム粒子を多く含む。

201号土坑



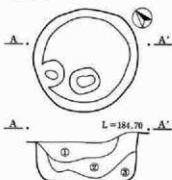
- ①褐色土 ローム粒子を含む。
②褐色土 ローム粒子を少し含む。

202号土坑



- ①暗褐色土 ローム粒子を少し含む。
②褐色土 ローム粒子を含む。

205号土坑

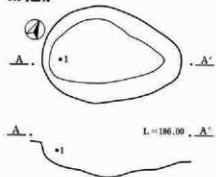


- ①褐色土
②暗褐色土 ローム粒子を少し含む。
③褐色土 ロームブロックを含む。

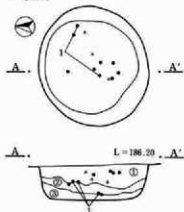
207号土坑



213号土坑

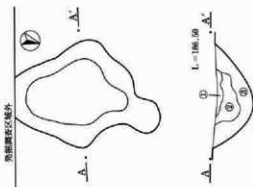


214号土坑



- ①暗褐色土 炭化粒子を少し含む。
②褐色土 ローム粒子を含む。
③褐色土 ローム粒子を含む。

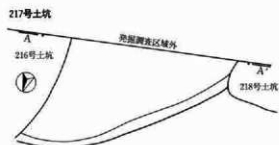
215号土坑



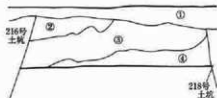
- ①黒褐色土 暗褐色土のブロックを含む。
②暗褐色土 褐色土を含む。
③褐色土 ロームブロックを含む。

0 2m

第301図 白倉C区200・201・202・205・207・213・214・215号土坑

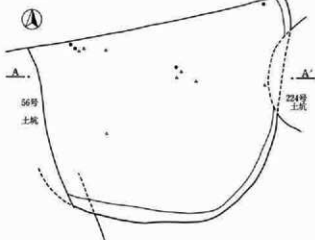


A. L=187.20 A'



①表土層 ②暗褐色土 ③褐色土 ④褐色土
ローム粒子を含む。

225号土坑



A. L=188.00 A'

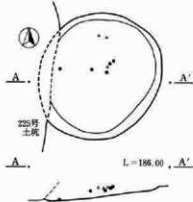
241号土坑



A. L=184.60 A'



224号土坑



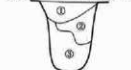
A. L=186.00 A'



229号土坑



A. L=185.60 A'



①褐色土 ②褐色土
ロームブロックを含む。③暗褐色土

234号土坑



A. L=184.80 A'



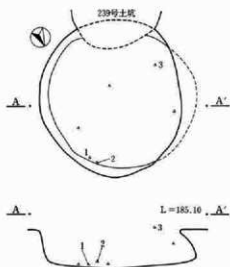
①表土層 ②暗褐色土 ③褐色土 ④褐色土
⑤茶褐色土 ⑥茶褐色土

0 2m

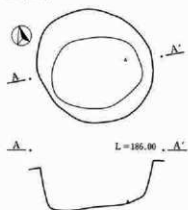
第302図 白倉C区217・224・225・229・234・241号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物

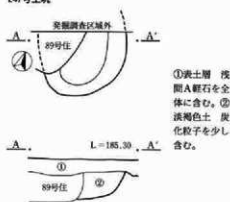
244号土坑



245号土坑

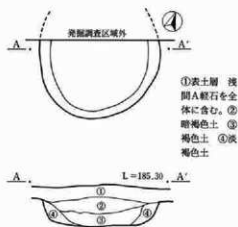


247号土坑



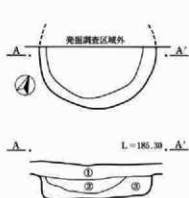
①表土層 浅間A軽石を全体に含む。②淡褐色土 炭化粒子を少し含む。

249号土坑



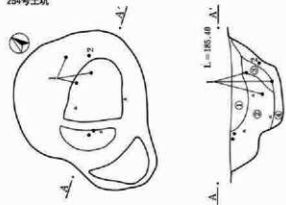
①表土層 浅間A軽石を全体に含む。②暗褐色土 ③褐色土 ④淡褐色土

252号土坑



①表土層 浅間A軽石を全体に含む。②暗褐色土 炭化粒子を僅かに含む。③褐色土

254号土坑

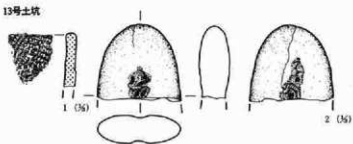


①暗褐色土 ②褐色土 ③淡褐色土 ④褐色土

0 2m

第303図 白倉C区244・245・247・249・252・254号土坑

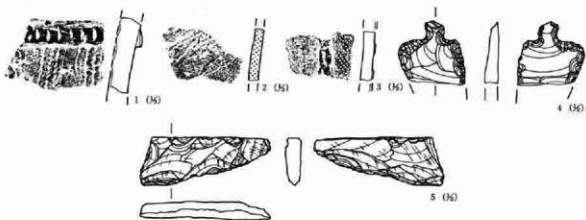
13号土坑



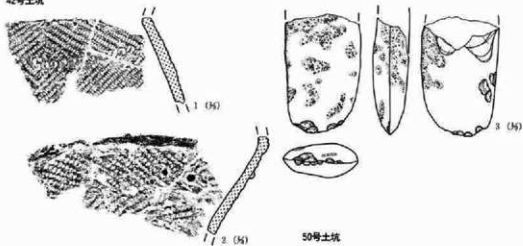
40号土坑



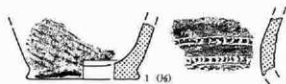
18号土坑



42号土坑



50号土坑



49号土坑

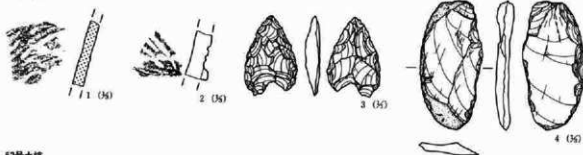


0 5cm 10cm

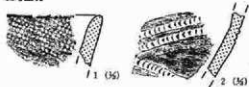
第304图 白倉C区13·18·40·42·49·50号土坑出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

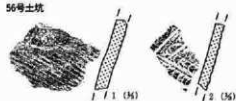
47号土坑



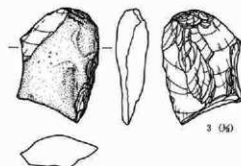
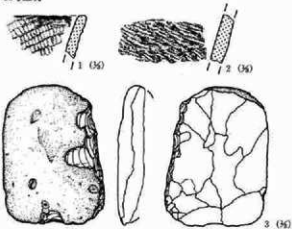
52号土坑



56号土坑



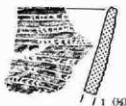
58号土坑



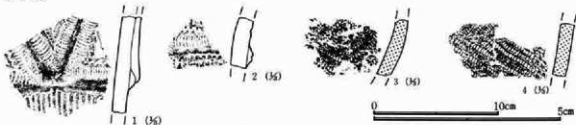
64号土坑



70号土坑

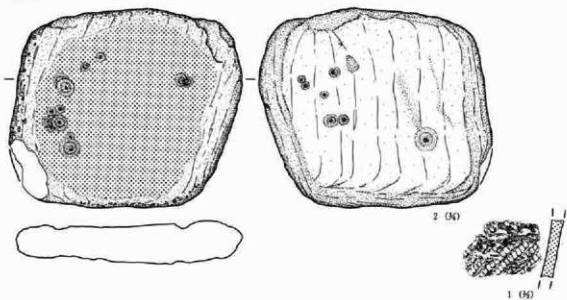


67号土坑



第305図 白倉C区47・52・56・64・67・70号土坑出土遺物

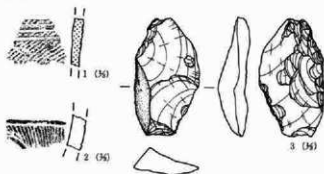
82号土坑



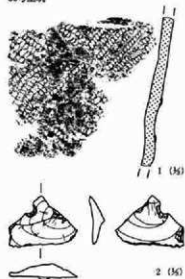
89号土坑



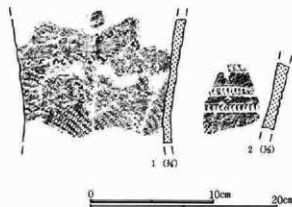
85号土坑



86号土坑



91号土坑



0 10cm 20cm

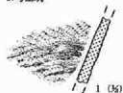
第306图 白倉C区82·85·86·89·91号土坑出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

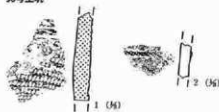
94号土坑



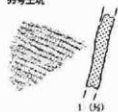
97号土坑



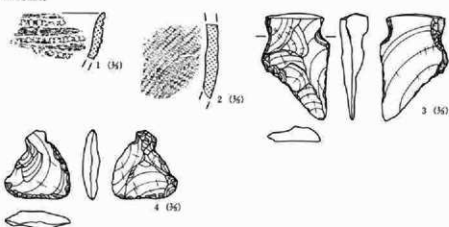
98号土坑



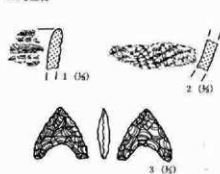
99号土坑



102号土坑

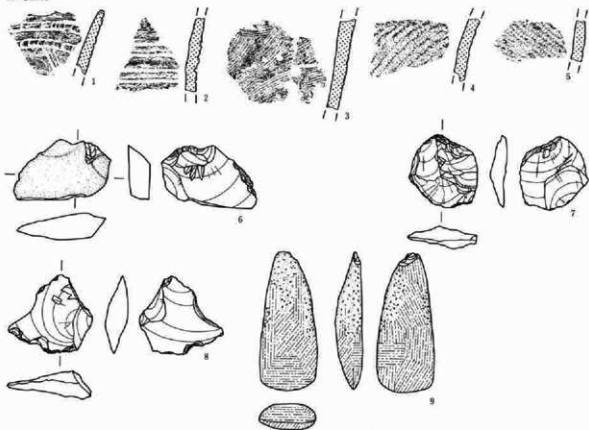


101号土坑

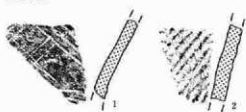


第307図 白倉C区94・97・98・99・101・102号土坑出土遺物

117号土坑



118号土坑



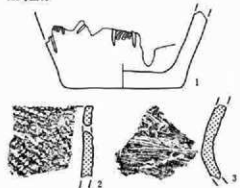
114号土坑



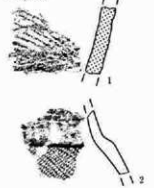
135号土坑



122号土坑



133号土坑



132号土坑



0 10cm

第308图 白倉C区114·117·118·122·132·133·135号土坑出土遺物

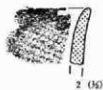
III 縄文時代の遺構と遺物

131号土坑



1 (36)

3 (36)



2 (36)

143号土坑



1 (36)

145号土坑



1 (36)

140号土坑



1 (36)



2 (36)



3 (36)



4 (36)

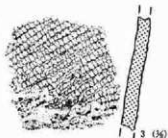
144号土坑



1 (36)



2 (36)



3 (36)

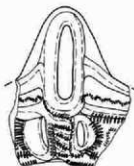


4 (36)



5 (36)

153号土坑



1 (36)



147号土坑



1 (36)

148号土坑

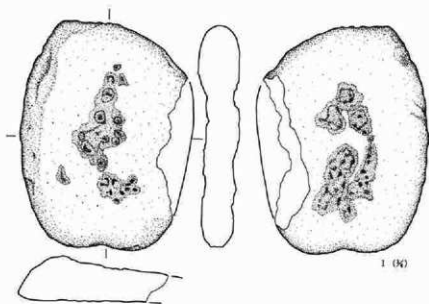


1 (36)

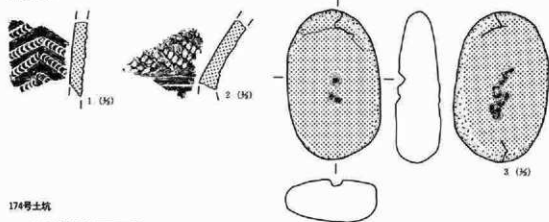


第309図 白倉C区131・140・143・144・145・147・148・153号土坑出土遺物

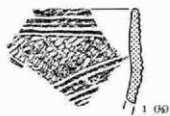
146号土坑



166号土坑



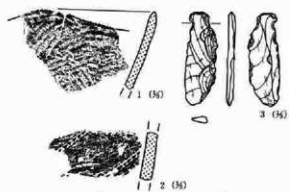
174号土坑



179号土坑



183号土坑



0 10cm 20cm

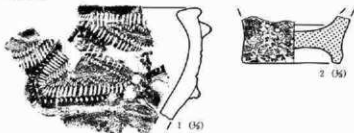
第310图 白倉C区146·166·174·179·183号土坑出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

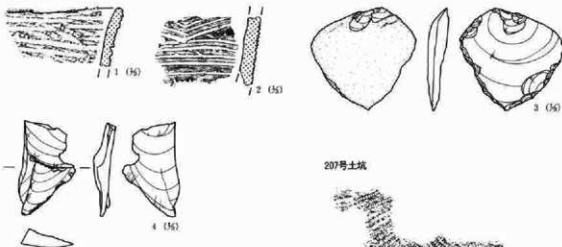
182号土坑



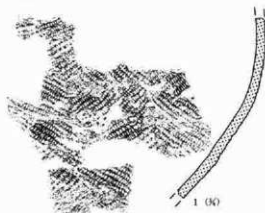
189号土坑



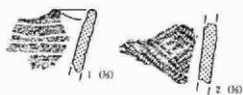
191号土坑



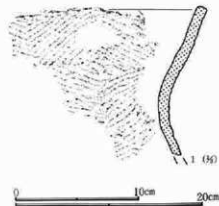
207号土坑



202号土坑



214号土坑



213号土坑



第311図 白倉C区182・189・191・202・207・213・214号土坑出土遺物

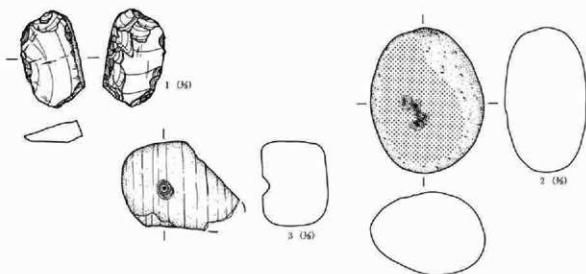
215号土坑



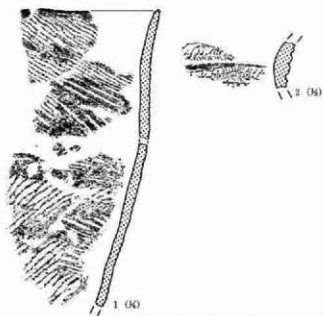
241号土坑



244号土坑



254号土坑



245号土坑



0 10cm 20cm

第312图 白倉C区215・241・244・245・254号土坑出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

天引C区61号土坑

位置 36-46 P.L. 60・111

不定形なプランを呈する土坑である。

出土土器は81点で、大部分の63点を一括して取り上げてしまった。内訳は、勝坂Ⅱ式6点(阿玉台Ⅱ式を含む)、勝坂式終末期74点、土師器1点である。大部分の土器の出土位置を記録しなかったために確か

なことはいえないが、土器型式に対応するような層位的な出土状態は見受けられないようである。

他に、石器4点と礫4点が出土したが残念ながら図化できなかった。

(遺物観察表：386頁)



第313図 天引C区61号土坑と出土遺物

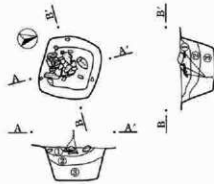
天引C区94号土坑

位置 44-46 PL 61

隅丸方形プランを呈する土坑である。

出土土器は図示した勝版式終末期の深鉢1点だけである。この土器は隆帯及び胴部の一部を欠損するがほぼ完形に近い状態である。この個体は埋没土の上層において、ある程度まとまった状態で検出されており、土器とともに7点の礫と一緒に検出されている。土器は、その場で潰れた状態ではなく、礫とともに投棄されたような出土状態であった。

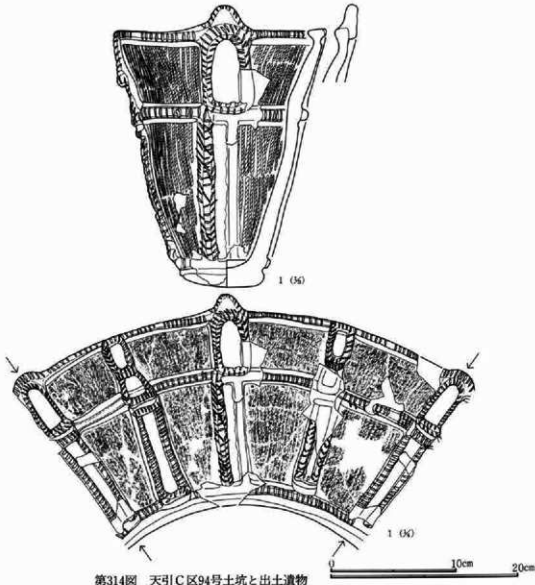
(遺物観察表: 386頁)



埋没土層

- ①暗黄褐色土 ローム粒子と炭化粒子を僅かに含む。
 ②暗黄褐色土 ローム粒子をやや多く炭化粒子を僅かに含む。
 ③黄褐色土 ローム質土壌中に炭化粒子を僅かに含む。

0 L=183.10 2m



第314図 天引C区94号土坑と出土遺物

III 縄文時代の遺構と遺物

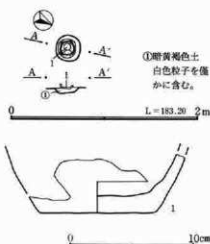
天引C区103号土坑

位置 50-46 PL 61

円形プランを呈する土坑である。

出土遺物は、勝版式終末期の深鉢底部だけであった。正位で土器が検出されていることや、土坑の平面規模が土器よりも一回り大きい程度であることを考え合わせると、単独埋葬が後世の土地利用によって破壊され、このような状態になったのかも知れない。

(遺物観察表：387頁)



第315図 天引C区103号土坑と出土遺物

天引C区106号土坑

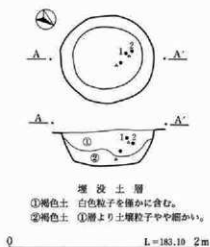
位置 50-45 PL 61・11

円形プランを呈する土坑である。

出土土器は7点で、4点を一括して取り上げてしまった。内訳は、諸磯c(新)式3点と勝版II式4点(阿玉台II式を含む)である。なお、今回の調査で、遺構内から諸磯c(新)式土器が出土したのは本土坑だけである。

石器類は、礫が2点出土したにとどまる。

(遺物観察表：387頁)



第316図 天引C区106号土坑と出土遺物

天引C区138号土坑

位置 46-49 PL 63

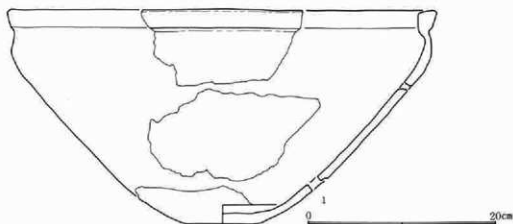
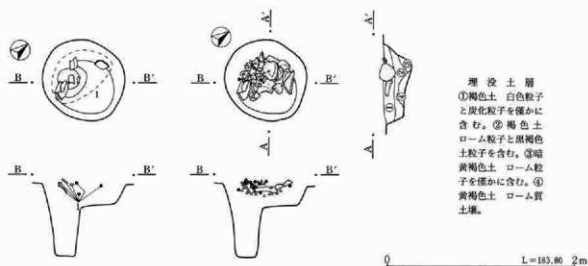
円形プランを呈する土坑である。

出土土器は勝版式終末期16点で、その中で7点が図化した浅鉢である。土器とともに、石皿の破片2

点と礫23点が出土している。

出土遺物は①層中から全て検出されており、土器片と石器類が一括して廃棄された状態が想定されよう。

(遺物観察表：387頁)



第317図 天引C区138号土坑と出土遺物

天引C区139号土坑

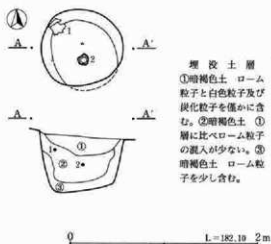
位置 40-47 PL 63・111

円形プランを呈する土坑である。

出土土器は諸磯式2点であった。1は深鉢口縁部の大形破片で、壁近くの②層中から出土している。2は深鉢の底部で土坑のほぼ中央からの出土であった。

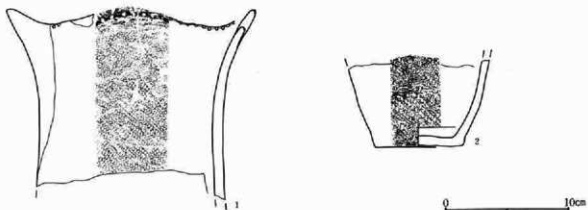
石器類は鏝2点が出土している。

(遺物観察表：387頁)



第318図 天引C区139号土坑

III 縄文時代の遺構と遺物



第319図 天引C区139号土坑出土遺物

天引C区168号土坑

位置 51-45 P L 64

奈良時代の145号住居に南側の一部を破壊されてはいるが、比較的大形の円形プランを呈する土坑である。

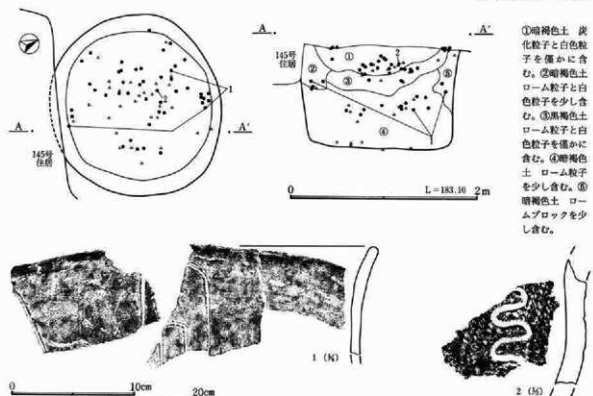
出土土器は称名寺II式～堀之内1式に帰属し、46点が出土している。接合関係は3片が接合した1の1例だけであった。大形の破片は比較的少なく、大

半が小破片であるために細分型式の特定ができなかったものが多かった。土器の出土層位は埋設土の上層～中層に限定され、下層からの出土はない。

石器類は石器4点と鏃34点が出土したが、図化できなかった。

なお、天引C区において後期前半の土器が出土した土坑は他に164号土坑があるが、これだけまとまって出土したのは本土坑だけである。

(遺物観察表：388頁)



第320図 天引C区168号土坑と出土遺物

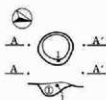
天引C区167号土坑

位置 47-47 PL なし

円形プランを呈する土坑である。

出土土器は図示した勝板式終末期の深鉢底部だけであった。正位で土器が検出されていることや、土坑の平面規模が土器よりも一回り大きい程度であることを考え合わせると、単独埋葬が後世の土地利用によって破壊され、このような状態になったのかも知れない。

(遺物観察表：388頁)



埋 設 土 層
①褐色土 ローム粒
子を僅かに含む。

0 L=183.70 2m

0 10cm

第321図 天引C区167号土坑と出土遺物

天引C区170号土坑

位置 48-47 PL 64

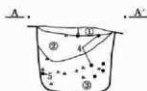
円形プランを呈する土坑である。

出土土器は勝板式終末期32点で、25点を一括して取り上げてしまった。全ての土器の出土位置を記録できなかったので確かなことはいえないが、層位を

こえて接合するものも見受けられる。

石器類は石器5点と鏝6点が出土しているが図化できなかった。

(遺物観察表：388頁)



①暗褐色土 ローム粒子と白色粒子を僅かに含む。
②暗褐色土 ①層に比べやや色調が濃く白色粒子と炭化粒子を僅かに含む。
③暗褐色土 ②層に比べ色調が明るく炭化粒子を僅かに含む。

0 L=183.50 2m

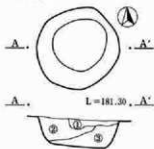


0 10cm

第322図 天引C区170号土坑と出土遺物

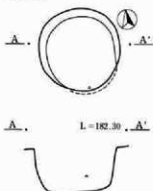
III 縄文時代の遺構と遺物

53号土坑

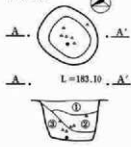


- ①褐色土 ロームブロックを含む。
- ②黒褐色土 ロームブロックを少し含む。
- ③黒褐色土 ロームブロックを多く含む。

80号土坑

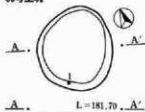


93号土坑



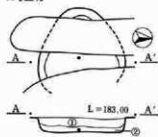
- ①暗黄褐色土 白色粒子と炭化粒子を僅かに含む。
- ②淡褐色土 ロームブロックと炭化粒子を僅かに含む。
- ③黄褐色土 ローム質土壌中に炭化粒子を僅かに含む。

69号土坑



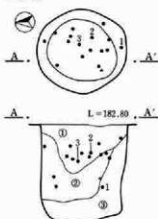
- ①黄褐色土 ロームブロックを少し含む。

82号土坑



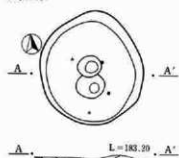
- ①暗黄褐色土 ローム粒子と白色粒子及び炭化粒子を僅かに含む。
- ②暗黄褐色土 ローム粒子をやや多く白色粒子と炭化粒子を僅かに含む。

85号土坑



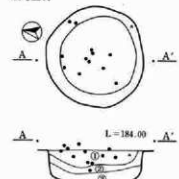
- 埋設土層
- ①黒褐色土 ローム粒子と炭化粒子を僅かに含む。
 - ②暗褐色土 炭化粒子を僅かに含む。
 - ③黄褐色土 ローム粒子を僅かに含む。

72号土坑



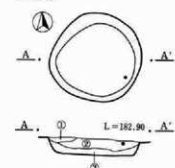
- ①暗褐色土 炭化粒子を少し含む。
- ②褐色土 ロームブロックを多く含む。

83号土坑



- ①暗黄褐色土 炭化粒子とローム粒子をごく僅かに含む。
- ②暗黄褐色土 ローム粒子を多く炭化粒子をごく僅かに含む。
- ③黄褐色土 くすんだ色調のローム粒子を含む。

86号土坑

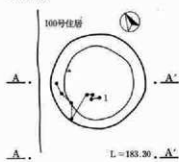


- ①暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。
- ②暗褐色土 炭化粒子を僅かに含む。
- ③暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。

0 2m

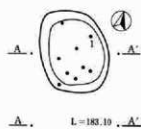
第323図 天引C区53・60・72・80・82・83・85・86・93号土坑

98号土坑



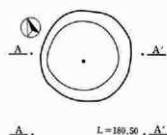
①褐色土 炭化粒子とロームブロックを含む。

102号土坑



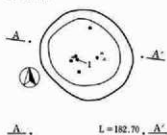
①暗褐色土 ロームブロックとローム粒子を僅かに含む。

108号土坑



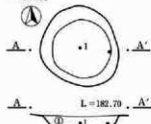
①黒色土 ローム粒子を少し含む。
②暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。

110号土坑



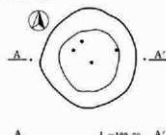
①暗褐色土 炭化粒子を僅かに含む。
②にぶい黄褐色土 炭化粒子を僅かに含む。

111号土坑



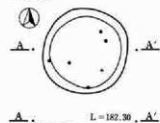
①にぶい黄褐色土

112号土坑



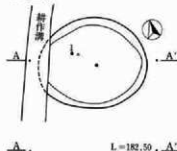
①暗褐色土 ローム粒子と炭化粒子を僅かに含む。
②暗褐色土 炭化粒子を僅かに含む。

127号土坑



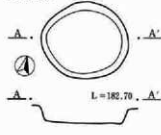
埋没土層
①暗褐色土 ローム粒子と炭化粒子を僅かに含む。
②黄褐色土 炭化粒子を僅かに含む。
③黄褐色土 炭化粒子を僅かに含む。
④黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

119号土坑



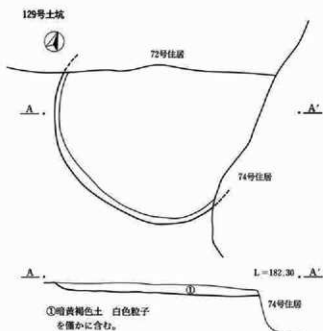
①褐色土 炭化粒子を僅かに含む。

124号土坑

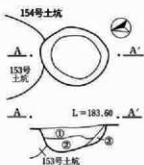


0 2m

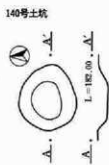
III 縄文時代の遺構と遺物



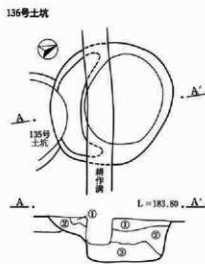
①暗黄褐色土 白色粒子を僅かに含む。



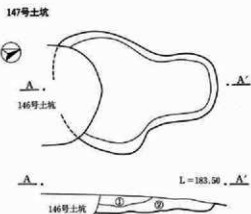
①暗褐色土 白色粒子と炭化粒子を含む。
②暗褐色土 ①層に似るがローム粒子を含む。
③にぶい黄褐色土 ローム粒子を多く含む。



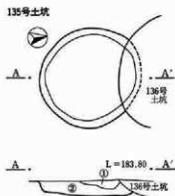
①暗褐色土 炭化粒子を僅かに含む。
②暗褐色土 ローム粒子を凝状に含む。



①暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。
②褐色土 ロームブロックとローム粒子を凝かに含む。
③暗黄褐色土 ローム粒子を多く含む。



①暗褐色土 ローム粒子を僅かに含む。
②暗褐色土 白色粒子を多く含む。

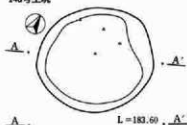


①褐色土 ローム粒子を僅かに含む。
②淡褐色土 炭化粒子を僅かに含む。

0 2m

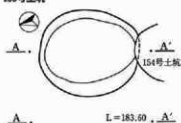
第325図 天引C区129・130・135・136・140・147・154号土坑

148号土坑



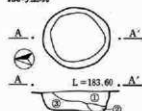
- ①暗褐色土 白色粒子と炭化粒子を含む。
②黄褐色土 ローム粒子を多く含む。

153号土坑



- 埋 設 土 層
①暗褐色土 ロームブロックと白色粒子及び炭化粒子を僅かに含む。
②暗褐色土 白色粒子と炭化粒子を僅かに含む。
③にぶい黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

156号土坑



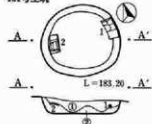
- ①暗褐色土 ローム粒子と白色粒子及び炭化粒子を含む。
②暗褐色土 ロームブロックを少し含む。
③にぶい黄褐色土 炭化粒子を僅かに含む。

154号土坑



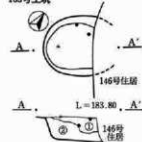
- ①褐色土 ローム粒子を僅かに含む。
②褐色土 ローム粒子とロームブロックを僅かに含む。

161号土坑



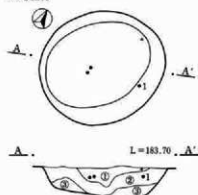
- ①暗褐色土 ロームブロックと白色粒子を含む。
②にぶい黄褐色土 ロームブロックを多く含む。

166号土坑



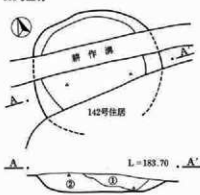
- ①暗褐色土
②褐色土 白色粒子とローム粒子を僅かに含む。

173号土坑



- 埋 設 土 層
①黄褐色土 ローム粒子と白色粒子を僅かに含む。
②暗褐色土 ローム粒子を含む。
③暗褐色土 ロームブロックと白色粒子を少し含む。

166号土坑



- 埋 設 土 層
①暗褐色土 ローム粒子と白色粒子を僅かに含む。
②黄褐色土 ロームブロックと炭化粒子を僅かに含む。

169号土坑

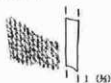


- ①暗褐色土

0 2m

III 縄文時代の遺構と遺物

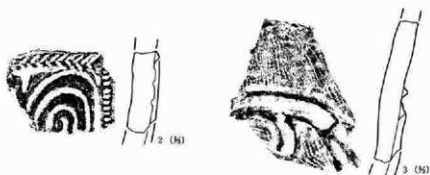
60号土坑



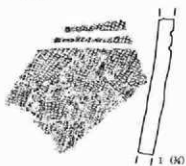
98号土坑



85号土坑



102号土坑



110号土坑



111号土坑

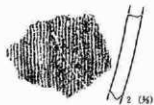


第327图 天引C区60・85・98・102・110・111号土坑出土遺物

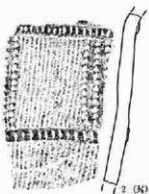
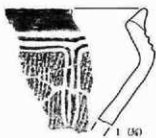
119号土坑



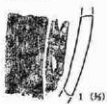
140号土坑



161号土坑



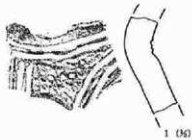
166号土坑



169号土坑



173号土坑



0 10cm 20cm

第328图 天引C区119·140·161·166·169·173号土坑出土遗物

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区2号土坑出土遺物(第247図)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線をはらしたのち、原形LRの単節斜縄文を施す。	称名寺1式 覆土
2	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む		棒状工具による沈線文。

白倉B区6号土坑出土遺物(第168図、PL 89)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1・2・3	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線文のち、原形LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式 二次的に被熱
4	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を少量含む		外面に撫で状の痕跡。

石 器

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
5	台石か	長 (18.8) 幅 (11.0) 厚 8.2 重 2300.0	全面に敲打痕が見受けられる。破片。	粗粒安山岩

白倉B区10号土坑出土遺物(第169図)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③雲母粒を含む	口唇部を1ヶ所内折し、8の字の隆帯を貼付。刻みを付した隆帯を巡らせる。棒状工具による沈線文のち、原形LRの単節斜縄文を施す。内面は内折部に円形刻突。	堀之内2式 外面炭化物付着
2	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③砂粒を含む	口唇部は内外面に刻み。口縁部には刻みを付した隆帯を巡らせる。棒状工具による沈線文のち、原形LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	8の字状の隆帯を貼付。棒状工具による沈線文。原形LRの単節斜縄文を施す。	堀之内1式

白倉B区11号土坑出土遺物(第247図)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による沈線文。	堀之内1式か
2	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を多量に含む	刺突を付した顔状の隆帯を貼付する。	称名寺式

白倉B区13号土坑出土遺物(第247図、PL 89)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②褐色 ③片岩を含む	隆帯を巡らし、磨下したのち原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式

石 器

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
2	打製石斧	長 (6.5) 幅 4.0 厚 1.7 重 46.0	短鉾形を呈すると思われる。刃部を欠損する。	硬質泥岩 覆土

白倉B区15号土坑出土遺物(第247図)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②淡黄色 ③石英を含む	波状口縁。棒状工具による沈線をはらす。原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式

白倉B区36号土坑出土遺物(第247図、PL 89)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	胴部片	①やや不貞 ②黄褐色 ③片岩を多量に含む	手織竹管状工具による平行沈線をはらせたのち矢羽根状の刻み を施す。	諸儀b(新)式 覆土
深 鉢				

白倉B区41号土坑出土遺物(第247図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	胴部片	①良好 ②明褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線文。	堀之内1式 覆土
深 鉢				

白倉B区49号土坑出土遺物(第247図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	胴部片	①良好 ②暗褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線を垂下。地文は原体LRの単節斜縄文を施 す。	加曾利E3式
深 鉢				

白倉B区53号土坑出土遺物(第247図、PL 89)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	胴部片	①やや不貞 ②黄色 ③石英を少量含む	外面指撫で状。 棒状工具による沈線を施したのち、原体不明の縄文を施文。	堀之内式 二次的に被熱
深 鉢				
2	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③砂を多量に含む		堀之内式 二次的に被熱
深 鉢				

石 器

(単位:cm、g)

番号	種 類	大きさ・重量	形 状 ・ 特 徴 等	備 考
3	石鏃	長 5.9 幅 3.9 厚 1.2 重 39.0	挾入部を打ち欠いたのち、切り目を施す。完形。	緑色片岩 覆土
4	石鏃	長 5.0 幅 4.0 厚 0.8 重 23.0	上端の挾入部は打ち欠き、下端の挾入部は打ち欠いたのち、磨 板が見受けられる。完形。	緑色片岩 覆土

白倉B区57号土坑出土遺物(第170、PL 89)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁~胴 部瓦残存	①良好 ②黄褐色 ③膠母粒を含む	口径(28.0)。口縁に刻み及び8の字状の貼付を施した隆帯が延 る。棒状工具による沈線を施したのち、原体LRの単節斜縄文を 施す。	堀之内2式
深 鉢				
2	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③金粟母粒を含む	口縁部内面に棒状工具による沈線文と刺突文。円形貼付文が施 される。	堀之内2式
浅 鉢				
3	胴部片	①良好 ②暗褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による沈線文のち、原体LRの単節斜縄文を施す	堀之内2式
深 鉢				

白倉B区58号土坑出土遺物(第171図、PL 89)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③砂を多量に含む	外面に磨で状の痕跡。	堀之内2式か
深 鉢				
2	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③片岩を含む	口縁部の突起の破片。凹線によって文様を挿出し、原体LRの単 節斜縄文を施す。	加曾利E3式
深 鉢				
3	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③片岩を少量含む	外面に磨で状の痕跡。	堀之内2式か
深 鉢				
4	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③石英を少量含む	隆帯と棒状工具による沈線で文様を挿出。隆帯上も刺突。	堀之内2式
深 鉢				
5	口縁部片	①良好 ②オリーブ褐色 ③石英を少量含む	外面は隆帯が垂下。内面は棒状工具による沈線と刺突のち、 円形の隆帯を貼付。	堀之内1式
深 鉢				

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
6	胴部片	①良好 ②淡黄色 ③砂を少量含む	棒状工具による沈線で文様を描出したもの、細かな原体LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式
7	胴部片	①良好 ②黒褐色 ③砂を多量に含む	棒状工具で文様を描出したもの、原体LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式
8	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による浅い沈線で文様を描出。	堀之内2式
9	底部	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	直径8.0。底面に削代痕を有する。外面は無文。	堀之内2式か

白倉B区59号土坑出土遺物(第248回、PL 90)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁一胴部片残存	①良好 ②明赤褐色 ③石英を含む	口径(39.5)。口唇部に1ヶ所小突起。棒状工具による沈線を描出したもの、原体Lの無節斜縄文を施す。	称名寺I式
2	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③片岩を少量含む	隆帯を巡らしたのち、隆帯上を覆状工具による刻みを施す。	称名寺I式か
3	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を多量に含む	棒状工具による沈線文のもの、原体Lの無節斜縄文を施す。	称名寺I式

白倉B区63号土坑出土遺物(第172回、PL 90)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁一胴部片残存	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を含む	口径(39.0)。断面三角の隆帯を口縁に巡らし、胴部に垂下する。胴部は交互に原体RLの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式 外面炭化物付着

白倉B区65号土坑出土遺物(第247回、PL 90)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1・2	胴部片	①良好 ②褐色 ③片岩を多量に含む	断面三角の隆帯を垂下。地文は原体LRの単節斜縄文。	加曾利E4式

白倉B区66号土坑出土遺物(第173回)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による沈線。原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I式 二次的に被熱
2	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を少量含む	薄い隆帯を巡らし、やや長めの刻みを施す。地文に原体不明の単節斜縄文。	諸磯b(新)式 覆土
3	胴部片	①良好 ②褐色 ③石英を少量含む	棒状工具による沈線を垂下。地文は原体LRの単節斜縄文。	称名寺I式

白倉B区80号土坑出土遺物(第174回、PL 90)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を含む	半截竹管状工具の内面による、2本1組の連続刻文を施す。	諸磯b(新)式か
2	胴部片	①良好 ②灰白色 ③砂を多量に含む	原体RLの単節斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による平行沈線を描出したもの、沈線内及び沿って刻みを矢羽状に施す。	諸磯b(新)式
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を多量に含む	低い隆帯と沈線を垂下したのち、原体LRの単節斜縄文を施す。二次的に被熱。	加曾利E4~称名寺I式
4	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③石英を含む	原体Lの無節斜縄文を施す。	加曾利E4式か 二次的に被熱
5	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	原体0段多条LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式か
6	胴部片	①良好 ③鈍い褐色 ③砂を含む	断面三角の隆帯で文様を描出する。櫛状の把手を貼付する。	加曾利E4式か 覆土

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
7	石鏃	長 1.2 幅 1.4 厚 0.4 重 0.4	無茎で基部の凹形が深い。先端を欠損する。	黒曜石 覆土

白倉B区82号土坑出土遺物(第248図、PL 90)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③スコリア粒を含む	断面三角の隆帯で区画文。区画内は原形LRの単節斜縄文を施す。外面が一部剥落する。	加曾利E 4式
2	鉢	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒雲母粒を多量に含む	断面三角の隆帯を2本並下。部分的に原形LRの単節斜縄文を施す。二次的に焼熟する。	加曾利E 4式

白倉B区86号土坑出土遺物(第247図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴～底部	①良好 ②明赤褐色 ③石英を含む	直径7.6。棒状工具による沈線を書いたのち、原形LRの単節斜縄文を施す。内面胴部に灰化物が付着する。	加曾利E 4式か

白倉B区87号土坑出土遺物(第248図、PL 90)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石英を少量含む	瓶状口縁。低い隆帯を口縁部に巡らし、隆帯に沿って形状に原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4式 覆土
2	鉢	①良好 ②明赤褐色 ③砂と黒雲母粒を多く含む	幅広い沈線を書いた。	加曾利E 4式 覆土
3	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③砂を少量含む	隆帯と凹縁によって文様を描出する。	加曾利E 3式 覆土
4	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を多量に含む	隆帯によって文様を描出する。	時期不明 覆土
5	鉢	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を少量含む	沈線を並下したのち、原形LRの複節斜縄文を交互に施す。	加曾利E 3式 覆土

白倉B区94号土坑出土遺物(第175図、PL 90)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁～胴部片	①やや不良 ②鈍い褐色 ③砂を多量に含む	低い隆帯を口縁部に巡らして胴部に並下したのち、原形LRの単節斜縄文を施す。二次的に焼熟し、外面が剥落。	加曾利E 4式
2	胴部片	①良好 ②黒褐色 ③砂を多量に含む	内外面ともに無状の痕跡。	時期不明 二次的に焼熟
3	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を多量に含む	原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4式

白倉B区99号土坑出土遺物(第249図、PL 91)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	隆帯及び凹縁によって文様を描出する。原形LRの複節斜縄文を施す。	加曾利E 3式 覆土

白倉B区100号土坑出土遺物(第176図、PL 91)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁～胴部片欠損	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂粒を含む	口径16.0、底径10.5、高さ32.5。口縁部には横状及び円孔を有する2種類の把手を左右対象に貼付する。胴部は断面三角の隆帯による渦巻文を4単位描出したのち、原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4式

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区102号土坑出土遺物(第249図)

土器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線文。原体LRの単節斜縄文。	加曾利E4式 覆土
深鉢				

白倉B区115号土坑出土遺物(第249図)

土器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③雲母粒を含む	口唇部に隆帯を高さしたのち、沈線を施す。胴部も棒状工具による沈線文。	堀之内I1式 覆土
深鉢				

白倉B区116号土坑出土遺物(第177図)

土器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	口縁部に隆帯を高さす。棒状工具による沈線文。原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I1式
深鉢				

白倉B区121号土坑出土遺物(第178図)

土器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	底部	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む	底径15.2。無文。底面に網代痕。	堀之内2式
深鉢				
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量を含む	棒状工具による沈線文ののち、原体LRの単節斜縄文を充填する。	堀之内2式 覆土
深鉢				

白倉B区122号土坑出土遺物(第249図、PL 91)

土器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③片岩を多量を含む	隆帯を施す。地文は原体LRの単節斜縄文。	加曾利E4式
深鉢				
2	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③石英を少量含む	棒状工具による沈線を垂下。原体RLの単節斜縄文を交互に施す。	加曾利E3式
深鉢				
3	胴部片	①良好 ②褐色 ③片岩を少量含む	凹線が回り垂下する。地文は原体RLの単節斜縄文を施す。	中期後半
深鉢				
4	胴部片	①良好 ②明褐色 ③原母粒を多量を含む	棒状工具による沈線を施す。地文は原体LRの単節斜縄文を施す。	後期前半
深鉢				

白倉B区123号土坑出土遺物(第249図)

土器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③砂を少量含む	棒状工具による沈線文。原体LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式
深鉢				

白倉B区126号土坑出土遺物(第249図)

土器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①やや不良 ②明黄褐色 ③礫を多量を含む	原体LRの単節斜縄文を施す。内外面が被熱により剥落する。	後期前半
深鉢				

白倉B区128号土坑出土遺物(第179図、PL 91)

土器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石英を少量含む	口唇部が内折。棒状工具による沈線と刺突のある隆帯を巡らしたのち、原体LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式
深鉢				
2	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	口縁上部に刻み。棒状工具による沈線文ののち、原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I1式
深鉢				

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石英を少量含む	低い隆帯を垂下。地文は原体LRの単節斜縄文を施す。 外面が磨耗する。	加曾利E 4式
4	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③スコリア粒を少量含む	低い隆帯と隆帯に沿う凹線が垂下。地文は原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
5	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を少量含む	2本1組の棒状工具による沈線が垂下。地文は原体RLの単節斜縄文を施す。内面が割落する。	加曾利E 3式 覆土
6	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線と同穴文を施す。	称名寺II式 覆土
7	底部片残	①やや不良②鈍い褐色	底径(9.0)。無文の深鉢。	黒浜式
深鉢	存	③繊維を多量に含む		

白倉B区139号土坑出土遺物(第249図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②灰黄色 ③雲母粒を多量に含む	口径(27.6)。口縁部が強く反折し、口唇部に明確な稜を持つ。 原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4～称名寺 1式 覆土
2	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線を通す。原体Lの無節斜縄文を施す。	加曾利E 4式 覆土
3	口縁部片	①良好 ②淡黄褐色 ③石英を含む	口縁部に小突起。凹線が走る。円形刺突及び棒状工具の押捺を 付した隆帯が垂下する。	堀之内1式 覆土
4	胴部片	①良好 ②淡黄色 ③石英を含む	棒状工具による沈線文。原体LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式 覆土

白倉B区141号土坑出土遺物(第249図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②灰黄色 ③雲母粒を含む	断面三角の隆帯を巡らす。棒状工具による沈線文。原体LRの単 節斜縄文を施す。	加曾利E 4式 覆土

白倉B区143号土坑出土遺物(第250図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	隆帯及び凹線によって文様を抽出する。区画内には原体LRLの 複節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線を通す。短沈線を充満する。	称名寺II式 覆土

白倉B区144号土坑出土遺物(第250図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②暗灰黄色 ③石英を含む	棒状工具による沈線が区画。区画外に原体LRの単節斜縄文を 施す。	加曾利E 4式 覆土

白倉B区148号土坑出土遺物(第180図、PL 91)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴部	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を含む	口径(33.0)。口縁部に断面三角の隆帯を巡らし、注口及び柄状 の把手を1ヶ所貼付する。把手の内側にも胎土を貼付する。胴 部は棒状工具による沈線文を8単位施したのち、原体LRの単節 斜縄文を充満する。	加曾利E 4式
2	口縁～胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	口縁部に低い隆帯が走り、隆帯に沿って部分的に短沈線が走る。 胴部は逆U字状の沈線文を施したのち、原体LRの単節斜縄文を部 分的に縦回転。	加曾利E 4式 二次的に被熱

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区150号土坑出土遺物(第182図、PL 91)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③礫を含む	棒状工具による沈線文。口唇部には明確な稜を持つ。	称名寺Ⅱ式か
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	棒状工具によって文様を施す。	堀之内Ⅱ式
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石英を少量含む	棒状工具による沈線を施したのち、原形LRの単節斜縄文を施す。	堀之内Ⅱ式
4	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③礫を含む	棒状工具による沈線文ののち、原形LRの単節斜縄文を施す。	内面が一部剥落 称名寺Ⅰ式
5	底部	①良好 ②鈍い褐色 ③砂粒を含む	底径8.0。無文。底面に網代板。	堀之内Ⅱ式
6	底部片	①良好 ②明褐色 ③砂粒を含む	底径(4.0)。無文のミニチュア土器。	時期不明 ミニチュア土器

白倉B区164号土坑出土遺物(第250図、PL 92)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③礫を少量含む	棒状工具による沈線で区画し、内側に短沈線。	称名寺Ⅱ式 覆土
2	把手	①良好 ②赤褐色 ③片岩を含む	波状口縁を呈する把手。口唇部が強く内折する。棒状工具による沈線文を施す。	称名寺Ⅱ式
3	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③繊維を多量に含む	原形Iの無節斜縄文を施す。	黒浜式 覆土

白倉B区165号土坑出土遺物(第183・184図、PL 92)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁～胴部	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を多量に含む	口径(40.0)。口縁部に小突起。磨面状工具による沈線によって文様を描出する。	堀之内Ⅰ式
2	口縁～胴部片	①良好 ②明褐色 ③片岩と石英を少量含む	棒状工具による沈線で文様を描出する。	称名寺Ⅱ式
3	把手	①良好 ②褐色 ③砂粒を含む	原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式
4	両耳	①良好 ②褐色 ③片岩を多量に含む	磨面状工具による条線を施したのち、棒状工具による沈線文を施す。	時期不明 二次的に被熱
5	胴部片	①良好 ②褐色 ③重砂粒を含む	棒状工具による沈線で文様を描出する。二次的に被熱する。	称名寺Ⅱ式 ビット内
6	胴部片	①良好 ②褐色 ③雲母粒多量と片岩を少量含む	棒状工具による沈線で文様を描出する。	称名寺Ⅱ式
7	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③石英を少量含む	棒状工具による沈線ののち、原形LRの単節斜縄文を施す。	称名寺Ⅰ式

白倉B区166号土坑出土遺物(第185図、PL 92)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③砂を少量含む	口径13.6、底径3.9、高さ8.7。口縁部1ヶ所内彎する。外面は無文。内面は2本の沈線が走る。	堀之内Ⅱ式

白倉B区167号土坑出土遺物(第250図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②明黄褐色 ③重雲母粒を含む	波状口縁。低い隆帯を巡らし、原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式 覆土

白倉B区168号土坑出土遺物(第250図、PL 92)

(単位: cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を含む	口唇部が内折する。棒状工具による沈線文を施す。	堀之内2式 覆土
深 鉢	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③片岩を含む		
2	胴部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	波状口縁。波頂部に沈線。櫛歯状工具による条線を施す。	後期前半 覆土 内側剥落
深 鉢	胴部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による沈線・円形刺突文を施す。	堀之内1式 覆土

白倉B区169号土坑出土遺物(第250図、PL 92)

(単位: cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③石灰を含む	無文。横位の磨きが見られる。	称名寺1式か 覆土
深 鉢	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を含む		
2	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を含む	刺突を付した筋状の隆帯を垂下する。原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺1式 覆土
深 鉢	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を含む		

白倉B区171号土坑出土遺物(第186図、PL 93)

(単位: cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁~胴部	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂粒を含む	口径(29.0)。棒状工具による沈線文ののち、原体6段多糸LRの縄文が施される。	称名寺1式
深 鉢	口縁~胴部	①良好 ②赤褐色 ③砂を少量含む		
2	口縁~胴部	①良好 ②赤褐色 ③砂を少量含む	口径(30.0)。棒状工具による沈線を施したのち、原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺1式
深 鉢	口縁~胴部	①良好 ②赤褐色 ③片岩を含む		
3	胴部片残存	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線文。内面に炭化物が付着する。	称名寺II式
深 鉢	胴部片残存	①やや不良 ②鈍い赤褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による沈線文ののち、原体LRの単節斜縄文を充填する。	称名寺1式 二次的に被熱
深 鉢	胴部片	①やや不良 ②鈍い赤褐色 ③片岩を少量含む		

白倉B区172号土坑出土遺物(第188図、PL 92)

(単位: cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁部片	①良好 ②褐色 ③片岩と スクリア粒を含む	断面三角の隆帯を返らす。地文は原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式
深 鉢	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③片岩を少量含む		
2	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む	波状口縁。棒状工具による沈線ののち、原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺1式 覆土
深 鉢	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む		
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む	低い隆帯によるU字状の区画。区画内を原体LRの単節斜縄文を充填する。一部に沈線文。	加曾利E4~称名寺 1式 覆土
深 鉢	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む		
4	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線文。	堀之内1式
深 鉢	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による沈線文ののち、原体不明の単節斜縄文を施す。外面が摩耗する。	称名寺1式 覆土
深 鉢	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を少量含む		

白倉B区173号土坑出土遺物(第189・190、PL 93)

(単位: cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁部片	①良好 ②褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による沈線文ののち、原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺1式 二次的に被熱
深 鉢	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③砂粒を含む		
2	口縁部突起	①良好 ②鈍い赤褐色 ③砂粒を含む	口縁の突起。背割り状の波線及び、棒状工具による刺突を付した隆帯を貼付する。裏面及び左右が貫通する。	加曾利E5系
深 鉢	口縁部突起	①やや不良 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む		
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む	隆帯と棒状工具による沈線文ののち、原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺1式 二次的に被熱
深 鉢	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を少量含む	短みを付した隆帯と、棒状工具による沈線を垂下。原体LRの単節斜縄文を充填する。	称名寺1式
深 鉢	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を少量含む		

III 縄文時代の遺構と遺物

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
5	多孔石	長 29.6 幅 15.5 厚 5.6 重 210.0	両面に凹み穴Bが見受けられる。破片。	牛伏砂岩 二次的に被熱
6	多孔石	長 18.8 幅 17.3 厚 10.1 重 388.0	6面のうち5面に凹み穴Bが見受けられる。完形。	牛伏砂岩 二次的に被熱

白倉B区174号土坑出土遺物(第250回)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を含む	口唇部に縁をもつ。断面三角形の隆帯及び沈線が口縁部に巡らせる。原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式 覆土
2	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③雲母粒を含む	口唇部が外側に肥厚。原形LRの単節斜縄文を施す。	時期不明 覆土
3	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③砂を少量含む	棒状工具による沈線文。原形LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式 覆土

白倉B区175号土坑出土遺物(第251回、PL 93)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③スコリア粒を含む	波状口縁。口縁部に断面三角の隆帯を巡らしたのち、原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E5式系 覆土
2	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	波状口縁を呈する。棒状工具による沈線文と円孔を有する。	堀之内1式 覆土
3	口縁部尖	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	口縁の突起。棒状工具による沈線及び円形刺突を施す。原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E5式系 覆土
4	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量を含む	浅く単節の斜縄文を施したのち、棒状工具による沈線を垂下する。	後期前半 覆土

白倉B区176号土坑出土遺物(第251回)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	断面三角の微隆起が巡る。胴部は棒状工具による沈線文。原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式 覆土
2	口縁部片	①良好 ②明黄褐色 ③雲母粒を含む	波状口縁。波頂部が肥厚。断面三角の隆帯を区画し、内部に刺突を施す。	加曾利E4～称名寺1式 覆土

白倉B区181号土坑出土遺物(第191回、PL 93)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴部片	①良好②鈍い黄褐色 ③石炭と片岩を少量含む	棒状工具による沈線及び断面三角の隆帯や8の字状、円形貼付文を施したのち、器体LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式
2	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む	口縁部に横S字状の貼付のち、原形LRの単節斜縄文を施す。隆帯上には1ヶ所刺突が施される。	勝版式終末期
3	口縁～胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	外面には面での沈線。	時期不明 二次的に被熱
4	口縁部片	①良好 ②灰白色 ③黒雲母粒を少量含む	波状口縁か。端状の把手が欠損。棒状工具による沈線ののち、縄文を施文。外面が磨耗する。	加曾利E4～称名寺1式

白倉B区182号土坑出土遺物(第251回、PL 93)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	棒状工具による刺突・沈線文。円孔を有する。二次的に被熱する。	堀之内1式 覆土
2	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線文。	称名寺II式 二次的に被熱
3	底部片残存	①良好 ②鈍い褐色 ③砂粒を含む	底径(7.0)。底面に刺突痕。	堀之内2式 覆土

白倉B区184号土坑出土遺物(第251図、PL 93)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線を描し、原形LRの無彫刻文を施す。	加曾利E 4式 覆土
2	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③雲を少量含む	棒状工具による沈線を描したのち、原形LRの単彫刻文を施す。	加曾利E 4～称名寺1式 覆土
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③雲を少量含む	棒状工具による沈線を描したのち、原形LRの無彫刻文を施す。	称名寺1式 覆土

白倉B区185号土坑出土遺物(第251図、PL 94)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	把手	①良好 ②浅黄褐色 ③砂粒を含む	横状及び環状の把手。原形LRの単彫刻文を施す。	加曾利E 4式
2	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③石英を少量含む	断面三角の隆帯を垂下。原形LRの単彫刻文を施す。 二次的に被熱する。	加曾利E 4式
3	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③砂を含む	原形LRの単彫刻文を施す。	加曾利E 4式

白倉B区187号土坑出土遺物(第192・193図、PL 94)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～底部 残存	①良好 ②明赤褐色 ③片岩を多量に含む	口径(42.0)、底径(10.0)、高さ36.7。頸部に隆帯を貼付。胴部は棒状工具による沈線文ののち、原形LRの単彫刻文を充満する。	加曾利E 4式か
2	口縁～胴部 残存	①良好 ②明赤褐色 ③片岩を多量に含む	口径30.0。棒状工具による沈線文を施したのち、原形LRの単彫刻文を充満する。縄文施文は左半分を削去。	加曾利E 4式
3	口縁～胴部 残存	①良好 ②褐色 ③雲母粒を含む	口径(36.4)。口縁に断面三角の隆帯を巡らせる。胴部は棒状工具による沈線が垂下し、原則的に交互に原形LRの単彫刻文を施す。	加曾利E 4式
4	口縁～胴部 残存	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	口径22.3。低い隆帯及び棒状工具による沈線で文様を描出す。縄文施文は左半分を削去。 原形LRの単彫刻文を充満する。	加曾利E 4式か
5	口縁部 残存	①良好 ②褐色 ③片岩を多量に含む	口径21.0。口縁部に低い隆帯が巡る。隆帯より下部は沈線によって文様を描出し、原形LRの無彫刻文を施す。	加曾利E 4式 地文は左半分を削去
6	口縁～胴部 残存	①良好 ②鈍い褐色 ③雲母粒を含む	口径(14.0)。棒状工具による沈線文を施したのち、原形LRの単彫刻文を施す。	加曾利E 4式
7	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線文ののち、原形0段多条LRの単彫刻文を施す。	加曾利E 4式 二次的に被熱
8	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③片岩を含む	胴部に断面三角の隆帯を巡らし、横状の把手を貼付する。	加曾利E 4式 外面が割落
9	胴部～底部 残存	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	底径7.6。棒状工具による2本1組の沈線が垂下する。底部が張り出す。	加曾利E 4式
10	胴部～底部 残存	①良好 ②褐色 ③片岩を多量に含む	底径7.0。棒状工具による沈線を描下したのち、原形LRの単彫刻文を施す。底部が張り出す。	加曾利E 4式
11	胴部～底部 残存	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	底径6.0。棒状工具による浅い沈線が垂下する。底部が張り出す。	加曾利E 4式 覆土

白倉B区188号土坑出土遺物(第251図、PL 95)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を少量含む	棒状工具による沈線・内形の刻文。地文は原形LRの単彫刻文を施す。	堀之内1式 覆土
2	胴部片	①良好 ②浅黄色 ③石英を少量含む	棒状工具による沈線文ののち、原形LRの単彫刻文を充満する。	堀之内2式 覆土
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線文ののち、原形LRの単彫刻文を充満する。 外面が準純する。	堀之内2式 覆土

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
4	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を少量含む	断面三角の隆帯を垂下する。	加曾利E4～称名寺1式 覆土

白倉B区189号土坑出土遺物(第194図、PL 95)

土器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴部片残存	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂粒を含む	口径22.6。棒状工具によるU字及び逆U字の区画ののち、原体LRの単節斜縄文を充満する。	加曾利E4式
2	口縁部片	①良好 ②褐色 ③片岩とスコリア粒を含む	棒状の把手を有する。棒状工具による沈線をしたのち、原体RLの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式 外面が摩耗

石器

(単位:cm、g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
3	石鏃	長さ 2.0 幅 1.8 厚 0.4 重 1.3	無茎で基部の凹形が弱い。比較的大形。刀部の欠損する。	黒色安山岩

白倉B区191号土坑出土遺物(第195図、PL 95)

土器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴～底部	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	口径6.5。胴上部に櫛歯状工具による条線を施す。胴下部は縦方向の磨きが施される。地文は中央部を固化。	称名寺II式
2	把手	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	波状口縁を呈す。波頂部には把手を有する。胴部は棒状工具による沈線文を施す。	称名寺II式
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線文ののち、同一工具による刺突を施す。	称名寺II式 覆土

石器

(単位:cm、g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
4	凹み石	長さ 13.7 幅 8.7 厚 3.8 重 850.0	片面に凹み穴Aが見受けられる。ほぼ全面に敲打痕。一部を欠損する。	緑色片岩

白倉B区192号土坑出土遺物(第196図、PL 95)

土器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線を巡らしたのち、原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I式 覆土
2	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③スコリア粒を少量含む	棒状工具による沈線文。原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I式 覆土
3	胴部片	①やや不良 ②褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線でU字状の区画。区画内は原体RLの単節斜縄文を施す。二次的に被覆する。	加曾利E4式 覆土

白倉B区193号土坑出土遺物(第197図、PL 95)

土器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を少量含む	口縁部に隆帯が回り、胴部に垂下する。二次的に被覆する。胴部無文。	加曾利E4～称名寺1式
2	胴～底部	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を含む	口径6.6。棒状工具による沈線文が施されるが文様は不明。	後期前半

白倉B区195号土坑出土遺物(第252図、PL 95)

土器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③片岩を含む	波状口縁。口縁上部に凹線が楕円区画状に巡る。棒状工具による沈線ののち、原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺1式 覆土
2	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による区画文ののち、原体LRの単節斜縄文を充満する。	加曾利E4式 覆土

白倉B区199号土坑出土遺物(第252図、PL 95)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②褐色 ③スロリア粉を少量含む	刺突を付した筒状の隆帯を垂下。棒状工具による沈線文ののち、原形LRの単節斜縄文を充満する。	称名寺1式
2	胴部片	①良好 ②褐色 ③石英と黒雲母粒を含む	筒状工具による沈線を下下する。	後期前半

白倉B区200号土坑出土遺物(第198図、PL 96)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~底部	①良好 ②灰褐色 ③砂粒を含む	口径20.7、直径6.0、高さ17.0。口縁部の一部には小孔や割みを施す。棒状工具による沈線文を4単位施したのち、原形LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式

白倉B区202号土坑出土遺物(第252図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による沈線文ののち、原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式~後期前半 覆土
2	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を少量含む	沈線を下下させたのち、原形RLの単節斜縄文を施す。	加曾利E3~E4式

白倉B区204号土坑出土遺物(第252図、PL 96)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	波状口縁内面は沈線と刺突文。外面は刺突を付した8の字状の隆帯を貼付したのち、棒状工具による沈線文。原形LRの単節斜縄文を充満する。外面は炭化物が付着する。	堀之内2式 覆土
2	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③石英を含む	口唇部は内折、外面は刺突を付した隆帯が返る。棒状工具による沈線文ののち、原形LRの単節斜縄文を施す。隆帯の一部は脱落する。	堀之内2式 覆土
3	胴部片	①良好 ②褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線文ののち、原形Lの無節斜縄文を施す。	堀之内2式 覆土
4	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による沈線文ののち、同一工具による刺突を施す。	称名寺II式
5	胴部片	①良好 ②灰黄褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による沈線文を施す。	堀之内1式

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
6	加工痕のある石器	長 10.9 幅 4.0 厚 1.0 重 42.0	両面に加工痕が見受けられる。スクレイパーか。完形。	珪質片岩

白倉B区205号土坑出土遺物(第199図、PL 96)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴部片残存	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	口径(19.0)。棒状工具による沈線で文様を抽出したのち、原形Lの無節斜縄文を充満する。	加曾利E4式
2	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を少量含む	断面三角の隆帯を返らしたのち、弧状に垂下。地文は原形LRの単節斜縄文を施す。二次的に被蝕する。	加曾利E4式

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
3	打製石片	長 10.6 幅 4.3 厚 3.5 重 74.0	基部から刃部に向かって開く形状。完形。	硬質片岩
4	打製石片	長 <10.0> 幅 5.4 厚 2.4 重 154.0	刃部が凸刃状を呈する。基部を欠損する。	緑色片岩

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
5	磨石	長 13.7 幅 10.2 厚 5.1 重 850.0	片面に磨面、縁辺を中心に敲打痕が見受けられる。完形。	粗粒安山岩
6	磨石	長 < 4.8> 幅 < 8.9> 厚 6.2 重 315.0	両面に磨面があり、縁辺に敲打痕が見受けられる。破片。	粗粒安山岩

白倉B区211号土坑出土遺物(第252図)

土 器			(単位:cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色	原形LRの単節斜縄文を施す。	
深 鉢		③片岩を多量に含む		覆土

白倉B区212号土坑出土遺物(第252図、PL 96)

土 器			(単位:cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②褐色 ③スコリア粒を多量に含む	口唇部に沈線を巡らす。棒状工具による沈線と刺突文を施す。	称名寺Ⅱ式
2	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③砂を含む	口唇部が内折。外面は棒状工具による沈線文ののち、原形LRの細かな単節斜縄文を施す。内側に炭化物が付着する。	堀之内Ⅱ式 覆土
3	胴部片	①良好 ②褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線を施したのち、原形LRの単節斜縄文を充塞する。	堀之内Ⅱ式
深 鉢				

石 器			(単位:cm, g)	
番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
4	多孔石	長 < 8.2> 幅 < 8.5> 厚 5.2 重 350.0	片面に凹み穴Bが見受けられる。破片。	牛伏砂岩 二次的に被熱

白倉B区217号土坑出土遺物(第200図)

土 器			(単位:cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③片岩を含む	断面三角の隆帯で文様を抽出。原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式
2	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を少量含む	棒状工具による沈線文。原形RLの単節斜縄文を施す。	称名寺Ⅰ式 覆土
3	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による沈線文ののち、原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式
深 鉢				

白倉B区223号土坑出土遺物(第253図)

土 器			(単位:cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②灰黄褐色 ③雲母粒を含む	波状口縁。波頂部に隆帯を貼付。断面三角の隆帯を貼付したのち、原形LRの単節斜縄文を充塞する。内外面は一部割断する。	加曾利E式系
2	把手	①良好 ②鈍い黄褐色 ③雲母粒を含む	原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式
深 鉢				

白倉B区226号土坑出土遺物(第202図、PL 96)

土 器			(単位:cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	口徑(35.5)。棒状工具による沈線文で文様を抽出する。文様は4単位か。	称名寺Ⅱ式
深 鉢				

石 器			(単位:cm, g)	
番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
2	石棒	長 (22.4) 幅 5.9 厚 4.8 重 1500.0	全面に敲打痕が見受けられる。破片。	緑色片岩

白倉B区227号土坑出土遺物(第253図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を含む	口唇部内側が肥厚。比線を内側に付した隆帯を巡らせる。	堀之内2式 覆土

白倉B区230号土坑出土遺物(第252図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②明褐色 ③スコリア粒を含む	棒状工具による沈線を下する。	称名寺II式 覆土

白倉B区234号土坑出土遺物(第253図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い灰色 ③片岩を含む	外面にのみ、撫で状の微隆起が施される。	堀之内2式か 覆土
2	底部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	底径(12.0)。底部に網代痕。	堀之内2式 覆土

白倉B区235号土坑出土遺物(第203図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴 部分残存	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	口径21.4。無文。口唇部に明瞭な稜をもつ。外面に炭化物が付着する。	称名寺式か

白倉B区236号土坑出土遺物(第253図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴～底部	①良好 ②灰褐色 ③砂を少し含む	底径6.4。棒状工具によるクランク状の比線を巡らせる。原形LRの単筋斜縄文を施す。	加曾利B式
2	底部	①良好 ②明赤褐色 ③礫を多く含む	底径10.2。無文。	後期前半
3	胴部片	①良好 ②淡黄色 ③雷母粒を含む	棒状工具による沈線文のうち、原形LRの単筋斜縄文を施す。	堀之内2式 覆土
4	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③砂を含む	原形LRの単筋斜縄文を施したのち、矢羽根状の刻みを付した浮線文を貼付する。	加曾利b(新)式 覆土

白倉B区238号土坑出土遺物(第204図、PL 97)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴 部分残存	①良好 ②明褐色 ③片岩を含む	口径27.0。胴部に断面三角の隆帯を2本巡らしたのち、棒状の把手を貼付する。胴部は棒状工具による沈線文のうち、原形LRの単筋斜縄文を施す。	加曾利E4式
2	口縁～胴 部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を多量に含む	断面三角の隆帯を巡らし垂下。地文は原形LRの単筋斜縄文を施す。	加曾利E4式
3	把手	①良好 ②鈍い褐色 ③砂粒を含む	波頂部に棒状の把手を貼付する。棒状工具による沈線を施したのち、原形LRの単筋斜縄文を施す。	加曾利E4式
4	破片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂粒を多く含む	両面ともに無文。穿孔は焼成後と思われる。厚さ1.0cm。	覆土

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
5	石鏃	長さ 1.9 幅 <1.3> 厚 0.4 重 0.6	無茎で基部の凹形が弱い。返し欠損する。	黒曜石

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区241号土坑出土遺物(第254図)

土器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②灰青褐色 ③黒雲母粒を含む	断面三角の隆帯を巡らしたのち重下。原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式 覆土
2	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	波状口縁。棒状工具による沈線文。原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I1式 覆土

白倉B区242号土坑出土遺物(第206図、PL 98)

土器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴部片残存	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	口徑(40.8)。刻みを付した隆帯を口縁及び胴部に貼付する。口縁部内面には一ヶ所、刻みを付した8の字状の隆帯を貼付する。胴部には棒状工具による沈線文を施す。257号土坑2と整合。	堀之内1式 外面に炭化物付着
2	口縁~胴部	①良好 ②灰い黄褐色 ③砂粒を含む	口徑12.0。口縁部は指痕で状の痕跡が残存。胴部は磨きか施される。	後期前半
3	胴部片残存	①良好 ②明黄褐色 ③砂を少量含む	底径(9.0)。無文。丁寧な磨きか施される。	後期前半
4	把手	①良好 ②黄褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による刺突や刻みを施す。	堀之内式
5	胴部片	①良好 ②明褐色 ③石英を少量含む	棒状工具による沈線文ののち、同一工具による刺突文を施す。	称名寺II式
6	胴部片	①良好 ②灰い黄褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による沈線を垂下。原体RLの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式
7	胴部片	①良好 ②明褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による沈線文ののち、原体LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式 覆土
8	底部	①良好 ②灰い黄褐色 ③砂を少量含む	底径10.5。底面に刺代痕をもつ。	堀之内2式
9	胴~底部	①良好 ②褐色 ③片岩を含む	底径9.0。底面に刺代痕をもつ。	堀之内2式

白倉B区243号土坑出土遺物(第253図、PL 97)

土器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による沈線文及び8の字状の貼付文を施す。	堀之内1式
2	胴部片残存	①良好 ②灰い黄褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線文ののち、原体LRの単節斜縄文を充填する。さらにその後、磨きか施され、沈線及び縄文の一部が消されている。	加曾利E4式か
3	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③砂を少量含む	棒状工具による沈線文を施す。	称名寺II式
4	胴部片	①良好 ②明褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による沈線文を施す。	堀之内1式 覆土

白倉B区244号土坑出土遺物(第207・208図、PL 98)

土器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片欠損	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を含む	口徑19.5、底径9.2、高さ19.0。口唇部は内折する。口縁には棒状工具による刻みを付した隆帯が巡り、8の字状の貼付を施す。胴上部は棒状工具による沈線文を4単位施したのち、原体LRの単節斜縄文を施す。底面に刺代痕。	堀之内2式
2	胴~底部	①良好 ②褐色 ③砂粒を含む	底径13.0。棒状工具による沈線が区画ののち、原体LRの単節斜縄文を施す。底面に刺代痕。	堀之内2式
3	口縁~胴部片	①良好 ②赤褐色 ③砂を含む	外面に指で状の痕跡。	後期前半
4	口縁部片	①良好②明褐色③石英とスコリア粒を少量含む	棒状工具による沈線文を施す。	称名寺II式 二次的に被熱
5	口縁部片	①良好 ②灰青褐色 ③砂を少量含む	口唇部が内折。棒状工具による沈線文。原体LRの細かな単節斜縄文を施す。	堀之内2式 覆土

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
6	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を多量に含む	棒状工具によるU・逆U字状の区画ののち、原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4～称名寺1式
7	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③スコリア粒と片岩を含む	棒状工具による沈線で渦巻文を施す。	称名寺II式

白倉B区246号土坑出土遺物(第210・211図、PL 99)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴部片残存	①良好 ②褐色 ③礫を少量含む	口径(12.4)。低い隆帯で胴部に渦巻文を施す。 内外面に割削し、外面一部に漆(?)が付着する。	加曾利E 4式
2	口縁～胴部片残存	①良好 ②褐色 ③片岩を多量に含む	口径(24.5)。波状口縁を呈し、棒状工具による沈線文を施したのち、原体Lの無節斜縄文を施す。	加曾利E 4式
3	胴部～底部	①良好 ②褐色 ③礫を含む	底径8.0。棒状工具によるU字及び逆U字の区画ののち、原体LRの単節斜縄文を施す。胴上半と下半では施される原体が異なる。	加曾利E 4式
4	口縁～胴部片残存	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	口径(29.0)。棒状工具による沈線文ののち、原体Lの無節斜縄文を施す。	加曾利E 4式
5	口縁～胴部片残存	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	口径6.0、底径8.2、高さ6.6。棒状把手を有するミニチュア土器。棒状工具による沈線で渦巻文を施す。	加曾利E 4式 ミニチュア土器
6	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂粒を含む	隆帯によって区画を施したのち、原体RLRの複節斜縄文を充填し、隆帯にそって擦り施す。口唇部には刻みを施す。	加曾利E 4式
7	口縁部片	①良好 ②暗赤褐色 ③黒雲母粒とスコリアを含む	凹線によって文様を施す。地文は原体RLの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4式
8	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	筒状の把手を貼付する口縁部片。口縁突起の上には8の字状を呈する。棒状工具による沈線と、原体RLの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4式
9	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による沈線を施したのち、原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E 4式
10	胴～底部片残存	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	底径(10.0)。棒状工具による沈線を垂下したのち、原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4式
11	胴～底部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を多く含む	底径6.0。棒状工具による沈線を垂下する。	加曾利E 4式 外面が摩耗

白倉B区248号土坑出土遺物(第212図、PL 99)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴部片残存	①良好 ②褐色 ③砂を含む	口径(37.0)。口縁に断面三角の隆帯を巡らしたのち、胴部に垂下させ、交互に原体LRの単節斜縄文を充填する。	加曾利E 4式 地文は中央部を区画化
2	口縁～胴部片残存	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	口径(29.0)。口縁部に断面三角の隆帯を巡らせ、胴状の把手を貼付する。胴部は原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4式

白倉B区250号土坑出土遺物(第254図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②暗赤灰色 ③黒雲母粒を含む	凹線及び低い隆帯で文様を施す。0段多系RLR単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
2	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③礫を少し含む	凹線が巡る。原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4式 外面が摩耗

白倉B区255号土坑出土遺物(第213図)

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
1	石棒	長 49.3 幅 7.6 厚 5.5 重 4100.0	全面に敲打痕。長端部に1周、他に縁辺に敲打を集中させる。凹み穴Bが見受けられる。完形。	緑色片岩

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区256号土坑出土遺物(第254図、PL 100)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③砂粒を含む	口縁には人面状の貼付文。胴上部に刻みを付した隆帯及び8の字状の隆帯を貼付する。棒状工具による沈線文のち、原形LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式 覆土
2	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	低い隆帯が口縁部に巡る。棒状工具による沈線文のち、原形LR単節斜縄文を施す。外面が摩耗する。	加曾利E 4式 覆土
3	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線文のち、原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4式 覆土
4	胴部片	①良好 ②褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線文のち、原形LRの単節斜縄文を施す。	称名寺1式 覆土
5	胴部片	①良好 ②褐色 ③片岩を多量に含む	原形LRの単節斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による平行沈線文を施す。内面が一部剥落する。	踏磯b(新)式 覆土
6	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線を施したのち、原形Lの無節斜縄文を施す。	称名寺1式 覆土

白倉B区257号土坑出土遺物(第215図、PL 100)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を少量含む	波状口縁で口唇部が大きく内折する。棒状工具による沈線と刺突を施す。	称名寺II式 覆土
2	口縁~胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③石炭を少量含む	口縁部は刻みを付した隆帯と8の字状の隆帯を貼付する。胴部は棒状工具による沈線、24号土坑1と接合。	堀之内1式 覆土
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線の区画。原形LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式 覆土
4	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石炭を少量含む	低い断面三角の隆帯でU字状に区画。原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4式 覆土
5	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線文。地文は原形LRの単節斜縄文を施す。	称名寺1式 二次的に被熱

石 器

(単位: cm、g)

番号	種 類	大きさ・重量	形 状 ・ 特 徴 等	備 考
6	石棒	長 <23.7> 幅 4.3 厚 3.2 重 488.0	全面に強い敲打痕が見受けられる。一部を欠損する。	緑色片岩

白倉B区258号土坑出土遺物(第254図、PL 100)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	把手	①良好 ②鈍い黄褐色 ③雲母粒を含む	環状の把手。原形は直前段2条LR斜縄文を施す。	加曾利E 4式 覆土
2	口縁部片	①良好 ②明黄褐色 ③片岩を少量含む	隆帯が口縁部に対してほぼ水平に巡る。二次的に被熱する。	加曾利E 4~称名寺式 覆土
3	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③片岩を多量に含む	棒状工具による沈線文を施したのち、原形Lの無節斜縄文を施す。	加曾利E 4式 覆土

白倉B区259号土坑出土遺物(第216・217図、PL 100)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁~胴部片	①良好 ②褐色 ③片岩を多量に含む	波状口縁。断面三角の低い隆帯が巡り、原形LRの単節斜縄文を施す。二次的に被熱する。	加曾利E 4式 覆土
2	口縁部片	①良好 ②褐色 ③片岩とスコリア粒を含む	断面三角の隆帯を巡らし、断面下、地文は原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4式 覆土
3	口縁部片	①良好 ②明黄褐色 ③石炭を含む	幅広い凹縁で文様を描出。原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 3式 覆土
4	口縁~胴部片欠損	①良好 ②鈍い黄褐色 ④スコリア粒を含む	口径(7.0)、底径3.8、高さ8.1。底部が張り出す深鉢のミニチュア土器。原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E 4式 ミニチュア土器
5	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石炭を含む	柄杓の把手部分。棒状工具による沈線及び単節斜縄文が施される。外面が摩耗する。	加曾利E 4式 覆土

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
6	胴～底部 瓦残存	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂粒を含む	底径9.0。櫛歯状工具による条線が縦位に施される。 外面の一部が剥落する。	加曾利E 4式

白倉B区264号土坑出土遺物(第254図、PL 101)

土 器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴 部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	口唇部が内折。棒状工具による沈線文のち、原形LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式 覆土
2	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③黒雲母粒を少量含む	口唇部が内折。外面は刻みを付した隆帯を巡らし、棒状工具による文様を掘出のち、原形LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式 覆土
3	口縁部片	①良好② 鈍い黄色③礫と スコリア粒を少量含む	口縁部に低い隆帯が巡る。棒状工具による沈線文。	称名寺II式 覆土
4	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③石英を含む	棒状工具による沈線文。地文は原形LRの単節斜縄文を施す。 外面が磨耗する。	称名寺I式 覆土

白倉B区272号土坑出土遺物(第255図、PL 101)

土 器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①やや不良 ②明黄褐色 ③片岩を含む	波状口縁。原形LRの単節斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による平行沈線文を掘出す。	諸磯b(新)式
2	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③礫を少量含む	棒状工具による沈線文のち、原形LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I式 覆土
3	把手	①良好 ②明黄褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による沈線及び交互斜縄文や、幅広い竹管文を施す。	脚立式器末期 覆土 A群
4	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③雲母粒を多量を含む	口縁部が大きく内彎する。原形LRの単節斜縄文を施したのち、刻みを付した隆帯を貼付する。二次的に被熱する。	諸磯b(新)式 覆土
5	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③礫と雲母粒を含む	棒状工具により文様を掘出す。外面に灰化物が付着する。	曾利式系 覆土
6	胴部瓦残 存	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を含む	6段多条、原形LRの単節斜縄文を施す。 縄文施文は中央部を固化する。	諸磯b(新)式 覆土
7	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③礫を含む	棒状工具による乱雑な刻文を施す。	三十稻場式か 覆土
8	胴部片	①良好②明黄褐色③片岩と スコリア粒を含む	棒状工具による沈線を帯下。原形LRの単節斜縄文を施す。 二次的に被熱する。	加曾利E 3式 覆土

白倉B区273号土坑出土遺物(第218図)

土 器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴 部瓦残存	①良好 ②赤褐色 ③片岩と石英を含む	口径(50.5)。凹線を伴った2本1組の低い隆帯で渦巻文を掘出。原形LRの単節斜縄文を充塞する。	加曾利E 3式 地文は左半分を固化

白倉B区274号土坑出土遺物(第219図)

土 器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴～底部	①良好 ②鈍い褐色 ③雲母粒を含む	底径7.7。無文。	加曾利E 4式か

白倉B区277号土坑出土遺物(第220・221図、PL 101)

土 器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴 部瓦残存	①良好 ②赤褐色 ③砂を含む	口径(36.0)。原形LRの単節斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による沈線文。口縁上には沈線が5通り、刻みを付した隆帯が帯下する。	堀之内1式
2	口縁～胴 部一部欠 損	①良好 ②暗褐色 ③片岩を含む	口径12.5、底径4.5、高さ15.0。8の字状の貼付文及び刻みを付した隆帯が口縁より1ク所帯下する。胴部は棒状工具による沈線文を施し、原形LRの単節斜縄文を施す。	堀之内1式
3	注口土 器	①良好 ②暗褐色 ③石英を含む	算盤玉状の形態を有する注口土器。把手の一部が残存する。	堀之内1式

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
4	胴部片	①良好 ②灰褐色 ③片岩を少量含む	棒状工具による沈線ののち、原体LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式

白倉B区278号土坑出土遺物(第256図)

土器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	口縁部に刺突文と隆帯を巡らす。棒状工具による沈線文ののち、原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式か覆土
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③スコリア粒を少量含む	棒状工具によるU字状の区画文。区画内には原体Lの無節斜縄文を施す。	加曾利E4式か覆土

白倉B区279号土坑出土遺物(第255図)

土器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	把手	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を含む	三方向に穴が存在する。刺突及び胎土の貼付によって文様を描出する。	称名寺II~堀之内I式
2	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③石灰を少量含む	波状口縁。口唇部が角張状を呈す。棒状工具による沈線文ののち、原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I式
3	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③黒雲母粒を含む	波状口縁。棒状工具による沈線が回り、原体LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I式覆土
4	胴部片	①良好 ②褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線を施したのち、刺突を充填する。	称名寺II式床直

白倉B区280号土坑出土遺物(第222図)

土器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片 残存	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を多量に含む	口径68.0。口唇部が内側に肥厚する。無文。	堀之内1式

白倉B区282号土坑出土遺物(第256図、PL 102)

土器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴部片	①良好 ②赤褐色 ③スコリア粒を少量含む	棒状工具による沈線文ののち、原体LRの単節斜縄文を充填する。	堀之内2式
2	口縁~胴部片	①良好 ②褐色 ③砂を多量に含む	頸部に隆帯による橋脚区画文。二次的に被熱。	勝坂式終末期A群
3	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③砂を多量に含む	口唇部が内折。棒状工具による沈線文ののち、原体不明の単節斜縄文を施す。	堀之内2式 外面が磨耗
4	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線文。原体LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式
5	胴部片	①良好 ②黒褐色 ③砂を含む	棒状工具による沈線文ののち、円形刺突を付した8の字状の隆帯を貼付する。	堀之内1式覆土

白倉B区283号土坑出土遺物(第223図、PL 102)

土器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	断面三角の隆帯を巡らしたのち垂下。地文は原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式
2	口縁部片 残存	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	口径19.0。無文。口唇部が角張状を呈す。	後期前半
3	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③石灰を少量含む	棒状工具による沈線を施したのち、原体LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式覆土
4	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線文ののち、同一工具による刺突を施す。	称名寺II式

白倉B区287号土坑出土遺物(第256図)

(単位: cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	胴部片	①良好 ②暗褐色 ③黒雲母粒を含む	隆帯を貼付したのち、原形RLの単節斜織文を施す。	唐櫃式終末期 覆土
2	胴部片	①良好 ②暗褐色 ③雲母粒を含む	刻みを付した隆帯を巡らせる。隆帯上は棒状工具による沈線文。 他は原形Lのより糸を施す。	唐櫃式終末期 覆土

白倉B区288号土坑出土遺物(第225図、PL 102)

(単位: cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	胴~底部	①良好 ②明赤褐色 ③繊維を多量に含む	底径8.4。原形RLとLRの単節斜織文を變形に施文。織文原形は0段多条か。	唐櫃式
2	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維と塵を含む	口唇部は角頭状を呈する。半截竹管状工具による平行沈線で文様を描出する。	唐櫃式
3	口縁~胴部片	①やや不良 ②暗褐色 ③繊維を含む	口縁部は半截竹管状工具による平行沈線文。胴部は原形RLの単節斜織文を羽状に構成。	有尾式系
4	胴部片	①良好②鈍い黄褐色③繊維とスコリア粒を含む	半截竹管状工具による連続爪形文。	有尾式系
5	胴~底部	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を多量に含む	底径9.0。原形RLとLRの単節斜織文を羽状に施文。原形は0段多条か。	唐櫃式 覆土

白倉B区291号土坑出土遺物(第226・227図、PL 102)

(単位: cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	胴~底部	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	底径10.0。原形LRの単節斜織文を施したのち、半截竹管状工具による平行沈線文を施す。	酒磯b(新)式
2	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③黒雲母粒を少量含む	口縁部が内折する。原形RLの単節斜織文を施す。	酒磯b(新)式 覆土
3	胴部片	①やや不良 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	原形RLの単節斜織文を施したのち、薄い隆帯を貼付し、隆帯上に矢羽頭状の刻みを施した浮線文で文様を描出する。	酒磯b(新)式
4	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具による平行沈線文。	有尾式系
5	胴部片	①やや不良 ②暗赤褐色 ③片岩を含む	原形RLの単節斜織文を施したのち、刻みを付した浮線文。	酒磯b(新)式 隆帯が一部脱落

石 器

(単位: cm, g)

番号	種 類	大きさ・重量	形 状 ・ 特 徴 等	備 考
6	石匙	長 8.4 幅 5.4 厚 1.6 重 64.0	縦長削片を素材とする。体部が短筒状を呈す。完形。	硬質泥岩 覆土
7	加工痕のある石磨	長 7.8 幅 4.4 厚 1.0 重 27.0	縦長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩 覆土

白倉B区298号土坑出土遺物(第256図、PL 102)

(単位: cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を多量に含む	断面三角の隆帯を巡らしたのち重下。原形LRの単節斜織文を施す。	加曾利E4式 外面の一部脱落
2	口縁部片	①良好 ②灰黄褐色 ③スコリア粒を少量含む	棒状工具による沈線を巡らす。	地名寺口式 二次的に被熱
3	口縁部片	①良好 ②灰黄褐色 ③片岩を少量含む	鋸歯状工具による沈線文を施す。	時期不明
4	胴部片	①良好 ②黒褐色 ③石英を少量含む	棒状工具による沈線ののち、原形LRの単節斜織文を施す。	形之内2式 二次的に被熱

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉B区299号土坑出土遺物(第288図、PL 103)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	断面三角の隆帯を巡らしたのち垂下。胴部無文。	加賀利E式系か外面が一部剥落
2	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③石英を含む	棒状及び環状を呈する把手を有する。断面三角の隆帯で文様を描出し、口縁には斜交文を、胴部には原形LRの単節斜交文を施す。	加賀利E4~称名寺1式
3	口縁~胴部片	①良好②鈍い黄褐色 ③結晶片岩を多量に含む	口縁部に棒状工具による沈線を巡らしたのち、原形RLの単節斜交文を施す。胴体は9段多糸。	加賀利E式系

白倉B区300号土坑出土遺物(第256図、PL 103)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を含む	無文。口縁部は横方向に、胴部は縦方向の磨きが施される。	後期前半外面が剥落
2	口縁~胴部片	①良好 ②灰黄褐色 ③砂を含む	口縁部には棒状工具による沈線が通り、円形の凹みを施す。	堀之内1式 覆土

白倉C区13号土坑出土遺物(第304図)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③繊維を含む	0段多糸の原形LRの単節斜交文と原形RLの単節斜交文を施したのち、平敏竹管状工具による連続爪形文を巡らせる。	黒浜式 覆土

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
2	凹み石	長 < 5.8 幅 6.7 厚 2.7 重 121.0	両面に凹み穴が見受けられる。縁辺を中心に敲打痕、片残存。	硬質泥岩 二次的に被熱

白倉C区18号土坑出土遺物(第304図、PL 103)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	窪みを付した隆帯を巡らす。地文は原形Lのより糸。内面が一部剥落する。	勝坂式終末期
2	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維と石英を含む	原形Lの無節斜交文を施す。	黒浜式
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を多量に含む	鎖状の隆帯を垂下する。地文は原形LRの単節斜交文を施す。	称名寺1式 覆土

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
4	石匙	長 < 3.3 幅 3.5 厚 0.7 重 9.5	縦長切片を素材とする。つまみ部の調整を丁寧に施す。先端を欠損する。	チャート
5	加工痕のある石器	長 3.8 幅 10.4 厚 1.4 重 67.0	両面に加工痕が見受けられる。スクレイパーか。完形。	緑色片岩

白倉C区40号土坑出土遺物(第304図)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③石英を少量含む	棒状工具による沈線文。地文は原形LRの単節斜交文を施す。	時期不明 覆土
2	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③黒雲母粒を含む	原形Rのより糸を施す。	時期不明

白倉C区42号土坑出土遺物(第304図、PL 103)

土 器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①やや不良 ②暗褐色 ③繊維を多量に含む	原形が結束第1種のRLとLRの単節斜縄文を施す。	黒浜式
2	胴部片	①やや不良 ②明黄褐色 ③繊維を含む	原形RLの単節斜縄文と原形Lの無節縄文を羽状に施文ののち、円形の隆帯を貼付する。	黒浜式

石 器

(単位:cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
3	磨製石片	長さ 9.4 幅 6.0 厚 2.7 重 270.0	製作途中の欠損品か。剝離面及び敲打痕が見受けられる。約1/2を欠損する。	室賀武岩

白倉C区44号土坑出土遺物(第257図、PL 103)

土 器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴部片残存	①良好 ②明赤褐色 ③繊維を含む	口徑(21.0)。口唇部は角頭状を呈する。口縁部は半截竹管状工具による連続爪形文で文様を揃出。胴部は原形RLとLRの単節斜縄文を菱形状に施文。	有尾式系
2	口縁～胴部片	①良好 ②黄褐色 ③繊維を含む	口唇部が角頭状。原形RLの単節斜縄文を施す。	黒浜式
3	胴部片	①やや不良 ②暗褐色 ③繊維を多量に含む	原形RLの単節斜縄文を施したのち、隆帯を一部貼付する。	黒浜式

白倉C区45号土坑出土遺物(第258・259図、PL 104)

土 器

(単位:cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	口徑(20.9)。口唇部が角頭状を呈する。原形RとLの無節斜縄文を菱形状に施文する。	黒浜式
2	口縁～胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維と石英を含む	口唇部は角頭状を呈す。6段多条の原形RLと0段3条の原形LRの単節斜縄文を菱形状に施文する。	黒浜式
3	口縁～胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	波状口縁。半截竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系 黒土
4	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維と石英を含む	波状口縁を呈する。半截竹管状工具による連続爪形文を施文。	有尾式系
5	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③繊維とスコリア粒を含む	半截竹管状工具による連続爪形文で文様を揃出する。	有尾式系
6	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系

石 器

(単位:cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
7	石砧	長さ 9.3 幅 6.4 厚 1.8 重 97.0	縦長削片を素材とする。つまみ部の調整が早い。完形。	硬質泥岩 覆土
8	使用痕のある石器	長さ 5.3 幅 6.8 厚 1.9 重 52.5	縦長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩
9	多孔石	長さ 10.5 幅 11.4 厚 2.7 重 516.0	片面に凹み穴Bが見受けられる。完形。	緑色片岩
10	凹み石	長さ 6.8 幅 6.3 厚 4.6 重 165.0	両面に凹み穴Aが見受けられる。全面に敲打痕。一部を欠損する。	期較安山岩
11	凹み石	長さ 11.6 幅 6.9 厚 2.7 重 411.0	両面に磨面と凹み穴Aが見受けられる。完形。	室賀武岩

白倉C区46号土坑出土遺物(第260図)

土 器

(単位:cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
1	加工痕のある石器	長さ 5.5 幅 8.2 厚 1.8 重 81.0	両面に加工痕が見受けられる。スクレイパーか。完形。	黒色安山岩 (多量品)

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区47号土坑出土遺物(第305図、PL 103)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	胴部片	①やや不良 ②黒褐色 ③繊維を少量含む	胴体Lの無節斜縄文。	黒浜式
2	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を少量含む	隆帯を巡らしたのち、半截竹管状工具による沈線文。	勝飯式終末期

石 器			(単位: cm, g)	
番号	種 類	大きさ・重量	形 状 ・ 特 徴 等	備 考
3	石鏃	長 2.2 幅 1.4 厚 0.4 重 1.1	無茎で基部の凹形が強い。完形。	肥後
4	加工痕のある石器	長 9.1 幅 5.0 厚 1.4 重 57.5	縦長剥片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩

白倉C区49号土坑出土遺物(第304図、PL 103・104)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②褐色 ③繊維を含む	口唇部は角頭状を呈する。胴体LRの単節斜縄文を施す。	黒浜式 覆土

白倉C区50号土坑出土遺物(第304図、PL 103)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	胴~底部 片残存	①良好 ②黄褐色 ③繊維を少量含む	底径(6.8)。底部が張り出す。胴体Rの無節斜縄文を施す。	黒浜式
2	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③繊維を少量含む	半截竹管状工具による連続爪形文が巡る。	有尾式系

白倉C区51号土坑出土遺物(第261図、PL 104)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁~胴 部片残存	①良好 ②黄褐色 ③片岩を含む	口径(23.0)。凹縁及び低い隆帯で文様を描出する。胴体LRの複節斜縄文を施す。	加曾利E 3式
2	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③繊維と片岩を含む	胴体RLとLRの単節斜縄文を羽状に施文。	黒浜式
3	胴部片	①良好 ②褐色 ③繊維を少量含む	半截竹管状工具による平行沈線及び連続刺突文を巡らす。	有尾式系

石 器			(単位: cm, g)	
番号	種 類	大きさ・重量	形 状 ・ 特 徴 等	備 考
4	加工痕のある石器	長 9.3 幅 5.1 厚 1.8 重 68.5	両面に加工痕が見受けられる。完形。	硬質泥岩
5	使用痕のある石器	長 5.2 幅 7.1 厚 2.3 重 44.0	縦長剥片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩 覆土

白倉C区52号土坑出土遺物(第305図、PL 104)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁部片	①やや不良 ②赤褐色 ③繊維と片岩を含む	胴体RLの単節斜縄文を施す。	黒浜式
2	口縁部片	①良好 ②褐色 ③繊維と片岩を含む	半截竹管状工具による連続爪形文。	有尾式系

白倉C区55号土坑出土遺物(第305図、PL. 104)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③繊維と石灰を含む	原形LRの単節斜縄文を施す。	黒浜式 覆土
2	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維と片岩を含む	直前段反器でRRの原形が施される。	黒浜式 覆土

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
3	加工痕のある石器	長 10.9 幅 8.1 厚 2.1 重 187.0	表面の大部分は被熱による剥落が著しいが、両面に加工痕が見受けられる。一部を欠損する。二次的に被熱する。	砂岩 覆土

白倉C区56号土坑出土遺物(第305図、PL. 104)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②明褐色 ③繊維を含む	原形LとRの無節斜縄文を羽状に施文。	黒浜式 覆土
2	胴部片	①良好 ②褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具による連続爪形文が施される。	有尾式系 覆土

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
3	加工痕のある石器	長 9.0 幅 6.5 厚 2.6 重 144.0	縦長剣片を素材とする。両面に加工痕が見受けられる。完形。	硬質泥岩 覆土

白倉C区58号土坑出土遺物(第262図、PL. 104)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴～底部	①良好 ②明褐色 ③繊維を含む	底径(9.0)。原形RとLの無節斜縄文を施す。	黒浜式

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
2	石匙	長 8.2 幅 6.3 厚 1.9 重 77.0	縦長剣片を素材とする。つまみ部の調整が粗い。完形。	硬質泥岩

白倉C区59号土坑出土遺物(第264図、PL. 105)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴～底部	①良好 ②明褐色 ③雲母粒を含む	底径(8.0)。幅広い竹管による刻みを付した隆帯で文様を抽出する。三叉文やベン先状の連続刺突が施される。	勝飯Ⅱ式
2	口縁～胴部片	①良好 ②暗赤褐色 ③片岩を多量に含む	外面を潰れ削って文様を抽出のち、原形RLの単節斜縄文を施し、さらに半截竹管状工具による刺突を付す。	勝飯Ⅱ式
3	口縁部片	①良好 ②褐色 ③石灰を多量に含む	口唇部直下に幅広い竹管文。口縁部は棒状工具による比線文。	勝飯式終末期
4	胴部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を多く含む	原形RLの縄文を施す。隆帯で文様を施したのち、棒状工具による比線文。内面が被熱により割裂する。	勝飯式終末期
5	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③繊維を多量に含む	原形Rの無節斜縄文を施す。	黒浜式
6	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	原形RLの単節斜縄文を施す。	黒浜式

白倉C区64号土坑出土遺物(第305図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①やや不良 ②赤褐色 ③繊維と片岩を多く含む	原形Rと原形Lの無節斜縄文を施す。	黒浜式

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区67号土坑出土遺物(第305図、PL 105)

土 器				(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考	
1	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③片岩を多量に含む	隆帯で区画し、隆帯に沿って幅広い竹管文を施す。区画内はベン先状刻文、三叉文などを施す。	黒板Ⅱ式	
2	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③片岩を多量に含む	幅広い竹管文とベン先状刻文及び半截竹管状工具によって文様を施出する。	黒板Ⅱ式 覆土	
3	胴部片	①良好 ②明褐色 ③繊維を多量に含む	原体RLとLRの単節斜縄文を菱形状に施す。	黒板Ⅱ式 覆土	
4	胴部片	①不良 ②明褐色 ③繊維を含む	原体RLとLRの単節斜縄文を羽状に施す。原体は0段多条か。	黒板Ⅱ式 覆土	

白倉C区70号土坑出土遺物(第305図、PL 105)

土 器				(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考	
1	口縁部片	①良好 ②褐色	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式	
深 鉢		③繊維と石英を含む			

白倉C区82号土坑出土遺物(第306図)

土 器				(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考	
1	胴部片	①やや不良 ②黄褐色 ③繊維を多量に含む	原体LRの単節斜縄文を施す。外面に炭化物が付着する。	黒板Ⅱ式 覆土	
深 鉢					

石 器				(単位: cm, g)	
番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考	
2	石皿か	長 21.2 幅 25.0 厚 4.6 重 3650.0	片面に磨面が、両面に凹み穴Bが見受けられる。一部を欠損する。	雲母石英片岩	

白倉C区85号土坑出土遺物(第306図、PL 105)

土 器				(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考	
1	胴部片	①良好 ②鈍い青褐色 ③繊維を少量含む	原体Lの無節斜縄文ののち、半截竹管状工具による平行沈線文。	黒板Ⅱ式	
2	鉢				
深 鉢	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③粗骨母粒を含む	半截竹管状工具による平行沈線文と櫛歯状工具による条線を施す。内側に炭化物が付着する。	黒板Ⅱ式	

石 器				(単位: cm, g)	
番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考	
3	加工痕のある石器	長 9.2 幅 5.1 厚 2.1 重 97.0	竪長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩	

白倉C区86号土坑出土遺物(第306図、PL 105)

土 器				(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考	
1	胴部片	①やや不良 ②鈍い黄褐色 ③繊維と礫を含む	原体RLとLRの単節斜縄文を羽状に施すののち、円形隆帯を貼付する。器面の凹凸が著しい。	黒板Ⅱ式	
深 鉢					

石 器				(単位: cm, g)	
番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考	
2	石匙	長 4.0 幅 5.4 厚 1.2 重 12.5	横長削片を素材とする。つまみ部の調整が粗い。完形。	硬質泥岩 覆土	

白倉C区89号土坑出土遺物(第306図)

土 器				(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考	
1	底部	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	底径(8.0)。預文。	黒板Ⅱ式	
深 鉢					

白倉C区91号土坑出土遺物(第306図、PL. 105)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	胴部&残存	①良好 ②褐色 ③繊維と片岩を含む	原形RLの単節斜縄文を施す。	黒浜式
2	胴部片	①良好 ②褐色 ③繊維を含む	平載竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系

白倉C区94号土坑出土遺物(第307図、PL. 105)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③繊維を多量に含む	口唇部は角筒状を呈する。平載竹管状工具による沈線が通る。	有尾式系 覆土
2	口縁部片	①良好 ②明黄褐色 ③繊維を少量含む	波状口縁。口唇部は内凹ぎ状を呈する。平載竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系 覆土

石 器

石 器			(単位: cm, g)	
番号	種 類	大きさ・重量	形 状 ・ 特 徴 等	備 考
3	使用痕のある石器	長 6.0 幅 4.6 厚 1.0 重 21.5	縦長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩 覆土
4	使用痕のある石器	長 5.0 幅 5.1 厚 1.1 重 23.0	縦長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩 覆土

白倉C区95号土坑出土遺物(第265図、PL. 106)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁→胴部&残存	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を多量に含む	口径(25.0)。4単位のゆるやかな波状口縁を呈する。原形LRの単節斜縄文を施す。縄文施文は左半分を固化。	黒浜式
2	胴→底部	①良好 ②褐色 ③繊維を含む	底径(11.0)。原形0段多糸RLとLR単節斜縄文を菱形に施文する。底部は上げ底を呈する。	黒浜式

白倉C区96号土坑出土遺物(第266図、PL. 105)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	口縁→胴部	①良好 ②鈍い赤褐色 ③繊維を含む	口径26.0。口縁は4単位の波状口縁を呈し、平載竹管状工具による平行沈線を施す。胴部は原形RLとLRの単節斜縄文を羽状に施す。	有尾式系
2	胴→底部	①良好 ②赤褐色 ③繊維と石英を含む	底径11.0。原形RLとLRの単節斜縄文を羽状に施文。	黒浜式
3	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③砂を含む	幅広い竹管文及び平載竹管状工具による刺突文を施す。	黒浜Ⅱ式

白倉C区97号土坑出土遺物(第307図)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③繊維を含む	原形LRとRLの単節斜縄文を羽状に施す。原形は0段多糸か。	黒浜式

白倉C区98号土坑出土遺物(第307図)

土 器			(単位: cm)	
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土	器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
1	胴部片	①良好 ②鈍い黄色 ③繊維を含む	原形LRの単節斜縄文を施したのち、平載竹管状工具による沈線を施す。	黒浜式 覆土
2	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③石英を含む	薄い隆帯を高らしたのち、原形RLの単節斜縄文を施す。	黒磯b(新)式 覆土

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区99号土坑出土遺物(第307図)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③繊維と片岩を含む	原形RLの単即斜縄文を施す。原体は0段多条。	黒浜式
深鉢				

白倉C区101号土坑出土遺物(第307図、PL 106)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①やや不良 ②暗褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系
深鉢				
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	原形不明の単即斜縄文を施す。	黒浜式
深鉢				

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
3	石鏃	長さ 1.3 幅 1.5 厚 0.3 重 0.4	無茎で基部の凹形が強い。完形。	黒曜石

白倉C区102号土坑出土遺物(第307図、PL 106)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①やや不良 ②黒褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具による平行沈線を通らしたのち、平行沈線間に棒状工具による刺突を施す。	有尾式系
深鉢				
2	胴部片	①良好 ②灰黄褐色 ③繊維と片岩を含む	原形RLとLRの単即斜縄文を施す。原体は0段多条か。	黒浜式
深鉢				

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
3	石匙	長さ 8.3 幅 5.3 厚 2.2 重 54.0	縦長削片を素材とする。完形。	硬質泥岩
4	石匙	長さ 5.4 幅 5.3 厚 1.3 重 34.5	体部が三角形状を呈する。つまみ部の調整が粗い。完形。	細粒安山岩
5	磨製石斧	長さ (8.6) 幅 6.2 厚 2.3 重 238.0	側縁の断面形状が左右で異なる。一部に敲打痕。基部を欠損する。	変は入れい岩

白倉C区103号土坑出土遺物(第267・268図、PL 106)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具による平行沈線で文様を描出する。	黒浜式か 覆土
深鉢				
2	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	口縁部に半截竹管状工具による刻突文。原形RLの単即斜縄文を施す。	黒浜式 覆土
深鉢				
3	胴部片	①良好 ②灰黄褐色 ③繊維を含む	原形Lの無即斜縄文を施す。	黒浜式 覆土
深鉢				
4	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母 粒を多量を含む	原形不明の単即斜縄文を付した器部と棒状工具による沈線で文様を描出する。	棒状式終末期 覆土
深鉢				

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
5	加工痕のある石器	長さ 6.5 幅 6.9 厚 1.7 重 64.0	縦長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩 覆土

白倉C区109号土坑出土遺物(第270図、PL 106)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁～胴部	①やや不良 ②褐色 ③繊維を含む	口径(34.0)。口唇部が角筒状を呈し、胴部が屈曲する。原形0段多条RL単即斜縄文を施す。縄文施文は中央部を弱化する。	黒浜式 外面が摩耗
深鉢				

白倉C区114号土坑出土遺物(第308図、PL 106)

土 器			(単位:cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③礫を少量含む	棒状工具による沈線文。原形RLの単筋斜縄文を施す。原形は0段多条か。	後部前半か覆土
深 鉢				

白倉C区116号土坑出土遺物(第271図、PL 106)

土 器			(単位:cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	原形RLの単筋斜縄文を施す。	黒沢式
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具の内側による連続斜縄文を施す。	黒沢式 覆土
深 鉢				

白倉C区117号土坑出土遺物(第308図、PL 106)

土 器			(単位:cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。外面に炭化物が付着する。	有尾式系
2	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③繊維と礫を含む	棒状工具による沈線を高らせる。	有尾式系
3	胴部片	①やや不良 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	4本1組の彫衝状工具による沈線文。	黒沢式 二次的に被熱
4	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③繊維と礫を含む	0段多条の原形LRの単筋斜縄文を施す。	黒沢式
5	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③繊維と礫を含む	原形RLの単筋斜縄文を施す。	黒沢式
深 鉢				

石 器

(単位:cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形 状 ・ 特 徴 等	備 考
6	加工痕のある石器	長 4.8 幅 7.7 厚 2.2 重 75.5	横長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩
7	使用痕のある石器	長 5.8 幅 5.4 厚 1.4 重 36.0	縦長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。二次的に被熱する。	硬質泥岩 覆土
8	使用痕のある石器	長 6.2 幅 6.7 厚 1.8 重 54.5	横長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩
9	磨製石斧	長 10.7 幅 4.6 厚 2.1 重 180.0	製作時の擦痕及び敲打痕が見受けられる。完形。	緑色片岩

白倉C区118号土坑出土遺物(第308図)

土 器			(単位:cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①やや不良 ②褐色 ③繊維を少量含む	半截竹管状工具による沈線が文様を抽出する。	有尾式系 外面が摩耗
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	原形LRの単筋斜縄文を施す。原形は0段多条か。	黒沢式 外面が摩耗
深 鉢				

白倉C区122号土坑出土遺物(第308図、PL 106)

土 器			(単位:cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴～底部	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	底径9.0。棒状工具による沈線が垂下。原形RLの単筋斜縄文を施す。	不明
2	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維と石英を含む	原形RLの単筋斜縄文を施す。原形は0段多条か。補修孔が1ヶ所残存。	黒沢式 覆土
3	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	口縁部分に原形Lの無筋斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による粗雑な沈線を施す。	有尾式系か
深 鉢				

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区131号土坑出土遺物(第309図、PL 107)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁~胴部	①良好 ②褐色 ③織維を含む	口径(26.0)。半截竹管状工具による平行比線で菱形の文様を描出し、部分的に刺突を施す。4単位の波状口縁を呈する。	有底式系
2	口縁部片	①良好 ②明褐色③織維とスコリア粒を含む	原形RLの単節斜縄文を施す。	黒浜式

石 器			(単位: cm, g)	
番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
3	加工痕のある石器	長 8.3 幅 7.1 厚 2.1 重 89.0	横長割片を素材とする。スクレイパーか。完形。	ホルンフェルス

白倉C区132号土坑出土遺物(第308図、PL 107)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴部片	①良好②赤褐色③スコリアと黒炭母粒を含む	隆帯と棒状工具による比線で文様を描出する。	静寂式終末期 覆土

白倉C区133号土坑出土遺物(第308図)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③織維と結晶片岩を含む	原形Rの無節斜縄文を施す。	黒浜式 覆土
2	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③石英とスコリアを含む	原形LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式

白倉C区135号土坑出土遺物(第308図)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②褐色 ③織維とスコリアを少量含む	原形LR(?)の縄文を施す。	黒浜式 覆土

白倉C区138号土坑出土遺物(第272図、PL 107)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③石英を含む	原形RLの単節斜縄文を施す。原形は0段多条。	静寂式か 覆土
2	胴部片	①良好 ②明褐色 ③石英を含む	半截竹管状工具により比線を描下。	静寂式 覆土

石 器			(単位: cm, g)	
番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
3	多孔石	長 51.1 幅 11.5 厚 5.7 重 6300.6	凹み穴Bが見受けられる。縁辺を中心に敲打痕。完形。	緑色片岩

白倉C区140号土坑出土遺物(第309図、PL 107)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②褐色 ③片岩を含む	眼線状の把手を有する口縁部片。原形LRの単節斜縄文を施す。	静寂式終末期
2	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③織維を含む	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。	有底式系 覆土
3	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③織維と石英を含む	原形LRの単節斜縄文を施す。原形は0段多条。	黒浜式 覆土
4	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③織維を含む	原形Rの無節斜縄文を施す。	黒浜式 覆土

白倉C区143号土坑出土遺物(第309図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	割部片	①良好 ②明赤褐色 ③繊維と石英を含む	原形RLの単節斜縄文を施す。原形は0段多糸。	黒浜式 覆土
2	割部片	①良好 ②明赤褐色 ③黒雲母粒を多く含む	隆帯と棒状工具による沈線で文様を抽出する。	黒浜式 覆土

白倉C区144号土坑出土遺物(第309図、PL 107)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③繊維 と片岩を少量含む	波状口縁を呈する。口唇部は角頭状。平轡竹管状工具による連続爪形文。	有尾式系 覆土
2	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維と石英を含む	原形RLの単節斜縄文を縦位に施す。	黒浜式
3	割部片	①やや不良 ②明赤褐色 ③繊維を含む	原形LRの単節斜縄文を施す。	黒浜式
4	割部片	①良好 ②明赤褐色 ③金雲母粒を少量含む	隆帯が垂下し、隆帯に沿って角押文を施す。	阿玉台日式 覆土
5	割部片	①良好 ②明赤褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線を垂下したのち、原形LRの単節斜縄文を完成。	称名寺I式 覆土

白倉C区145号土坑出土遺物(第309図、PL 107)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	割部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を少量含む	矢羽根状の刻みを付した低い隆帯が巡る。地文は原形LRの単節斜縄文を施す。	諸磯b(新)式 覆土

白倉C区146号土坑出土遺物(第310図)

石 器

(単位: cm、g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
1	台石か	長 24.1 幅 (17.8) 厚 4.6 重 2300.0	両面に凹み穴Aが見受けられる。一部を欠損する。	牛伏砂岩

白倉C区147号土坑出土遺物(第309図、PL 107)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②褐色 ③繊維を含む	口唇部は内折ぎ状を呈する。平轡竹管状工具による連続爪形文及び沈線文を施す。内外面に炭化物が付着する。	有尾式系

白倉C区148号土坑出土遺物(第309図、PL 107)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴～底部	①良好 ②褐色 ③繊維を多量に含む	高径9.0。底部が張り出す。原形Lの無節斜縄文を施す。	黒浜式

白倉C区151号土坑出土遺物(第273図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	割部片	①良好 ②褐色 ③繊維を含む	原形不明の無節斜縄文を施す。	黒浜式 二次的に被熱

III 縄文時代の遺構と遺物

白倉C区153号土坑出土遺物(第309図、PL 108)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	環状及び扇状を呈する把手。ペン先状の刺突文及び幅広い竹管文を施す。	勝坂II式
深 鉢				

白倉C区157号土坑出土遺物(第274図、PL 108)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③砂粒を含む	扇状を呈する把手を貼付する。棒状工具による沈線及び原体0段多条RL単節斜縄文を施す。	勝坂式終末期
深 鉢				
2	胴部片	①良好 ②鈍褐色 ③黒雲母粒を多く含む	矢羽根状の柄みを付した隆帯で文様を描出する。	勝坂式終末期
深 鉢				
3	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を多く含む	隆帯及び沈線で文様を描出ののち、原体RLの単節斜縄文を施す。	勝坂式終末期
深 鉢				

石 器			(単位: cm, g)	
番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
4	凹み石	長 13.7 幅 5.4 厚 2.8 重 320.0	両面に凹み穴Aが見受けられる。一部を欠損する。	黒色片岩

白倉C区162号土坑出土遺物(第275図、PL 108)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁一胴部片残存	①良好 ②褐色 ③繊維を含む	口縁(26.3)。原体0段多条RL及びL.R単節斜縄文を菱形状に施す。	黒沢式 49号土坑と接合
深 鉢				
2	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維と片岩を少量含む	半載竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系 覆土
深 鉢				

白倉C区164号土坑出土遺物(第277図、PL 108)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁一胴部	①良好 ②鈍い赤褐色 ③繊維を含む	口縁(39.0)。口唇部は角筒状を呈する。半載竹管状工具による連続爪形文を菱形状に施す。170号土坑と接合。	有尾式系
深 鉢				
2	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③繊維を含む	原体LとRの無節斜縄文を羽状に施す。	黒沢式
深 鉢				
3	胴部片	①やや不良 ②褐色 ③繊維と石英を含む	0段3条の原体RLの単節斜縄文と原体LRの単節斜縄文を羽状に施す。外面に炭化物が付着する。	黒沢式
深 鉢				
4	胴部片	①良好 ②褐色 ③繊維を少量含む	半載竹管状工具による密な連続爪形文を施す。	有尾式系
深 鉢				
5	胴部片	①良好 ②褐色 ③繊維を含む	原体RLの単節斜縄文を施す。	黒沢式
深 鉢				
6	胴部片	①良好 ②褐色 ③繊維と片岩を含む	半載竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系
深 鉢				

石 器			(単位: cm, g)	
番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
7	凹み石	長 < 7.2 幅 < 6.7 厚 1.7 重 74.0	片面に凹み穴Aが見受けられる。破片。	粗粒安山岩 二次的に被熱

白倉C区166号土坑出土遺物(第310図、PL 108)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴部片	①良好 ②明赤褐色 ③繊維を多量に含む	半載竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系 覆土
深 鉢				
2	胴部片	①良好 ②黒褐色 ③繊維を含む	原体RLの単節斜縄文を施したのち、半載竹管状工具による平行沈線文。	有尾式系
深 鉢				

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
3	凹み石	長 11.8 幅 7.5 厚 3.3 重 470.0	両面に磨面と凹み穴Aが見受けられる。磨面以外は敲打痕。完形。	粗粒安山岩 二次的に被熱

白倉C区170号土坑出土遺物(第279図、PL 108)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁~胴部片	①良好 ②明褐色 ③繊維と石英を含む	波状口縁を呈し、口唇部と口縁部には半載竹管状工具による連続爪形文を施す。地文は原形RLの単節斜縄文。	有尾式系
2	口縁~胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	半載竹管状工具による平行沈線と刺突によって文様を抽出する。口唇部は角頭状。	有尾式系
3	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③繊維を含む	波状口縁を呈する。口縁上部に刻みを付す。半載竹管状工具による連続爪形文及び平行沈線文。	有尾式系
4	底部	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	底径(4.5)、胴部は原形0段多糸LR及びLRの単節斜縄文を羽状の飾文し、底面にも0段多糸LR単節斜縄文を施す。底部は上げ底状を呈す。	黒沢式 覆土

白倉C区174号土坑出土遺物(第310図、PL 108)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②褐色 ③繊維と石英を含む	LRとLの縄を巻いた原体を施文したのち、半載竹管状工具による文様を施す。口唇部は角頭状を呈す。	有尾式系 覆土

白倉C区179号土坑出土遺物(第310図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	底部	①良好 ②褐色 ③片岩を多量に含む	底径(13.6)。原形RLの単節斜縄文を施す。	中期か

白倉C区182号土坑出土遺物(第311図、PL 107)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②褐色 ③石英を含む	原形RLの単節斜縄文を施す。原形は0段多糸か。	黒沢b(新)式 覆土

白倉C区183号土坑出土遺物(第310図、PL 108)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③繊維と石英を含む	原形LとLの無節斜縄文を變形に施す。	黒沢式
2	胴部片	①良好 ②暗赤褐色 ③繊維を含む	半載竹管状工具の内側による2本1組の結節沈線が施される。	有尾式系

石 器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備 考
3	石匙	長 7.3 幅 2.5 厚 0.5 重 12.0	縦長の削片を素材とする。つまみ部の調整は比較的粗い。完形。	頁岩

白倉C区185号土坑出土遺物(第280・281図、PL 109)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁~胴部片	①良好 ②褐色 ③馬歯母粒を含む	胴部に低い隆帯が巡る。原形Lのより糸を施したのち、棒状工具による沈線文。	黒沢式終末期
2	胴部片	①良好 ②褐色 ③馬歯母粒を含む	幅広い隆帯と沈線で文様を抽出。地文は原形RLの単節斜縄文を施す。	黒沢式終末期

III 縄文時代の遺構と遺物

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
3	凹み石	長 10.8 幅 7.2 厚 4.3 重 485.0	両面及び両側面に凹み穴Aが見受けられる。全面に敲打痕。粗粒安山岩。	二次的に被熱
4	磨石	長 110.3 幅 5.5 厚 3.2 重 255.0	両面に磨面が見受けられる。縁辺を中心に敲打痕が見受けられ、一部集中する。約片残存。	粗粒安山岩

白倉C区189号土坑出土遺物(第311図、PL 109)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②灰赤色 ③雲母粒を多量に含む	刻みを付した隆帯で区画し、区画の内側に幅広い竹管文とベン先状の刺突文を施す。	黒板日式
2	底部片残	①良好 ②明褐色 ③繊維を含む	底径7.4。上げ底状を呈す。原体不明の縄文を施す。	黒板式

白倉C区191号土坑出土遺物(第311図、PL 109)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③繊維を含む	原体RLの単節斜縄文を施したのち、半截竹管状工具による沈線を通らせる。	有尾式系 覆土
2	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③繊維と片岩を含む	半截竹管状工具による沈線文。	有尾式系

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
3	加工痕のある石器	長 8.1 幅 8.4 厚 1.5 重 81.0	横長割片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩 覆土
4	使用痕のある石器	長 7.4 幅 4.5 厚 1.4 重 29.0	縦長割片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩

白倉C区194号土坑出土遺物(第282図、PL 109)

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
1	打製石斧	長 12.6 幅 6.1 厚 2.5 重 206.0	基部が丸味を帯び刃部が凸刃状を呈する。完形。	硬質泥岩
2	凹み石か	長 13.0 幅 6.2 厚 1.6 重 247.0	片面に凹み穴Aが見受けられる。側縁に刺突痕及び敲打痕。一部を欠損する。	黒色片岩

白倉C区196号土坑出土遺物(第283図、PL 109)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴部	①良好 ②明黄褐色 ③繊維を含む	口径(35.0)。原体0段多糸RL及びLR単節斜縄文を菱形状に施文。194号土坑覆土と接合。	黒板式
2	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を多量に含む	棒状工具による沈線で文様を描出したのち、原体RLの単節斜縄文を施す。	加曾判E4式 覆土

白倉C区202号土坑出土遺物(第311図)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②明黄褐色 ③繊維と片岩を含む	液状口縁。棒状工具による沈線文を施す。	黒板式
2	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③繊維と片岩を含む	原体RLとLRの単節斜縄文を菱形状に施文。	黒板式

白倉C区207号土坑出土遺物(第311図、PL 109)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①やや不良 ②黄褐色 ③繊維と石英を含む	0段多糸の原形RLとLRの単節斜織文を菱形に施文。	黒浜式 二次的に被熱

白倉C区213号土坑出土遺物(第311図、PL 109)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①やや不良 ②褐色 ③繊維と石英を含む	平織竹管状工具による平行沈線を頸部に巡らせる。地文は0段多糸の原形RLとLRの単節斜織文を菱形に施文。	有尾式系 二次的に被熱

白倉C区214号土坑出土遺物(第311図、PL 109)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁-胴部片	①良好 ②黄褐色 ③繊維を多量に含む	ゆるやかな波状口縁を呈する。地文は原形RとLの無節斜織文を菱形に施文。外面に炭化物が付着する。	黒浜式

白倉C区215号土坑出土遺物(第312図、PL 109)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③金雲母粒を多く含む	波状口縁を呈する。波頂部から隆帯を下させ、隆帯及び口縁に沿って刻みを施す。二次的に被熱する。	阿玉台式 覆土
2	胴部片	①良好 ②明褐色 ③金雲母粒を含む	隆帯と幅広い爪形文で文様を演出する。	脚板H式 覆土

白倉C区221号土坑出土遺物(第284図)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁部片	①良好 ②灰褐色 ③繊維を多量に含む	波状を呈する口縁部片。原形LRの単節斜織文を施す。	黒浜式
2	胴部片	①良好 ②灰褐色 ③繊維を含む	原形Lの無節斜織文を施す。	黒浜式

白倉C区226号土坑出土遺物(第286図、PL 110)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁-胴部片	①良好 ②赤褐色 ③黒雲母粒を含む	口径28.4。原形Lの無節斜織文を施したのち、原形RLの単節斜織文を施す。器厚が一定せず、内面に施す波状の整形を施す。	時期不明

白倉C区233号土坑出土遺物(第287・288図、PL 110)

土 器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②褐色 ③黒雲母粒を含む	口径16.0。口唇部は角筒状を呈する。口縁部は隆帯を巡らし、渦巻文を貼付し、棒状工具による沈線を充満する。胴部は原形RLの単節斜織文を施す。	脚板式終末期
2	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③砂を多量に含む	頸状及び眼線状を呈する把手。棒状工具による沈線を施す。	脚板式終末期
3	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③雲母粒を含む	低い隆帯によって口縁部文様を演出する。	脚板式終末期
4	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③黒雲母粒を含む	刻みを付した隆帯及び棒状工具による沈線で文様を演出する。	脚板式終末期
5	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③砂を含む	隆帯と棒状工具による沈線で文様を演出する。外面に炭化物が付着する。	脚板式終末期

III 縄文時代の遺構と遺物

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
6	多孔石	長 <26.1> 幅 <23.1> 厚 8.8 重 5350.0	両面に凹み穴目が見受けられる。破片。二次的に被熱し、炭化物が付着する。	牛伏砂岩
7	礫	長 — 幅 — 厚 — 重 1380.0	自然面が僅かに残るが、二次的な被熱のため外面が剥落する。	粗粒安山岩
8	礫	長 — 幅 — 厚 — 重 2500.0	二次的な被熱のため外面全てが剥落する。	デイサイト

白倉C区241号土坑出土遺物(第312図、PL 110)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③繊維と石英を含む	原体RLとLRの単節斜縄文を施す。原体は0段多糸。二次的に被熱する。	黒沢式 覆土

白倉C区244号土坑出土遺物(第312図、PL 110)

石器

(単位: cm, g)

番号	種類	大きさ・重量	形状・特徴等	備考
1	加工痕のある石器	長 7.6 幅 5.0 厚 1.7 重 65.0	縦長削片を素材とする。スクレイパーか。完形。	硬質泥岩
2	磨石	長 11.5 幅 9.0 厚 6.5 重 800.0	片面に凹み穴Aと磨面が見受けられる。完形。	粗粒安山岩
3	多孔石	長 <9.4> 幅 <6.9> 厚 6.7 重 535.0	片面に凹み穴Bが見受けられる。一部を欠損する。	雲母石英片岩

白倉C区245号土坑出土遺物(第312図)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	原体Rの無節斜縄文を施す。外面に炭化物が付着する。	黒沢式 覆土
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系 覆土
3	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系 覆土

白倉C区246号土坑出土遺物(第289図、PL 110)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴~底部片	①良好 ②明黄褐色 ③繊維を含む	原体RLとLRの単節斜縄文を施す。原体はいずれも0段多糸。	黒沢式 覆土
2	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系 覆土
3	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③繊維を少量含む	不定形な貼付文を施す。	黒沢式 覆土

白倉C区254号土坑出土遺物(第312図)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	口縁~胴部片	①やや不良 ②暗褐色 ③繊維とスコリアを含む	原体RとLの無節斜縄文を施す。	黒沢式
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具による連続爪形文を施す。	有尾式系

天引C区60号土坑出土遺物(第327図)

土器

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
1	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	原体Lのより糸を施す。	静沢式終末期

天引C区61号土坑出土遺物(第313図、PL 111)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁一割	①良好 ②鈍い赤褐色	口縁部が強く内彎する。半載竹管状工具による沈線文と幅広い竹管文を施す。	撚板式終末期 覆土
深 鉢	胴片	③礫を少量含む		
2	胴部片	①良好 ②鈍い褐色	半載竹管状工具による平行沈線で文様を描出する。	撚板式終末期 覆土
深 鉢	片	③砂を含む		
3	胴部片	①良好 ②鈍い褐色	隆帯及び幅広い竹管文と比較で文様を描出する。	阿玉台Ⅱ式 二次的に被熱
深 鉢	片	③黒雲母粒を含む		
4	胴部片	①良好 ②褐色	隆帯によって主文様を描出し、半載竹管状工具による平行沈線や幅広い竹管文などを充塞する。	撚板式終末期
深 鉢	片	③黒雲母粒を含む		
5	胴部片	①良好 ②鈍い褐色	6段多条の原形RLの単節斜織文を施す。	撚板式終末期か
深 鉢	片	③礫を少量含む		
6	胴部片	①良好 ②鈍い褐色	半載竹管状工具による平行沈線で区画し、区画に沿ってベン先状の刺突を施す。	撚板Ⅱ式
深 鉢	片	③雲母粒を含む		
7	胴部片	①良好 ②鈍い褐色	刻みを付した隆帯と半載竹管状工具による沈線文を施す。	撚板式終末期
深 鉢	片	③片岩を含む		
8	胴部片	①良好 ②褐色	片方が粗織状を呈する突起を付す。幅広い竹管文が施される。	撚板式終末期
深 鉢	片	③片岩を含む		
9	胴部片	①良好 ②暗褐色	棒状工具による沈線を施し、内側に幅広い竹管文を施す。	撚板Ⅱ式
深 鉢	片	③黒雲母粒と砂を含む	内側に黄化物が付着する。	

天引C区85号土坑出土遺物(第327図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁部	①良好 ②褐色	口径(24.3)。口唇部が肥厚。隆帯によって文様を描出。外面の一部に丹彩が残存。	撚板式終末期
浅 鉢	片	③黒雲母粒を含む		
2	胴部片	①良好 ②褐色	矢羽根状及び横に刻みを付した隆帯によって区画し、棒状工具による沈線文を施す。	撚板式終末期
深 鉢	片	③黒雲母粒を含む		
3	胴部片	①良好 ②暗褐色	原形Rのより糸を施したのち、2本1組の隆帯で文様を描出する。	撚板式終末期
深 鉢	片	③黒雲母粒を含む		

天引C区94号土坑出土遺物(第314図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	ほぼ完形	①良好 ②褐色	口径17.1、底径6.3、高さ22.2。口縁部には舌状の突起を2ヶ所貼付する。刻みを付した隆帯を巡らせて区画し、原形Lのより糸を施す。隆帯に沿って部分的に沈線を施す。文様の単位は4単位。	撚板式終末期
深 鉢	片	③片岩を含む		

天引C区98号土坑出土遺物(第327図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁部片	①良好 ②暗褐色	隆帯を貼付して文様を描出し、部分的に棒状工具による沈線を描す。二次的に被熱	撚板式終末期
浅 鉢 片	片	③黒雲母粒を含む		

天引C区102号土坑出土遺物(第327図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	胴部片	①やや不良 ②暗褐色	原形RLの単節斜織文を施したのち、棒状工具による沈線を描出させる。	撚板式終末期 二次的に被熱
深 鉢	片	③黒雲母粒を多く含む		

天引C区103号土坑出土遺物(第315図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	胴~底部	①良好 ②鈍い赤褐色	底径9.0。外面は無文。	撚板式終末期
深 鉢	片	③黒雲母粒を含む		

III 縄文時代の遺構と遺物

天引C区106号土坑出土遺物(第316図、PL 111)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴~底部	①良好 ②鈍い褐色 ③石灰を含む	地文に半截竹管状工具による平行沈線を描いたのち、結節浮線文で文様を描出する。	膝張C式
深 鉢	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③金雲母粒と礫を含む	口唇部が肥厚する。	膝張式
2	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③金雲母粒と礫を含む	低い隆帯を巡らし、隆帯に沿って複数の結節沈線を描す。	両玉台H式 覆土

天引C区110号土坑出土遺物(第324図)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴部片	①良好 ②褐色 ③礫を含む	半截竹管状工具による平行沈線及び刺突文を描す。	膝張式終末期
深 鉢				

天引C区111号土坑出土遺物(第324図)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を多く含む	幅広い竹管文とベン先状刺突文を横位に施す。	膝張H式
深 鉢				

天引C区119号土坑出土遺物(第324図、PL 111)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③黒雲母粒を多く含む	口唇部が肥厚。刻みを付した隆帯と棒状工具による沈線を垂下する。	膝張式終末期
深 鉢				

天引C区138号土坑出土遺物(第317図)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁~底部	①良好 ②暗褐色 ③砂を少量含む	口径(46.0)、底径(8.0)、高さ(22.5)。無文。口唇部が肥厚。	膝張式
深 鉢				

天引C区139号土坑出土遺物(第318図、PL 111)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁~胴部	①良好 ②灰褐色 ③雲母粒を含む	口径(20.0)。口縁は波状を呈し、口唇部に刻みを付す。原体0段多糸RL単節斜縄文を施し、原体の末端は自糸自轉。	器縁b(新)式か 地文は中央部を因化
深 鉢				
2	胴~底部	①良好 ②暗赤褐色 ③礫を少量含む	底径6.9。原体0段多糸RL単節斜縄文を施す。原体の末端は自糸自轉。	器縁b(新)式か 地文は中央部を因化
深 鉢				

天引C区140号土坑出土遺物(第325図)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③砂を含む	胴部に鎖状の隆帯を巡らしたのち、原体Lのより糸を施す。	膝張式終末期 覆土
深 鉢				
2	胴部片	①良好 ②暗赤褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Lのより糸を施す。	膝張式終末期 覆土
深 鉢				

天引C区161号土坑出土遺物(第326図、PL 113)

土 器			(単位: cm)	
番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備 考
1	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Lのより糸を施したのち、棒状工具による沈線文。	膝張式終末期
深 鉢				
2	胴部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	胴部に刻みを付した隆帯を巡らし、ベン先状工具により刺突文を施す。地文は原体Lのより糸。	膝張式終末期
深 鉢				

天引C区166号土坑出土遺物(第326図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番 号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③片岩を含む	棒状工具による2本1組の沈線が踵下し、利突を施す。	称名寺Ⅱ式 覆土
深鉢				

天引C区167号土坑出土遺物(第321図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番 号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	胴～底部	①良好 ②鈍い赤褐色 ③黒雲母粒を多く含む	底径4.5。原体Lのより糸を施す。 より糸施文は中央部を固化。	勝坂式終末期
深鉢				

天引C区168号土坑出土遺物(第320図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番 号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③雲母粒を含む	口唇部は舟型状を呈す。棒状工具による沈線文を施す。	称名寺Ⅱ式
深鉢				
2	胴部片	①良好 ②鈍褐色 ③石英を含む	原体RLの織文を施したのち、棒状工具による蛇行沈線を踵下す。	堀之内Ⅰ式 表面が摩耗
深鉢				

天引C区169号土坑出土遺物(第326図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番 号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③黒雲母粒を含む	棒状工具による沈線及び刻みを付した背割り状の隆帯を貼付。	勝坂式終末期
深鉢				

天引C区170号土坑出土遺物(第322図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番 号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③砂粒を含む	原体Lのより糸を施したのち、隆帯を貼付。	勝坂式終末期
深鉢				
2	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③黒雲母粒を含む	刻みを付した背割り状の隆帯を貼付。	勝坂式終末期 覆土
深鉢				
3	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③雲母粒を含む	原体Lのより糸を施したのち、棒状工具による沈線文を施す。	勝坂式終末期 覆土
深鉢				
4	底部	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	底径(7.1)。無文。	勝坂式終末期
浅鉢か				
5	胴部片	①良好 ②暗褐色 ③黒雲母粒を含む	原体Lのより糸を施す。	勝坂式終末期
深鉢				

天引C区173号土坑出土遺物(第328図)

(単位:cm)

土 器			器 形 ・ 文 様 の 特 徴 等	備 考
番 号	部 位	①焼成 ②色調 ③胎土		
1	胴部片	①良好 ②暗褐色 ③黒雲母粒を含む	原体不明の単彫刻織文を施したのち、棒状工具による沈線文及び利突を充填する。	勝坂式
深鉢				

5 遺構外出土遺物

はじめに

前章までは、縄文時代の遺構及び遺構内から出土した遺物について述べてきた。ここでは遺構外から出土した遺物や、縄文時代以外の遺構から出土した縄文時代の遺物について述べていきたい。

既に「1-2(4) 整理計画と経過」でも触れたが、整理期間と時代別の報告書作成といたった2つの理由から、縄文時代の遺構出土遺物の総量は把握できたが、縄文時代以外の遺構から出土した縄文時代の遺物の総量は把握できていない。今後、順次整理されていく古墳時代後期以降の遺構と遺物整理の段階で、これらの遺構に含まれる縄文時代の遺物の総量が把握されることになろう。そのため、ここで取り扱う土器及び石器は、遺構外及び他時期遺構から出土したものを任意に選択したものである。

(1) 土 器

遺構外出土土器は、ほぼ遺構出土の土器と同じ土器型式のものが主体を占めるようである。遺物は原則的には居住活動に伴って廃棄されるものであろうから、当然のことかも知れないが、これらが時期別にどのように分布しているのかを示すことができないのは大変残念でならない。ここでは、客観的なデータをほとんど提示できないが、調査時及び整理を通じて知り得たことをいくつか述べておきたい。白倉B区の北西部には谷地が検出されており、この谷地は一部白倉C区の北東部にも広がっている。ここは平安時代の池状の施設が検出された場所でもあるが、谷地の周辺及び内部は、縄文時代以降の遺物が包含されていた。ここでは特に黒浜式(有尾式系土器を含む)がまとまって出土している。図化した当該期の土器は全てこの地区から出土したものである。また、白倉B区とC区の古墳時代後期以降の住居出土遺物には、かなりの黒浜式土器が混入している。また、谷地から出土した7は十三善提式併行期であるが、当該期の土器はこの1点のみである。

中期以降で器形を復元できた土器は多くないが、8・9・11はその数少ない個体である。この3点は同じグリッドであることから調査の際に見落とした居住痕跡があったのかも知れない。

なお、土器観察表は400~403頁に収録してあるので参照して欲しい。

(2) 石 器

今回報告する石器は、帰属時期を特定できるものが極めて少ない。出土土器の多くが前期中葉~後半、中期中葉~後半、後期前半に帰属することを考え合わせれば、おそらくいずれかの時期に各石器も使用されたのであろうが、石器のみが検出される居住痕跡の存在も否定はできない。いずれにせよ、各時期における生業活動を石器は反映しているであろうから、そのためにも、どのようにして石器の時期を特定していくのかを考えていかねばなるまい。ここでは、参考までに、住居出土石器の時期別石器組成図を作成した(第330図)。住居出土石器の点数は総体として少なく、さらに、例えば住居の時期が勝飯II式期であっても、他の土器型式が混入しているのが今回の調査では一般的な在り方であったことから(第2表 住居出土土器一覧表を参照)、あくまでも参考資料にしかならないと考えている。それ故、この表が直接的に当時の生業活動を反映しているものとは考えていない。

ここでは、上述した理由から石材と各器種ごとにおけるいくつかの特徴や分類等について記述するとともに、

石材について 器種別の石材組成を図にしてみた(第329図)。いくつかの特徴を述べると以下ようになる。報告した石器に用いられた石材の中で銅川流域(調査区周辺)で産出していないものは黒曜石だけである。この黒曜石に多くを依存する器種は石鏃と石錐である。また、前述した2種を除けば、打製の石器は硬質泥岩と珪質頁岩に多くを依存している。当然ながら、磨製の石器や磨石類などの石器類と打

製の石器では、指向する石材が異なっている。さらに興味深いことであるが、多孔石と凹み石類では指向する石材が異なっている。

用途(器種)に応じた石材選択および石材指向がはっきりと読み取れよう。

次に、各器種ごとに若干述べていきたい。

なお、各石器の計測値及び石材は445～452頁について収録した。

石槍(第338図) 1点のみの出土である。草創期に帰属しよう。

石鏃(第338図～343図)

第1群 小形のもの(1～39) 平面形状が正三角形ないしは底辺の広い二等辺三角形のもの(1～10)、底辺が狭い二等辺三角形のもの(11～37)、有茎のもの(38・39)に分類できる。

第2群 中形のもの(40～78・105～108) 平面形状が底辺の広い二等辺三角形のもの(40～42)、底辺が狭い二等辺三角形のもの(45～79・108)、有茎のもの(80～84)、基部形状が不明のもの(85～87・107)に分類できる。

第3群 大形のもの(88～104) 平面形状が底辺の広い二等辺三角形のもの(88)、底辺が狭い二等辺三角形のもの(89～104)がある。

ピエス・エスキーユ(第344図) 1点のみの出土である。対向する刻痕がみられる。

石鏃(第345図) 1と4が大形である。縦長剥片を素材とするものが多い。また、明瞭なつまみ部を作り出していないものも少数認められる(4・6・7・10)。

石匙(第346・347図)

第1群 縦長のもの(1～4) 3以外は縦長剥片を素材とする。1～3は体部が三角形を、4は方形を呈する。

第2群 横長のもの(5～14) 体部がほぼ短冊状を呈するもの(5～7)、体部がほぼ柳葉状を呈するもの(8～10)、体部が三角形及び台形を呈するもの(11～14)に分類される。横長剥片を素材とするもの

が多い。

第3群 縦長及び横長のいずれともしがたいもの(15・16) 横長の剥片を素材とする。

打製石斧(第348～353図)

第1群 短冊形を呈するもの(1～19) 6・18・19は分銅形ほどではないが、側縁が内側に弯曲する。

第2群 撥形を呈するもの(20～37) 20～27は短冊形と撥形の中間的な形状である。

第3群 分銅形を呈するもの(38～53)

使用痕や加工痕のある石器(第354～359図) 22～57はスクレイパーとして使用された可能性が高い。大部分が剥片素材の石器であるが57～59は石器と原石がほぼ同じ大きさである。

決状耳飾(第360図) 1点のみの出土である。製作時の擦痕と補修孔が見受けられる。

特殊石器(第361図) ミニチュアと思われる石皿(1)と、ミニチュアと思われる石棒(2～5)と、垂飾(?)の破片が出土している。1は、ほぼ全面に製作時の擦痕が観察され、片面の中央が窪んでいる。2・4・6は丁寧な研磨が施されている。3と5は断面三角を呈する刻みを巡らしている。

石鏃(第362～365図) 袂入部の加工が、打ち欠くもの(1～6)、打ち欠いたのち切り目を入れるもの(7～20)、切り目を入れるだけのもの(21～37)に分類される。

磨製石斧(第366～370図) 1～10は小形で1と2はその大きさから実用品であるかどうか不明である。未製品や、欠損後に再度手を加えたものも見受けられた。

磨石・凹み石(第371～375図) 磨石に凹み穴Aが多く見受けられたことから一括して取り扱った。二次的に被熱して、ひびが入っているものも多い。

多孔石(第376～382図) 破片が主体を占めるが、割れた部分にも凹み穴Bを穿つものが少なからず認められる。

石皿(第383図) 破片が多く、完形は1のみであった。凹み穴Bが穿たれているものが多い。

III 縄文時代の遺構と遺物

石 鏃 (108点)

①黒曜石 59.2%	②チャート 24.0%	③	④	⑤
------------	-------------	---	---	---

- ③ 黒色安山岩 10.2%
 ④ 珪質頁岩 3.7%
 ⑤ その他
 黒色頁岩 1.9%
 赤色珪質頁岩 1.0%

石 錐 (11点)

①黒曜石 54.5%	②チャート 18.2%	③	④	⑤
------------	-------------	---	---	---

- ③ 黒色安山岩 9.1%
 ④ 赤色珪質頁岩 9.1%
 ⑤ 珪質頁岩 9.1%

石 匙 (16点)

①硬質泥岩 31.3%	②珪質頁岩 31.3%	③チャート 18.8%	④	⑤	⑥
-------------	-------------	-------------	---	---	---

- ④ 黒色安山岩 6.2%
 ⑤ 赤色珪質頁岩 6.2%
 ⑥ 黒色頁岩 6.2%

打製石斧 (54点)

①硬質泥岩 50.0%	②珪質頁岩 22.1%	③	④	⑤
-------------	-------------	---	---	---

- ③ 粗粒安山岩 14.7%
 ④ 緑色片岩 3.7%
 ⑤ その他
 頁岩 1.9%
 細粒安山岩 1.9%
 砂岩 1.9%
 雲母石英片岩 1.9%
 安玄武岩 1.9%

スクレイパー (36点)

①硬質泥岩 72.2%	②	③	④
-------------	---	---	---

- ② 珪質頁岩 8.3%
 ③ 黒色安山岩 8.3%
 ④ その他
 黒曜石 2.8%
 珪質凝灰岩 2.8%
 黒色頁岩 2.8%
 緑色片岩 2.8%

石 錘 (37点)

①緑色片岩 51.4%	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
-------------	---	---	---	---	---	---	---

- ② 安玄武岩 8.1%
 ③ 砂岩 8.1%
 ④ 硬質泥岩 8.1%
 ⑤ 珪質頁岩 5.4%
 ⑥ 黒色片岩 5.4%
 ⑦ 粗粒安山岩 5.4%
 ⑧ その他
 灰質安山岩・安山岩質凝灰岩・雲母石英片岩 各2.7%

磨製石斧 (49点)

① 安玄武岩 42.9%	②安輝 緑岩 16.3%	③	④	⑤	⑥
--------------	-----------------	---	---	---	---

- ③ はんれい岩 10.3%
 ④ 灰質蛇紋岩 8.2%
 ⑤ 緑色片岩 6.1%
 ⑥ その他
 硬質泥岩・珪質頁岩 各4.1%
 蛇紋岩・安はんれい岩・粗粒安山岩・ひん岩 各2.0%

球状耳飾 (1点)

要ろう石 100%

磨石・凹み石 (35点)

①粗粒安山岩 74.2%	②	③	④
--------------	---	---	---

- ② アイサイト 8.5%
 ③ 灰質安山岩 5.7%
 ④ その他
 黒色片岩・緑色片岩・牛伏砂岩・砂岩 各2.9%

多孔石 (51点)

①牛伏砂岩 54.9%	②	③	④	⑤
-------------	---	---	---	---

- ② 黒色片岩 17.6%
 ③ 緑色片岩 15.7%
 ④ 雲母石英片岩 7.8%
 ⑤ その他
 砂岩 2.0%
 黒色安山岩 2.0%

石 皿 (4点)

緑色片岩 50.0%	牛伏砂岩 50.0%
------------	------------

黒浜式期 (17点)

石鏝 5.9%	打製 石斧 5.9%	スクレイパー 17.6%	磨石・凹み石 41.1%	多孔石 11.8%	素鏝 5.9%	その他 11.8%
------------	------------------	--------------	--------------	--------------	------------	--------------

踏磯式期 (40点)

石鏝 10.0%	石匙 7.5%	打製石斧 7.5%	スクレイパー 15.0%	磨石・凹み石 25.0%	多孔石 10.0%	石鏝 5.0%	その他 12.5%
-------------	------------	--------------	-----------------	-----------------	--------------	------------	--------------

- ① 磨製石斧 2.5% ② 石皿 2.5% ③ 狭状耳飾 2.5%

勝坂Ⅱ式期 (7点)

石鏝 14.3%	打製石斧 42.8%	スクレイパー 28.6%	その他 14.3%
-------------	---------------	-----------------	--------------

勝坂式終末期 (94点)

石鏝 5.3%	石匙 5.3%	打製石斧 21.3%	スクレイパー 22.3%	磨石・凹み石 11.7%	多孔石 13.8%	石皿 7.5%	その他 5.3%
------------	------------	---------------	-----------------	-----------------	--------------	------------	-------------

- ① 磨製石斧 3.2% ② 台石 4.3%

加曾利E3式期 (39点)

石鏝 12.8%	打製石斧 20.4%	スクレイパー 10.2%	磨製石斧 7.7%	磨石・凹み石 20.9%	多孔石 7.7%	石鏝 2.6%	石匙 2.6%	石皿 2.6%	台石 2.6%	敲石 2.6%	その他 7.7%
-------------	---------------	-----------------	--------------	-----------------	-------------	------------	------------	------------	------------	------------	-------------

- ① 石匙 2.6% ② 石鏝 2.6% ③ 石皿 2.6% ④ 台石 2.6% ⑤ 敲石 2.6%

加曾利E4式期 (3点)

打製石斧 66.7%	その他 33.3%
------------	-----------

称名寺Ⅰ式期 (27点)

打製石斧 14.8%	①	②	磨石・凹み石 37.1%	多孔石 29.6%	③
---------------	---	---	-----------------	--------------	---

- ① スクレイパー 7.4% ② 磨製石斧 7.4% ③ その他 3.7%

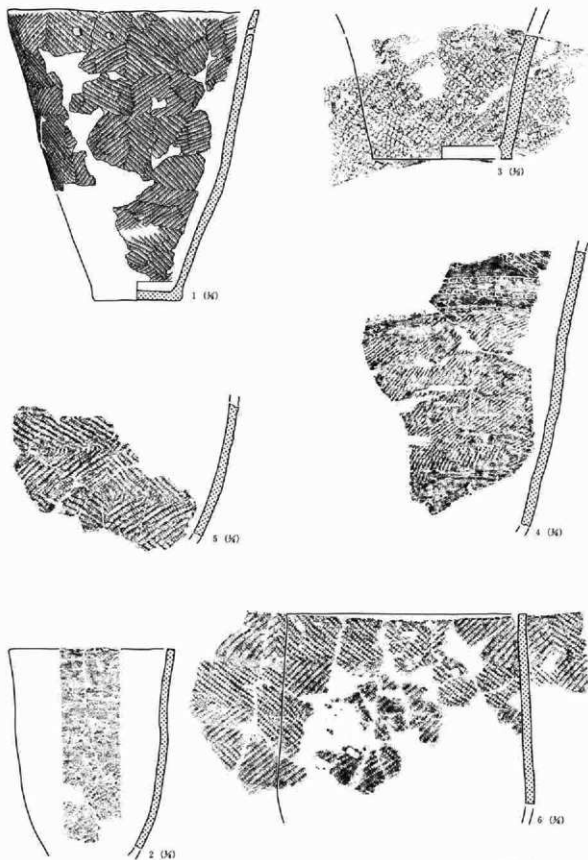
堀之内Ⅰ式期 (16点)

石鏝 6.2%	①	磨製石斧 18.7%	磨石・凹み石 31.3%	多孔石 6.3%	石皿 12.5%	石鏝 6.3%	台石 12.5%
------------	---	---------------	-----------------	-------------	-------------	------------	-------------

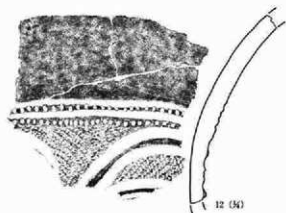
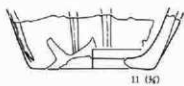
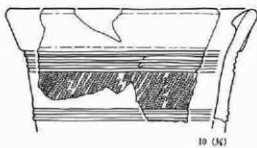
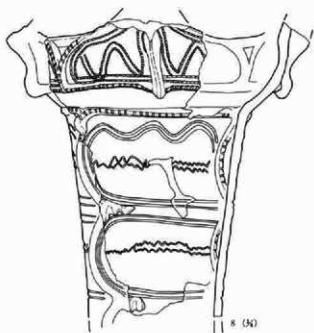
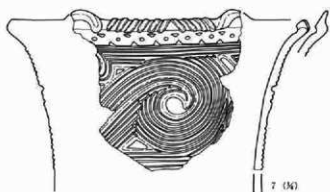
- ① スクレイパー 6.2%

第330図 住居出土石器時期別石材組成

III 縄文時代の遺構と遺物

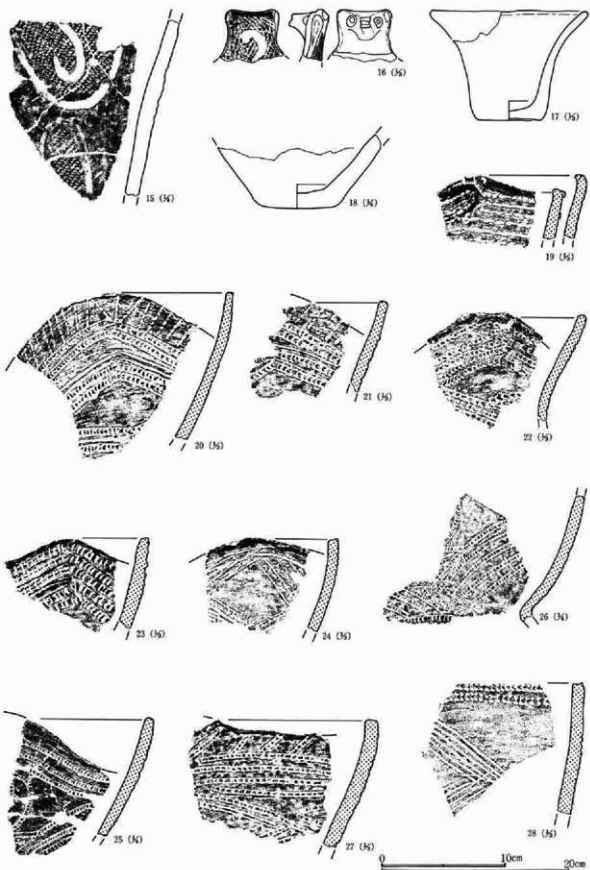


第331図 遺構外出土の土器(1)

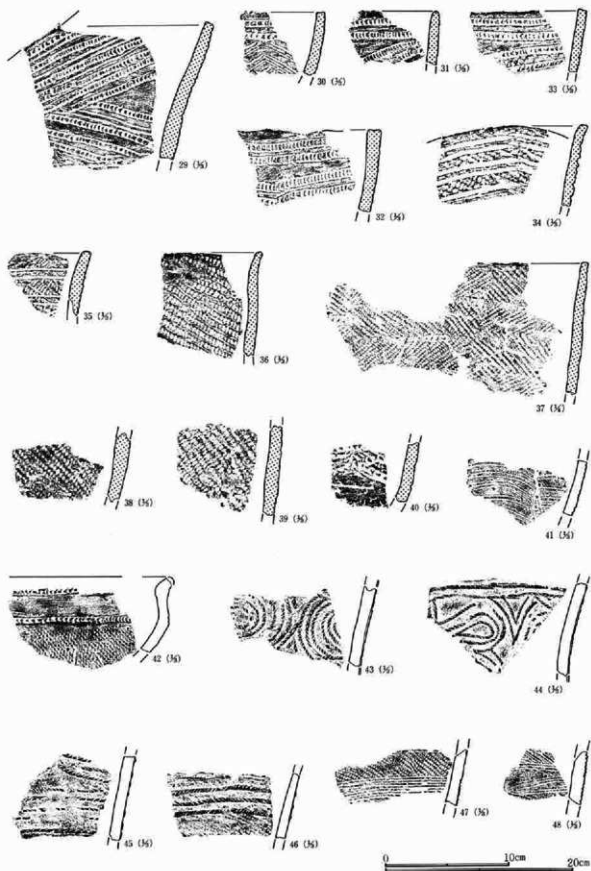


第332図 遺構外出土の土器(2)

III 縄文時代の遺構と遺物

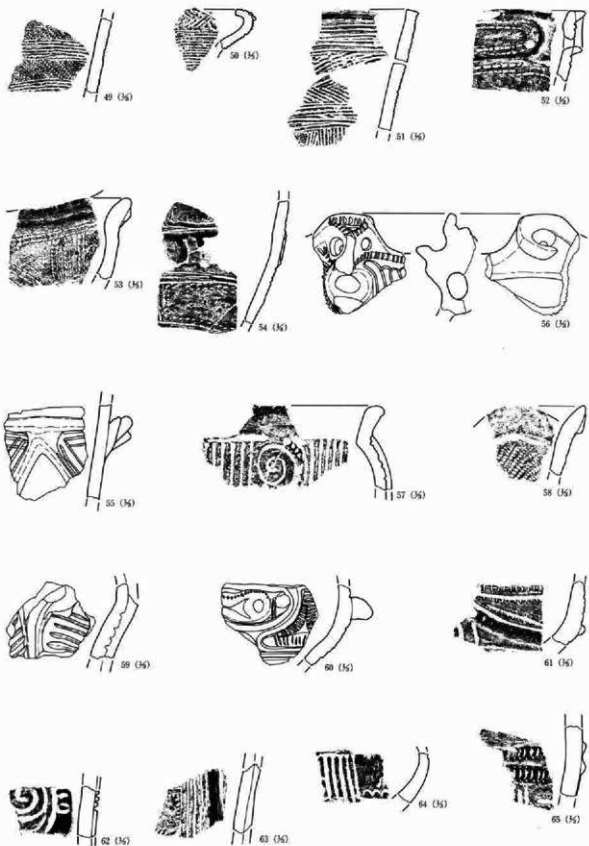


第333図 遺構外出土の土器(3)

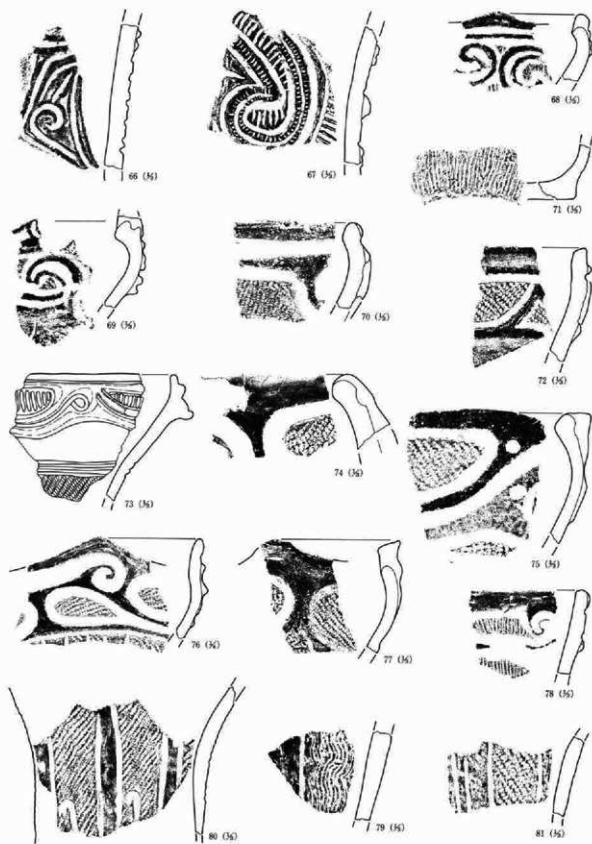


第334図 遺構外出土の土器(4)

III 縄文時代の遺構と遺物



第335図 遺構外出土の土器(5)



0 10cm 20cm

第336図 遺構外出土の土器(6)

III 縄文時代の遺構と遺物



第337図 遺構外出土の土器(7)

遺構外出土土器(第331~337図、PL 114~118)

(単位: cm)

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特長等	備考
1	胴一底部 瓦文様	①良好 ②黒い褐色 ③繊維を含む	口径27.4、底径(9.7)、高さ30.5、口唇部は角頭状を呈す。原体R及びLの無彫刻縄文を菱形状に施文、補修孔が1対残存する。	黒沢式 白倉C区37-60G 白倉C区37-61G
2	口縁一胴 部片残存	①良好 ②褐色 ③繊維を含む	口径17.6、口唇部は角頭状を呈す。胴下部にのみ原体L.Rの単節刻縄文を施す。外面が摩耗する。縄文施文は中央部を固化。	黒沢式 白倉C区37-61G
3	胴一底部	①良好 ②明褐色 ③繊維を含む	底径11.1、原体RL単節刻縄文と0段多糸L.R単節刻縄文を菱形状に施文。輪郭部の下にも縄文原体が確認できる。	黒沢式 白倉C区36-61G
4	胴部片	①良好 ②褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具の内側を使用した連続爪形文。原体Lの無彫刻縄文を施す。	有尾式系 白倉C区36-61G
5	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	半截竹管状工具による細かな連続爪形文が流る。0段多糸RL及びL.Rの2種類の単節刻縄文で菱形状に施文。	黒沢式 白倉C区36-60G
6	口縁一胴 部片残存	①良好 ②褐色 ③繊維を含む	口唇部が角頭状を呈し、胴部が若干ふくらむ。0段多糸RL及びL.Rの2種類の単節刻縄文で菱形状を施文。	黒沢式 白倉C区37-60G
7	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③石灰を含む	口径30.4、口縁部には短隆帯の貼付と内形刺突及び三角印刻を施す。胴部は半截竹管状工具による平行沈線で文様を描出し、一部削り取す。	十三善提式併行期 白倉B区29-53G
8	口縁一胴 部片残存	①良好 ②褐色 ③金雲母粒を含む	4単位の波状口縁を呈す。刻みを付した隆帯を貼付する。半截竹管状工具による連続刺突や平行沈線を施す。	阿玉白II式 白倉B区38-49G
9	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③金雲母粒を少量含む	ベン先状の刺突を両側に付した隆帯で文様を描出。筒状工具による沈線文や三文文を施す。内面に炭化物が付着する。	静取II式 白倉B区38-49G
10	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③雲母粒を含む	口径(26.5)、口唇部が肥厚。半截竹管状工具の内側による平行沈線を流らせる。原体RLの単節刻縄文を施す。	静取式 白倉B区34-53G
11	底部	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を含む	底径(11.2)、断面三角の2本1列の隆帯が垂下。	静取式 白倉B区38-49G
12	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③石灰を含む	低い隆帯及び凹線によって文様を描出する。胴部には棒状工具による刺突が流る。原体L.Rの複節刻縄文を施す。	加曾利E 3式 白倉B区38-55G
13	口縁部片	①良好 ②褐色 ③雲母粒を含む	凹線及び隆帯で文様を描出する。0段多糸L.R単節刻縄文を施す。	加曾利E 3式 白倉B区38-53G
14	胴一底部	①良好 ②鈍い褐色 ③黒雲母粒を含む	底径9.0、棒状工具による沈線が垂下。原体L.Rの単節刻縄文を施す。	加曾利E 3式 白倉B区37-52G
15	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③雲母粒を含む	凹線で文様を描出する。原体L.Rの複節刻縄文を施す。	加曾利E 3式 白倉B区38-55G
16	把手	①良好 ②灰黄色 ③雲母粒を含む	外面は原体L.Rの単節刻縄文を施したのち、両手状の懸垂文。内面は刺突及び隆帯の貼付によって動物意匠を描出する。	加曾利E 3式 白倉A区100号住
17	口縁一底 部	①良好 ②明赤褐色 ③石灰を含む	口径(12.4)、底径5.0、高さ8.6、無文。口縁部が大きく外反する。	堀之内2式か 白倉C区185号土坑
18	底部	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	底径7.5、無文。	狭野前牛 白倉B区34-53G
19	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③繊維を含む	波状口縁。口唇部が内彎する。楕円状に隆帯を貼付。棒状工具により押し引き状の沈線を描す。	黒沢式 白倉C区34-60G
20	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③繊維を含む	波状口縁で口唇部が角頭状を呈す。口唇部には部曲状工具による刺突。半截竹管状工具による連続爪形文と平行沈線で菱形状の文様を描出。	有尾式系 白倉C区36-61G
21	口縁部片	①良好 ②暗赤褐色 ③繊維を含む	波状口縁で口唇部は角頭状を呈す。楕円状工具による刺突が流る。半截竹管状工具による連続爪形文で菱形状に文様を描出する。	有尾式系 白倉C区36-61G
22	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	波状口縁を呈する。半截竹管状工具による連続爪形文で菱形状の文様を描出する。	有尾式系 白倉C区44-72G
23	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	波状口縁で口唇部が角頭状を呈す。半截竹管状工具による連続爪形文で菱形状の文様を描出する。	有尾式系 白倉C区36-60G
24	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③繊維を含む	波状口縁で口唇部は角頭状を呈す。半截竹管状工具による平行沈線文のち、沈線部に刺突を施す。	有尾式系 白倉B区35-57G
25	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	波状口縁を呈す。半截竹管状工具による爪形文で曲線の文様を描出する。	有尾式系 白倉C区37-61G
26	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③繊維を含む	波状口縁か。半截竹管状工具による連続爪形文で曲線の文様を描出する。	有尾式系 白倉C区36-61G
27	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③繊維を含む	口縁部に突起を貼付。口唇部は角頭状を呈す。半截竹管状工具による連続爪形文。	有尾式系 白倉B区35-57G

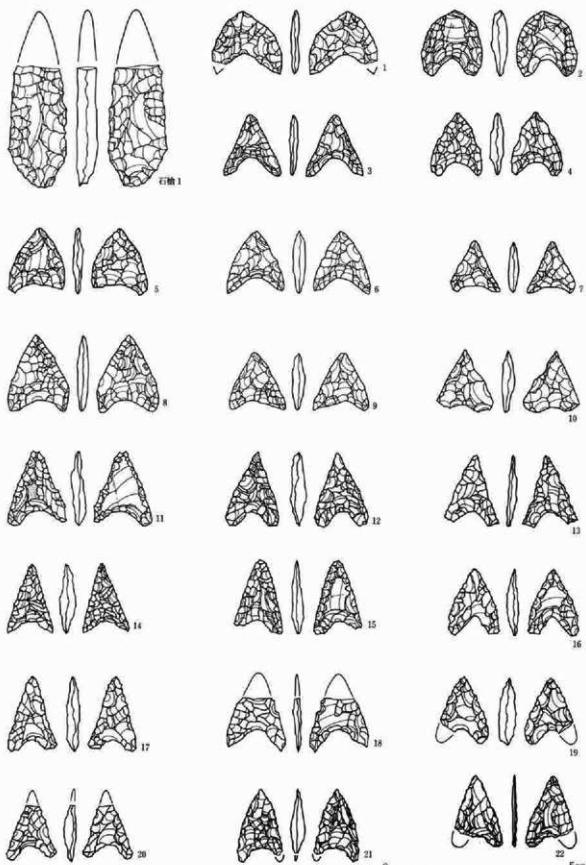
III 縄文時代の遺構と遺物

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	形状・文様の特徴等	備考
28	口縁部片	①良好 ②鈍い橙色 ③繊維を含む	口唇部が角頭状を呈す。半載竹管工具による連続列突文が返る。同様の工具による平行沈線文。	有尾式系 白倉C区44-72G
29	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を多量に含む	口唇部が角頭状を呈す。半載竹管工具による平行沈線と連続爪形文によって菱形構成の文様を掘出す。	有尾式系 白倉B区35-57G
30	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	口唇部が角頭状を呈す。半載竹管工具による連続爪形文と平行沈線文。	有尾式系 白倉C区30号住
31	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を含む	半載竹管工具による連続爪形文を施す。	有尾式系 白倉C区34-60G
32	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③繊維を多く含む	半載竹管工具による連続爪形文で文様を掘出す。	有尾式系 白倉C区44-73G
33	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	口唇部が角頭状を呈す。半載竹管工具による連続爪形文。原形LRの単節斜縄文を施す。	有尾式系 白倉C区34-60G
34	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③繊維を含む	波状口縁を呈す。口唇部は角頭状。0段多糸RL単節斜縄文を施したのち、棒状工具による平行沈線文。	有尾式系 白倉C区44-71G
35	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③繊維を含む	0段多糸RL単節斜縄文を施したのち、半載竹管工具による平行沈線を巡らせる。	有尾式系 白倉C区44-71G
36	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③繊維を含む	0段多糸原形RLの単節斜縄文を施す。	黒沢式 白倉B区35-57G
37	口縁部片	①良好 ②明褐色 ③繊維を含む	原形LRの単節斜縄文と0段多糸RL単節斜縄文で菱形に施文。	黒沢式 白倉C区36-60G
38	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	原形RLの単節斜縄文を施す。	黒沢式 白倉C区35号住
39	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③繊維を含む	0段多糸RL単節斜縄文を施す。	黒沢式 白倉C区35号住
40	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③繊維を含む	半載竹管工具による連続爪形文。	黒沢式 白倉C区72号住
41	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③雲母粒を含む	円形竹管及び半載竹管工具による肋骨文。	諸磯a式 白倉C区30号住
42	胴部片	①良好 ②明褐色 ③石灰を含む	半載竹管工具による連続爪形文を施す。胴部は0段多糸RLの単節斜縄文。	諸磯a式 白倉C区表探
43	胴部片	①良好 ②鈍い黄色 ③石灰を含む	原形不明の単節斜縄文を施したのち、刮みを付した厚い浮線文を貼付する。	諸磯b(断)式 白倉A区36号住
44	胴部片	①良好 ②鈍い橙褐色 ③砂を含む	原形RLの単節斜縄文を施したのち、刮みを付した厚い浮線文を貼付する。	諸磯b(断)式 白倉A区35号住
45	胴部片	①良好 ②鈍い橙褐色 ③片岩を含む	原形LRの単節斜縄文を施したのち、矢羽根状の刮みを付した薄い浮線文を貼付する。	諸磯b(断)式 白倉A区36号住
46	胴部片	①良好 ②明褐色 ③片岩を含む	0段多糸RL単節斜縄文を施したのち、刮みを付した浮線文を貼付する。	諸磯b(断)式 白倉B区38-53G
47	胴部片	①良好 ②明褐色 ③片岩を含む	0段多糸RL単節斜縄文を施したのち、半載竹管工具による平行沈線を巡らせる。	諸磯b(断)式 白倉A区36号住
48	胴部片	①良好 ②明褐色 ③片岩を含む	原形LRの単節斜縄文を施したのち、半載竹管工具による平行沈線文を施す。	諸磯b(断)式 白倉C区35号住
49	胴部片	①良好 ②黄褐色 ③片岩を含む	原形RLの単節斜縄文を施したのち、半載竹管工具による平行沈線を巡らせる。	諸磯b(断)式 白倉B区89号住
50	口縁部片	①良好 ②鈍い黄色 ③片岩を含む	半載竹管工具による集合沈線を施したのち、刮みを付したボタン状の隆帯を貼付する。	諸磯C式 白倉A区97号住
51	口縁部片	①良好 ②淡黄色 ③雲母母粒を含む	口唇部は角頭状を呈す。半載竹管工具による平行沈線で文様を掘出す。	諸磯C式 白倉A区97号住
52	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ④雲母母粒を多量に含む	断面三角の隆帯による楕円区画。隆帯に沿って複列の刺突を施す。補修孔を残存する。	阿玉台I式 白倉C区72号住
53	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ④雲母母粒を多量に含む	波状口縁。半載竹管工具による複列の刺突文が施される。	阿玉台II式 白倉B区86号住
54	胴部片	①良好 ②暗褐色 ④雲母母粒を含む	断面三角の隆帯による楕円区画文。半載竹管工具による沈線及び複列の刺突文。	阿玉台II式 白倉B区38-49G
55	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ④雲母母粒を含む	隆帯及び半載竹管工具による沈線で文様を掘出す。隆帯の交差する部分は、短隆帯を芯にする。	藤原式終末期 白倉B区38-49G
56	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ④雲母母粒を含む	眼輪状の肥手。刮みを付した隆帯及び半載竹管工具による沈線文。	藤原式終末期 白倉C区表探
57	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ④雲母母粒を含む	刮みを付した隆帯を貼付する。棒状工具による沈線文。	藤原式終末期 白倉B区5号住

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
58	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③金雲母粒を含む	口唇部に幅広い隆帯を貼付する。原体LRの単節斜縄文を施す。	勝坂式終末期 白倉C区34号住
59	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③雲母粒を含む	断面三角の曲線縁を貼付する。農具工具による沈線。	勝坂式終末期 白倉C区69号住
60	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③金雲母粒を含む	刻み及び玉拍き三叉文を付した隆帯を貼付する。半載竹管状工具及び刻み目で文様を描出する。	勝坂式Ⅱ式 白倉C区32号住
61	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③雲母粒を含む	刻みを付した隆帯を貼付する。沈線及び爪形文を貼付する。	勝坂式終末期 白倉C区44-71G
62	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線文。刻みを付した隆帯を貼付する。	勝坂式終末期 白倉C区35号住
63	胴部片	①良好 ②暗褐色 ③雲母粒を含む	断面三角の隆帯が垂下。半載竹管状工具による沈線で区画し、内部に刺突を施す。	勝坂式終末期 白倉B区86号住
64	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③片岩を含む	半載竹管状工具による刺突文及び平行沈線を施す。	勝坂式終末期 白倉C区44-73G
65	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③雲母粒を含む	爪形文を付した隆帯を巡らせる。棒状工具による沈線文。	勝坂式終末期 白倉C区2号方形周溝墓
66	胴部片	①良好 ②赤褐色 ③雲母粒を含む	2本1組の隆帯が巡る。棒状工具による沈線文。	勝坂式終末期 白倉B区34-53G
67	胴部片	①良好 ②鈍い赤褐色 ③片岩を含む	背割り状の沈線及び雲母粒工具による刻みを付した隆帯を貼付。隆帯に沿って沈線を施し、短沈線及び三叉文を充填。	勝坂式終末期 白倉B区39-56G
68	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③雲母粒を含む	口縁部に小突起を貼付。原体Lのより糸を施したのち、2本1組の隆帯による渦巻文を貼付する。	勝坂式終末期 白倉B区39-56G
69	口縁部片	①良好 ②赤褐色 ③雲母粒を含む	原体Lのより糸を施したのち、背割り状の沈線を付した隆帯を貼付する。	勝坂式終末期 白倉B区25号住
70	口縁部片	①良好 ②鈍い黄色 ③雲母粒を含む	凹縁及び隆帯によって文様を描出する。原体RLの単節斜縄文を施す。	勝坂式終末期 白倉C1号方形周溝墓
71	底部片	①良好 ②鈍い褐色 ③塵を少量含む	原体Lのより糸を施す。	勝坂式終末期 白倉B区56-57G
72	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線及び隆帯によって文様を描出する。原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E2式か 白倉C区44-72G
73	口縁-胴部片	①良好 ②褐色 ③雲母粒を含む	口縁部は2本1組の隆帯で区画し、連絡部に渦巻文を区画内に短沈線を充填。胴部は原体LRの単節斜縄文。	加曾利E2式 白倉C区44-72G
74	口縁部片	①良好 ②灰褐色 ③石英を含む	隆帯と凹縁によって文様を描出する。原体LRLの複節斜縄文を施す。	加曾利E3式 白倉B区39-56G
75	口縁部片	①良好 ②黄褐色 ③片岩を多量を含む	低い隆帯及び凹縁によって文様を描出する。原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式 白倉B区36-54G
76	口縁部片	①良好 ②明黄褐色 ③片岩を含む	波状口縁を呈す。口縁部は低い隆帯と凹縁によって、胴部は棒状工具による沈線で文様を描出する。原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式 白倉B区38-53G
77	胴部片	①良好 ②灰黄色 ③石英を含む	舌状の突起を貼付する。原体RLの単節斜縄文を施す。二次的に被熱する。	加曾利E3式 白倉B区5号住
78	口縁部片	①良好 ②明赤褐色 ③砂を含む	隆帯及び凹縁によって文様を描出する。磨面状工具による条線を施す。	加曾利E3式磨面系 白倉B区201号土坑
79	胴部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線を垂下する。磨面状工具による条線を施す。	加曾利E3式磨面系 白倉C区44-72G
80	胴部片	①良好 ②鈍い黄色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線。原体RLの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式 白倉B区36-57G
81	胴部片	①良好 ②鈍い黄色 ③砂を含む	棒状工具による沈線が垂下。原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式 白倉B区36-52G
82	胴部片	①良好 ②明黄褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線を垂下。原体RLの単節斜縄文を施す。	加曾利E3式 白倉A区99号住
83	胴部片	①良好 ②鈍い褐色 ③片岩を含む	凹縁に沈線を施し、背割り状の隆帯を付した隆帯を貼付。原体LRの単節斜縄文を施す。	勝坂式終末期 白倉C区1号方形周溝墓
84	口縁部片	①良好 ②灰黄褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線文。原体RLの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式 白倉A区104号住
85	口縁部片	①良好 ③鈍い黄褐色 ④石英を含む	断面三角の隆帯を巡らせたのち、原体LRの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式 白倉B区38-54G
86	口縁部片	①良好 ②灰黄色 ③片岩を含む	断面三角の隆帯を巡らせたのち、原体Lの無節斜縄文を施す。	加曾利E3式 白倉C区72号住
87	口縁部片	①良好 ②灰黄色 ③雲母粒を含む	断面三角形の隆帯を巡らせたのち、原体Lの単節斜縄文を施す。	加曾利E4式 白倉B区179号土坑

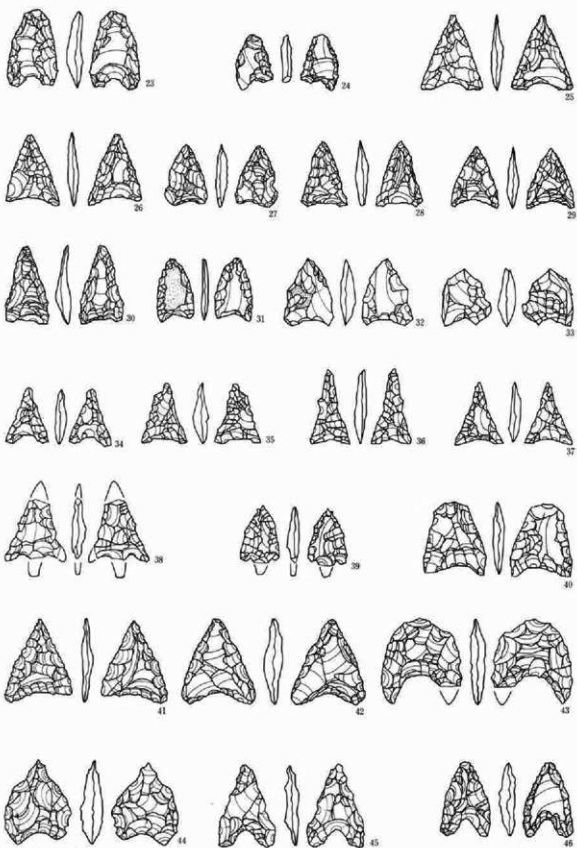
III 縄文時代の遺構と遺物

番号	部位	①焼成 ②色調 ③胎土	器形・文様の特徴等	備考
88	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③雲母粒を含む	口唇部が角頭状を呈す。棒状工具による沈線文。原形LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I式 白倉B区19号土坑
89	口縁部片	①良好 ②淡黄色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線ののち、原形LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I式 白倉B区7号土坑
90	口縁部片	①良好 ②褐色 ③石灰を含む	口縁部に小突起を貼付する。棒状工具による沈線文。原形Lの無節斜縄文を施す。外面に灰化物が付着する。	称名寺I式 白倉B区3号土坑
91	口縁部片	①良好 ②鈍い褐色 ③雲母粒を含む	棒状工具による沈線文。原形LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I式 白倉B区183号土坑
92	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③石灰を含む	波状口縁を呈し、波頂部より突起を付した隆帯が直下。口唇部が強く内彎する。棒状工具による沈線文。原形LRの単節斜縄文。内面に灰化物が付着する。隆帯剥落。	称名寺I式 白倉B区5号住
93	胴部片	①良好 ②黒褐色 ③黒雲母粒を含む	押捺を施した断面三角の隆帯が直下。棒状工具による沈線文。原形LRの単節斜縄文を施す。	称名寺I式 白倉B区5号住
94	胴部片	①良好 ②灰黄褐色 ③片岩を含む	棒状工具による沈線ののち、短沈線を充塞。二次的に焼熟。	称名寺II式 白倉B区58—49G
95	口縁部片	①良好 ②淡黄色 ③石灰を含む	波状口縁を呈す。波頂部に隆帯を貼付する。棒状工具による刺突と沈線文。	堀之内1式 白倉C区39号住
96	口縁部片	①良好 ②淡黄色 ③石灰を含む	口縁部に小突起を貼付。原形LRの単節斜縄文を施したのち、棒状工具による刺突及び沈線文。	堀之内1式 白倉A区117号住
97	口縁部片	①良好 ②黒褐色 ③砂を含む	外面は棒状工具による沈線文ののち、原形LRの単節斜縄文を施す。内面は口縁部に刻みを付し、沈線を巡らせ、円形刺突を施す。	堀之内2式 白倉B区25号住
98	口縁部片	①良好 ②暗褐色 ③礫を少量含む	棒状工具による沈線文ののち、原形LRの単節斜縄文を施す。	堀之内2式 白倉B区183号土坑
99	口縁部片	①良好 ②灰褐色 ③片岩を含む	棒状工具による刺突や沈線及び円環状の貼付文等によって文様を施出する。	堀之内2式 白倉B区86号住
100	口縁部片	①良好 ②鈍い黄褐色 ③砂を多量に含む	口縁部に凹孔を巡らせる。	不明 白倉C区44—73G
101	胴部片	①良好 ②黒褐色 ③雲母粒を少量含む	瘤状を呈すと思われる隆帯を貼付する。	不明 白倉B区88号住



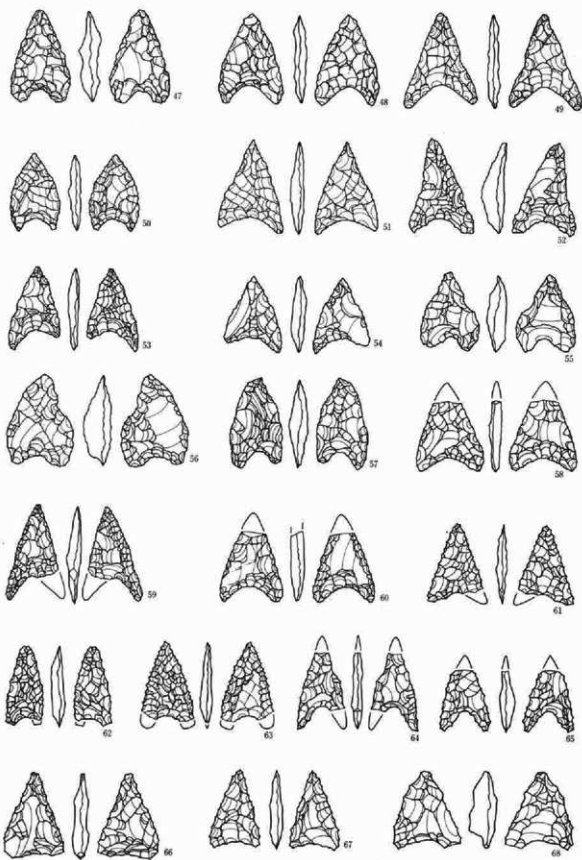
第338図 石槍・石鏃(1)

III 縄文時代の遺構と遺物



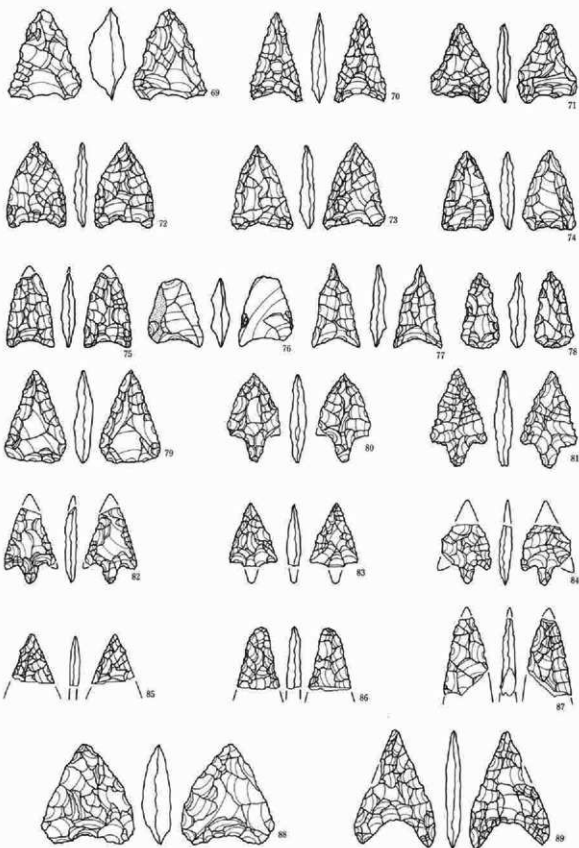
0 5cm

第339図 石 鏃(2)

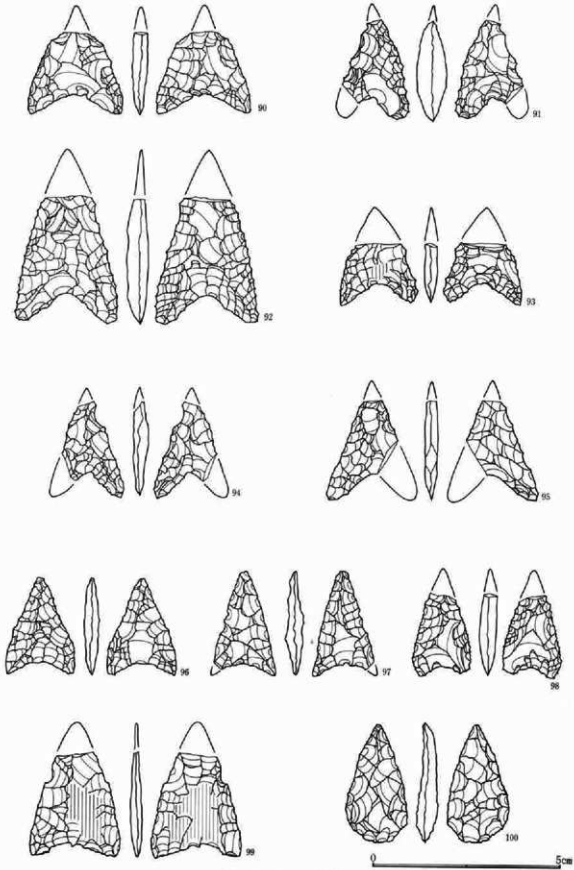


第340図 石 鏃(3)

III 縄文時代の遺構と遺物

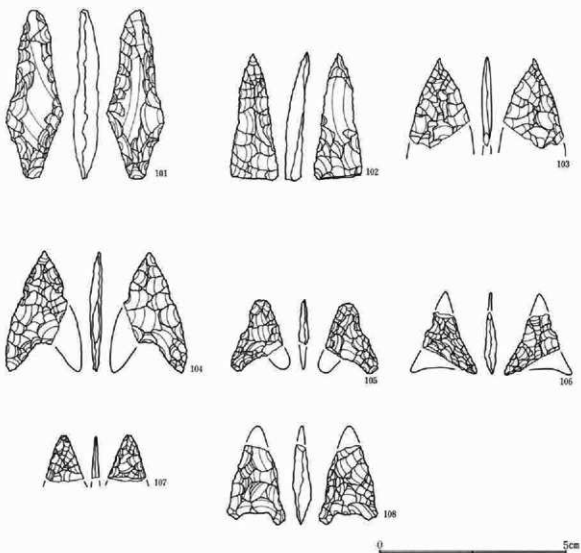


第341図 石 鏃(4)

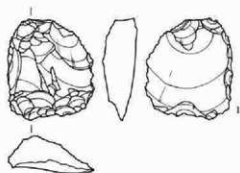


第342図 石 鏃(5)

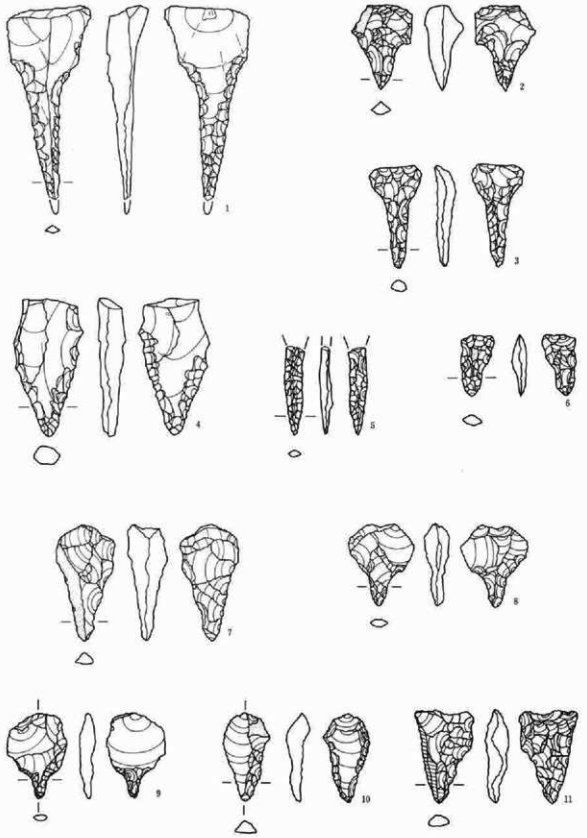
III 縄文時代の遺構と遺物



第343図 石 鏃(6)

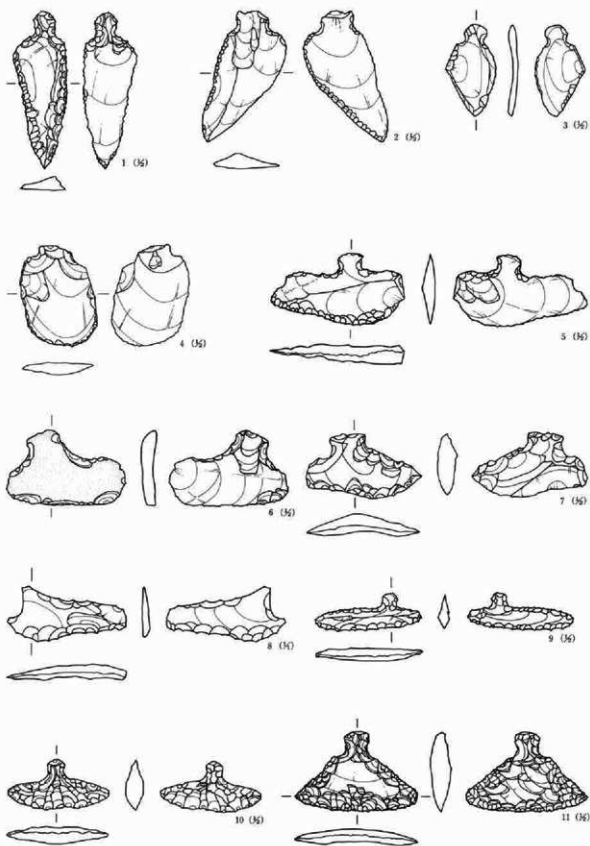


第344図 ビエス・エスキュー

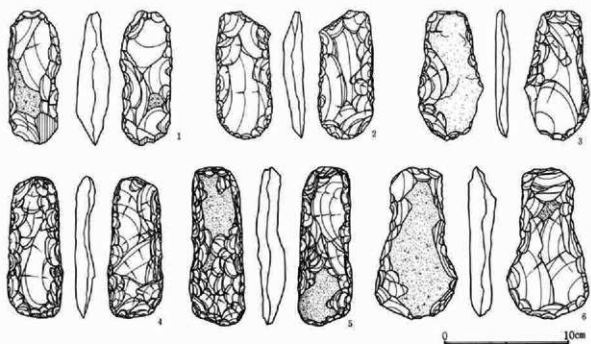
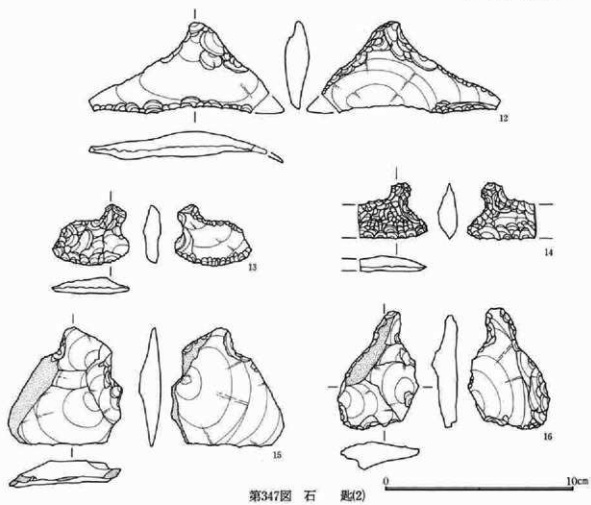


第345図 石 鏃

III 縄文時代の遺構と遺物

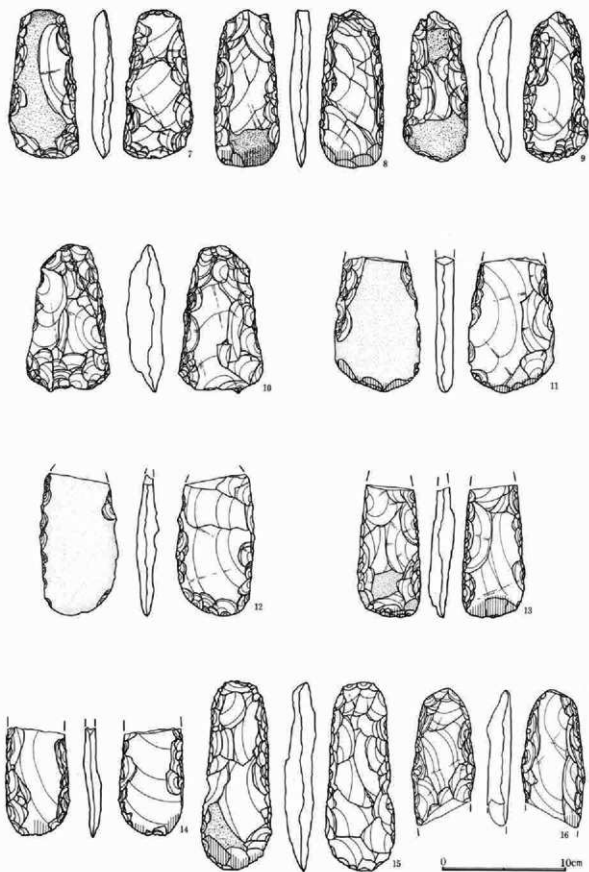


第346図 石器(1)

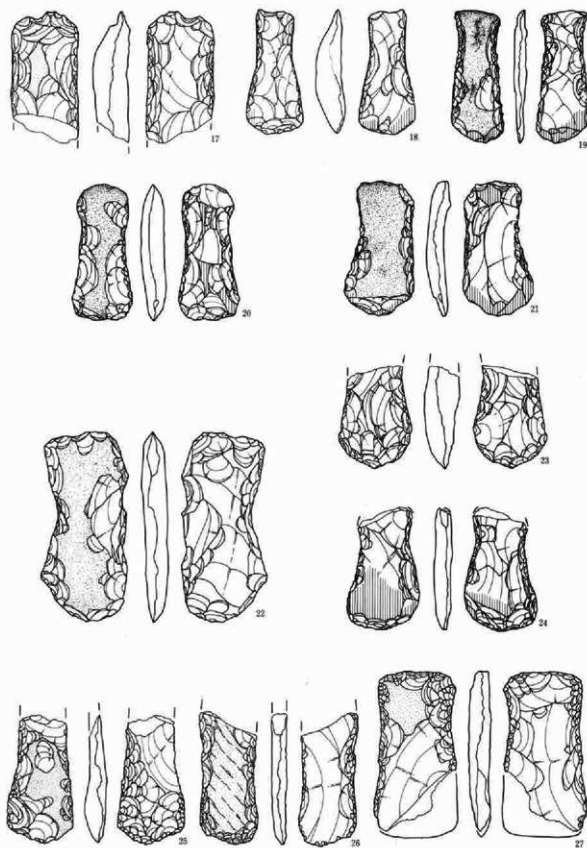


第348图 打製石斧(1)

III 縄文時代の遺構と遺物

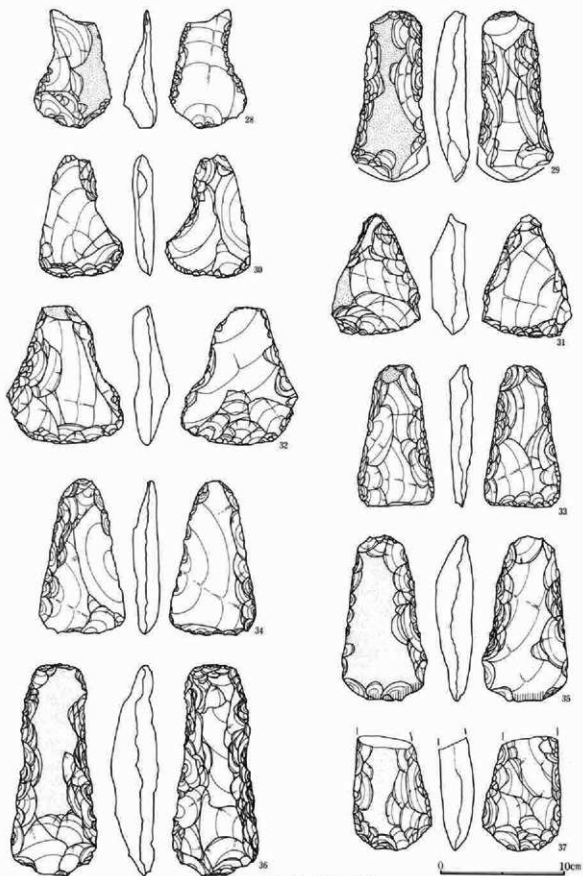


第349図 打製石斧(2)

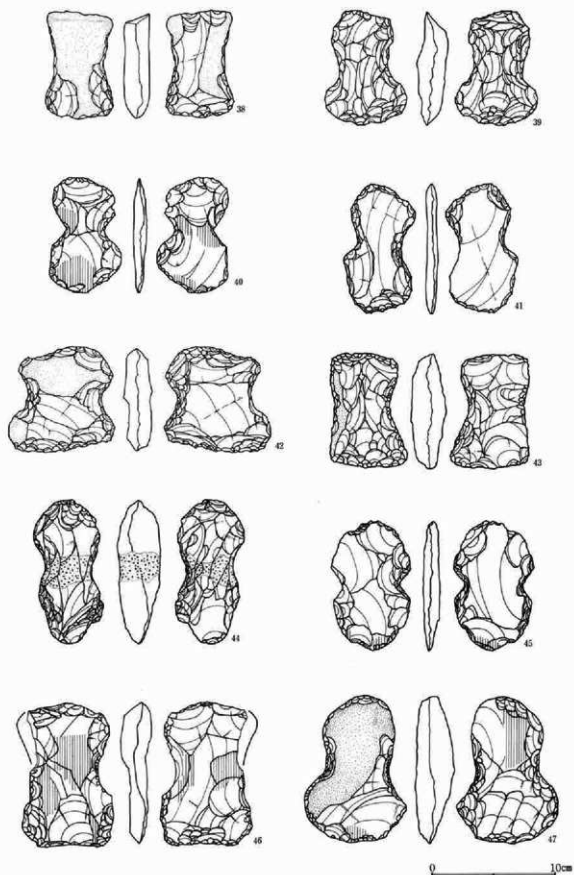


第350图 打製石斧(3)

III 縄文時代の遺構と遺物

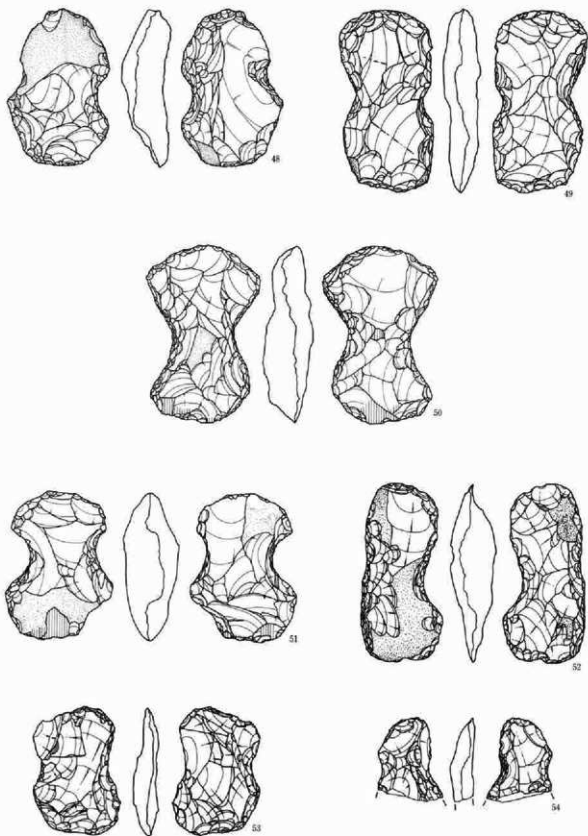


第351図 打製石斧(4)

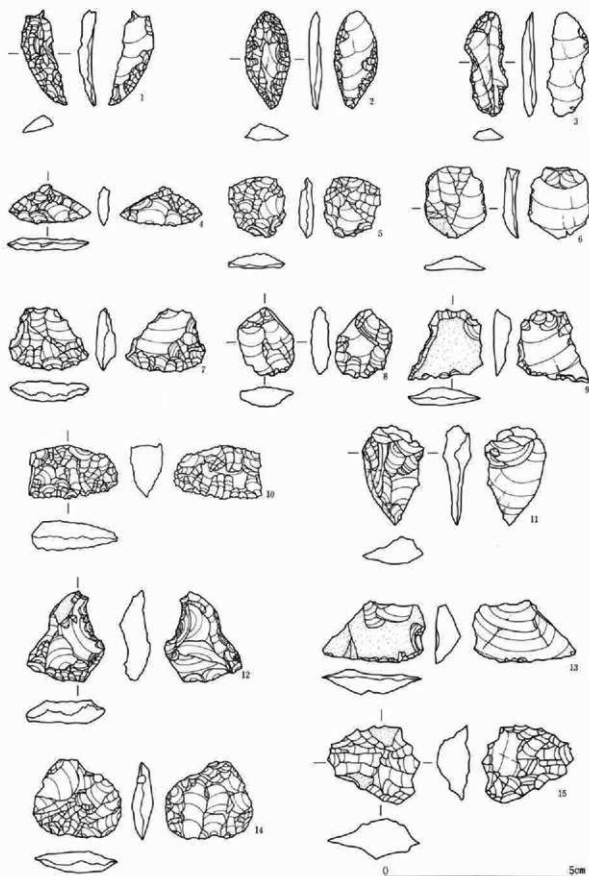


第352図 打製石斧(5)

III 縄文時代の遺構と遺物

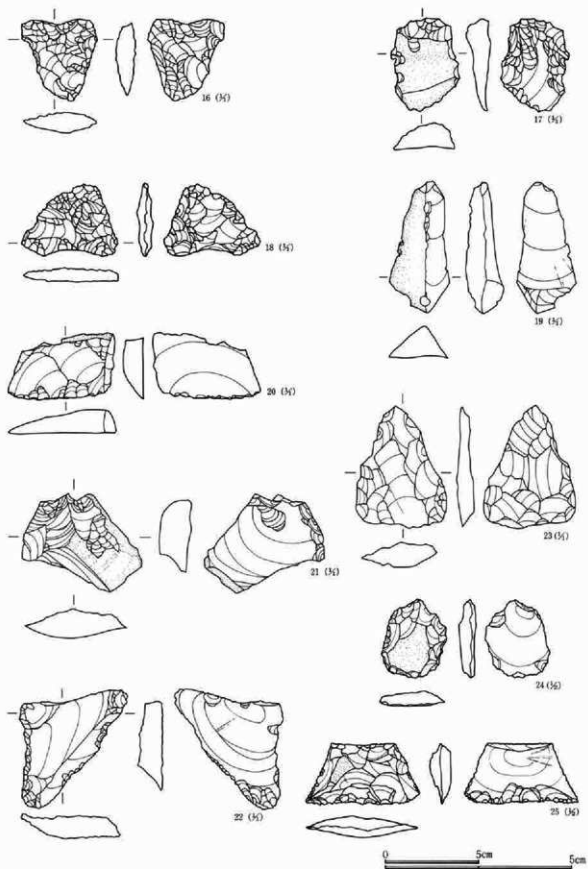


第353図 打製石斧(6)

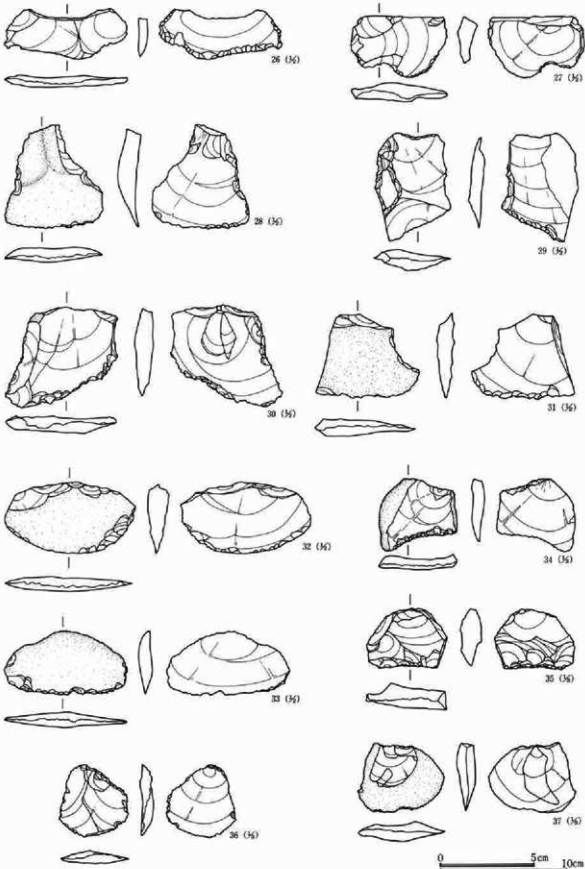


第354図 使用痕や加工痕のある石器(1)

III 縄文時代の遺構と遺物

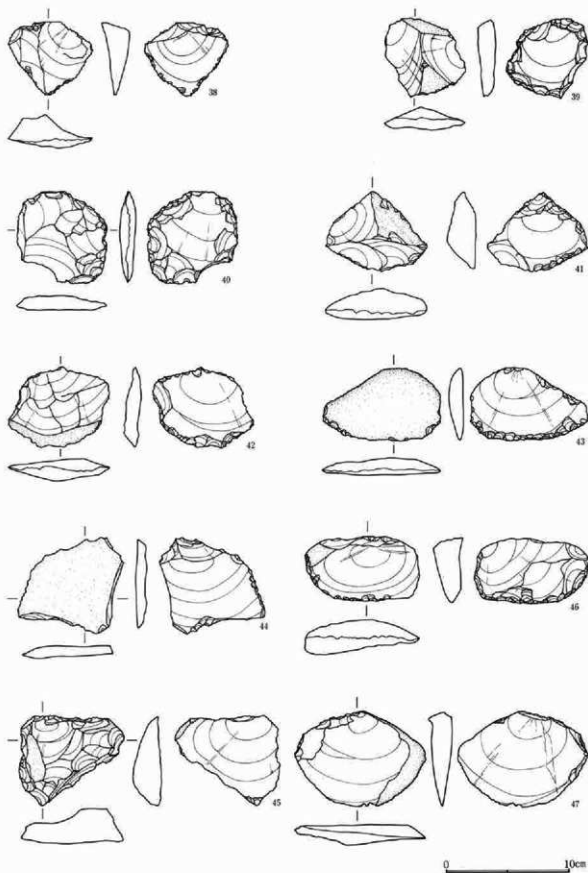


第355図 使用痕や加工痕のある石器(2)

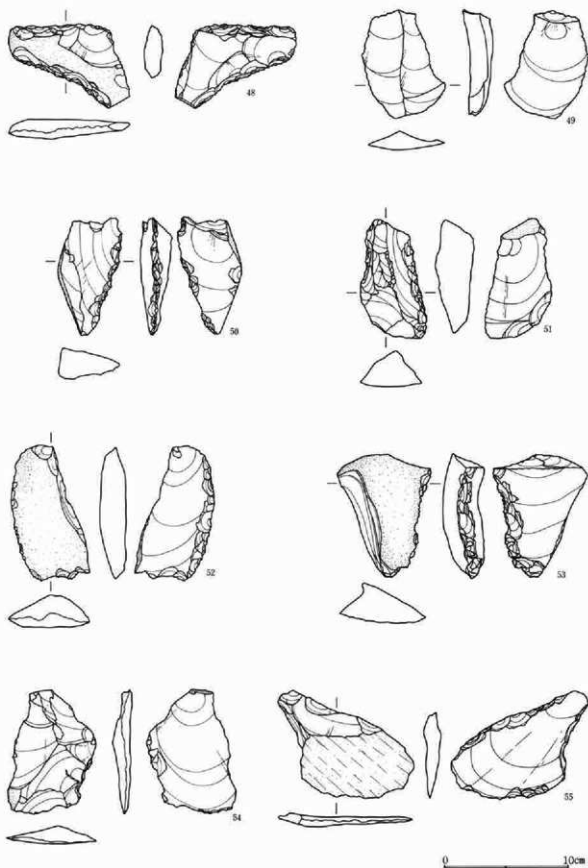


第356図 使用痕や加工痕のある石器(3)

III 縄文時代の遺構と遺物

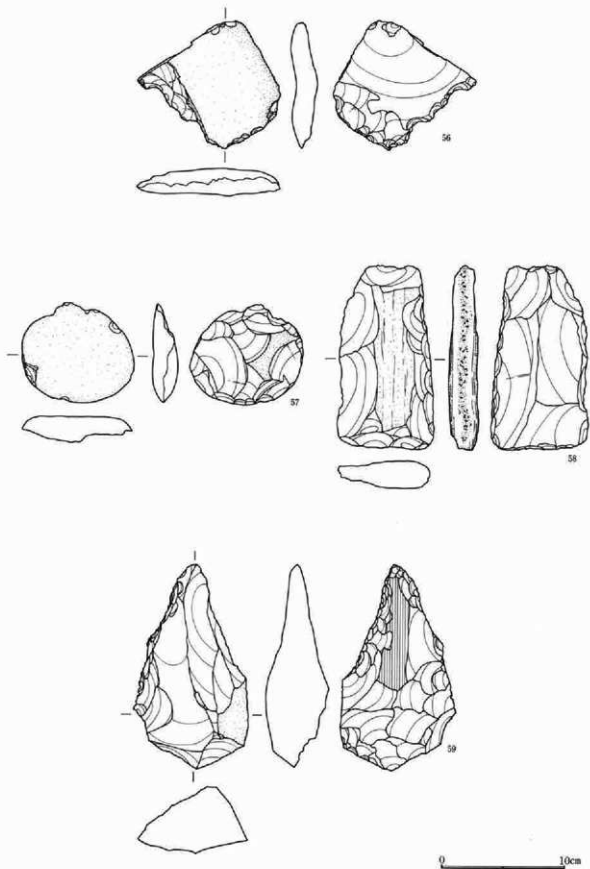


第357図 使用痕や加工痕のある石器(4)

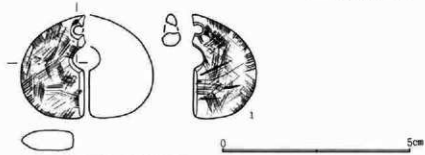


第358図 使用痕や加工痕のある石器(5)

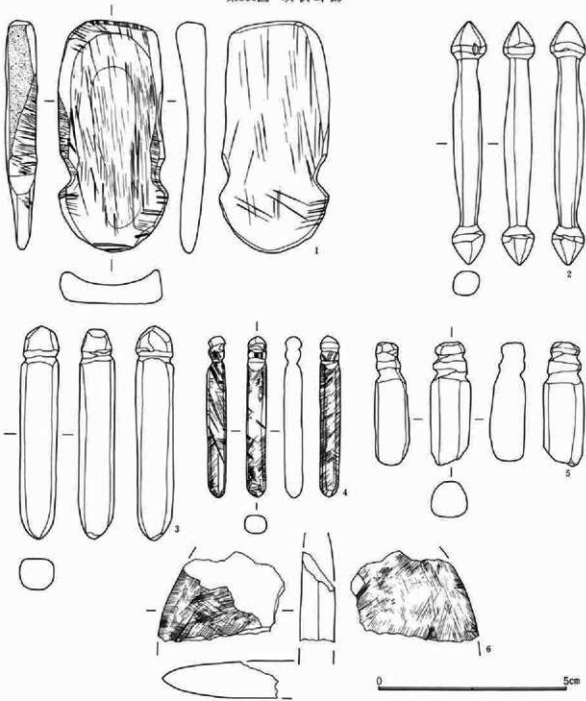
III 縄文時代の遺構と遺物



第359図 使用痕や加工痕のある石器(6)

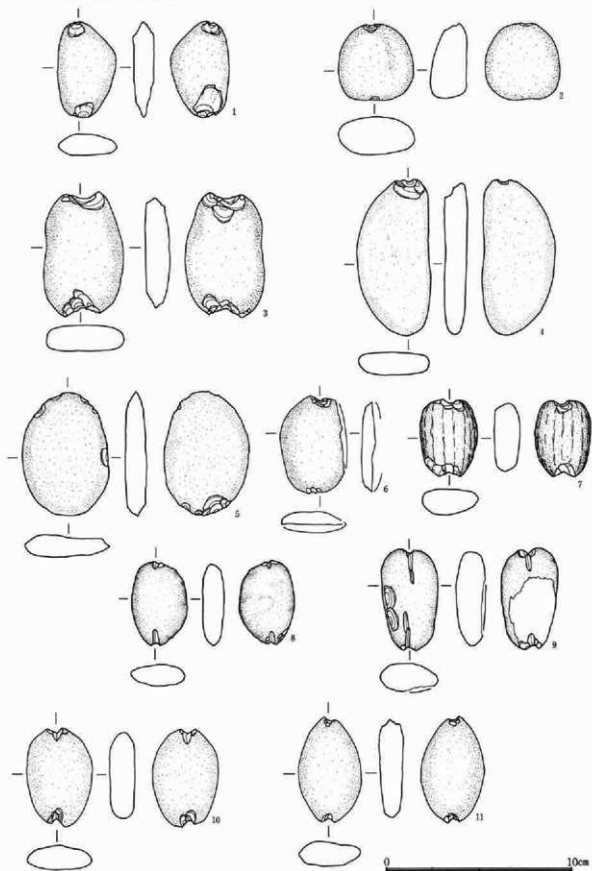


第360圖 玦状耳飾

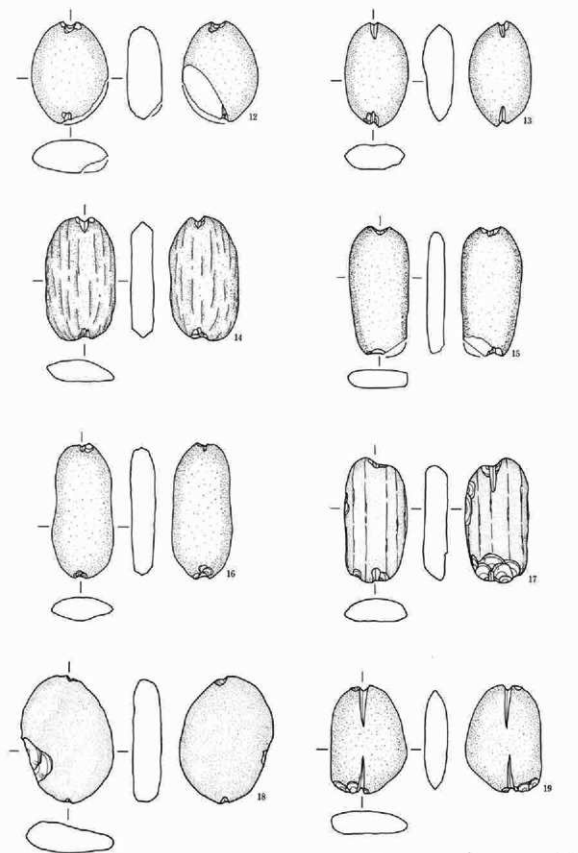


第361圖 特殊石器

III 縄文時代の遺構と遺物

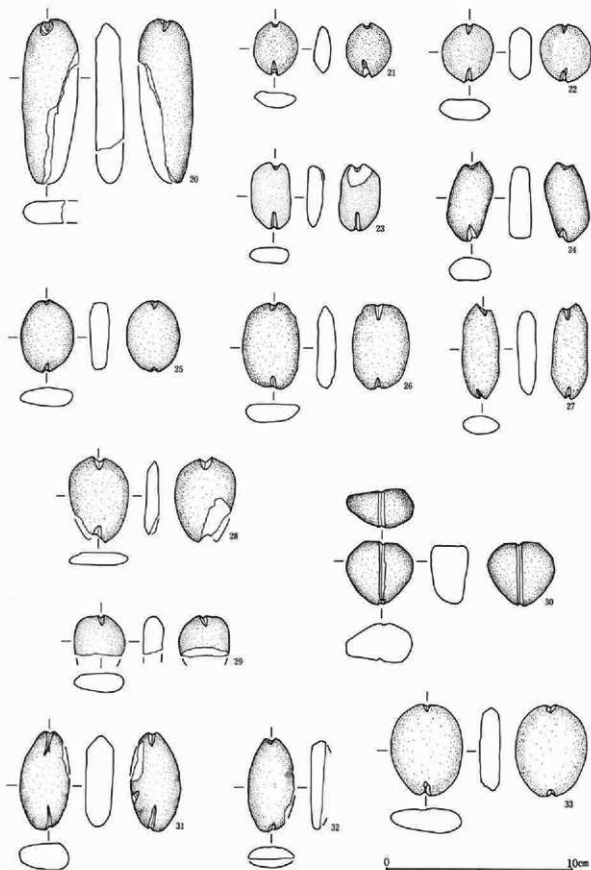


第362図 石 錘(1)

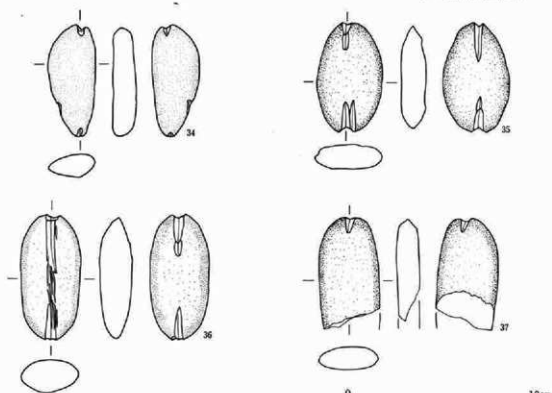


第363圖 石 鏟(2)

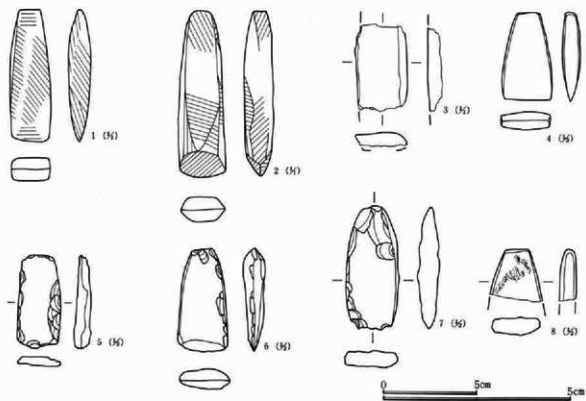
III 縄文時代の遺構と遺物



第364図 石 鏃(3)

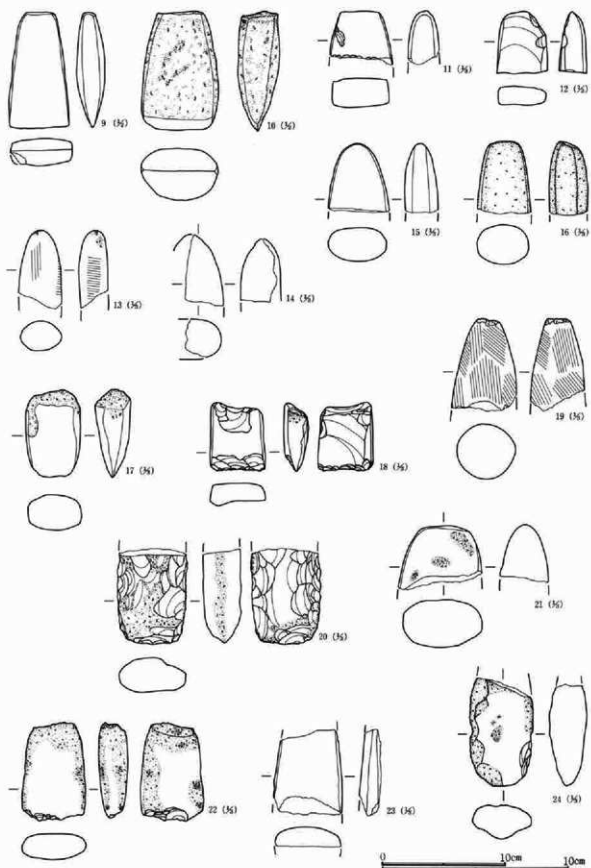


第365図 石 鏃(4)



第366図 磨製石斧(1)

III 縄文時代の遺構と遺物

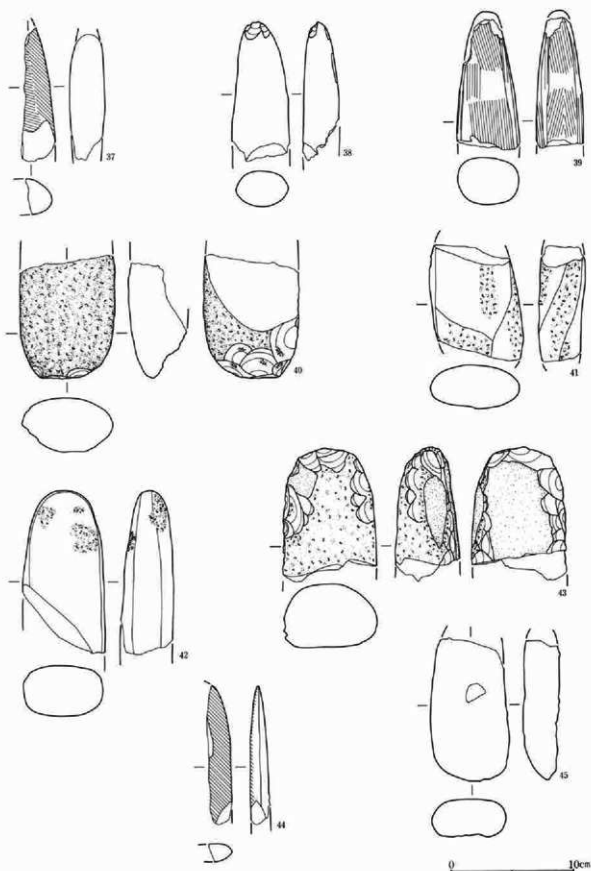


第367図 磨製石斧(2)

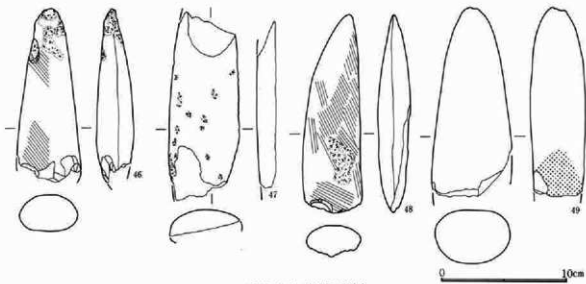


第368図 磨製石斧(3)

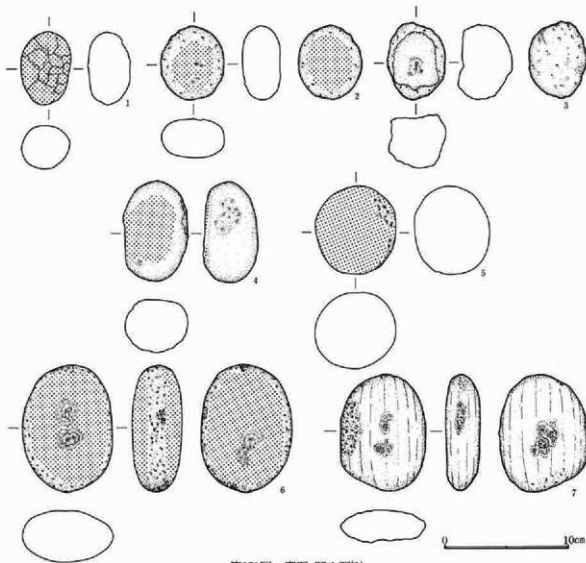
III 縄文時代の遺構と遺物



第369図 磨製石斧(4)

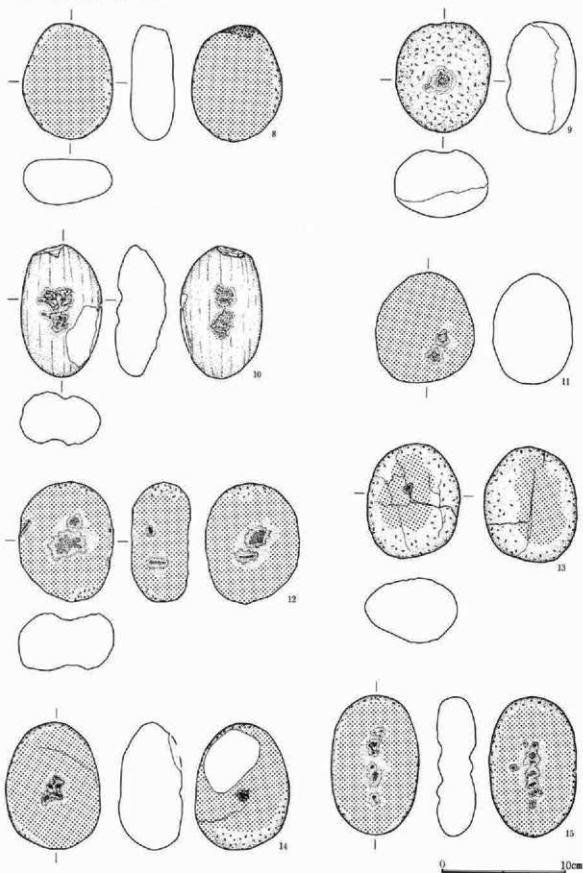


第370図 磨製石斧(5)

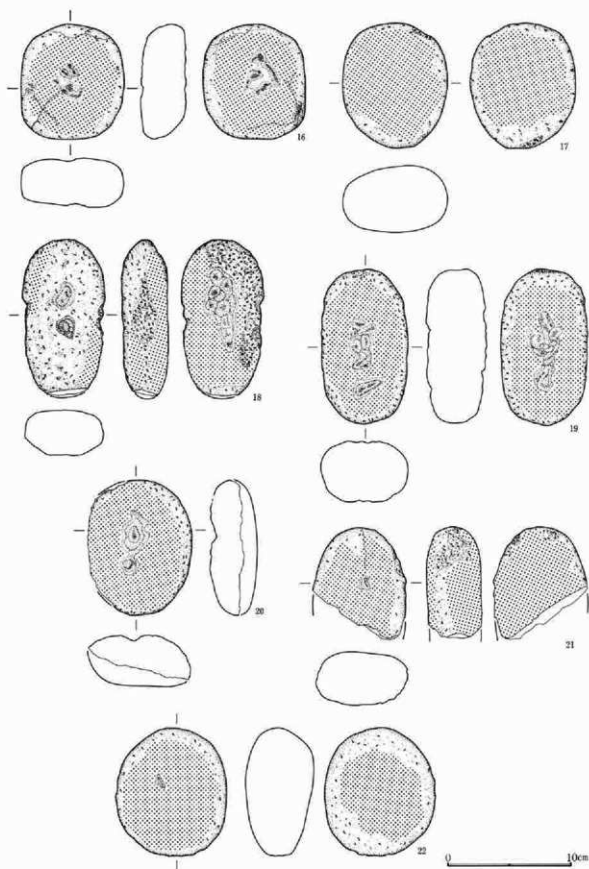


第371図 磨石・凹み石(1)

III 縄文時代の遺構と遺物

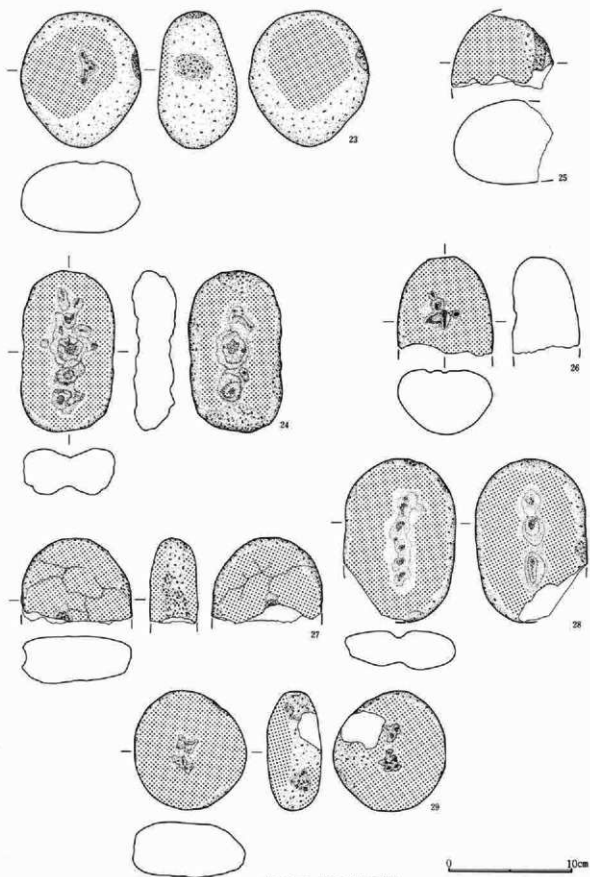


第372図 磨石・凹み石(2)

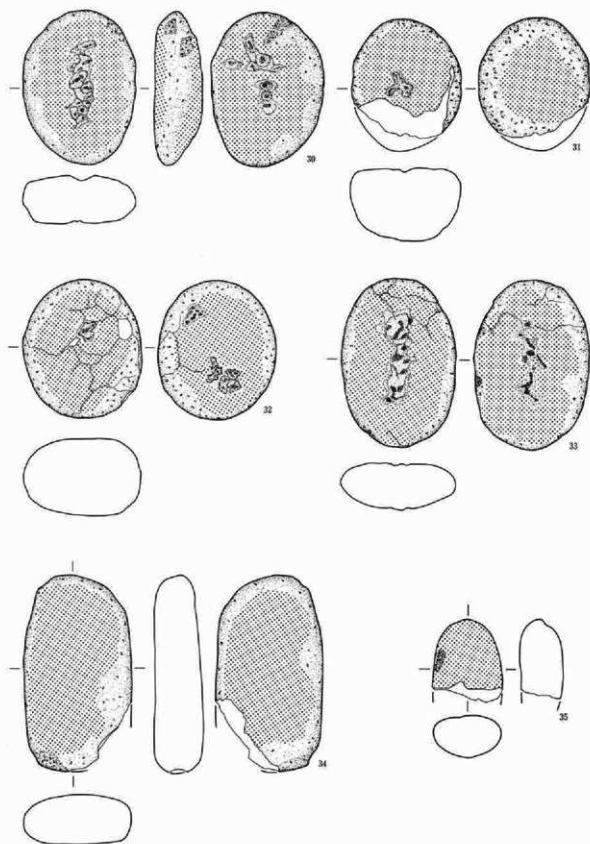


第373図 磨石・凹み石(3)

III 縄文時代の遺構と遺物



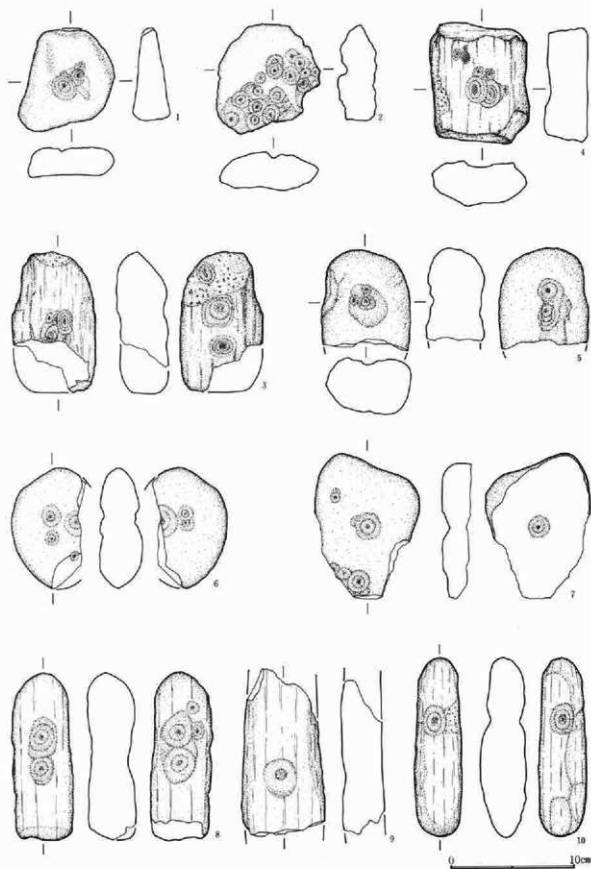
第374図 磨石・凹み石(4)



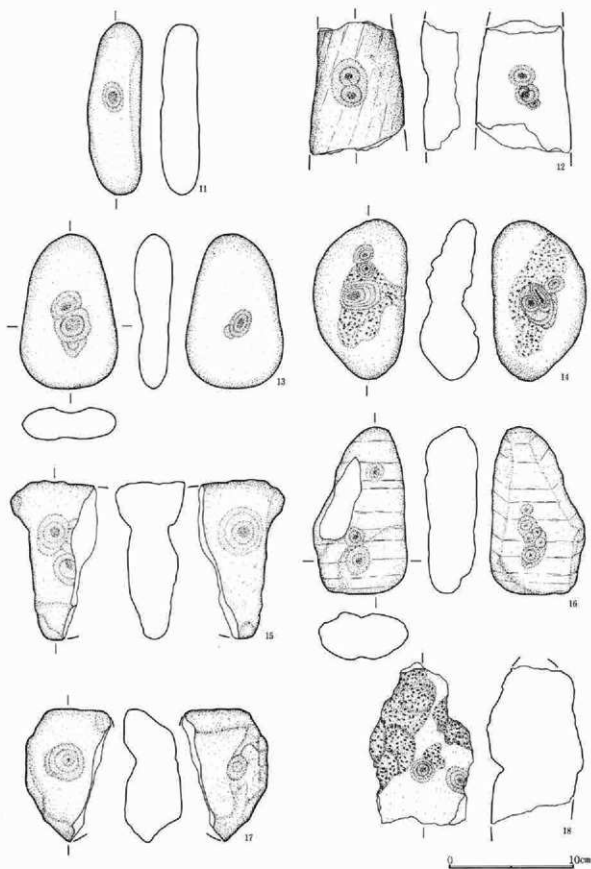
第375図 磨石・凹み石(5)

0 10cm

III 縄文時代の遺構と遺物

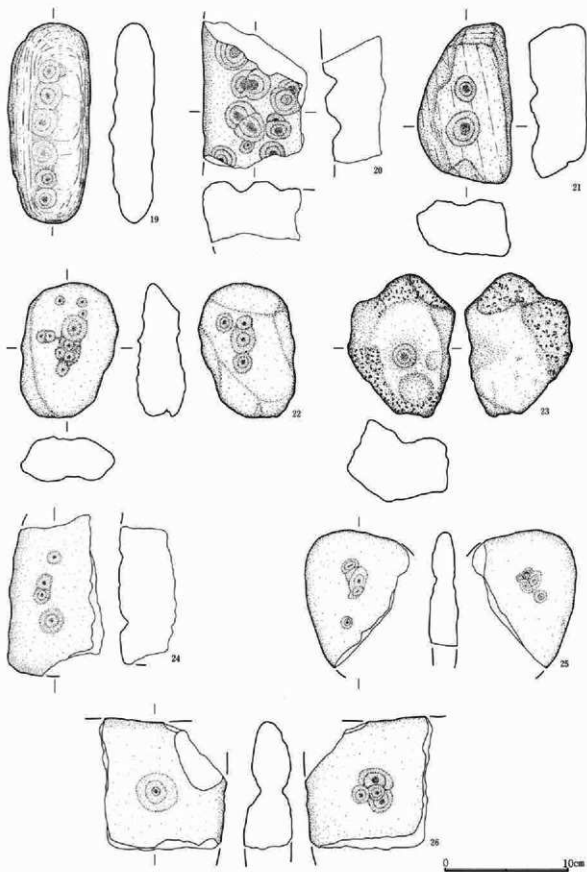


第376図 多孔隙石(1)

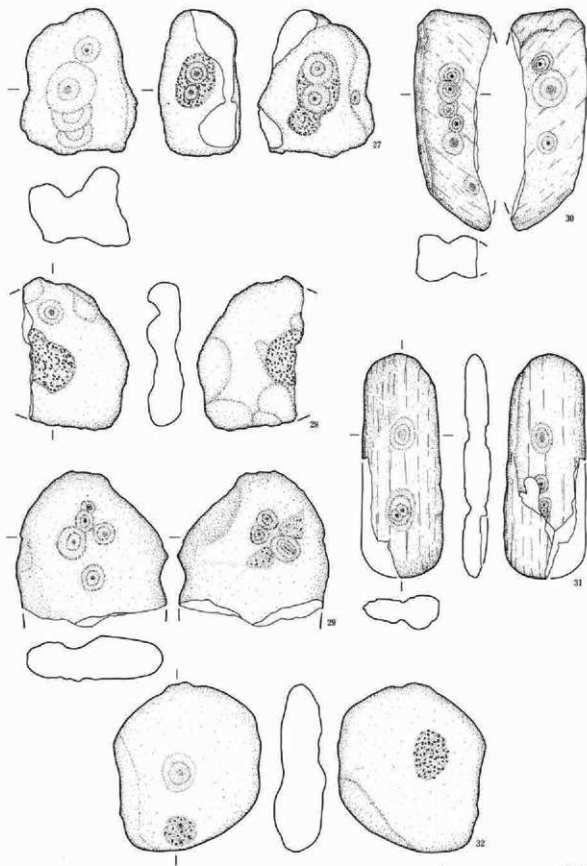


第377図 多孔石(2)

III 縄文時代の遺構と遺物

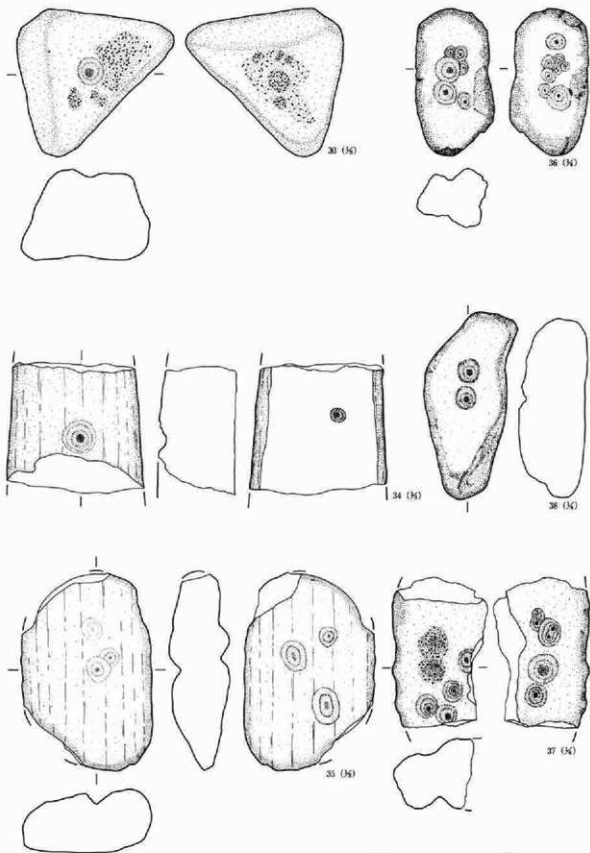


第378図 多孔石(3)

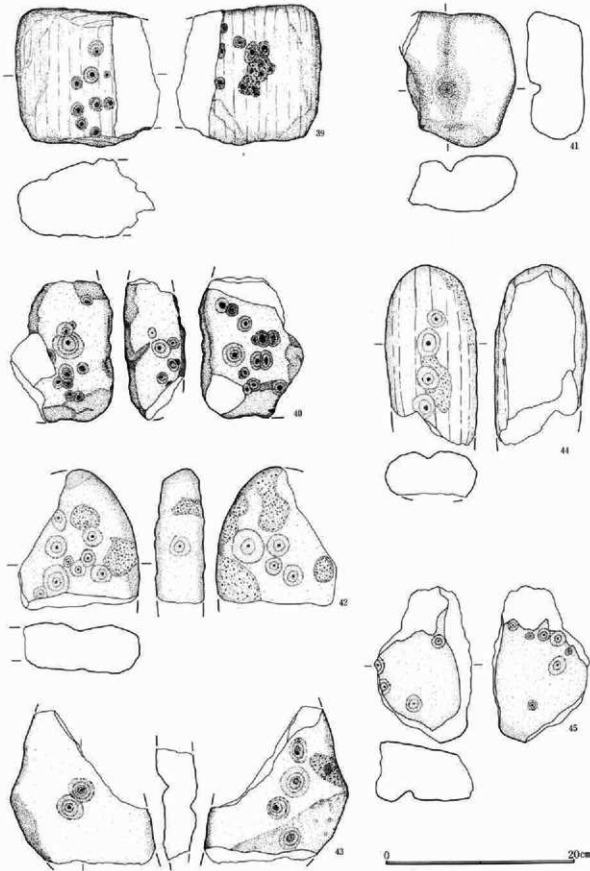


第379図 多孔石(4)

III 縄文時代の遺構と遺物

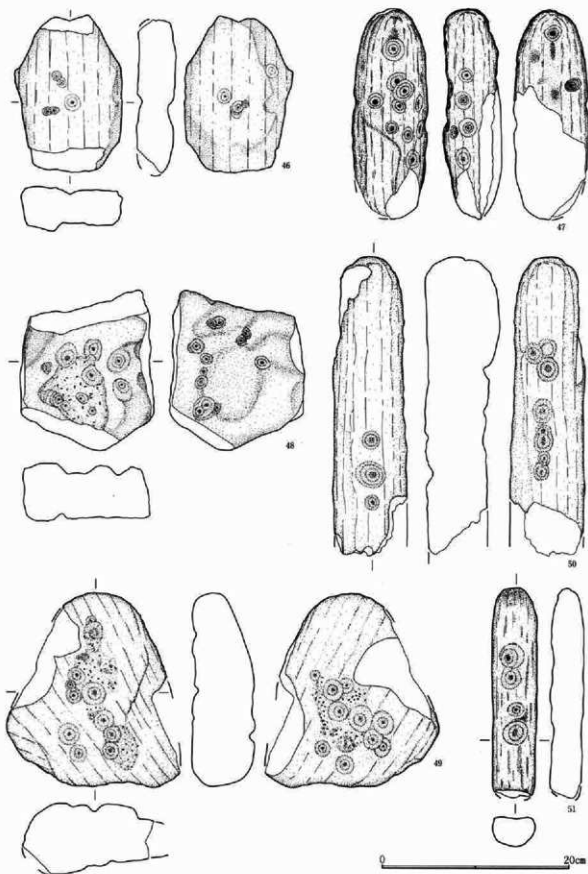


第380図 多孔隙石(5)

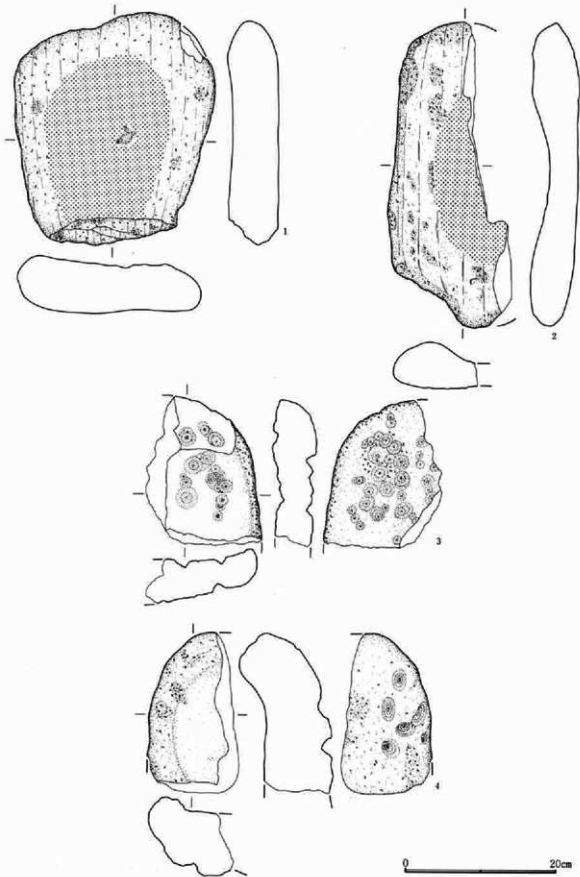


第381図 多孔石(6)

III 縄文時代の遺構と遺物



第382図 多孔石(7)



第383図 石 皿

III 縄文時代の遺構と遺物

遺構外出土石器

石 槌 (第338図、PL 119)

(単位: cm, 8)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	出 土 場 所	備 考
1	<3.1>	1.6	0.6	3.4	チャート	白倉B区54号住	先端欠損

石 鎌 (第338~343図、PL 119・120)

(単位: cm, 8)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	出 土 場 所	備 考
1	<1.7>	<1.9>	0.2	0.6	黒曜石	白倉C区14号住	返し欠損
2	1.7	1.6	0.4	1.2	チャート	白倉B区31-33G	完形
3	1.6	1.5	0.2	0.3	黒曜石	白倉B区31号住	完形
4	1.6	1.4	0.3	0.5	黒曜石	白倉B区38-33G	完形
5	1.7	1.5	0.3	0.5	黒曜石	白倉B区21号住	完形
6	1.6	1.5	0.3	0.6	チャート	天引C区55号住	完形
7	1.4	1.3	0.3	0.3	黒曜石	白倉C区35-37G	完形
8	2.0	1.6	0.3	0.8	黒曜石	天引C区表探	完形
9	1.5	1.5	0.3	0.6	黒曜石	白倉B区95号住	完形
10	1.6	1.5	0.3	0.6	黒曜石	白倉B区33-30G	完形
11	2.0	1.6	0.4	0.7	黒曜石	白倉B区25-44G	完形
12	1.9	1.4	0.4	0.7	黒曜石	白倉B区35-37G	完形
13	1.4	1.5	0.2	0.4	黒曜石	白倉B区14号住	完形
14	1.8	1.2	0.5	0.4	チャート	白倉B区7号土坑	完形
15	1.9	1.3	0.3	0.5	チャート	白倉B区14号住	完形
16	1.8	1.1	0.3	0.6	黒曜石	白倉B区4号溝	完形
17	2.0	1.3	0.7	0.6	黒曜石	白倉A区表探	完形
18	2.1	1.5	0.2	0.4	黒曜石	白倉B区33-42G	先端欠損
19	<1.8>	<1.4>	0.9	0.7	黒曜石	天引C区90号住	返し欠損
20	<1.4>	1.3	0.6	0.5	黒曜石	白倉B区26-53G	先端欠損
21	<1.9>	<1.3>	0.8	0.7	黒曜石	白倉B区7号土坑	返し欠損
22	<1.9>	<1.3>	0.2	0.4	黒色安山岩	白倉B区34-34G	返し欠損
23	2.0	1.3	0.4	1.1	黒曜石	白倉B区31-38G	未製品
24	1.4	1.0	0.3	0.5	黒曜石	白倉B区34-57G	未製品
25	2.0	1.6	0.3	0.7	黒曜石	白倉B区78号住	完形
26	1.9	1.4	0.3	0.6	チャート	白倉B区34-38G	完形
27	1.8	1.2	0.3	0.6	黒曜石	白倉B区表探	完形
28	1.8	1.2	0.4	0.6	チャート	白倉C区16号住	完形
29	1.6	1.3	0.3	0.6	チャート	白倉B区33-36G	完形
30	2.1	1.2	0.4	0.8	チャート	白倉C区38-76G	完形
31	1.6	1.0	0.2	0.4	黒曜石	白倉B区38号住	完形
32	1.2	1.3	0.4	0.8	黒曜石	白倉C区表探	完形
33	1.4	1.3	0.4	0.8	黒曜石	白倉B区谷27-34G	完形
34	1.5	1.2	0.3	0.3	黒曜石	白倉B区14号住	完形
35	1.5	1.5	0.4	0.6	チャート	白倉C区13号住	完形
36	1.8	1.0	0.3	0.4	黒曜石	白倉B区16号住	完形
37	1.6	1.3	0.3	0.4	チャート	白倉B区20号住	完形
38	<1.6>	<1.5>	0.3	0.7	黒曜石	白倉C区13号住	先端と返しと基部欠損
39	<1.5>	1.0	0.2	0.4	黒曜石	白倉B区183号土坑	基部欠損
40	1.9	1.7	0.3	1.2	チャート	天引C区112号住	完形
41	2.2	1.8	0.6	0.9	チャート	白倉B区30号住	完形
42	2.3	2.0	0.5	1.9	珪質頁岩	白倉B区29-35G	完形
43	<2.3>	<2.1>	0.4	1.2	黒曜石	白倉B区31号住	返し欠損
44	2.2	1.8	0.6	1.7	黒曜石	白倉B区36号住	未製品
45	2.2	1.5	0.4	1.0	チャート	白倉C区3号溝	完形
46	2.0	1.3	0.8	1.1	チャート	白倉B区表探	完形
47	2.4	1.6	0.6	2.0	黒色安山岩	天引C区55号住	完形
48	2.3	1.8	0.4	1.1	黒曜石	白倉B区45号住	完形
49	2.5	1.9	0.4	1.0	黒色安山岩	白倉B区67号住	完形
50	2.1	1.3	0.3	0.7	黒曜石	白倉B区41号住	完形
51	2.5	1.8	0.4	0.9	黒曜石	天引B区98号住	完形
52	2.4	1.7	0.6	1.5	黒曜石	白倉B区37号住	完形

5 遺構外出土遺物

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	出 土 場 所	備 考
53	2.2	1.4	0.3	0.5	黒曜石	白倉C区表探	完形
54	2.0	1.6	0.4	0.6	黒曜石	白倉B区36号住	完形
55	2.1	1.6	0.5	1.3	黒曜石	白倉B区6号溝	完形
56	2.4	1.8	0.7	2.3	黒曜石	天引C区51-42G	完形
57	2.4	1.4	0.5	1.5	チャート	天引C区70号住	完形
58	<1.8>	1.8	0.3	0.9	黒色安山岩	白倉B区32-43G	先端欠損
59	<2.5>	<1.4>	0.4	0.7	黒曜石	白倉C区表探	返し欠損
60	<1.7>	1.6	0.4	1.1	チャート	白倉B区27-52G	先端欠損
61	<2.0>	<1.5>	0.3	0.7	チャート	白倉B区27-52G	返し欠損
62	<2.1>	<1.0>	0.3	0.6	黒曜石	白倉A区35-27G	返し欠損
63	<2.0>	<1.4>	0.3	0.8	黒曜石	天引64号住	返し欠損
64	<2.0>	<1.3>	0.3	0.5	チャート	白倉C区46号住	先端と返しを欠損
65	<1.6>	1.3	0.4	0.5	珪質頁岩	白倉C区57号住	先端欠損
66	2.1	1.6	0.4	1.2	黒色安山岩	白倉B区25-32G	完形
67	2.0	1.3	0.3	0.7	チャート	白倉B区26-35G	完形
68	2.0	1.7	0.7	2.0	チャート	白倉B区37-52G	完形
69	2.4	1.9	0.9	2.8	チャート	白倉B区32-44G	完形
70	2.3	1.4	0.4	0.8	チャート	白倉B区33-43G	完形
71	2.1	1.6	0.4	0.8	黒曜石	白倉B区20号住	完形
72	2.3	1.6	0.4	0.8	黒曜石	白倉B区20-30G	完形
73	2.2	1.6	0.4	1.1	黒曜石	白倉B区12号住	完形
74	2.1	1.4	0.4	1.0	黒曜石	白倉B区34-42G	完形
75	<1.8>	1.3	0.4	0.8	黒曜石	天引C区36-46G	先端欠損
76	1.8	1.4	0.5	0.8	黒曜石	白倉C区表探	未製品
77	2.2	1.3	0.4	0.8	チャート	白倉B区3号住	完形
78	2.0	1.0	0.5	0.9	チャート	白倉C区5号土坑	完形
79	2.4	1.6	0.5	1.8	黒色安山岩	天引C区138号住	完形
80	2.3	1.4	0.4	1.0	黒曜石	白倉B区14号住	返し欠損
81	2.6	1.5	0.5	1.1	黒曜石	白倉C区15号住	完形
82	<2.0>	<1.4>	0.3	0.4	黒色頁岩	白倉C区5号土坑	先端欠損
83	<1.5>	1.3	0.4	0.5	黒曜石	天引B区表探	基部欠損
84	<1.6>	<1.3>	0.4	0.5	黒曜石	白倉C区7号土坑	先端と返しを欠損
85	<1.3>	<1.2>	0.2	0.2	黒色安山岩	白倉B区28-48G	基部欠損
86	<1.7>	<1.1>	0.4	0.5	黒曜石	白倉C区38号住	基部欠損
87	<2.1>	<1.2>	0.4	0.7	黒曜石	白倉C区81号土坑	先端と返しを欠損
88	2.7	2.5	0.8	4.0	黒色安山岩	白倉B区27-55G	完形
89	3.1	2.2	0.4	1.8	黒色安山岩	白倉B区28号住	完形
90	<2.2>	2.5	0.5	2.0	黒色安山岩	白倉B区8号溝	先端欠損
91	<2.6>	<1.7>	0.8	1.9	黒曜石	白倉A区28号住	先端と返しを欠損
92	<3.4>	2.7	0.5	4.0	黒曜石	白倉C区表探	先端欠損
93	<1.6>	2.1	0.3	0.9	黒曜石	白倉C区表探	先端欠損
94	<2.5>	<1.6>	0.4	1.2	黒曜石	白倉C区38-75G	先端と返しを欠損
95	<2.6>	<1.9>	0.3	1.0	黒色安山岩	白倉B区6号溝	先端と返しを欠損
96	2.5	1.8	0.4	1.2	チャート	白倉C区7号住	完形
97	<2.7>	1.6	0.5	1.2	チャート	白倉B区7号溝	返し欠損
98	<2.1>	1.6	0.4	1.3	珪質頁岩	白倉B区谷1フク土	先端欠損
99	<2.7>	2.4	0.3	2.3	黒曜石	白倉C区83号住	先端欠損 基部を中心に擦痕
100	3.1	1.6	0.6	2.0	赤色珪質岩	白倉B区52号住	完形
101	4.4	1.6	0.7	4.3	珪質頁岩	白倉B区28-44G	完形
102	3.3	1.3	0.5	1.5	黒色頁岩	天引C区65号住	完形
103	<2.3>	<1.6>	0.2	0.6	黒曜石	白倉B区36-56G	基部欠損
104	<3.2>	<1.7>	0.3	1.6	黒曜石	白倉B区58号住	返し欠損
105	1.9	1.4	0.3	0.4	黒曜石	白倉B区32号住	返し欠損
106	<1.8>	<1.4>	0.3	0.5	黒曜石	白倉B区30号住	先端と返しを欠損
107	<1.2>	<1.0>	0.2	0.3	黒曜石	白倉B区36号住	基部欠損
108	<2.1>	1.5	0.5	1.3	黒曜石	白倉B区29号住	先端と返しを欠損

ビエスエスキュー (第344図, PL 121)

(単位: cm, g)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	出 土 場 所	備 考
1	2.7	2.3	1.0	5.4	チャート	白倉B区54号住	完形

III 縄文時代の遺構と遺物

石 錘 (第345図、PL 121)

(単位: cm, g)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	出 土 場 所	備 考
1	5.1	2.0	1.1	5.2	黒色安山岩	白倉C区42号住	先端欠損
2	2.2	1.6	0.9	1.9	黒曜石	白倉B区7号溝	完形
3	2.8	1.7	0.5	1.3	赤色珪質岩	白倉B区9号住	完形
4	3.6	1.9	0.7	4.1	珪質頁岩	白倉C区表探	完形
5	2.3	0.5	0.4	0.3	黒曜石	白倉B区31号住	つまみ部欠損
6	1.6	0.9	0.4	0.4	黒曜石	白倉B区表探	完形
7	3.0	1.5	1.0	3.1	チャート	白倉B区39号住	完形
8	2.1	1.8	0.6	1.4	黒曜石	白倉B区58号住	完形
9	2.2	1.5	0.4	1.1	チャート	白倉B区29号住	完形
10	2.3	1.2	0.6	1.2	黒曜石	白倉C区44-71G	完形
11	2.5	1.5	0.6	2.2	黒曜石	白倉A区33-26G	完形 一部に使用痕

石 匙 (第346~347図、PL 121)

(単位: cm, g)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	出 土 場 所	備 考
1	8.2	2.8	0.7	19.0	チャート	白倉C区22号土坑	完形
2	6.9	4.5	0.8	20.0	硬質泥岩	白倉C区13号住	完形
3	4.8	2.7	0.4	5.0	珪質頁岩	白倉B区36号住	完形
4	5.3	3.6	0.6	18.0	硬質泥岩	白倉C区15号住	完形
5	7.1	3.7	0.9	20.0	珪質頁岩	白倉B区33-57G	完形
6	3.9	6.3	0.7	22.0	珪質頁岩	白倉B区32-57G	完形
7	3.2	6.1	1.0	20.0	チャート	白倉C区表探	完形
8	1.0	3.2	4.0	2.0	硬質泥岩	白倉B区47号住	完形
9	1.8	5.7	0.7	6.0	黒色安山岩	白倉B区10号住	完形
10	5.2	5.4	0.9	5.1	硬質頁岩	白倉A区表探	完形
11	4.2	6.5	1.1	19.0	珪質頁岩	白倉C区209号土坑	完形
12	4.5	(9.5)	1.3	40.0	黒色頁岩	白倉C区13号住	一部欠損
13	2.9	4.1	0.9	12.0	赤色珪質岩	白倉C区12号住	完形
14	3.0	(3.7)	1.0	10.0	チャート	白倉B区54号住	一部欠損
15	6.2	4.7	1.2	39.0	珪質頁岩	白倉B区10号住	完形
16	6.2	4.3	1.4	29.0	硬質泥岩	白倉C区表探	完形

打製石斧 (第348~353図、PL 122~124)

(単位: cm, g)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	出 土 場 所	備 考
1	10.5	4.1	2.5	114.0	珪質頁岩	白倉C区25号住	完形 刃部に使用痕
2	10.0	4.4	1.5	83.0	珪質頁岩	白倉B区29号住	完形
3	10.2	5.2	1.1	79.0	頁岩	白倉B区38-53G	完形、二次的に被蝕
4	16.1	4.4	1.5	102.0	珪質頁岩	白倉B区57号住	完形
5	12.5	4.4	2.3	185.0	緑色片岩	天引C区47-38G	完形
6	11.7	6.6	2.0	158.0	粗粒安山岩	白倉B区65号住	完形
7	11.6	5.2	1.5	195.0	硬質泥岩	白倉C区15号住	完形
8	12.4	5.1	1.4	125.0	粗粒安山岩	天引C区43-50G	完形 刃部に使用痕
9	11.3	5.1	2.5	149.0	硬質泥岩	白倉C区表探	完形
10	11.6	6.6	2.8	243.0	硬質泥岩	天引C区39-38G	完形
11	(10.7)	6.7	1.3	152.0	粗粒安山岩	白倉B区6号住	基部欠損 刃部に使用痕
12	(11.1)	6.1	1.7	146.0	粗粒安山岩	白倉B区37-52G	基部欠損
13	(10.4)	5.0	2.0	115.0	粗粒安山岩	白倉B区10号住	基部欠損 刃部に使用痕
14	8.5	5.1	1.5	74.0	硬質泥岩	白倉C区56号住	基部欠損 刃部に使用痕
15	14.8	5.6	2.2	190.0	粗粒安山岩	白倉C区4号住	完形 刃部に使用痕
16	(10.7)	5.0	1.9	115.0	硬質泥岩	白倉B区38-54G	刃部欠損 刃部に使用痕
17	(10.3)	5.4	2.9	191.0	粗粒安山岩	白倉B区39-56G	刃部欠損
18	9.8	4.4	2.3	91.0	硬質泥岩	白倉B区30-56G	完形 刃部に使用痕
19	10.5	4.1	1.0	60.0	珪質頁岩	白倉B区30-34G	完形 刃部に使用痕
20	10.7	4.8	2.0	116.0	硬質泥岩	白倉B区47号住	完形 一部に使用痕
21	10.6	5.6	2.0	111.0	硬質泥岩	白倉B区10号住	完形 刃部を中心に使用痕
22	14.8	6.8	1.9	226.0	珪質頁岩	白倉B区4号溝	完形
23	(8.0)	5.8	2.8	96.0	硬質泥岩	白倉B区28-33G	基部欠損
24	(9.7)	5.8	1.5	95.0	珪質頁岩	白倉B区27-53G	基部欠損 一部に使用痕

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	出 土 場 所	備 考
25	(10.1)	5.3	1.8	93.0	珪質頁岩	白倉B区38-54G	基部欠損、二次的に被熱
26	(10.2)	5.4	1.2	85.0	緑色片岩	白倉B区32-30G	基部欠損
27	(12.5)	(6.2)	1.8	154.0	粗粒安山岩	白倉B区54号住	刃部欠損
28	9.3	6.2	2.6	100.0	珪質頁岩	白倉B区12号住	未製品か
29	(13.2)	(5.9)	2.4	206.0	硬質泥岩	白倉B区38-55G	刃部欠損
30	9.6	6.6	1.6	113.0	硬質泥岩	白倉B区38-59G	
31	9.5	7.1	2.7	184.0	硬質泥岩	白倉C区66号住	完形
32	10.7	9.3	2.7	217.0	硬質泥岩	白倉B区38-54G	完形
33	11.2	6.0	1.8	125.0	硬質泥岩	白倉B区44号住	完形
34	12.1	6.8	2.0	155.0	粗粒安山岩	白倉B区27-54G	完形
35	13.0	6.8	3.0	299.0	砂岩	天引C区47-45G	完形 刃部に使用痕
36	16.6	6.8	3.7	428.0	硬質泥岩	白倉B区29号住	完形
37	(9.0)	6.2	2.7	190.0	硬質泥岩	白倉B区38-53G	基部欠損
38	8.4	5.2	2.0	123.0	珪質頁岩	白倉B区37-54G	完形
39	9.0	6.6	2.4	122.0	珪質頁岩	白倉B区7号溝	完形
40	9.0	5.5	1.1	58.0	硬質泥岩	白倉B区27-52G	完形 刃部と袂部に磨痕
41	10.1	5.6	0.9	62.0	雲母石英片岩	白倉B区27-53G	完形
42	8.4	8.5	2.2	179.0	硬質泥岩	白倉B区37-53G	完形
43	9.1	8.2	3.0	135.0	硬質泥岩	白倉B区17号住	完形
44	11.2	5.2	3.4	215.0	硬質泥岩	白倉B区56号住	完形 袂部に鋭打痕
45	10.1	6.3	1.3	92.0	珪質頁岩	白倉B区80号住	完形 刃部に使用痕
46	11.2	(7.2)	2.3	250.0	硬質泥岩	白倉B区30-32G	一部欠損 袂部を中心に磨痕
47	11.5	8.1	3.2	310.0	玄武武岩	白倉B区35-52G	完形 刃部を中心に磨痕
48	12.3	8.0	4.0	311.0	硬質泥岩	白倉B区54号住	完形
49	14.3	7.3	2.9	372.0	硬質泥岩	白倉B区29号住	完形
50	13.5	9.1	3.4	387.0	硬質泥岩	白倉C区58号住	完形 刃部と袂部に磨痕
51	11.6	8.6	4.5	400.0	硬質泥岩	白倉B区45号住	完形 刃部に使用痕
52	14.1	6.5	3.7	315.0	硬質泥岩	白倉B区10号住	完形
53	10.1	6.9	2.6	144.0	珪質頁岩	白倉B区45号住	完形
54	(7.6)	(5.1)	1.9	66.0	硬質泥岩	白倉B区33-39G	刃部欠損

使用痕や加工痕のある石器 (第354~359図, PL. 124・125)

(単位: cm, g)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	出 土 場 所	備 考
1	2.5	1.2	3.5	0.7	黒曜石	白倉B区38号住	完形
2	2.6	1.2	0.4	1.0	黒曜石	白倉A区33号住	完形
3	2.8	1.1	0.4	1.0	黒曜石	白倉A区表探	完形
4	1.1	2.2	0.3	0.5	黒曜石	白倉B区36-52G	完形
5	1.6	1.5	0.4	0.8	黒曜石	白倉B区54号住	完形
6	1.9	1.6	0.4	1.0	黒曜石	白倉A区表探	完形
7	1.6	2.1	0.5	1.6	黒曜石	白倉B区8号溝	完形
8	1.8	1.5	0.5	1.2	黒曜石	白倉C区39-74G	完形
9	1.8	2.0	0.4	1.2	黒曜石	白倉B区58号住	完形
10	1.4	2.3	0.8	2.5	黒曜石	白倉C区38-63G	完形
11	2.6	1.6	0.7	1.7	黒曜石	白倉C区12号住	完形
12	2.4	2.0	0.8	2.9	黒曜石	白倉A区	完形
13	1.7	2.7	0.6	2.2	黒曜石	白倉B区38-53G	完形
14	2.0	2.3	0.5	2.1	黒曜石	白倉B区30-32G	完形
15	2.1	2.4	1.0	3.0	黒曜石	白倉B区29-34G	完形
16	2.2	2.1	0.5	1.9	黒曜石	白倉C区9号住	完形
17	2.4	1.8	0.9	2.1	黒曜石	白倉B区31号住	完形
18	1.9	2.6	0.5	1.4	黒曜石	白倉B区13号住	完形
19	3.5	1.6	0.8	3.2	黒曜石	白倉A区29-14G	完形
20	1.7	2.8	0.6	2.9	黒曜石	白倉C区36号住	完形
21	2.6	3.2	0.8	4.8	黒曜石	白倉B区28-54G	完形
22	3.2	2.9	0.7	4.5	黒曜石	白倉B区28-36G	完形 スクレイパーか
23	3.2	2.4	0.7	4.7	黒色安山岩	白倉B区88号住	完形 #
24	4.1	3.4	0.8	13.0	黒色安山岩	白倉B区51号住	完形 #
25	3.1	6.1	1.2	19.0	珪質凝灰岩	白倉B区38-57G	完形 #
26	2.7	6.5	0.5	9.0	黒色頁岩	白倉B区34-57G	完形 #
27	3.2	5.1	1.0	14.0	硬質泥岩	白倉B区36-57G	完形 #

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	出土場所	備	考
28	5.4	5.2	1.0	22.0	硬質泥岩	白倉C区10号住	完形	スクレイパーか
29	5.7	4.0	1.2	19.0	硬質泥岩	白倉B区36-56G	完形	#
30	5.2	5.9	1.0	32.0	硬質泥岩	白倉B区36-56G	完形	#
31	4.2	5.5	0.9	24.0	珪質頁岩	白倉B区31-38G	完形	#
32	3.7	7.0	1.1	25.0	硬質泥岩	白倉B区30-36G	完形	#
33	3.3	6.5	8.0	15.0	珪質頁岩	白倉B区10号住	完形	#
34	5.7	6.2	1.0	41.0	硬質泥岩	白倉B区33-56G	完形	#
35	4.4	6.4	1.6	55.0	硬質泥岩	天引B区39-58G	完形	#
36	5.6	5.3	0.9	30.0	硬質泥岩	白倉C区表様	完形	#
37	5.3	6.4	1.5	53.0	硬質泥岩	白倉C区19号住	完形	#
38	5.6	6.6	2.2	55.0	硬質泥岩	白倉C区16号住	完形	#
39	6.4	6.3	1.8	54.0	硬質泥岩	白倉B区36-57G	完形	#
40	7.3	7.2	1.3	75.0	硬質泥岩	白倉B区30-44G	完形	#
41	6.3	8.0	2.4	89.0	硬質泥岩	白倉B区36-56G	完形	#
42	8.4	7.9	1.8	70.0	硬質泥岩	白倉B区35-57G	完形	#
43	5.7	9.3	1.2	70.0	硬質泥岩	白倉C区66号住	完形	#
44	6.8	8.3	1.1	70.0	硬質泥岩	天引A区21-12G	完形	#
45	7.0	8.3	2.4	171.0	硬質泥岩	白倉C区46号住	完形	#
46	5.1	9.1	2.8	117.0	硬質泥岩	白倉C区18号住	完形	#
47	7.5	10.4	1.6	130.0	黒色火山岩	白倉B区27-51G	完形	#
48	6.6	9.5	1.5	86.0	硬質泥岩	白倉C区60号住	完形	#
49	9.5	6.7	2.0	78.0	珪質頁岩	白倉C区18号住	完形	#
50	9.3	5.0	2.5	96.0	硬質泥岩	白倉C区46号住	完形	#
51	9.3	5.3	2.7	141.0	硬質泥岩	白倉C区88号住	完形	#
52	10.7	6.0	2.1	155.0	硬質泥岩	白倉C区28号住	完形	#
53	9.7	7.4	3.2	192.0	硬質泥岩	白倉C区62号住	完形	#
54	9.8	7.1	1.5	80.0	硬質泥岩	白倉B区17号住	完形	#
55	8.5	10.8	1.9	106.0	緑色片岩	白倉B区54号住	完形	#
56	10.0	11.4	2.0	222.0	硬質泥岩	白倉C区60号住	完形	#
57	7.7	8.9	2.1	165.0	硬質泥岩	天引A区22-15G	完形	#
58	14.5	7.6	2.2	354.0	黒色片岩	白倉C区77号住	完形	割縁に敲打痕
59	16.2	9.1	5.1	602.0	硬質泥岩	白倉C区13号住	完形	一部に割痕

珠状耳飾 (第360図、PL 126)

(単位: cm, g)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	出土場所	備	考
1	2.7	1.7	0.5	3.5	磨ろう石?	白倉C区50号住	写残存	

特殊石器 (第361図、PL 126)

(単位: cm, g)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	出土場所	備	考
1	6.1	2.9	0.9	17.6	泥岩	白倉B区38-54G	完形	ミニチュアの石槌か
2	6.4	0.9	0.8	5.0	緑色片岩	白倉B区179号土坑	完形	ミニチュアの石棒か
3	5.6	1.0	1.0	8.2	緑色片岩	白倉B区10号住	完形	ミニチュアの石棒か
4	4.2	0.5	0.5	2.0	磨石又は磨ろう石	白倉B区25-41G	完形	ミニチュアの石棒か
5	3.2	1.1	1.0	3.1	牛伏砂岩	白倉B区32号住	完形	ミニチュアの石棒か
6	<2.4>	<3.4>	0.9	8.1	蛇紋岩	天引C区64号住	破片	

石 鏝 (第362~365図、PL 126・127)

(単位: cm, g)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	出土場所	備	考
1	5.6	3.1	1.1	25.0	珪質頁岩	白倉B区29号住	完形	
2	4.0	4.0	1.9	49.0	砂岩	白倉B区36-52G	完形	
3	6.4	4.2	1.4	56.0	変質火山岩	白倉B区30号住	完形	
4	8.2	3.9	1.2	67.0	緑色片岩	白倉B区38-53G	完形	(未製品)
5	6.5	4.6	1.2	55.0	緑色片岩	白倉B区14号住	未製品か	
6	5.2	<3.2>	0.7	20.0	緑色片岩	白倉B区14号住	写残存	
7	4.0	3.0	1.3	23.0	黒色片岩	白倉B区54号住	完形	
8	4.5	3.0	1.1	21.0	緑色片岩	天引C区表様	完形	
9	5.3	3.0	1.5	38.0	変質頁岩	白倉B区57号住	一部欠損	
10	5.1	3.5	1.3	30.0	砂岩	白倉B区54号住	完形	

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	出土場所	備考
11	5.6	3.3	1.4	34.0	緑色片岩	白倉B区表土	完形
12	5.4	4.0	1.8	45.0	硬質泥岩	白倉B区20号住	一部欠損
13	5.4	3.3	1.6	35.0	緑色片岩	白倉B区22号住	完形
14	6.4	3.7	1.2	50.0	黒色片岩	白倉A区76号土坑	完形
15	6.7	3.2	0.9	37.0	砂岩	白倉B区58号住	一部欠損
16	7.1	3.3	1.3	48.0	安山岩質凝灰岩	白倉B区45号住	完形
17	7.6	3.4	1.3	47.0	滑石片岩	白倉B区33-35G	完形
18	6.7	4.9	1.5	61.0	粗粒安山岩	白倉B区4号溝	完形
19	5.7	4.1	1.2	48.0	緑色片岩	白倉B区21号住	完形
20	(8.7)	(3.6)	1.5	46.0	緑色片岩	白倉B区225号土坑	約1/2欠損
21	2.8	2.3	0.8	8.0	珪質頁岩	白倉B区17号住	完形
22	3.0	2.7	1.2	12.0	硬質泥岩?	白倉B区58号住	完形
23	3.5	2.2	0.8	10.0	灰玄武岩	白倉B区50号住	一部欠損
24	4.2	2.4	1.2	17.0	緑色片岩	白倉B区36-36G	完形
25	3.6	2.8	1.0	17.0	緑色片岩	白倉B区18号住	完形
26	4.6	2.5	1.0	23.0	緑色片岩	白倉B区12号住	完形
27	4.3	1.9	1.0	15.0	緑色片岩	白倉B区28-40G	完形
28	4.5	3.2	0.7	17.0	緑色片岩	白倉B区30号住	一部欠損
29	<2.1>	2.7	1.0	8.0	硬質泥岩	白倉B区58号住	約1/2欠損
30	3.3	3.5	2.0	28.0	粗粒安山岩	白倉B区7号溝	完形
31	5.1	2.6	1.4	26.1	緑色片岩	白倉B区30号住	一部欠損
32	4.8	2.4	0.8	11.0	緑色片岩	白倉B区58号住	約1/2欠損
33	4.7	3.8	1.1	37.0	緑色片岩	白倉B区54号住	完形
34	5.9	2.5	1.3	26.0	緑色片岩	白倉B区30号住	完形
35	5.2	3.4	1.3	45.0	緑色片岩	白倉B区30-40G	完形
36	6.6	3.6	1.7	40.0	灰玄武岩	白倉B区18号住	完形
37	<5.9>	3.3	1.2	40.0	緑色片岩	白倉B区35-35G	約1/2欠損

磨製石斧 (第366~370図、PL 127-128)

(単位: cm, g)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	出土場所	備考
1	3.5	1.1	0.6	5.0	灰玄武岩	白倉B区238号土坑	完形 製作時の磨痕
2	4.3	1.2	0.7	8.0	蛇紋岩	白倉C区48号住	完形 製作時の磨痕
3	(2.2)	1.3	0.4	2.0	変質蛇紋岩	白倉B区溝	刃部と基部を欠損する。
4	4.6	2.6	0.9	22.0	変質蛇紋岩	白倉C区22号土坑	完形
5	4.9	2.3	0.9	12.0	変質蛇紋岩	白倉B区表層	完形
6	5.3	2.7	1.2	25.0	灰玄武岩	白倉A区76号土坑	完形
7	6.0	2.8	1.1	24.0	変質蛇紋岩	白倉C区4号住	完形
8	(2.6)	(2.7)	1.9	12.0	灰玄武岩	白倉B区10号住	刃部欠損 一部に製作時の敲打痕
9	6.1	3.1	1.4	47.0	灰玄武岩	白倉B区57号住	完形
10	6.2	4.1	2.8	118.0	硬質泥岩	白倉B区7号溝	完形 刃部を除き全面に敲打痕
11	(5.6)	3.1	2.8	74.0	変はんれい岩	白倉B区38-54G	刃部欠損
12	4.8	4.0	2.2	75.0	はんれい岩	白倉B区30-36G	完形
13	(6.0)	(3.5)	2.3	56.0	珪質頁岩	白倉B区83号住	刃部欠損 一部に製作時の磨痕と敲打痕
14	(5.5)	(3.1)	3.0	69.0	はんれい岩	白倉B区30-36G	刃部と基部を欠損
15	(5.4)	(4.8)	2.6	74.0	はんれい岩	白倉B区95号住	刃部欠損
16	(5.8)	(4.2)	3.0	138.0	灰玄武岩	天引C区表層	刃部欠損 全面に敲打痕
17	6.9	4.3	2.8	135.0	灰玄武岩	白倉B区1号土坑	完形 基部に欠損後、敲打痕
18	5.2	4.3	1.7	83.0	珪質頁岩	白倉A区29-15G	完形 欠損後に再調整
19	(7.2)	5.0	(4.3)	234.0	変質緑岩	白倉B区28-36G	刃部欠損 製作時の磨痕と敲打痕
20	(7.5)	5.3	2.7	232.0	変質緑岩	白倉B区27-52G	基部欠損 製作途中に欠損か
21	(4.9)	(6.6)	3.8	181.0	はんれい岩	白倉B区30-36G	刃部欠損 一部に製作時の敲打痕
22	7.7	5.0	2.3	162.0	灰玄武岩	白倉B区29号住	完形 未製品か
23	(6.7)	5.4	1.7	115.0	変質緑岩	白倉A区1号溝	刃部と基部を欠損
24	(8.4)	5.0	2.7	177.0	変質緑岩	白倉B区50号土坑	基部欠損 製作途中に欠損か
25	7.6	5.4	2.1	134.0	硬質泥岩	白倉B区37-59G	完形 未製品か
26	(8.0)	4.4	2.9	153.0	灰玄武岩	白倉C区38-62G	刃部欠損 基部に製作時の敲打痕
27	(8.7)	(5.1)	3.0	208.0	灰玄武岩	白倉B区29-51G	刃部欠損 部分的に製作時の敲打痕
28	9.4	5.0	2.7	202.0	灰玄武岩	白倉B区34-57G	完形 基部欠損後、再調整
29	8.8	6.3	2.0	190.0	変質緑岩	白倉B区61号住	刃部 欠損後、再調整か
30	(8.5)	(4.6)	2.9	182.0	粗粒安山岩	白倉B区7号溝	刃部欠損

III 縄文時代の遺構と遺物

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	出土場所	備	考
31	9.9	4.6	2.6	162.0	変玄武岩	白倉C区62号住	完形	欠損後に再調整
32	(8.4)	5.7	3.5	290.0	変輝緑岩	白倉A区20号住	基部欠損	
33	10.7	4.9	3.1	172.0	変玄武岩	白倉C区38号住	完形	欠損後に再調整
34	10.6	4.5	3.3	261.0	変玄武岩	白倉C区39-77G	完形	一部に製作時の敲打痕
35	(11.2)	(5.2)	2.3	182.0	緑色片岩	白倉C区表探	方部欠損	一部に製作時の擦痕
36	(9.4)	(6.1)	3.9	313.0	変玄武岩	白倉C区西取り付け	方部欠損	
37	(10.5)	(2.7)	2.7	97.0	変玄武岩	白倉B区25-30G	方部と基部を欠損	製作時の擦痕
38	(10.8)	4.6	2.9	199.0	変玄武岩	白倉C区62号住	方部欠損	
39	(10.2)	5.0	3.7	304.0	変玄武岩	白倉C区5号住	方部と基部を欠損	製作時の擦痕
40	(9.7)	7.6	4.6	471.0	変玄武岩	白倉B区5号溝	基部欠損	未製品か
41	(9.0)	7.5	3.4	449.0	変輝緑岩	白倉B区19号住	方部と基部を欠損	未製品か
42	(12.7)	6.5	4.2	371.0	はんれい岩	白倉B区49号住	方部欠損	一部に製作時の敲打痕
43	(10.4)	(6.5)	5.0	627.0	変玄武岩	白倉B区59号住	方部欠損	未製品か
44	(10.9)	(1.9)	1.6	43.0	緑色片岩	白倉B区1区	方部と基部を欠損	製作時の擦痕
45	(11.3)	6.2	2.8	350.0	ひん岩	白倉B区27-53G	基部欠損	裏面割離痕
46	(13.7)	5.0	2.9	266.0	緑色片岩	白倉B区34-56G	方部欠損	製作時の敲打痕と擦痕
47	(14.8)	5.5	2.1	217.0	変玄武岩	白倉C区36-61G	基部欠損	
48	15.7	4.7	2.3	265.0	変玄武岩	白倉C区18号住	完形	製作時の敲打痕と擦痕
49	(14.9)	(6.3)	4.3	665.0	変輝緑岩	白倉C区44-73G	方部欠損	欠損後に磨石として使用か

磨石・凹み石 (第371～375区、PL. 129-130)

(単位: cm, g)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石材	出土場所	備	考
1	5.7	3.9	3.4	80.0	デイスait	白倉B区33-57G	完形	二次的に被熱
2	5.7	4.6	3.0	90.0	粗粒安山岩	白倉B区38-52G	完形	
3	6.6	4.6	3.9	170.0	粗粒安山岩	天引C区45-46G	完形	
4	8.0	4.5	4.2	240.0	粗粒安山岩	白倉C区35-60G	完形	
5	6.9	6.5	6.0	388.0	粗粒安山岩	白倉C区44-72G	完形	
6	10.0	7.1	4.0	400.0	粗粒安山岩	白倉B区35-30G	完形	
7	9.1	6.8	2.8	235.0	黒色片岩	白倉C区58号住	完形	
8	9.1	7.1	3.6	365.0	粗粒安山岩	白倉B区27-53G	完形	
9	8.7	7.5	4.1	312.0	粗粒安山岩	白倉B区53号土坑	完形	
10	10.4	6.4	4.1	405.0	緑色片岩	白倉B区33-56G	完形	
11	8.7	7.8	6.3	545.0	粗粒安山岩	白倉B区55号住	完形	
12	9.4	7.5	4.5	485.0	粗粒安山岩	白倉B区35-57G	完形	
13	9.1	7.3	5.1	468.0	粗粒安山岩	白倉B区36-57G	完形	二次的に被熱
14	10.0	7.5	5.1	540.0	粗粒安山岩	白倉B区38-53G	完形	二次的に被熱
15	10.9	6.9	3.1	366.0	牛伏砂岩	白倉B区32-57G	完形	
16	9.0	7.7	3.8	465.0	粗粒安山岩	白倉C区35-60G	完形	二次的に被熱
17	9.9	8.4	5.2	708.0	粗粒安山岩	白倉C区33号住	完形	
18	(12.2)	6.6	3.8	373.3	砂岩	白倉B区36-56G	一部欠損	
19	12.2	6.9	4.8	618.0	粗粒安山岩	白倉C区44-72G	完形	
20	10.8	8.3	2.8	343.0	粗粒安山岩	白倉C区63号住	一部欠損	
21	(8.7)	7.4	4.3	270.0	変質安山岩	白倉C区44-72G	一部欠損	二次的に被熱
22	10.0	8.8	5.3	719.0	粗粒安山岩	白倉B区30号住	完形	
23	10.6	9.5	6.3	890.0	粗粒安山岩	白倉C区44-73G	完形	
24	12.6	7.4	3.5	511.0	粗粒安山岩	白倉B区56号住	完形	
25	(5.6)	(7.9)	6.6	379.0	変質安山岩	白倉B区38-53G	一部欠損	
26	(7.5)	7.7	5.3	420.0	粗粒安山岩	白倉B区33-57G	一部欠損	
27	(6.5)	8.8	3.8	360.0	粗粒安山岩	白倉B区31-37G	一部欠損	二次的に被熱
28	(12.8)	8.7	3.2	438.0	デイスait	白倉B区37-46G	一部欠損	
29	9.3	8.8	4.3	485.0	粗粒安山岩	白倉B区33-57G	完形	
30	12.1	9.0	3.7	950.0	粗粒安山岩	白倉C区35-75G	完形	
31	(9.4)	8.8	5.6	645.0	粗粒安山岩	白倉B区32号住	一部欠損	
32	10.9	9.4	6.5	820.0	粗粒安山岩	白倉B区53号土坑	完形	二次的に被熱
33	13.3	9.1	3.2	659.0	粗粒安山岩	白倉C区48号住	完形	二次的に被熱
34	(15.4)	8.5	3.9	950.0	粗粒安山岩	白倉C区44-72G	一部欠損	
35	(6.2)	5.6	3.4	150.0	デイスait	白倉B区23号住	一部欠損	

多 孔 石 (第376~382図、PL 130~133)

(単位: cm, g)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	出 土 場 所	備 考
1	7.9	7.7	3.0	171.0	牛伏砂岩	白倉B区28-40G	完形
2	8.7	8.3	2.8	192.0	牛伏砂岩	白倉B区27-51G	完形
3	<11.1>	6.6	4.1	322.0	雲母石英片岩	白倉B区38-55G	一部欠損
4	9.5	8.1	3.6	442.0	黒色片岩	白倉B区31-38G	完形
5	<7.9>	7.1	4.7	297.0	牛伏砂岩	白倉B区58号住	一部欠損
6	<9.5>	<6.1>	3.7	200.0	牛伏砂岩	白倉B区35-57G	一部欠損
7	<11.5>	13.3	2.6	240.0	牛伏砂岩	白倉C区44-72G	一部欠損
8	13.2	4.8	3.8	457.0	黒色片岩	白倉B区39-56G	完形
9	<13.2>	6.6	3.4	505.0	緑色片岩	白倉B区38-51G	一部欠損
10	14.1	3.7	3.6	319.0	緑色片岩	白倉B区28-32G	完形
11	13.6	4.4	3.1	225.0	牛伏砂岩	白倉B区39号住	完形
12	<10.5>	<7.6>	3.0	390.0	緑色片岩	白倉B区38-54G	一部欠損
13	12.2	7.7	3.0	340.0	砂岩	白倉B区23-31G	完形
14	12.6	7.4	4.6	427.0	牛伏砂岩	白倉C区134号土坑	完形
15	12.5	<6.9>	5.5	380.0	牛伏砂岩	白倉B区29-35G	一部欠損
16	13.1	7.5	4.2	553.0	黒色片岩	白倉B区36-57G	完形
17	10.4	<6.3>	4.5	265.0	牛伏砂岩	白倉B区37-44G	一部欠損
18	<12.8>	8.2	7.6	705.0	牛伏砂岩	白倉C区33号住	一部欠損
19	15.7	6.5	3.5	580.0	雲母石英片岩	白倉B区33-57G	完形
20	<11.6>	<8.4>	5.1	520.0	牛伏砂岩	白倉B区36-57G	一部欠損
21	12.6	7.5	4.5	615.0	雲母石英片岩	白倉B区37-57G	完形
22	10.6	7.7	3.8	300.0	牛伏砂岩	白倉B区34-56G	完形
23	11.3	8.5	7.2	565.0	牛伏砂岩	白倉B区37-52G	完形
24	<22.6>	<7.7>	4.5	490.0	牛伏砂岩	白倉B区34-54G	一部欠損
25	<10.8>	<7.7>	2.3	205.0	牛伏砂岩	白倉C区42-72G	一部欠損
26	<10.5>	<10.2>	3.6	905.0	牛伏砂岩	白倉B区28-35G	一部欠損
27	11.5	14.3	6.2	632.0	牛伏砂岩	白倉B区272号土坑	完形
28	12.0	<8.5>	2.6	329.0	牛伏砂岩	白倉B区27-52G	一部欠損
29	<12.2>	12.1	2.9	615.0	牛伏砂岩	白倉C区88号住	一部欠損
30	17.4	<8.1>	3.7	535.0	黒色片岩	白倉B区33-57G	一部欠損
31	17.6	<6.5>	2.2	380.0	緑色片岩	白倉C区62号住	一部欠損
32	13.8	11.7	3.9	760.0	牛伏砂岩	白倉C区12号住	完形
33	11.7	12.3	6.2	900.0	牛伏砂岩	白倉C区49号住	完形
34	<10.2>	<10.9>	6.1	1280.0	黒色片岩	白倉B区34-55G	一部欠損
35	15.6	10.3	4.6	1905.0	黒色片岩	白倉B区28-34G	一部欠損
36	15.5	7.5	7.0	930.0	牛伏砂岩	白倉B区39-56G	完形
37	<15.9>	<9.2>	7.6	1250.0	牛伏砂岩	白倉B区280号土坑	一部欠損
38	19.7	9.9	7.3	1500.0	牛伏砂岩	白倉B区238号土坑	完形
39	14.7	<15.4>	8.7	2750.0	黒色片岩	白倉C区222号土坑	一部欠損
40	<14.9>	<10.9>	6.5	950.0	牛伏砂岩	白倉B区35-52G	一部欠損
41	14.4	<11.9>	5.9	1700.0	黒色安山岩■	白倉B区27-53G	一部欠損 ■(多壊品)
42	<14.5>	<12.8>	5.1	1100.0	牛伏砂岩	白倉B区35-52G	一部欠損
43	<16.4>	<15.4>	4.3	1100.0	緑色片岩	白倉B区37-52G	一部欠損
44	<19.0>	9.7	4.6	1450.0	緑色片岩	白倉B区39号住	一部欠損
45	16.5	10.3	6.3	1050.0	牛伏砂岩	白倉B区25-38G	破片
46	<16.4>	11.5	4.7	1300.0	緑色片岩	白倉B区34-33G	一部欠損
47	22.1	8.0	5.8	1500.0	緑色片岩	白倉C区42-66G	一部欠損
48	16.9	14.0	6.2	1700.0	牛伏砂岩	白倉B区31-38G	破片
49	20.3	<18.4>	6.8	3400.0	雲母石英片岩	白倉C区33-71G	一部欠損
50	31.6	7.9	8.0	2850.0	黒色片岩	白倉B区38-57G	一部欠損
51	<22.1>	4.8	3.6	660.0	黒色片岩	白倉B区29-44G	一部欠損

石 皿 (第383図、PL 133)

(単位: cm, g)

番号	長さ	幅	厚さ	重さ	石 材	出 土 場 所	備 考
1	30.5	26.7	6.8	10200.0	緑色片岩	白倉C区48号住	完形
2	40.0	<16.5>	6.0	5310.0	緑色片岩	白倉C区18号住	一部欠損
3	<19.4>	<15.6>	5.9	1680.0	牛伏砂岩	白倉B区32-57G	破片
4	<21.1>	<11.9>	12.5	2620.0	牛伏砂岩	白倉B区37号住	破片

IV 成果と問題点

1 遺構間の接合について

はじめに

本報告書の整理作業においては、遺物の接合を、まず個別遺構ごとに行った。遺物の接合は個別遺構だけで収束するわけではなく、それは、例えば今回の整理作業において、土器の接合を終了した段階で、完形土器が1点もなかったという事実が端的にあらわしている。一つの遺構内に同一個体の遺物がなかったとすれば、自明のことではあるが欠損部分はどこかに存在していたはずで、後世の土地利用などによって消滅した可能性もあるし、周辺のグリッドや他の遺構、もしくは除去した表土の中、あるいは調査区外かも知れない。

近年の報告事例によっても、縄文時代に限らず発掘調査の対象となる全ての時代において、遺物の接合が個々の遺構内で収束せず、同一個体の遺物が発掘調査区内において広範に分布することが明らかになっている。この、接合関係からは、土地利用に関する直接・間接的な情報を得ることができ、その成果も公表されている。その前提として、発掘調査時において遺物の点を取る作業が必要となろうし、整理作業の接合時に、より多くの接合事例を得ようとするためには、個別遺構内から出土した遺物を事前に分類し、分けられたものを接合してゆく方法がおそらくは最善であろう。しかしながら、限られた期間の中では残念ながら調査時における遺物の点取りや、接合作業前の分類は満足に行えないのが実態で本報告書も例外ではない。

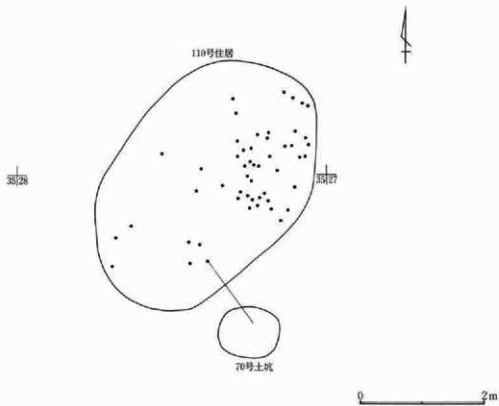
このような制約から、本報告書では調査時に同じ型式の土器が大半を占める竪穴住居址について、住居間の遺物接合を行った。同土器型式期のみの住居間接合を行った理由として、条件にも左右されようが、土器型式で同時期と判断される複数の住居にお

いて接合関係が生じた場合、時間的な先後関係や同時に存在した可能性が想定できると考えたからである。土坑出土土器についても同様の手法で遺構間接合を行おうと思ったのであるが、土坑については調査時に出土土器型式を記録していなかった。そこで、住居間遺物接合後、土坑出土遺物接合時に並行して遺構間接合を行った。その結果、土器型式で同時期と判断される遺構間において、僅か18例ではあったが接合関係や同一個体の土器を確認できた。

また、縄文時代の遺構を切る弥生時代以降の遺構出土縄文土器についても接合を行い多数の接合関係を認めることができた。この場合は、縄文時代の遺構が後世の土地利用によって破壊されることによって生じる現象であろうことから集成は行なわなかったが、図化遺物については観察表に接合事実を記載してあるので参照して欲しい。この中には、住居中央部に出土する縄文土器が住居縁辺を破壊する古墳時代の住居出土縄文土器と接合する事例(第12図白倉A区21号住居6)などがある。この場合、住居の中心に廃棄されたと考えられた土器の同一個体が、住居縁辺にも存在した可能性を示すもので、住居内において広がりをもって廃棄されていたことを想定させる事例で興味深い。

前置きが長くなってしまったが、以下の部分では先に述べた18の事例について個別に検討を加えてみたい。なお、住居間で接合した土器の実測図は、大形の破片が出土した住居出土遺物に掲載することを原則とし、住居と土坑の間で接合した土器実測図は住居出土遺物に掲載したが、あくまでも便宜的な措置である。

1 遺構間の接合について



第384図 白倉A区110号住居と70号土坑の遺物接合

IV 成果と問題点

白倉A区110号住居と70号土坑 (第384図)

110号住居(竪穴状遺構) 1 (●) とした土器が、2つの遺構から出土した。110号住居出土分は53点で70号土坑分は3点であり、この2つの遺構は45cmしか離れていない。2つの遺構覆土は大変似通っており、人為的な埋土の可能性が高く、土坑内の出土位置は不明だが竪穴状遺構出土の53点は層位を越えて出土していることから土坑内においてもそのような出土状況が想定できるのかも知れない。両者の遺構からは、出土位置不明の他時期(110号住居1とは異なる時期)⁽⁵⁾の土器が僅かに出土していることから、他時期の土器が遺構廃絶時期に拘わる可能性も否定はできないが、他時期の土器が2つの遺構では共通していないことと、これらの土器が量的に少ないことを考え合わせると二次的な混入と考えてもよいのではなからうか。このように考えていくと、2つの遺構が同時に存在し、さらに開口している時に、土器(110号住居1)と土が一括して廃棄された状況が想定できるのではなからうか。また、110号住居を竪穴状遺構として竪穴住居に次ぐ上屋を持つ居住施設の可能性を考えていたが、70号土坑と同時に存在していたとすれば2つの遺構間距離が45cmと近接することから、110号住居が上屋施設をもつ可能性は弱く、なんらかの土坑(施設)と考えたほうがよさそうである。

白倉B区43号住居と71号住居 (第385図)

この2つの遺構間では、同一個体土器の存在が4例確認できた。

71号住居2(■)は、43号住居からの4点と71号住居からの14点が接合した個体である。43号住居内の4点は床面直上～18cmのレベル(床面から)で、71号住居内の14点は8～33cmのレベルでその内20cm以上のレベルが10点を占めている。

71号住居4(□)は、43号住居内の出土位置は不明であるが、71号住居内出土の1点は、床面から15cmのレベルであった。

71号住居19(●)は、43号住居の1点と71号住居の

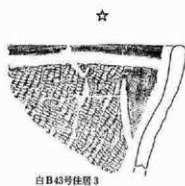
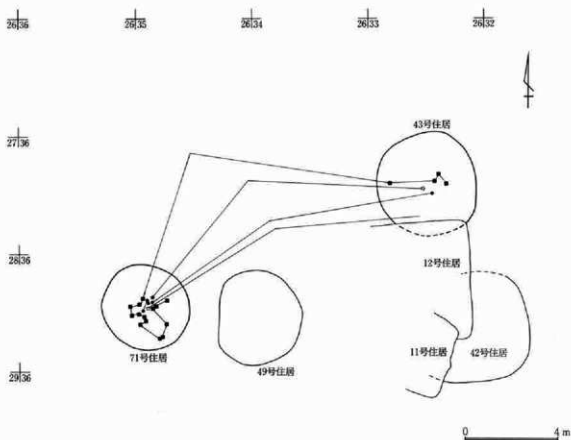
4点が接合した個体である。43号住居の1点は床面直上で、71号住居の4点はいずれも15cm以上のレベルであった。

43号住居3(☆)と71号住居8(★)は、各住居から1点ずつ出土した同一個体の深鉢である。43号住居内での出土レベルは床面直上で、71号住居内での出土レベルは床面から22cmであった。

以上、主に住居内の出土レベルを中心にして述べてみたが、4例の土器は、43号住居の出土レベルが低い傾向にあるのに対して71号住居出土のレベルが高い傾向にある。ここで、2つの住居における全体的な出土遺物の傾向をみてみると、43号住居の場合、大半の出土遺物は、住居中央部においては床面直上～上位の土層にかけて出土し、住居内縁辺部では床面直上10cm以上に分布するようである(第55図)。状況として、住居廃絶後、住居内部の縁辺が埋没し、住居中央部はまだ埋没土が形成されていない段階で遺物が大量に(結果的に)廃棄されていったと考えられるだろう。一方、71号住居の場合は、住居中央部では5cm程度、住居内縁辺部では15cm程度土器があまり出土せず、そこよりも上位の土層から多量に出土している(第61図)。つまり、住居廃絶後に住居中央部に薄く埋没土が形成された段階で多くの遺物が廃棄され始めたと考えられる。

両住居間で遺物が接合し、そのレベルが相対的に71号住居出土のほうが僅かに高いという事実は、両住居間に多量に出土する遺物が、ほぼ同じ時期に廃棄され始め、その時点において43号住居と71号住居の埋没状況は、71号住居のほうが埋没土の形成が進んでいたことを示しているといえよう。よって、両住居の廃絶は、埋没土の形成から判断される時間差が存在した可能性が高く、71号住居の廃絶が相対的に43号住居よりも早かったのではなからうか。71号住居の廃絶後、43号住居が廃絶するまでの期間は、住居中央部に埋没土が及ぶかどうかという差なのであるが、どの程度の期間が空いているかは不明としかいわざるえない。あくまでも、廃絶の先後関係が想定されたに過ぎないのだが、2軒の住居が同時に

1 遺構間の接合について



第385図 白倉B区43号・71号住居間の遺物接合

IV 成果と問題点

存在した可能性も含め、71号住居→43号住居の変遷を想定しておきたい。

また、住居間で接合する同一土器の点数を両住居で比べると71号住居の方が多いのであるが、住居の残存壁高が43号住居は12cmで71号住居では30cmであることから、遺構の残存状況に反映された結果なのかも知れない。

以上43号住居と71号住居間の同一個体事例について述べてきたが、ここで近接する加曾利E 3式期の住居も含めて考えてみたい。

第385図は、接合関係にある43号住居と71号住居以外に近接する住居を加えたものである。11号住居と12号住居は古墳時代後期以降の竪穴住居址であるが、42号住居と49号住居は加曾利E 3式期の住居である。この4軒(42号・43号・49号・71号住居)から出土する加曾利E 3式土器は、加曾利E 3式を古・中・新と3段階に区分した場合(桜岡・藤巻1992)、すべて新段階に位置付けられる。

この場所は、土器型式から判断すると4軒の加曾利E 3(新)式期の住居が密集していたといえるのであるが、興味深いことに接合関係が確認できたのは、4軒のなかで近接する住居ではなく、比較的離れた43号住居と71号住居との間であった。43号住居と71号住居の土器が接合したのは、おそらく接合関係にある土器が廃棄された時点で、前述したように2つの竪穴住居址が埋没初期の段階にある窪地であったからにほかならない。もし仮に49号住居や42号住居に対して、43号住居や71号住居に行われた一連の廃棄行為が行われていたならば、4軒の間で広範な接合関係が確認できたのではなかろうか。それが認められないのだから、43号住居と71号住居が廃絶後に窪地となり接合関係にある土器が廃棄された時点では、42号住居と49号住居は同様な窪地ではなかった可能性が強いのではなかろうか。この場合、①42号住居と49号住居が既に廃絶し住居址の埋没がかなり進んだ状況と②42号住居と49号住居において居住の有無は別としても上屋が存在していた状況、さらに③42号住居と49号住居がまだ構築されていない

状況、の3つが想定できよう。いずれにしても43号住居と71号住居の2軒と42号住居と49号住居は同時に存在していた可能性は弱いことが想定できるのではなかろうか。

また、42号住居と49号住居が同時に存在したかについては不明であるが、住居の距離が近接することや炉の形状が全く異なることを考え合わせると同時に存在していなかったのではなかろうか。

以上のことから、土器型式では同時期と判断される4軒の住居が、一時期1～2軒であった可能性が強いことが想定されると思う。

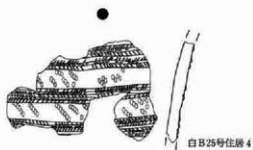
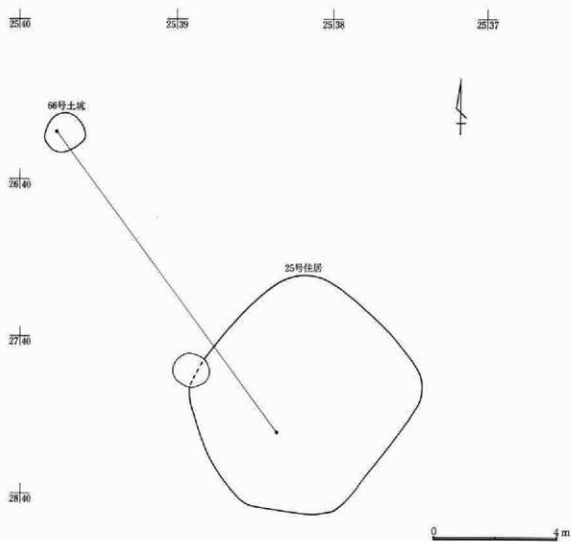
白倉B区25号住居と66号土坑(第386図)

25号住居出土の1点と66号土坑出土の1点が接合した事例で(25号住居4●)、両遺構の距離は約7.5mある。

25号住居は諸磯b(新)式期の遺構であるが、66号土坑は、諸磯b(新)式2点以外に称名寺I式2点と土師器1点が出土しており、さらには土坑内において土器が型式に対応するように層位的に出土している状況が見いだせないことなどから廃絶時期が明瞭ではない。25号住居出土の1点は、住居中央部に近い場所の覆土層から出土しており、住居埋没の比較的早い段階で破棄されたと思われるが、66号土坑出土の1点は、住居廃絶時期よりかなり新しい段階の土器が出土していることなどから二次的な混入の可能性も考えねばならぬだろう。

住居出土の土器が、自然営力の可能性も含め住居以外の離れた場所にも廃棄されていた状況を想定したい。

I 遺構間の接合について



第386図 白倉B区25号住居と66号土坑の遺物接合

IV 成果と問題点

白倉C区85号住居と185・233号土坑 (第387図)

85号住居と185号土坑との間で1例確認でき、85号住居と233号土坑との間で3例の接合関係が確認できた。185号土坑は住居の南東約2mに位置する土坑で、233号土坑は住居中央部から僅かに北東の位置で住居内部で住居を切る状態で検出された土坑である。

まず、住居と重複関係にある233号土坑と住居との接合関係についてみていこう (第109・287図)。

85号住居2 (●) は、住居の床上5cmのレベルで土坑から約1.7m南側の地点で出土した1点と、土坑底面近くから出土した3点が接合している。

85号住居3 (★) は、住居の床上5cmのレベルで土坑から約20cm離れた地点で出土した1点と、土坑中央部で底面から25cm上の地点で出土した1点が接合している。実際には接合する2点の土器は、28cmしか離れておらず絶対標高値も殆ど変わらない。

85号住居9 (△) は、住居内での出土位置が不明な1点と、土坑底面から17cm上の地点で出土した1点が接合している。

以上、233号土坑と85号住居間で接合した3例について出土位置を中心に述べてみたが、どのような状況が想定されるのであろうか。再度2つの遺構の事実記載の中で関連すると思われる部分を振り返ってみたい。

まず、85号住居であるが残存する最大壁高は10cmと低い。だが、遺物は遺構確認面よりも数cm高い位置からも出土しており実際にはもう少し高い壁であったであろうことと、遺構プランの確認前に遺物の集中から遺構の存在を想定したことが追認できる。出土土器は514点と多く431点を一括して取り上げたために確実なことはいえないのだが、残されたデータからは床面直上の土器は極めて少なく床上6cm程度のレベルから上位に土器が多く出土しているようである (第108・109図)。

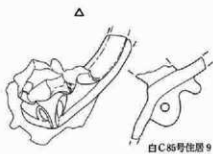
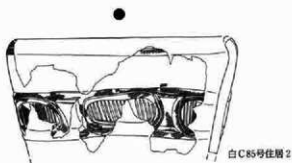
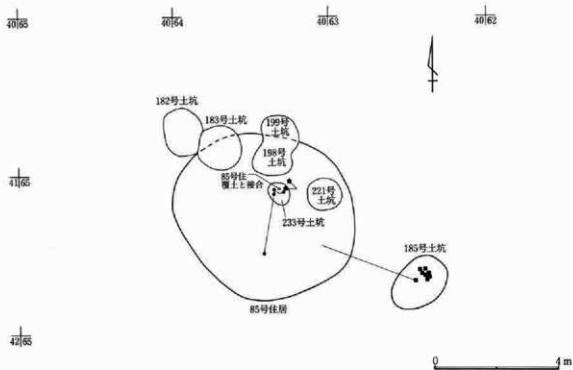
一方、233号土坑であるが、既に述べたように85号住居を切って構築されている。住居との新旧関係は、住居覆土を掘り下げていった段階で、ほぼ円形の遺

物集かが確認でき、そのレベルが住居床面からおよそ6cm上のレベルであったことから住居よりも新しいと判断された。また、土坑の底面は住居床面レベルよりも約20cm下から検出された。出土土器は勝板式終末期58点で、礫も含め土坑に充填するかのような出土状態で、まさにゴミ穴のような状況であった (第287図)。

以上、85号住居と233号土坑間接合事例を検討するために事実確認を行った。ここでは、土坑を確認できたのが住居覆土を掘り下げている段階であることと、土坑確認面のレベルが、住居内出土土器が多く見られる下位のレベルとほぼ一致することに注目したい。233号土坑の構築は85号住居が廃絶した後に、住居中央部の凹地に6cm程度覆土が形成された段階であることと、住居床面～床上6cm程度の部分では遺物がありみられないこと、2つの遺構に接合関係が見られることから考えると、土坑構築と土坑内への遺物廃棄と住居への遺物廃棄は一連の行動であるのかも知れない。また、接合関係にある土器が本来土坑に廃棄されたものだとすれば、土坑に遺物が廃棄された後、埋設途中の住居が擾乱を受けたのかも知れない。

次に、85号住居と185号土坑が接合した事例についてみてみたい。85号住居1 (■) は、住居出土の1点と185号土坑出土の8点が接合した個体である。残念ながら住居内での出土位置は不明であるが、土坑出土の8点は坑底に近いレベルで出土している。185号土坑からは勝板式終末期51点が出土しているが、住居への廃棄と土坑への廃棄は一連の行動であったのかも知れない。

1 遺構間の接合について



第387図 白倉C区85号住居と185号・233号土坑の遺物接合

IV 成果と問題点

天引C区59号住居と129号住居 (第388図)

129号住居1 (●) は59号住居出土の1点と129号住居出土の8点が接合した深鉢の胴部破片である。59号住居出土の1点は、壁に近い位置で床面直上の出土であることから(第114図)、住居廃絶後の比較的早い段階で、既にその位置に存在していたと考えられよう。この住居では51点の縄文土器が出土しているが、出土位置を記録しなかった土器も含めて住居内での接合は1例のみであった。住居内の接合事例が少ないことや、出土位置にかたよりがみられないことなどを考え合わせると、この住居の廃絶後に積極的な廃棄活動が行われたとは考えづらい。

一方、129号住居出土の8点は、壁に近い位置ではあるが、床上7～26cmのレベルで出土していることから(第140図)、住居廃絶後、一定の時間が経過した後の廃棄が想定されよう。この住居からは53点の縄文土器が出土しているが、出土位置を記録した遺物は、ほぼ第1次埋没土堆積後に廃棄されたと想定され、それを裏付けるかのように、住居内で5例の接合が確認されている。

住居間で接合した個体であるが、129号住居へ廃棄された時点で59号住居内の原位置に存在した時点が同時であったと仮定すれば、129号住居埋没土の形成の方が59号住居埋没土の形成よりも早いことから、129号住居の廃絶のほうが59号住居の廃絶よりも相対的に早くなるのではなかろうか。また、この2軒が示す埋没土の形成によってあらわれる廃絶時間差が、どの程度の期間であったかは不明であるが、場合によっては、2軒が同時に存在した段階も想定できるのかもしれない。

天引C区101・103・144号住居 (第389図)

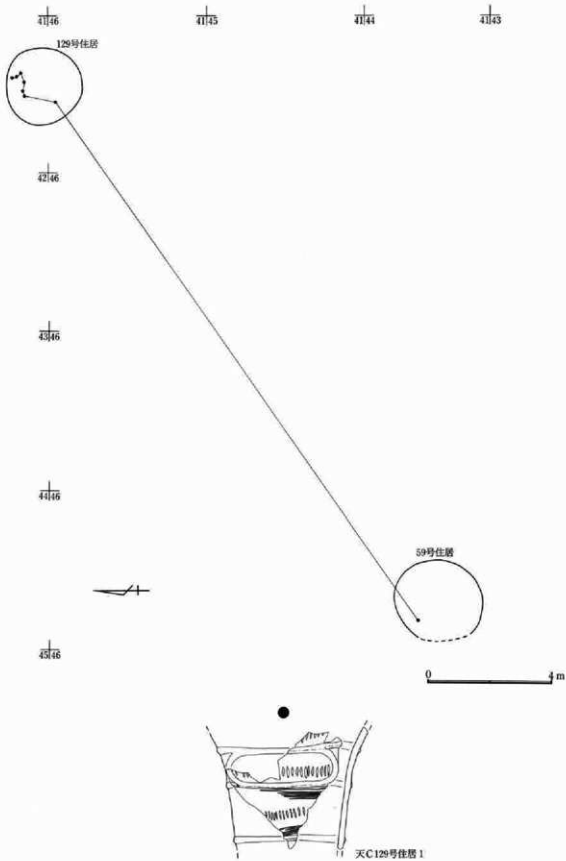
101号住居と103号住居との間で1例、103号住居と144号住居との間で1例、接合関係が確認された。101号住居3 (○) は、101号住居出土の5点と103号住居出土の1点が接合している。各遺構内での出土位置をみると、101号住居の5点(第118図)と103号住居の1点(第126図)は、ともに床面から僅かに浮い

たレベルで出土している。101号住居3 (○) が各遺構に同時に廃棄されたものだとすれば、両者の遺構廃絶時期は極めて近接しており、同時に存在した可能性も強いのではなかろうか。

144号住居1 (●) は、103号住居出土の1点(第126図)と144号住居出土の19点(第145図)が接合している。各遺構での出土位置をみると、まず、103号住居の1点は住居の壁に近く床上約20cmのレベルで出土している。この土器片は4cm四方程度の小片で、出土部位は胴部中央の楕円区画を意識した隆帯を中心とした破片である。この土器片が廃棄されたのは、住居廃絶後、壁近くの土層が堆積した時期となろう。一方、144号住居出土の19点については、住居事実記載(187頁)で出土状態を詳しく述べることができなかったので補足したい。144号住居1 (●) の大部分は144号住居内から出土した土器片であった。19点の出土位置は大きく3カ所に分けられる。1カ所は1号炉内で10点がかこれにあたる。2カ所は5号柱穴内で3点がかこれにあたる。最後は住居中央～南西部の床面直上からで6点がかこれにあたる。住居事実記載では、「住居廃絶後の早い段階で板敷式終末期の土器片が廃棄された状況が想定される。」(187頁)と述べた。だが、144号住居1 (●) の破片が炉内や柱穴からも出土していることを考えると、住居廃絶前(居住活動が行われている段階)において、この破片が住居内にあった可能性が強くなるのではなかろうか。この土器が調査時の位置に存在した時期は、住居廃絶前もしくは住居廃絶後の早い段階と考えるのが妥当ではなかろうか。

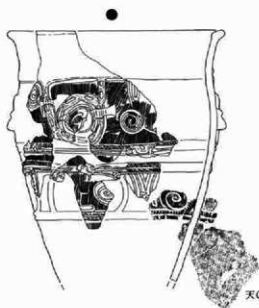
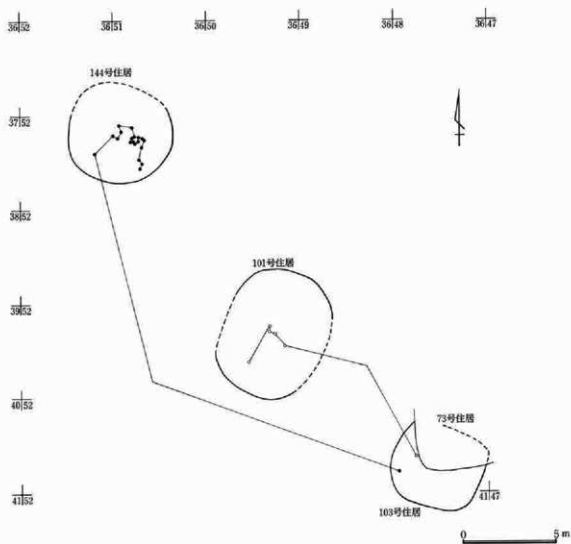
以上、2つの遺構での出土位置と想定される状況について述べてきた。144号住居1 (●) が、各遺構内において調査時の位置に存在したのが同時だとすれば、その時点で103号住居は住居内壁近くに20cm程度埋没土が形成されており、一方、144号住居は、居住活動が行われている段階あるいは廃絶後のきわめて早い段階と想定されることから、相対的に103号住居の廃絶のほうが144号住居の廃絶よりも早くなるのではなかろうか。

1 遺構間の接合について

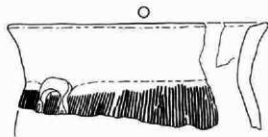


第388図 天引C区59号・129号住居間の遺物接合

IV 成果と問題点



天C144号住居1



天C101号住居3

第389図 天引C区101号・103号・144号住居間の遺物接合

なお、101号住居と144号住居の時間的な関係であるが、2つの遺構間では直接の接合関係はみられないが、103号住居との接合関係を介することによって探ることができると思われる。つまり、103号住居の廃絶と101号住居の廃絶は極めて近接することから、同時に存在した可能性が強く、101号住居と103号住居の廃絶のほうが144号住居の廃絶よりも相対的に早くなる可能性が強くなるのではなからうか。101号住居→103号住居→144号住居が想定されよう。

白倉B区土坑間の遺物接合 (第390図)

白倉B区では、242号土坑と257号土坑との間で、同一個体が確認できた。

242号土坑1(●)は9点の土器が接合した個体(第214図)で、257号土坑2(第205図)と同一個体である。この土器は堀之内1式であるが、2つの遺構からは後期前半の土器が出土しており、堀之内2式の土器片も含まれていることから、各遺構の廃絶時期は堀之内2式まで下るのかも知れない。いずれにせよ大半の遺物を一括して取り上げたので不明な点が多い。ここでは、この2つの土坑形状が共に平面円形の袋状土坑であることに注目するとともに、同一個体の土器が自然営力の可能性も含め約24m離れた場所に廃棄されていた状況を想定したい。

白倉C区土坑間の遺物接合 (第391図)

白倉C区では、8基の土坑から4例の接合関係が確認できた。

162号土坑1(☆)は、46号土坑の1点(第260図)と162号土坑出土の1点(第275図)が接合した黒浜式土器である。各1点ずつの出土であることから確かなことはいえないが、土坑内での出土位置はいずれも覆土上層であることから廃絶時期が近接する可能性が強いのではなからうか。また、46号土坑分の破片は小片(約5cm四方)で、他の破片は全て162号土坑からの出土である。2つの遺構間距離が約46mと、かなり離れていることに注目したい。

164号土坑1(●)は、164号土坑の8点(第276図)

と170号土坑の2点(第278図)が、接合した有尾式系土器である。2つの土坑から出土した遺物すべての位置を記録していないので確かなことはいえないが、それぞれの遺構で出土した土器の接合関係が、層位的に出土していないことから、2つの遺構出土遺物が一括して同時に廃棄された可能性があるのではなからうか。2つの土坑間距離は約6mである。

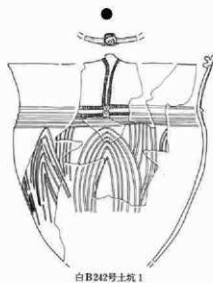
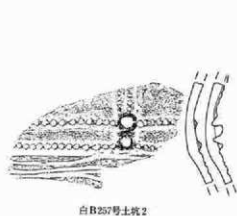
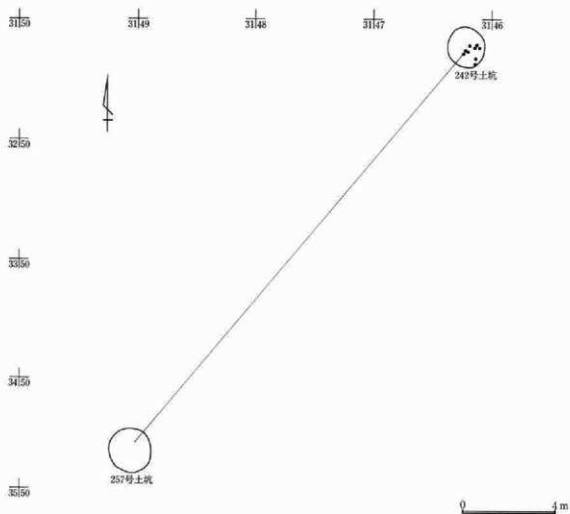
196号土坑1(▲)は、194号土坑出土の小片1点(第282図)と196号土坑出土の大形破片1点(第283図)が接合した黒浜式土器である。194号土坑での出土位置は不明なので確かなことはいえないが、比較的近接した段階で廃絶した土坑なのかもしれない。

226号土坑1(■)は、223号土坑出土土器と接合した個体である(第285・286図)。事実記載でも触れたように調査段階の不手際で、ひとつの土坑であることが判明した事例である。自戒の意味も含めここに掲載した。

注

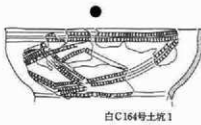
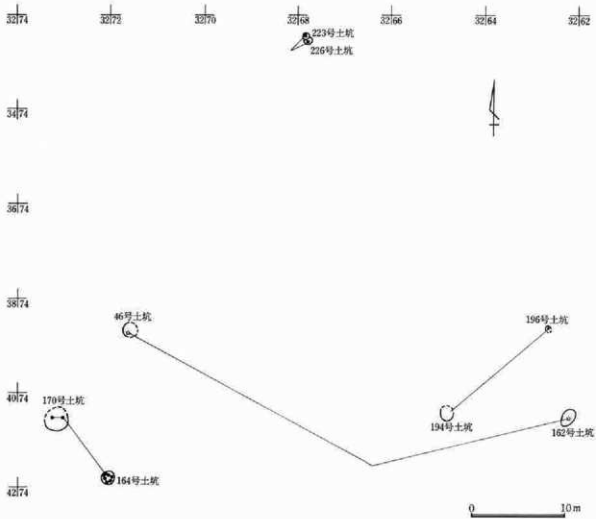
- (1) 「点を取る」調査の考え方については、濱江芳浩が「3. おわりに」『宇津木台遺跡群XⅢ』(1989)の中で述べているので参考にして欲しい。
- (2) 現状の中で最良と思われる実践例として、黒尾・佐伯・濱江編 1993「はらやま」が挙げられよう。
- (3) 例えは、土井義夫 1989「V. あとがき」『宇津木台遺跡群XⅢ』を参考にして欲しい。
- (4) 事実記載でも述べたように、発掘調査の際に覆土一括として取り上げてしまった遺物も少なくない。そのため、以下に述べる事例においても資料としての限界性が存在している。一括として取り上げた遺物も別に基準があるわけではなく、遺構によって異なる。個々の事例に応じて、絶えず資料のもつ限界性を意識して事例分析を行うが、行き過ぎた分析があるかもしれない。御批判、御教示を頂きたい。
- (5) 110号住居からは、加曾利E3式2点、加曾利E4式→加曾利E式系土器101点、称名寺II式4点、堀之内1式1点1点が出土している。一方、70号土坑からは副橋II(新)式1点と加曾利E式系土器11点が出土している。
- (6) 先に述べたように71号住居の廃絶が43号住居の廃絶よりも早くなる可能性は強いと思われる。しかし、個々の住居の廃絶→接合関係にある土器が廃棄されるまでの期間が不明であることから、71号住居と43号住居が同時に存在し、その後71号住居が先に廃絶した可能性も否定はできない。
- (7) 387図中に1点示すのを遺漏してしましたが、この土器(85号住居2●)は、同一個体の破片がもう1点85号住居から出土している(第110図白倉C区85号住居10)。この破片の出土位置は、85号土坑から南へ約1m床土約10cmのレベルである(第109図)。
- (8) 図6と同様の理由による。

IV 成果と問題点



第390図 白倉B区土坑間の遺物接合

1 遺構間の接合について



白C164号土坑1



白C196号土坑1



白C162号土坑1



白C226号土坑1

第391図 白倉C区土坑間の遺物接合

2 縄文時代の土地利用について

はじめに

ここでは、今まで項目ごとに記載してきた内容をふまえ、発掘調査区の各時期における土地利用について考えていきたい。

従来、報告書の中で、時期ごとの集落の様子が語られる際に、いくつかの前提とされることが存在していたように思う。例えば、集落遺跡において多数の住居址が検出されると「大規模集落」とされ、出土する土器型式が連続する場合に、その集落は継続したものと考えられ、検出された住居数の多寡は即座に集落規模の拡大・縮小と結び付けられて解釈されてきた。一方、検出された住居址数が少ない集落遺跡は「小規模集落」とされ、「大規模集落」に付随する一時的な集落と解釈されてきた。また、住居の居住期間についても、土器型式が認知できれば疑うことなくその土器型式が存続した時間幅すべてを与えていたように思う。

このような幾つかの前提は、従来の集落論が定住を前提とした大規模集落を主たる対象としていたために導かれたものであるが、結果的に集落研究は停滞したものになってしまったのではなかろうか。

集落研究が停滞した理由を「基礎資料と分析方法に欠陥があった」（土井1989）とすれば、発掘調査報告書において第1義的に求められるのは「良質な基礎資料」の提示であろうことは疑いのないところである。しかしながら一方で、調査時の「点取り」と発掘調査期間、整理作業期間など現実的な制約が存在することもまた実態であり、必ずしも「良質な基礎資料」が提示できない場合が多く、本報告書もその例外ではない。

いわば限界性をもつ資料を用いて、本集落遺跡について分析を行うわけであるが、少なくとも今までの集落遺跡を考える際に述べられてきた前提については、再度検討する必要がある。

その際に、「集落遺跡が私たちの前に現れる場合に、時間的に累積された最終的な姿である」（土井

1988）という原則的な性格と、遺構・遺物については「考古資料が、原則として、ある時点で放棄・廃絶・廃棄されたものである」（土井1988）という基本的な性格をまずは認識したい。

そのうえで、次の5点に留意して分析を行っていきたい。

①同一土器型式内における遺構重複の有無

②個別遺構内での遺物の接合関係と遺物出土状態

③遺構間における遺物接合関係

④前後の時期の状況

⑤遺構外の出土遺物の状況

各項目の説明をすると、

①については、このような遺構重複が認められたとすれば、同一土器型式期で示された遺構分布が複数の土地利用の結果であることが確認されようし、時期別遺構分布図はさらに分離されることを示している。これは、1軒と認定された住居において2回の居住が確認された場合も同様の理解となろう。

②については、特に遺構廃絶後の土地利用を想定するのに有力な情報であるのだが、遺物の遺構内の出土位置が全て記録されているわけではない。事実記載でも述べたように「一括」として取り上げてしまったために不明な点も多い。そこで、各遺構の時期別出土点数については、事実記載や各表に掲載しておいた。

③については、「IV 1 遺構間の接合について」でも述べたように遺構間の関係を示唆する様々な情報を提供してくれると思われる。残念ながら、②で触れた問題点に拘わる部分（接合した遺物が各遺構内でのどのような状況下で存在していたか）や、同一土器型式の遺構間でしか実施していないことが等質の資料提示となっておらず問題が残る。

④については、前後の時期の遺構検出の有無及び遺構検出がない場合は、出土土器の有無について記載するようにした。また、特に前後の時期において遺構分布が重複する場合、前段階の遺構に後出する時期の土器が含まれているかどうかとも検討してみた。もし、仮に前段階の遺構に後出時期の土器が含まれ

ているとすれば、出土状況にもよるが継続した土地利用が想定できるであろう。逆に、前段階の遺構に後出時代の土器が含まれなければ、土地利用の断絶が想定できる場合も存在するのではないかと思われるからである。この場合、加曾利 E 4 式期～後期前半については、後期に存在する加曾利 E 式系土器と粗製土器の存在から統一的な弁別ができなかった部分がある。

⑤については、時期別全体図で示した白抜き遺構が、部分的な情報を提供するに過ぎない。各時期ごとの全体図（第392～401図）において、各図の黒塗りて表現した遺構は、廃絶時期からその段階にきわめて近い遺構である。また、白抜きで表現した遺構は、その段階の土器が出土した遺構で、その段階ではない遺構と時期不明の遺構がある。白抜きで表現した遺構を加えたのは、今回資料化できなかったグリッド等の状況を、ある程度反映しているのではないかと考えたからであるが、白倉 A 区については縄文時代の遺構が 8 基しか検出されていないことから、傾向を伺いしることしかできなかった。なお、別項（Ⅲ-1 遺構と遺物の概要）でも触れたが、今回の整理作業の中で弥生時代以降の遺構から出土した縄文時代の遺物及び白倉 C 区を除くグリッド出土の縄文時代の遺物については量的な把握ができていない。今後の整理作業の中で資料化を行いたいと思っている。なお、白倉 C 区については各段階の註として取り合えず補っているので参考にして欲しい。

以上、分析する上で留意すべきことと合わせて、資料自体のもつ問題点も記載しておいた。

それでは、発掘調査区における土地利用について、各土器型式期ごとに検討していくことにしよう。

黒浜式期（第392図）

当該期の遺構は住居 3 軒・埋壘 2 基・土坑 66 基である。これらの遺構は、白倉 B 区で検出された住居 1 軒と土坑 1 基を除けば、全て白倉 C 区の台地上で検出されている。白倉 B 区で検出された 2 つの遺構

も白倉 C 区と同じ台地であることから、この段階の遺構は、白倉 C 区を中心とした発掘調査区西側の台地上において主体的に検出されたことになる。

この台地は、頂部平坦面の幅が約 80～150m で、発掘区の北方約 650m まで続く細長い形状である。この台地は西を白倉川による開析による崖に、東は白倉 B 区西側で検出された谷によって画されるが、さらに南方約 650m まで、最後は発掘区の各丘陵が一体化してほぼ同じ傾斜でのびている。

さて、今回出土している当該期の土器群であるが、ある程度の時間幅を有しているものの、黒浜式期の古い段階が主体となるようである。谷藤（1988）による有尾式土器の変遷観にたてば、口縁上部に櫛歯状工具による列点状刻突文を施すものが少数見られるが、多くは消失していることから有尾 I a 段階が少数見受けられ、有尾 I b 段階が主体となろう。糸井宮前遺跡（関根 1987）の報告では、当該期の土器群を I a・I b・II a・II b の 2 段階 4 期に区分しているが、その変遷観に照らし合わせれば I a 段階が僅かに存在し、主体は I b 段階となる。つまり、II a 及び II b 段階に対応する黒浜式の新しい段階は存在しないこととなる⁽³⁾。さらに付け加えるならば、新井が示した黒浜式 V 段階細分案（新井 1982）の第 II 段階を主体とすることになろう。

当該期の遺構が発掘区西側の台地に分布することは述べたが、逆に他の時期の遺構が検出されている他地区は、当該期において殆ど居住活動が行われなかったともいえる。それを示すように、有尾式系土器及び黒浜式土器の分布も、第392図中白抜きの遺構が示すように白倉 B 区では僅かに II 基の遺構から検出されるに留まり、白倉 A 区にいたっては 0 基、天引 C 区では 1 基検出されているに過ぎない。さらに、白抜きで示した遺構からの出土点数も殆どが 1～2 点の出土であり、唯一白倉 B 区 86 号住居（住居の時期は諸磯 b 式期）から 75 点出土したに過ぎない。また、この住居が西側の台地に近接した位置にあることから、この 75 点の土器は西側台地で展開した一連の居住活動によるものと考えたほうがよそ

IV 成果と問題点

うである。

それでは、当該期の遺構が集中して検出された発掘区西側台地における土地利用について検討してみたい。

まず、住居であるが台地の中央部を挟むようにして、ほぼ同じ等高線上に西側で1軒（白倉C区78号住居）、東側で2軒（白倉B区93号住居・白倉C区86号住居）検出されている。僅か3軒の住居ではあるが、中央部に住居が検出されていない空間が存在するのが特徴であろう。個々の住居構造（プラン・柱穴等）は、残存状態が悪いせいもあるが、共通性があまり見られず、しいて述べれば2軒とも検出されていない。

住居以外の遺構では、埋塼が2基と土坑が66基検出されているが、まず土坑に注目してみよう。

今回発掘調査で個別時期が特定できた土坑は180基であったが、当該期の土坑は1/3以上を占めることになる。黒浜式期に次いで土坑が多く検出されたのは勝版式終末期の31基であることから、その多さが目立つ。土坑の分布であるが、住居址が検出されていない中央部南側と西側斜面部の2カ所に境界は曖昧ながらも集中する傾向が見受けられる。土坑の平面形状が仮に土坑の用途に拘わりあるとした場合、この2カ所の土坑群において何等かの特徴が見いだせるかという点必ずしもそうではない。

当該期の遺構が検出されている安中市大下原遺跡では、大形楕円形（長軸1m以上）・小形楕円形（長軸1m以下）・隅丸長方形（長軸1m以上）の平面形態を有する土坑を種々の理由から墓塚と推定している。その可否は置くとして、今回調査された当該期の楕円形（49.58.91.99.147.241号土坑）や隅丸長方形（89.91.131号土坑）プランの土坑は、特定の分布を示していない。また、円形プランの土坑は32基検出されているが、特別な偏りはみせない。土坑の平面形状に応じた土地利用は、少なくともきかれてはいないようである。

土坑間の接合関係に注目すると、先に述べたように162号土坑と46号土坑、164号土坑と170号土坑との

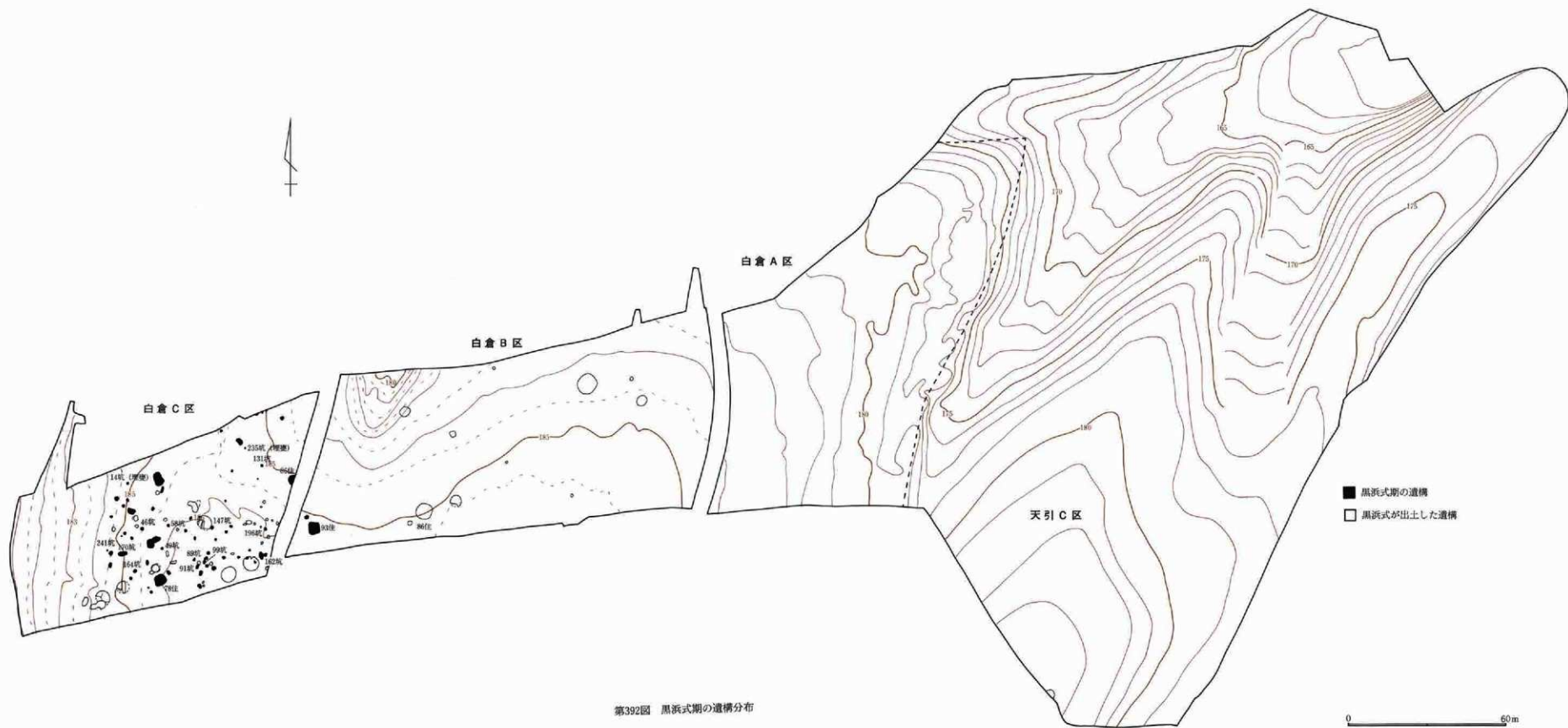
間で接合関係が確認されている（第391図）。その際検討したように、162号土坑と46号土坑、164号土坑と170号土坑は、それぞれ廃絶時期が近接する可能性が高いことを述べた。46号土坑と170号土坑は46mと離れた距離にあり、しかも先に述べた異なる土坑群に属している。

埋塼は2基検出されているが、遺構があまり集中しない白倉C区北東側と北西側で検出されている。白倉C区では、グリッドとして取り上げた有尾式系土器と黒浜式土器が2,257点出土しているが、大半のグリッドでは多くても10点前後の数である。その中で、2カ所集中する場所がある。1カ所は86号住居から196号土坑にかけて幅約10mの範囲で1,322点が出土している⁽⁵⁾。もう1カ所は、78号住居から南西方向に長さ約15m幅約10mの範囲で643点が出土している⁽⁶⁾。当該期の住居で一番多く土器が出土した白倉C区78号住居では、141点しか出しておらず上記の集中箇所の点数が際立って多いことがわかる。また、点数は集計できなかったが、白倉B区93号住居の南側でも同様の集中箇所が存在するようである。

また、当該期の遺構重複についてであるが、土坑同士が重複するものが数箇所あり、78号住居内には2つの土坑が検出されている。

以上、当該期の遺構及び遺物が多く検出された発掘調査区西側台地の状況について述べてきた。確認できた事柄をまとめると次のようになる。

- ①土器の細分型式で見た場合、当該期を5期区分した際の第2期といった限られた時間幅においても、重複遺構の存在から検出された遺構全てが一時期の集落景観を反映している訳ではない。
- ②住居に近接する場所で土器の集中が見られる。
- ③土坑は2カ所に集中するが、接合関係から広がりをもって存在していた可能性が高い。さらに、土坑の用途を特定するのは困難で、その平面形状に応じた土地利用が行われていた可能性は弱い。
- ④台地の中央部に住居が構築されなかった空間があるが、3軒の住居には構造上共通する要素はあまり認められない。



第392図 黒浜式期の遺構分布

⑤土器の細分型式で見た場合、突如として限られた地域において土地利用が行われ、その後、一気に土地が放棄される。

これらの事実から、結論的に導き出せることは極めて少ないが、土坑のありかたから計画的な土地利用が行われていたとは考えづらく、住居に共通する要素が余りみられなかったことから、3軒の住居が一時期に同時に存在したかどうか疑問である。また、住居に伊が検出されていないこと、遺物集中箇所の存在などから、発掘調査では明らかにできなかった遺構が存在したのかも知れないし、あるいは土坑主体の居住の在り方が考えられるのかも知れない。

諸磯式期 (第393図)

諸磯式期においては、検出されている遺構の多くは諸磯b(新)式期に比定される。以下、段階を追って述べていきたい。

諸磯a式期 天引C区において住居1軒(134号住居)と土坑1基(139号土坑)が検出されている。この2つの遺構は約10m離れているが、天引C区内において当該期の遺物は検出されていないことと、2つの遺構から出土している土器(縄文施文のみの土器しか検出されていない。第141図、第319図)が極めて近似することなどを考え合わせると、何らかの有機的な関連を想定することができるのかも知れない。この2つの遺構から出土した土器は少なく、134号住居から4点、39号土坑から2点出土したに過ぎない。また、諸磯a式土器は、2つの遺構以外では、地区は異なるが白倉B区から9点と白倉C区から2点であった。以上の状況から、諸磯a式期において長期にわたる居住活動は想定しづらい。

諸磯b(新)式期 諸磯b式は3時期に別れるが(今村1982)、今回の発掘調査では諸磯(古)・(中)式に比定される土器は管見に触れていない。

諸磯b(新)式期の遺構は、住居4軒(白倉A区78、111号住居、白倉B区25、86号住居)と土坑2基(白倉B区36、291号土坑)が検出されている。

諸磯b(新)式期における4軒の住居は、遺構分布からも明らかのように、調査区内において散在するかのように検出されている。

この中で、白倉B区86号住居では諸磯b(新)式内において2回の居住が行われた可能性が高いことは事実記載でも述べた。この住居では、埋薬が2基検出されており、一方は浮線文をもつ土器で他方は平行沈線文をもつ土器であった。諸磯b(新)式土器の変遷を考えると、次段階の諸磯c式土器を念頭においた場合、浮線文系の土器群から平行沈線文系土器群への変遷が想定されようが、白倉B区86号住居における2回の居住も、あるいはそれぞれに対応するのかも知れない。出土土器数が少ないことから確かなことは言えないが、白倉A区の78・111号住居の2軒では浮線文系の土器群は出土していないことも、諸磯b(新)式において2つの段階が存在するという状況証拠の可能性がある。

以上のように考えていくと、4軒全てが同時に存在した可能性も否定はできないが、浮線文系土器群の段階と平行沈線文系土器群の段階という2時期が想定でき、一時期の住居数はさらに少なくなる可能性が高いのではなからうか。

一方、当該期の土坑は2基(白倉B区36・291号土坑)しか検出されておらず、いずれも住居に比較的近接した位置である。近接関係にある住居と土坑が同時に存在したかは不明であるが、注目しておきたい。当該期における遺構間接合は、白倉B区25号住居と同66号土坑との間で1例確認されており、遺構間距離は約7.5mと比較的接近している(第386図)。この接合関係の場合、先に「住居出土の土器が、自然営力の可能性も含め住居以外の離れた場所にも廃棄されていた状況を想定」(456頁)したが、この廃棄が人為的なものだとすれば当然のことながら、この住居居住者によってなされたわけではない。別の人間によって廃棄された訳であり、その際の距離が比較的接近している点に注目したい。

住居と土坑の近接及び接合関係が示す廃棄の近接する状況は、当該期における住居1軒の使用時及び

IV 成果と問題点

廃絶後を巡る土地利用の一端を示す可能性がある。しかしながら、あまりにも事例がかたよっているため、ここではあくまでも可能性の提示にとどめておきたい。

遺構外出土土器の様相は、第393図に示した白抜き^⑩の遺構から推定すると、発掘調査区内において散漫に分布しているようである。

また、白倉A区78号住居については炉体土器が2基検出され、諸磯b(新)式土器と諸磯c(古)式土器が使用されていることから2回の居住が想定できる^⑪のかも知れない。

諸磯c式期 諸磯c式土器は今村(1982)によれば新旧の2時期に別れている。

諸磯c(古)式期においては、先に述べたように白倉A区78号住居炉体土器の1つが当該期であったことから1軒の住居が確認されている。この住居においては、諸磯c(古)式土器は炉体土器も含め2点しか出土していない。また、当該期と認定できた遺構は他にはなく、管見に触れた当該期の土器は他に白倉C区51号土坑から1点出土しただけである。

諸磯c(新)式期においては、当該期の遺構は検出されていない。僅かに、天引C区106号土坑において土器が1点出土したにすぎない(第316図)。

また、諸磯c式に後続する十三菩提式期であるが、その段階に併行する土器が1点だけ白倉B区の谷津から出土している(第332図7)。

勝坂II式期(第394図)

住居が4軒と土坑が6基検出されている。これらの遺構は、白倉C区と天引C区に別れて検出されており、白倉C区では土坑4基が、天引C区では住居4軒(59・129・147・150号住居)と土坑2基が検出されている。

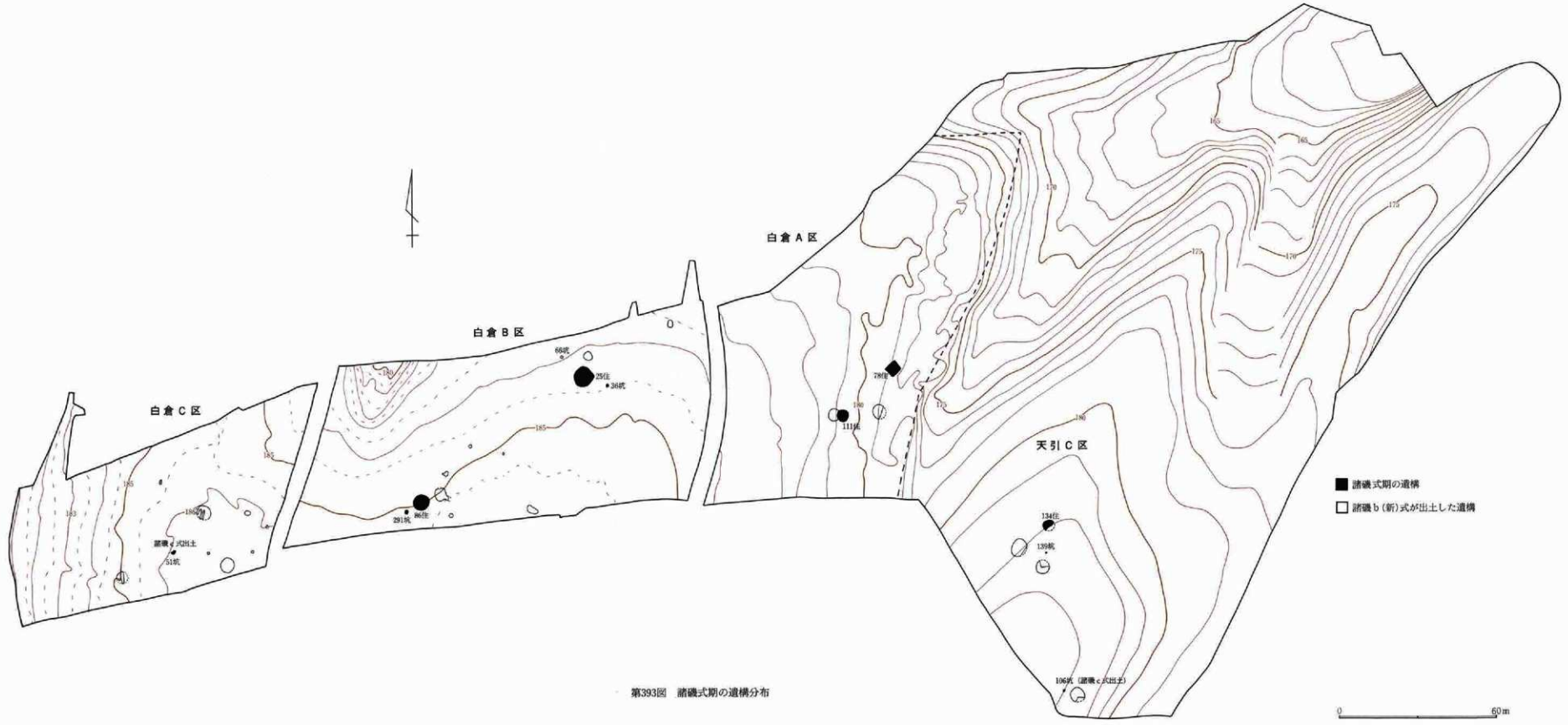
住居の重複関係を注目すると、当該期の住居とした147号住居(新)と150号住居(旧)は重複していることから、当該期における住居軒数は1時期の様相を示してはいないことがわかる。また、147号住居(新)の廃絶後には積極的な廃棄活動は行われていない。

似たような状況は、住居間の接合関係がある59号住居と129号住居との間でも追認できる。

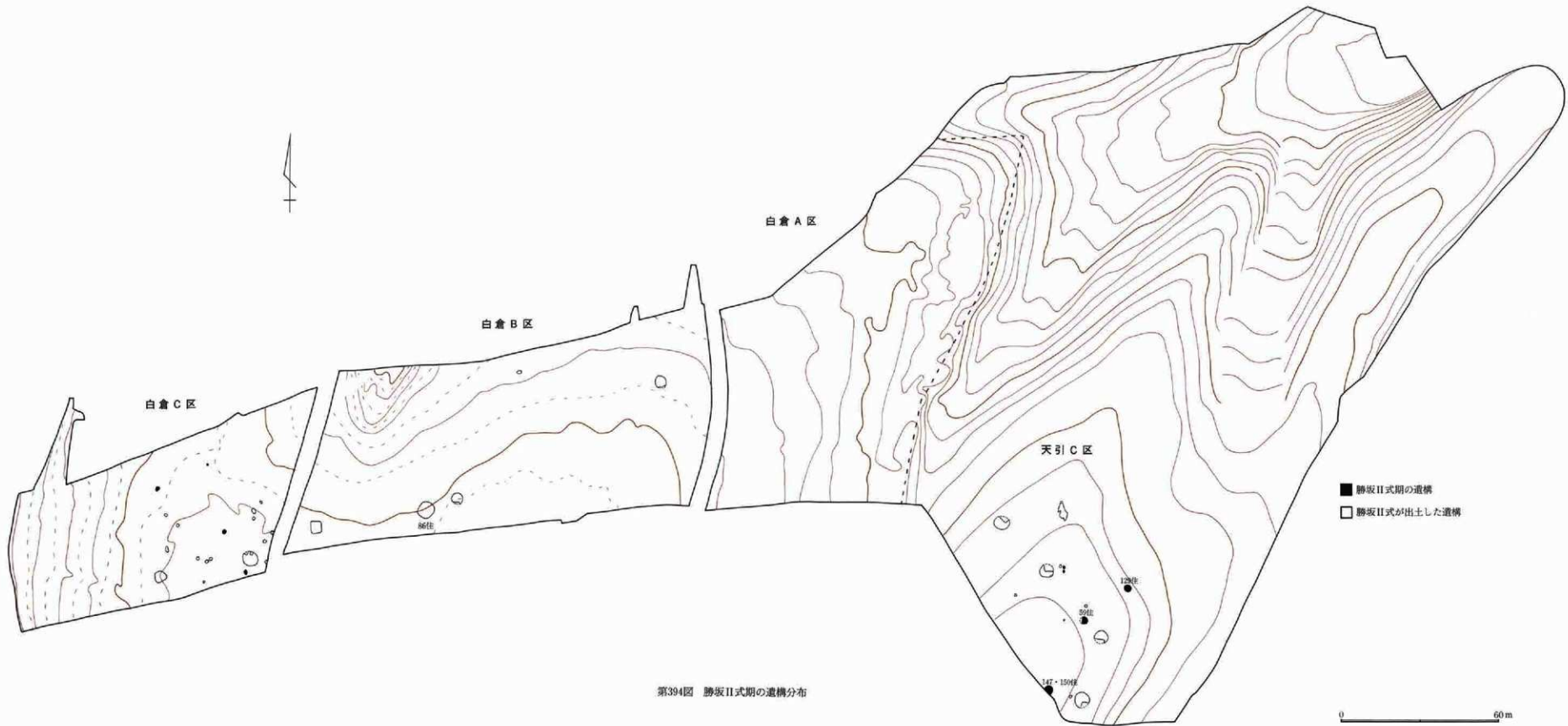
事例分析(460頁第388図参照)では、59号住居においては「廃絶後に積極的な廃棄活動が行われたとは考えづらい」とし129号住居においては「出土位置を記録した遺物は、ほぼ第1次埋没土堆積後に廃棄された」と述べた。また、接合関係から「129号住居の廃絶の方が59号住居の廃絶よりも相対的に早くなる。」とも述べた。59号住居と129号住居は、廃絶住居内に形成された埋没土に現れる時間差が存在するものの、ある段階においては同時に存在した可能性もあることはその際にも触れたが、いずれにせよ、129号住居が廃絶した後に、59号住居が廃絶した状況は想定できそうである。59号住居と129号住居の間にも先の重複住居で確認できた、「当該期における住居軒数は1時期の様相を示してはいない」という事実と、廃絶が新しいほうの住居に「積極的な廃棄活動は行われていない」という想定が追認できそうである。

当該期の一時期における集落景観は、394図で示した状況よりも更に散居的な様相が浮かびあがる。興味深いのは、廃絶が新しいと考えられる住居には積極的な廃棄行為が想定しづらいことである。しかも、当該期の遺構からは次段階の勝坂式終末期の土器が出土していない。以上の事柄から、勝坂II式段階から次段階に移行する際には、少なくとも発掘調査区内においては連続的な居住が行われていない可能性が強いといえるのではなからうか。

勝坂式終末期においては、勝坂II式段階における遺構分布の特徴であった、白倉C区と天引C区に分布するという状況が見事に踏襲されている(第395図参照)。また、勝坂式終末期の遺構数は勝坂II式期の遺構数を圧倒的に上回っている。遺構分布及び遺構数から、この2時期を述べるならば、勝坂II式から勝坂式終末期に至ってスムーズに集落規模は拡大したと解釈もされよう。勝坂式終末期の集落規模については次の項目で考えるとして、両時期の間には土器型式の時間差では表すことができない居住の断



第393図 弥生前期の遺構分布



第394図 Yayoi II 期の遺構分布

絶期が想定されるのである。

最後に、勝坂Ⅱ式期における遺構外出土土器の様相について触れておきたい。第394図に示した白抜き¹⁰⁵の遺構分布から想像すると、当該期の遺構分布（黒塗りの遺構）に比較的対応するようである。また、白抜きで示した遺構出土の土器量は、決して多くはないことから、居住期間についてもあまり長くなかった可能性を指摘できるのかも知れない。また、大変興味深いことではあるが、次段階の勝坂式終末期の住居からは、埋塞に転用された土器も含め（天引C区144号住居3）僅かながら当該期の土器が出土している。勝坂式終末期の居住活動が行われていた段階において、勝坂Ⅱ式土器が集落内に廃棄物として散布していた状況が想定できるのかも知れない。

勝坂式終末期（第395図）

住居14軒と埋塞3基及び土坑31基が検出されている。先に前段階である勝坂Ⅱ式期においても述べたが、勝坂式終末期の遺構分布は勝坂Ⅱ式期のそれを踏襲するかのよう¹⁰⁶に白倉C区と天引C区を中心としている。しかしながら、2つの段階には土器型式の時間幅では現れない住居の断絶が想定された。

ここでは、まず地区ごとの土地利用について考えていきたい。

天引C区では、住居9軒と埋塞2基及び土坑26基が検出されている。住居は、台地中央部からは検出されておらず、土坑の多くは、住居群に囲まれた台地中央部で検出されている。住居群に囲まれるかのよう¹⁰⁷に土坑群（以下……土坑群）が存在し、その周辺に住居が検出される状況は、いわゆる「定型的な集落」とされるものに含まれようが、この様子は決して一時期の集落景観を反映したものではないようである。先に「天引C区101・103・144号住居間の遺物接合」（460頁第389図参照）でも述べたように、101号住居→103号住居→144号住居の時間的流れが想定されているからである。接合関係から住居間の時間的關係が想定できたのは、この北西に展開する住居群（以下……北西住居群）の3軒においてだけであっ

た。それゆえ、土坑群を介して南東に展開する住居群（以下……南東住居群）が果して一時期に同時に存在していたのか、北西住居群のどれかと南東住居群のいずれかが同時に存在していたのかなど、不明なことも多い。いわゆる「定型的集落」とされるものの形成過程や、一時期の集落景観などを復元するための手掛かりはあまり得られなかった。なお、検出されている26基の土坑のうち、19基が住居群に囲まれた土坑群である。また、26基の土坑において平面形状が円形を呈する土坑は19基であるが、1基を除き他の18基は、この土坑群に含まれる。土坑群は、平面形状円形の土坑が主体を占める傾向は明らかである。住居が検出されていない中央部空間の土地利用は不明ながらも、土坑平面形状に反映される固有の土地利用がなされていたのかも知れない。

次に、白倉C区における土地利用についてみていきたい。

白倉C区では、住居5軒と土坑4基及び埋塞1基が検出されている。白倉B区で検出されている土坑1基についても、白倉C区と同じ台地上であることから同列に扱うことにする。これらの遺構が同時に存在していないことは、85号住居内で検出された233号土坑の存在や、81号住居が新旧の2時期からなること（133頁参照）などから確認できる。

接合関係からは、85号住居が廃絶し一定の期間（住居中央部に6cm程度覆土が形成されるまで）が経過した後に、233号土坑が構築され遺物が廃棄された可能性を示唆した（第387図458頁参照）。また、この住居と接合関係にある185号土坑においても233号土坑における一連の廃棄活動と同様の行為が行われた可能性を示唆した。この場合、住居の廃絶と土坑構築と遺物の廃棄という一連の行為が、連続して行われたわけではなく、少なくとも住居廃絶と土坑構築の間に一定期間断絶が認められることに注目したい。想像を逞しくするならば、この土坑構築は85号住居以外の居住者によって行われているわけであるから、その居住者の住居と85号住居の間には居住の断絶が存在したのかも知れない。

IV 成果と問題点

なお、先程述べた天引C区においては住居に囲まれた空間に円形の土坑が比較的多く検出されたが、白倉C区においては住居に囲まれた空間は比較的大く存在するものの、土坑はそこでは検出されず、少数の不定形な土坑が台地の東側に位置している。

以上、別れて検出された当該期の遺構を中心に、土地利用の様子について述べてきた。また、遺構外出土の土器であるが、白抜きで示した部分から想像すると白倉C区のほうが多そうである⁰⁶。この2つの遺構群が、果してどのような関係にあったかは、同時に2つの地区で居住活動が行われていたかも含めて、興味深い問題であるが、あまりにも不明なことが多すぎる。残念ではあるが、ここでは、接合関係や遺構重複の様子から遺構分布であらわされた状況(第395図)が、勝板式終末期の複数回の居住活動による結果であることを確認するに留めておきたい。

なお、勝板式終末期という名称は、先に(26頁)述べたように勝板式Ⅲ式～加曾利E1式までの年代幅のある時期を示す用語として使用した。それゆえ、今回は分離できなかったが、各遺構は勝板式Ⅲ式期に帰属するものや加曾利E1式期に帰属するものに将来的に分離できるのかもしれない。ちなみに、今回扱った土器で、口縁部文様から加曾利E1式と認定できるものは大変少なく僅か8点であった⁰⁹。

加曾利E3式期(第396図)

加曾利E3式期の土地利用について述べる前に、勝板式終末期～加曾利E3式期に至るまでの様子について触れておきたい。

今回、縄文時代の遺構からは加曾利E2式に比定される土器は出土していない。僅かに白倉C区のグリッドから2点出土した。

加曾利E3式土器は、桜岡・藤巻(1992)の編年によれば古・中・新の3段階に区分されるが、今回管見に触れた加曾利E3式土器は全て新段階に位置付けられよう。

勝板式終末期から加曾利E3式期に至る各段階は、上述したように、加曾利E2式期～加曾利E3

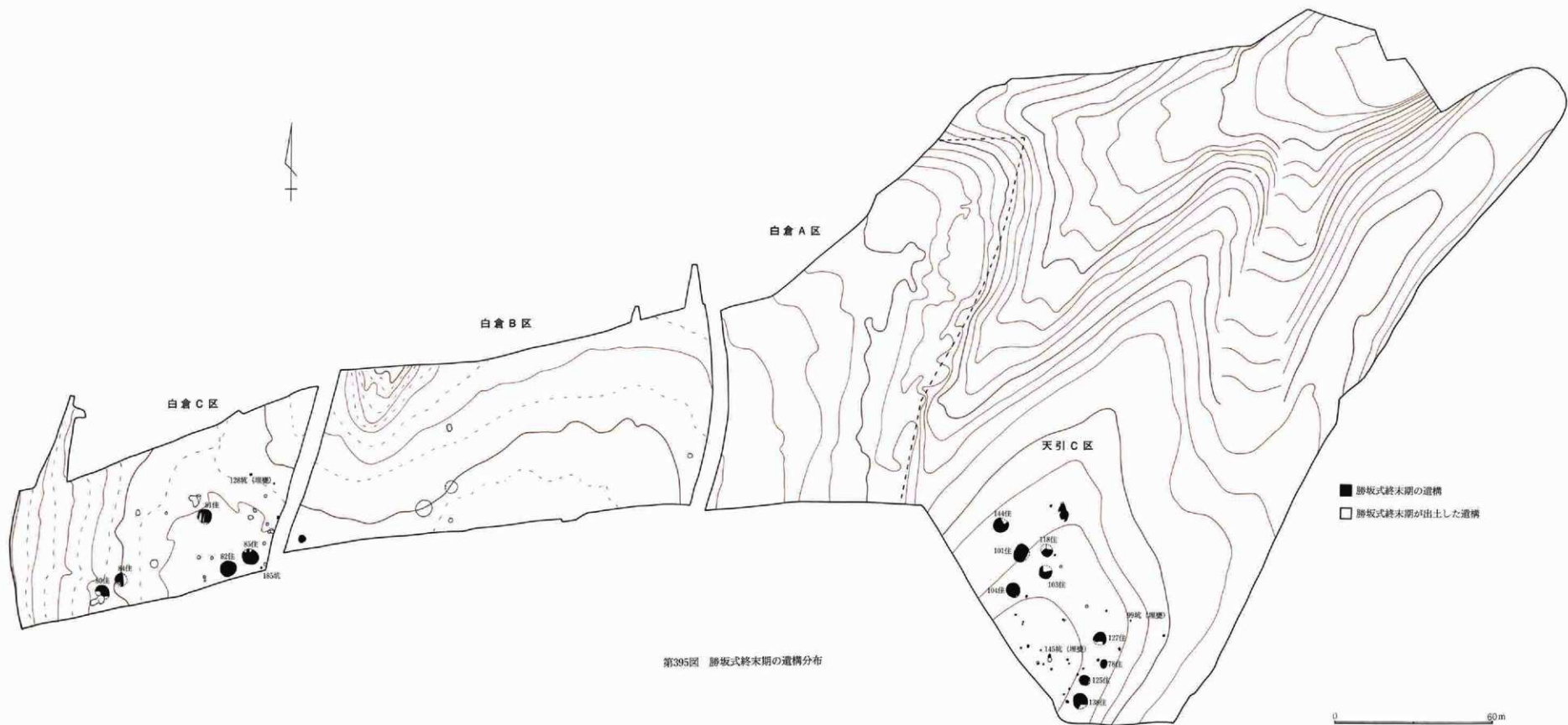
(中)式期の期間は、殆ど土地利用がなされなかったようである。そして、加曾利E3(新)式期に至り、以前とは異なった場所で居住活動が行われる。

加曾利E3(新)式期では、住居7軒と土坑7基及び埋蔵2基が検出されている。今回の発掘調査区は、3本の小支谷と4つの台地からなるが、白倉B区から白倉A区にかけての台地が一番広い。台地平坦面の中心はB区の中央から僅かに東によった部分であるが、当該期の全ての住居と大部分の土坑は、この台地中央部平坦面のまわりで検出されている。また、上述してきたように、この台地に住居が集中する傾向は今までは見られなかった現象でもある。

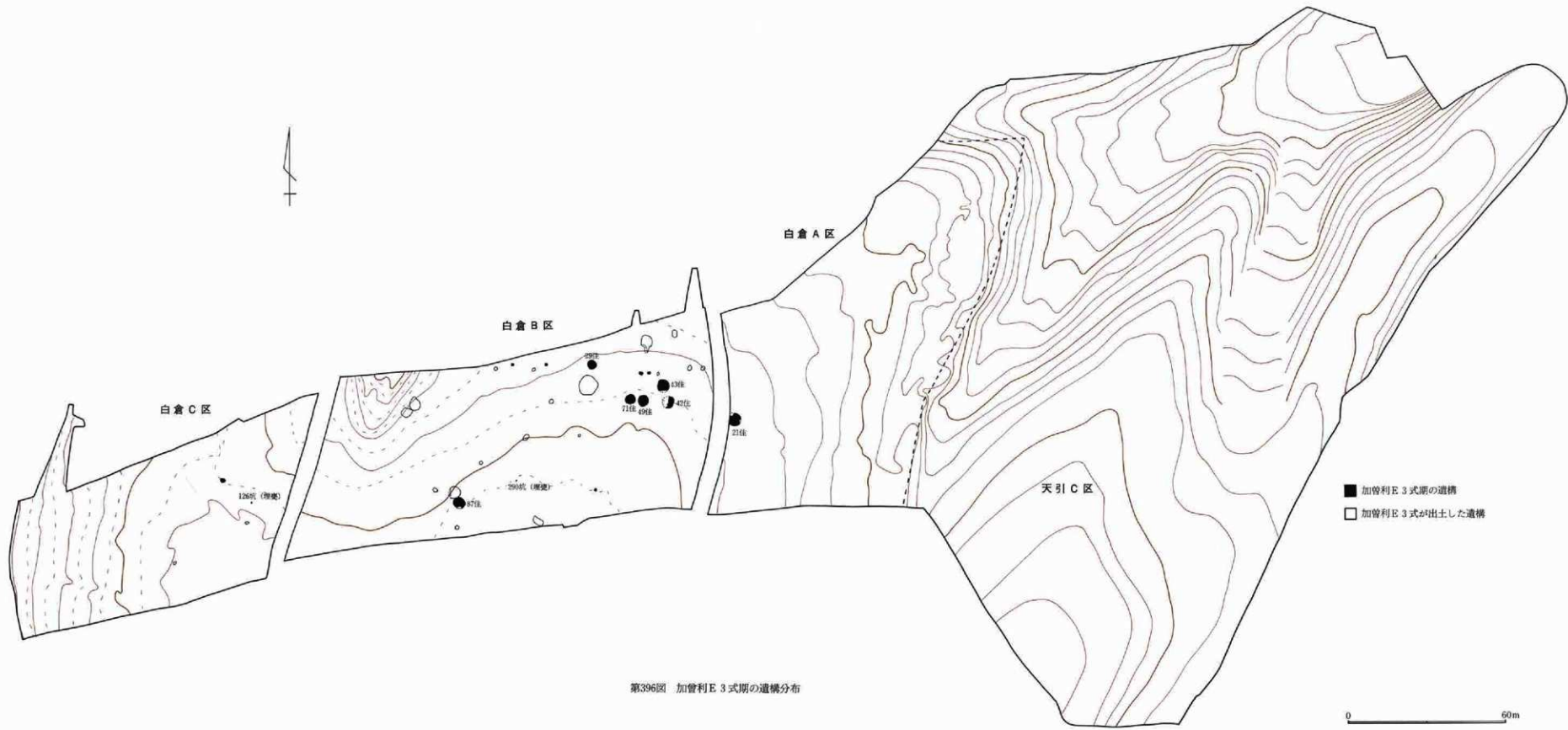
さて当該期の住居7軒は、大きくみればこの台地の北側で6軒、西端で1軒検出されている。北側6軒の中で、4軒(B区42.43.49.71号住居)が密集して検出されているが、この中で43号住居と71号住居の間で接合が確認できている。

先に、「白倉B区43号住居と71号住居」の接合関係について述べたさいに(第385図454頁)、この4軒の関係についても触れた。その際に、遺物が接合する事実としない事実や、71号住居と43号住居が同時に存在した可能性も含めて71号住居→43号住居の変遷が想定できることなどから、白倉B区42・43・49・71号住居の4軒が、一時期1～2軒程度であった可能性が強いことを述べた。これら密集して検出された4軒の住居と、他の3軒の住居がどのように併存していた(併存していなかった)かや、その変遷は一部を除いて不明であるが、2回の居住が行われた想定される71号住居の存在も含めて、複数回の居住活動の結果によって7軒の住居が検出されたことを確認しておきたい。

また、複数回の居住活動が連続していたのか、あるいは断絶時期が想定できるのかを考えた場合、各住居における遺物出土状態を手掛かりと考えたい。遺構の残存状況が良好ではないことから、確かなことはいえないが、住居廃絶後に、埋没土が殆ど形成されない(住居の廃絶時に極めて近接すると思われる)段階で、遺物が廃棄された可能性が強い住居は



第395図 弥生式終末期の遺構分布



第396図 加曾利E3期の遺構分布

0 50m

白倉A区21号住居1軒だけである(33頁)。この場合は、連続した居住活動が想定できるのかもしれない。一方、他の6軒は住居廃絶後に少なくとも住居縁辺部が埋没した段階(住居によっては住居中央部にまで覆土が形成されている)で遺物が廃棄されていることから、住居廃絶後に一定の空白期が想定されるのかもしれない。

発掘調査区内において当該期の居住活動は、複数回の所産によるもので、居住の連続性が想定できるものは少ないようである。想定される一時期の景観も広い台地上に住居が数軒散在するような状況ではなからうか。

土坑については、住居軒数と比較して検出されたのが7基と少ないことが特筆されよう。

また、埋壘2基は、いずれも住居から離れた位置で検出されている。遺構外出土の土器は、白抜き遺構から判断すると、散漫に分布しているようである。

加曾利E4式期(第397図)

加曾利E4式期の遺構は、その殆どが白倉B区を中心とした広い台地上で検出されている。この遺構分布は前述した加曾利E3式期の遺構分布を踏襲していることから、両期は継続した集落と考えられるかも知れない。仮に、集落が継続しているのであれば、加曾利E3式期の遺構が廃絶した後に、加曾利E4式土器が廃棄される状況が想定されてもよいのではなからうか。ところが、加曾利E3式期の住居は残存状況が良好ではなかったことから確かなことはいえないが、加曾利E3式期の遺構⁰⁰から加曾利E4式土器が検出されたのは僅か1例である。遺物の出土状態から判断すると、両期の間に積極的に継続性を認めることはむづかしいようである。

加曾利E4式期は、住居2軒と埋壘3基及び土坑28基が検出されている。

住居2軒(白倉B区88・89号住居)は、ともに遺構の残存状況が悪い。

88号住居の場合は好しか検出されていないが、周

辺から礫などが検出されていないことなどから考えると、少なくとも全面敷石の住居は想定しづらいのではなからうか。89号住居は柄杓形(敷石)住居と思われるが、主体部の配石及びプランは明瞭ではなかった。両住居は近接して検出されており、88号住居の直径を仮に4mとした場合には、両住居間距離は僅か90cmとなる。周堤帯や上屋構造を想定した場合、両住居が同時に存在した可能性は弱いのではなからうか。また、事実記載でも述べたように(205頁)、261号土坑(埋壘)と262号土坑(埋壘)は敷石住居の可能性がある。仮に、この2基の埋壘を1軒の住居とした場合、当該期は3軒の住居が検出されたことになるが、いずれにせよ一時期の住居軒数は1~2軒である可能性が強いのではなからうか。また、89号住居が仮に敷石を持たない住居とした場合、全く形状が異なった住居が同土器型式期内に存在したことになり、同時に存在した住居の問題も含め興味深い。

28基の土坑は白倉C区の1基を除けば、全て白倉B区から散在して検出されている。これらの土坑の中で、白倉B区63号土坑(233頁)は墓壇の可能性のある土坑⁰⁰である。この土坑を墓壇と仮定した場合、近接する土坑も含め、同じような形状の土坑は他に存在しないことから、明瞭な墓域が存在した可能性は弱いではなからうか。

遺構外出土遺物の分布は、白抜きで示した遺構分布から判断すると、当該期の遺構分布と強い相関性が認められるようであるが、白倉C区からは少数ではあるが散在するように当該期の土器が出土している。なお、加曾利E4式と認定した土器については、多くが土器片であるために称名寺式期に併行する加曾利E式系土器を含んでいる可能性が強い。

称名寺1式期(第398図)

住居2軒と竪穴状遺構1基及び土坑11基が検出されている。竪穴状遺構1基(白倉A区110号住居)については、隣接する土坑(白倉A区70号土坑)との接合関係から、先に土坑として考えたほうがよいと

IV 成果と問題点

述べた。つまり、当該期の遺構は住居2軒と土坑12基が検出されたことになる。

遺構の分布は白倉B区を中心とした広い台地の、中央部から東側にかけてと比較的かたまっていて、この遺構分布は、前段階の加曾利E4式期の遺構分布をほぼ踏襲している。両期の居住活動が連続したものであるかどうかは、加曾利E4式と後期加曾利E式系土器の分離が難しいことから出土遺物量及び遺構遺物出土状態からは残念ながら推定できない。検出された住居2軒の中で、白倉B区26号住居は柄鏡形(敷石)住居で、白倉B区74号住居は竪穴住居である。26号住居の覆土残存状況が悪いのと、74号住居の遺物出土状態に不明な点が多いため、両住居の関係は残念ながら推測の域を越えるものではない。強いて述べれば、住居形状がまったく異なっていることと74号住居に称名寺II式土器が僅かに含まれることなどを考え合わせると、26号住居→74号住居の先後関係が想定できるのかも知れない。先に、加曾利E4式期でもふれたが、同土器型式期において住居形状が異なっていることに注目したい。

遺構外出土遺物の様相も、加曾利E4式期のあり方と近似するが、天引地区で僅かに出土していることに注目したい。

称名寺II式期 (第399図)

住居2軒と埋裏1基及び土坑8基が検出されている。数少ない遺構は、白倉B区が主体を占める台地上に散在するかのよう分布するが、天引C区でも土坑1基が検出されている。

住居2軒(白倉B区91号住居と白倉A区97号住居)は、100m以上離れた位置で検出されている。2軒ともに残存状態が悪く、白倉B区91号住居は躯体土器と柱穴しか確認できず、白倉A区97号住居は住居の半分以上を後世の土地利用によって破壊を受けている。白倉A区97号住居は、おそらく敷石住居であるが、同じプランの2回の居住が想定されている。敷石住居において、住居プランが同じでありながら2回の居住が想定されることに注目したい。また、2

回の居住が想定されることを考えると、一時期の集落景観も想像以上に散在するものであったのではなからうか。

遺構外の出土遺物は、白抜きで示した遺構分布から想像すると、前段階のあり方と近似するようである。

堀之内1式期 (第400図)

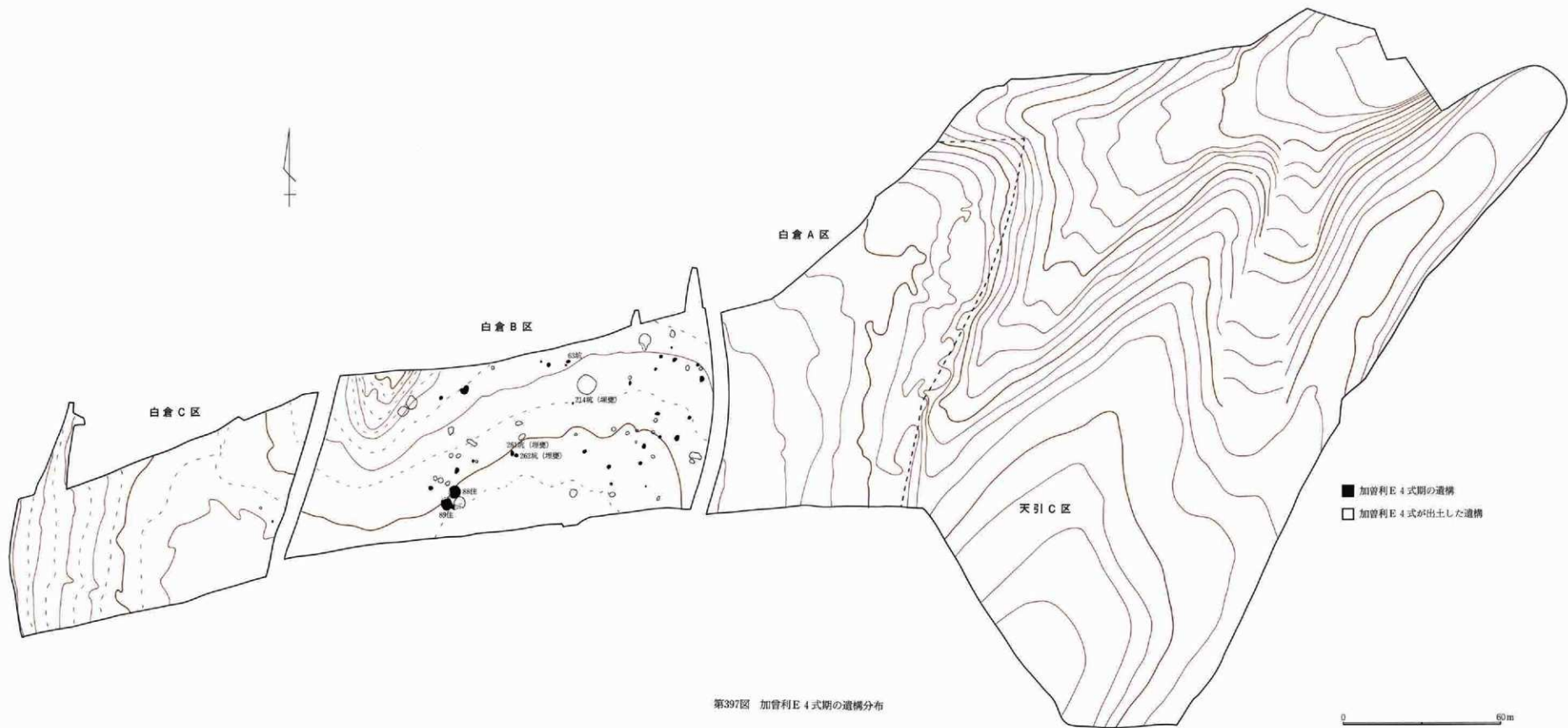
住居4軒と土坑7基が検出されている。

住居は白倉C区で2軒(76号住居と77号住居)と白倉A区で2軒(37号住居と96号住居)が調査された。4軒の住居はいずれも緩斜面上であるが、白倉A区の2軒と白倉C区の2軒とは、150m以上離れている。仮に4軒が同時に存在したと仮定すると、2つの地区の住居間においては、互いに存在を確認しあうことがむづかしい距離である。この4軒はおそらく柄鏡形(敷石)住居であったと思われるが、白倉C区77号住居については配石の状況が、白倉A区96号住居は柄部の有無が不明である。しかしながら、後世の土地利用によって破壊を受けた場合でも、残存状況から、ある程度は想定が可能であり、少なくとも4軒の住居の配石の様子は幾つかの差異を認めることができる。また、白倉A区96号住居は、先に称名寺II式期で注目した白倉A区97号住居と同様に、2回の居住が想定される。

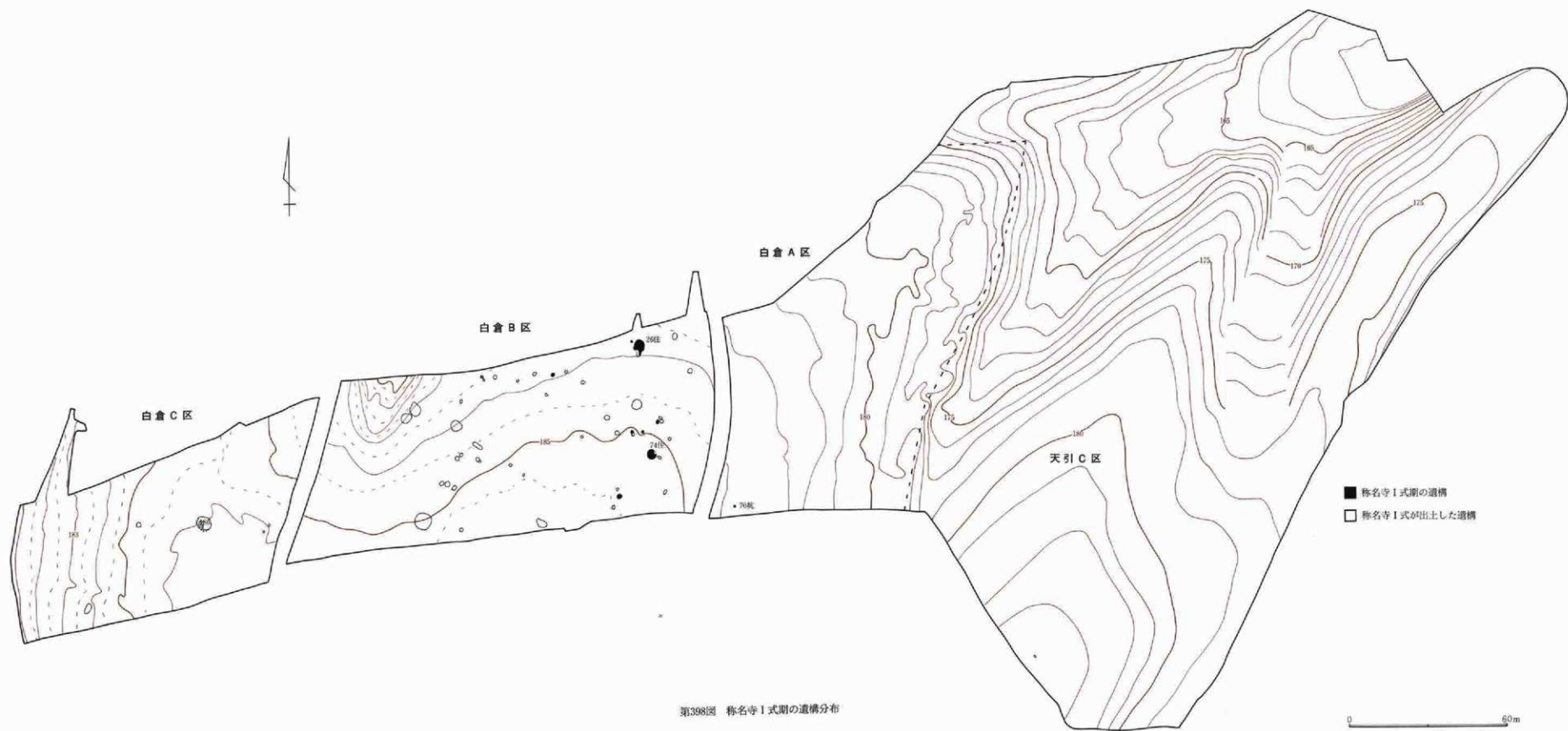
1軒の住居では2回の居住が想定され、配石状況に差異が認められるとすれば、1時期に4軒が同時に存在した可能性も弱いではなからうか。

また、白抜きで示した遺構の分布から想像すると、住居が検出されている周辺からは、あまり当該期の土器は出土していないようである。住居周辺に、廃棄物である土器が多く出土している状況が認められるのであれば活発な居住活動も想定されようが、それがあまり認められない状況は、住居を中心とした長期にわたる居住活動は想定しづらいのではなからうか。

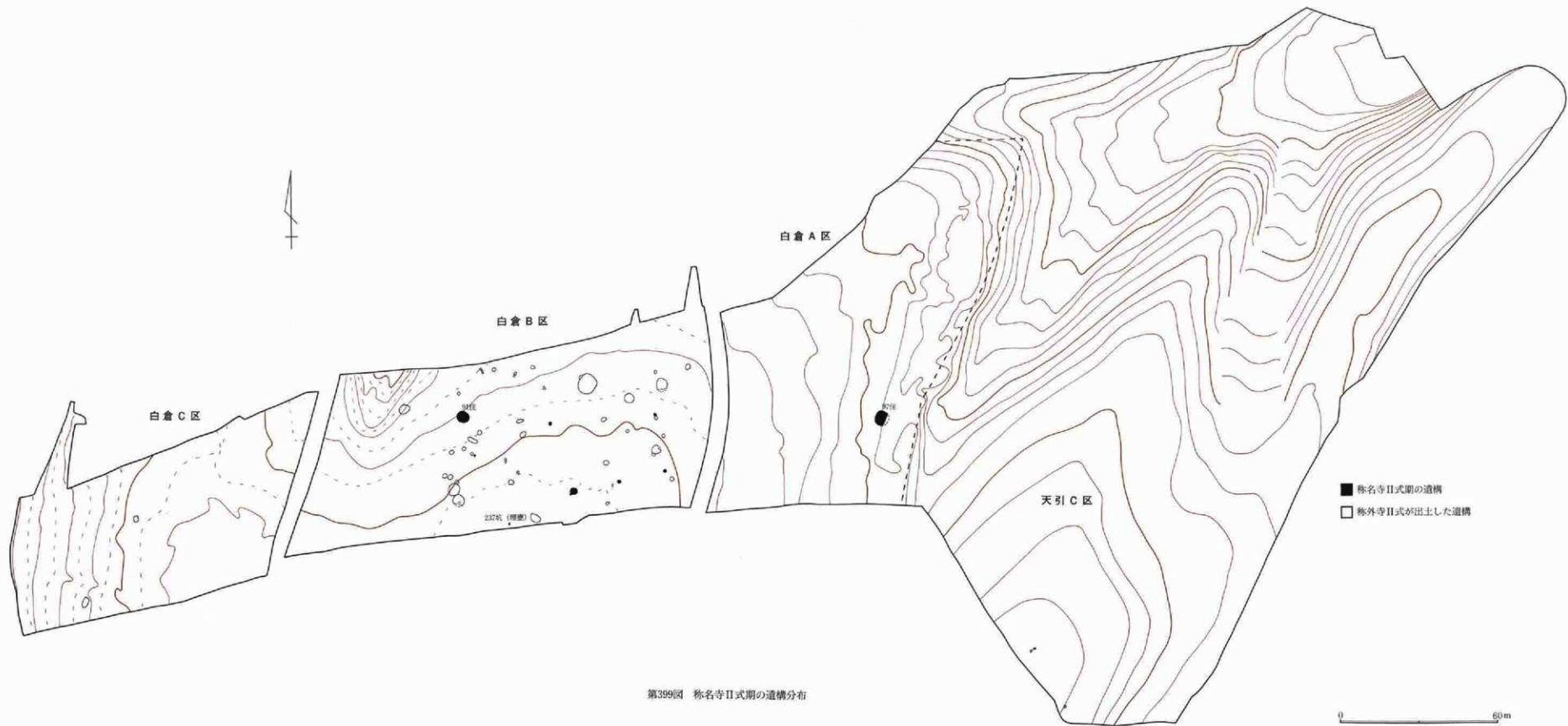
一方、住居が検出されておらず、僅か7基の土坑が散在して検出された白倉B区の土地利用をみてみ



第397図 加曾利E4期の遺構分布



第398図 称名寺 I 式期の遺構分布



第399図 称名寺II式期の遺構分布

よう。ここでは、白抜き遺構分布に示されるように、住居が検出された地区と比較して当該期の土器が多く出土している。

後期前半とした白倉B区242号土坑と同257号土坑間では、同一個体の堀之内1式が出土している。「白倉B区土坑間の遺物接合」(第390図463頁)では、この事例について「同一個体の土器が自然営力の可能性も含め約24m離れた場所に廃棄されていた状況を想定したい。」と述べた。

当該期において遺構間で同一個体の土器が確認できたのは、この僅か1例であることから確かなことはいえないが、遺構外出土物が比較的多いことを考え合わせると、この地区では、住居が展開した地区とは異なった土地利用と活発な活動が想定できるのかもしれない。

堀之内2式期(第401図)

住居は検出されず、埋戻1基と土坑13基が白倉B区で検出されている。

当該期の住居が検出されていないことは、県内で堀之内2式期の住居の検出例がきわめて少ないこととも関連するものかもしれない。あるいは、後世の土地利用によって破壊された可能性も否定はできないが、その場合に白抜きの遺構分布から遺構外出土遺物が少ないと思われる白倉A区と白倉C区及び天引C区に存在した可能性は弱いであろう。白倉A区と白倉C区は堀之内1式期の住居が検出された場所であるが、堀之内2式期において、居住域は踏襲されていないことは確認できそうである。

前段階の堀之内1式期では、白倉B区は土坑が散在して検出されているのであるが、当該期においては、ほぼその分布域を踏襲するかのようにして検出されている。白抜きで示した遺構から想像される遺構外出土土器の状況も前段階と類似しているようである。前段階と当該期において、白倉B区における土地利用が継続性をもつのか、さらには同様の土地利用がなされていたのかについては、あまりにも不明な点が多いために推測の域をでるものではない

が、土坑分布と遺構外出土土器の様相が近似することから考えると、継続した共通する土地利用がなされていた可能性は否定できない。仮に堀之内1式期において、居住活動と土坑に伴う活動が一連のものとして考えることができるならば、堀之内2式においては土坑に伴う活動は踏襲されたかもしれず、居住域は踏襲されなかったことになることを指摘しておきたい。

当該期の土坑で白倉B区6号土坑は、坑底部からまとまってトチノキの炭化種実が検出されている。炭化した原因が不明なために確かなことはいえないが、仮にこの土坑が貯蔵穴とした場合に、周囲からは同様の形状をもった土坑が検出されていないことに注目したい。

最後に、堀之内2式期以降の土地利用であるが、現在までのところ後続する加曾利B式土器は僅かに5点出土しているに過ぎない^⑧。それ以降についての土器も管見に触れていないことから、加曾利B式期を最後として、出土土器から判断する限り土地利用はおこなわれなかった可能性が強い。

以上、発掘調査区における土地利用について述べてきた。具体的な土地利用について明らかにできた部分は少なく、むしろ課題ばかりが残る分析であった。しかしながら、集落遺跡における原則と考古資料のもつ基本的な性格をふまえて各時期の土地利用を考えた場合、確認できたことも少なくない。例えば、土器型式の連続が必ずしも集落の継続を示す証拠にはならず、居住が行われた前後に住居が検出されていない場合は勿論のこと、土器型式が連続する場合や一土器型式の間にも、居住の断絶が想定される場合があった。また、想定される景観も住居が散在し、「ムラ」と呼称することがためらわれるような状況が多く見受けられたように思う。

調査区内における検討からは、土器型式の目盛りでは明らかにすることができない居住の様子が浮かびあがろう。それは、少なくとも1カ所に密集しながら定住する居住形態とは異なったものである。

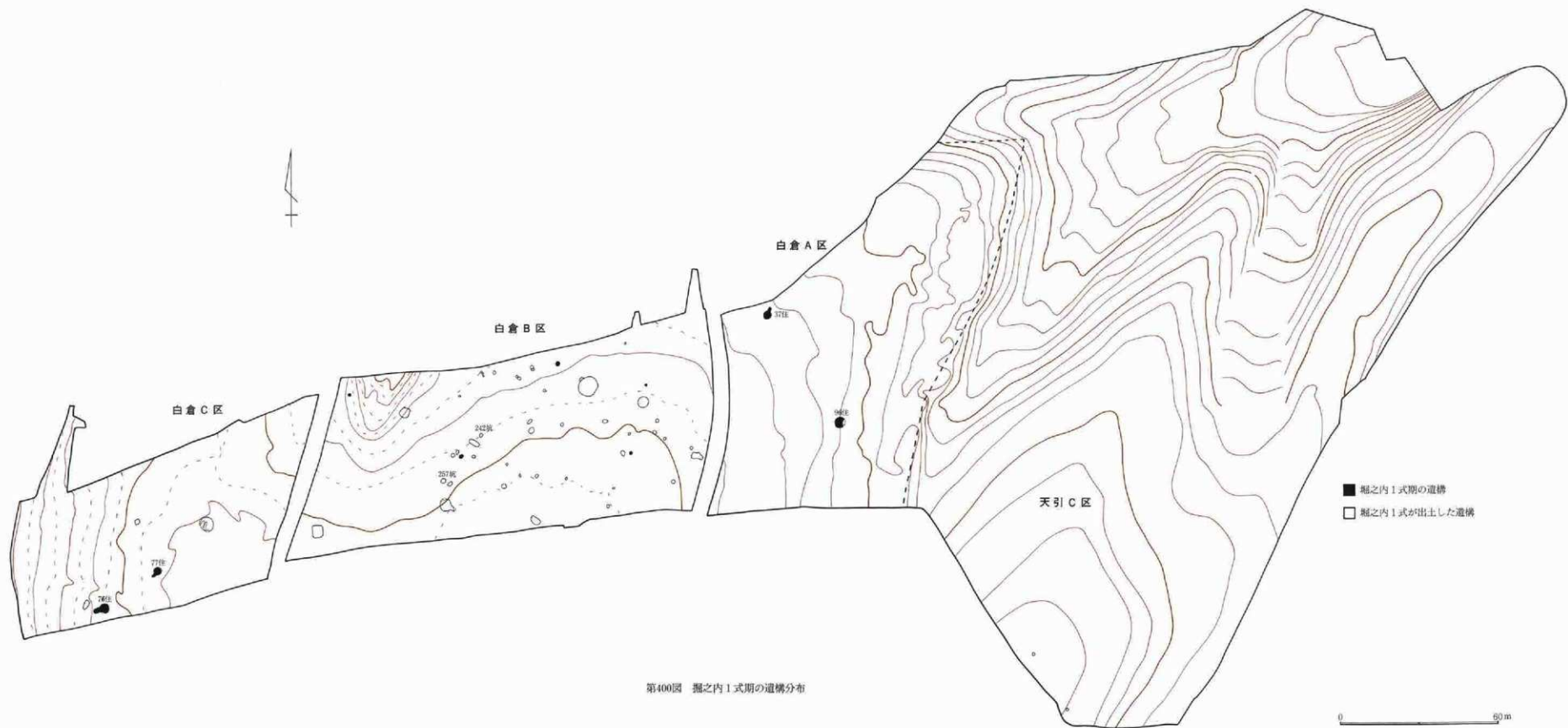
IV 成果と問題点

今後、本集落遺跡における居住の在り方を位置づけるためにも、各土器型式の分布に対応する他の集落遺跡との比較・検討の必要性を強く感じた。

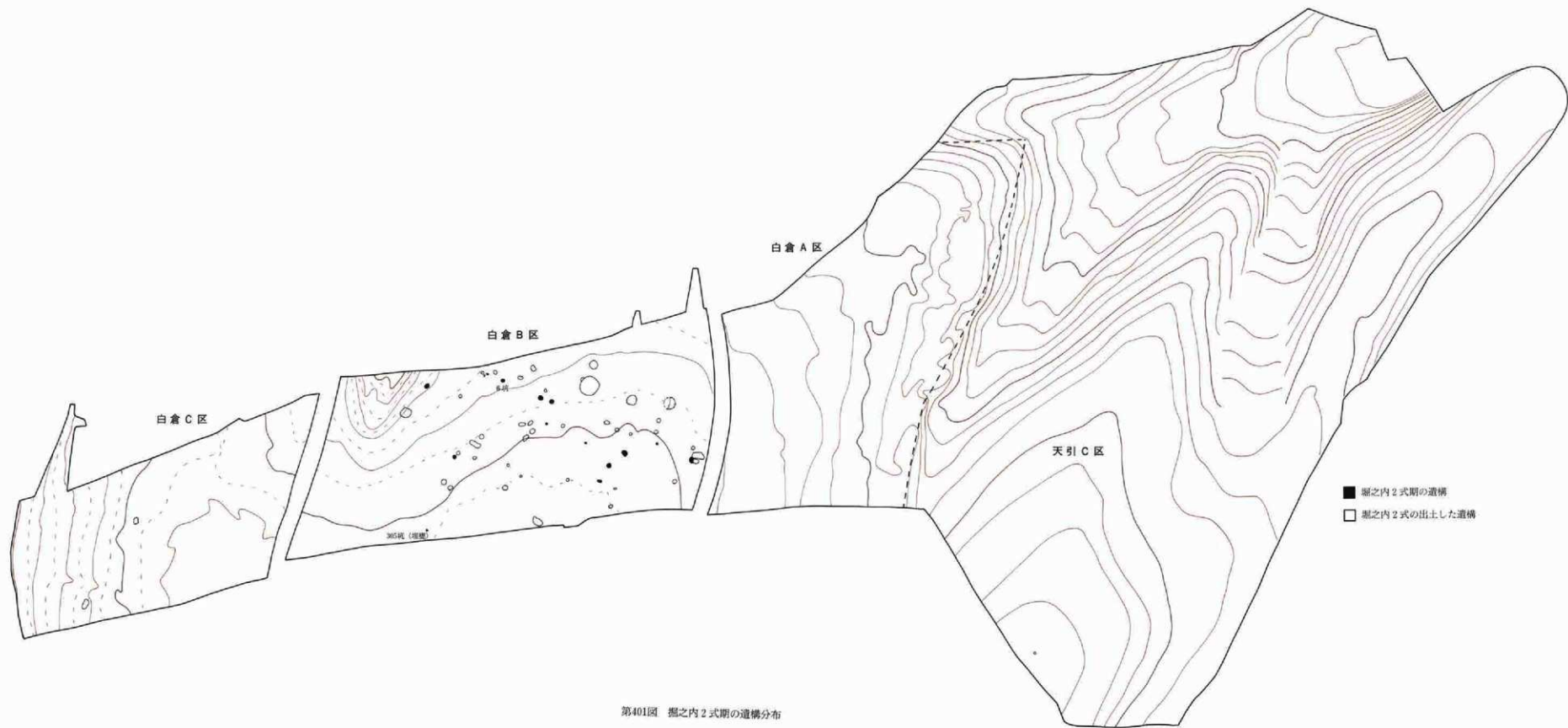
最後になるが、今回提示した資料は、さまざまな限界性を内包したものであった。全て自分の責任に帰するのはあるが、遺物の出土状態をはじめ、もっと多くの情報を取り出し提示することができていれば、いささか可能性を高めることができたことも多かったと思われる。分析にあたっては、個々の状況に応じて、資料の限界性を意識しながら考えたつもりではあるが、過ちを犯している部分が多々あるかもしれない。報告内容も含めて御批判、御教示を頂ければ幸いである。

註

- (1) 今回当該期の土器群については、「黒須式土器」と「有尾式系土器」の名称を使用した。「有尾式系土器」は、いわゆる「黒須式土器」との分離が極めて明確な、口縁部文様に彩形文もしくはその変形したものが用いられるものに限って使用した。勿論、「有尾式土器」の総体がそれ以外のものも含んでいるのが実態ではあるが、「黒須式土器」との分離が前者の力量の問題もあり「有尾式土器」とされる全てを認定することはできなかった。それゆえ、今回「黒須式」とした土器群の中には、少なからず縄文文化変形構成の「有尾式土器」が含まれているものと考えている。
- (2) 口縁上部に片点状刷文をもつ土器は管見に触れたものについては全て図化した。第113図10、第279図3、第333図20,21の種か4点に過ぎない。
- (3) 白倉B区93号住居出土土器（第83図）について、整理当初は黒須式の新しい段階と考えたが、谷藤保彦氏より、有尾1b段階と同段階であるとの御教示を得た。
- (4) 安中市大下原遺跡（大工原 1993）は、当該期の遺構が検出されている集落遺跡であるが、報告によれば、このような平面形態の土坑を立石・扉扉・掘りさきらに堆積物などから基礎と推定している。同様の観点での同報告出土土坑を検討したが、本集落遺跡の場合、同様の平面プランをもつ土坑について積極的に基礎と推定する根拠は得られなかった。
- (5) 各グリッドの点数を以下に示す。34-60 243点、35-60 120点、36-60 65点、36-61 500点、37-60 61点、37-61 225点、38-62 47点、38-63 30点、40-61 31点。
- (6) 各グリッドの点数を以下に示す。42-71 58点、43-71 40点、44-71 286点、44-72 175点、44-73 84点。
- (7) 遺構外出土土器（第333-334図24,27,29,36）などはそれにあたる。
- (8) この縄文文化のみの土器群については、当初、諸塚式期内の部分型式が特定できなかったが、当事業団発掘中の富岡市下高瀬前田遺跡（1994年度発行予定）の資料を観察させていたところ、諸塚式土器の縄文文化に類似し、諸塚（新）式土器に共存する縄文文化のみの土器とは形態が異なっていることから、諸塚式と考へた。
- (9) 白倉B区出土の9点土器は諸塚（新）式期の住居である白倉B区86号住居出土し、白倉C区出土の2点は弥生時代の30号住居（40-71グリッド）から1点（第334図41）、44-71グリッドから1点出土している。
- (10) このような状況は、先の諸塚式期の様子と類似している。しかも、諸塚式期の天引C区106号土坑と当該期における2基の土坑はいずれも平面形状が円形である。
- (11) 白倉C区におけるグリッド出土の諸塚（新）式土器は8点出土し、細別は以下のとおりである。30-64 1点、36-63 2点、36-65 2点、38-63 1点、39-75 1点、40-67 1点。また、この地区からはグリッド出土の諸塚（古）式土器はない。
- (12) 連続する土器型式の形体土器が検出された事実は、土器型式の変遷が時間差を示すという前提にたれば、この住居が2時期（諸塚（新）式期と諸塚（古）式期）において利用されていたことを示している。この場合、住居がその型式間において連続して使用されていた可能性もあるし、あるいは住居の反復利用の可能性を示唆するのかもしれない。この住居においては、調査の不備もありこれ以上考えることはできないが、今後の類似した例を持って検討する必要がある。白倉A区78号住居の場合、本文の事実記載でも述べたように、遺構平面図を研究してしまつたために柱穴の重複等の状況が不明である。なお、住居内における遺物出土状態であるが、諸塚（古）式土器は形体土器以外に1点直径20cmのところまで1点出土し、他の18点は諸塚（新）式期であった。
- (13) 白抜きで示した遺構出土の当該期の数量を地区別に述べると、白倉A区0点、白倉B区28点、白倉C区8点、天引C区26点となる。当該期の遺構が検出されていない白倉B区から、28点とやや多い出土がみられるが、これは白倉B区86号住居から20点出土しているからである。この住居は、白倉C区を主体とする調査区西側の台地に近接するところから、白倉C区の一連の活動とつて考えることができよう。また、この住居のほぼ南東のグリッド（38-49）から磨石復元が可能な2個体（第332図遺構外出土土器8、9）が出土していることも注目されよう。最後に、白倉C区における磨石II式土器のグリッド出土数は11点で、細別は以下のとおりである。36-61 4点、38-62 3点、38-63 1点、38-77 1点、41-66 2点。
- (14) 磨石式終末期における白倉C区のグリッド出土土器は314点で細別は以下のとおりである。34-60 1点、34-69 1点、35-60 5点、35-61 2点、36-60 4点、36-61 4点、36-62 5点、36-64 1点、36-78 3点、37-61 15点、37-62 4点、37-63 4点、37-64 11点、37-65 2点、37-71 2点、38-61 15点、38-62 34点、38-63 26点、38-64 1点、38-66 11点、38-71 1点、38-72 2点、38-75 1点、39-61 1点、39-62 17点、39-75 2点、39-77 4点、40-64 2点、40-69 1点、40-72 2点、41-64 1点、41-65 1点、41-66 20点、41-73 2点、42-71 1点、42-73 1点、42-76 1点、43-44 71点、44-71 33点、44-72 28点、44-73 34点、45-74 1点。なお、数量は把握できていないが、天引C区では、これほど多くの遺構外出土土器は出土していない。
- (15) 管見に触れた加曾利E1式は全て図化した。その掲載は以下のとおりである。第127図-10、第128図-18、第136図-1、第181図-2、第322図-1、第326図-68,69,70。
- (16) 加曾利E2式2点の出土位置は、いずれも白倉C区44-72グリッドである（第336図-72,73）。
- (17) 白倉C区のグリッドからは、加曾利E3式土器61点が出土している。内訳は、34-63 1点、34-69 3点、35-60 1点、35-61 2点、35-76 2点、36-61 2点、36-67 1点、36-77 1点、37-63 2点、37-66 1点、38-61 2点、38-62 5点、38-63 4点、39-77 2点、40-72 1点、40-76 1点、41-66 2点、43-73 1点、44-71 4点、44-71 3点、44-72 14点、44-73 6点。である。
- (18) 白倉B区87号住居は加曾利E3式期の遺構であるが、加曾利E3式171点と加曾利E4式2点が出土している。
- (19) この土坑が、基礎であるからかもしれないと考えたのは、長野県



第400図 堀之内1式期の遺構分布



第401図 堀之内2式期の遺構分布

明科町北村遺跡(平林1993)での墓塚の様相との比較からで、以下の3点の理由による。

北村遺跡では、当該期も含めて人骨が検出された墓塚が279基検出されているが、縄文時代の埋葬人骨が検出される可能性が低い地域においては、人骨を伴った遺物出土状態や、土坑形状などは、今後墓塚を推定する段階で有力な情報を提示してくれると思う。

まず、形状であるが、北村遺跡の報告書によれば「墓坑検出面における平面形は、(中略)現状確認された形態区分に大きな意味をもたせることはできない。強いて言えば彫形、楕円形、瓢丸長方形、長方形といった長軸・短軸が明確なものも多く、円形や正方形に近い例は土師器や集積葬といった特殊な埋葬方法による傾向がある。」(平林1993)とされ墓塚断面形状についても「大体が平坦ないし舟形である」(前期)のようである。白倉B区63号土坑(第172頁233頁)の場合、両丸長方形プランを呈し底面は平坦であり、土坑計測値も北村遺跡で示された値と齟齬をきたさない(平林1993表7)。しかしながら、同様の形状の墓塚以外の土坑が存在する可能性は否定できない。

一方、出土遺物については、どうであろうか。墓塚内からの出土遺物については、「墓坑およびこれに伴う上面配石中から出土した遺物は、土器・石器・土製品など多岐に及ぶが、その多くは埋土中に混在していたとみなされるものが圧倒的である。」(前期)とのことであるから、一般的には、副葬品とされるものも含め、遺物出土物の状況から墓塚とそれ以外の土坑を区別するのはむづかしいようである。この中で「埋土中に混在していた」とは見なすことができない遺物出土状態のものがある。それは、「前に土師器あるいは土器の大破片をのせた「葉絨り葬」(前期)とされるものである。白倉B区63号土坑からは、一方の短辺に大形破片が壁に立て掛けられるようにして検出されており、「葉絨り葬」とされる場合にも、類似すると思われる。

なお、本土坑からは、大形破片以外に土師器の小片2点が出土している。本土坑は、時期不明の土坑によって一部破壊されることなどを考えると、この土師器は時期不明土坑に由来するのかもしれない。いずれにせよ、他に縄文時代の遺物が出土していないことから、積極的に遺物が喪失されるような状況ではなかった可能性が高いのではなかろうか。

以上の理由から、この土坑を墓塚かも知れないと考えた。時期が特定できる土坑で、上記の理解から墓塚かも知れない土坑は、今回の発掘調査では検出されてはいない。時期不明とした土坑で、墓塚かもしれないものに白倉B区235号土坑(第203頁253頁)がある(後期前半)としたが、形状と整形の様子から称名寺Ⅱ式~Ⅲ式期に帰属するのではないかと考えている。

- 03 白倉C区グリッドからは、加曾利E4式24点が出土している。内訳は、34-60 1点、37-60 2点、38-62 2点、38-63 4点、39-77 1点、40-67 2点、40-76 1点、41-64 1点、42-74 1点、44-71 3点、44-72 6点である。
- 04 加曾利E式系土器については、破片から(施文順序や施文手法)加曾利E4式で分類できるもの現状ではむづかしい。そのため、各表に示した加曾利E4式の項目中には、明らかに後期に含まれるものを除いた加曾利E式系土器が含まれている可能性が極めて強い。後述する称名寺式期の遺物の中で、加曾利E4式の遺物が多く出土している遺構があるが、後期加曾利E式系土器が、その多くを占めているからなのかもしれない。
- 05 この遺構については、第398図への記載が漏れてしまった。白倉A区70号土坑から45cm離れた場所に位置している。
- 06 註2参照
- 04 この住居からは、主体部と柄部の連結部において方形の「石面状施設」が確認されている。事実記載で(60頁)、底面に石

が敷かれ被褥の痕跡が認められないこと、検出位置から埋土と同様の機能が想定される施設であることを述べた。この施設については、既に松島保治氏・石坂茂氏によって「方形の石組み施設」として同様の見解が示されている(松島・石坂1988)。さらに、石坂茂氏が「箱状の石囲い」として類似の紹介と埋土との関係についても触れている(石坂1990)。

- 05 白倉C区からは称名寺Ⅰ式が3点出土している。内訳は、33-77 1点、38-62 1点、38-63 1点である。
- 06 白倉C区からは、称名寺Ⅱ式が4点出土している。内訳は、38-62 1点、38-63 1点、41-65 1点、42-67 1点である。
- 07 白倉C区からは、Ⅲ式が4点出土している。内訳は、43-73 1点、44-72 3点である。
- 08 白倉C区からは、Ⅳ式が4点出土している。内訳は、36-61 1点、44-73 3点である。
- 09 発見に触れた5点の加曾利E式土器は、白倉B区236号土坑Ⅰ(第253図)、白倉C区39-71 1点、白倉B区12号住居(古墳時代後期)1点、白倉B区20号住居(古墳時代後期)2点である。

参 考 文 献

- 赤山容造・小宮俊久編 1990 『三原田遺跡第2巻』 群馬県企業局
 赤山容造・佐藤明人・小宮俊久編 1992 『三原田遺跡第3巻』 群馬県企業局
 荒井英樹 1991 『松葉・慈学寺遺跡』『山武考古学研究所年報』No.8 山武考古学研究所
 荒井英樹 1992 『松葉・慈学寺遺跡』『山武考古学研究所年報』No.9 山武考古学研究所
 新井和之 1982 『黒沢式土器』『縄文文化の研究』3 雄山閣
 新井 仁編 1991 『野上壇之入遺跡 壇之入城遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 新井 仁編 1993 『内匠上之入遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 飯田隆一・丸山幸弘・櫻井美枝・外山政子 1992 『天引内原遺跡』『年報』11 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 石坂 茂・藤巻幸男 1985 『加曾利E式土器について』『筑前原遺跡 赤石城址』群馬県教育委員会/(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 石坂 茂・藤巻幸男・桜岡正信 1988 『加曾利E式土器に関する一考察』『群馬の考古学』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 石坂 茂 1990 『群馬県内の称名寺式土器』『縄文後期の諸問題』縄文セミナーの会
 石坂 茂 1990 『縄文時代の遺構』『仁田遺跡・藤田遺跡』群馬県教育委員会/(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 石坂 茂・藤巻幸男・桜岡正信 1991 『縄文時代後期初期における加曾利E式系土器の一樣相』『群馬県史研究』第34号
 石坂 茂 1992 『三原田遺跡出土後期初期の土器について』『三原田遺跡第3巻』群馬県企業局
 伊藤藤雄 1992 『天神II遺跡』『山武考古学研究所年報』No.9 山武考古学研究所
 井上 太編 1990 『新井・坂詰遺跡』富岡市教育委員会
 今村啓爾 1977 『称名寺式土器の研究(上)』『考古学雑誌』第63巻第1号 日本考古学会
 今村啓爾 1977 『称名寺式土器の研究(下)』『考古学雑誌』第63巻第2号 日本考古学会
 今村啓爾 1981 『施文順子からみた諸磯式土器の変遷』『考古学雑誌』第27巻第4号 考古学研究会
 今村啓爾 1982 『諸磯式土器』『縄文文化の研究』3 雄山閣
 島形芳夫・内本真寿 1988 『鍋川右陣下築城段丘上における縄文時代遺跡分布調査』『群馬の考古学』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 小野和之・山口逸弘編 1989 『房戸遺跡I』群馬県教育委員会/(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 小野和之 1991 『南蛇井地先寺遺跡C区』『年報』10 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 小野和之編 1993 『神保塚土器遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 柳沢 勝 1988 『距離のものと運べないもの、運べる距離と運べない距離』『東京の遺跡』No.18 東京考古談話会
 藤沼幸輔編 1990 『長根羽田遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 金子世世 1988 『時期差のある土器を埋めた住居2例』『東京考古』6 東京考古談話会
 菊池 実編 1990 『日藤中原遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 木村 收 1991 『天引内原遺跡』『年報』10 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 木村 收 1992 『内匠近防前遺跡 内匠日影用地遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 木村 收 1992 『群馬県域における縄文時代前期後半の居住形態—諸磯b新〜c式器を中心として—』『研究紀要』10 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 朝生直彦 1989 『住居址土器総合資料の捉え方—現状認識のためのノート—』『土曜考古』第13号 土曜考古学研究会
 黒尾和久 1988 『縄文時代中期の居住形態』『歴史評論』No.454 歴史学協定会編 校倉書房
 黒尾和久 1988 『型欠住居出土土物の一般のあり方について—「吹上パターン」の資料論的検討を中心に—』『玉口時雄先生古稀記念考古学論文集』
 黒尾和久・佐伯直世・渡江芳浩編 1993 『はらやま 調布市原山遺跡調査会』
 小林謙一 1993 『縄文遺跡における商業行為復元の試み』『異報』第13号
 小村裕二・木村 收 1991 『白倉下原遺跡』『年報』10 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 小村正之 1991a 『西原遺跡』『山武考古学研究所年報』No.8 山武考古学研究所
 小村正之 1991b 『天神I遺跡』『山武考古学研究所年報』No.8 山武考古学研究所
 坂井 隆・木村 收・山口良寛 1991 『天引區時遺跡』『年報』9 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 桜岡正信 1987 『関分寺中間地城遺跡出土 縄文時代中期土器について』『研究紀要』4 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 桜岡正信 1989 『縄文時代中期後半の土器について』『大平台遺跡』群馬県教育委員会/(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 桜岡正信・藤巻幸男 1992 『三原田遺跡出土中期後半期の土器について』『三原田遺跡第3巻』群馬県企業局
 塩野崎直子編 1988 『宇津木台遺跡群X』八王子市宇津木台地区遺跡調査会
 塩野崎直子・前崎 陽・前地ひろみ・新屋 康編 1989 『宇津木台遺跡群XIV』八王子市宇津木台地区遺跡調査会
 浪川芳浩・柳沢 勝編 1987 『宇津木台遺跡群IX』八王子市宇津木台地区遺跡調査会
 浪川芳浩・黒尾和久 1987 『縄文時代前期末葉の住居形態〈宇野〉』『貝塚』29 物質文化研究会
 浪川芳浩・前崎 陽・柳沢 勝・前地ひろみ編 1988 『宇津木台遺跡群X』八王子市宇津木台地区遺跡調査会
 浪川芳浩 1989 『3, おわりに』『宇津木台遺跡群X組』八王子市宇津木台地区遺跡調査会
 下城 正編 1989 『大平台遺跡』群馬県教育委員会/(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 船山林蔵・土井義夫・戸井晴夫編 1982 『宇津木台遺跡群I』八王子市宇津木台地区遺跡調査会
 鈴木健雄 1990 『称名寺・堀之内I式研究の諸問題』『縄文後期の諸問題』縄文セミナーの会
 須田 茂編 1992 『黒熊中西遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 須田茂編 1991 『久田遺跡II』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 岡村直二 1986 『(2)日野・田群土器の変遷』『赤井宮前遺跡II』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 山口正徳 1988 『大島上城遺跡 北山茶臼山西古墳』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
 谷藤保彦 1988 『北関東における「有尾式土器」の変遷』『考古学叢考』下巻 斎藤思生先生追記論文集発行会
 谷藤保彦 1990 『筑前原の土器群』『縄文後期の諸問題』縄文セミナーの会

- 大工原 豊編 1993 『大下原遺跡・吉田原遺跡』 安中市教育委員会
- 戸井晴夫編 1983 『宇津木台遺跡群Ⅱ』 八王子市宇津木台地区遺跡調査会
- 土井義夫・戸井晴夫・塩野高直・浜江芳浩編 1984 『宇津木台遺跡群Ⅳ』 八王子市宇津木台地区遺跡調査会
- 土井義夫 1985 『縄文時代集落論の原理的問題—集落遺跡の二つのあり方をめぐって—』『東京考古』3 東京考古談話会
- 土井義夫・戸井晴夫・浜江芳浩編 1985 『宇津木台遺跡群Ⅴ』 八王子市宇津木台地区遺跡調査会
- 土井義夫 1986 『遺物散布地と遺構の発見されない遺跡』『東京の遺跡』No.12 東京考古談話会
- 土井義夫・浜江芳浩編 1986 『宇津木台遺跡群Ⅵ』 八王子市宇津木台地区遺跡調査会
- 土井義夫・浜江芳浩 1987 『平安時代の居住形態』『物質文化』40 物質文化研究会
- 土井義夫 1988 『考古資料の性格と転換期の考古学』『歴史評論』No.454 歴史科学協議会編 校倉書房
- 土井義夫・藤野修一・黒尾和久・金子直樹編 1989 『宇津木台遺跡群ⅢⅢ』 八王子市宇津木台地区遺跡調査会
- 土井義夫 1989 『V. あとがき』『宇津木台遺跡群ⅢⅢ』 八王子市宇津木台地区遺跡調査会
- 土井義夫 1989 『考古学方法論ノート(Ⅲ)』『貝原』43 物質文化研究会
- 徳江秀夫編 1985 『宮城二之瀬遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 富田一仁編 1992 『矢田遺跡Ⅲ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 富田一仁編 1993 『矢田遺跡Ⅳ』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 中沢 信綱 1993 『多胡蛇黒遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 新屋 康・岩崎 陽編 1987 『宇津木台遺跡群Ⅷ』 八王子市宇津木台地区遺跡調査会
- 新屋 康・岩崎ひろみ編 1988 『宇津木台遺跡群Ⅷ』 八王子市宇津木台地区遺跡調査会
- 西村正富 1972 『阿玉台式土器編年的研究の概要』『早稲田大学文学研究紀要』第18輯
- 沼崎 陽・戸井晴夫編 1983 『宇津木台遺跡群Ⅱ』 八王子市宇津木台地区遺跡調査会
- 能登 健 1975 『縄文文化解明における地域研究のあり方』『信濃』第27巻第4号 信濃史学会
- 能登 健・下城 正編 1977 『粟の木平遺跡』群馬県教育委員会
- 能登 健・石坂 茂 1980 『重弘文土器の系譜』『信濃』第32巻第4号 信濃史学会
- 京 豊信 1991 『天引狐崎遺跡』『年報』10 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 春山秀幸編 1990 『矢田遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 平林 彰 1993 『2 基坑』『北村遺跡』長野県教育委員会／(財)長野県埋蔵文化財センター
- 藤野修一・黒尾和久・浜江芳浩編 1982 『宇津木台遺跡群Ⅵ』 八王子市宇津木台地区遺跡調査会
- 藤巻幸男・板垣正信 1989 『群馬県における加賀利E4式土器について』『縄文中期の諸問題』群馬県考古学研究所
- 藤巻幸男・谷藤保彦・小島達夫・外山政子 1990 『神保松遺跡』『年報』8 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 藤巻幸男・内木真琴・小島達夫・外山政子 1991 『白倉下原遺跡、天引(向原)遺跡』『年報』9 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 松島榮二・石坂 茂 1988 『長井(権田)遺跡』『群馬県史』資料編1 群馬県史編さん委員会
- 右島和夫・関口博幸・飯塚初子 1991 『白倉下原遺跡』『年報』9 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 右島和夫編 1992 『神保下原遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 村田文夫 1975 『網鏡形住居址考』『古代文化』第25巻4号
- 村田文夫 1979 『続・網鏡形住居址考』『考古学ジャーナル』No.170 ニューティエンス社
- 森田秀英編 1972 『群馬県遺跡台帳Ⅱ』群馬県教育委員会
- 森本伊知郎 1985 『勝坂式土器の文様構成について—関東と中部における比較—』『信濃』第37巻4号 信濃史学会
- 山口逸弘 1989 『群馬県 中期前半の土器』『縄文中期の諸問題』群馬県考古学研究所
- 山本暉久 1976 『敷石住居出現のもつ意味』『古代文化』第28巻2・3号
- 山本暉久 1980 『縄文時代中期終末期の集落』『神奈川考古』第9号 神奈川考古同人会
- 山本暉久 1982 『敷石住居』『縄文文化の研究』8 旭山閣
- 依田治雄編 1988 『田藤上平遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 緒貫鋭次郎・菊池 実・田口正美・亀山幸弘 1990 『長根安坪遺跡』『年報』8 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 緒貫鋭次郎編 1991 『白石大御堂遺跡』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

報告書抄録

フリガナ	シラクラシモハラ・アマビキムカイハライセキ
書名	白倉下原・天引向原遺跡II
副書名	関越自動車道(上越線)地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第25集
シリーズ名	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第172集
編集者名	木村 収
編集機関	(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒377 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
発行年月日	西暦1994年3月25日

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北緯 °' "	東経 °' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
白倉下原 ・ 天引向原	甘楽郡 甘楽町	103845	10005-1	36°14'14"	138°56'23"	19890401-	白倉下原 26,978 天引向原 38,465 計65,443	道路建設
			00294	∩	∩	19910820		
	大字白倉 大字天引	103845	10005-1	36°14'21"	138°56'35"	∩		
			00293	∩	138°56'36"			
					138°56'55"			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
白倉下原 ・ 天引向原	集落遺跡	縄文時代 黒浜式期 勝板II式期 勝板式 終末期 加曾利 E3~4式期 称名寺式期 掘之内式期	住居址 43軒 竪穴状 遺構 1基 埋壘 12基 土坑 290基	当該期の土器と石器 トチノキの炭化種実	前期中葉 ∩ 後期前半 の集落遺跡 時期によって 住居の主たる 地区が異なる

付篇 出土種実の放射性炭素年代測定と同定

株式会社 バレオ・ラボ

1 出土種実の放射性炭素年代測定結果

試料は、白倉B区6号土坑内の埋積層に包含されていたトチノキの炭化種子である。以下に年代測定の結果を示す。

なお、年代値の算出には¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5570年を使用しています。また、付記した誤差は β 線の計数値の標準偏差 σ にもとずいて算出した年数で、標準偏差(One sigma)に相当する年代です。また、試料の β 線計数率と自然計数率の差が 2σ 以下のときは、 3σ に相当する年代を下限の年代値(B.P)として表示してあります。また、試料の β 線計数率と現在の標準炭素(MODERN STANDARD CARBON)についての計数率との差が 2σ 以下のときは、Modernと表示し、 $\delta^{14}C\%$ を付記してあります。

表 出土種実の放射性炭素年代測定結果

Code No.	試料	年代(1950年よりの年数)
Gak-16984	トチノキの炭化種子	$4,210 \pm 90$ years BP
		2,260 B. C.

2 白倉B区より出土した炭化種実について

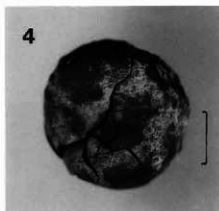
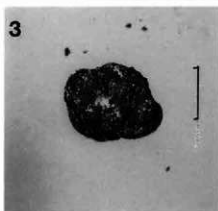
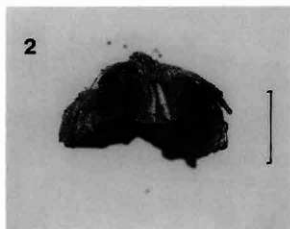
吉川 純子

白倉B区6号土坑より出土した多量の炭化種実は、完形のものも多く保存は大変良好であった。炭化しているため、ひび割れが生じたり、割れているものも多かったが、それらも完形の種実と同種であることがすぐに確認できる。同定の結果、炭化種実はすべてトチノキの種子である。

トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) の種子は、

薄くやや堅い種皮に包まれている。種子は球を上下に押しつぶした形をしており、全体に不規則なゆるい凹凸があり、この凹凸は、乾燥するほど顕著になる。種子の下半分は褐色でややざらつき光沢がない、果皮についている部分で、上半分は黒褐色で光沢がある。下半部と上半部の境界付近にはやや下半部に突出したへそがある。図版に示したNo2の中央部分がこのへそに当たる。炭化して、種皮がとれたものは種皮よりもさらに細かい凹凸があるのが確認できる。

トチノキは複雑なあくぬきをして、食用とするのはよく知られており、昭和初期まで比較的高値で取り引きされていたようである。このトチノキの種子の集積も食糧として集められたものであろう。



白倉B区6号土坑出土の炭化種実

1～4トチノキ 1、種子半分 2、種子半分 中央部分がへそ
3、種子の皮が完全にこれているもの 4、完形の種子

写 真 图 版



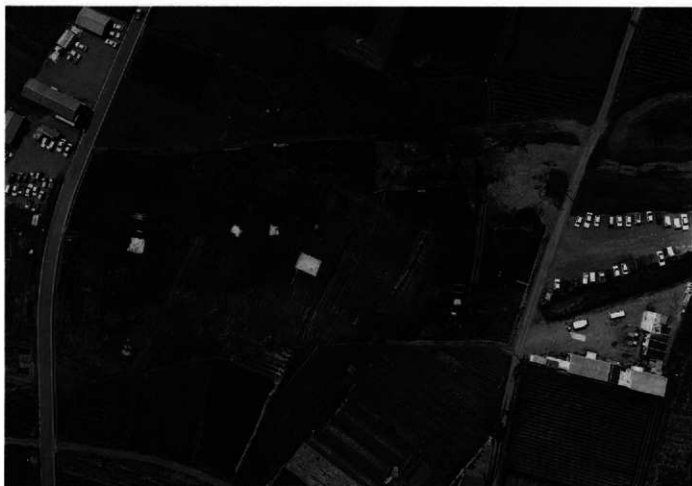
現況と周辺地形(南東から)



全景 (西から)



某地区卫星影像图



白倉B区全景



白倉C区全景(北から)



21号住居遺物出土状態(南から)



21号住居遺物出土状態(南から)



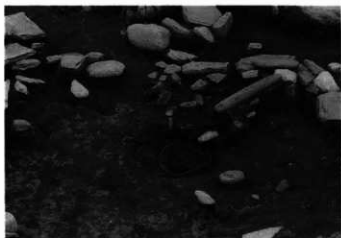
21号住居全景(南から)



21号住居炉(南から)



21号住居埋壑検出状態



37号住居



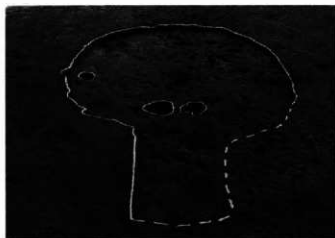
37号住居



37号住居全景(南から)



37号住居炉調査状況



37号住居敷石除去状態(北から)



78号住居セクション(西から)



78号住居遺物出土状態(北から)



78号住居全景(北から)



78号住居炉検出状況



78号住居炉セクション



96号住居内配石遺構(東から)



96号住居内配石調査状況(南から)



96号住居セクション(北東から)



96号住居全景(東から)



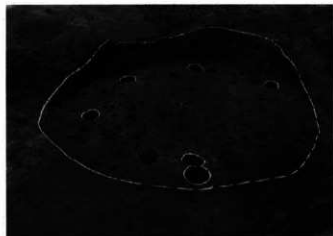
96号住居全景(北東から)



96号住居遺物出土状態(東から)



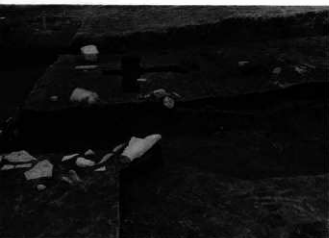
96号住居敷石除去状態(南東から)



96号住居旧住居全景(東から)



97号住居全景(東から)



97号住居セクション(北から)



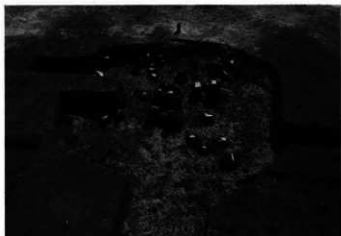
97号住居炉調査状況(北から)



97号住居炉調査状況(北から)



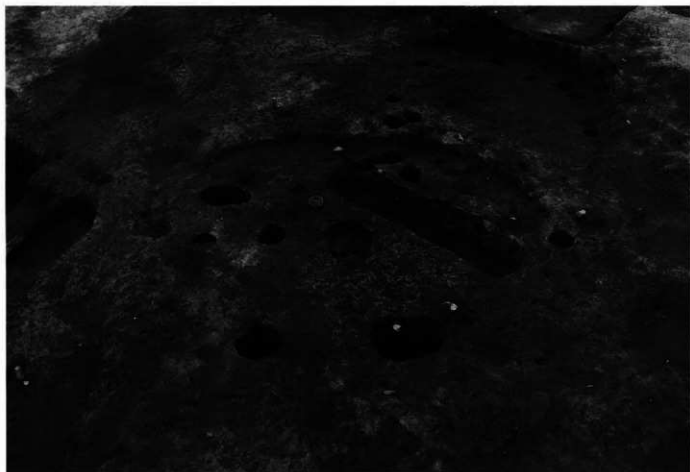
97号住居炉調査状況(北から)



110号住居遺物出土状態(西から)



110号住居全景(西から)



111号住居全景(東から奥は96号住居)



111号住居全景(南から)



111号住居埋葬調査状況(南から)



25号住居遺物出土状態(北東から)



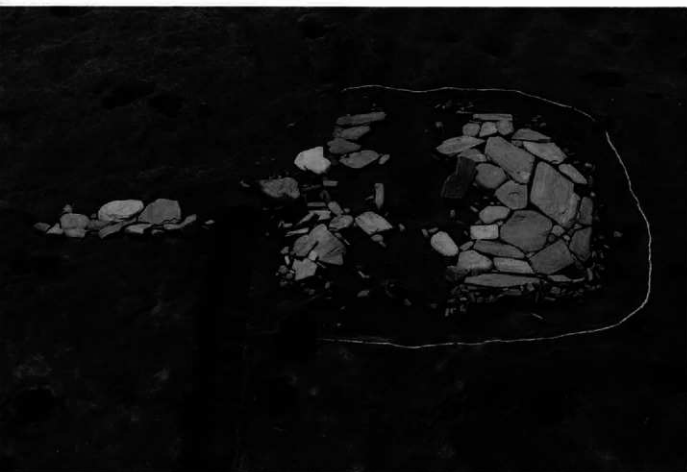
25号住居遺物出土状態



25号住居東側黒曜石集中地点



25号住居全景(北東から)



26号住居全景(東から)



26号住居車輪部セクション(西から)



26号住居全景(南から)



26号住居伊(西から)



26号住居石円状遺構調査状況(北西から)



26号住居埋壙調査状況(南から)



26号住居西壁掘り方セクション(南から)



26号住居東壁掘り方セクション(南から)



26号住居掘り方全景(南から)



27号住居調査状況(東から)



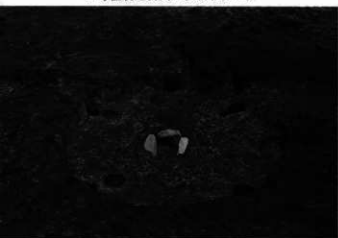
27号住居セクション(東から)



27号住居遺物出土状態(南から)



27号住居遺物出土状態



27号住居全景(南から)



27号住居炉調査状況



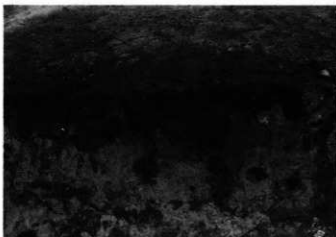
27号住居炉



27号住居炉掘り方



42号住居遺物出土状態(南から)



42号住居炉セクション(西から)



42号住居埋燬調査状況



42号住居全景(南から)



43号住居遺物出土状態(西から)



43号住居全景(北から)



43号住居炉(北から)



43号住居掘り方(南から)



49号住居遺物出土状態(西から)



49号住居遺物出土状態



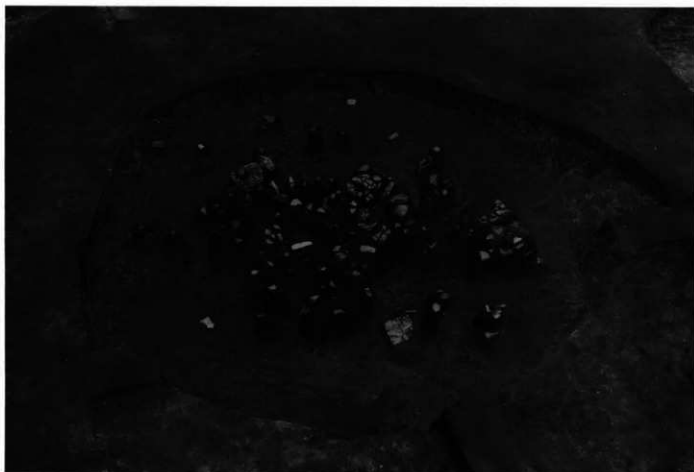
49号住居炉(西から)



49号住居全景(南から)



71号住居遺物出土状態



71号住居遺物出土状態(南から)



71号住居炉



71号住居全景(南から)



74号住居セクション(西から)



74号住居・192号土坑遺物出土状態(西から)



86号住居遺物出土状態(西から)



86号住居全景(西から)



86号住居セクション(南から)



86号住居遺物出土状態



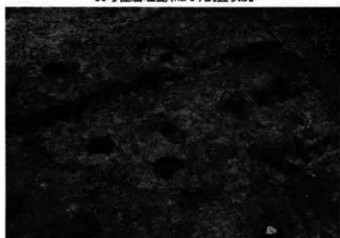
86号住居埋壘(No.2)調査状況



86号住居埋壘(No.1)調査状況



87号住居炉調査状況(西から)



87号住居掘り方全景(南から)



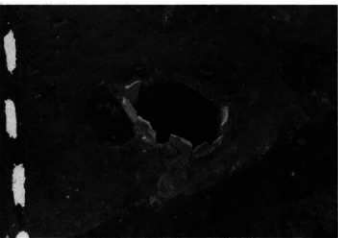
88号住居炉(南から)



88号住居炉掘り方(北から)



89号住居全景(東から)



89号住居 1号埋甕(No. 2) 調査状況



89号住居 3号埋甕(No. 1) 調査状況



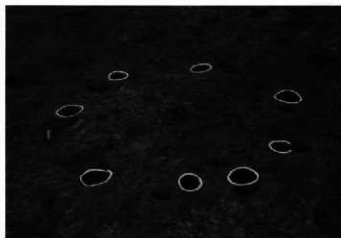
89号住居 2号埋甕(No. 3・4) 確認状況



89号住居 2号埋甕(No. 3・4) 調査状況



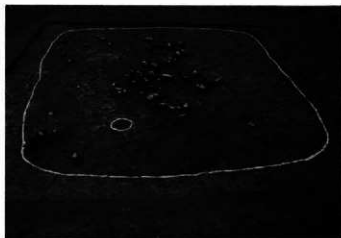
89号住居掘り方全景(東から)



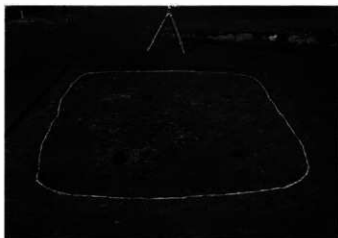
91号住居全景(南から)



91号住居炉



93号住居遺物出土状態(南から)



93号住居全景(南から)



76号住居調査状況(東から)



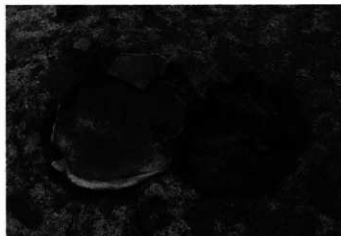
76号住居調査状況(北から)



76号住居全景(西から)



76号住居柄部(西から)



76号住居炉(南から)



77号住居炉(西から)



77号住居(南から)



77号住居全景(南から)



78号住居セクション(西から)



78号住居全景(東から)



80号住居遺物出土状態(東から)



80号住居遺物出土状態



81号住居遺物出土状態(東から)



81号住居セクション(西から)



81号住居全景(北から)



82号住居遺物出土状態(北から)



82号住居炉



82号住居全景(西から)



84号住居遺物出土状態(西から)



84号住居炉(南から)



85号住居調査状況(南から)



85号住居遺物出土状態(西から)



85号住居全景(東から)



85号住居炉(東から)



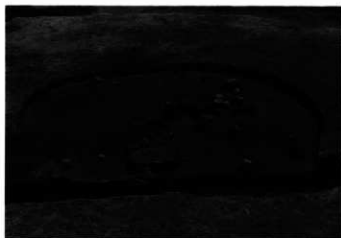
86号住居セクション(南西から)



86号住居(北西から)



59号住居調査状況(南から)



59号住居遺物出土状態(西から)



59号住居遺物(No.1)出土状態(北から)



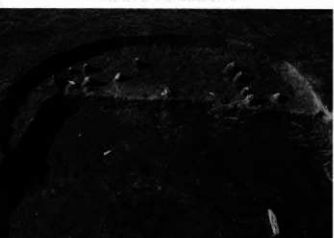
59号住居全景(北から)



59号住居掘り方全景(南から)



78号住居(左側)セクション(南から)



78号住居遺物出土状態(東から)



101号住居遺物出土状態(北から)



101号住居全景(北から)



101号住居埋室(No.1)検出状態(北西から)



101号住居1号炉セクション(東から)



101号住居1号炉(北西から)



101号住居1号掘り方セクション(東から)



101号住居1号炉掘り方(東から)



101号住居2号炉(北から)



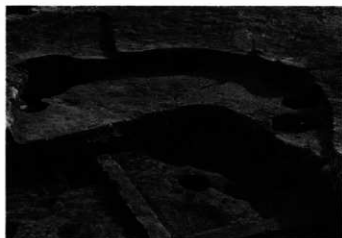
101号住居掘り方調査状況(南から)



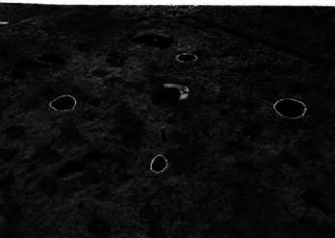
103号住居遺物出土状態(南から)



103号住居セクション(東から)



103号住居全景(北から)



104号住居全景(北から)



104号住居炉(北から)



118号住居全景(北西から)



118号住居埋裏検出状態(南から)



118号住居炉(南から)



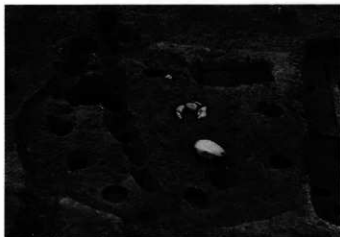
118号住居炉調査状況(南から)



118号住居埋裏調査状況(西から)



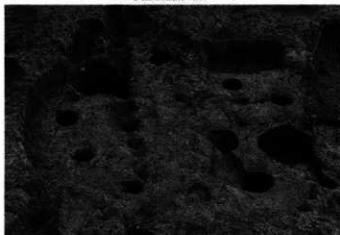
125号住居調査状況(東から)



125号住居全景(南から)



125号住居炉(南から)



125号住居掘り方(南から)



127号住居調査状況(南から)



127号住居全景(南から)



127号住居炉(西から)



127号住居掘り方(南から)



129号住居調査状態(北から)



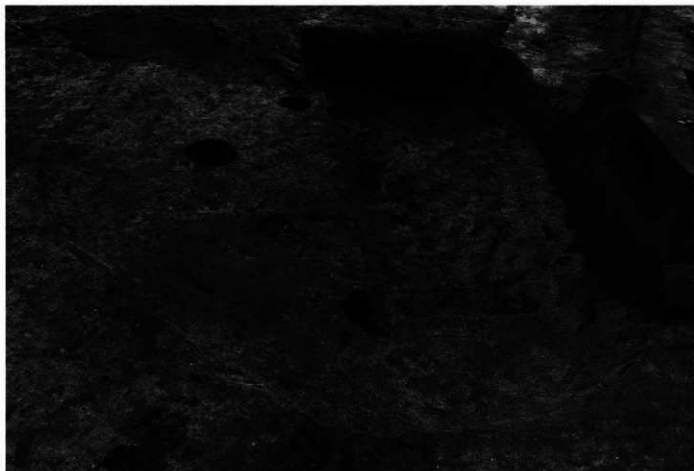
129号住居遺物出土状態(南から)



129号住居全景(南から)



134号住居炉調査状況(南西から)



134号住居全景(西から)



138号住居遺物出土状態(南から)



138号住居調査状況(東から)



138号住居全景(南から)



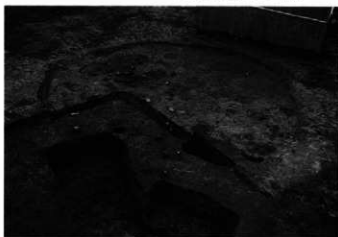
138号住居炉(南から)



138号住居掘り方調査状況(南から)



144号住居調査状況(南から)



144号住居遺物出土状態(北から)



144号住居全景(北から)



144号住居埋裏調査状況(南から)



144号住居1号炉調査状況(東から)



144号住居1号炉(南から)



144号住居2号炉(南から)



144号住居1号炉(手前)・2号炉(奥)(東から)



147号住居調査状況(東から)



147号住居調査状況(南から)



147号住居遺物出土状態(東から)



147号住居全景(東から)



150号住居確認状況(西から)



150号住居調査状況(南から)



150号住居調査状況(東から)



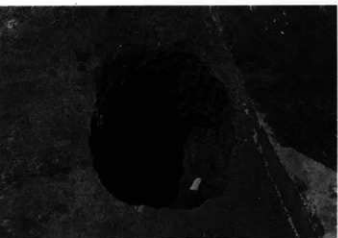
150号住居遺物出土状態(南から)



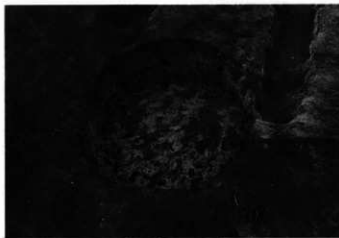
150号住居全景(南から)



150号住居掘り方調査状況(南から)



白倉A区70号土坑(東から)



白倉B区2号土坑(東から)



白倉B区6号土坑炭化トチの実出土状況(東から)



白倉B区6号土坑炭化トチの実出土状況(南から)



白倉B区6号土坑セクション(南から)



10号土坑(中央)全景 左11号土坑・右9号土坑



13号土坑調査状況(西から)



15号土坑全景(奥) 手前14号土坑



18号土坑全景(南から)



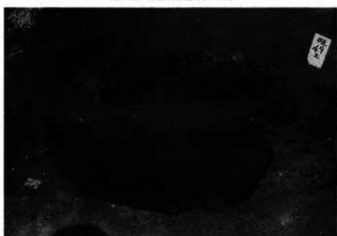
36号土坑セクション(南から)



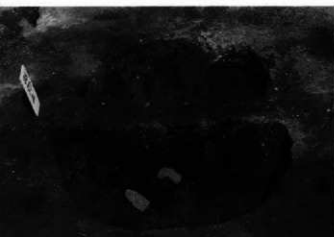
36号土坑全景(南から)



41号土坑全景(東から)



49号土坑セクション(南から)



50号土坑セクション(南から)



54号土坑(左)・53号土坑(右)全景(東から)



55号土坑全景(西から)



57号土坑遺物出土状態



58号土坑遺物出土状態(北から)



58号土坑全景(北から)



59号土坑セクション(南から)



59号土坑遺物出土状態(東から)



63号土坑全景(東から)



65号土坑全景(東から)



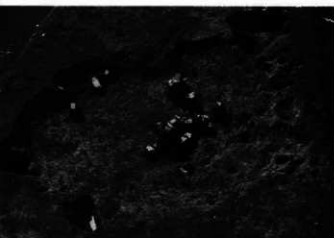
66号土坑遺物出土状態(東から)



69号土坑セクション(南から)



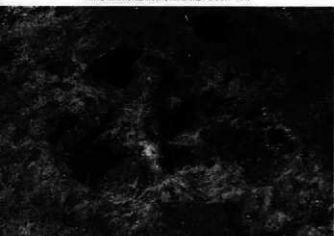
69号土坑全景(南から)



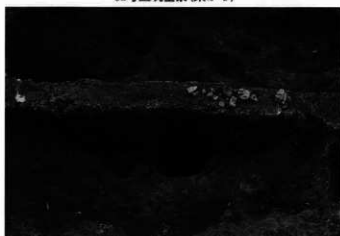
80号土坑遺物出土状態(東から)



82号土坑全景(東から)



84号土坑全景(東から)



85号土坑セクション(北から)



85号土坑全景(東から)



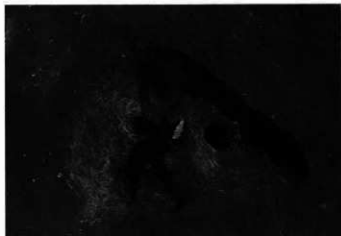
86号土坑全景(西から)



87号土坑全景(南から)



89号土坑全景(北から)



90号土坑全景(北から)



94号土坑全景(南から)



96号土坑全景(北から)



99号土坑全景(北から)



100号土坑遺物出土状態(南から)



102号土坑全景



108号土坑全景(北から)



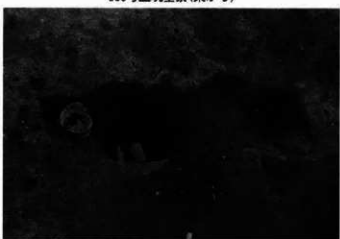
115号土坑全景(北から)



116号土坑全景(東から)



121号土坑確認状況(南から)



121号土坑遺物出土状態(北から)



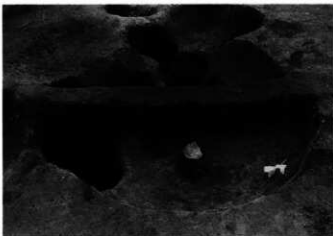
122号土坑調査状況(西から)



123号土坑調査状況(西から)



124号土坑調査状況(東から)



126号土坑調査状況(南から)



128号土坑全景(南から)



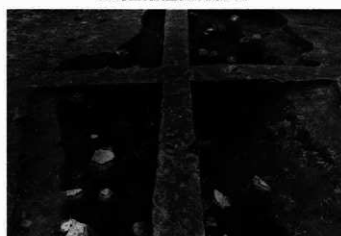
130号土坑調査状況(南から)



131号土坑調査状況(南から)



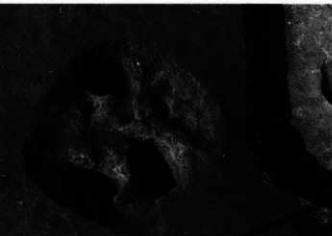
134号土坑全景(西から)



139号土坑調査状況(西から)



143号土坑調査状況(南から)



144号土坑全景(南から)



148号土坑遺物出土状態(北から)



148号土坑全景(北から)



150号土坑調査状況(南から)



164号土坑全景(北から)



165号土坑遺物出土状態(北から)



165号土坑遺物出土状態(北から)



165号土坑全景(西から)



166号土坑全景(北から)



171号土坑調査状況(南から)



171号土坑遺物出土状態(北西から)



172号土坑遺物出土状態(南から)



173号土坑(左)・172号土坑(右)遺物出土状態(南から)



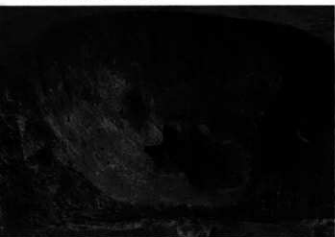
175号土坑全景(西から)



181号土坑遺物出土状態(南から)



182号土坑全景(北から)



185号土坑遺物出土状態(南から)



187号土坑遺物出土状態



189号土坑遺物出土状態(東から)



191号土坑調査状況(南から)



191号土坑全景(南から)



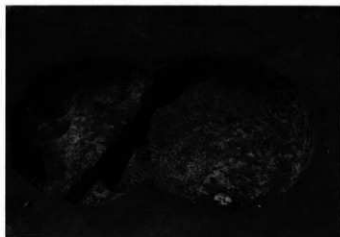
192号土坑遺物出土状態(西から)



193号土坑遺物出土状態(西から)



195号土坑遺物出土状態(西から)



196号土坑(左)・199号土坑(右)全景(東から)



202号土坑全景(西から)



204号土坑全景(東から)



205号土坑遺物出土状態(南から)



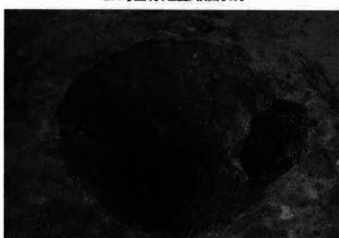
212号土坑遺物出土状態(南から)



214号土坑(埋壘)検出状況



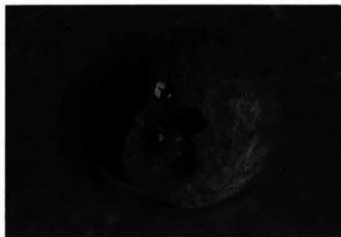
214号土坑(埋壘)全景



214号土坑(埋壘)掘り方全景



217号土坑全景(北から)



225号土坑遺物出土状態(南から)



228号土坑セクション(西から)



234号土坑セクション(南から)



235号土坑調査状況(南から)



237号土坑(埋壘)全景



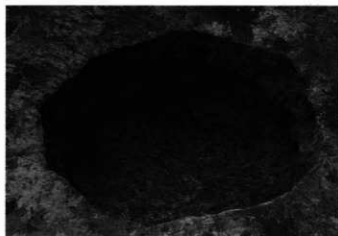
237号土坑(埋壘)調査状況(西から)



238号土坑遺物出土状態(南から)



242号土坑全景(西から)



243号土坑全景(北から)



244号土坑遺物出土状態(北から)



244号土坑遺物出土状態(西から)



244号土坑遺物出土状態(東から)



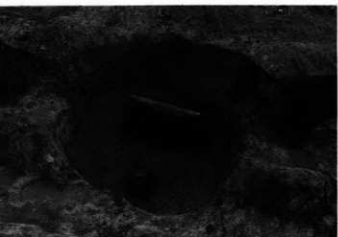
246号土坑遺物出土状態(東から)



248号土坑遺物出土状態(北から)



250号土坑全景(北から)



255号土坑遺物出土状態(西から)



257号土坑全景(北から)



259号土坑遺物出土状態(西から)



261号土坑(埋葬)遺物出土状態(北から)



262号土坑(埋葬)調査状況(西から)



262号土坑(埋葬)調査状況(南から)



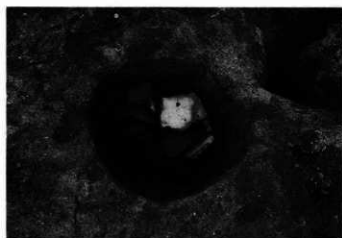
262号土坑(埋葬)調査状況(南から)



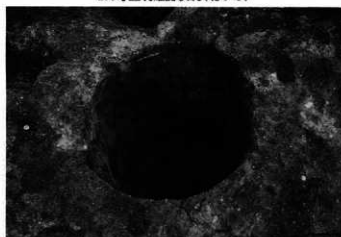
272号土坑全景(南から)



273号土坑確認状況(北から)



273号土坑調査状況(南から)



273号土坑全景(西から)



274号土坑確認状況(北から)



277号土坑遺物出土状態(南東から)



278号土坑全景(北から)



279号土坑遺物出土状態(東から)



280号土坑遺物出土状態(南から)



281号土坑遺物出土状態(北から)



282号土坑遺物出土状態(東から)



283号土坑遺物出土状態(東から)



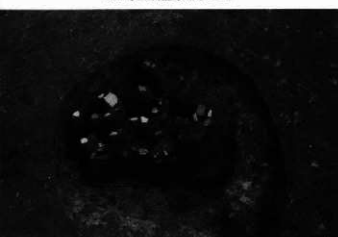
285号土坑全景(南から)



286号土坑全景(南から)



287号土坑遺物出土状態(北から)



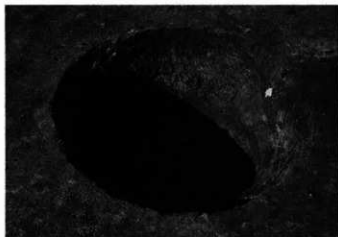
288号土坑遺物出土状態(西から)



290号土坑(埋壘)確認状況(東から)



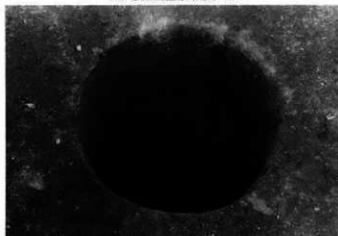
290号土坑(埋壘)全景(西から)



291号土坑全景(南から)



295号土坑遺物出土状態(南から)



296号土坑全景



298号土坑遺物出土状態(南から)



299号土坑遺物出土状態(西から)



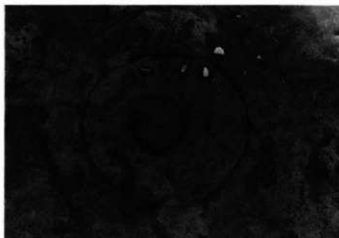
300号土坑調査状況(南から)



305号土坑(埋壘)全景(南から)



13号土坑遺物出土状態(東から)



14号土坑(埋壘)確認状況



14号土坑調査状況(南から)



41号土坑全景(西から)



44号土坑確認状況(東から)



45号土坑遺物出土状態(北から)



51号土坑調査状況(西から)



56号土坑セクション(南から)



58号土坑遺物出土状態(北から)



59号土坑遺物出土状態(北東から)



82号土坑遺物出土状態(東から)



85号土坑遺物出土状態(東から)



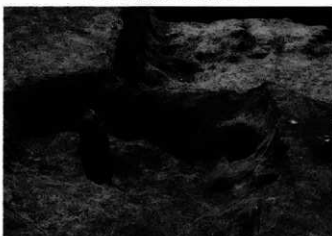
90号土坑(右)・91号土坑(左)全景(東から)



95号土坑遺物出土状態(西から)



96号土坑遺物出土状態(東から)



97号土坑全景(北から)



98号土坑全景(西から)



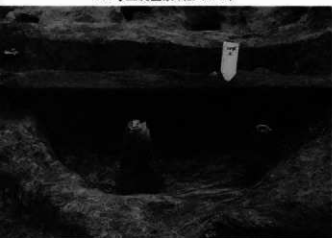
99号土坑全景(西から)



100号土坑全景(北西から)



101号土坑遺物出土状態(北から)



104号土坑セクション(東から)



109号土坑遺物出土状態(南から)



116号土坑遺物出土状態(北から)



118号土坑全景(東から)



120号土坑全景(東から)



122号土坑全景(東から)



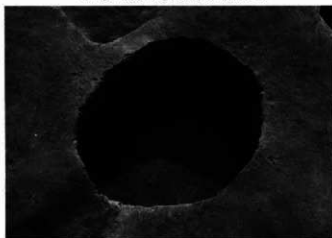
126号土坑(埴塼)全景(南から)



128号土坑(埴塼)調査状況(東から)



131号土坑遺物出土状態(西から)



135号土坑全景(北から)



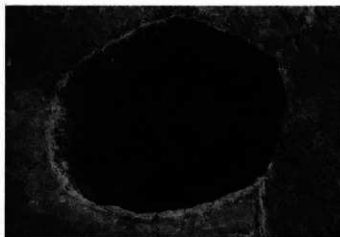
138号土坑遺物出土状態(西から)



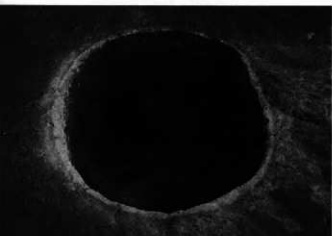
140号土坑全景(南から)



143号土坑全景(北から)



147号土坑全景(北から)



148号土坑全景(北から)



151号土坑(築石)土坑全景(北から)



153号土坑遺物出土状態(北西から)



157号土坑調査状況(南から)



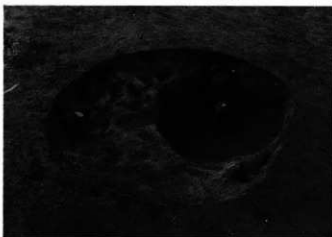
158号土坑全景(西から)



159号土坑全景(西から)



164号土坑遺物出土状態(東から)



165号土坑全景(東から)



166号土坑全景(西から)



167号土坑全景(西から)



170号土坑(左)・169号土坑(右)全景(南から)



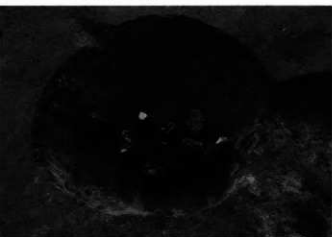
172号土坑遺物出土状態(西から)



177号土坑(右)・178号土坑(左)全景(東から)



182号土坑(右)・183号土坑(左)全景(北から)



183号土坑遺物出土状態(北から)



184号土坑全景(北から)



185号土坑遺物出土状態(東から)



194号土坑遺物出土状態(東から)



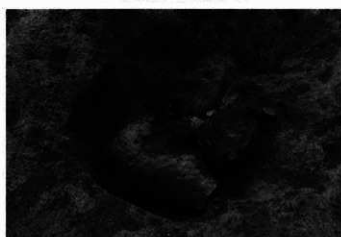
196号土坑調査状況(南東から)



214号土坑調査状況(西から)



211号土坑確認状況(北から)



223号土坑遺物出土状態(北西から)



224号土坑(手前)・225号土坑(奥)全景(東から)



229号土坑全景(西から)



233号土坑確認状況(北東から)



233号土坑調査状況(北西から)



233号土坑全景(北から)



235号土坑(埋壺)遺物出土状態(北から)



244号土坑全景(北から)



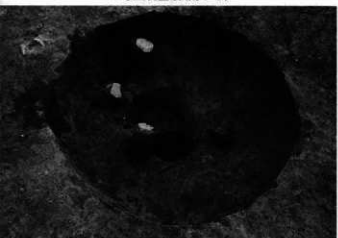
254号土坑調査状況(南から)



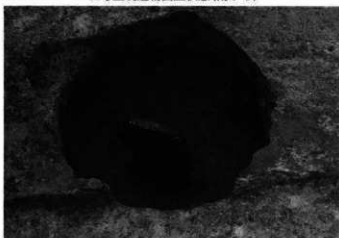
60号土坑全景(南から)



61号土坑遺物出土状態(南から)



72号土坑全景(北から)



80号土坑遺物出土状態(西から)



82号土坑全景(東から)



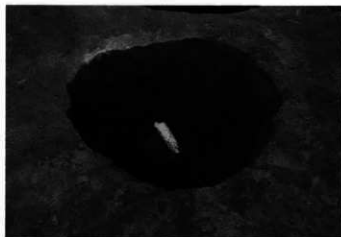
83号土坑遺物出土状態(西から)



85号土坑遺物出土状態(西から)



86号土坑全景(北から)



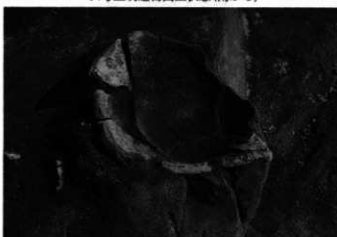
93号土坑遺物出土状態(東から)



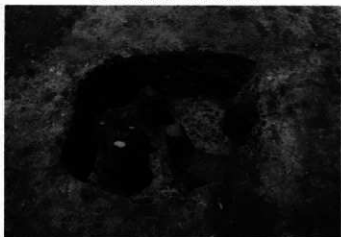
94号土坑遺物出土状態(南から)



98号土坑遺物出土状態(南から)



99号土坑(埋壺)全景(北から)



102号土坑遺物出土状態(南から)



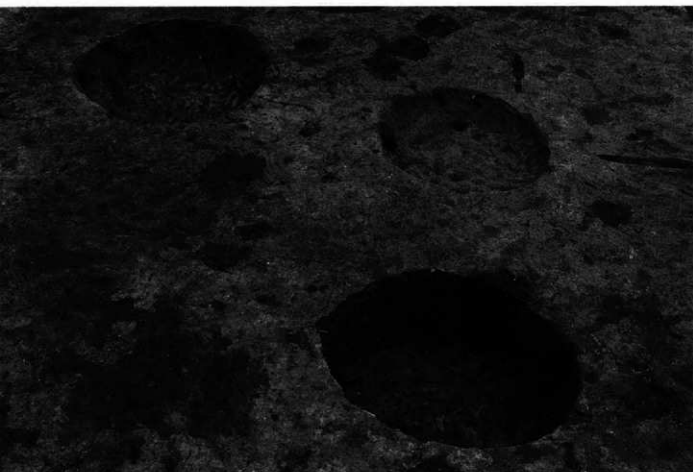
103号土坑確認状況(南から)



106号土坑遺物出土状態(東から)



110号土坑遺物出土状態(南から)



110号土坑(右前)・111号土坑(右奥)・112号土坑(左奥)全景(南から)



119号土坑遺物出土状態(南から)



127号土坑遺物出土状態(南から)



129号土坑全景(北から)



130号土坑全景(南西から)



135号土坑(左)・136号土坑(右)全景(東から)



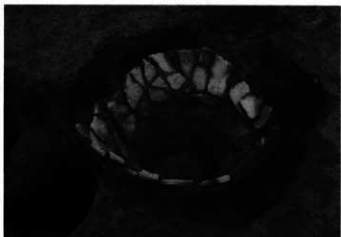
138号土坑遺物出土状態(南から)



138号土坑全景(北から)



139号土坑遺物出土状態(東から)



145号土坑(埋壘)全景(西から)



148号土坑遺物出土状態(東から)



153号土坑(右)・154号土坑(左)全景(東から)



156号土坑全景(西から)



161号土坑遺物出土状態(南から)



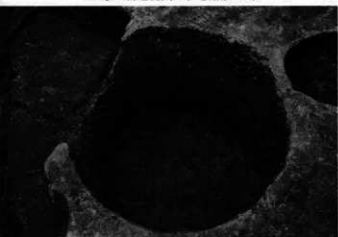
164号土坑遺物出土状態(南から)



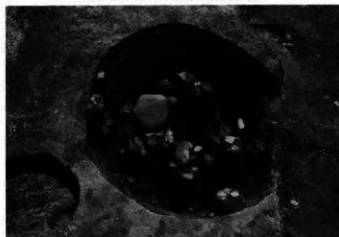
165号土坑遺物出土状態(南から)



166号土坑遺物出土状態(南から)



168号土坑遺物出土状態(西から)



168号土坑全景(東から)

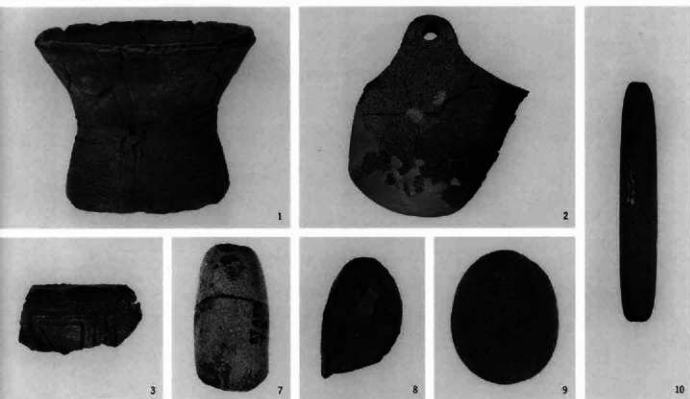


170号土坑遺物出土状態(南から)

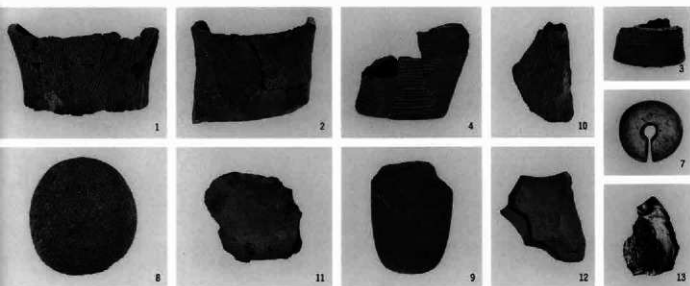


173号土坑遺物出土状態(南から)

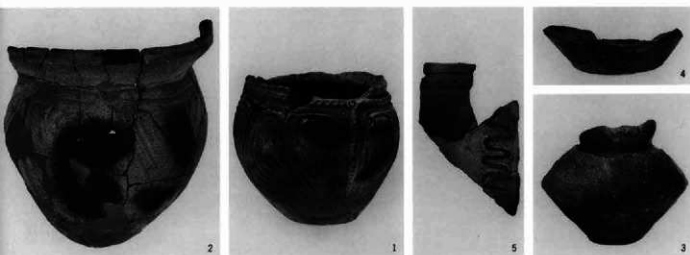




37号住居



78号住居



96号住居



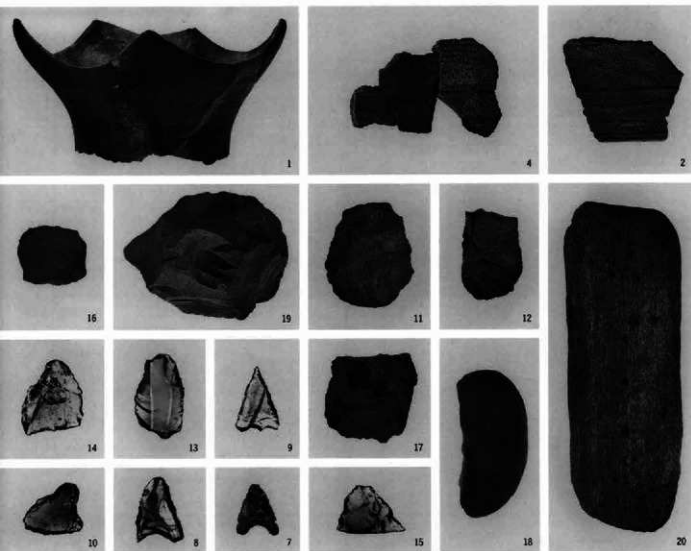
97号住居



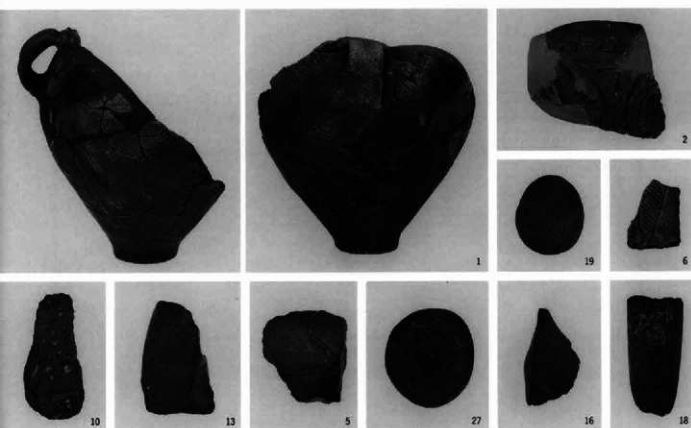
110号住居



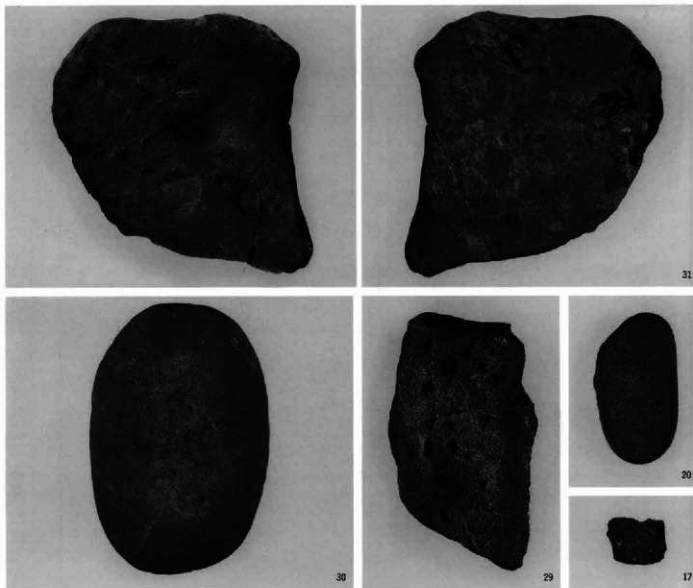
111号住居



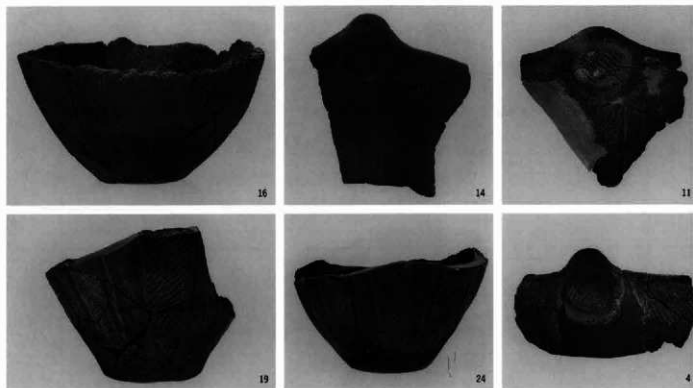
25号住居



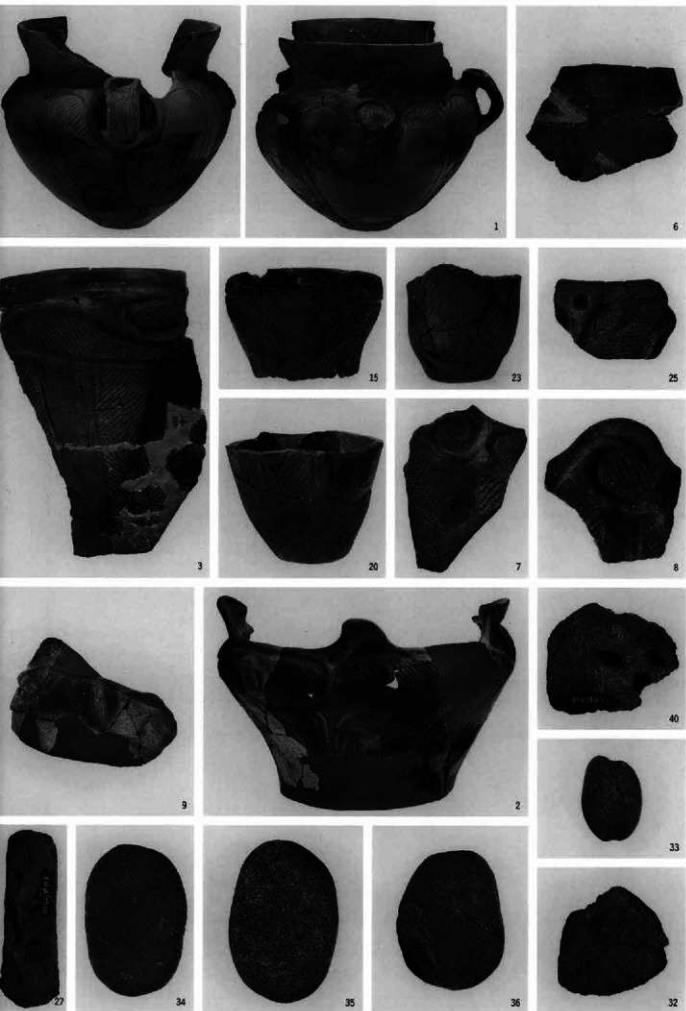
26号住居



26 号 住 居



27 号 住 居

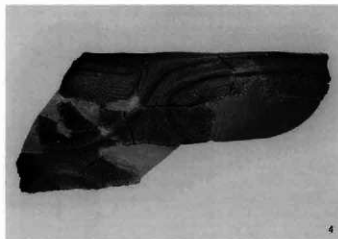




2



3



4



7



6



10



13

42号住居



2



3



1



7



8



4



12

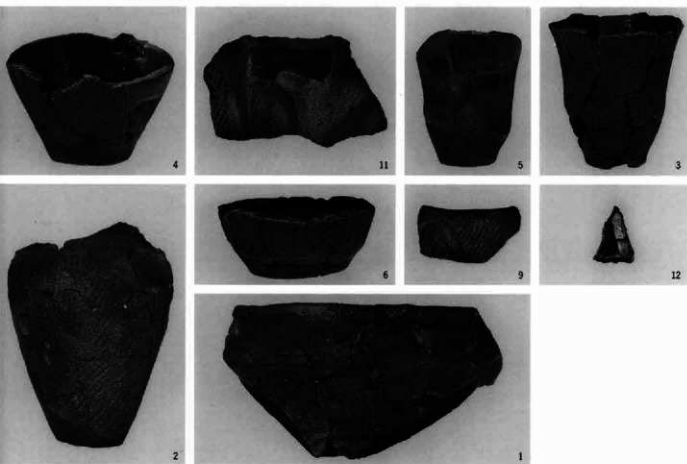


13

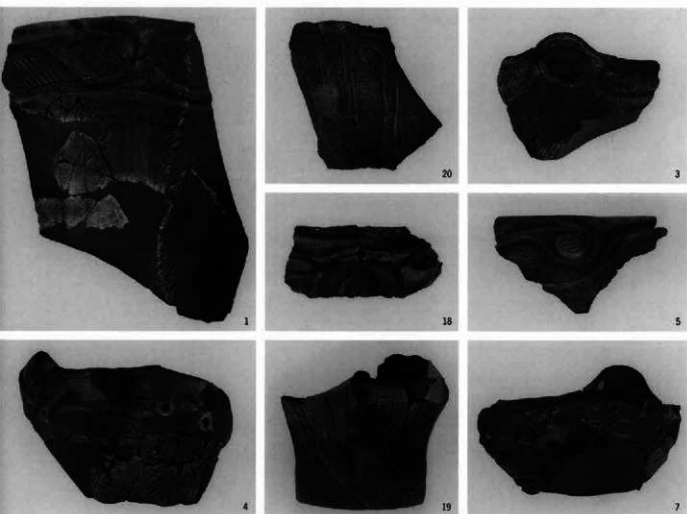


15

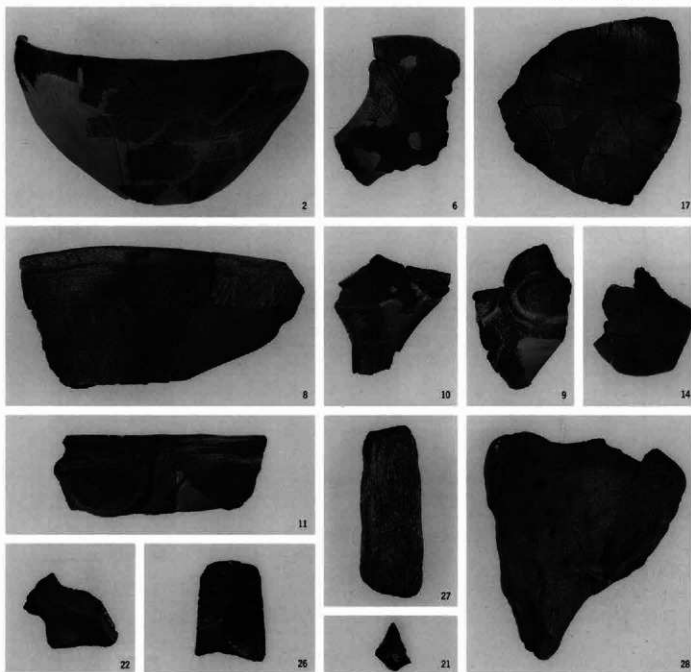
43号住居



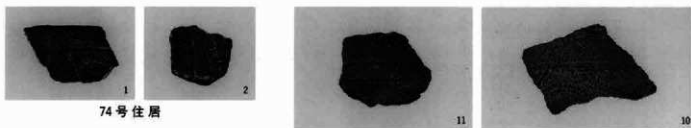
49号住居



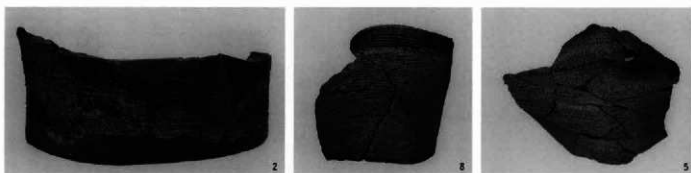
71号住居



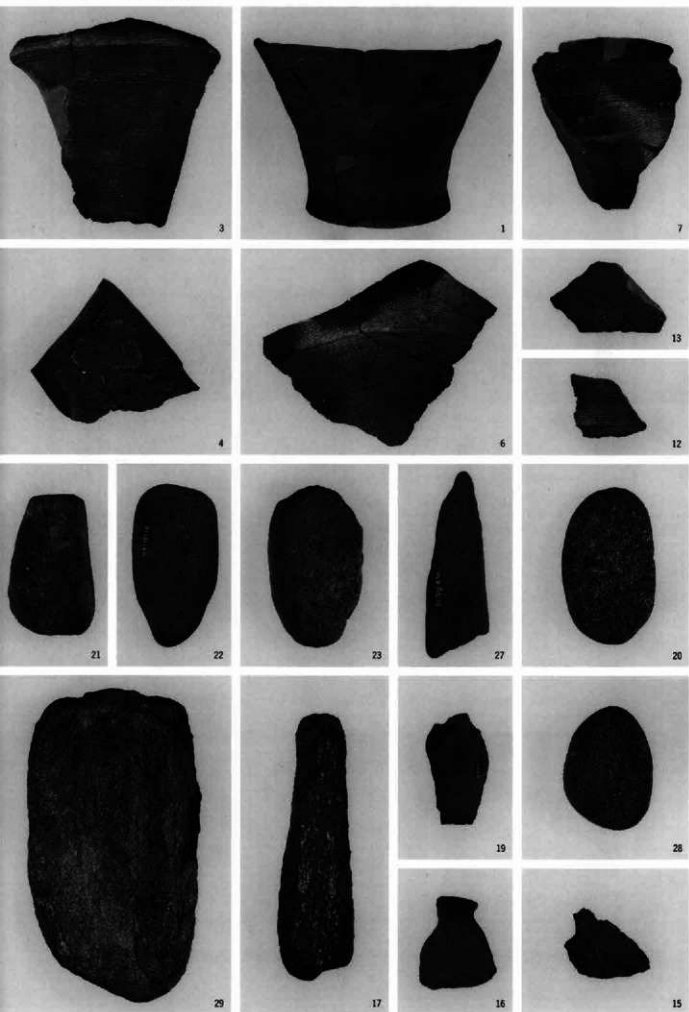
71 号住居

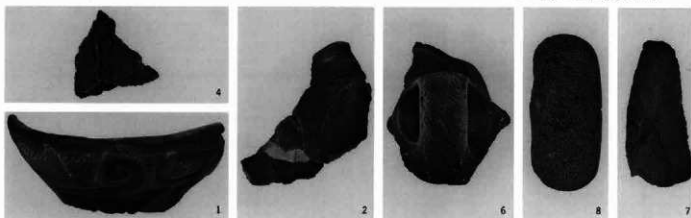


74号住居

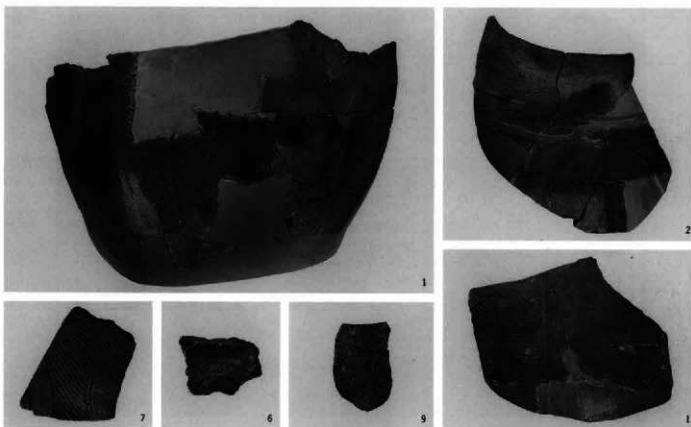


86号住居

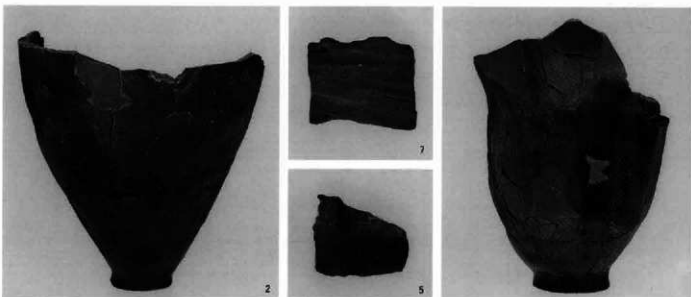




87号住居



88号住居

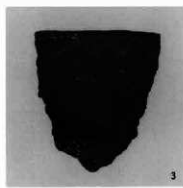


89号住居

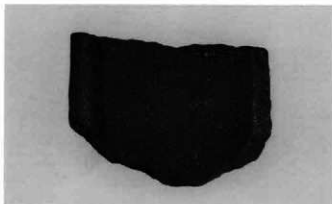
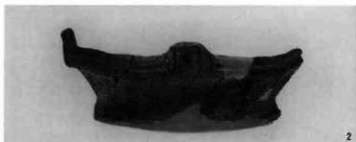
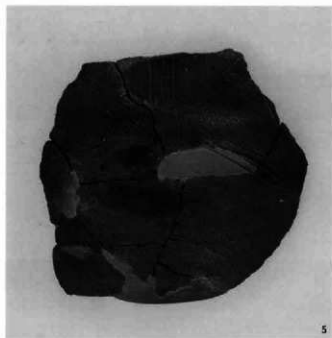


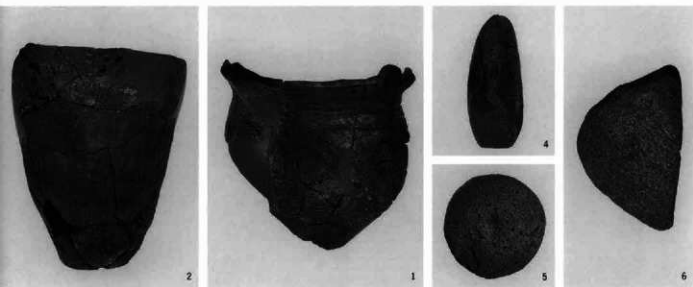
89号住居

91号住居

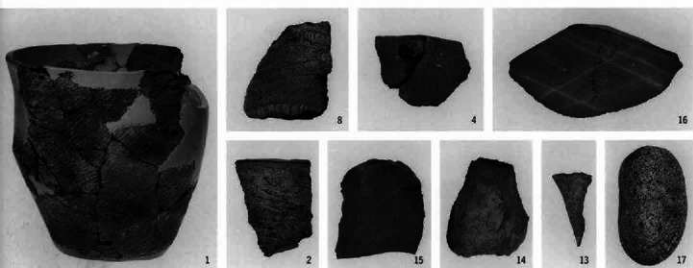


93号住居

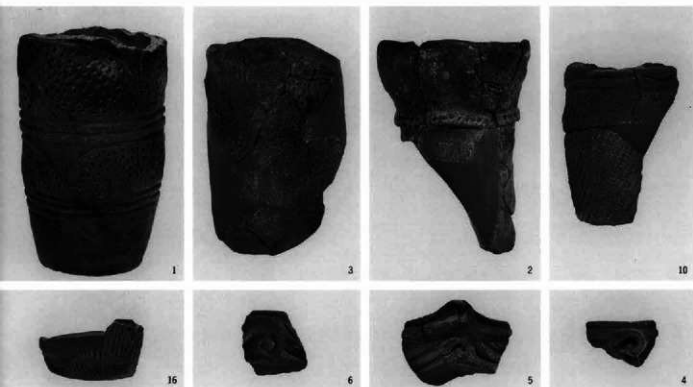




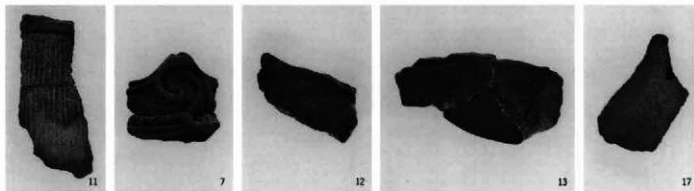
77 号 住 居



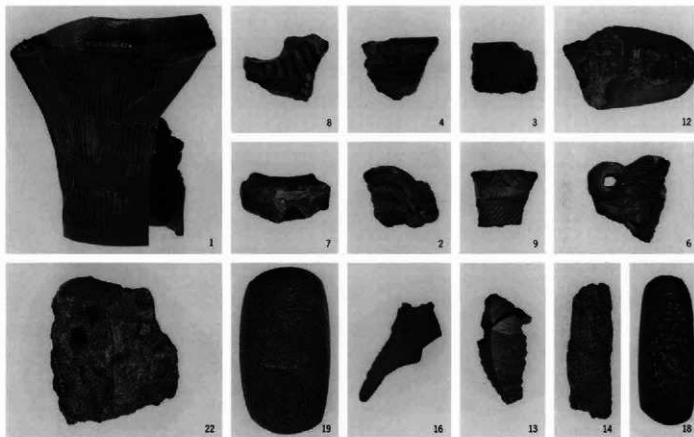
78 号 住 居



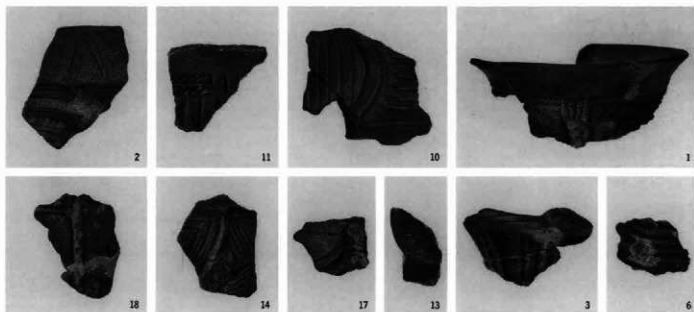
80 号 住 居



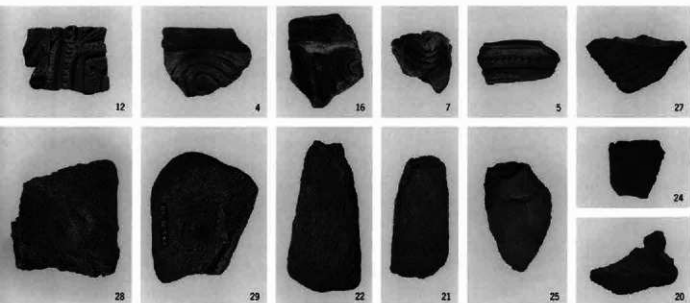
80号住居



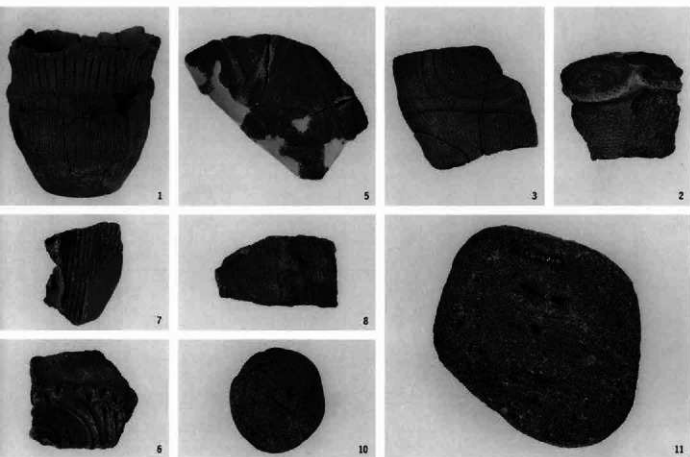
81号住居



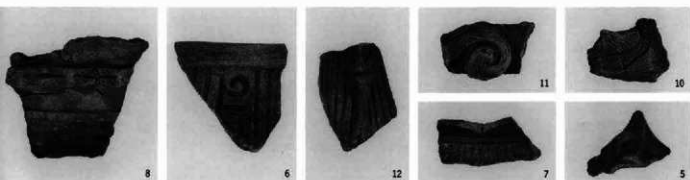
82号住居



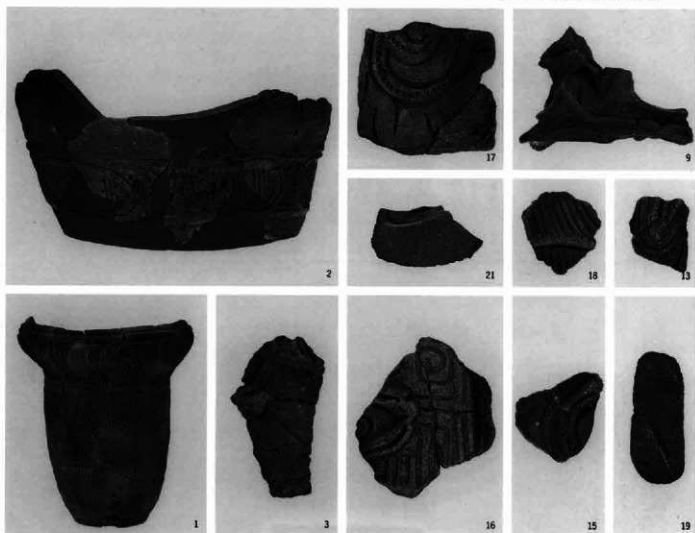
82号住居



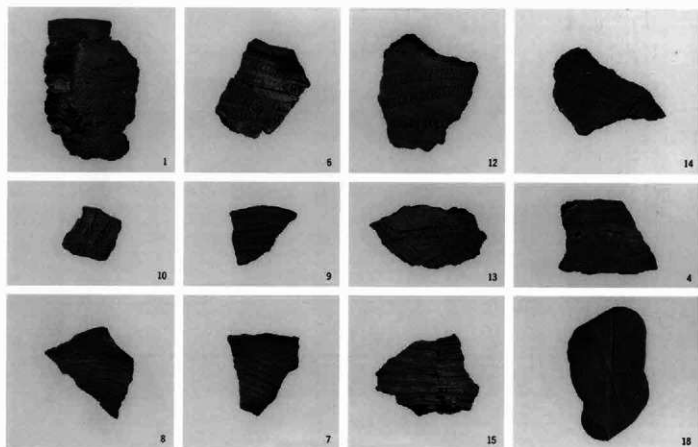
84号住居



85号住居



85号住居



86号住居



1



2



3



5



9



4



6



11



10

59号住居



2



3

78号住居



3



32



24



2



21



6



23



19

101号住居





51



50



49

101号住居



1



2



3



15



5



8



12



7



9



6



20

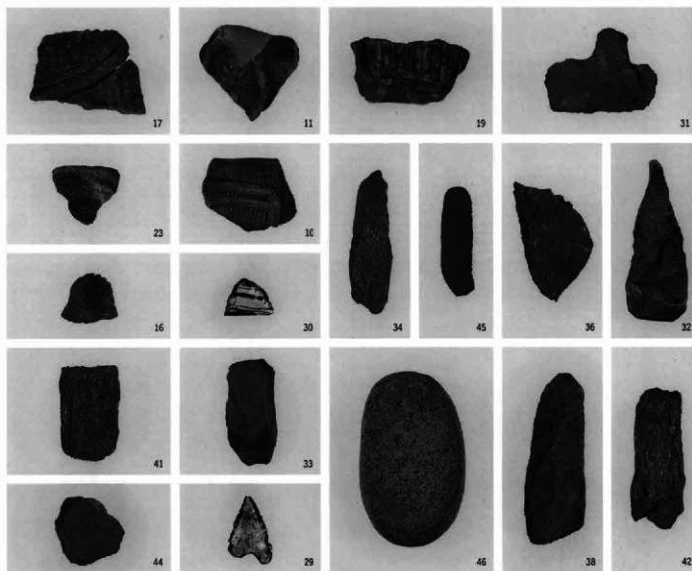


21



18

103号住居

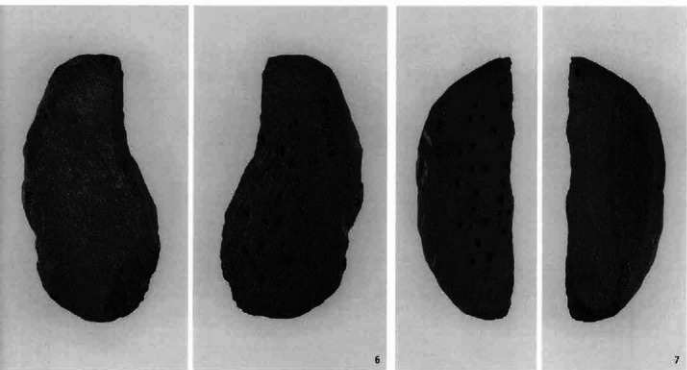


103号住居

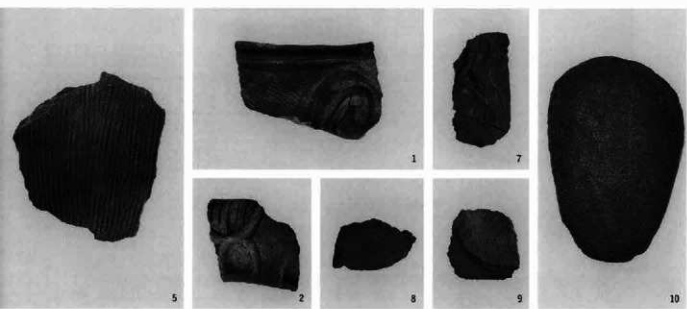


104号住居

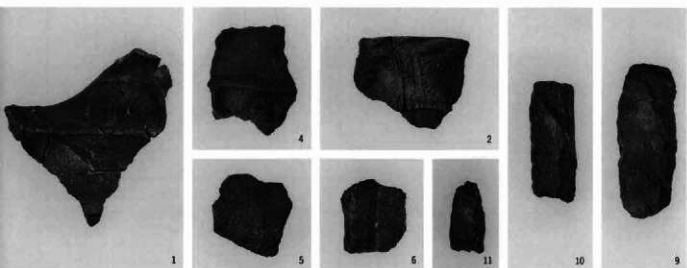
118号住居



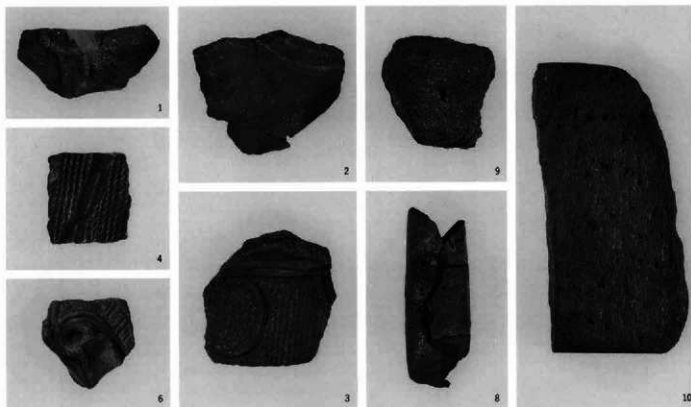
118号住居



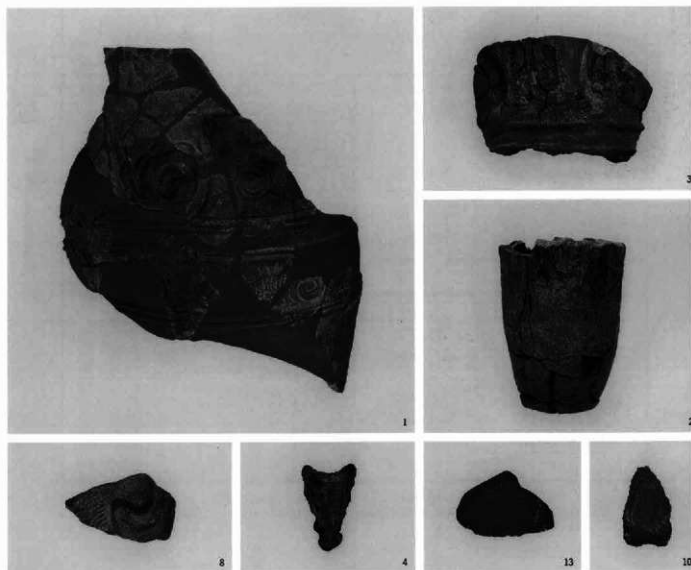
125号住居



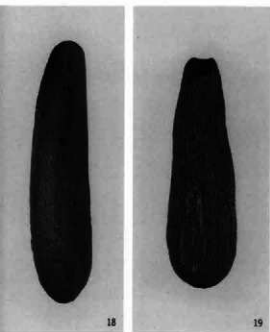
129号住居



138 号 住 居



144 号 住 居



144号住居



134号住居



127号住居

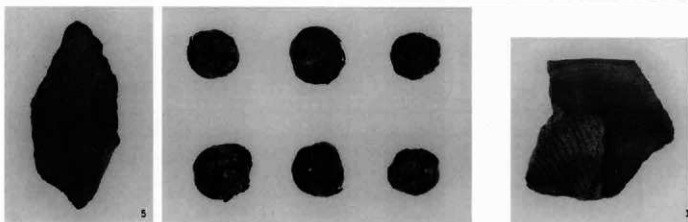
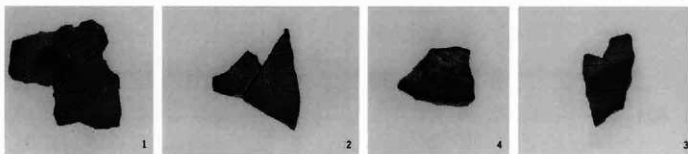


147号住居



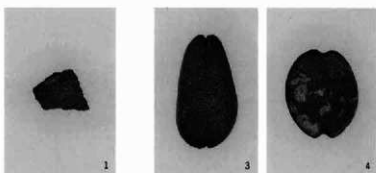
150号住居





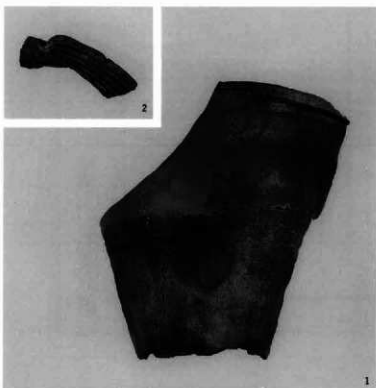
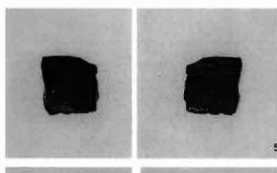
6号土坑

13号土坑

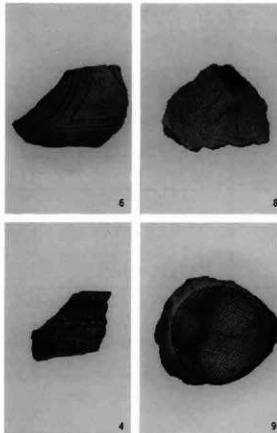


36号土坑

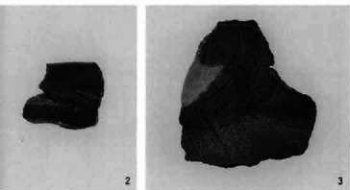
53号土坑



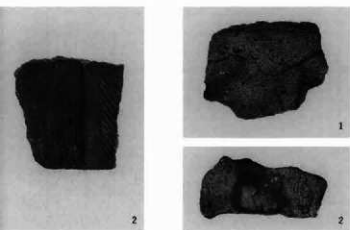
57号土坑



58号土坑

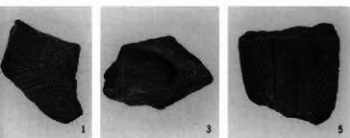


59号土坑

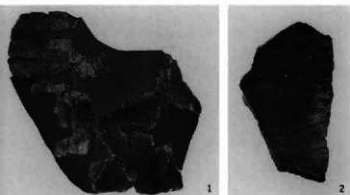


65号土坑

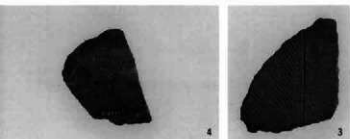
82号土坑



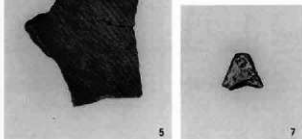
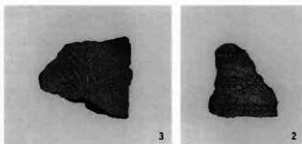
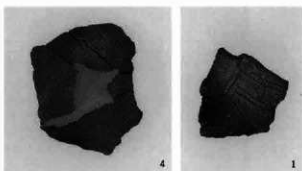
87号土坑



94号土坑



63号土坑



80号土坑



99号土坑



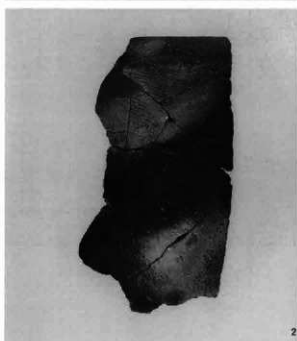
122号土坑



128号土坑



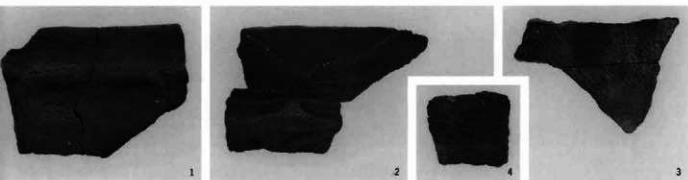
100号土坑



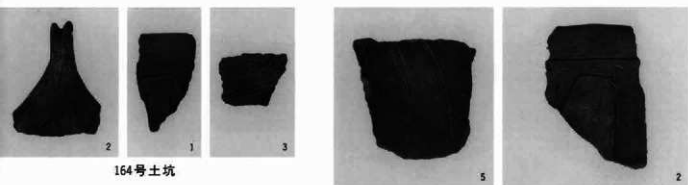
148号土坑



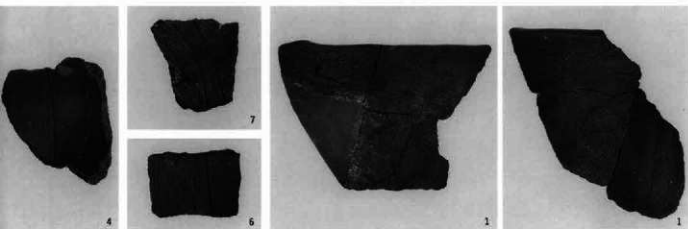
150号土坑



156号土坑



164号土坑



165号土坑



166号土坑



168号土坑



169号土坑



1



2



5

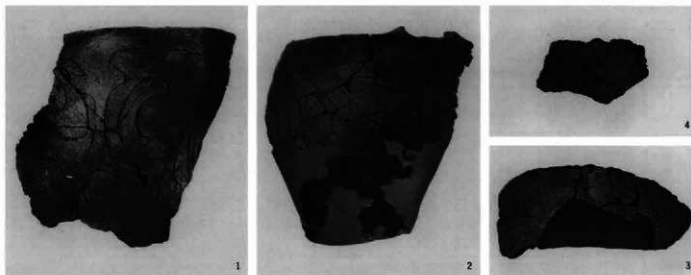


4

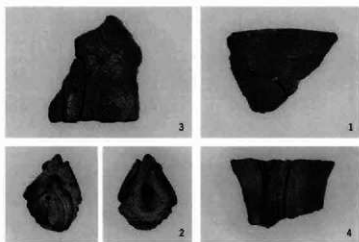


3

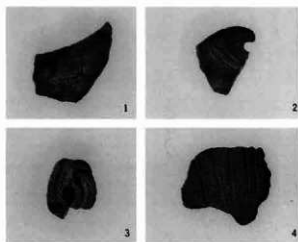
172号土坑



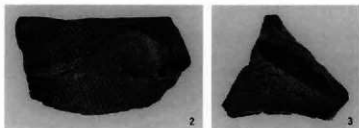
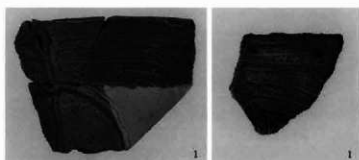
171号土坑



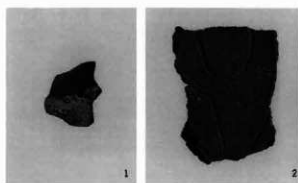
173号土坑



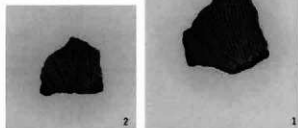
175号土坑



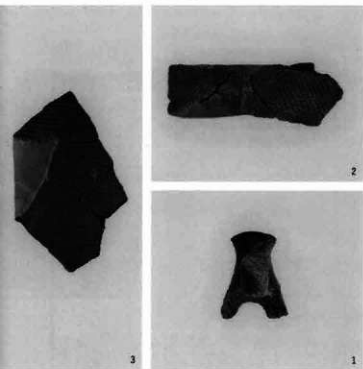
181号土坑



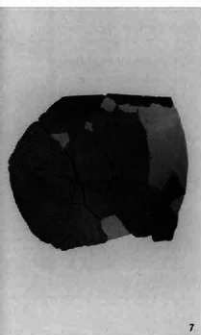
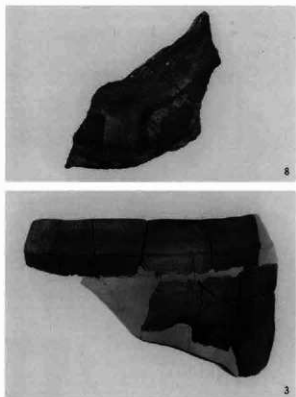
182号土坑



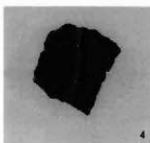
184号土坑



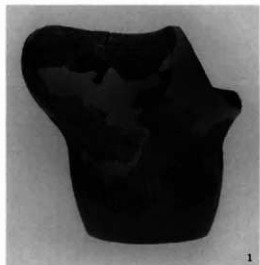
185号土坑



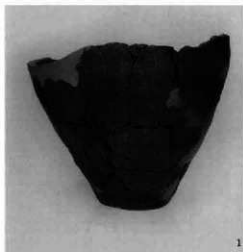
187号土坑



188号土坑



189号土坑



192号土坑



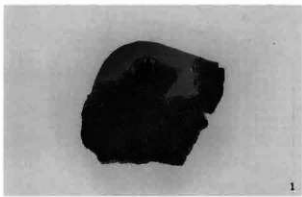
191号土坑



193号土坑

195号土坑

199号土坑

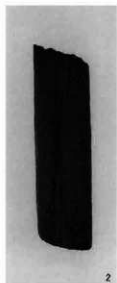
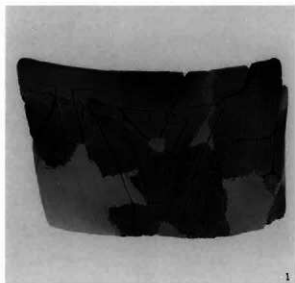


200号土坑

204号土坑



205号土坑



212号土坑

226号土坑



4



3



1



2

214号土坑(埋 壘)



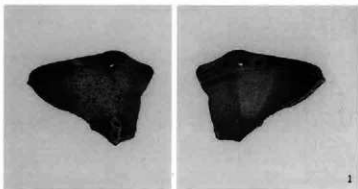
1



2



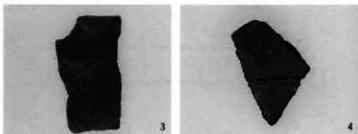
2



1



3

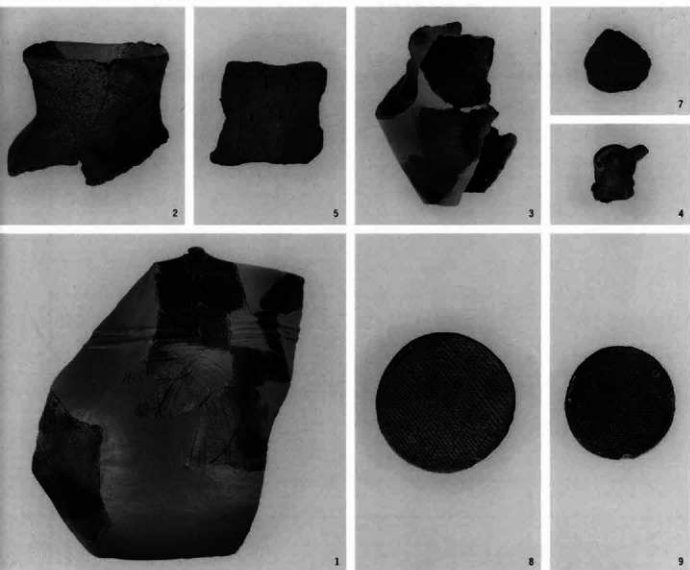


3

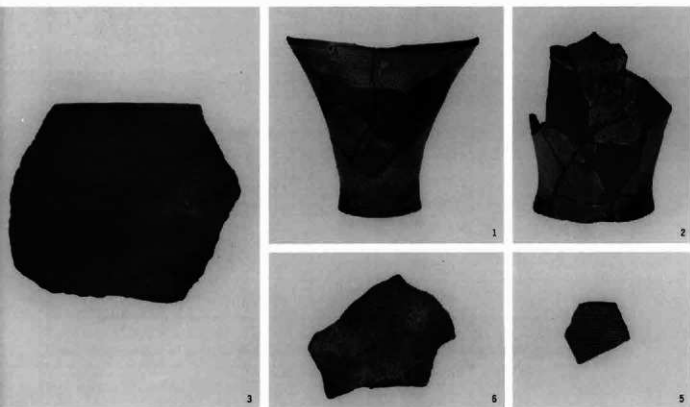
4

238号土坑

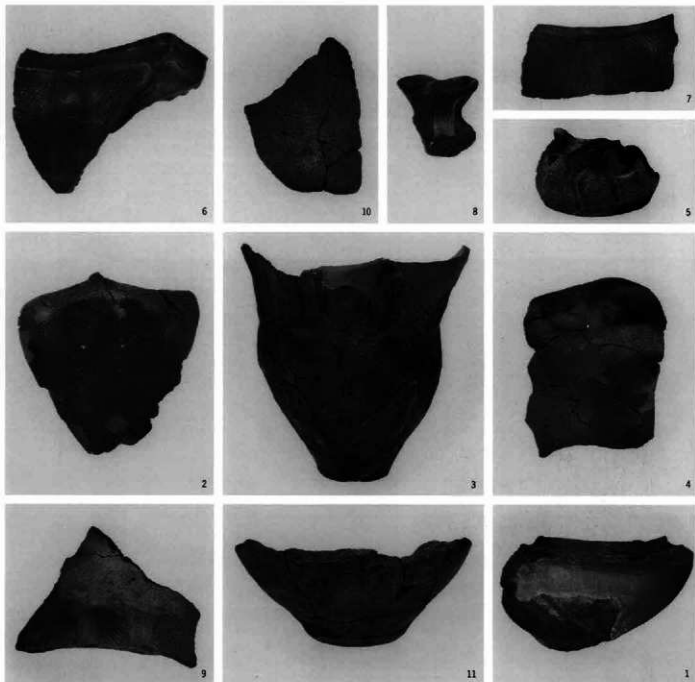
243号土坑



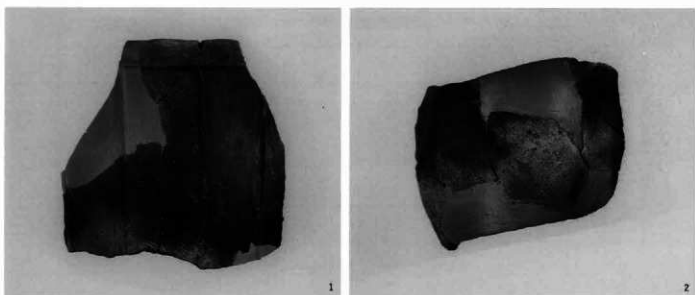
242 号 土 坑



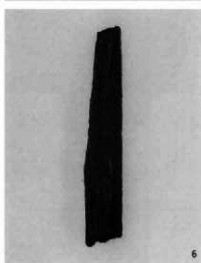
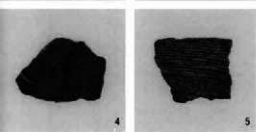
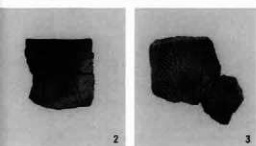
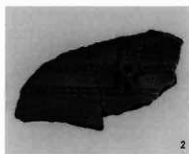
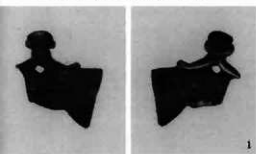
244 号 土 坑



246 号 土 坑



248 号 土 坑

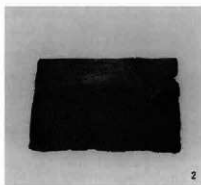


256号土坑

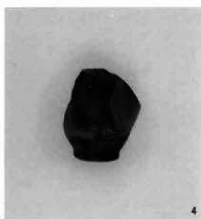
257号土坑



258号土坑

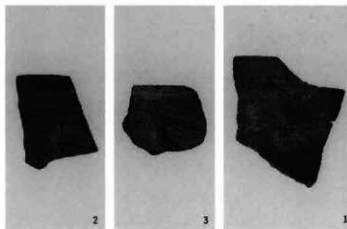


259号土坑





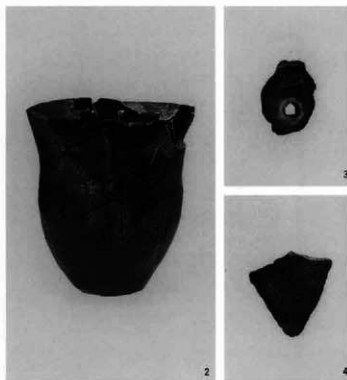
261号土坑(埋壺)



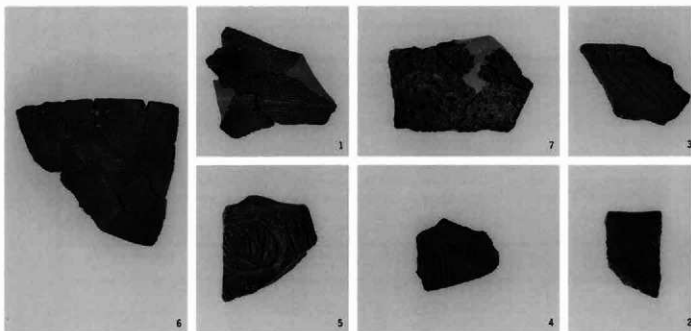
264号土坑



262号土坑(埋壺)



277号土坑



272号土坑



282号土坑

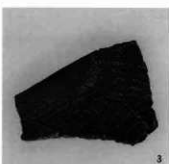
283号土坑



290号土坑(埋壘)



288号土坑



291号土坑



298号土坑



1

B区299号土坑

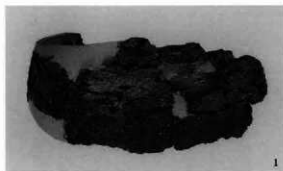


2



1

B区300号土坑



1

C区14号土坑(埋壺)



1

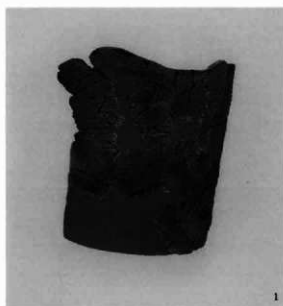


4

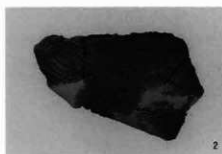


3

C区18号土坑



1



2



3



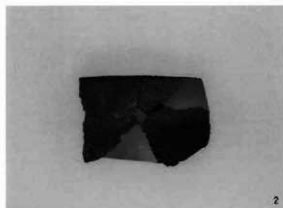
1



1

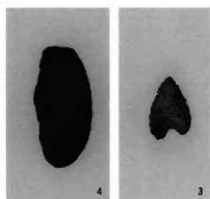
C区42号土坑

C区49号土坑



2

C区44号土坑



4

3

C区47号土坑



2



1

C区50号土坑



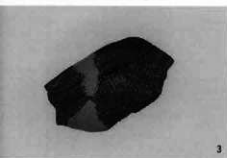
1



2



5



3



4



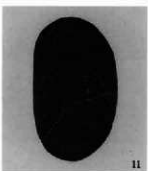
6



8



9



11



7



10

45号土坑

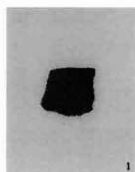


1

51号土坑



5



1

49号土坑



2

52号土坑



1

58号土坑



2



3

55号土坑



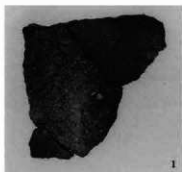
3

56号土坑



59号土坑

67号土坑



86号土坑

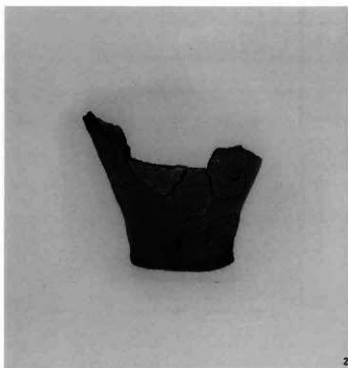
70号土坑

85号土坑

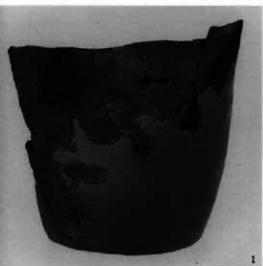


91号土坑

94号土坑



96号土坑



1

95号土坑



2



5



3



4



3

102号土坑

101号土坑



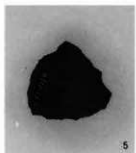
3



1



2



5



4

103号土坑



1

109号土坑



1

114号土坑



3



1



2



3



2

116号土坑



4



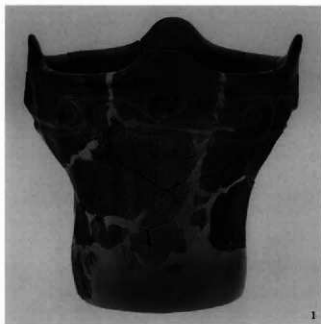
9

117号土坑



1

122号土坑



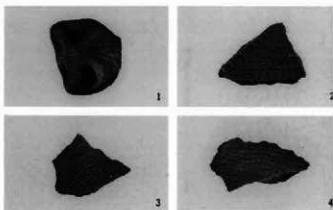
126号土坑(埋甕)



128号土坑(埋甕)



131号土坑



140号土坑



132号土坑



182号土坑



144号土坑



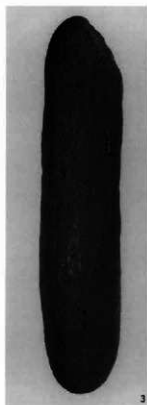
145号土坑



147号土坑



148号土坑

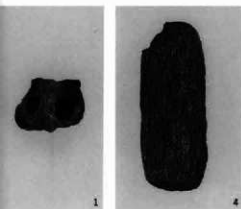


138号土坑



1

153号土坑



1

4

157号土坑



1

162号土坑

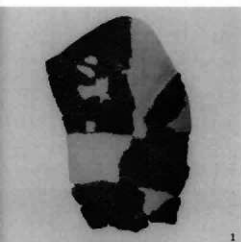


2



3

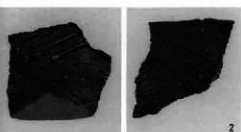
166号土坑



1



3



2

170号土坑



1



6



4

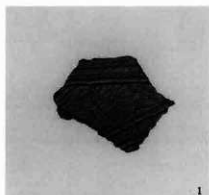


3



2

164号土坑



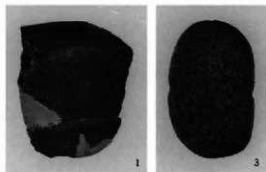
1

174号土坑

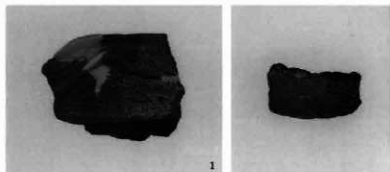


3

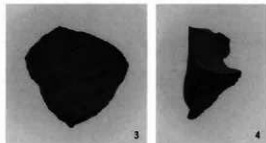
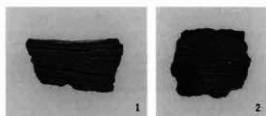
183号土坑



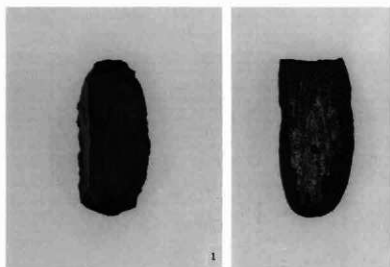
185号土坑



189号土坑



191号土坑



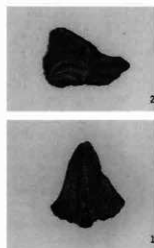
194号土坑



196号土坑



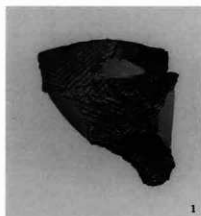
207号土坑



215号土坑



213号土坑



214号土坑



235号土坑(埋壘)



226号土坑



1



2



5



4



7



6



8

233号土坑



1



2



1



2



1

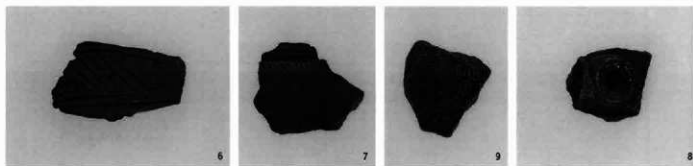
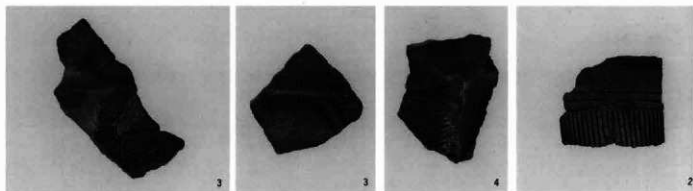


3

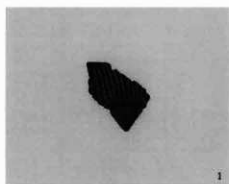
241号土坑

244号土坑

246号土坑



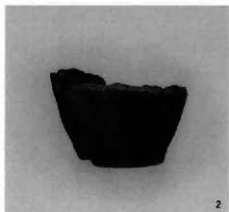
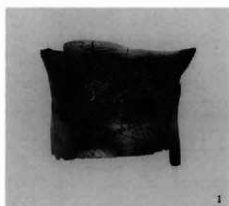
61号土坑



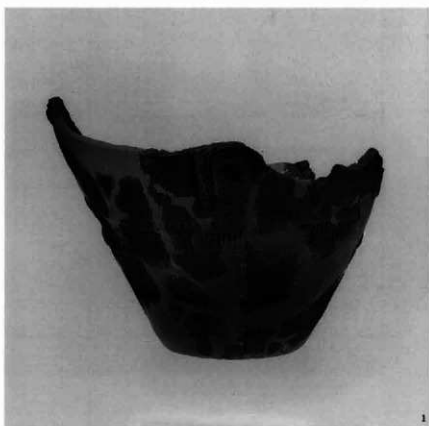
106号土坑



119号土坑



139号土坑



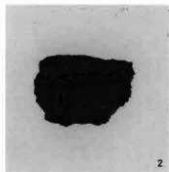
145号土坑 (埋壘)



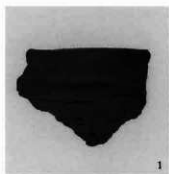
天引C区118号住居



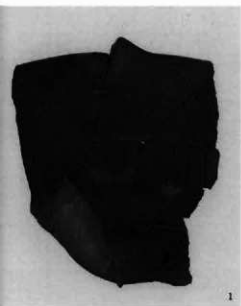
白倉B区10号土坑



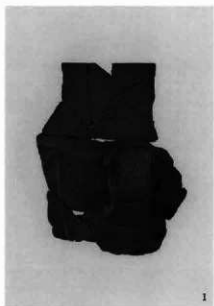
白倉B区11号土坑



白倉B区116号土坑



白倉B区59号土坑



白倉B区217号土坑



白倉B区223号土坑



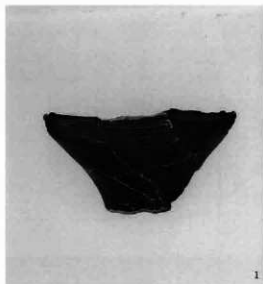
白倉B区86号土坑



白倉B区235号土坑



白倉B区237号土坑(埋壺)



白倉B区236号土坑



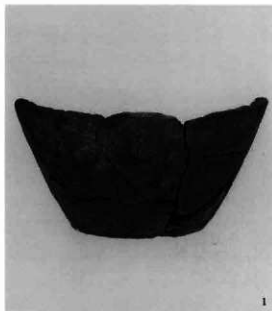
白倉B区273号土坑



白倉B区277号土坑



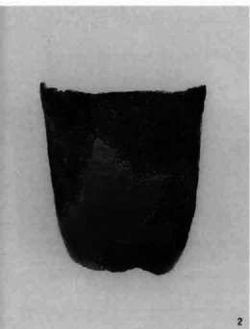
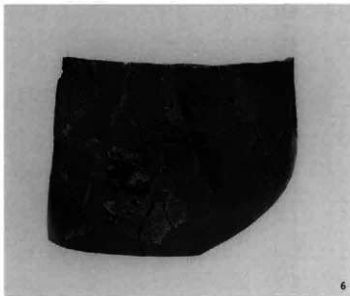
天引C区94号土坑



天引C区99号土坑(埋壺)



天引C区161号土坑

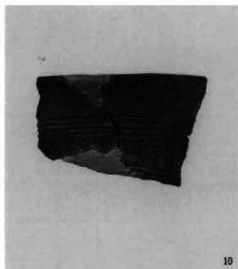




7



9



10



12



15



13



14



11



16



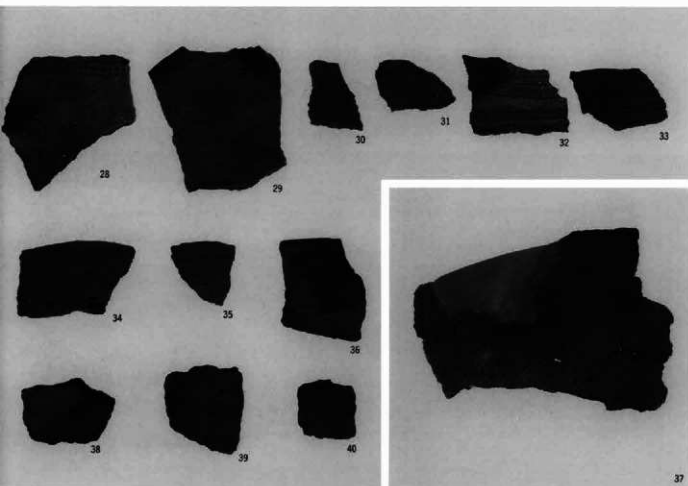
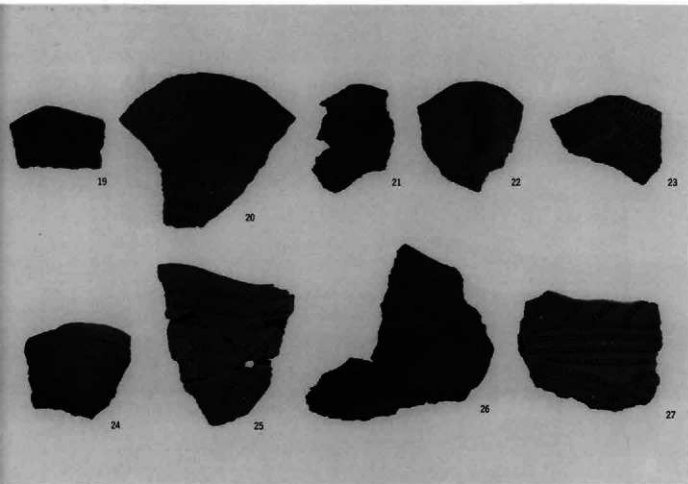
16

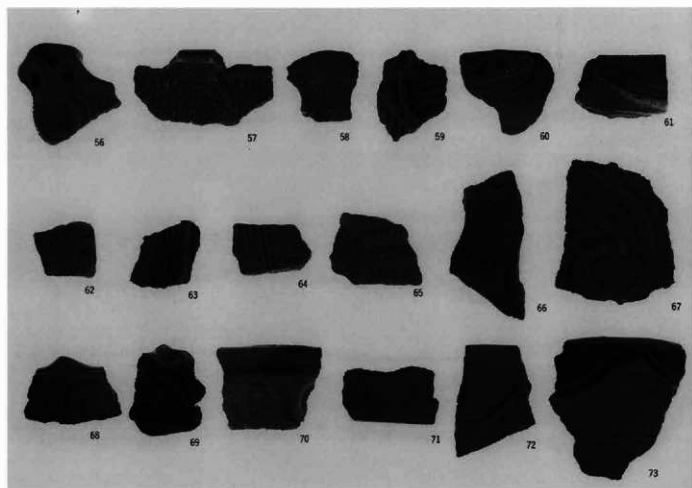
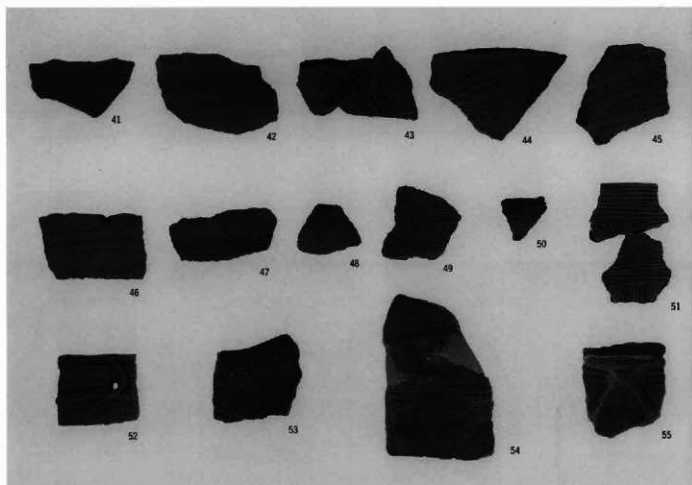


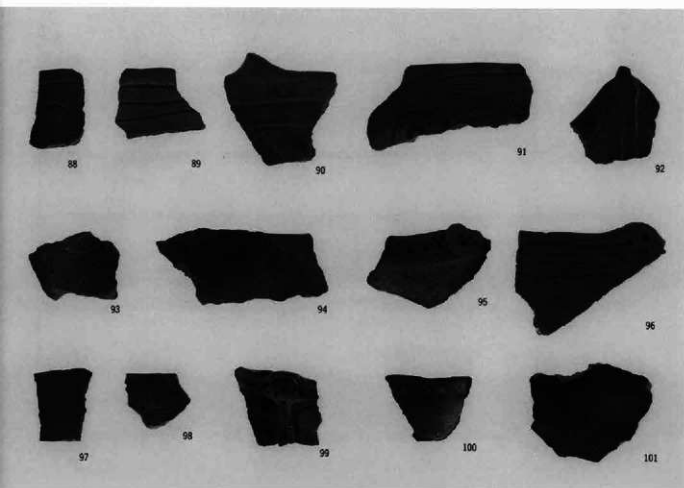
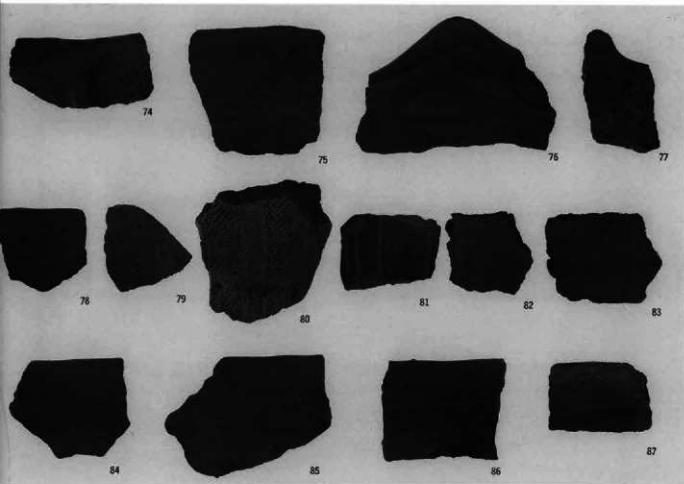
17

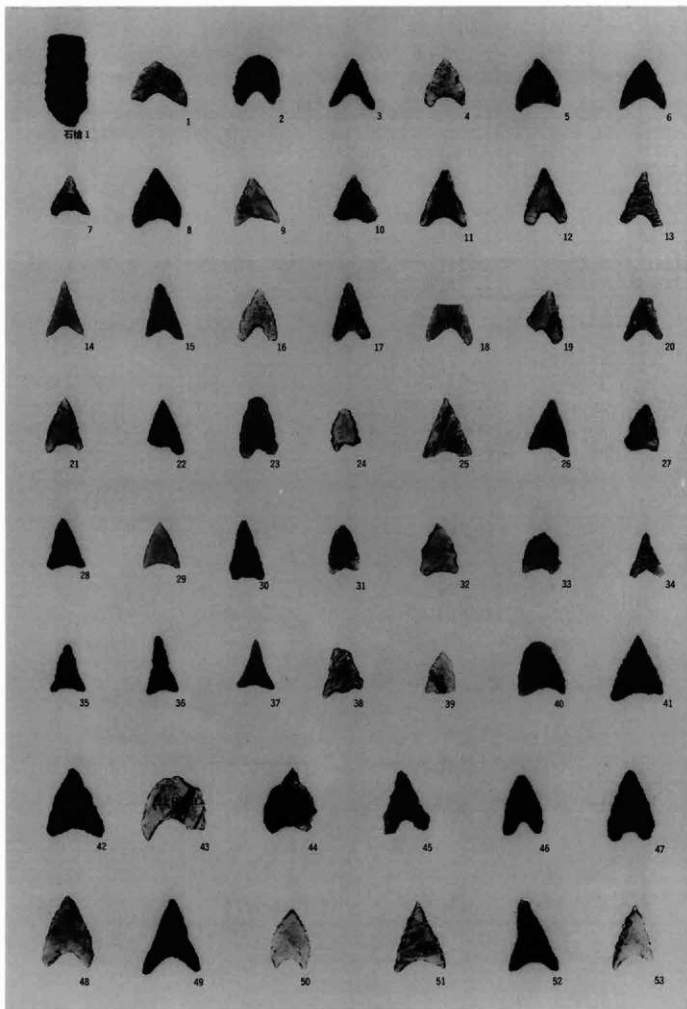


18

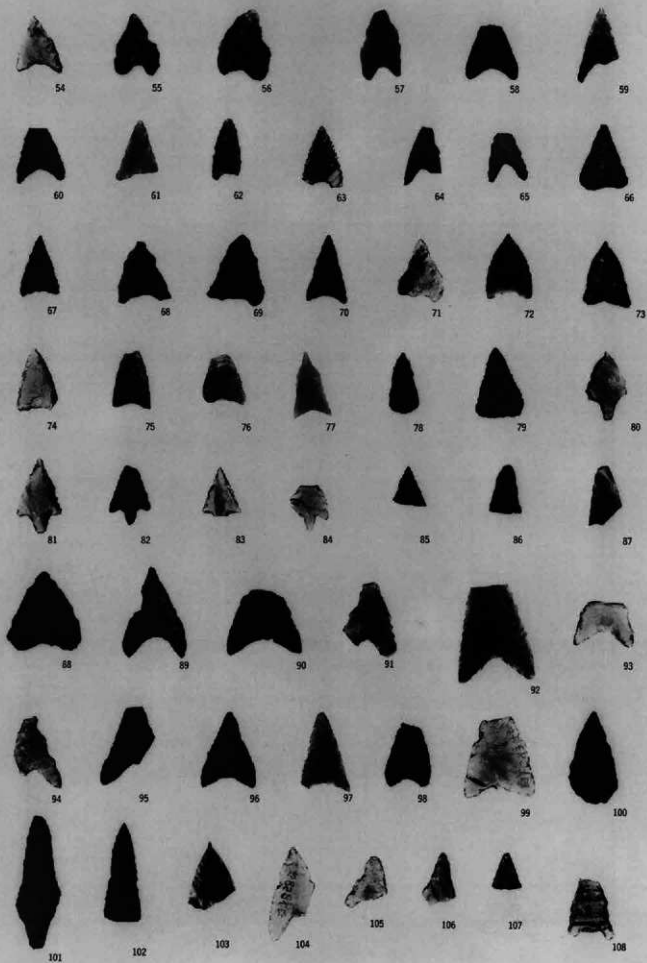


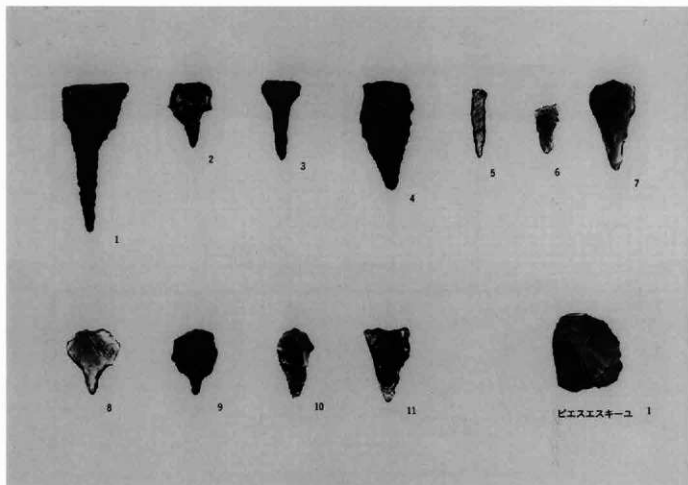




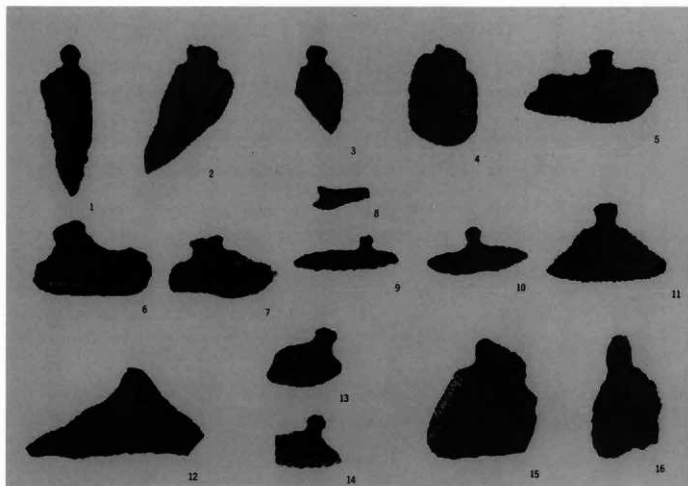


石槍・石鏃(1)

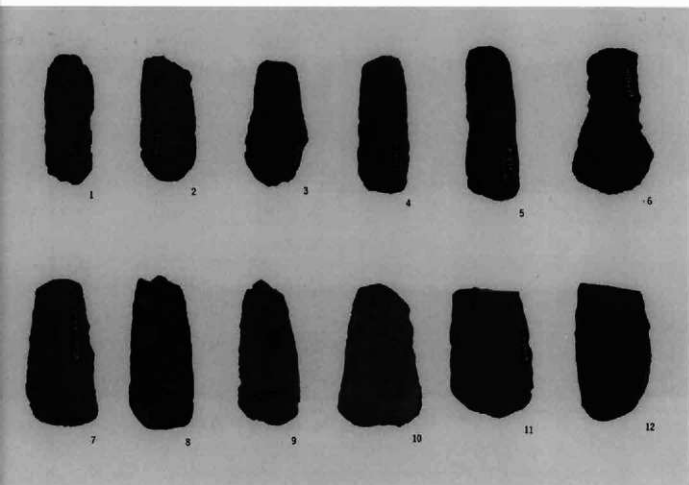




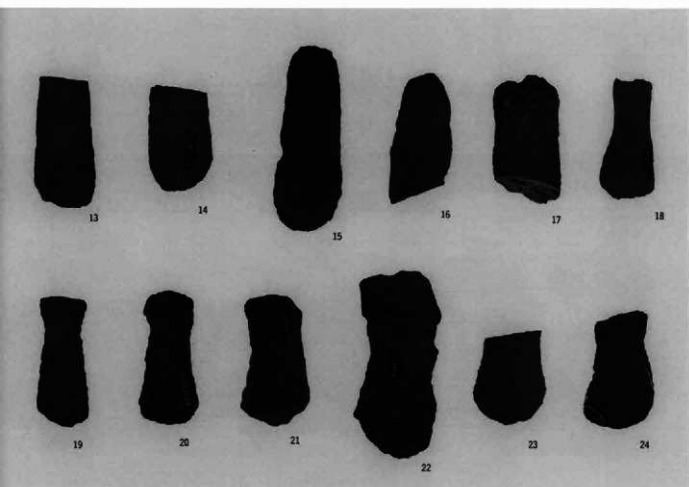
石鏃・ピエスエスキュー



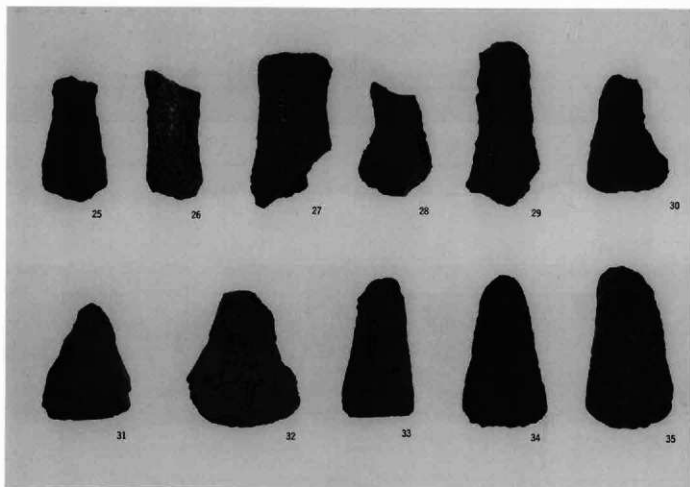
石 匙



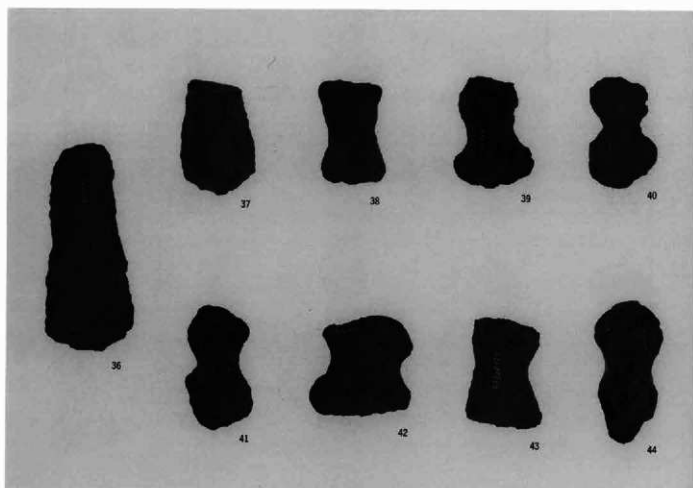
打製石斧(1)



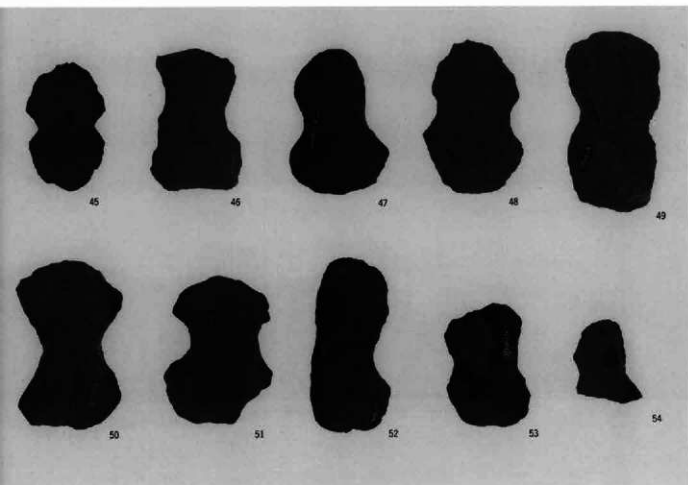
打製石斧(2)



打製石斧(3)



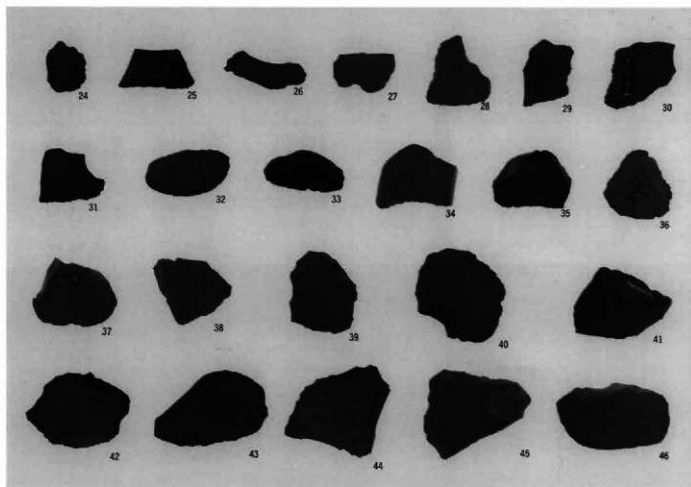
打製石斧(4)



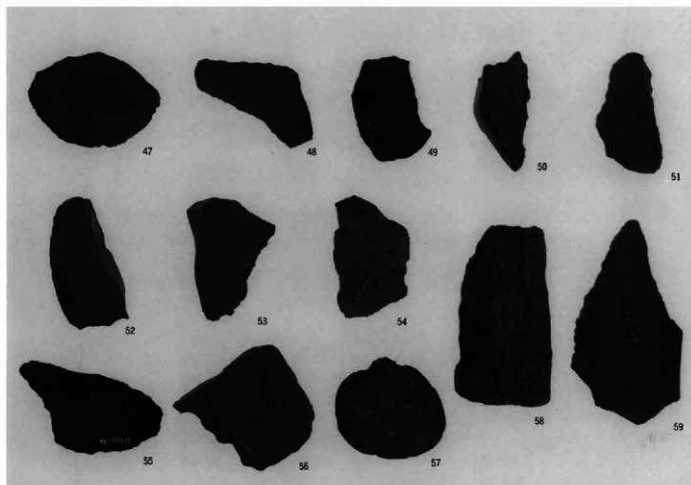
打製石斧(5)



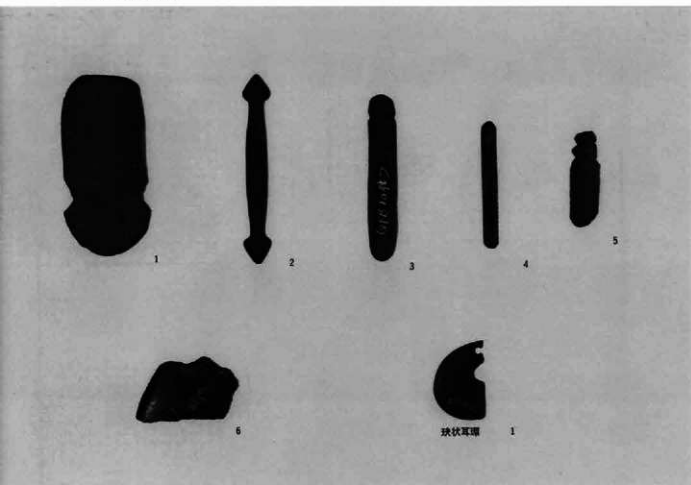
使用痕や加工痕のある石器(1)



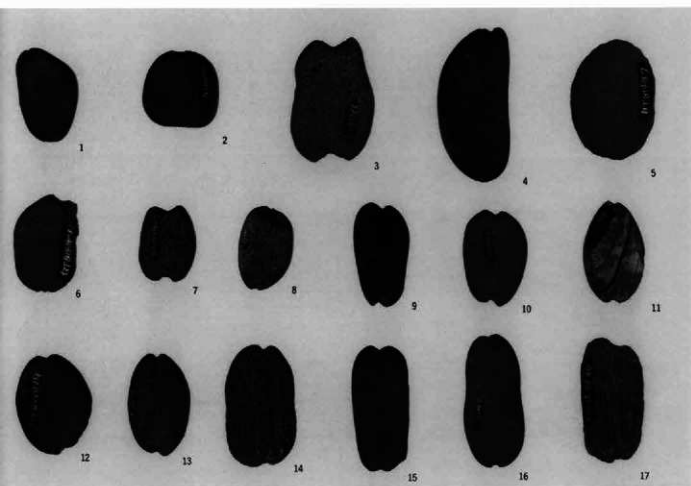
使用痕や加工痕のある石器(2)



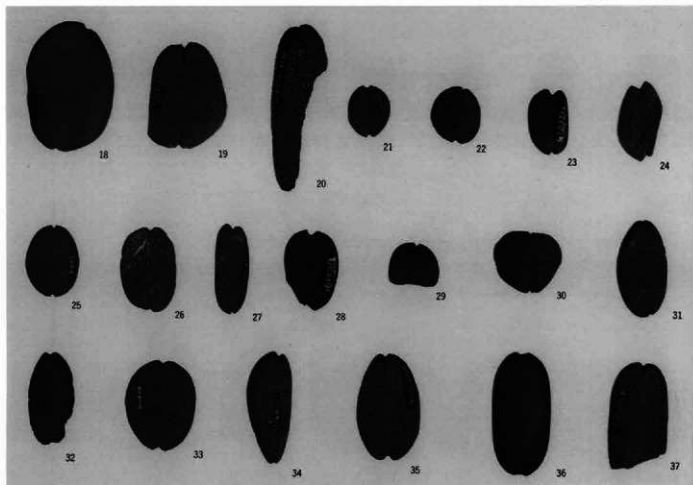
使用痕や加工痕のある石器(3)



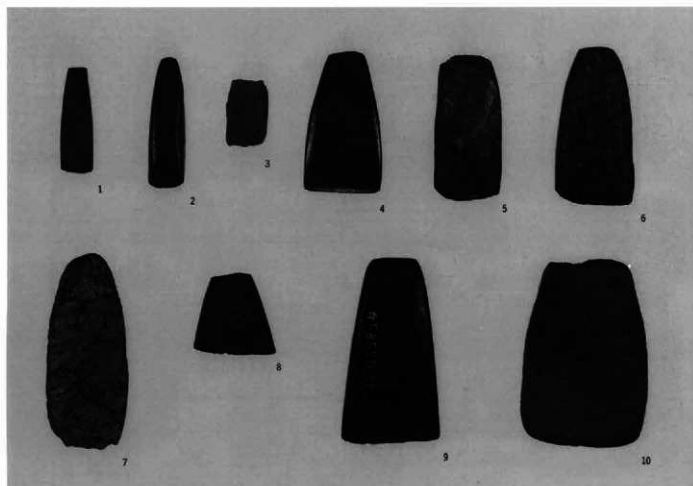
特殊石器・块状耳珥



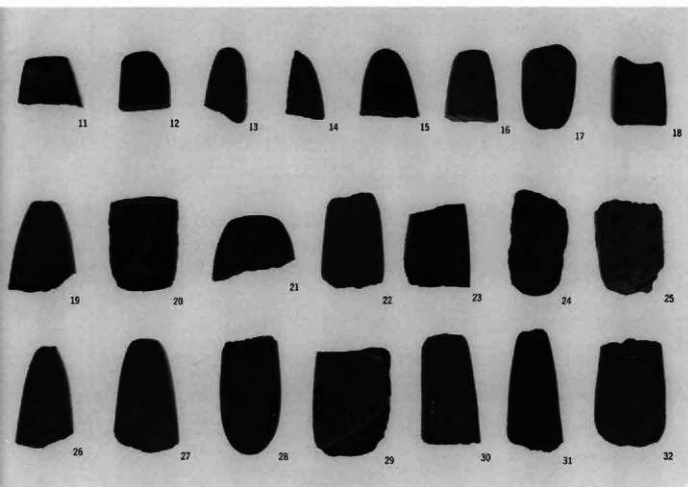
石 鐘 (1)



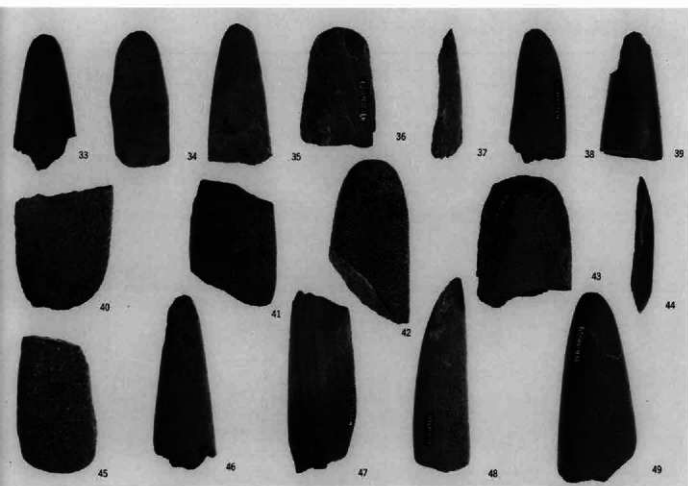
石 錘 (2)



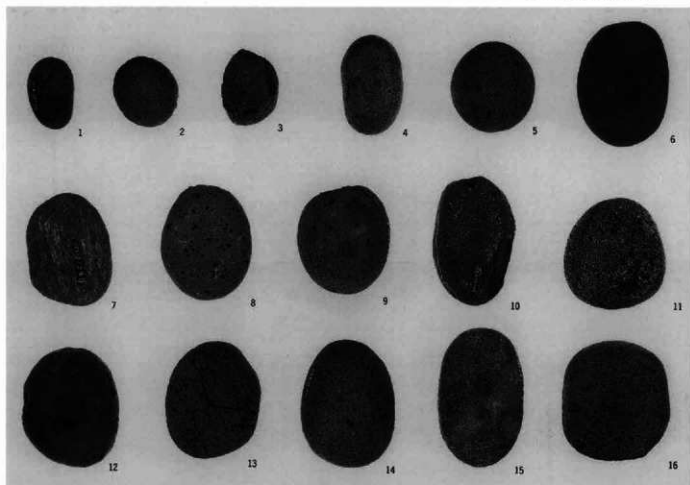
磨製石斧 (1)



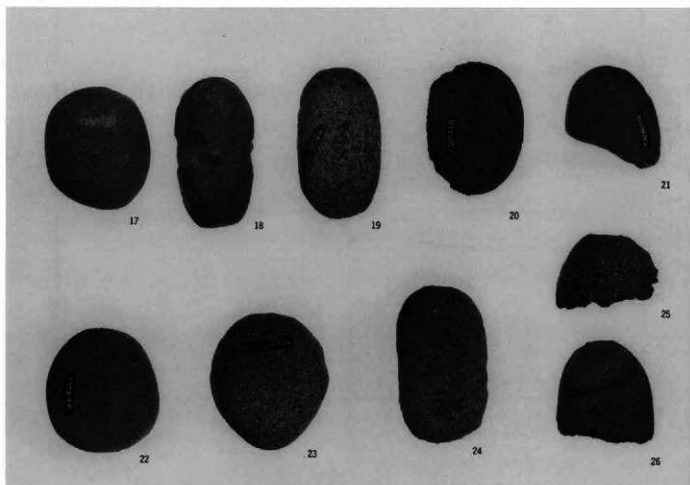
磨製石斧(2)



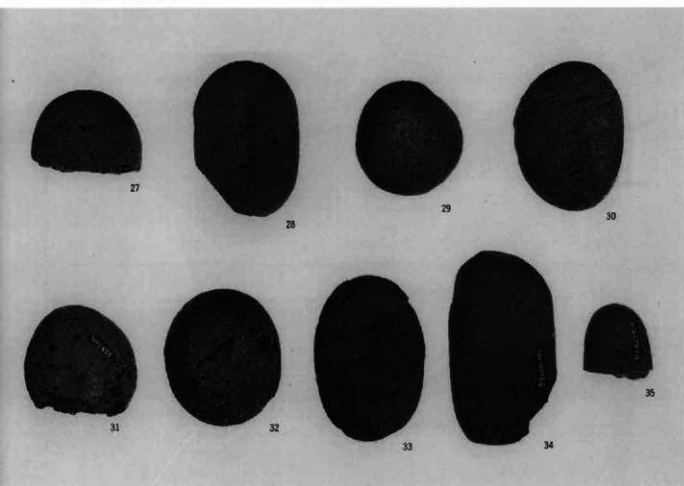
磨製石斧(3)



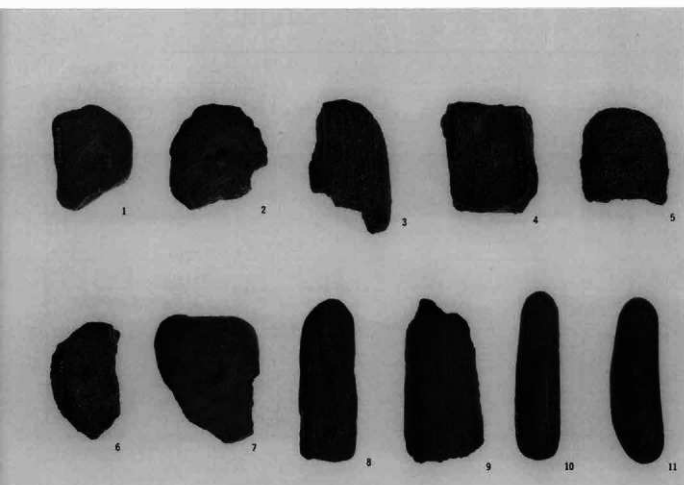
磨石・凹石(1)



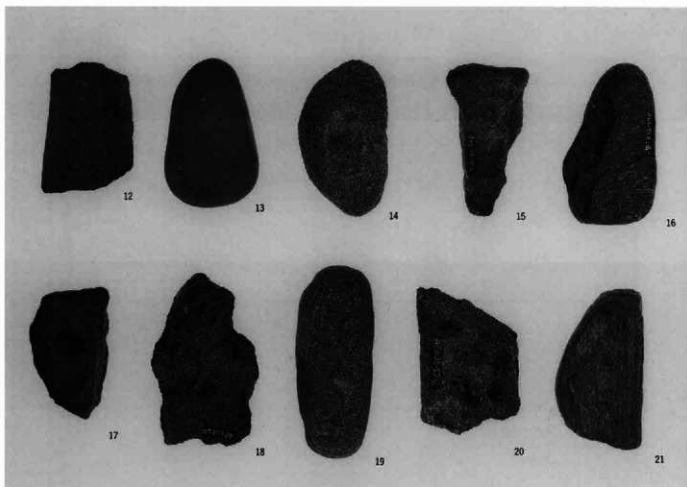
磨石・凹石(2)



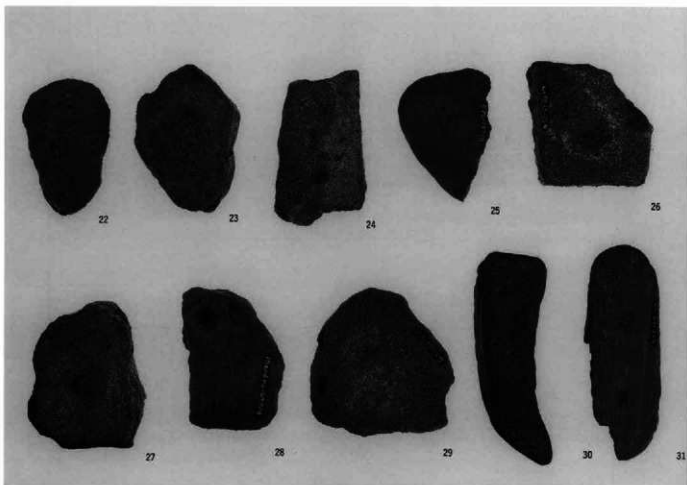
磨石・凹石(3)



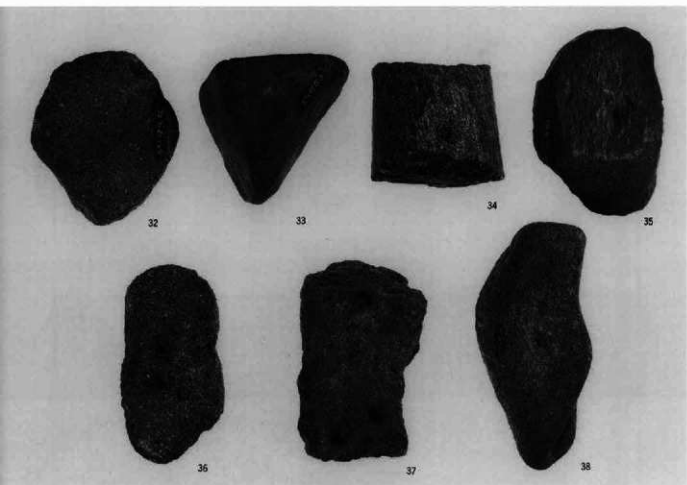
多孔石(1)



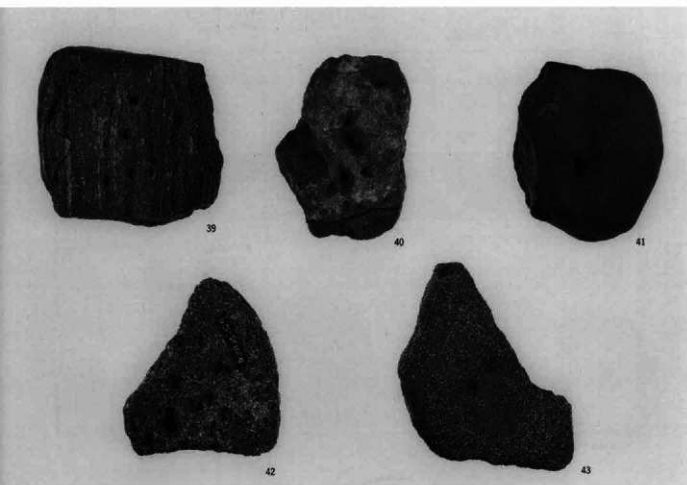
多孔石(2)



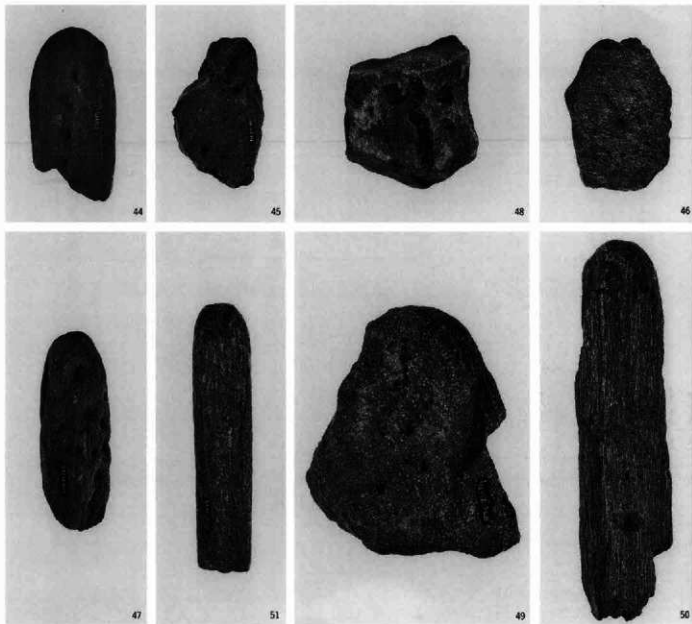
多孔石(3)



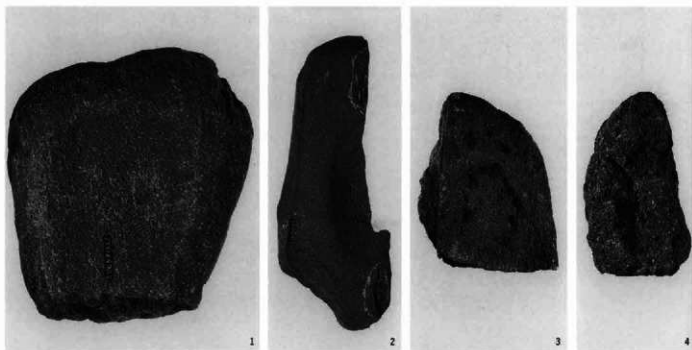
多孔石(4)



多孔石(5)



多孔石(6)



石皿

群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告書 172 集

白倉下原・ 天引向原遺跡Ⅱ

関越自動車道(上越線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第25集

平成6年3月18日 印刷
平成6年3月25日 発行

編集／群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北碓村大字下箱田784-2
電話 (0279) 52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会
勢多郡北碓村大字下箱田784-2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／朝日印刷工業株式会社